

SETSUNAN UNIVERSITY  
**SYLLABUS**

2018 経営学部 授業計画  
経営学科

經 營 学 部

(学部略号：I)

Faculty of Business Administration

經營学科

(学科略号：D)

Department of Business Administration

## 経営学部（共通）

### ◎教育研究上の目的

現代企業社会で活躍できる経営に関する基礎的な知識・技能を十分に身につけるとともに、幅広い教養をあわせ持ち、物事を論理的に分析し実践に移すことのできる知的専門職業人を養成する。

## 経営学科

### ◎教育研究上の目的

企業を中心とする組織一般の運営に関する基礎的な理論と知識を身につけるとともに、幅広い教養をあわせ持ち、自律的・主体的に企業経営の一翼を担うことのできる、実行力ある知的専門職業人を養成する。

### ◎ディプロマ・ポリシー(DP:卒業認定・学位授与の方針)

本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士（経営学）の学位を授与します。

#### ■知識・理解

[DP1] 社会人として必要な教養と知的専門職業人として活躍するための基盤となる経営学および会計/ファイナンスなどの経営諸科学に関する基礎知識とスキルを身につけている。(一般教養・基礎的経営専門知識)

#### ■思考・判断

[DP2] 企業を含む組織における一連の意思決定プロセスにおいて必要となる、①問題発見能力 ②問題解決に向け必要となる情報の収集・選別・分析力 ③それらを踏まえた計画の立案と実施に係る思考力・判断力・実践力、を身につけている。(問題発見能力、情報の収集力と分析力、実践力)

#### ■関心・意欲・態度

[DP3] 社会・組織の規範を守り、組織の一員として主体的かつ協働して組織の価値向上に努める態度と意欲を身につけている。(社会規範、多様性の理解、チームワークとリーダーシップ)

[DP4] 企業を含む組織が直面する問題に関心をもち、それらの問題解決に主体的に取り組む姿勢を身につけている。(グローバルかつ地域社会への関心、問題解決に取り組む態度、問題解決に必要な知識・スキル修得への意欲)

#### ■技能・表現

[DP5] ビジネス・パーソンとして活躍するための前提となるコミュニケーション能力と ICT 活用能力を身につけている。(コミュニケーションおよび情報に関するリテラシー)

### ◎カリキュラム・ポリシー(CP:教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

#### ■知識・理解

- ①企業社会で活躍し、また貢献・奉仕することができる幅広い教養とグローバルな視野をもつビジネス・パーソンを育成するため、外国語・数学などの「基礎科目」、人文系・社会系・自然系・地域志向系・教養特別科目の5つの系から構成される「教養科目」、卒業後の人生設計を念頭におき大学4年間で修得すべき「キャリア形成科目」および企業経営に密接に関連する「法律科目群」を配置する。
- ②経営学および会計/ファイナンスに関する専門知識をステップアップ的に修得するため、1年次から2年次にかけて「専門基礎科目群」を、(1)企業経営コースおよび(2)会計/ファイナンスコースのいずれかのコースを選択する2年次からは各「コース固有科目群」を、3年次からをそれぞれ「専門科目」として配置する。

#### ■思考・判断

- ③問題発見能力、情報の収集・選別・分析能力を身につけるため、1年次から2年次にかけて「専門基礎科目群」、2年次からは企業経営コースおよび会計/ファイナンスコースに関する各「コース固有科目群」をそれぞれ「専門科目」として配置する。
- ④企業経営の意思決定に際して必要となる思考力・判断力・実践力を身につけるため、3年次から理論科目との双方向での同時学修を念頭においた「応用・実践科目群」を「専門科目」として配置する。

#### ■関心・意欲・態度

- ⑤社会規範を順守し、また多様性が理解でき、協調性とリーダーシップといった資質を身につけるため、「法律科目群」および少人数で行われる「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究」を配置する。
- ⑥常に企業社会に関心の目を向け、課題解決に自ら進んで取り組み、また課題解決に必要な知識とスキルの修得に意欲をもやす態度・姿勢を身につけるため、少人数で行われる「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究」を配置する。

#### ■技能・表現

- ⑦企業活動において必須なコミュニケーション能力と情報に関するリテラシーを修得するため、少人数で行われる「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究」を配置する。

### ◎アドミッション・ポリシー(AP:入学受入れの方針)

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

#### ■知識・理解

- ①経営学部で学ぶ諸科目を修得するために必要な基礎的教養・知識である「国語」、「英語」、「地理歴史」、「公民」、「数学」などの高等学校の教育課程を幅広く修得している。

#### ■思考・判断

- ②「国語」、「英語」の読解力に基づいて、論理的に思考・分析し、その結果を解釈する基礎的能力を有している。
- ③「数学」の解析力に基づいて、論理的に思考・分析し、その結果を解釈する基礎的能力を有している。

■ 関心・意欲・態度

- ④「地理歴史」、「公民」の学修を通じて、現代の企業が抱える多様な諸課題に関心を持ち、経営に関する専門知識と情報スキルの向上に意欲があり、その目標達成に向け、自ら進んで学修することができる。
- ⑤課外活動やボランティア活動に、他者と協働して、主体的に取り組んだ経験がある。
- ⑥ディプロマ・ポリシーを理解し、本学科への入学を強く希望している。

■ 技能・表現

- ⑦他者との交流を通じて自分自身を成長させることのできるコミュニケーション能力を有している。
- ⑧取得した資格やスポーツの経験などを通じて特定の分野において自慢できる能力や技能を有している。

入学者選抜の実施にあたっては、学力試験、適性検査をはじめとして、大学入試センター試験、面接、学修計画書、小論文、高等学校調査書、英語ほかの資格検定試験の結果などを入試毎に組み合わせて評価します。



# 授 業 計 画





科目名	担当者	ページ
<b>ア</b>		
I C T 概論	北村 浩	11
<b>イ</b>		
インターンシップ基礎	水野 武	475
<b>エ</b>		
英語 I a	スコット ライリー	193
英語 I a	ブルース ライリー	195
英語 I a	グラント パーミンハム	196
英語 I a	ジョン カール	198
英語 I a	中野 華子	199
英語 I a	山本 尚子	200
英語 I b	リチャード ダイアース	201
英語 I b	ジェーン パーメンター	202
英語 I b	ジェフリー ベル	203
英語 I b	マーティン オイクル	204
英語 I b	ダニエル マリンズ	205
英語 I b	松浦 茂寿	208
英語 I c	スコット ライリー	209
英語 I c	ブルース ライリー	211
英語 I c	グラント パーミンハム	212
英語 I c	ジョン カール	214
英語 I c	中野 華子	215
英語 I c	山本 尚子	216
英語 I d	リチャード ダイアース	217
英語 I d	ジェーン パーメンター	218
英語 I d	ジェフリー ベル	219
英語 I d	マーティン オイクル	220
英語 I d	ダニエル マリンズ	221
英語 I d	松浦 茂寿	224
英語 II a	湊 由妃子	225
英語 II a	リチャード ダイアース	227
英語 II a	内山 知美	228
英語 II a	鈴木 三千代	230
英語 II a	山本 尚子	231
英語 II a	大江 麻里子	232
英語 II b	齋藤 安以子	233
英語 II b	天野 貴史	235
英語 II b	ダニエル ピアース	236
英語 II b	入江 敏子	238
英語 II b	松浦 茂寿	239
英語 II b	田村 康子	240
英語 II c	湊 由妃子	241
英語 II c	リチャード ダイアース	242
英語 II c	内山 知美	243
英語 II c	鈴木 三千代	244
英語 II c	山本 尚子	245
英語 II c	大江 麻里子	246
英語 II d	後藤 一章	247
英語 II d	天野 貴史	248

科目名	担当者	ページ
英語 II d	ダニエル ピアース	249
英語 II d	入江 敏子	251
英語 II d	松浦 茂寿	252
英語 II d	田村 康子	253
英語コミュニケーション I	アーサー ロリングスン	254
英語コミュニケーション II	アーサー ロリングスン	255
N P O 論	相川 康子	13
演習 I	佐藤 正志	15
演習 I	西之坊 穂	16
演習 I	大田 住吉	17
演習 I	杉本 篤信	18
演習 I	畠山 俊宏	19
演習 I	高尾 裕二	20
演習 I	佐井 英子	21
演習 I	岩坪 加紋	22
演習 I	三木 僚祐	23
演習 I	呉 重和	24
演習 II	畠山 俊宏	25
演習 II	佐井 英子	26
演習 II	佐藤 正志	27
演習 II	西之坊 穂	28
演習 II	杉本 篤信	29
演習 II	高尾 裕二	30
演習 II	大田 住吉	31
演習 II	岩坪 加紋	32
演習 II	三木 僚祐	33
エンプロイメントデザイン I	石井 三恵	476
エンプロイメントデザイン II	水野 武	478

## オ

応用簿記	高尾 裕二	34
------	-------	----

## カ

海外語学研修	鳥居 祐介	256
海外ビジネスインターンシップ	佐井 英子	313
会計学入門	佐井 英子	35
会計情報分析論	呉 重和	36
会計情報論	佐井 英子	38
会社法	高田 尚彦	39
会社法 I	高田 尚彦	40
会社法 II	高田 尚彦	41
科学技術教養 (V 1)	西村 仁	314
科学技術教養 (V 2)	青笹 治	316
科学技術教養 (R 1)	大橋 巧	318
科学技術教養 (R 2)	大橋 巧	320
科学技術教養 (A 1)	宮本 征一	321
科学技術教養 (A 2)	宮本 征一	322
科学技術教養 (M 1)	堀江 昌朗	323
科学技術教養 (M 2)	諏訪 晴彦	325
科学技術教養 (E 1)	片田 喜章	327
科学技術教養 (E 2)	片田 喜章	328
科学技術教養 (C 1)	片桐 信	330

科目名	担当者	ページ
科学技術教養 (C 2)	片 桐 信	332
科学技術教養 (T 1)	長 島 健	333
科学技術教養 (T 2)	島 田 伸 一	335
科学技術教養 I～IV (V 1)	西 村 仁	337
科学技術教養 I～IV (V 2)	青 笹 治	339
科学技術教養 I～IV (R 1)	大 橋 巧	341
科学技術教養 I～IV (R 2)	大 橋 巧	343
科学技術教養 I～IV (A 1)	宮 本 征 一	345
科学技術教養 I～IV (A 2)	宮 本 征 一	346
科学技術教養 I～IV (M 1)	堀 江 昌 朗	347
科学技術教養 I～IV (M 2)	諏 訪 晴 彦	349
科学技術教養 I～IV (E 1)	片 田 喜 章	351
科学技術教養 I～IV (E 2)	片 田 喜 章	352
科学技術教養 I～IV (C 1)	片 桐 信	354
科学技術教養 I～IV (C 2)	片 桐 信	356
科学技術教養 I～IV (T 1)	長 島 健	357
科学技術教養 I～IV (T 2)	島 田 伸 一	359
環境と経営	井 上 尚 之	42
環境と現代社会	井 上 尚 之	361
環境マネジメントシステム I	井 上 尚 之	43
環境マネジメントシステム II	井 上 尚 之	45
監査論	仲 秀 樹	47
管理会計論 I	三 木 僚 祐	48
管理会計論 II	三 木 僚 祐	49
<b>キ</b>		
企業金融論	岩 坪 加 紋	50
企業分析 (経営戦略ケース分析)	北 真 収	51
企業分析 (経営組織ケース分析)	西之坊 穂	52
企業分析 (コーポレートガバナンス)	大 田 住 吉	54
企業分析 (財務戦略ケース分析)	呉 重 和	56
企業簿記	三 木 僚 祐	57
企業簿記	呉 重 和	59
企業論	大 田 住 吉	61
基礎演習	北 真 収	63
基礎演習	杉 本 篤 信	64
基礎演習	岩 坪 加 紋	65
基礎演習	三 木 僚 祐	66
基礎演習	呉 重 和	67
基礎演習	林 正 浩	68
基礎演習	大 田 住 吉	69
基礎演習	畠 山 俊 宏	70
基礎演習	西之坊 穂	71
基礎演習	橋 本 はる美	72
基礎演習	田 中 祥 司	73
基礎演習	樋 口 友 紀	74
北河内を知る	荻 田 喜代一	362
キャリアデザイン	水 野 武	480
キャリアプラン	水 野 武	482
教育課程論	大 野 順 子	503
教育経営論	朝 日 素 明	505
教育原理	小 山 裕 樹	507

科目名	担当者	ページ
教育実習 I	朝 日 素 明	509
教育実習 II	朝 日 素 明	510
教育実習 III	朝 日 素 明	511
教育社会学	大 野 順 子	512
教育心理学	吉 田 佐治子	514
教育相談	吉 田 佐治子	515
教育方法論	林 茂 樹	516
教職実践演習 (中・高)	小 山 裕 樹	518
教師論	朝 日 素 明	520
近代文学から学ぶ	橋 本 正 俊	364
金融商品取引法	高 田 尚 彦	75
金融論	岩 坪 加 紋	76

## ク

くらしと経済	岩 坪 加 紋	365
グローバルな視点から多文化共生を考える	糟 谷 英 之	366
グローバル経営論	畠 山 俊 宏	77

## ケ

経営学	畠 山 俊 宏	78
経営学 I	畠 山 俊 宏	80
経営学 II	北 真 収	81
経営学特講 I	鶴 坂 貴 恵	82
経営管理論	畠 山 俊 宏	83
経営管理論	林 正 浩	85
経営財務論 I	高 尾 裕 二	86
経営財務論 II	高 尾 裕 二	88
経営史	佐 藤 正 志	90
経営戦略論	北 真 収	91
経営組織論	北 真 収	92
経営組織論 I	北 真 収	93
経営統計学	杉 本 篤 信	94
経営統計学	樋 口 友 紀	95
経営とマーケティング	武 居 奈緒子	96
経営分析論	呉 重 和	97
経営倫理 I	藤 木 健 史	99
経営倫理 II	大 田 住 吉	101
経済学入門	岩 坪 加 紋	103
原価計算論 I	三 木 僚 祐	104
現代韓国事情	田 中 悟	367
現代社会論	有 馬 善 一	105
現代日本経営史	佐 藤 正 志	107
現代ビジネス論	牧 美喜男	369

## コ

工業簿記	三 木 僚 祐	108
公衆衛生学	小 堀 栄 子	371
コーポレート・ファイナンス I	高 尾 裕 二	109
コーポレート・ファイナンス II	高 尾 裕 二	111
国際会計論	浅 野 信 博	113
コミュニケーション能力開発	亀 田 峻 宣	483
Conflictの表象-20世紀マンガ・アニメの文化誌-	橋 本 正 俊	372

科目名	担当者	ページ
<b>サ</b>		
財務会計論Ⅰ	佐井英子	114
財務会計論Ⅱ	佐井英子	115
財務諸表論入門	佐井英子	116
<b>シ</b>		
C S R経営論	大田住吉	117
市場調査入門	牧野幸志	119
自然地理学	手代木功基	373
社会科・公民科教育法Ⅰ	大野順子	522
社会科・公民科教育法Ⅱ	大野順子	524
社会科・地歴科教育法Ⅰ	井上正英	526
社会科・地歴科教育法Ⅱ	井上正英	527
社会学Ⅰ	山本圭三	375
社会学Ⅱ	山本圭三	376
就職実践基礎	橋本朗子	377
就職実践基礎	山岡亮太	378
就職実践基礎	亀田峻宣	379
就職実践基礎	亀田峻宣	380
生涯スポーツ実習	横山喬之	258
生涯スポーツ実習(ゴルフ)	近藤潤	259
商業科教育法	久井孝則	528
商業簿記	高尾裕二	120
情報科教育法	栢木紀哉	530
情報倫理	藤木健史	122
職業指導Ⅰ	水野武	532
職業指導Ⅱ	水野武	533
職業能力開発	水野武	484
人的資源管理論Ⅰ	西之坊穂	124
人的資源管理論Ⅱ	西之坊穂	126
人文地理学	柴田陽一	381
心理学Ⅰ	毛新華	382
心理学Ⅱ	毛新華	384
<b>ス</b>		
数学基礎Ⅰ	小泉耕蔵	260
数学基礎Ⅰ	早味俊夫	261
数学基礎Ⅰ	妻鳥淳彦	262
数学基礎Ⅱ	小泉耕蔵	263
数学基礎Ⅱ	水野俊太郎	264
数学基礎Ⅱ	妻鳥淳彦	265
数的能力開発	亀田峻宣	485
数的能力開発	山岡亮太	486
数的能力開発	橋本朗子	487
数的能力開発	津村忠	488
スポーツ科学実習Ⅰ	近藤潤	266
スポーツ科学実習Ⅱ	近藤潤	267
住まいとデザイン	大高和香	386
<b>セ</b>		
生産管理論	大田住吉	128

科目名	担当者	ページ
政治学概論Ⅰ	和田泰一	387
政治学概論Ⅱ	和田泰一	389
青少年育成ファシリテーター養成講座	浅野英一	391
生徒指導論	朝日素明	534
税務会計論Ⅰ	中塚賢	130
税務会計論Ⅱ	呉重和	131
世界の歴史	村上司樹	392
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	橋本正治	394
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石田裕子	395
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	浅野英一	396
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	久保貞也	397
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	鶴坂貴恵	398
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	尾山廣	399
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	居場嘉教	400
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	一色美博	401
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	大田住吉	402
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	栢木紀哉	403
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石井信輝	404
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	水野武	405
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	上野山裕士	406
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	吉田佐治子	407
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	藤林真美	408
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	橋本正治	409
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石田裕子	410
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	浅野英一	411
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	久保貞也	412
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	鶴坂貴恵	413
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	尾山廣	414
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	居場嘉教	415
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	一色美博	416
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	大田住吉	417
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	栢木紀哉	418
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石井信輝	419
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	水野武	420
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	上野山裕士	421
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	吉田佐治子	422
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	藤林真美	423
専門基礎演習	北真収	132
専門基礎演習	杉本篤信	133
専門基礎演習	岩坪加紋	134
専門基礎演習	三木僚祐	135
専門基礎演習	呉重和	136
専門基礎演習	林正浩	137
専門基礎演習	大田住吉	138
専門基礎演習	畠山俊宏	139
専門基礎演習	西之坊穂	140
専門基礎演習	橋本はる美	141
専門基礎演習	田中祥司	142
専門基礎演習	樋口友紀	143
専門日本語FⅠ	佐々木成美	268
専門日本語FⅡ	門脇薫	269
専門日本語R	佐々木成美	270

科目名	担当者	ページ
<b>ソ</b>		
ソーシャル・イノベーション実務総論	石井三恵	424
卒業研究	畠山俊宏	144
卒業研究	佐藤正志	145
卒業研究	杉本篤信	146
卒業研究	西之坊穂	147
卒業研究	高尾裕二	148
卒業研究	佐井英子	149
卒業研究	岩坪加紋	150
卒業研究	三木僚祐	151
<b>タ</b>		
大学教養入門	荻田喜代一	426
ダイバーシティとコミュニケーション	石井三恵	428
<b>チ</b>		
地域貢献実践演習	鶴坂貴恵	430
地域と私	鶴坂貴恵	431
地域連携教育活動Ⅰ	吉田佐治子	433
地域連携教育活動Ⅱ	吉田佐治子	434
チームビルディング	水野武	435
地誌学	中山穂孝	436
中国語を聞く a	小都晶子	271
中国語を聞く b	小都晶子	272
中国語を話す a	段飛虹	273
中国語を話す b	段飛虹	275
中小企業会計論	呉重和	152
地理学Ⅰ	手代木功基	437
地理学Ⅱ	柴田陽一	439
<b>テ</b>		
哲学Ⅰ	貫井隆	440
哲学Ⅱ	濱良祐	442
<b>ト</b>		
道徳教育の研究	小山裕樹	535
特別活動の理論と方法	林茂樹	537
<b>ニ</b>		
日本語会話 FⅠ	藤原京佳	277
日本語会話 FⅡ	藤原京佳	278
日本語会話 R	藤原京佳	279
日本国憲法	大仲淳介	444
日本語総合 FⅠ	古川由理子	280
日本語総合 FⅡ	古川由理子	281
日本語総合 R	古川由理子	282
日本語読解 FⅠ	佐々木成美	283
日本語読解 FⅡ	佐々木成美	284
日本語読解 R	佐々木成美	285
日本語能力開発Ⅰ	澤野加奈	489
日本語能力開発Ⅱ	上島誠司	490

科目名	担当者	ページ
日本語能力開発Ⅰ	高嶋藍	491
日本語能力開発Ⅱ	澤野加奈	492
日本語能力開発Ⅱ	久田行雄	493
日本語能力開発Ⅱ	高嶋藍	494
日本語表現作文 FⅠ	佐々木成美	286
日本語表現作文 FⅡ	佐々木成美	287
日本語表現作文 R	佐々木成美	288
日本語表現法Ⅰ	澤野加奈	289
日本語表現法Ⅰ	上島誠司	290
日本語表現法Ⅰ	高嶋藍	291
日本語表現法Ⅱ	澤野加奈	292
日本語表現法Ⅱ	久田行雄	293
日本語表現法Ⅱ	高嶋藍	294
日本語文法 FⅠ	佐々木成美	295
日本語文法 FⅡ	佐々木成美	296
日本語文法 R	佐々木成美	297
日本事情 FⅠ	梅野将之	298
日本事情 FⅡ	門脇薫	299
日本事情 RⅠ	梅野将之	300
日本事情 RⅡ	門脇薫	301
日本の歴史	高木純一	446
<b>ノ</b>		
脳の情報処理	寺内睦博	448
<b>ハ</b>		
犯罪被害者の支援と法的救済	小野晃正	449
<b>ヒ</b>		
ビジネスイングリッシュⅠ	李孝聖	302
ビジネスイングリッシュⅡ	李孝聖	304
ビジネスインターンシップⅠ	石井三恵	495
ビジネスインターンシップⅡ	石井三恵	496
ビジネス情報処理Ⅰ	橋本はる美	153
ビジネス情報処理Ⅰ	星山幸子	155
ビジネス情報処理Ⅰ	栢木紀哉	156
ビジネス情報処理Ⅱ	橋本はる美	158
ビジネス情報処理Ⅱ	星山幸子	160
ビジネス中国語基礎 a	曹櫻	306
ビジネス中国語基礎 b	大西紀	307
ビジネス中国語基礎 c	曹櫻	308
ビジネス中国語基礎 d	大西紀	309
ビジネスプラン	林正浩	162
ビジネスプランニング	林正浩	163
ビジネスマナーⅠ	奥田和子	497
ビジネスマナーⅠ	奥田和子	499
<b>フ</b>		
ファイナンシャル・プランニング	植杉大	164
ファイナンスⅠ	岩坪加紋	165
ファイナンスⅡ	岩坪加紋	166
プレゼンテーション論	石井三恵	451

科目名	担当者	ページ
プロポーザル・デザイン	北村 浩	453
文学から学ぶ	橋本 正俊	455

## へ

ベンチャービジネス論	畠山 俊宏	167
------------	-------	-----

## ホ

法学入門	小島 俊朗	456
法学入門	小島 俊朗	457
簿記入門	三木 僚祐	169
簿記入門	呉 重和	171
保健論	吉川 万紀	310

## マ

マーケティング概論	武居 奈緒子	173
マーケティング戦略論	鶴坂 貴恵	174
マーケティングと歴史	武居 奈緒子	458
マクロ経済学	杉本 篤信	176
マネジメントサイエンス	栢木 紀哉	177

## ミ

ミクロ経済学	岩坪 加紋	178
身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中沼 丈晃	459
民法	大川 謙蔵	179
民法I	大川 謙蔵	181

## モ

ものづくりインターンシップ基礎	奥野 竜平	461
ものづくりインターンシップ基礎	諏訪 晴彦	463
ものづくりインターンシップ実践	奥野 竜平	464
ものづくり海外インターンシップ	諏訪 晴彦	466
ものづくりと経営	大田 住吉	183

## ヤ

役立つ金融知力	陸川 富盛	467
---------	-------	-----

## ラ

ライフサイエンスの基礎	西矢 芳昭	469
-------------	-------	-----

## リ

倫理学	有馬 善一	470
-----	-------	-----

## ロ

労働法	川谷 道郎	185
労働法I	川谷 道郎	187
労働法II	川谷 道郎	189



# 專 門 科 目





科目名	ICT概論	科目名(英文)	Introduction to Information and Communications Technology
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	インターネットやソーシャルメディアの利活用が、組織や個人の活動に浸透する今日において、ICT(情報通信技術)がどんな社会課題の解決を支援するのかを考察する。ICTの効果的な適用により、企業の経営や個人の活動が、いかに変化し、どんな価値創造が可能になるのかを、主要業界の事例を通して学習する。
到達目標	経営課題の解決を支援するICTの役割と位置づけを理解する。インターネットを中心とするICTの利活用について、自主学習を進め、課題・視点を発見すること、いかに解決を図るのかを経営資源の中核である情報の視点から考えること、ICTの役割と組織・個人との関係について、自分の『気づき』を表現し、クラスやグループで発信できることを目指す。
授業方法と留意点	授業は、講義、テーマごとに、課題の個人発表、グループワーク・発表(5~6名/グループ)から構成される。毎回、グループワーク・発表(プレゼンテーション)を中心に授業運営を進める。また、ランダムに指名し各自の意見を求めた際には、積極的・建設的な発言等で授業への参画に励むよう努めること。適宜、最新の業界トピック、適用されているテクノロジーを学習する。
科目学習の効果(資格)	・新聞やWebが提供するICT関連テーマの記事の骨格を理解することができる。 ・同僚・先輩学生と意見交換を図るための基礎知識や素養を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
1	イントロダクション	・授業ガイダンス ・『ICT(情報通信技術)』とは何か	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
2	ICT現代史	・課題解決の支援手段としてのICT ・インターネット&コンピュータ小史 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
3	企業の経営課題と情報化	・企業の情報化戦略・施策 (日本企業、グローバル企業) ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
4	社会課題と政府の情報化	・官邸・中央官庁の情報化戦略・施策 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
5	地域課題と行政機関の情報化	・戦略特区・地方公共団体の情報化戦略・施策 ・個人発表(プレゼンテーション)	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
6	e-commerce(電子商取引)	・B2C(Business to Consumer) 企業対消費者間の取引 ・B2B(Business to Business) 企業対企業間の取引 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
7	顧客インターフェースのICT	・フロントオフィス(Front Office) ・バックオフィス(Back Office) ・サービス業(金融、観光等)情報化 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
8	仲介機能のICT	・ミドルオフィス(Middle Office) ・ソフトウェア・エージェント ・流通業(小売り、物流等)情報化 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
9	情報化推進による事業創造	・経営資源(ヒト・モノ・カネ・情報) ・マネジメント情報(顧客、取引、商品、サービス等にかかわる情報) ・個人発表(プレゼンテーション)	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
10	クラウドコンピューティングサービス(Cloud Computing Services)	・クラウドコンピューティングサービス ・グローバル企業のICT事例 (Google/Amazon/Uber/Airbnb/Walmart等) ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
11	IoT(Internet of Things)	・モノのインターネット ・ウェアラブルデバイス ・自転車シェアリングサービス ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
12	IoT(Internet of Everything)	・すべてがネットにつながる社会 ・位置情報サービス ・戦略特区のおもてなしIoTビジネス ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
13	クラウド・データとアナリティクス(Analytics)	・ビッグデータ/オープンデータ/パーソナルデータの利活用 ・人工知能による意思決定支援 ・個人発表(プレゼンテーション)	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
14	個人に係る情報の利活用	・改正個人情報保護法の要点 ・パーソナルデータのマーケティング利活用と個人情報の保護 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
15	まとめ	総括	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>テクノロジー経営入門</td> <td>松崎 和久</td> <td>同友館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	テクノロジー経営入門	松崎 和久	同友館	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	テクノロジー経営入門	松崎 和久	同友館													
	2																
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経営の基礎から学ぶ 経営情報システム教科書	武藤 明則	同文館出版
	2	経営情報論 新版補訂	遠山 暁	有斐閣
	3	図解「IoT」ビジネス入門	小泉 耕二	あさ出版
評価方法 (基準)	平常点 (25%)、個人レポートの提出 (15%)、定期試験 (60%) による総合評価を行う。平常点は、個人およびグループでの課題・ディスカッション、指名時の発言、小テスト (毎回、不定期)、授業への参画程度・態度で評価する。私語、携帯機器の利用、遅刻等の進行を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映するので、くれぐれも注意すること。			
学生への メッセージ	授業中の講義を聞くだけでは、十分得るものがなく、周りとのコミュニケーションを図ることで触発し合う重要性を認識すること。グループワークは、自分のアイデアを主張すればいいことでもないことに留意し、自分のグループでの立ち位置、クラスでの相対的なポジションを考えながら、主体的に課題に接しつつ、存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組んでください。			
担当者の 研究室等	11 号館 7 階 (北村教授室)			
備考	全座席指定での着席をお願いします。初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、学習法、成績評価基準の説明、課題・発表 (プレゼンテーション) 要領、授業用ツール (Portal、SNS) 利用を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数の要件、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。			

科目名	NPO論	科目名(英文)	Non Profit Organization
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	相川 康子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>NPO(民間非営利団体)とは、市民の有志が集まり、行政や企業とは異なる手法で、社会の課題を解決しようとする組織です。そのような市民活動は古くからありましたが、1998年に「特定非営利活動促進法(通称NPO法)」が制定されて以降、法人格を取得し、事務所や有給スタッフを抱えて幅広く活動を展開する団体が増えました。さらに、より事業性を追求する「コミュニティビジネス(CB)」や「ソーシャルビジネス(SB)」を標榜する団体も増えています。</p> <p>本講義では、そのようなNPO(CBやSBを含む)について▽歴史的経緯や社会経済情勢の変化の中で捉えることで、今日的意義を考察し▽実際にどんな活動があるのかを概観し▽営利企業とは異なるマネジメントの手法を学ぶことを目的とします。</p>
到達目標	<p>到達目標は、学生の皆さんが、今後、社会の担い手としてますます重要になるNPOに対して、▽存在意義と特性(とくに行政や営利企業との違いについて)と多様なあり方▽どんな活動があるのか、どの程度社会に広がっているのか▽経営手法の特徴—などの概要を理解することです。それによって、将来、学生の皆さんが、なんらかのNPO活動を行う際の基礎知識の習得を目指します。また、NPOと比較することで、営利企業や行政組織の経営についても理解が深まり、社会課題とその担い手について多角的に分析できるようになります。</p>
授業方法と留意点	<p>授業はレジュメをもとに講義形式で行います。NPOに関する記事等を読んだディスカッションなど、講師と学生あるいは学生間による対話を重視します。毎回コメントペーパーを書いてもらい、また随時、ワークシートを用いての考察を行います。学期の中盤に、理解度を深める小テストを行います。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>地域や社会の問題点を見つけ、課題を分析して、自ら解決する力が身に付きます。また、非営利組織の経営を学ぶことで、将来の選択(NPOでの就労、社会起業家など)を広げることができます。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義全体の狙い、進め方、評価法の説明／導入として「NPO」のイメージや疑問点を出し合う。	事後に、全体スケジュールを確認し、「NPO」という言葉や概念について自分なりに調べてみる。
2	NPOの定義、領域、多様性	広義・狭義の定義や諸形態を解説し、NPO・行政・企業のセクター論の中で位置づけや役割を解説する。	事前に、インターネットや書籍でNPOの定義や実態を調べておく。 事後に、行政-営利企業-NPOの相違点について復習しておく。
3	民間公益団体の法制度と実態 その1	「公益」の内容や担い手について考察し、日本の制度の特徴やどんな民間公益団体があるかを解説する。	事前に、民間が担う(民間が担った方がよい)公益事業について、どんなものがあるか考えてみる。 事後に、それぞれの公益団体について、どんな活動をしているか調べる。
4	民間公益団体の法制度と実態 その2	特定非営利活動法人(NPO)の法制度ができた経緯、特徴、広がり具合とともに、その後の公益法人改革の概要について学ぶ。	事後に、NPO法から公益法人改革につながった経緯や意義について、時代背景を押さえながら復習しておく。
5	NPO活動の特徴～身近な事例で考える	福祉やまちづくりなど、身近な分野で活動しているNPO法人の事例をいくつか取り上げ、共通点を探る	事前に、自分のまちにどんなNPO法人があるか、調べておく。 事後に、自分が興味を持った分野のNPO法人の活動事例についてさらに調べてみる ⇒ワークシートの作成・提出
6	NPO/市民活動と社会・経済とのかかわり その1(4回シリーズ)	NPO/市民活動は、どんな時に必要とされるかを考え、年表を見ながら、どんな時代にどんな社会課題があり、その解決のためどんな市民活動が行われてきたかをたどる。	事前・事後に、日本の近現代史について、高校までの知識を復習しておく。
7	NPO/市民活動と社会・経済とのかかわり その2	明治・大正・昭和初期から戦争にいたる社会・経済の移り変わりと、その時代に展開したNPO/市民活動および政府との関係を概観する。	事前に、統計データなどで社会や世帯の変化を頭に入れておく。 事後に、当時の政府と市民活動の関係について考察する。
8	NPO/市民活動と社会・経済とのかかわり その3	戦後の混乱や高度経済成長期から安定成長期、バブル経済とその崩壊にいたる社会経済の移り変わりと、その時代に展開したNPO/市民活動を概観する。	事後に、有償ボランティアが登場した時代背景や当時の論争について整理する。 ⇒ワークシートの作成・提出
9	NPO/市民活動と社会・経済とのかかわり その4	阪神・淡路大震災を経て、NPOの法制度ができ、社会の担い手となっていった経緯をたどり、活動(が期待される分野)の広がりについて考える。	事前に、阪神・淡路大震災についてWEBや本で調べ、1995年がなぜ「ボランティア元年」と呼ばれたか考えておく。 事後に、NPOがなぜ広がっていったかを考察する
10	今後のNPOの活動領域を考える+小テスト	前回までの歴史を総括し、今後予想される社会課題と、その解決に資するNPO活動を推察する。講義終盤で小テストを行う。	事前に、小テストのための勉強を行う。 事後に、小テストでできなかった部分を復習しておく。
11	非営利組織のマネジメント その1(3回シリーズ)	マネジメントシリーズ(3回)のはじめに、営利企業と非営利組織の比較を行う。組織運営、人材管理、情報共有などの面からNPOの特性を探る。	事前に、これまで(別講義で)学んだ営利企業の経営について、復習しておく。 事後に、NPOと営利企業との相違点を整理しておく。
12	非営利組織のマネジメント その2	ボランティアの特性を理解し、ボランティアマネジメントのコツを学ぶ。	事前に、ボランティアのモチベーションを高める方策について考えてくる。 事後に、ボランティアコーディネートの注意点を整理する。
13	非営利組織のマネジメント その3	NPOの資金調達(どんな資金源をどのように組み合わせるか)を学び、共感者や寄付を集めるために、どのような広報戦略が必要かを考える。	事前に、NPOには、どんな資金調達法があるか考えておく。 事後に、何らかのNPO活動を想定し、PRのパンフレットを作ってみる ⇒作成・提出
14	NPOを支える仕組み	NPOセンターなど中間支援団体の機能、実態/CSR/寄付文化を根付かせる取り組みなどをについて学ぶ。	事前・事後に、地元行政や企業のCSRによるNPO支援の取り組みについて調べる。
15	まとめにかえて	講義全体の振り返りと、今後のNPOへの	事後に、NPOの歴史や特徴、マネジメントなどを復

		期待や課題に関する話し合い。	習し、期末テストに備えること。
関連科目	経営学、公共経営論、地域経営論など		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	ボランティア・NPOの組織論	田尾雅夫、川野祐二
	2	テキスト市民活動論	早瀬昇、水谷綾ほか
	3	非営利組織の経営	P.H. ドラッカー著、上田・田代訳
出版社名	学陽書房		
出版社名	大坂ボランティア協会		
出版社名	ダイヤモンド社		
評価方法 (基準)	定期試験 50%、学期中に行うミニテスト 10%、ワークシートの充実度 20%、平常点（講義への参画度、コメントペーパーの内容等）20%を目安に、総合的に評価します。		
学生への メッセージ	NPOの経営は「儲けない」ことではなく、儲けを関係者間で配分しない（課題解決の資金源とする）ことで、営利企業の経営より難しい場面もあります。現在、企業もCSRに力を入れており、NPOについて学ぶことは将来の皆さんの視野を広げ、職業選択の幅を広げることとなるでしょう。		
担当者の 研究室等	11号館6階の非常勤講師控室		
備考			

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐藤 正志
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	<p>テーマ「経営者の研究・企業経営の歴史的研究（経営史）」</p> <p>各自が興味ある経営者（企業家）の経営理念や企業の歴史的な発展過程・現状についての研究を行ないます。加えて、経営史研究分野に関する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育します。</p>																		
到達目標	経営事象の本質を歴史的視点から捉える能力を培うことを目標とします。																		
授業方法と留意点	<p>日本を代表する企業家の経営活動を分析します。基本的には事前学習が大切です。まずは、教科書を読んでおいてください。また、事後学習は、より詳しく、専門書などにあたり、深く研究していきます。</p> <p>加えて、経営学分野に関する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業内容】</b></p> <p>2年次には教科書をもとに、その報告と質疑を行いながら、日本経営史の基礎知識を身につけていきます。</p> <p>(前期) 本演習のオリエンテーション、自己紹介</p> <p style="padding-left: 40px;">近代経営の発展・展開（明治後期～昭和初期）と経営者</p> <p>(後期) 企業経営の変容・大企業体制の成立と経営者</p> <p style="padding-left: 40px;">情報・消費社会のなかでの経営者活動</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 45%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 15%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>企業家に学ぶ日本経営史</td> <td>宇田川勝</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	企業家に学ぶ日本経営史	宇田川勝	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	企業家に学ぶ日本経営史	宇田川勝	有斐閣																
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 45%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 15%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	研究発表の内容・方法（50%）、ゼミ活動への積極的参加態度（50%）。																		
学生へのメッセージ	楽しく充実したゼミにするには、ひとえにゼミ生の意気込みにかかっています。積極的に活動計画や企画を出すなどして、ゼミ活動に主体的に参加してください。また、卒業研究に向かって、各自の興味関心のある事柄についての研究テーマを設定して臨んでください。																		
担当者の研究室等	11号館8階																		
備考																			

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b> 組織とヒトのマネジメントについて研究します。</p> <p><b>【目的】</b> 本演習では、戦略、組織、人のマネジメントについて基礎から段階的に学び、自らの問題意識をもって様々な組織やヒトに関する経営現象を考察できるようになることを目的としています。</p>																
到達目標	<p>①様々な経営現象に広く関心を持つ。 ②経営学の理論に関する知識をディスカッションやプレゼンテーションを通じて習得する。 ③論理的に自分の考えをまとめ、他者に伝えられるようになる。 ④他者の意見を聞き、また他者に自分の考えを伝えられるようになる。 ⑤ワークでは、企業で実際に働く人にアポイントを取る必要があるため、その際に必要なビジネスマナーを習得する。</p> <p>演習 I の終わりには、4年次に提出する卒業論文に向けてそれぞれの研究テーマを設定していきます。</p>																
授業方法と留意点	<p>①ゼミをグループに分けてテーマを決め、ゼミ生の知人が働く会社における関心テーマについて調査、分析、考察する。最後はグループ別プレゼンテーション大会を行います。 ②実務家をゼミに招いたり、休みを利用して企業訪問することがよくあります。 ③卒業研究テーマを選定します。</p>																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 「組織とヒトのマネジメントに関する基本的考察」</p> <p><b>【授業内容】</b> ①問題意識、文献調査・実地調査、プレゼンテーション、フィードバックを繰り返し行います。 ②報告者は、事前に文献・新聞・ウェブ検索を参考に報告者間での議論をレジюмеにまとめます。次に、用意したレジюмеをもとにプレゼンテーションを行います。 ③報告者以外の人は、意見・質問等の発言ができるようにプレゼンテーションをしっかりと聞いて準備すること。発言等、授業への参画がない場合、欠席扱いにします。</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b> 新聞等でのニュースで経営に関する情報を常に入手し、ゼミ等で関わったどの経営現象で説明できるか考察すること。 ゼミでも随時、日経新聞記載のニュースを中心に取り上げ、ディスカッションを行います。</p> <p>なお、上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育します。</p>																
関連科目	演習 II、卒業研究																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	出席、提出物、プレゼンテーション、ディスカッション、参加意欲の総合評価 (発言等がない場合、欠席扱いにします)																
学生へのメッセージ	ゼミへの主体的な参加は必須のゼミです。																
担当者の研究室等	11号館 8F 西之坊研究室																
備考	<p>①参考書等については、演習の中で紹介し、必要に応じて購入してもらう場合がある。 ②随時、企業家を招いてディスカッションを行う。招く場合は事前に伝えるので、所属組織について事前調査を必ず行うこと。 ③ゼミ活動を通じて社会人基礎力を養います。 ④ゼミの懇親会およびゼミ合宿を行い、集団凝集性を高めます。</p>																

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	<p>・学ぶのは、「戦略」です。演習 I では、様々な企業事例をもとに、それぞれの「ビジネス戦略」について「ビジネス・スクール形式」で学びます。</p> <p>・主な学習テーマは、以下のとおりです。</p> <p>① 4年次の卒業研究、卒業論文に向けて、この授業で何を、どこまで、修得すべきか？</p> <p>② 2年次に、企業分析、戦略判断、グループ討議、ビジネスプラン策定、プレゼンなど、個人のスキル完成度をどこまで高めるか？</p> <p>③ 小売業、サービス業、製造業の基本的な「ビジネス戦略」を策定するために、具体的に何をすれば良いのか？</p> <p>④ 創業、起業、開業など、新たにビジネスを始め、軌道に乗せるために、何を、どのように準備すれば良いのか？</p>																
到達目標	<p>・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。</p> <p>・様々な業種・業態のビジネス戦略について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。</p>																
授業方法と留意点	<p>・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。</p> <p>① 基本的な「ビジネス戦略」に関する企業事例について、実際のビジネス現場で起きるケースメソッド (仮想企業による事例研究) を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。</p> <p>② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返す、明るく、楽しく、わかりやすく、学びます。</p> <p>③ グループメンバー、役割分担は定期的に交替し、自分の考えを主張するとともに、他人の考え方との違いを体感します。</p> <p>・授業ではスマホ等を使ったキーワード検索等があります。スマホ等は必ず持参下さい。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業の具体的内容は、以下のとおりです。</p> <p>なお、企業経営、経営戦略に関連した研究活動における不正防止のための研究倫理教育を併せて実施します。</p> <p>&lt;前期&gt;</p> <p>・テーマ : ケースメソッドによる企業事例研究</p> <p>・授業内容 :</p> <p>授業回数① ガイダンス</p> <p>同上②～④ 企業ケーススタディ I : 消費立地と地域別価格 ～コンビニ、外食チェーン等、立地戦略～</p> <p>同上⑤～⑩ 企業ケーススタディ II : 空席に怯まず、満席に驕らず ～イタリア食堂、起業・開業戦略～</p> <p>同上⑪～⑮ 企業ケーススタディ III : 商流に掉さず ～酒小売業&amp;食品卸売商社の市場分析と販売戦略～</p> <p>&lt;後期&gt;</p> <p>・テーマ : ケースメソッドによる企業事例研究</p> <p>・授業内容</p> <p>授業回数</p> <p>①～⑥ 企業ケーススタディ I : 輝け！インストアバーカー ～パン製造小売業 マーケティング戦略～</p> <p>⑦～⑧ 企業ケーススタディ II : お客様は神様か？ ～フラワーショップ、ロイヤリティマーケティング戦略～</p> <p>⑨～⑩ 企業ケーススタディ III : 目指せ！機動力経営 ～印刷製本業、ものづくり戦略～</p> <p>⑪～⑮ 企業ケーススタディ IV : 向日葵のように、終のように ～水質濾過機メーカーのビジネスプラン～</p>																
関連科目	2年次…企業論、3年次…CSR経営論、生産管理論など																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>【前期】アクティブラーニング(ケースメソッド)授業テキスト 演習・ビジネス戦略論 I</td> <td>大田住吉、佐々木公之</td> <td>デザインエッグ社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>【後期】アクティブラーニング(ケースメソッド)授業テキスト 演習・ビジネス戦略論 II</td> <td>同上</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	【前期】アクティブラーニング(ケースメソッド)授業テキスト 演習・ビジネス戦略論 I	大田住吉、佐々木公之	デザインエッグ社	2	【後期】アクティブラーニング(ケースメソッド)授業テキスト 演習・ビジネス戦略論 II	同上	同上	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	【前期】アクティブラーニング(ケースメソッド)授業テキスト 演習・ビジネス戦略論 I	大田住吉、佐々木公之	デザインエッグ社														
2	【後期】アクティブラーニング(ケースメソッド)授業テキスト 演習・ビジネス戦略論 II	同上	同上														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>①グループ討議への参加意欲・発言内容 (40%)</p> <p>②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力 (15%)</p> <p>③プレゼン力および質疑応答対応力 (15%)</p> <p>④毎回の授業における理解度チェック小テスト(30%)による総合評価。</p> <p>ただし、毎回の授業の都度採点し、集計します。</p>																
学生へのメッセージ	<p>・35年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！</p> <p>・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	11号館7階 大田住吉研究室																
備考	理解度チェック小テストの結果については、授業の中で適宜フィードバックします。																

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	<p>テーマ 経済データの利用</p> <p>日本経済に関する様々な問題を分析するため、基本的なデータの利用の仕方を身に付ける。そして以下のような目標を達成する。</p> <p>(1) 現状をよく知るために、新聞などを読む。  (2) 理論的な知識をつけるために、多くの本を読む。  (3) 論理的な思考をする。  (4) 自分の考えを、口頭で発表する。  (5) 形式の整った、内容のあるレポートを書く。</p>																		
到達目標	<p>自分で問題を設定できる。  その問題を分析するための情報を収集できる。  情報、データを有効に活用できる。</p>																		
授業方法と留意点	<p><b>【授業内容】</b>  [授業内容]  データの意味、利用の仕方。経済の現状の把握。  [授業方法と留意点]  テキストを利用した、発表と討論。出席と授業中の発言が、最も重視される。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>日本の企業、経済、社会に関する問題を分析するためのデータを利用する方法やその意義について考えていく。テキストなどの担当項目の報告を通じ、理論的に思考し、また自分の考えを表現する力をつけていく。  上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>若者は本当にお金がないのか？－統計データが語る意外な真実－</td> <td>久我尚子</td> <td>光文社新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	若者は本当にお金がないのか？－統計データが語る意外な真実－	久我尚子	光文社新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	若者は本当にお金がないのか？－統計データが語る意外な真実－	久我尚子	光文社新書																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高校生からの経済データ入門</td> <td>吉本佳生</td> <td>ちくま新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高校生からの経済データ入門	吉本佳生	ちくま新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	高校生からの経済データ入門	吉本佳生	ちくま新書																
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>平常点、授業での取り組み、レポートなどで総合的に評価。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	<p><b>【学生へのメッセージ】</b>  上にも書いたように、できるだけ多くの本を読むようにしてほしい。基本的知識をつけることは、どのような分野を勉強するにも大事なことである。また自分の考えをまとめ、人に伝える技量をつけてほしい。</p>																		



科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	畠山 俊宏
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	<p>本演習では、国際経営論について学習します。近年、多くの企業が国境を越えてビジネスをしています。そのため、国際経営に関する知識を習得することは、グローバル化した社会で活躍するために重要となっています。</p> <p>本演習の目的は、教科書の輪読やグループディスカッションを通じて企業の国際化の実態や理論を理解することです。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際経営論に関する基礎的知識を習得する。</li> <li>2. 課題を分析して、自分の考えをまとめる力を身につける。</li> <li>3. 自分の意見をわかりやすく伝える力を身につける。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	グループによるプレゼンテーションとディスカッションを中心に授業を進めます。各自が責任を持って授業に取り組むことが重要です。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>文献の輪読を通じて国際経営に関する基礎的な知識の理解を深めていきます。発表者は文献を熟読して内容をレジュメにまとめてプレゼンテーションを行います。他のメンバーも事前に文献を読み、ディスカッションしたいテーマについて考えておく必要があります。</p> <p>尚、経営学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても取り上げ、指導・教育します。</p>																		
関連科目	経営学 I・II、経営戦略論、グローバル経営論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ケースに学ぶ国際経営</td> <td>吉原秀樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和宏</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>グローバル経営入門</td> <td>浅川和宏</td> <td>日本経済新聞社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ケースに学ぶ国際経営	吉原秀樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和宏	有斐閣	2	グローバル経営入門	浅川和宏	日本経済新聞社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	ケースに学ぶ国際経営	吉原秀樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和宏	有斐閣																
2	グローバル経営入門	浅川和宏	日本経済新聞社																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	プレゼンテーション、ディスカッションの取り組み姿勢等で総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	ゼミの主役は教員ではなく学生です。「自ら考え行動する力」を身につけるために、主体的にゼミの活動に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	11号館8階 畠山研究室																		
備考																			

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	高尾 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	3年間の演習 (ゼミナール) を通して、財務会計を学ぶ。現在では、企業社会における会計情報の役割を、資本市場における投資者の証券投資意思決定に資することと捉える「情報提供機能」を中核に会計基準が設計されていることから、会計情報の意義・役割・目的に関連する範囲で、企業価値評価などのコーポレート・ファイナンス分野にも、かなりの程度、関心の目を向ける。 演習 I では、今後3年間の基礎ステップとして、前半では①各自のレベルに応じた日商簿記検定の合格に向けた学習を行う予定である。また後半では、②財務会計およびコーポレート・ファイナンスの基本概念を理解するうえで重要なテーマを、順次取り上げ、議論する予定である。																		
到達目標	①については、各自のレベルに応じた日商簿記検定の合格。 ②については、財務会計・コーポレート・ファイナンス領域における一連の基礎概念・基礎的分析手法を理解し体得する																		
授業方法と留意点	①については、各自のレベルに応じたテクニカルな簿記問題への取組みとわからない箇所についての質問と確実な理解。②についてはグループ内・グループ間での報告・説明と討議。いずれの場合についても、現時点での知識レベルを前提として、積極的に質問し、また質疑応答に前向きに参加すること。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	授業テーマは、簿記・財務会計とコーポレート・ファイナンスの基礎的知識の習得である。 そのため、①の簿記の学習については、演習時間中に、課題に取り組み、正解と照合し、間違った箇所を納得した後、次の課題へ進むといった形で着実に前進することをモットーとする。 また②の財務会計・コーポレート・ファイナンスの基礎的知識の習得については、取り上げた重要な論点ないしケースについてのグループごとの報告と討議を課す。また特に②については、関心に応じて関連する文献・資料を提示するので、これらの提示された文献・資料にも積極的に取組み、将来の卒業論文のテーマ選択につなげることを期待する。加えて、会計/ファイナンス分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。																		
関連科目	企業簿記、会計学入門、財務会計、管理会計、ファイナンス、コーポレート・ファイナンス、経営分析論、企業分析 (財務戦略ケース分析) など。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	出席状況 (50%) と課題への取組み姿勢・態度 (50%) にもとづいて評価する。																		
学生へのメッセージ	毎回のゼミにおいて、少なくとも一つ、新たな知識の習得・理解あるいは何がしかの会計/ファイナンスに関する発見があるといった形で、一歩一歩、自身が前進するよう努力してほしい。 一部、グループワークを導入する予定なので、ゼミ生間での積極的なコミュニケーションを期待する。																		
担当者の研究室等	高尾研究室 (11号館8階)																		
備考																			

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐井 英子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	英語、パソコン、会計（国際）が現代の「三種の神器」である、といわれるがこの三者に共通していることは、どれもグローバルなコミュニケーション手段であるということです。会計は企業活動を計数的に写像したものであり、企業経営そのものを指し示している。経営者による裁量的な会計行動による不祥事が次々と発覚し、近年、会計の重要性が再認識されつつある。本演習では、会計情報を利用する立場から会計の基礎知識の修得に努める。また、レポート作成時など不正防止のための研究倫理についても取り上げ、指導・教育する。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計情報開示制度と会計の基本を理解する。</li> <li>・会計の基本的ルール、財務諸表作成のルール、会計基準等を理解する。</li> <li>・研究倫理について理解し、実践する姿勢を身につける。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	基本的知識を習得するために、入門書を輪読し、各自内容をまとめ発表する。また簿記、工業簿記の基本も習得する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計と経営、経済社会の関わりについて学び、会計の基本的な枠組み、知識を習得する。ゼミでは、毎回、各自の発言を求め、質疑、応答形式で進めていく。また、グループでの研究、調査を行い、協同してプレゼン等を行う。</li> <li>・事前学習は、配布資料等で分からない用語等事前に調べ、自分なりに理解してゼミに参加すること。ただし、内容がどうしても分からないところは、ゼミで必ず質問し、理解するようにする。事後学習は、毎回のゼミで、レポート、さらに調べることなどの課題をその都度、指示する。</li> </ul>																		
関連科目	企業簿記、財務会計論、経営学、																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	演習への参加（出席、レポートの提出、発表等）																		
学生へのメッセージ	ゼミは、必ず出席し、積極的に参加してください。一方的に知識が与えられる場としてではなく、活発な討論を通じて教員もゼミ生も互いに切磋琢磨していきける場としてゼミを考えています。																		
担当者の研究室等備考	11号館8階																		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	金融・ファイナンスで扱う事象は、わたしたちの身の回りにある。端的に言えばお金に関する事で、財布の中の現金をはじめ、電子マネーやクレジットカード、銀行、証券会社、保険、国債、株式、資産運用、借入等々、延々と続くお金の通り道で起こる様々な事象を体系的に論じるのが金融・ファイナンスの目的である。日頃の生活はもちろん、ビジネスとも密接な関係にある。本ゼミでは、そのようなお金に関する事象や問題を『研究・探究』し、金融・ファイナンスの考え方を修得するとともに、客観的な根拠に基づき主張する能力の修得を目標とする。本ゼミ希望者には成績の良し悪しは問わないが、自律的で能動的な姿勢を求めたい。																		
到達目標	金融・ファイナンスを中心とした経済・経営問題に関心を持ち、客観的視点から問題を把握し、解決する能力を身につけること																		
授業方法と留意点	原則として学生による発表・質疑応答形式で進める。発表者だけでなく、聴き手学生にも積極性を求める。ゼミを単位取得のための「がまん大会」にしてはならない。不幸にして欠席・遅刻しそうなら、教員に速やかに連絡すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本演習では、所定の書籍をもとに発表・質疑応答形式で進める。発表者が発表準備をするのは当然だが、聞き手学生は書籍の発表箇所を事前に読んでおくこと。また、適宜レポートも課す。加えて該当する分野に関連する不正防止のための研究倫理についても合わせて取り上げ、指導・教育する。																		
関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンス等																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	学習態度、プレゼンテーションの出来映えなどを総合的に判断する。																		
学生へのメッセージ	就職率が高くなったとはいえ、依然として企業の対応は厳しい。易きに流れるは世の常なれど、後悔するのは自分自身である。その点、覚悟願う。																		
担当者の研究室等	11号館8階 (岩坪教授室)																		
備考																			

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	三木 僚祐
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	本演習では、管理会計について学んでいく。管理会計とは、企業内部の各階層の経営管理者に、経営管理に有用な会計情報の提供を目的とする会計である。管理会計は、経営管理を有効に行うために不可欠な手段であり、管理会計を学ぶことは今後社会に出るにあたって、大変意義のあることであると考えられる。			
到達目標	管理会計とは何かや、予算管理、標準原価計算といった伝統的な管理会計技法の意義・手続きについて理解する。伝統的な管理会計に関する理解を踏まえて、伝統的な管理会計の課題について理解する。			
授業方法と留意点	管理会計の基礎的な教科書を用いて授業を行なう。毎回当番を決めて、事前に演習参加者に教科書の内容についてまとめた資料を作成してもらおう。その資料を授業中に発表してもらい、発表後は、その内容について議論を行う。活発な議論を期待する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	管理会計に関する基礎的な教科書を用いて、授業を進める。毎回の進度は、教科書1章分。前期は、管理会計を理解する上で欠かすことのできない原価計算の基礎的な事項について学ぶ。後期は、予算管理や標準原価計算など伝統的な管理会計技法について学んでいく。授業での発表者以外の人、当日の授業内容について事前に自分なりにまとめておくこと(90分)。また、事後にその日の授業内容について復習もしておくこと(30分)。加えて、会計分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導教育する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業での発表 40%、授業中の発言 30%、授業中の態度 30%			
学生へのメッセージ	授業の無断欠席や遅刻は認めません。授業には、真剣に取り組んで下さい。また、授業中は、積極的に発言することを期待します。演習参加者全員の努力で、演習での学びを、充実した実りのあるものにししましょう。			
担当者の研究室等	11号館7階(三木准教授室)			
備考	教科書については第1回目の授業の際に指示する。			

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	企業（または、世の中で経済活動をおこなう経済主体）に関連する社会問題を発見し、問題を解決する方法を学習し、分析をおこない、わかった知識を発信することを自ら行える能力を習得する。																		
到達目標	① 会計セミナーに所属する学生として必要最低限である会計関連知識を習得する。 ② 企業に関連する問題について、会計情報を根拠として提示しながら、意思表示ができる。 ③ 簿記関連資格を取得する。 ④ 卒業論文のテーマを決める。																		
授業方法と留意点	演習 I は講義形式ではなく、学生の参加形式であり、会計学の知識の習得、会計情報の分析、ディスカッションの実施、プレゼンによる知識の発信などが予定されている。 ① ゼミの活動に積極的に参加すること ② やむを得ない事情を除き、出席すること ③ ディスカッションに積極的に参加すること ④ 学内で生じた問題については素早く相談すること																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	前期では、簿記に関連する基礎知識の学習・発表と関心テーマの発見を、後期では、会計に関連する基礎知識の学習と論文テーマの決定・報告を予定している。 毎週行われるテーマに合わせ、事前に課題などが提示される。提示された課題については、報告者でなくても事前にわからない用語等を調べるなどし、ディスカッションに参加できるようにすること。（詳細な計画については初日の演習で告知する）																		
関連科目	経営学に関連する授業全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	毎回のゼミ参加、ディスカッションへの参加、発表、報告などを総合的に評価																		
学生へのメッセージ	ゼミは教員主導の講義ではなく、学生主導の学習の場です。教員はあくまでも学習の補助者です。皆さんが希望するゼミ活動があれば積極的に提案し、参加するなど、イメージしていたゼミを作り上げていきましょう。																		
担当者の研究室等備考	11号館7階																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	畠山 俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	<p>本演習では、国際経営論について学習します。近年、多くの企業が国境を越えてビジネスをしています。そのため、国際経営に関する知識を習得することは、グローバル化した社会で活躍するために重要となっています。</p> <p>本演習の目的は、教科書の輪読やグループディスカッションを通じて企業の国際化の実態や理論を理解することです。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プレゼンテーション・スキルを習得する。</li> <li>2. 論理的文章の作成スキルを習得する。</li> <li>3. 論理的思考力を鍛える。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	グループによるプレゼンテーションとディスカッションを中心に授業を進めます。各自が責任を持って授業に取り組むことが重要です。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>学外の研究プレゼン大会に参加することが主な活動になります。グループごとに研究調査、レポート、プレゼンテーション資料の作成に取り組みます。</p> <p>尚、経営学分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き努めます。</p>																		
関連科目	経営学Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論、グローバル経営論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>グローバル経営入門</td> <td>浅川和宏</td> <td>日本経済新聞社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	グローバル経営入門	浅川和宏	日本経済新聞社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	グローバル経営入門	浅川和宏	日本経済新聞社																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ケースに学ぶ国際経営</td> <td>吉原秀樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和宏</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ケースに学ぶ国際経営	吉原秀樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和宏	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	ケースに学ぶ国際経営	吉原秀樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和宏	有斐閣																
2																			
3																			
評価方法(基準)	プレゼンテーション、ディスカッションの取り組み姿勢等で総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	ゼミの主役は教員ではなく学生です。「自ら考え行動する力」を身につけるために、主体的にゼミの活動に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	11号館8階 畠山研究室																		
備考																			

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐井 英子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	英語、パソコン、会計(国際)が現代の「三種の神器」である、といわれるがこの三者に共通していることは、どれもグローバルなコミュニケーション手段であるということです。会計は企業活動を計数的に写像したものであり、企業経営そのものを指し示している。経営者による裁量的な会計行動による不祥事が次々と発覚し、近年、会計の重要性が再認識されつつある。本演習では、会計情報を利用する立場から会計の基礎知識の修得に努める。また、レポート作成時など不正防止のための研究倫理についても取り上げ、指導・教育する。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計情報開示制度と会計の基本を理解する。</li> <li>・会計の基本的ルール、財務諸表作成のルール、会計基準等を理解する。</li> <li>・研究倫理について理解し、実践する姿勢を身につける。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	基本的知識を習得するために、入門書を輪読し、各自内容をまとめ発表する。また簿記、工業簿記の基本も習得する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計と経営、経済社会の関わりについて学び、会計の基本的な枠組み、知識を習得する。ゼミでは、毎回、各自の発言を求め、質疑、応答形式で進めていく。また、グループでの研究、調査を行い、協同してプレゼン等を行う。</li> <li>・事前学習は、配布資料等で分からない用語等事前に調べ、自分なりに理解してゼミに参加すること。ただし、内容がどうしても分からないところは、ゼミで必ず質問し、理解するようにする。事後学習は、毎回のゼミで、レポート、さらに調べることなどの課題をその都度、指示する。</li> </ul>																		
関連科目	企業簿記、財務会計論、経営学、																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	演習への参加(出席、レポートの提出、発表等)																		
学生へのメッセージ	ゼミは、必ず出席し、積極的に参加してください。一方的に知識が与えられる場としてではなく、活発な討論を通じて教員もゼミ生も互いに切磋琢磨していける場としてゼミを考えています。																		
担当者の研究室等備考	11号館8階																		



科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐藤 正志
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	<p>テーマ「経営史・経営者の研究・企業経営の歴史的研究」</p> <p>各自が興味ある経営者（企業家）の経営理念や企業の歴史的な発展過程、現状についての研究を行ないます。加えて、経営史研究分野に関する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育します。</p>																		
到達目標	経営事象の本質を歴史的視点から捉える能力を培うことを目標とします。																		
授業方法と留意点	<p>日本を代表する企業家の経営活動を分析します。基本的には事前学習が大切です。まずは、教科書を読んでおいてください。事後学習は、より詳しく、専門書などにあたり、深く研究してください。</p> <p>また、経営学分野に関する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育しますので、「研究倫理」の多重要性を認識してください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業内容】</b></p> <p>3年次には教科書をもとに、その報告と質疑を行いながら、日本経営史の基礎知識を身につけていきます。</p> <p>第1回 本演習のオリエンテーション</p> <p>(前期) 近代経営の発展・展開（明治後期～昭和初期）と経営者</p> <p>(後期) 企業経営の変容・大企業体制の成立と経営者 情報・消費社会のなかでの経営者活動</p> <p>日帰り研修</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>企業家に学ぶ日本経営史</td> <td>宇田川勝</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	企業家に学ぶ日本経営史	宇田川勝	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	企業家に学ぶ日本経営史	宇田川勝	有斐閣																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	研究発表の内容・方法(50%)、ゼミ活動への積極的参加態度(50%)。																		
学生へのメッセージ	<p>楽しく充実したゼミにするには、ひとえにゼミ生の意気込みにかかっています。3年次は日帰りの校外研修やゼミコンパなどの行事を予定しています。積極的に活動計画や企画を出すなどして、これらのゼミ活動にも参加してください。また、卒業研究に向かって、各自の興味関心のある事柄についての研究テーマを設定して臨んでください。</p>																		
担当者の研究室等	11号館8階																		
備考																			

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b> 組織とヒトのマネジメントについて研究します。</p> <p><b>【目的】</b> 本演習では、戦略、組織、人のマネジメントについて基礎から段階的に学び、自らの問題意識をもって様々な組織やヒトに関する経営現象を考察できるようになることを目的としています。</p>																
到達目標	<p>①様々な経営現象に広く関心を持つ。 ②経営学の理論に関する知識をディスカッションやプレゼンテーションを通じて習得する。 ③論理的に自分の考えをまとめ、他者に伝えられるようになる。 ④他者の意見を聞き、また他者に自分の考えを伝えられるようになる。 ⑤ワークでは、企業で実際に働く人にアポイントを取る必要があるため、その際に必要なビジネスマナーを習得する。</p> <p>演習Ⅱの終わりには、4年次に提出する卒業論文序論を作成します。</p>																
授業方法と留意点	<p>①ゼミをグループに分けてテーマを決め、ゼミ生の知人が働く会社における関心テーマについて調査、分析、考察する。最後はグループ別プレゼンテーション大会を行います。 ②実務家をゼミに招いたり、休みを利用して企業訪問することがよくあります。 ③卒業研究テーマを選定します。</p>																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 「組織とヒトのマネジメントに関する基本的考察」</p> <p><b>【授業内容】</b> ①問題意識、文献調査・実地調査、プレゼンテーション、フィードバックを繰り返し行います。 ②報告者は、事前に文献・新聞・ウェブ検索を参考に報告者間での議論をレジюмеにまとめます。次に、用意したレジюмеをもとにプレゼンテーションを行います。 ③報告者以外の人は、意見・質問等の発言ができるようにプレゼンテーションをしっかりと聞いて準備すること。発言等、授業への参画がない場合、欠席扱いにします。</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b> 新聞等でのニュースで経営に関する情報を常に入手し、ゼミ等で関わったどの経営現象で説明できるか考察すること。 ゼミでも随時、日経新聞記載のニュースを中心に取り上げ、ディスカッションを行います。</p> <p>なお、上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育します。</p>																
関連科目	演習Ⅱ、卒業研究																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	出席、提出物、プレゼンテーション、ディスカッション、参加意欲の総合評価(発言等がない場合、欠席扱いにします)																
学生へのメッセージ	ゼミへの主体的な参加は必須のゼミです。																
担当者の研究室等	11号館8F 西之坊研究室																
備考	<p>①参考書等については、演習の中で紹介し、必要に応じて購入してもらう場合がある。 ②随時、企業家を招いてディスカッションを行う。招く場合は事前に伝えるので、所属組織について事前調査を必ず行うこと。 ③ゼミ活動を通じて社会人基礎力を養います。 ④ゼミの懇親会およびゼミ合宿を行い、集団凝集性を高めます。</p>																

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	<p>テーマ 経済データの利用</p> <p>日本経済に関する様々な問題を分析するため、基本的なデータの利用の仕方を身に付ける。そして以下のような目標を達成する。</p> <p>(1) 現状をよく知るために、新聞などを読む。</p> <p>(2) 理論的な知識をつけるために、多くの本を読む。</p> <p>(3) 論理的な思考をする。</p> <p>(4) 自分の考えを、口頭で発表する。</p> <p>(5) 形式の整った、内容のあるレポートを書く。</p> <p>演習1を踏まえて、卒業研究のテーマを決め、研究を深める。</p>																		
到達目標	<p>自分で問題を設定できる。</p> <p>その問題を分析するための情報を収集できる。</p> <p>情報、データを有効に活用できる。</p> <p>卒業研究の作成の準備を完了する。</p>																		
授業方法と留意点	<p><b>【授業内容】</b></p> <p>[授業内容] データの意味、利用の仕方。経済の現状の把握。</p> <p>[授業方法と留意点] テキストを利用した、発表と討論。出席と授業中の発言が、最も重視される。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>日本の企業、経済、社会に関する問題を分析するためのデータを利用する方法やその意義について考えていく。テキストなどの担当項目の報告を通じ、理論的に思考し、また自分の考えを表現する力をつけていく。</p> <p>上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>若者は本当にお金がないのか？ー統計データが語る意外な真実ー</td> <td>久我尚子</td> <td>光文社新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	若者は本当にお金がないのか？ー統計データが語る意外な真実ー	久我尚子	光文社新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	若者は本当にお金がないのか？ー統計データが語る意外な真実ー	久我尚子	光文社新書																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高校生からの経済データ入門</td> <td>吉本佳生</td> <td>ちくま新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高校生からの経済データ入門	吉本佳生	ちくま新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	高校生からの経済データ入門	吉本佳生	ちくま新書																
2																			
3																			
評価方法(基準)	平常点、授業での取り組み、レポートなどで総合的に評価。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	<p><b>【学生へのメッセージ】</b></p> <p>上にも書いたように、できるだけ多くの本を読むようにしてほしい。基本的知識をつけることは、どのような分野を勉強するにも大事なことである。また自分の考えをまとめ、人に伝える技量をつけてほしい。</p>																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	高尾 裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	3年間の演習(ゼミナール)の2年目として、「財務諸表を読む」ことに主眼をおく。つまり、財務諸表の分析方法を修得し、その修得した手法を用いて、実際の企業の財務諸表について財務分析を行い、その結果をもとに、当該企業の財務面からみた強味・弱みを自ら判断できる力を養う。			
到達目標	①財務比率など、財務分析の基本的な手法を理解したうえで、しっかりと身につける。 ②身につけたそれらの手法を用いて、企業を分析し、自分なりに企業の多様な側面を評価をすることができる。			
授業方法と留意点	①については、各自、担当箇所の内容について、パワー・ポイントを用いて報告し、質疑応答を行う。 ②については、各自が選択した企業3社について、エクセルを用いて、実際に財務分析を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業テーマは、会計学およびコーポレート・ファイナンスの基礎知識の習得とその応用である。そのため、一部、グループワークも取り入れるとともに、①については、担当者には、レジュメの作成、報告を課す。また担当者以外の者については、質問を課す。それゆえ、取り上げる各章も内容について、事前学習が不可欠である。</p> <p>②については、毎回、与える課題に従って作業を行うことになるが、時間内で終了しなかった場合には、次週までに残った作業を終了させておくことという事後学習が必要である。</p> <p>なお、①におけるプレゼンおよび②における作業内容については、前期・後期の最終授業において講評を行う。</p> <p>演習Ⅱにおいて身につけた知識と応用能力を、卒業論文に繋げていくことが望ましい。</p> <p>会計学・ファイナンス分野における不正防止のための研究倫理についても合わせて取り上げ、指導する。</p>			
関連科目	簿記入門、財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論、会計情報分析論、企業分析(財務戦略ケース分析)、コーポレート・ファイナンス			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	出席状況(50%)と課題への取り組み姿勢・態度・課題の進捗状況(50%)にもとづいて評価する。			
学生へのメッセージ	毎回のゼミにおいて、少なくとも一つ、新たな理解といった、会計学・ファイナンスに関する発見があるといった形で、一步一步、自ら前進するよう努力してほしい。 一部、グループワークを取り入れるので、ゼミ生間での積極的なコミュニケーションも期待する。			
担当者の研究室等備考	高尾研究室(11号館8階)			

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	<p>・学ぶのは、「戦略」です。演習Ⅱでは、卒業研究および就職後、実社会におけるビジネス・リーダー育成へ向けて、各自の研究ターゲットとなる業界および関連企業等について、徹底的に調査・研究します。</p> <p>①前期は、自分の研究ターゲットとする業界または関連企業を絞り込み、文献資料、データ等の先行研究を収集し、各自10分程度のプレゼンを実施します。</p> <p>②後期は、前期の成果を踏まえ、卒業研究論文「第2章 先行研究の課題」の執筆に着手します。</p> <p>③当然ながら、これまで演習Ⅰにおいて体験したビジネス・スクール形式の授業（グループディスカッション、プレゼン、質疑応答など）は、演習Ⅱにおいても継続します。つまり、上記②～③は個人作業に加え、グループワークも合わせて実施します。</p>																		
到達目標	<p>・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。</p> <p>・様々な業界(業種、業態等)の現状、課題およびビジネス戦略について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることが出来ます。</p>																		
授業方法と留意点	<p>①この授業は、座学ではありません。卒業研究および就職後、実社会におけるビジネス・リーダー育成へ向けて、各自の研究ターゲットとなる業界および関連企業等について、徹底的に調査・研究します。</p> <p>②これまで演習Ⅰにおいて体験したビジネススクール形式の授業（グループディスカッション、プレゼン、質疑応答など）は、演習Ⅱにおいても継続します。</p> <p>③なお、企業経営、経営戦略等に関連した研究活動における不正防止のための研究倫理教育を併せて実施します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業の具体的内容は、以下のとおりです。</p> <p>&lt;前期&gt;</p> <p>①約1,500の業種別資料の中から、自分の研究ターゲットとする業界または関連企業を複数選択し、文献資料、統計データ、ネット資料等の先行研究を収集します。</p> <p>②個人作業に加え、関連業種毎のグループワーク等を通じて、最終的には各自10分程度のプレゼンを実施します。</p> <p>&lt;後期&gt;</p> <p>①前期の研究成果を踏まえ、卒業研究論文「第2章 先行研究の課題」の執筆に着手します。</p> <p>②論文に引用する先行研究を吟味しながら、各自の研究テーマに沿った執筆を進めます。</p> <p>③各自の作業進捗度に応じ、さらなる研究深化についての具体的手法を検討します。</p>																		
関連科目	生産管理論、CSR経営論、経営戦略論など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくに指定しません</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくに指定しません			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	とくに指定しません																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各自の研究テーマに応じ、適宜指示します</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各自の研究テーマに応じ、適宜指示します			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各自の研究テーマに応じ、適宜指示します																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>・結果が全てですが、そこに至るプロセス(仕事振り)も評価対象とします。</p> <p>・個人の研究成果(プレゼン含む)80%、研究への取り組み姿勢およびグループワーク等への貢献度20%</p>																		
学生へのメッセージ	<p>・3回生からは、いよいよ「個」の力勝負となります。指導も個人指導が中心となります。</p> <p>・プロのビジネスリーダーは、「結果」が全てです。卒業および実社会での活躍を常に念頭に置き、逆算して自身の研究活動に励まれることを期待します。</p>																		
担当者の研究室等	11号館7階 大田研究室																		
備考																			

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	金融・ファイナンスで扱う事象は、わたしたちの身の回りにある。端的に言えばお金に関する事で、財布の中の現金をはじめ、電子マネーやクレジットカード、銀行、証券会社、保険、国債、株式、資産運用、借入等々、延々と続くお金の通り道で起こる様々な事象を体系的に論じるのが金融・ファイナンスの目的である。日頃の生活はもちろん、ビジネスとも密接な関係にある。本ゼミでは、そのようなお金に関する事象や問題を『研究・探究』し、金融・ファイナンスの考え方を修得するとともに、客観的な根拠に基づき主張する能力の修得を目標とする。本ゼミ希望者には成績の良し悪しは問わないが、自律的で能動的な姿勢を求めたい。																		
到達目標	金融・ファイナンスを中心とした経済・経営問題に関心を持ち、客観的視点から問題を把握し、解決する能力を身につけること																		
授業方法と留意点	本演習では卒業論文の作成を行う。発表・質疑応答形式で進める。発表の準備をする人はいうまでもないが、聞き手の学生にも積極性を求める。問題意識に沿って資料収集と仮説設定を行い、教員や他の学生との討論を通して問題解決の“コツ”を掴んで欲しい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4月から6月にかけてテーマを選定し、順次作成する。12月末までに80%の完成を目指す。加えて該当する分野に関連する不正防止のための研究倫理についても合わせて取り上げ、指導・教育する。																		
関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンス等																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	学習態度やプレゼンテーションの出来映えなどを総合的に判断する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館8階(岩坪教授室)																		
備考																			

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	三木 僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	本演習では、演習Ⅰで学んだことを踏まえて、さらに進んだ管理会計の理論や実務について学ぶ。1980年代後半以降、伝統的な管理会計の理論や実務の限界が指摘されるようになり、戦略管理会計という新しい管理会計の研究が行われるようになった。そこで、本演習では、この戦略管理会計に焦点を当てて、授業を行う。		
到達目標	① 伝統的な管理会計の限界を踏まえて、戦略管理会計の意義を理解する。 ② ABCやバランスト・スコアカードなど戦略管理会計の諸技法が実務でどのように活用されているのかを知る。		
授業方法と留意点	戦略管理会計に関する教科書を用いて授業を行なう。毎回当番を決めて、事前に演習参加者に教科書の内容についてまとめた資料を作成してもらう。その資料を授業中に発表してもらい、発表後は、その内容について議論を行う。活発な議論を期待する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	教科書を用いて、授業を進める。毎回の進度は、教科書1章分。前期は、戦略管理会計の理論について書かれた教科書を用いて、ABCやバランスト・スコアカードなど戦略管理会計の諸技法について学ぶ。後期は、ABCやバランスト・スコアカードなどのケース・スタディが書かれた本を教科書として用いて、実務において戦略管理会計の諸技法がどのように活用されているのかを学ぶ。授業での発表者以外の人、当日の授業内容について事前に自分なりにまとめておくこと(90分)。また、事後にその日の授業内容について復習しておくこと(30分)。加えて、会計分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導教育する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業での発表 40%、授業中の発言 30%、授業中の態度 30%		
学生へのメッセージ	授業の無断欠席や遅刻は認めません。授業には、真剣に取り組んで下さい。また、授業中は、積極的に発言することを期待します。演習参加者全員の努力で、演習での学びを、充実した実りのあるものにししましょう。		
担当者の研究室等	11号館7階(三木准教授室)		
備考	教科書については第1回目の授業の際に指示する。		

科目名	応用簿記	科目名(英文)	Applied Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高尾 裕二
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	1年次の「簿記入門」の内容をさらに発展させた簿記論・会計学の知識と能力を習得する。
到達目標	平成30年度以降の日本商工会議所簿記検定2級(商業簿記)レベルの簿記論・会計学の知識と応用能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	全体としてかなりのボリュームになることから、商業簿記3級では全く取り上げらず、商業簿記2級で初めて取り上げられるテーマを優先する。毎回、取り上げたテーマの内容を簡潔に説明した後、当該テーマの演習問題に取り組む。本講義では、理解を確実にするため、記帳練習に主眼を置く。毎回、電卓を必ず持参すること。
科目学習の効果(資格)	日本商工会議所簿記検定2級の合格を目指す。 ただし、同検定2級に合格するには、本講義に加えて、工業簿記の知識も習得する必要がある。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション「簿記一巡の手続と財務諸表」	簿記一巡の手続を復習し、全体の流れを改めて確認する。加えて、授業の進め方、評価方法等について説明する。	「簿記入門」で学んだ「全体の会計処理の流れ」を改めて確認する。
2	現金預金と売掛金	銀行勘定調整表、クレジット売掛金	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
3	手形	手形の裏書・割引、手形の更改、手形の不渡、電子記録債権債務	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
4	有価証券	有価証券の区分とその区分に応じた有価証券の処理	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
5	商品売買	3分法、払出単価の決定方法、割引・割戻し、棚卸減耗と商品評価損	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
6	固定資産	有形固定資産・無形固定資産・投資その他の資産の処理	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
7	引当金と収益・費用	各種引当金、収益及び費用の区分	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
8	株式会社の純資産	純資産の意義と区分、純資産の増減、会社の合併	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
9	リース会計	リース取引の意義、ファイナンシャル・リース取引の借手の処理、オペレーティング・リース取引の借手の処理	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
10	外貨建取引	外貨建の営業・決済取引の処理、外貨建金銭債権債務等の換算	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
11	決算	決算手続き、精算表の作成	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
12	本支店会計	本支店間取引の処理、本支店会計における決算手続き	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
13	連結会計の基礎(1)	資本連結、内部取引の相殺消去、未実現利益の消去	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
14	連結会計の基礎(2)	連結精算表、連結財務諸表の作成	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
15	整理と復習	これまで取り上げた各テーマについての整理と復習。これまで取り組んだ演習問題に関して質問を受ける。	これまで取り組んだ演習問題を講義前までに復習しておき、理解できていない演習問題を整理しておく。

関連科目	簿記入門、財務諸表論入門、財務会計論
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	検定簿記講義/2級商業簿記(平成29年度版)	渡部裕亘/片山覚/北村敬子	中央経済社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	定期試験 95%、中間時点における1回の演習レポートの提出(事前に通知する) 5%
----------	---

学生へのメッセージ	「簿記入門」の知識を前提としたとしても、商業簿記2級で新たに求められる知識量はかなり多いことをあらかじめ念頭においておくこと。私語は慎み、演習問題に熱心に取り組むこと。分からない箇所は積極的に質問すること。
-----------	---

担当者の研究室等	高尾研究室(11号館8階)
----------	---------------

備考	講義の内容が前後するなど変更等がある時は、可能な限り事前に伝える。 これまでの理解度を測るための中間時点で提出を求める演習レポートについては、結果を公表し、正解率の低い問題については改めて説明する。
----	--



科目名	会計学入門	科目名(英文)	Intoroduction to Accounting
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐井 英子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>会計情報は、債権者や投資家など特定の人々へのみ有用なものではない。今日の経済社会においては、すべての人々が企業活動と何らかの関係を持っている。企業は、地域社会をはじめ多くの関係者と利害関係を有しており、会計情報は、誰にとっても必要で有用な情報である。また、会計はビジネスの言語といわれ、ビジネスに不可欠になっている。会計を知らずして、経済社会を理解することはできないといえる。本講義では、会計の意義、目的、規範、会計情報開示制度等に関する基礎的知識・用語を初心者向けに分かり易く解説し、公表されている会計情報、財務諸表をから企業の経営内容を読み取り、理解できるようになり、また、2年生以降に履修することになる上級科目のより円滑な理解に結びつくことを目的とする。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計の目的、役割を理解する。</li> <li>・我が国の会計制度、会計情報開示制度の概要を理解する。</li> <li>・自ら必要な会計情報を入手できるようになる。</li> <li>・財務諸表の内容、作成ルールを理解し、会計情報から企業内容を推察することができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義資料を配布して講義形式で行うが、基本的に毎回、練習問題の解答やレポート課題が課されることに留意する。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスマンとして必要なビジネス言語である会計リテラシーが修得できる。</li> <li>・組織(主として企業)に関する会計情報を読み取る力を修得することにより2年次以降の学びに有用できる。</li> <li>・経営学部に関連する一連の各種資格取得のための受験準備スタートのよい契機になる。</li> <li>・会計と資格、職業についての理解が得られる。(公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士等)</li> </ul>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	会計の意義と目的	会計の意義、財務会計と管理会計、会計の役割・機能	配布資料の復讐
	2	わが国の会計制度	トライアングル体制、会社法会計、金融商品取引法会計、税務会計	配布資料 練習問題①
	3	会計情報開示制度	ディスクロージャーとは、電子開示システム	配布資料 練習問題②
	4	会計基準	企業会計原則、会計基準の国際的統合	配布資料 練習問題③
	5	会計情報の内容(1)	会計情報の入手方法、個別財務諸表と連結財務諸表	配布資料 練習問題④
	6	会計情報の内容(2)	貸借対照表 様式、基本原則、分類基準	配布資料 練習問題⑤
	7	会計情報の内容(3)	貸借対照表 資産について	配布資料 練習問題⑥
	8	会計情報の内容(4)	貸借対照表 負債について	配布資料 練習問題⑦
	9	会計情報の内容(5)	貸借対照表 純資産について	配布資料 練習問題⑧
	10	まとめと確認テスト	まとめと小テスト	
	11	会計情報の内容(6)	損益計算書 収益の認識と測定	配布資料 練習問題⑨
	12	会計情報の内容(7)	損益計算書 費用の認識と測定	配布資料 練習問題⑩
	13	会計情報の内容(8)	損益計算書 営業損益、経常損益、純損益	配布資料 練習問題⑪
	14	会計と職業・資格	日商簿記検定、ビジネス会計検定試験、BATIC、公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士	配布資料 練習問題⑫
	15	まとめ	講義の復習とまとめ	配布資料

関連科目	経営学、企業簿記
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加と課題の提出(30%)、確認テスト(20%)、定期テスト(50%)
----------	---

学生へのメッセージ	毎回授業に出席して下さい。
-----------	---------------

担当者の研究室等	佐井研究室(11号館8階)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	会計情報分析論	科目名(英文)	Financial Statements Analysis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	企業は生まれてから消滅するまで会計情報を生み出す存在であり、企業の経営活動は会計情報(財務諸表)として記録され、報告される。本講座の目的は、企業がおこなった経営活動を記録した財務諸表を用いて、企業がどのように経営活動をおこない、利益を生み出しているのかについて理解することである。
到達目標	企業活動を理解するために最低限必要とする会計の基礎知識を習得し、その知識を用いて企業の問題点を把握・評価する。また、経営者の観点から、改善策を提案する。
授業方法と留意点	①貸借対照表、②損益計算書、③貸借対照表と損益計算書、の3つのテーマに分けて講義を進める。 各テーマは事例を用いたディスカッションを実施する予定である。ディスカッションへの参加(発言)は成績評価にも大きく反映する。また、各テーマには簡単なアサインメントが与えられ、グループワークを実施する予定である。グループワークの結果は、グループ全員の評価となる。ディスカッション、グループワークに積極的に参加することが望ましい。 科目の性格上、計算問題を解くことがある。電卓・ノートパソコンなどを持参することが望ましい。
科目学習の効果(資格)	中小企業診断士、証券アナリスト、ファイナンシャルプランナー、簿記検定など、会計関連資格取得に必要な基礎知識を提供する。また、ビジネスパーソンとして最低限必要である会計に関する基礎知識を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	企業の資金の流れと財務諸表の関係について解説する。	配布資料と講義計画を読み、講義全体の構成を把握する。
2	貸借対照表	経営活動の準備物リストである貸借対照表について把握する。また、インターネットを利用し、企業の財務諸表を入手する。	事前に予習資料を読み、簡単な計算問題を解いてみる。関心企業を選定し、貸借対照表を入手し、経営者の立場で財産の状態を把握する。
3	百分率貸借対照表と推移比分析	企業事例を用いて、企業の財政状態と安全性について評価する。百分率貸借対照表の作成と推移比分析を行う。また、流動比率、固定比率、自己資本比率の3つの安全性指標を計算する。	事前に予習資料を読み、簡単な計算問題を解いてみる。関心企業の安全性を評価する。
4	貸借対照表と安全性指標	企業事例を用いて、企業の安全性を改善する方法について検討・考察する。	関心企業の安全性を高める改善策について考える。
5	安全性と改善策①	貸借対照表のみを用いて、企業の安全性を評価し、安全性を改善する方法について議論する。	グループ内で任意に企業を選定し、安全性を評価し、改善する方法について議論する。報告内容をまとめ、報告資料を作成する。
6	安全性と改善策②	貸借対照表のみを用いて、企業の安全性を評価し、安全性を改善する方法について提案する。	作成した報告資料を報告し、提出する。
7	損益計算書	一定期間の経営成績をあらわす損益計算書について把握する。収益のみ、または、利益のみでは把握できない経営成績について考える。	事前に予習資料を読み、簡単な計算問題を解いてみる。関心企業の損益計算書を入手し、経営者の立場から、経営成績を把握する。
8	百分率損益計算書と利益率	企業事例を用いて、企業の経営成績を把握する。売上高営業利益率と百分率損益計算書を作成する。	事前に予習資料を読み、簡単な計算問題を解いてみる。関心企業の損益計算書を入手し、百分率損益計算書を作成する。
9	産業別損益計算書	企業事例を用いて、産業界競争相手との比較分析をおこなう。産業別損益計算書について議論する。	関心企業の同業他社の損益計算書を入手し、比較する。
10	収益性と改善策①	損益計算書のみを用いて、企業の収益性を高める方法について議論する。	グループ内で任意に企業を選定し、収益性を評価し、改善する方法について議論する。報告内容をまとめ、報告資料を作成する。
11	収益性と改善策②	損益計算書のみを用いて、企業の収益性を高める方法について提案する。	作成した報告資料を報告し、提出する。
12	投下資本利益率	貸借対照表と損益計算書の両方を用いた収益性分析について学習する。	事前に予習資料を読み、簡単な計算問題を解いてみる。
13	投下資本利益率の要因分解	投下資本利益率を分解し、要因分析を実施する。	関心企業の財務諸表から、投下資本利益率を計算し、分解する。
14	収益性と効率性①	貸借対照表と損益計算書を用いて、企業の投下資本利益率を高める方法について議論する。	グループ内で任意に企業を選定し、投下資本利益率を改善する方法について議論する。報告内容をまとめ、報告資料を作成する。
15	収益性と効率性②	貸借対照表と損益計算書を用いて、企業の投下資本利益率を高める方法について提案する。	作成した報告資料を報告し、提出する。

関連科目	企業簿記(簿記入門)、財務会計論、管理会計論、会計情報論、企業分析(財務戦略ケース分析)、経営財務論など
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定しないが、以下の参考書の中から1冊購入することを勧める		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス・アカウンティング	山根節・太田康広・村上祐太郎	中央経済社
2	財務諸表分析	桜井久勝	中央経済社	
3	財務諸表分析	乙政正太	同文館出版	

評価方法 (基準)	<p>グループワーク 30%+ディスカッション 30%+定期試験 40%=100%</p> <p>+ グループワーク：3つのテーマについて、グループワークを実施し、報告資料の作成と報告を実施する。</p> <p>+ ディスカッション：毎回の講義およびグループワークにおける発言、参加度などを評価する。</p> <p>+ 定期試験：予習資料+グループワーク+レジュメの内容を反映した定期試験を実施する。</p>
学生への メッセージ	<p>会計情報分析論では、企業経営について最も詳しい経営者が作成・報告した財務諸表を用いて経営活動を理解することを主な目標とする。経営者になる・なつつもりで講義に挑んでほしい。</p>
担当者の 研究室等	<p>11号館7階</p>
備考	<p>講義計画は、学生の進捗度、理解度などを考慮し、一部変更する可能性もある。変更がある場合は、事前にアナウンスする。また、毎回の講義は関連性が高く、テーマごとにグループワークを実施するため、欠席することは学習効果を非常に低下させるだけでなく、他の受講生の迷惑となることに注意してほしい。</p>

科目名	会計情報論	科目名(英文)	Accounting and Information System
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐井 英子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>会計情報とは、企業の経済活動という現実の事象を、会計ルールに従って加工ないし写像したものである。ゆえに会計情報を解釈し、その背後にある現実の事象を正しく把握するには、会計ルールすなわち会計固有の用語とその仕組みに関する知識が不可欠である。特に近年、企業活動の多様化、グローバル化に伴い会計ルールは、さまざまな形で新設、変更された。本講義では、連結会計情報、連結株主資本等変動計算書、企業結合会計等について解説する。</p>																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連結財務諸表作成の基本的ルールを理解する。</li> <li>・子会社、関連会社、関係会社等グループ経営について理解する。</li> <li>・持分法に関する手続きを理解する。</li> <li>・株主資本等変動計算書作成の基本的ルールを理解する。</li> <li>・企業結合会計について理解する。</li> <li>・公表されている会計情報を、自ら利用できるようになる。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	配布資料を用いた講義及び事例研究をおこなう。講義内容の理解を深めるために練習問題を解く。																																																																		
科目学習の効果(資格)	公認会計士試験、税理士試験、証券アナリスト試験等の会計資格取得に有用である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>連結財務諸表の作成①</td> <td>連結財務諸表とは、連結主体論、</td> <td>練習問題 1 (講義後に配布)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>連結財務諸表の作成②</td> <td>連結範囲、子会社、関連会社</td> <td>練習問題 2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>連結財務諸表の作成③</td> <td>少数株主持分、のれんの処理</td> <td>練習問題 3</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>連結財務諸表の作成④</td> <td>連結貸借対照表の作成①</td> <td>練習問題 4</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>連結財務諸表の作成⑤</td> <td>連結貸借対照表の作成②</td> <td>練習問題 5</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>連結損益計算書の作成①</td> <td>連結損益計算書の作成①</td> <td>練習問題 6</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>連結損益計算書の作成②</td> <td>連結損益計算書の作成②</td> <td>練習問題 7</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>連結まとめ</td> <td>総合問題</td> <td>練習問題 8</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>事業別セグメント、地域別セグメント算会計</td> <td>事業別セグメント、地域別セグメント算会計の意義とセグメンテーション</td> <td>練習問題 9</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>外貨換算会計①</td> <td>在外支店、在外子会社の財務諸表項目の換算</td> <td>練習問題 10</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>外貨換算会計②</td> <td>在外支店、在外子会社の財務諸表項目の換算</td> <td>練習問題 11</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>キャッシュ・フロー計算書①</td> <td>キャッシュとは</td> <td>練習問題 12</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>キャッシュ・フロー計算書②</td> <td>営業キャッシュフロー計算</td> <td>練習問題 13</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>キャッシュ・フロー計算書③</td> <td>キャッシュフロー計算書の作成</td> <td>練習問題 14</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td></td> <td>配布した資料、練習問題の復讐</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	連結財務諸表の作成①	連結財務諸表とは、連結主体論、	練習問題 1 (講義後に配布)	2	連結財務諸表の作成②	連結範囲、子会社、関連会社	練習問題 2	3	連結財務諸表の作成③	少数株主持分、のれんの処理	練習問題 3	4	連結財務諸表の作成④	連結貸借対照表の作成①	練習問題 4	5	連結財務諸表の作成⑤	連結貸借対照表の作成②	練習問題 5	6	連結損益計算書の作成①	連結損益計算書の作成①	練習問題 6	7	連結損益計算書の作成②	連結損益計算書の作成②	練習問題 7	8	連結まとめ	総合問題	練習問題 8	9	事業別セグメント、地域別セグメント算会計	事業別セグメント、地域別セグメント算会計の意義とセグメンテーション	練習問題 9	10	外貨換算会計①	在外支店、在外子会社の財務諸表項目の換算	練習問題 10	11	外貨換算会計②	在外支店、在外子会社の財務諸表項目の換算	練習問題 11	12	キャッシュ・フロー計算書①	キャッシュとは	練習問題 12	13	キャッシュ・フロー計算書②	営業キャッシュフロー計算	練習問題 13	14	キャッシュ・フロー計算書③	キャッシュフロー計算書の作成	練習問題 14	15	まとめ		配布した資料、練習問題の復讐
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	連結財務諸表の作成①	連結財務諸表とは、連結主体論、	練習問題 1 (講義後に配布)																																																																
2	連結財務諸表の作成②	連結範囲、子会社、関連会社	練習問題 2																																																																
3	連結財務諸表の作成③	少数株主持分、のれんの処理	練習問題 3																																																																
4	連結財務諸表の作成④	連結貸借対照表の作成①	練習問題 4																																																																
5	連結財務諸表の作成⑤	連結貸借対照表の作成②	練習問題 5																																																																
6	連結損益計算書の作成①	連結損益計算書の作成①	練習問題 6																																																																
7	連結損益計算書の作成②	連結損益計算書の作成②	練習問題 7																																																																
8	連結まとめ	総合問題	練習問題 8																																																																
9	事業別セグメント、地域別セグメント算会計	事業別セグメント、地域別セグメント算会計の意義とセグメンテーション	練習問題 9																																																																
10	外貨換算会計①	在外支店、在外子会社の財務諸表項目の換算	練習問題 10																																																																
11	外貨換算会計②	在外支店、在外子会社の財務諸表項目の換算	練習問題 11																																																																
12	キャッシュ・フロー計算書①	キャッシュとは	練習問題 12																																																																
13	キャッシュ・フロー計算書②	営業キャッシュフロー計算	練習問題 13																																																																
14	キャッシュ・フロー計算書③	キャッシュフロー計算書の作成	練習問題 14																																																																
15	まとめ		配布した資料、練習問題の復讐																																																																
関連科目	企業簿記システム、財務会計論、管理会計論、経営分析論、国際会計論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	課題提出(40%)と、定期テスト(60%)																																																																		
学生へのメッセージ	<p>会計情報を分析し、活用するためには、会計ルール(基準)やその作成プロセスを理解することが必要です。企業活動の多様化、グローバルに伴い、会計ルールも複雑化しています。本講義では、連結財務諸表や外貨換算会計、企業結合会計などより高度な会計情報について学びます。</p>																																																																		
担当者の研究室等	11号館8階(佐井教授室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	会社法	科目名(英文)	Corporate Law
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	会社法Ⅰでは、各種会社のうち株式会社を中心に会社法の講義を行います。株式会社の設立、株式、株式会社の機関について、その基本的な制度および概念を理解することに主眼を置き、理解しやすいように具体例を示しながら解説します。もちろん、法律科目であるから、条文についても適宜参照し、理解を深めることができるように説明を行います。
到達目標	会社法における各種会社の概念を理解し、その構成員たる社員の責任について異同点を理解する。 そのうえで、株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について理解する。 その際には、必ず条文を確認して、理解するように努めること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果(資格)	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験(法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など)の対策となる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。会社法の概要。	教科書 p.1~p.5 を読んでおくこと。
	2	会社法総論	会社の概念、会社の種類、会社法総則。	教科書 p.5~p.19 を読んでおくこと。
	3	株式会社の設立	株式会社の設立総説、設立手続、設立の無効。	教科書 p.20~p.36 を読んでおくこと。
	4	株式(1)	株式総説、株主名簿。	教科書 p.37~p.45 を読んでおくこと。
	5	株式(2)	株式の譲渡、自己株式。	教科書 p.45~p.52 を読んでおくこと。
	6	株式(3)	株式の併合・分割・無償割当て、単元株式数、募集株式の発行、株券。	教科書 p.52~p.60 を読んでおくこと。
	7	新株予約権	新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株予約権の譲渡。	教科書 p.60~p.66 を読んでおくこと。
	8	株式会社の機関(1)	株式会社の機関総説。	教科書 p.66~p.69 を読んでおくこと。
	9	株式会社の機関(2)	株主総会、種類株主総会。	教科書 p.69~p.83 を読んでおくこと。
	10	株式会社の機関(3)	役員等の選任および終任、取締役、取締役会。	教科書 p.83~p.106 を読んでおくこと。
	11	株式会社の機関(4)	会計参与、監査役・監査役会、会計監査人。	教科書 p.106~p.114 を読んでおくこと。
	12	株式会社の機関(5)	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	教科書 p.114~p.127 を読んでおくこと。
	13	株式会社の機関(6)	役員等の責任、株主の差止請求権、株主代表訴訟、多重代表訴訟。	教科書第 p.127~p.146 を読んでおくこと。
	14	計算、定款の変更	会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰余金の配当、定款の変更。	教科書 p.147~p.160 を読んでおくこと。
	15	解散、清算、会社法Ⅰまとめ	解散原因、解散の効果、通常清算、特別清算、会社法Ⅰ総括。	教科書 p.160~p.164 を読んでおくこと。

関連科目	会社法Ⅱ、民法、企業論、企業簿記。
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新会社法の基礎(第3版)	加藤徹・相原隆・伊勢田道仁編	法律文化社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する(80%)。 その他講義中の発言なども加味する(20%)。
学生へのメッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。
担当者の研究室等	11号館6階 法学部
備考	授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.ij4u.or.jp まで、件名に科目名を入れて送信すること。

科目名	会社法 I	科目名 (英文)	Corporate Law I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	会社法 I では、各種会社のうち株式会社を中心に会社法の講義を行います。株式会社の設立、株式、株式会社の機関について、その基本的な制度および概念を理解することに主眼を置き、理解しやすいように具体例を示しながら解説します。もちろん、法律科目であるから、条文についても適宜参照し、理解を深めることができるように説明を行います。
到達目標	会社法における各種会社の概念を理解し、その構成員たる社員の責任について異同点を理解する。 そのうえで、株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について理解する。 その際には、必ず条文を確認して、理解するように努めること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果 (資格)	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験 (法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など) の対策となる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。会社法の概要。	教科書 p. 1~p. 5 を読んでおくこと。
	2	会社法総論	会社の概念、会社の種類、会社法総則。	教科書 p. 5~p. 19 を読んでおくこと。
	3	株式会社の設立	株式会社の設立総説、設立手続、設立の無効。	教科書 p. 20~p. 36 を読んでおくこと。
	4	株式 (1)	株式総説、株主名簿。	教科書 p. 37~p. 45 を読んでおくこと。
	5	株式 (2)	株式の譲渡、自己株式。	教科書 p. 45~p. 52 を読んでおくこと。
	6	株式 (3)	株式の併合・分割・無償割当て、単元株式数、募集株式の発行、株券。	教科書 p. 52~p. 60 を読んでおくこと。
	7	新株予約権	新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株予約権の譲渡。	教科書 p. 60~p. 66 を読んでおくこと。
	8	株式会社の機関 (1)	株式会社の機関総説。	教科書 p. 66~p. 69 を読んでおくこと。
	9	株式会社の機関 (2)	株主総会、種類株主総会。	教科書 p. 69~p. 83 を読んでおくこと。
	10	株式会社の機関 (3)	役員等の選任および終任、取締役、取締役会。	教科書 p. 83~p. 106 を読んでおくこと。
	11	株式会社の機関 (4)	会計参与、監査役・監査役会、会計監査人。	教科書 p. 106~p. 114 を読んでおくこと。
	12	株式会社の機関 (5)	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	教科書 p. 114~p. 127 を読んでおくこと。
	13	株式会社の機関 (6)	役員等の責任、株主の差止請求権、株主代表訴訟、多重代表訴訟。	教科書第 p. 127~p. 146 を読んでおくこと。
	14	計算、定款の変更	会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰余金の配当、定款の変更。	教科書 p. 147~p. 160 を読んでおくこと。
	15	解散、清算、会社法 I まとめ	解散原因、解散の効果、通常清算、特別清算、会社法 I 総括。	教科書 p. 160~p. 164 を読んでおくこと。

関連科目	会社法 II、民法、企業論、企業簿記。
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新会社法の基礎 (第3版)	加藤徹・相原隆・伊勢田道仁編	法律文化社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する (80%)。その他講義中の発言なども加味する (20%)。
学生へのメッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。
担当者の研究室等	11号館6階 法学部
備考	授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.ij4u.or.jp まで、件名に科目名を入れて送信すること。

科目名	会社法Ⅱ	科目名(英文)	Corporate Law II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	会社法Ⅱでは、会社法Ⅰで習得した知識をもとに、組織再編を中心に会社法の講義を行います。株式会社の合併・分割・事業譲渡について、その基本的な制度および概念を理解することに主眼を置き、理解しやすいように具体例を示しながら解説します。もちろん、法律科目であるから、条文についても適宜参照し、理解を深めることができるように説明を行います。
到達目標	株式会社の機関についての理解を前提として、具体的な会社再編の方法・手続・問題点などを理解する。 そのうえで、実際の会社再編事例を分析・検討し、理解する。 その際には、必ず、条文を参照すること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果(資格)	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験(法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など)の対策となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。会社法の概要。	教科書 p. 1～p. 5 を読んでおくこと。
2	会社法Ⅰまとめ(1)	会社法総論、株式会社の設立について、会社法Ⅰのまとめ。	教科書 p. 5～p. 36 を読んでおくこと。
3	会社法Ⅰまとめ(2)	株式、新株予約権について、会社法Ⅰのまとめ。	教科書 p. 37～p. 66 を読んでおくこと。
4	会社法Ⅰまとめ(3)	株式会社の機関、計算について、会社法Ⅰのまとめ。	教科書 p. 66～p. 164 を読んでおくこと。
5	持分会社	持分会社の設立、社員、計算等。	教科書 p. 165～p. 183 を読んでおくこと。
6	社債	社債の種類、社債の発行、社債権者の権利、社債権者集会。	教科書 p. 184～p. 194 を読んでおくこと。
7	組織再編(1)	組織再編総説	事前に配布する補足資料を読んでおくこと。
8	組織再編(2)	合併の手続き、簡易合併、合併無効の訴え、合併対価の柔軟化。	教科書 p. 195～p. 206 を読んでおくこと。
9	組織再編(3)	会社分割の意義、吸収分割と新設分割、分割手続、会社分割無効の訴え。	教科書 p. 207～p. 213 を読んでおくこと。
10	組織再編(4)	株式交換の意義、手続、株式交換の無効の訴え。	教科書 p. 213～p. 216 を読んでおくこと。
11	組織再編(5)	株式移転の意義、手続、株式移転の無効の訴え。	前回の授業の復習をしておくこと。
12	組織再編(6)	事業譲渡・事業の譲受け	教科書 p. 216～p. 219 を読んでおくこと。
13	組織再編(7)	組織変更の意義、株式会社から持分会社への組織変更、持分会社から株式会社への組織変更。	教科書 p. 219～p. 221 を読んでおくこと。
14	外国会社・雑則	外国会社、会社の解散命令、公告。	教科書 p. 222～p. 230 を読んでおくこと。
15	会社法Ⅱまとめ	会社法Ⅱ総括	会社法Ⅱで学習したことを見直しておくこと。

関連科目	会社法Ⅰ、民法、企業論、企業簿記。
------	-------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新会社法の基礎(第3版)	加藤徹・相原隆・伊勢田道仁編	法律文化社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する(80%)。 その他講義中の発言も加味する(20%)。
学生へのメッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。
担当者の研究室等	11号館6階 法学部
備考	授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.ii.j4u.or.jp まで、件名に科目名を入れて送信すること。

科目名	環境と経営	科目名(英文)	Environmental Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井上 尚之
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	日本における環境経営を歴史的に辿ると、「環境経営」⇒「CSR経営」⇒「サステナビリティ経営」という系譜である。本講義では、この歴史的流れを追うと共に、サステナビリティ経営とは何かを探る。
到達目標	サステナビリティ経営に関して自分なりの意見が言え、プレゼンテーションするレベルを目指す。
授業方法と留意点	授業中に教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う双方向の授業を目指す。
科目学習の効果(資格)	サステナビリティ経営を学ぶことによって、経営の基礎及び企業のCSR部門における必須知識の獲得を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第1回 日米の環境政策の歴史	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
2	第2回 日本における環境経営の本格開始—ISO14001:1996発行	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する
3	第3回 トヨタの環境経営	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する
4	第4回 3Rからゼロエミッションへ	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する
5	第5回 環境経営とサステナビリティ経営の相違	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する
6	第6回 社会的な影響に配慮するとはどういうことか—トリプルボトムラインの登場	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する
7	第7回 2003年は日本のCSR元年	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する
8	第8回 ISO26000とサステナビリティ経営—CSRの国際規格ISO26000の発行	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する
9	第9回 ISO26000の社会的責任を果たすための7つの原則	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する
10	第10回 社会的責任の7つの中核主題	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する
11	第11回 組織にとってのISO26000を順守するメリットは何か?	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する
12	第12回 ISO26000の具体例	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する
13	第13回 中小企業にISO26000を広め、定着させる企業市民制度	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する
14	第14回 GRIとは何か?	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する
15	第15回 国連主導のCSR—SDGs	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する

関連科目	環境マネジメントシステムⅠ、環境マネジメントシステムⅡ
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	サステナビリティ経営	井上尚之	大阪公立大学共同出版会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	積極的授業参加と発表が45%、定期試験が55%
学生へのメッセージ	サステナビリティ経営・環境経営は今や企業の常識となっています。この講義で環境経営の概要を知ることが重要です。
担当者の研究室等	
備考	



科目名	環境マネジメントシステム I	科目名 (英文)	Environmental Management System
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井上 尚之
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	日本の主要企業の4万社が国際環境マネジメント規格 ISO14001 を認証取得している。この数は中国の7万社に次ぐ世界第2位である。ISO14001 は、2015 年に大幅に改訂された。本講義では、この改訂された ISO14001:2015 の内容を具体例を多用しながら学習する。講師が作成した『環境マニュアル』を読み解きながら講義を進める。
到達目標	環境マネジメントとは何かを知り、ISO14001:2015 の概要をプレゼンできる能力を養う。
授業方法と留意点	学生に教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業を目指す。
科目学習の効果 (資格)	企業における環境管理部に配属されても対応できる効果が期待できる

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ISO14001 の歴史	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
2	ISO14001 の構成・認証登録	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
3	4 組織の状況 4.1 組織及びその状況の理解 4.2 利害関係者のニーズ及び期待 4.3 環境マネジメントシステムの適用範囲の決定	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
4	5 リーダーシップ 5.1 リーダーシップ及びコミットメント 5.2 環境方針 5.3 組織の役割、責任及び権限	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
5	6 計画 6.1 リスク及び機会への取組み 6.1.1 一般 6.1.2 環境側面 6.1.3 順守義務 6.1.4 取組の計画策定	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
6	6.2 環境目標及びそれを達成するための計画策定 6.2.1 環境目標 6.2.2 環境目標を達成するための取組みの計画策定	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
7	7 支援 7.1 資源 7.2 力量 7.3 認識	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
8	7.4 コミュニケーション 7.4.1 一般 7.4.2 内部コミュニケーション 7.4.3 外部コミュニケーション	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
9	7.5 文書化した情報 7.5.1 一般 7.5.2 作成及び更新 7.5.3 文書化した情報の管理	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
10	8 運用 8.1 運用の計画及び管理 8.2 緊急事態への準備及び対応	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
11	9 パフォーマンス評価 9.1 監視、測定、分析及び評価 9.1.1 一般 9.1.2 順守評価	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
12	9.2 内部監査 9.2.1 一般 9.2.2 内部監査プログラム	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
13	9.3 マネジメントレビュー	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
14	10 改善 10.1 一般 10.2 不適合及び是正処置	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。

	10.3 継続的改善		
15	マニフェストとは何か?	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
関連科目	環境と経営、環境マネジメントシステムⅡ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	サステナビリティ経営	井上尚之
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	積極的授業参加度・発表45%、試験55%		
学生への メッセージ	国際環境マネジメント規格 ISO14001 はもはや世界の常識です。この規格のポイントである PDCA サイクルは全ての学習に有用な方法ですので確実にマスターしてください。		
担当者の 研究室等			
備考			

科目名	環境マネジメントシステムⅡ	科目名(英文)	Environmental Management System
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井上 尚之
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	前期で学習した「環境マネジメントシステムⅠ」で得た知識をベースに内部環境監査の方法を学習する。「環境マネジメントシステムⅠ」の知識が必須である。よって「環境マネジメントシステムⅠ」を履修していない者は「環境マネジメントシステムⅡ」の履修は困難であるので注意すること。
到達目標	企業における内部環境監査に参加できるレベルのスキルを身に付ける。
授業方法と留意点	学生に教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業を目指す。
科目学習の効果(資格)	企業における内部環境監査に参加できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	4 組織の状況 4.1 組織及びその状況の理解 4.2 利害関係者のニーズ及び期待 4.3 環境マネジメントシステムの適用範囲の決定 以上の箇条の監査	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
2	5 リーダーシップ 5.1 リーダーシップ及びコミットメント 5.2 環境方針 5.3 組織の役割、責任及び権限 以上の箇条の内部監査	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
3	6 計画 6.1 リスク及び機会への取組み 6.1.1 一般 6.1.2 環境側面 6.1.3 順守義務 6.1.4 取組の計画策定 以上の箇条の内部監査	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
4	6.2 環境目標及びそれを達成するための計画策定 6.2.1 環境目標 6.2.2 環境目標を達成するための取組みの計画策定 以上の箇条の内部監査	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
5	7 支援 7.1 資源 7.2 力量 7.3 認識 以上の箇条の内部監査	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
6	7.4 コミュニケーション 7.4.1 一般 7.4.2 内部コミュニケーション 7.4.3 外部コミュニケーション 以上の箇条の内部監査	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
7	7.5 文書化した情報 7.5.1 一般 7.5.2 作成及び更新 7.5.3 文書化した情報の管理 以上の箇条の内部監査	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
8	8 運用 8.1 運用の計画及び管理 8.2 緊急事態への準備及び対応 以上の箇条の内部監査	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
9	9 パフォーマンス評価 9.1 監視、測定、分析及び評価 9.1.1 一般 9.1.2 順守評価 以上の箇条の内部監査	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
10	9.2 内部監査 9.2.1 一般 9.2.2 内部監査プログラム 以上の箇条の内部監査	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。

	11	9.3 マネジメントレビュー 以上の箇条の内部監査	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。																
	12	10 改善 10.1 一般 10.2 不適合及び是正処置 10.3 継続的改善 以上の箇条の内部監査	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。																
	13	10 改善 10.1 一般 10.2 不適合及び是正処置 10.3 継続的改善 以上の箇条の内部監査	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。																
	14	リスクと機会の抽出方法－ SWOT分析	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。																
	15	企業における ISO14001 の例	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。																
関連科目	環境と経営、環境マネジメントシステム I																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>サステナビリティ経営</td> <td>井上尚之</td> <td>大阪公立大学共同出版会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	サステナビリティ経営	井上尚之	大阪公立大学共同出版会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	サステナビリティ経営	井上尚之	大阪公立大学共同出版会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	積極的授業参加度・発表45%、試験55%																			
学生への メッセージ	「環境マネジメントシステム I」を履修しておくこと。																			
担当者の 研究室等																				
備考																				

科目名	監査論	科目名(英文)	Auditing
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	仲 秀樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	当授業では、監査の中でも企業会計の監査である財務諸表監査を中心に講義する。監査の本質を理解するために、監査の意義・種類について解説し、監査の基本的概念について検討したい。また実際の財務諸表監査とは、いかなる証拠を収集し、評価するのかなど、監査人の具体的な手続についても見ていくことにする。
到達目標	財務諸表監査の限界と有用性を理解し、受講生が将来、財務諸表を活用するときの勘所を獲得することを目標とする。
授業方法と留意点	教科書にもとづいた講義方式。監査について受講生はイメージを描きにくいと思われるので、具体例を交えながら平易な講義を心がけたい。
科目学習の効果(資格)	監査論の基礎知識を得ることにより、公認会計士試験の初歩的な知識を獲得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	監査のフレームワーク(1)	監査とは何か、監査がなぜ必要とされるのか。その意義について検討する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
2	監査のフレームワーク(2)	監査の生成要因と監査の種類について解説する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
3	監査のフレームワーク(3)	財務諸表監査の特質と監査の経済的機能について説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
4	監査制度のフレームワーク	アメリカにおける監査基準の生成と展開を概説し、わが国の商法監査制度および証券取引法監査制度について説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
5	監査規範の意義とわが国の監査基準(1)	監査規範の意義と体系について解説する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
6	監査規範の意義とわが国の監査基準(2)	監査基準の生成と展開について解説する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
7	監査規範の意義とわが国の監査基準(3)	監査基準における一般基準、実施基準、報告基準について概説する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
8	監査意見形成のプロセス(1)	監査意見形成のプロセスはどのような論理に支えられているか、を説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
9	監査意見形成のプロセス(2)	財務諸表監査における経営者の主張と監査要点について考える。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
10	監査意見形成のプロセス(3)	監査手続と監査技術の関係、および監査技術の詳細につき講義する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
11	リスク・アプローチと監査戦略	リスク・アプローチの意義と監査リスクの構成要素について説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
12	リスク評価、実証手続および監査の完了	固有リスクの評価と統制リスクの評価について講義する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
13	監査報告書と情報提供機能	監査業務の最終成果物である監査報告書について、その意義と機能、利害関係者にとっての意味や監査報告書の利用方法について説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
14	総論	現在の会計監査の重要性とその将来性について検討する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
15	おわりに	講義のまとめ	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する

関連科目 会計関連科目、とくに財務会計論や簿記を履修していることが望ましい。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ベーシック監査論(七訂版)	伊豫田隆俊、松本祥尚、林隆敏	同文館出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 評価方法は定期試験が80%、レポートが20%として評価する。

学生へのメッセージ 講義中の私語は厳禁。質問は大歓迎です。学生の講義の理解度に応じて講義内容を変更する場合があります。

担当者の研究室等 11号館6階(経営学部事務室)

備考

科目名	管理会計論 I	科目名 (英文)	Management Accounting I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	三木 僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	管理会計は、企業内部の経営管理者が適切な意思決定や業績管理を行う上で役に立つ会計情報の提供を目的とする会計領域である。本講義では、管理会計とは何かについて学んだ上で、標準原価計算や予算管理など伝統的な管理会計の諸技法について学んでいく。
到達目標	① 管理会計の役割・意義について理解する。 ② 標準原価計算や予算管理などの伝統的な管理会計の諸技法について理解する。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。また、受講者の理解度を高めるため、授業の最後に毎回小テストを行う予定である。 教科書を用いて授業を行うが、必要に応じて適宜補助プリントを配布する。
科目学習の効果 (資格)	日商簿記検定 2 級以上や公認会計士試験の受験のための基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業内容、授業の進め方、評価基準等についての説明	-----
2	管理会計の意義 (1)	企業会計とは何か、財務会計と管理会計の相違	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30 分)。
3	管理会計の意義 (2)	管理会計の体系 (業績管理会計と意思決定会計)	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30 分)。
4	標準原価計算 (1)	原価管理の意味、標準原価計算の意義と目的、標準原価の種類	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30 分)。
5	標準原価計算 (2)	原価標準の設定、原価差異の分析 (直接材料費、直接労務費)	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30 分)。
6	標準原価計算 (3)	原価差異の分析 (製造間接費)	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30 分)。
7	損益分岐点分析	損益分岐点分析の意義、損益分岐点の計算方法、原価の固定分解	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30 分)。
8	直接原価計算	直接原価計算の意義、直接原価計算の計算構造、直接原価計算と経営管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30 分)。
9	予算管理 (1)	予算管理の意義、予算管理の機能	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30 分)。
10	予算管理 (2)	予算の種類と体系、予算の編成、参加的予算管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30 分)。
11	予算管理 (3)	予算統制、予算管理の新しい展開	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30 分)。
12	意思決定会計 (1)	経営意思決定の意義と分類、経営意思決定のプロセス、特殊原価概念	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30 分)。
13	意思決定会計 (2)	業務執行的意思決定と差額原価収益分析	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30 分)。
14	意思決定会計 (3)	戦略的意思決定の必要性、設備投資の経済性計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30 分)。
15	まとめ	授業全体のまとめ	事前：今までやった内容を復習する (60 分)。 事後：特に苦手な部分の復習をする (60 分)。

関連科目	工業簿記、財務会計論など
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	原価・管理会計の基礎	山田庫平ほか	中央経済社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法 (基準)	定期試験の点数 (70 点) と毎回の授業で行う小テストの合計点数 (30 点) に基づいて評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業中の私語は周りの受講生の迷惑になりますので慎んで下さい。また、講義の内容で分からないところがあれば、遠慮なく質問して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	11 号館 7 階 (三木准教授室)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	管理会計論Ⅱ	科目名(英文)	Management AccountingⅡ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	三木 僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	管理会計は、企業内部の経営管理者が適切な意思決定や業績管理を行う上で役に立つ会計情報の提供を目的とする会計領域である。本講義では、管理会計の基礎的事項を理解していることを前提にして、1980年代後半から登場してきた戦略管理会計と呼ばれる新しい管理会計の領域について学習していく。
到達目標	① 標準原価計算など伝統的な管理会計技法の限界について理解する。 ② 経営戦略の策定や実行のための管理会計技法について理解する。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。また、受講者の理解度を知るため、毎回小テスト行う予定である。教科書を用いて授業を行うが、必要に応じて適宜補助プリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	日商簿記検定1級以上や公認会計士試験の受験のための基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業内容、授業の進め方、評価基準等の説明	—————
2	原価企画(1)	原価企画生成の背景	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
3	原価企画(2)	原価企画の目的と特徴	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
4	原価企画(3)	原価企画の手続、目標原価の設定方法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
5	原価企画(4)	VEによる原価低減	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
6	原価企画(5)	原価見積による設計代替案に対する経済性の評価、マイルストーン管理、原価企画の課題	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
7	ABC(1)	ABC生成の背景、ABCの意義	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
8	ABC(2)	ABCの基礎概念、ABCの計算構造	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
9	ABC(3)	ABMの意義、活動分析、原価作用因分析、業績分析	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
10	ABC(4)	ABBの意義、ABBにおける予算編成プロセス	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
11	バランスト・スコアカード(1)	バランスト・スコアカードの意義、バランスト・スコアカードの基本構造	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
12	バランスト・スコアカード(2)	因果連鎖、戦略マップ	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
13	バランスト・スコアカード(3)	バランスト・スコアカードによる戦略のコントロール、報酬制度との結合	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
14	ライフサイクル・コストイング	ライフサイクル・コストイングの意義、ライフサイクル・コストの分類、ライフサイクル・コストのトレード・オフ関係	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
15	まとめ	授業全体のまとめ	事前：今までやった内容を復習する(60分)。 事後：特に苦手な部分を復習する(60分)。

関連科目 工業簿記、財務会計論など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	原価・管理会計の基礎	山田庫平ほか	中央経済社
2				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法(基準) 定期試験の点数(70点)と毎回の授業で行う小テストの合計点数(30点)に基づいて評価する。

学生へのメッセージ 授業中の私語は周りの受講生の迷惑になりますので慎んで下さい。また、講義の内容で分からないところがあれば、遠慮なく質問して下さい。

担当者の研究室等 11号館7階(三木准教授室)

備考

科目名	企業金融論	科目名(英文)	Corporate Finance
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義の目的は、ファイナンスⅠの知識をもとに、初歩的な実践力の修得にある。まずは「お金の時間価値」の復習から始め、「お金を借りる・返す」、「資産運用」について、可能な限り実践に則した事例や考え方について解説する。
到達目標	お金を借り返すこと、資産運用の心得が分かること。

授業方法と留意点	授業は教科書と配布資料を用い、講義形式と演習形式を併用して進める。できうる限り学生と対話しながら進めるので、恐れず恥ずかしがらずに参加して欲しい。また、本講義の内容は極めて積み重ねの性質が強いため、休んだり分からないことがあると、のちの講義についてゆくのが難しくなる。出席状況は加減点の対象ではないが、可能な限り出席し、もしも欠席した場合には、出席者から情報収集を行うこと。さらに、疑問点があれば遠慮なく教員に質問すること。
----------	--

科目学習の効果(資格)	FP資格の基礎知識が身につく。資産形成・運用に関する初歩的な能力が身につく。
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	ファイナンスⅡで学ぶこと	特になし
	2	お金の時間価値	機会費用、複利の効果、将来価値と現在価値	第2章を読んでおくこと。復習も行うこと。
	3	資産と信用の管理	ライフイベントと金融商品、家計のバランスシート	第6章を読んでおくこと。復習も行うこと。
	4	住宅購入を考える	持ち家と賃貸住宅、持ち家の資金計画	第7,8章を読んでおくこと。復習のこと。
	5	資産運用の基礎知識(1)	不確実性とリスク、リスク指標、資産価格	配布資料を元に復習のこと。
	6	資産運用の基礎知識(2)	現代ポートフォリオ理論	配布資料を元に復習のこと。
	7	資産運用の基礎知識(3)	理論の限界、より実践へ	配布資料を元に復習のこと。
	8	情報源と銘柄選び	情報収集の仕方	配布資料を元に復習のこと。
	9	株式投資(1)	日本の株式市場、投資とトレード	配布資料を元に復習のこと。
	10	株式投資(2)	資金管理	配布資料を元に復習のこと。
	11	株式投資(3)	リスク管理	配布資料を元に復習のこと。
	12	株式投資(4)	エッジについて	配布資料を元に復習のこと。
	13	株式投資(5)	理論的根拠	配布資料を元に復習のこと。
	14	株式投資(6)	分析手法	配布資料を元に復習のこと。
	15	再考:資産運用	富裕層の資産運用、老後資金の計画	第15,16章を読んでおくこと。復習のこと。

関連科目	経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学、コーポレートファイナンスⅠ,Ⅱ,
------	--------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	パーソナルファイナンス入門	榊原茂樹・城下賢吾・姜喜永・砂川伸幸	中央経済社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末試験(60%)、レポート5回(40%)を基に評価する。詳しくは初回講義時に述べる。
----------	---

学生へのメッセージ	企業は即戦力を求めている。単位を稼ぐための受動的な受講ではなく、学ぶための能動的な受講姿勢を希望する。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館8階(岩坪教授室)
----------	---------------

備考	
----	--



科目名	企業分析（経営戦略ケース分析）	科目名（英文）	Analysis of Strategic Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北 真収
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	企業戦略の基本についてケース分析を通じて学ぶことに主眼を置いています。有形資源だけでなく無形資源の重要性に言及しながら講義を進めます。
到達目標	経営資源を前提として、中長期的に、どの事業に、どの程度、資源を配分すべきなのか。こうした基本的枠組み（フレームワーク）や関係する経営知識を組み合わせて課題を深く考えられることが目標です。
授業方法と留意点	事例を分析しながら経営知識を講義します。特に、学習課題については発言を求めて理解を促進します。
科目学習の効果（資格）	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	シラバスを事前に読んでおくこと
	2	統合、分化の動機	価値連鎖などについて説明します	コンビニの一連の業務をイメージすること
	3	内製か購買か	デジタル化とモジュール部品などについて説明します	組み立てブロック玩具のレゴの特徴を考えておくこと
	4	グループワーク（価値連鎖）	価値連鎖に関するビデオを視聴した後、グループワークを行います	価値連鎖の内容を復習しておくこと
	5	多角化のタイプ、動機	成長ベクトルなどについて説明します	なぜ、大企業は多角化するのか
	6	資源配分とPPM	PPMについて説明します	PPMをExcelで作図できるようになること
	7	M&A	メリットとデメリットについて説明します	銀行、石油、鉄鋼など大企業同士の合併がなぜ行われるのか
	8	買収後のマネジメント	統合アプローチについて説明します	買収された企業の従業員はモチベーションが下がらないのか
	9	技術変化	普及モデルなどについて説明します	携帯電話とテレビの普及速度はなぜ違うのか
	10	転換・移行の遅れ	組織慣性などについて説明します	なぜ、コダック社は経営破綻したのか
	11	ターンアラウンド	縮小と回復について説明します	再生は雇用リストラが避けられないのか
	12	持続的競争優位	主要成功要因などについて説明します	コンビニの主要成功要因は何だろうか
	13	ビジネスモデル	ロングテールモデルなどについて説明します	アマゾンのビジネスモデルについて考えておくこと
	14	戦略の実行	クロスファンクショナル・チームなどについて説明します	戦略は計画よりも実行が重要か
	15	まとめ	学んできた内容の要約と補足を行います	これまでの学習内容を復習しておくこと

関連科目	経営組織論、経営管理論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストブック 経営戦略	北 真収	岡山大学出版会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	期末試験60%、課題レポートなど40%で評価します。
----------	----------------------------

学生へのメッセージ	事例を使って経営知識を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	11号館8階 北 真収 研究室（相談時は事前に連絡してください）
----------	----------------------------------

備考	
----	--

科目名	企業分析（経営組織ケース分析）	科目名（英文）	Analysis of Organizational Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	<p><b>【目的】</b> 企業の経済的・社会的な役割を認識し、「ヒト・モノ・カネ・情報」などの経営資源をどのように活用し、社会の発展に貢献しているのか等、企業の実態を理解する。</p> <p><b>【概要】</b> 本講義は、これまで学んできた専門的な知識を再確認し、かつ、実際の企業活動の実態に触れることによって、より深く企業&lt;会社&gt;について理解できるように、実務家の方々をお招きして行われるリレー式の講義である。多忙な実務家を講師として招いて講義いただくことを強く認識すること。遅刻、居眠り、スマホ操作等は厳禁である。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上場企業トップの経営理念および経営管理を理解する</li> <li>2. 企業における人的資源管理、労務管理を理解する</li> <li>3. 企業における人材育成、リーダーシップ、マーケティングを理解する</li> <li>4. ベンチャー企業のチャレンジ精神を理解する</li> </ol>
授業方法と留意点	<p>本講義は、企業経営に携わっている経営者、企業労務の対応を仕事とされている実務家等をお招きし、具体的な事例を通して、企業分析のための実践的な知識を得ることを目的としたリレー式の講義である。学外から来られた先生方に失礼な態度や行為があった場合、退室を命ずる場合がある。</p> <p>また、講師の都合によって講義内容の順序を変更する場合がある。</p>
科目学習の効果（資格）	組織の管理と運営に関する具体的な課題と企業の抱える現実的問題を学ぶことができ、就職活動の参考になることが期待される。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	マーケティング	マーケティングの基本 STP について学びます。(久保田先生)	新聞をよく読み、企業を取り巻く社会や経済・産業の動向について関心を深めよう。
3	新事業開発 1	経営資源がない中、どのようにしてベンチャー企業が基板試作事業の開発の経営判断を行ったのかについて学びます。(北山先生)	新聞をよく読み、企業を取り巻く社会や経済・産業の動向について関心を深めよう。
4	キャリアを見据えた企業分析の必要性と手法について	リクナビ副編集長による学生の就職活動と企業の採用活動、およびこれからのリクルートにおけるビジネスについて学習する。(山下先生)	新聞をよく読み、時代の変化に対する企業の在り方を考える。
5	企業の労務管理 1	企業で行っている労務管理や、実際に発生している労務問題を取り上げ、働き方や労働関係法令について学びます。(小西先生)	新聞をよく読み、今日の企業が抱えている労務問題を取り上げて考えてみよう。
6	企業の労務管理 2	企業で行っている労務管理や、実際に発生している労務問題を取り上げ、働き方や労働関係法令について学びます。(小西先生)	新聞をよく読み、今日の企業が抱えている労務問題を取り上げて考えてみよう。
7	企業で必要なロジカルシンキング	戦略フレームワークの基礎となる論理思考について学びます。(久保田先生)	新聞をよく読み、企業を取り巻く社会や経済・産業の動向について関心を深めよう。
8	新事業開発 2	ニッチ市場を見出し、どのようにしてBtoC かつ自社商品の基板アート雑貨の開発を行うに至ったのかについて学びます。(北山先生)	新聞をよく読み、企業を取り巻く社会や経済・産業の動向について関心を深めよう。
9	労務問題事例と企業の見方	労務問題事例から企業の特徴がどのように分かるのかについて学びます。(小西先生)	新聞をよく読み、今日の企業が抱えている労務問題を取り上げて考えてみよう。
10	企業の人事評価事例と企業の人材ポリシー	企業で人事評価はどのように構築・運用され、どのような効果が期待されているか等について学びます。(小西先生)	人的資源管理論で学習した人事評価制度および賃金制度を復習して講義に臨むこと。
11	マネジメントとリーダーシップ	マネジメントとリーダーシップの違いについて、講師が経験した事例を交えながら学びます。(久保田先生)	新聞をよく読み、企業で求められるリーダーシップやマネジメントについて調べてみよう。
12	企業の人材育成 1	研修会社を設立した講師から、企業ではどのような人材育成を行っているのかについて学習する (久保田)	新聞をよく読み、企業の研修制度について調べてみよう。
13	経営トップの役割と経営管理	経営者の思想や行動様式を理解し、トップリーダーの取るべき役割と組織管理について学びます。(安田先生)	新聞をよく読み、企業のトップの発言内容やその背景について考えてみよう。
14	経営トップが考える従業員満足と顧客満足	従業員満足と顧客満足を向上させるために企業のトップとしての役割について学びます。(安田先生)	これまで学習したリーダーシップ理論を復習して講義に臨むこと。
15	授業のまとめ	これまでの講義をどのように今後のキャリアに役立てるのかグループワークを行います。	これまでの資料を事前に目を通しておくこと。

関連科目 企業経営コースのすべての科目と関係する。特に、組織論や人的資源管理論との関係が深い。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	リレー式の講義であり、毎回小レポート課題が課せられます。レポート評価点を合計して、成績を判定します。したがって、期末試験は実施しません。13回のレポートは各8点満点で評価し、その点数を100点換算して成績評価します。必然的に、いかなる理由でも欠席は8点のマイナスとなります。			
学生への メッセージ	講師の先生は実務家です。本講義をビジネスの現場として捉え、遅刻、私語、居眠り、途中の入退室、スマホ操作を厳禁とする。決してマナーに反しないように心掛けてください。出席管理システムのデータは成績評価に用いないが、必ず学生証でチェックすること。			
担当者の 研究室等	11号館8階 西之坊研究室			
備考				

科目名	企業分析（コーポレートガバナンス）	科目名（英文）	Analysis of Corporate Governance
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>学ぶのは、企業ビジネスにおける「潮流(トレンド)」です。2015年6月、全ての上場企業に対し、コーポレートガバナンス（企業統治）・コードが適用されました。この授業では、コーポレートガバナンスに関する最新の「潮流」を実践的に学びます。</li> <li>主な学習テーマは、以下のとおりです。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①コーポレートガバナンスとは何か？ 経営学部の学生にとって、なぜそれを学ぶことが必要なのか？</li> <li>②いま、なぜコーポレートガバナンスが必要なのか？ 現在、それは社会的にどのような「潮流」になっているのか？</li> <li>③なぜ、上場企業に対し、コーポレートガバナンス・コードが適用されなければならないのか？</li> <li>④コーポレートガバナンス、内部統制、コンプライアンス、リスクマネジメント、企業倫理、CSR・・・、それぞれ何が違い、また何が同じなのか？</li> <li>⑤コーポレートガバナンスをビジネス戦略や企業の持続的成長に結び付けるためには、どうすれば良いのか？</li> </ol> </li> </ul>
---------	---

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。</li> <li>・コーポレートガバナンスにおける現在の「潮流」事例について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。</li> <li>・その到達目標をクリアできているか確認するため、毎回の授業においてケースメソッドによる個人作業、グループワーク、プレゼン、質疑応答等を実施し、その到達度合いを一人一人判定します。</li> </ul>
------	---

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①コーポレートガバナンスにおける現在の「潮流」について、毎回ショートケースメソッド（仮想企業による事例分析）を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。</li> <li>②毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学びます。</li> <li>③グループメンバー、役割分担は定期的に交替し、自分の考えを主張するとともに、他人の考え方との違いを体感します。</li> </ol> </li> <li>・なお、授業ではスマホ等を使ったキーワード検索等があります。スマホ等は必ず持参下さい。</li> </ul>
----------	---

科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。</li> </ul>
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目標とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します	<p>&lt;予習&gt; テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように。</p> <p>&lt;復習&gt; 授業の最後に必ず「本日のポイント」を説明します。その内容について、しっかり復習して下さい。</p>
	2	ケースメソッドで考えるコーポレートガバナンス①	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード①～コーポレートガバナンス・コードとは？～	同上
	3	同上②	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード②～公開会社とは？～	同上
	4	同上③	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード③～モニタリングモデルとは？～	同上
	5	同上④	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード④～独立社外取締役とは？～	同上
	6	同上⑤	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード⑤～監査等委員会設置会社とは？～	同上
	7	同上⑥	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード⑥～政策保有株式とは？～	同上
	8	同上⑦	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード⑦～エンゲージメントとは？～	同上
	9	同上⑧	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード⑧～スチュワードシップコードとは？～	同上
	10	同上⑨	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード⑨～ROEとは？～	同上
	11	同上⑩	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード⑩～ショートターミズムとは？～	同上
	12	同上⑪	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード⑪～株主以外のステークホルダーとは？～	同上
	13	同上⑫	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード⑫～サクセッションプランとは？～	同上
	14	同上⑬	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード⑬	同上

		～グループ内部統制とは？～	
	15 同上⑩	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード⑩ ～Comply or Explain とは？～	同上
関連科目	企業論		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	オリジナル作成のテキストを使用予定です	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	変わるコーポレートガバナンス	森・濱田松本法律事務所編 日本経済新聞出版社
	2		
	3		
評価方法 (基準)	①グループワークへの貢献度(役割分担、個人作業、発言内容等) (35%) ②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力 (15%) ③プレゼン力および質疑応答対応力 (15%) ④毎回の授業における理解度チェック小テスト(30%) ⑤定期試験(論述式) (5%) による総合評価。 ただし、①～④は、毎回の授業の都度採点し、集計します。		
学生への メッセージ	・35年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッション しましょう！ ・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。		
担当者の 研究室等	11号館7階 大田住吉研究室		
備考	理解度チェック小テストの結果については、授業の中で適宜フィードバックします。		

科目名	企業分析（財務戦略ケース分析）	科目名（英文）	Analysis of Financial Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	企業は生まれてから消滅するまで会計情報を生み出す存在であり、会計情報を読み取ることで企業活動を理解することができる。本講座の目的は、経営分析論の基本知識を前提に、企業活動を記録した会計情報、主に、損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書という財務3表を用いて、利益を生み出す企業の経営戦略について理解し、分析・評価することである。
到達目標	会計情報から利益を創出する企業の経営戦略を読み取り、投資家として企業活動を分析・評価することができる。
授業方法と留意点	①貸借対照表、②損益計算書、③キャッシュフロー計算書、の3つのテーマに分けて講義を進める。各テーマは事例を用いたディスカッションを中心に講義を行うため、学生の参加が必要である。ディスカッションへの参加（発言）は成績評価に反映する。また講義では簡単なアサインメントが与えられ、グループで議論し、レポート等を作成してもらう。レポートの内容は報告資料として活用する。報告は、グループ全員の評価となるので、積極的に参加することが望ましい。留意点として、欠席はグループ全員の学習効果を下げることになるため、4回以上の欠席については成績評価の対象から外す。
科目学習の効果（資格）	中小企業診断士、証券アナリスト、ファイナンシャルプランナー、簿記検定など、会計関連資格取得に必要な基礎知識を提供する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	企業活動と財務3表との関係について理解する。	配布資料と講義計画を読み、講義全体の構成を把握する。
2	資本市場と情報開示	株式会社と資本市場との関係について理解する。また、EDINETを用いて企業の財務諸表を入手する。	指定企業の財務3表を入手する。
3	損益計算書と利益	営業利益を生み出す企業活動について理解する。産業別損益計算書の特徴について把握する。	原価率が高い産業と低い産業を予想し、各産業に属する企業の損益計算書を入手する。
4	損益計算書と利益率	利益と利益率の関係を理解し、利益と利益率が高い産業について議論する。	利益率は低い、利益が高い企業を予想し、企業の損益計算書を入手する。
5	グループワーク①	産業代表企業の損益計算書を用いて、産業別利益の特徴について議論する。	グループ内で特定産業を選定し、産業代表企業の損益計算書を入手、利益マップを作成する。
6	報告①	産業別企業利益の特徴について報告する。	グループ内で、産業別利益の特徴について推測する。
7	貸借対照表と負債	企業の資金調達について理解する。	前回選定企業の貸借対照表を入手する。
8	貸借対照表と資産	企業経営の準備物について理解する。	百分率貸借対照表を作成する。
9	グループワーク②	企業の経営準備物と資金調達の状況について議論する。	同産業に属する企業3社を選定し、企業の比例縮尺貸借対照表と百分率貸借対照表を作成する。
10	報告②	産業別企業の資産構成と資金調達の状況について報告する。	産業別資産構成と資金調達の特徴について推測する。
11	キャッシュフロー計算書と経営戦略①	3つの活動によるキャッシュフローについて理解する。	産業別キャッシュフローのパターンについて予測する。
12	キャッシュフロー計算書と経営戦略②	財務諸表から読み取れる経営戦略について議論する。	利益が高い企業2社を選定し、キャッシュフロー計算書を入手する。
13	グループワーク③	成長企業のキャッシュフローについて議論する。	選定企業2社のキャッシュフローのパターンを把握し、グラフを作成する。
14	報告③	キャッシュフロー計算書から企業の成長パターンと経営戦略について報告する。	財務3表から、企業別経営戦略について推測する。
15	まとめ	講義のまとめ	講義資料等をまとめる。

関連科目	簿記入門、財務会計論、会計情報分析論、経営財務論など
------	----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス・アカウンティング	山根節・太田康広・村上祐太郎	中央経済社
2	財務諸表分析	桜井久勝	中央経済社	
3	なぜ、会計嫌いのあいつが会社の数字に強くなった？	村上祐太郎	東洋経済新報社	

評価方法（基準）	グループワーク 15%+ディスカッション 15%+報告 30%+定期試験 40%=100% + グループワーク：グループワークを実施し、指定様式のレポートを作成する。 + ディスカッション：毎回の講義、報告およびグループワークにおける発言、参加度などを評価する。 + 報告：3つのテーマについてグループワークを実施した後、報告する。 + 定期試験：グループワーク+レジュメの内容を反映した定期試験を実施する。
----------	--

学生へのメッセージ	企業分析論では、企業の活動を記録した会計情報を用いて、利益につながる企業の財務戦略について理解することを主な目標とする。投資家またはアナリストになる・なったつもりで講義に挑んでほしい。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館7階
----------	--------

備考	講義計画は、学生の進捗度、理解度などを考慮し、一部変更する可能性もある。変更がある場合は、事前にアナウンスする。また、毎回の講義は関連性が高く、テーマごとにグループワークを実施するため、欠席することは学習効果を非常に低下させるだけでなく、他の受講生の迷惑となることに注意してほしい。
----	---

科目名	企業簿記	科目名 (英文)	Book keeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三木 僚祐
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	簿記とは、企業などの経済活動をお金の動きで捉え記録・整理する技術的な手法である。本講義では、簿記の基本的な仕組みから簿記一巡の手続きまでわかりやすく解説し、練習問題を多く解くことによって受講者が容易に理解し、簿記の基礎的能力を身に付けることを目的とする。
到達目標	簿記一巡の手続きを理解し、日商簿記3級試験に合格できる程度の知識を身に付ける。
授業方法と留意点	最初に講義形式で教科書に沿って説明し、練習問題を実際に各自で解いてみる。その後解答を確認しながら解説を行う。必要に応じて配布プリント等で補足説明する。学生の理解度に応じて進行を調整するので、授業計画を変更することがある。
科目学習の効果 (資格)	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	簿記の基礎①	簿記の目的、貸借対照表、損益計算書	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
2	簿記の基礎②	取引と勘定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
3	簿記の基礎③	仕訳と転記	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
4	簿記の基礎④	試算表	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
5	簿記の基礎⑤	決算の意味と手続き	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
6	簿記の基礎⑥	財務諸表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
7	まとめ	第1回から第6回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
8	現金・預金①	現金・現金過不足	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
9	現金・預金②	当座預金・当座借越・小口現金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
10	商品売買	三分法と売上原価の算定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
11	商品有高帳	先入先出法、移動平均法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
12	売掛金・買掛金	売掛金元帳、買掛金元帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
13	貸し倒れと貸倒引当金	貸倒引当金の処理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
14	手形	手形の処理、手形の裏書・割引	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
15	その他の債権・債務①	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
16	その他の債権・債務②	立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券、他店商品券	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
17	有価証券、固定資産	有価証券の購入・売却、固定資産の取得・減価償却・売却	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
18	資本金・引出金、税金	資本金と引出金、税金の記帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
19	まとめ	第8回から第18回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
20	決算①	費用・収益の繰り延べ	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
21	決算②	費用・収益の見越し	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
22	決算③	試算表の作成1	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
23	決算④	試算表の作成2	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
24	決算⑤	精算表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
25	財務諸表の作成①	貸借対照表、損益計算書の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
26	財務諸表の作成②	貸借対照表、損益計算書の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
27	伝票会計	伝票の起票、伝票の集計・管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
28	まとめ	第20回から第27回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
29	日商簿記検定問題①	仕訳、帳簿の問題	事前：教科書の仕訳、帳簿の問題を解く(60分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30分)

	30	日商簿記検定問題②	試算表、精算表の問題	事前：教科書の試算表、精算表の問題を解く(60分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30分)
関連科目	財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 三訂版	渡辺正直 ほか	実教出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期末試験の結果により評価する。			
学生への メッセージ	簿記は借方・貸方などの専門用語があって最初はややこしく感じるかもしれませんが、慣れれば足し算・引き算のみで決して難しいものではありません。基本的な知識をしっかり身に付けて、簿記力を積み上げていきましょう。			
担当者の 研究室等	11号館7階(三木准教授室)			
備考				



科目名	企業簿記	科目名 (英文)	Book keeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	F G H J K
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	簿記とは、企業などの経済活動をお金の動きで捉え記録・整理する技術的な手法である。本講義では、簿記の基本的な仕組みから簿記一巡の手続きまでわかりやすく解説し、練習問題を多く解くことによって受講者が容易に理解し、簿記の基礎的能力を身に付けることを目的とする。
到達目標	簿記一巡の手続きを理解し、日商簿記3級試験に合格できる程度の知識を身に付ける。
授業方法と留意点	最初に講義形式で教科書に沿って説明し、練習問題を実際に各自で解いてみる。その後解答を確認しながら解説を行う。必要に応じて配布プリント等で補足説明する。学生の理解度に応じて進行を調整するので、授業計画を変更することがある。
科目学習の効果 (資格)	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	簿記の基礎①	簿記の目的、貸借対照表、損益計算書	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
2	簿記の基礎②	取引と勘定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
3	簿記の基礎③	仕訳と転記	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
4	簿記の基礎④	試算表	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
5	簿記の基礎⑤	決算の意味と手続き	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
6	簿記の基礎⑥	財務諸表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
7	まとめ	第1回から第6回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。	事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
8	現金・預金①	現金・現金過不足	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
9	現金・預金②	当座預金・当座借越・小口現金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
10	商品売買	三分法と売上原価の算定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
11	商品有高帳	先入先出法、移動平均法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
12	売掛金・買掛金	売掛金元帳、買掛金元帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
13	貸し倒れと貸倒引当金	貸倒引当金の処理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
14	手形	手形の処理、手形の裏書・割引	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
15	その他の債権・債務①	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
16	その他の債権・債務②	立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券、他店商品券	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
17	有価証券、固定資産	有価証券の購入・売却、固定資産の取得・減価償却・売却	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
18	資本金・引出金、税金	資本金と引出金、税金の記帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
19	まとめ	第8回から第18回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。	事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
20	決算①	費用・収益の繰り延べ	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
21	決算②	費用・収益の見越し	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
22	決算③	試算表の作成1	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
23	決算④	試算表の作成2	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
24	決算⑤	精算表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
25	財務諸表の作成①	貸借対照表、損益計算書の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
26	財務諸表の作成②	貸借対照表、損益計算書の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
27	伝票会計	伝票の起票、伝票の集計・管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
28	まとめ	第20回から第27回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。	事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
29	日商簿記検定問題①	仕訳、帳簿の問題	事前：教科書の仕訳、帳簿の問題を解く(60分)。	事後：間違えた問題を再度解く(30分)。

	30	日商簿記検定問題②	試算表、精算表の問題	事前：教科書の試算表、精算表の問題を解く(60分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30分)
関連科目	財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 三訂版	渡辺正直 ほか	実教出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期末試験の結果により評価する。			
学生への メッセージ	簿記は借方・貸方などの専門用語があって最初はややこしく感じるかもしれませんが、慣れれば足し算・引き算のみで決して難しいものではありません。基本的な知識をしっかり身に付けて、簿記力を積み上げていきましょう。			
担当者の 研究室等	11号館7階(呉研究室)			
備考				

科目名	企業論	科目名(英文)	Theory of Corporate Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶのは、「戦略」です。ビジネス社会における「企業」にフォーカスし、その「戦略」を「ビジネス・スクール形式」で学びます。</li> <li>・主な学習テーマは、以下のとおりです。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①「企業」とは何か？ 経営学部の学生にとって、「企業」の何を学ぶべきなのか？</li> <li>②企業の様々な「戦略」は、なぜ生まれるのか？ また何が目的なのか？</li> <li>③激動の時代変遷の中で、企業は今後どうあるべきなのか？</li> </ul> </li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。</li> <li>・企業のしくみ・社会的役割や将来像について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。</li> <li>・その到達目標をクリアできているか確認するため、毎回の授業においてケースメソッドによる個人作業、グループワーク、プレゼン、質疑応答等を実施し、その到達度合いを一人一人判定します。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 企業を取り巻く様々なテーマについて、毎回ショートケースメソッド（仮想企業による事例分析）を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。</li> <li>② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学びます。</li> <li>③ グループメンバー、役割分担は定期的に変更し、自分の考えを主張するとともに、他人の考え方との違いを体感します。</li> </ul> </li> <li>・なお、授業ではスマホ等を使ったキーワード検索等があります。スマホ等は必ず持参下さい。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。</li> </ul>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目標とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;予習&gt; テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように。</li> <li>&lt;復習&gt; 授業の最後に必ず「本日のポイント」を説明します。その内容について、しっかり復習して下さい。</li> </ul>
	2	なぜ、企業は生まれるのか？	個人経営、組合、NPO法人等との違い そのメリット・デメリット	同上
	3	どうやって、企業は創るのか？	企業設立登記、定款、資本金 開業準備と資金調達	同上
	4	なぜ、株式会社が最も多いのか？	企業の様々な種類、 経営と所有の分離	同上
	5	なぜ、企業は上場するのか？	株式上場のメリット・デメリット	同上
	6	なぜ、株主総会が必要なのか？	株主総会の役割、 株主の権利と責任	同上
	7	企業では、誰が意思決定し、誰がチェックするのか？	取締役会、監査役会、委員会、会計監査人	同上
	8	大企業と中小企業では、何が違うのか？	中小企業の定義と経営戦略	同上
	9	なぜ、企業は提携するのか？	競争と連携、多角化経営	同上
	10	なぜ、後継者が必要なのか？	サクセッションプランと事業承継	同上
	11	なぜ、アウトソーシングなのか？	ファブレス経営 固定費と変動費	同上
	12	なぜ、企業はリストラするのか？	事業の選択と集中	同上
	13	なぜ、企業は倒産するのか？	企業倒産の原因・種類と その社会的影響	同上
	14	なぜ、企業は国際化を目指すのか？	グローバル経営、 国際化のメリット・デメリット	同上
	15	企業の社会的責任とは何か？	リスクマネジメントとCSR経営	同上

関連科目	経営戦略論、企業分析(コーポレートガバナンス)、経営学、中小企業論など
------	-------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル作成のテキストを使用予定です		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	会社のしくみ	坂田 岳史	日本実業出版社
	2	よくわかる企業論	佐久間 信夫	ミネルヴァ書房
	3			

評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①グループワークへの貢献度(参加意欲、役割分担、個人作業、発言内容など) (35%)</li> <li>②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力 (15%)</li> <li>③プレゼン力および質疑応答対応力 (15%)</li> <li>④毎回の授業における理解度チェック小テスト(30%)</li> <li>⑤定期試験(論述式) (5%)</li> </ul> による総合評価。 ただし、①～④は、毎回の授業の都度採点し、集計します。
----------	--

学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・35年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！</li> <li>・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。</li> </ul>
担当者の 研究室等	11号館7階 大田住吉研究室
備考	理解度チェック小テストの結果については、授業の中で適宜フィードバックします。

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北 真収
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館8階 北 真収 研究室 (相談時は事前に連絡してください)		
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。			
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。			
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	杉本研究室 (11号館6F)			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。			

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三木 僚祐
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生と情報して身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。																		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。																		



科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生と情報して身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。																		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階																		
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生と情報して身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。																		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	H
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	畠山 俊宏
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生と情報して身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。			
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。			
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。			

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	K
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	L
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 祥司
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	M
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	樋口 友紀
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。		



科目名	金融商品取引法	科目名(英文)	Financial Instrument and Exchange Law
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	株式会社が証券市場を通じて資金調達をするため株式を公開すれば金融商品取引法による規制を受ける。また、金融商品取引法は、投資者が株式や社債など資産を運用する手段となっている投資信託等の勧誘・販売等について規制している。本講義では、このような金融商品取引法の基本を理解することを目的とする。
到達目標	金融商品取引法の基本を理解するにとどまらず、具体的な問題点も意識しつつ知識を習得する。また、裁判例や時事問題にも関心を持ち、講義で習得した知識に基づきどのように解決することができるのかを考えることも重要である。
授業方法と留意点	教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果(資格)	上場会社や金融商品取引業者に就職する者にとって必須の講義である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 金融商品取引法の全体像	金融商品市場の基本的な仕組み	特になし
2	金融商品取引法総論	金融商品取引法の目的と規制内容・適用範囲	教科書 p. 1～24
3	「有価証券」の意義と機能	有価証券の上場 有価証券取引の仕組み 金融商品取引所	教科書 p. 25～39
4	企業の情報開示(ディスクロージャー)(1)	有価証券の発行開示制度	教科書 p. 40～62
5	企業の情報開示(ディスクロージャー)(2)	有価証券の継続開示制度	教科書 p. 62～68
6	企業の情報開示(ディスクロージャー)(3)	情報開示の正確性確保と内部統制	教科書 p. 68～73
7	企業の情報開示(ディスクロージャー)(4)	情報開示義務違反と民事および刑事責任	教科書 p. 73～87
8	金融商品取引業者の規制	金融商品取引業者の開業規制と登録制度、誠実公正義務	教科書 p. 88～115
9	企業支配に関する開示制度(1)	株式公開買付(TOB)の規制	教科書 p. 116～133
10	企業支配に関する開示制度(2)	大量保有報告制度(5%ルール)	教科書 p. 133～148
11	不公正な取引の規制(1)	内部者取引(インサイダー取引)規制(1)	教科書 p. 165～185
12	不公正な取引の規制(2)	内部者取引(インサイダー取引)規制(2)	教科書 p. 165～185
13	不公正な取引の規制(3)	相場操縦の規制	教科書 p. 185～209
14	デリバティブ取引	デリバティブ取引とは	教科書 p. 210～217
15	まとめ	これまでの授業の復習	これまで学習した箇所

関連科目	会社法
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学べる金融商品取引法(第4版)	近藤光男・志谷匡史・石田眞得・釜田薫子	弘文堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する(80%)。その他講義中の発言なども加味する(20%)。
----------	---

学生へのメッセージ	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。また、金融商品取引法に関連する新聞記事を読んでおくこと。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館6階 法学部
----------	------------

備考	授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名を入れて送信すること。
----	---

科目名	金融論	科目名(英文)	Theory of Money and Banking
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	ファイナンスとは端的に言えばお金の管理に関する学問であり、会社員として、経営者として、主婦・主夫として、どのような立場にあってもファイナンスの問題に直面する。これは暮らしを支える経済が希少なお金や時間と密接な関係にあるからである。本講義では、ライフイベント毎のファイナンスの重要性の認識から始め、貨幣や金利といった基礎概念、それらを支える銀行や保険会社、証券会社といった金融システムの解説に重きを置き、その後、ファイナンスの基礎理論の解説を行う。
到達目標	お金を借りたり、資産を運用する際の利用窓口(金融機関)や借入・運用の場(金融市場)が分かること。また、長期の資産運用に関する理論と実践的な考え方が分かること。
授業方法と留意点	授業は教科書や配布資料を用いながら進める。できうる限り学生との対話しながら進めるので、恐れず恥ずかしがらずに参加して欲しい。
科目学習の効果(資格)	FP資格の基礎知識が身につく。経済動向を考える能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	ファイナンスIで学ぶこと	特になし
2	ファイナンスの重要性	ライフイベントにおけるお金の問題について解説する	配布プリントにて復習のこと
3	お金(貨幣)とは	貨幣の機能、貨幣の機能を定義すると貨幣の範疇が格段に広がること、貨幣と物価の関係等を解説する	第2章について予習し、復習のこと
4	お金と時間の仲介役: 金利(1)	キャピタルゲインとインカムゲイン、単利と複利、実質利率と名目利率、利回り(収益率)、債券の残存期間と金利の関係等を解説する	第3章について予習し復習のこと
5	お金と時間の仲介役: 金利(2)	債券価格の決定と金利の関係等を解説する	第3章について予習し、復習のこと
6	代表的な金融市場	重要な指標の確認、マーケットデータを読む際の注意点	教科書第3章を予習し、配布プリントを用い復習のこと
7	金融商品	リスクや分散投資、金融商品の特性を解説する	教科書第12,13章を予習し、配布プリントを用い復習のこと
8	金融システム概観	金融システムの役割、日本の金融システムについて解説する	教科書第1,7,8章を予習し、配布プリントを用い復習のこと
9	日本の金融サービス業(1)	保険会社の機能や実態について解説する	教科書第8章を予習し、配布プリントを用い復習のこと
10	日本の金融サービス業(2)	銀行の機能や実態について解説する	教科書第7章を予習し、配布プリントを用い復習のこと
11	日本の金融サービス業(3)	証券会社、証券取引所、格付け機関等、有価証券を取り扱う機関について解説する	教科書第8章を予習し、配布プリントを用い復習のこと
12	日本の金融サービス業(4)	公的金融機関と財政投融资について解説する	教科書第8章を予習し、配布プリントを用い復習のこと
13	ファイナンスの基礎理論(1)	期待収益率、リスク、投資機会集合	教科書第14章を予習し、復習のこと
14	ファイナンスの基礎理論(2)	投資家の選好、資産運用	教科書第14章を予習し、復習のこと
15	ファイナンスの基礎理論(3)	CAPM、効率的市場仮説、アノマリー	教科書第14章を予習し、復習のこと

関連科目 経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンスII、コーポレートファイナンスI,II,

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	金融論 ベーシックプラス	家森信善	中央経済社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	期末試験(100%)を基に評価する。詳しくは初回講義時に述べる。
学生へのメッセージ	企業は即戦力を求めている。単位を稼ぐための受動的な受講ではなく、学ぶための能動的な受講姿勢を希望する。
担当者の研究室等備考	11号館8階(岩坪教授室)

科目名	グローバル経営論	科目名(英文)	Global Business
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	畠山 俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	本講義では、教員による講義を通じて国際経営論の様々な分野の基本的な内容について学習します。企業の海外進出は活発に行われており、多国籍企業で活躍できる人材になるためには国際経営論に関する基礎的知識を習得することは不可欠です。本講義の目的は、経営機能の国際化のメカニズムや海外直接投資の理論について理解することです。
到達目標	国際経営論の理論に基づいて多国籍企業の活動を説明できる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進めます。
科目学習の効果(資格)	多国籍企業の経営行動を分析する能力を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義のガイダンスを行います。?	シラバスを事前に読んでおくこと。
2	国際経営とは何か	国際経営論の概要、海外進出の理由について解説します。	教科書の第1章を読んでおくこと。
3	海外直接投資の理論	海外直接投資の理論について解説します。	教科書の第2章を読んでおくこと。
4	多国籍企業による国際競争の歴史	多国籍企業の発展の歴史について解説します。	教科書の第3章を読んでおくこと。
5	多国籍企業の組織デザイン	国際経営組織について解説します。	教科書の第4章を読んでおくこと。
6	トランスナショナル経営	トランスナショナル経営について解説します。	教科書の第5章を読んでおくこと。
7	海外子会社の経営	海外子会社の経営について解説します。	教科書の第6章を読んでおくこと。
8	国際マーケティング(1)	国際マーケティングについて解説します。	教科書の第7章を読んでおくこと。
9	国際マーケティング(2)	国際マーケティングについて解説します。	第8回の内容を復習しておくこと。
10	ものづくりの国際拠点展開	海外生産、知識移転について解説します。	教科書の第8章を読んでおくこと。
11	研究開発の国際化	研究開発の国際化について解説します。	教科書の第9章を読んでおくこと。
12	国際的な人的資源管理	国際人的資源管理について解説します。	教科書の第10章を読んでおくこと。
13	国際パートナーシップ	国際パートナーシップについて解説します。	教科書の第11章を読んでおくこと。
14	日本企業のさらなる国際化のために	オープン・イノベーションや多国籍企業のCSRについて解説します。	教科書の第12章を読んでおくこと。
15	まとめ	学んできた内容の復習を行います。	これまでの学習内容を復習しておくこと。

関連科目 経営学Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての国際経営	中川功一・林正・多田 和美・大木清弘	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	期末試験100%で評価します。
学生へのメッセージ	予習・復習を行い、積極的に授業に参加してください。
担当者の研究室等	11号館8階 畠山研究室
備考	講義資料は配布しませんので、各自で印刷して持参してください。講義資料の保存場所は初回の講義で説明します。

科目名	経営学	科目名(英文)	Business Administration
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	北 真収, 畠山 俊宏
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	前期：本講義では、教員による講義と経営学検定の過去問題の演習を通じて経営学の様々な分野の基本的な内容について学習します。本講義で学ぶ内容は、企業論、経営戦略論、経営組織論等の経営学の個別の専門分野を深く学習するための基礎となります。 後期：経営学の基本について戦略論を中心に講義を行います。授業で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。
到達目標	前期：企業システム、経営戦略、経営組織等に関する基本的な知識を習得する。 後期：経営とは何か、何が課題なのかなど、現実在即して経営への疑問を広く理解することが目標です。
授業方法と留意点	前期：講義と問題演習を中心に授業を進めます。 後期：事例を紹介しながら経営知識を講義します。特に、学習課題については発言を求めて理解を促進します。
科目学習の効果(資格)	前期：経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験 後期：経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義のガイダンスを行います。	事前：シラバスを事前に読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
2	企業と経営	企業と経営の概要について解説します。	事前：教科書の第1部第1章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
3	企業・会社の概念と諸形態	様々な企業の形態について解説します。	事前：教科書の第1部第2章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
4	所有・経営・支配と経営目的	株式会社の所有と経営の関係について解説します。	事前：教科書の第1部第3章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
5	会社機関とコーポレート・ガバナンス	株式会社の様々な機関とコーポレートガバナンスについて解説します。	事前：教科書の第1部第4章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
6	経営戦略の体系と理論	経営戦略の概念や経営戦略論の発展について解説します。	事前：教科書の第2部第1章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
7	全社戦略(1)	全社戦略の概要やドメインについて解説します。	事前：教科書の第2部第2章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
8	全社戦略(2)	成長のための戦略について解説します。	事前：教科書の第2部第2章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
9	事業戦略	事業戦略や競争戦略について解説します。	事前：教科書の第2部第3章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
10	機能別戦略	研究開発、生産、マーケティング、人事等の機能別の戦略について解説します。	事前：教科書の第2部第3章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
11	経営組織の基本形態	ライン組織、ファンクショナル組織、ライン・アンド・スタッフ組織等の経営組織の基本形態について解説します。	事前：教科書の第3部第2章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
12	企業組織の諸形態(1)	職能部門制組織、事業部制組織等の企業組織の様々な形態について解説します。	事前：教科書の第3部第3章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
13	企業組織の諸形態(2)	マトリックス組織等の企業組織の様々な形態について解説します。	事前：教科書の第3部第3章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
14	経営のグローバリゼーション	経営の国際化、グローバリゼーションについて解説します。	事前：教科書の第5部第2章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
15	まとめ	学んできた内容の復習を行います。	事前：これまでの学習内容を復習しておくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
16	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	シラバスを事前に読んでおくこと
17	戦略とは何か	経営戦略、企業ドメインについて説明します	事前 自分自身の戦略は何ですか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
18	資源論	見えざる資産などについて説明します	事前 ブランド価値がどのように築かれるのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
19	基本戦略	差別化、コストリーダーシップ、集中の戦略を説明します	事前 差別化はなぜ行われるのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
20	戦略の失敗	シーズとニーズについて説明します	事前 失敗を防ぐにはどうするか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
21	スタートアップ	先発優位について説明します	事前 スターバックスはどのようにして創業し、成長したのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
22	新市場創出	オープン化について説明します	事前 明太子と言えなぜ福岡なのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること

	23	リユース市場創出	標準化について説明します	事前 古本がどのようにして身近なものになったのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること																
	24	海外展開	普及のきっかけについて解説します	事前 きっかけは、偶然、訪れるのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること																
	25	企業再生 1	意識改革について解説します	事前 意識をどのようにして変えればよいのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること																
	26	企業再生 2	外部からのトップリーダーについて解説します	事前 赤字企業を黒字化するには何を見直せばよいのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること																
	27	サービスマネジメント 1	顧客満足について説明します	事前 旅館のおもてなしで重要なことは何か 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること																
	28	サービスマネジメント 2	サービスの種類について解説します	事前 銀行の顧客満足で重要なことは何か 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること																
	29	組織文化	経営・製品理念について解説します	事前 理念はどんな働きをするのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること																
	30	まとめ	学んできた内容の要約と補足を行います	これまでの学習内容を復習しておくこと																
関連科目	前期：企業論、経営組織論、経営戦略論 後期：経営管理論、経営組織論、経営戦略論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経営学検定試験公式テキスト1 経営学の基本</td> <td>経営能力開発センター</td> <td>中央経済社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	経営学検定試験公式テキスト1 経営学の基本	経営能力開発センター	中央経済社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	経営学検定試験公式テキスト1 経営学の基本	経営能力開発センター	中央経済社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ケースに学ぶ経営学</td> <td>東北大学経営学グループ</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>テキストブック 経営戦略</td> <td>北 真取</td> <td>岡山大学出版会</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ケースに学ぶ経営学	東北大学経営学グループ	有斐閣	2	テキストブック 経営戦略	北 真取	岡山大学出版会	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ケースに学ぶ経営学	東北大学経営学グループ	有斐閣																	
2	テキストブック 経営戦略	北 真取	岡山大学出版会																	
3																				
評価方法 (基準)	前期：期末試験 100%で評価します。 後期：期末試験 60%、課題レポートなど 40%で評価します。																			
学生への メッセージ	前期：予習・復習を行い、問題演習に積極的に取り組んでください。 後期：代表的な事例を使って経営知識を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。																			
担当者の 研究室等	前期：11号館8階 島山研究室 後期：11号館8階 北 真取研究室（相談時は事前に連絡してください）																			
備考	前期：講義資料は配布しませんので、各自で印刷して持参してください。講義資料の保存場所は初回の講義で説明します																			

科目名	経営学 I	科目名 (英文)	Introduction to Business Administration I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	畠山 俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	本講義では、教員による講義と経営学検定の過去問題の演習を通じて経営学の様々な分野の基本的な内容について学習します。本講義で学ぶ内容は、企業論、経営戦略論、経営組織論等の経営学の個別の専門分野を深く学習するための基礎となります。
到達目標	企業システム、経営戦略、経営組織等に関する基本的な知識を習得する。
授業方法と留意点	講義と問題演習を中心に授業を進めます。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス	本講義のガイダンスを行います。	事前：シラバスを事前に読んでおくこと。	事後：講義内容を復習しておくこと。
2	企業と経営	企業と経営の概要について解説します。	事前：教科書の第1部第1章を読んでおくこと。	事後：講義内容を復習しておくこと。
3	企業・会社の概念と諸形態	様々な企業の形態について解説します。	事前：教科書の第1部第2章を読んでおくこと。	事後：講義内容を復習しておくこと。
4	所有・経営・支配と経営目的	株式会社の所有と経営の関係について解説します。	事前：教科書の第1部第3章を読んでおくこと。	事後：講義内容を復習しておくこと。
5	会社機関とコーポレート・ガバナンス	株式会社の様々な機関とコーポレートガバナンスについて解説します。	事前：教科書の第1部第4章を読んでおくこと。	事後：講義内容を復習しておくこと。
6	経営戦略の体系と理論	経営戦略の概念や経営戦略論の発展について解説します。	事前：教科書の第2部第1章を読んでおくこと。	事後：講義内容を復習しておくこと。
7	全社戦略 (1)	全社戦略の概要やドメインについて解説します。	事前：教科書の第2部第2章を読んでおくこと。	事後：講義内容を復習しておくこと。
8	全社戦略 (2)	成長のための戦略について解説します。	事前：教科書の第2部第2章を読んでおくこと。	事後：講義内容を復習しておくこと。
9	事業戦略	事業戦略や競争戦略について解説します。	事前：教科書の第2部第3章を読んでおくこと。	事後：講義内容を復習しておくこと。
10	機能別戦略	研究開発、生産、マーケティング、人事等の機能別の戦略について解説します。	事前：教科書の第2部第3章を読んでおくこと。	事後：講義内容を復習しておくこと。
11	経営組織の基本形態	ライン組織、ファンクショナル組織、ライン・アンド・スタッフ組織等の経営組織の基本形態について解説します。	事前：教科書の第3部第2章を読んでおくこと。	事後：講義内容を復習しておくこと。
12	企業組織の諸形態 (1)	職能部門制組織、事業部制組織等の企業組織の様々な形態について解説します。	事前：教科書の第3部第3章を読んでおくこと。	事後：講義内容を復習しておくこと。
13	企業組織の諸形態 (2)	マトリックス組織等の企業組織の様々な形態について解説します。	事前：教科書の第3部第3章を読んでおくこと。	事後：講義内容を復習しておくこと。
14	経営のグローバル化	経営の国際化、グローバル化について解説します。	事前：教科書の第5部第2章を読んでおくこと。	事後：講義内容を復習しておくこと。
15	まとめ	学んできた内容の復習を行います。	事前：これまでの学習内容を復習しておくこと。	事後：講義内容を復習しておくこと。

関連科目	企業論、経営組織論、経営戦略論
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経営学検定試験公式テキスト1	経営学の基本	経営能力開発センター
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ケースに学ぶ経営学	東北大学経営学グループ	有斐閣
2				
3				

評価方法 (基準)	期末試験 100% で評価します。
-----------	-------------------

学生へのメッセージ	予習・復習を行い、問題演習に積極的に取り組んでください。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	11 号館 8 階 畠山研究室
----------	-----------------

備考	講義資料は配布しませんので、各自で印刷して持参してください。講義資料の保存場所は初回の講義で説明します。
----	--

科目名	経営学Ⅱ	科目名(英文)	Introduction to Business Administration II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北 真収
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	経営学の基本について戦略論を中心に講義を行います。授業で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。																																																																		
到達目標	経営とは何か、何が課題なのかなど、現実在即して経営への疑問を広く理解することが目標です。																																																																		
授業方法と留意点	事例を紹介しながら経営知識を講義します。特に、学習課題については発言を求めて理解を促進します。																																																																		
科目学習の効果(資格)	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します</td> <td>シラバスを事前に読んでおくこと</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>戦略とは何か</td> <td>経営戦略、企業ドメインについて説明します</td> <td>自分自身の戦略は何ですか</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>資源論</td> <td>見えざる資産について説明します</td> <td>ブランド価値がどのように築かれるのか</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>基本戦略</td> <td>差別化、コストリーダーシップ、集中の戦略を説明します</td> <td>差別化はなぜ行われるのか</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>戦略の失敗</td> <td>シーズとニーズについて説明します</td> <td>失敗を防ぐにはどうするか</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>スタートアップ</td> <td>先発優位について説明します</td> <td>スターバックスはどのようにして創業し、成長したのか</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>新市場創出</td> <td>オープン化について説明します</td> <td>明太子と言えなぜ福岡なのか</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>リユース市場創出</td> <td>標準化について説明します</td> <td>古本がどのようにして身近なものになったのか</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>海外展開</td> <td>普及のきっかけについて解説します</td> <td>きっかけは、偶然、訪れるのか</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>企業再生1</td> <td>意識改革について解説します</td> <td>意識をどのようにして変えればよいのか</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>企業再生2</td> <td>外部からのトップリーダーについて解説します</td> <td>赤字企業を黒字化するには何を見直せばよいのか</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>サービスマネジメント1</td> <td>顧客満足について説明します</td> <td>旅館のおもてなしで重要なことは何か</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>サービスマネジメント2</td> <td>サービスの種類について解説します</td> <td>銀行の顧客満足で重要なことは何か</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>組織文化</td> <td>経営・製品理念について解説します</td> <td>理念はどんな働きをするのか</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>学んできた内容の要約と補足を行います</td> <td>これまでの学習内容を復習しておくこと</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	シラバスを事前に読んでおくこと	2	戦略とは何か	経営戦略、企業ドメインについて説明します	自分自身の戦略は何ですか	3	資源論	見えざる資産について説明します	ブランド価値がどのように築かれるのか	4	基本戦略	差別化、コストリーダーシップ、集中の戦略を説明します	差別化はなぜ行われるのか	5	戦略の失敗	シーズとニーズについて説明します	失敗を防ぐにはどうするか	6	スタートアップ	先発優位について説明します	スターバックスはどのようにして創業し、成長したのか	7	新市場創出	オープン化について説明します	明太子と言えなぜ福岡なのか	8	リユース市場創出	標準化について説明します	古本がどのようにして身近なものになったのか	9	海外展開	普及のきっかけについて解説します	きっかけは、偶然、訪れるのか	10	企業再生1	意識改革について解説します	意識をどのようにして変えればよいのか	11	企業再生2	外部からのトップリーダーについて解説します	赤字企業を黒字化するには何を見直せばよいのか	12	サービスマネジメント1	顧客満足について説明します	旅館のおもてなしで重要なことは何か	13	サービスマネジメント2	サービスの種類について解説します	銀行の顧客満足で重要なことは何か	14	組織文化	経営・製品理念について解説します	理念はどんな働きをするのか	15	まとめ	学んできた内容の要約と補足を行います	これまでの学習内容を復習しておくこと
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	シラバスを事前に読んでおくこと																																																																
2	戦略とは何か	経営戦略、企業ドメインについて説明します	自分自身の戦略は何ですか																																																																
3	資源論	見えざる資産について説明します	ブランド価値がどのように築かれるのか																																																																
4	基本戦略	差別化、コストリーダーシップ、集中の戦略を説明します	差別化はなぜ行われるのか																																																																
5	戦略の失敗	シーズとニーズについて説明します	失敗を防ぐにはどうするか																																																																
6	スタートアップ	先発優位について説明します	スターバックスはどのようにして創業し、成長したのか																																																																
7	新市場創出	オープン化について説明します	明太子と言えなぜ福岡なのか																																																																
8	リユース市場創出	標準化について説明します	古本がどのようにして身近なものになったのか																																																																
9	海外展開	普及のきっかけについて解説します	きっかけは、偶然、訪れるのか																																																																
10	企業再生1	意識改革について解説します	意識をどのようにして変えればよいのか																																																																
11	企業再生2	外部からのトップリーダーについて解説します	赤字企業を黒字化するには何を見直せばよいのか																																																																
12	サービスマネジメント1	顧客満足について説明します	旅館のおもてなしで重要なことは何か																																																																
13	サービスマネジメント2	サービスの種類について解説します	銀行の顧客満足で重要なことは何か																																																																
14	組織文化	経営・製品理念について解説します	理念はどんな働きをするのか																																																																
15	まとめ	学んできた内容の要約と補足を行います	これまでの学習内容を復習しておくこと																																																																
関連科目	経営管理論、経営組織論、経営戦略論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>テキストブック 経営戦略</td> <td>北 真収</td> <td>岡山大学出版会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	テキストブック 経営戦略	北 真収	岡山大学出版会	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	テキストブック 経営戦略	北 真収	岡山大学出版会																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	期末試験 60%、課題レポートなど 40%で評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	代表的な事例を使って経営知識を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。																																																																		
担当者の研究室等	11号館8階 北 真収研究室(相談時は事前に連絡してください)																																																																		
備考																																																																			

科目名	経営学特講 I	科目名 (英文)	Up-to-date Topics of Business Administration I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂 貴恵, 久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	IoT 時代を迎え、経営情報学は新たな局面を迎えている。そこで本授業は、IoT 時代の経営情報学の本質や有効性を、実践例を交えながら学ぶ機会を提供することを目的としている。 IoT の到来により、企業経営だけでなく、まちづくりや教育現場などでも、効果的な ICT 利用が求められている。さらに企業経営においては、これまで以上に IT、ICT を活かした戦略構築など、新たな課題が生まれており、経営情報学のさらなる発展が期待される場所である。 上記のことをふまえて、本授業では、各界で活躍するビジネス・パーソンをお招きし、今後の IoT 時代について考察する。																																																																		
到達目標	①IoT について理解を深める。 ②IoT が社会に与える影響を理解する。 ③IoT によって創出される可能性について理解する。																																																																		
授業方法と留意点	この授業は、経営情報学科の教員が毎回交代し、ゲストスピーカーをお招きするなどして講義をするオムニバス授業である。 ゲストスピーカー等の詳細は未定のため、確定次第通知する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	情報系各種資格																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 担当：高尾裕二 経営学部長</td> <td>この講義が登場した時代背景と本学部の学生が卒業時に求められている IT 系人材としての素養について示し、本講義の中で学び取るべきことについて伝える。授業による学習効果を測定するために事前アンケートを実施する。</td> <td>【事前学習】ICT の現状を自分なりにまとめておく。 【事後学習】学んだことをまとめる。</td> </tr> <tr><td>2</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 担当：高尾裕二 経営学部長	この講義が登場した時代背景と本学部の学生が卒業時に求められている IT 系人材としての素養について示し、本講義の中で学び取るべきことについて伝える。授業による学習効果を測定するために事前アンケートを実施する。	【事前学習】ICT の現状を自分なりにまとめておく。 【事後学習】学んだことをまとめる。	2	未定			3	未定			4	未定			5	未定			6	未定			7	未定			8	未定			9	未定			10	未定			11	未定			12	未定			13	未定			14	未定			15	未定		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 担当：高尾裕二 経営学部長	この講義が登場した時代背景と本学部の学生が卒業時に求められている IT 系人材としての素養について示し、本講義の中で学び取るべきことについて伝える。授業による学習効果を測定するために事前アンケートを実施する。	【事前学習】ICT の現状を自分なりにまとめておく。 【事後学習】学んだことをまとめる。																																																																
2	未定																																																																		
3	未定																																																																		
4	未定																																																																		
5	未定																																																																		
6	未定																																																																		
7	未定																																																																		
8	未定																																																																		
9	未定																																																																		
10	未定																																																																		
11	未定																																																																		
12	未定																																																																		
13	未定																																																																		
14	未定																																																																		
15	未定																																																																		
関連科目	情報系科目、および、経営戦略系科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	平常点 (毎回のレポート等) 70%、グループワークなど 30%																																																																		
学生へのメッセージ	経営情報学の最先端を学ぶための良い機会です。積極的に受講して下さい。																																																																		
担当者の研究室等	鶴坂貴恵 11号館7階 久保貞也 11号館7階																																																																		
備考																																																																			



科目名	経営管理論	科目名(英文)	Business Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	畠山 俊宏
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	経営管理論は、企業経営の現場から生まれた実践的な学問です。本講義では、経営管理論とはどのような学問であるのか、経営管理論にはどのような分野があるのか等について講義します。講義を通じて経営管理論が生まれた歴史的背景やその理論の発展について理解することを目的とします。
到達目標	①経営管理論に関する主要な理論を理解する。 ②経営管理論の理論に基づいて企業のマネジメントを説明できる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進めます。理解を深めるために適宜、演習、小テストを実施します。
科目学習の効果(資格)	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス	本講義のガイダンスを行います。	事前：シラバスを事前に読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
2	企業の特徴	企業とはどのような特徴を持った組織であるのか解説します。	事前：教科書の第2章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
3	株式会社の特徴と仕組み	所有と経営の分離などの株式会社に関する主要な概念について解説します。	事前：教科書の第4章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
4	テイラーと科学的管理法	科学的管理法の内容や誕生した背景について解説します。	事前：教科書の第6章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
5	小テスト①	2回から4回の内容で小テストを実施します。	事前：2回から4回の講義内容を復習しておくこと。	事後：小テストの内容を復習しておくこと
6	ヘンリー・フォードとフォードイズム	自動車の大量生産を実現したフォード・システムについて解説します。	事前：教科書の第7章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
7	ファヨールと管理過程論	ファヨールの管理過程論について解説します。	事前：教科書の第8章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
8	メイヨーと人間関係論	メイヨーの人間関係論について解説します。	事前：教科書の第9章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
9	行動科学と統合理論(1)	フォレット、リッカート、アージリスの理論について解説します。	事前：教科書の第10章1節から3節を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
10	行動科学と統合理論(2)	マズローの欲求段階説、マグリガーのX理論・Y理論、ハーズバークの動機づけ・衛生理論について解説します。	事前：教科書の第10章4節から6節を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
11	近代管理論からコンティンジェンシー理論へ	バーナードの組織論、サイモンの意思決定論、コンティンジェンシー理論、組織間関係論について解説します。	事前：教科書の第11章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
12	組織とは何か(1)	組織の特徴、伝統的組織論について解説します。	事前：教科書の第12章1節から2節を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
13	組織とは何か(2)	新古典的理論、近代組織論について解説します。	事前：教科書の第12章3節から4節を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと?
14	小テスト②	6回から13回の内容で小テストを実施します。	事前：6回から13回の講義内容を復習しておくこと	事後：小テストの内容を復習しておくこと
15	基本的な組織形態	経営組織の種類について解説します。	事前：教科書の第13章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
16	さまざまな組織形態	職能部門制組織と事業部制組織、ブランド・マネージャー制とプロジェクト組織、マトリックス組織、戦略的事業単位、情報革命について解説します。	事前：教科書の第14章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
17	経営戦略論(1)	経営戦略の体系と理論について解説します。?	事前：教科書の第15章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
18	経営戦略論(2)	全社戦略について解説します。?	事前：教科書の第15章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
19	経営戦略論(3)	全社戦略について解説します。?	事前：教科書の第15章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
20	経営戦略論(4)	事業戦略について解説します。?	事前：教科書の第15章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
21	経営戦略論(5)	機能別戦略について解説します。?	事前：教科書の第15章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
22	小テスト③	15回から21回の内容で小テストを実施します。	事前：15回から21回の講義内容を復習しておくこと	事後：小テストの内容を復習しておくこと
23	企業の国際化(1)	国際貿易の理論と為替について解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
24	企業の国際化(2)	国際経営戦略について解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
25	企業の国際化(3)	カントリーリスクについて解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
26	企業の国際化(4)	カントリーリスクに関する演習を行います。	事前：25回の講義内容を復習しておくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
27	企業の国際化(5)	海外生産と技術移転について解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
28	企業の国際化(6)	技術移転に関する演習を行います。	事前：27回の講義内容を復習しておくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
29	企業の国際化(7)	新興国ビジネスについて解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと

	30	企業の国際化 (8)	新興国ビジネスに関する演習を行います。	事前：29回の講義内容を復習しておくこと 事後：講義内容を復習しておくこと
関連科目	経営学、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキスト経営学[第3版]	井原久光	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験 60%、小テスト①10%、小テスト②15%、小テスト③15%で評価します。			
学生への メッセージ	予習・復習を行い、積極的に授業に参加してください。			
担当者の 研究室等	11号館8階 晶山講師室			
備考	小テストの成績は、オフィスアワー等の時間を利用して希望する学生に対して個別に通知します。			

科目名	経営管理論	科目名(英文)	Business Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	【授業概要・目的】 実際に起こった事例などを参考に、実務界における経験者による、「人材」・「経営」・「技術」・「知的財産」・「情報」・「コミュニケーション」の視点から、社会人に必要な知識の習得(社会人基礎力)と自らの見識を広める。
到達目標	【到達目標】 専門性の高い知識だけでなく、社会現象を経営的視点で捉えられる人材の育成 社会人として必要とされる最低限の知識(常識)の習得と問題発見、課題解決のための知恵の醸成。
授業方法と留意点	毎回講義資料を配付します。積極的に講義内容に関する質問、意見等をして下さい。
科目学習の効果(資格)	卒業後、ビジネスパーソンとして求められる基本的・実践的な経営知識を習得すると共に、業務を通じ自己表現を図り、社会人として戦略的・主体的に挑戦する意欲が醸成される。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「社会人(企業人)への扉」	講座ガイダンス 社会へ巣立つための心構え	新聞(全国紙:社会欄・産業欄)に目を通すこと。 解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
2	「企業人としての基礎知識」	知識社会で活躍する人材とは	新聞(全国紙:社会欄・産業欄)に目を通すこと。 解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
3	「企業経営(1)」	企業とは 株式会社の機能 株式・株主とは	新聞(全国紙:社会欄・産業欄)に目を通すこと。 解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
4	「企業経営(2)」	新規事業 グローバル経営戦略	新聞(全国紙:社会欄・産業欄)に目を通すこと。 解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
5	「企業経営(3)」	経営環境分析 コーポレートガバナンス事例 企業不祥事	新聞(全国紙:社会欄・産業欄)に目を通すこと。 解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
6	「企業組織と経営管理」	組織構造(事業部制・プロジェクト制・マトリックス組織) Balanced Scorecard	新聞(全国紙:社会欄・産業欄)に目を通すこと。 解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
7	「戦略的組織と企業業績」	CASE分析 戦略的組織 (職能別組織・製品別組織・機能別組織) CASE分析 国際グローバル化戦略 組織(集約型組織・分散型組織)	新聞(全国紙:社会欄・産業欄)に目を通すこと。 解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
8	「技術経営管理(1)」	知的財産の基本知識 知的財産法 企業における知財活用	新聞(全国紙:社会欄・産業欄)に目を通すこと。 解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
9	「技術経営管理(2)」	知的財産権の効力 知的資産経営	新聞(全国紙:社会欄・産業欄)に目を通すこと。 解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
10	「企業財務(1)」	企業財務の視点 企業財務諸表の構造	新聞(全国紙:社会欄・産業欄)に目を通すこと。 解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
11	「企業財務(2)」	株価すら見た企業業績 企業金融市場と株式	新聞(全国紙:社会欄・産業欄)に目を通すこと。 解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
12	「社会常識・資産形成」	物価動向と個人消費 個人資産形成 ビジネス法務	新聞(全国紙:社会欄・産業欄)に目を通すこと。 解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
13	「リーガルマネジメント」	重大製品事故と技術者倫理	新聞(全国紙:社会欄・産業欄)に目を通すこと。 解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
14	「プレゼンテーション能力」	コミュニケーションのとり方 プレゼンテーションの成功とは	新聞(全国紙:社会欄・産業欄)に目を通すこと。 解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
15	「経済動向と企業経営」	消費税の徳見と企業経営・消費者に及ぼす影響について(ディスカッション)	新聞(全国紙:社会欄・産業欄)に目を通すこと。 解らない点は、講義アンケートにて質問をすること

関連科目	経営学、経営管理論、経営組織論
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	毎回のアンケートの質問に対する回答(出席確認を含む)[50%] 期末最終レポート[50%]
----------	--

学生へのメッセージ	現在、起こっている事例を参考に、自身の専門分野にとらわれない、将来企業人の一員となるために必要な産業界(実務)の知識を習得してください。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館7階 林研究室
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	経営財務論 I	科目名 (英文)	Business Finance I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高尾 裕二
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>一般に企業は、ヒト、モノ、カネ、情報・技術から構成されるといわれることがある。経営財務論（最近では、「コーポレート・ファイナンス」とよばれることが多い）は、株主の立場に立って、これら4つの企業構成要素のうち、主に、カネの流れ（キャッシュフロー）から企業の行動ないし意思決定のあり方を分析し、どのような資金の調達と運用が企業価値の創造に結びつくのかを検討する経営学関連の主要な領域の一つである。経営財務論 I では、経営財務論における一連の主要な基礎概念なり、その算定方法（例えば、企業の資金調達方法、リスクとリターンとの関係、アセット・プライシング、資本コスト、キャッシュフローと現在価値、企業価値評価など）を学ぶ。現在の企業行動を理解するために必要不可欠なこれらの基礎概念・算定方法およびそれらの相互の関係を十分に理解し体得することが、まずは本講義の目標である。</p>
到達目標	<p>現在の経済社会において不可欠な経営財務（コーポレート・ファイナンス）における基礎概念（期待収益率、リスク、資本コスト、現在価値、資本資産評価モデルなど）に関する知識を修得し、簡単な企業価値評価を自ら行うことができる。</p>
授業方法と留意点	<p>配布する講義資料に沿って講義を進める。経営財務論における論点を十分に理解するためには、実際に数値例に取り組み、自分自身で計算してみることが不可欠であることから、原則として、講義の後半30分程度は、配布した演習問題に取り組み、質問に答える時間に当てる。毎回、電卓等の計算機器を携帯すること。</p> <p>原則として講義資料はほぼ講義2～3回分について1回のペースで配布する。配布する資料は本講義のテキストであり、ファイルして講義に際して持参すること。とりわけ最後まで説明が終了しなかった講義資料については、翌週に必ず持参することが必要である。また欠席した場合の過去の配布資料の提供にはどのような理由であれ応じないので、注意すること。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>企業への就職希望者にとって必要な知識が得られ、また専門的職業人（とくに公認会計士、証券アナリスト、ファイナンシャルプランナーなど）の資格取得にも密接に関連する。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションー経営財務論（コーポレート・ファイナンス）とは何か	経営財務論の目的を理解し、経営財務論で取り上げられる主要な論点の概観を得る。加えて、授業の進め方、評価方法等について説明する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。
2	企業の資金調達（1）ー自己資金調達（エクイティ・ファイナンス）	現行制度のもとでの企業の資金調達の主要な手段を概観するとともに、自己資金調達（株式発行、内部資金などによる資金調達）について検討する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
3	企業の資金調達（2）ー負債調達（デット・ファイナンス）	現行制度のもとでの企業の資金調達方法のもう一つの主要な手段である各種の負債調達（社債発行、銀行借入などによる資金調達）について検討するとともに、自己資金調達との比較を行う。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所は必ず質問すること。
4	資本コストとリターン（期待収益率）	経営財務論におけるキーワードの一つである、企業サイドからの「資本コスト」および資金提供者サイドからの「リターン（期待収益率）」の一般的な意味とその計算方法の基礎を説明する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
5	リスクとリターン（期待収益率）	経営財務論のキーワードの一つである「リスク」の意味を学び、リスクとリターン（期待収益率）の関係、さらに、「リスク・プレミアム」の意味を理解する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
6	企業の資本コスト（1）	前々回・前回の講義内容を前提に、企業が資金調達するうえで極めて重要な「負債の資本コスト」・「株式の資本コスト（自己資本コスト）」・「総資本コスト」の意味を学ぶ。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
7	企業の資本コスト（2）	前回の講義内容を前提に、今回は、「負債の資本コスト」・「株式の資本コスト」・「総資本コスト」の関係を理解し、改めて3つの資本コストの理解をより確かなものにする。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
8	資本資産評価モデル（CAPM）の基礎（1）	リスクとリターンの関係を理解し、株式の資本コストを推計するうえで極めて重要な資本資産評価モデル（CAPM）の基礎的な考え方を説明する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
9	資本資産評価モデル（CAPM）の基礎（2）	前回の講義に引き続き、リスクとリターンの関係を理解し、株式の資本コストを推計するうえで極めて重要な資本資産評価モデル（CAPM）の基礎的な考え方とその意義を説明する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
10	整理と復習（1）ーリスク、リターン、資本コストおよび資本資産評価モデル（CAPM）	企業の資本コスト（負債の資本コスト、株式の資本コスト、総資本コスト）を中心に、リスクおよびリターンの関係およびCAPMの各論点について、整理を行い、復習し、改めてこれらのキー概念およびCAPMの正確な理解に努める。	これまでの講義において配布したすべての資料と演習問題を改めて復習し、疑問点・理解不十分な箇所について各自整理しておくこと。質問を受ける。
11	キャッシュフローと現在価値計算（1）	経営財務論の根幹をなすキャッシュフローの（割引）現在価値の計算方法の基礎を、リスクがない場合とリスクがある場合の2つのケースについて学ぶ。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。分からない箇所があれば必ず質問すること。
12	キャッシュフローと現在価値計算（2）	前回の講義に引き続き、キャッシュフローの（割引）現在価値の計算方法を学ぶ。今回の講義で取りあげるのは、多期間キャッシュフローを前提とした現在価値計算の方法である。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。

	13	企業価値とDCF法	前々回・前回の講義内容をもとに、負債価値と株主資本価値の合計としての「企業価値」がどのように求められるのかを学ぶ。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。																
	14	企業のリスクとコーポレート・ガバナンス	近時の経営財務論において、主要な論点の一つとして注目されているコーポレート・ガバナンスについて、企業を取り巻く各種リスクの意味をふまえ、企業価値創造の観点から検討する	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。																
	15	整理と復習(2)ー現在価値計算と企業価値	後半の主要なテーマである割引計算の方法と企業価値の算定方法、さらに経営財務論Ⅰ全体の講義の整理と復習	これまでの講義全体を通じて(特に、後半のテーマである割引計算と企業価値に関する講義)において配布したすべての資料と演習問題を復習し、疑問点・理解不十分な箇所について整理しておくこと。質問を受ける。																
関連科目	簿記入門、ミクロ経済学、財務会計論、ファイナンス、会計情報分析論、企業分析(財務戦略ケース分析)など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	定期試験 95%、中間時点における1回の演習レポートの提出(提出の場合は事前に通知する) 5%																			
学生へのメッセージ	経営財務論の議論は、経済学の分析枠組みを基礎に展開されることが多く、そのため、経営学部の学生にとっては見慣れない専門用語が多く登場し、またかなり難解な内容も含まれることをあらかじめ念頭においておくこと。私語は他の熱心な受講生の迷惑となることから絶対に慎むこと。質問は大いに歓迎する。																			
担当者の研究室等	高尾研究室(11号館8階)																			
備考	講義の内容が前後するなど若干の変更等がある場合は、可能な限り事前に伝える。これまでの理解度を測るために行われる中間時点で提出を求める演習レポートについては、全体として講評し、正解率の低い問題については、改めてその後の授業において解説する。																			

科目名	経営財務論Ⅱ	科目名(英文)	Business Finance II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高尾 裕二
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>一般に企業は、ヒト、モノ、カネ、情報・技術から構成されるといわれることがある。経営財務論（最近では、「コーポレート・ファイナンス」とよばれることが多い）は、株主の立場に立って、これら4つの企業構成要素のうち、主に、カネ（資金）の流れ（キャッシュフロー）から企業の意思決定ないし行動を分析し、どのような資金の調達と運用が企業価値の創造に結びつくのかを検討する経営学関連の主要な領域の一つである。</p> <p>経営財務論Ⅱでは、経営財務論Ⅰで学んだ知識を前提として、(1) 企業の投資行動、(2) 企業の資金調達と資本構成、(3) 企業の配当政策、を順次取り上げ、それらが企業価値や株主価値にどのような影響を与えるのかという観点から検討する。</p> <p>本講義の目標は、現在の企業経営を理解し分析するうえで不可欠な知識・分析手法を十分に理解し体得することである。</p>
到達目標	<p>資金（カネ）の流れ（キャッシュフロー）という視点から企業の行動を理解することができ、さらに、基礎的なレベルではあるとはいえ、それらの行動が企業価値の向上につながるものであるかどうかを、自ら評価し、判断することができる。</p>
授業方法と留意点	<p>配布する講義資料に沿って講義を進める。経営財務論における論点を十分に理解するためには、実際に数値例に取り組み、自分自身で計算してみるのが不可欠であることから、原則として、講義の後半30分程度を配布した演習問題に取り組み、質問に答える時間に当てる。電卓等の計算機器を携帯すること。</p> <p>原則として、講義資料はほぼ講義2～3回分について1回のペースで配布する。配布する講義資料は本講義のテキストであり、配布のつどファイルし、毎回の講義に持参すること。とりわけ最後まで説明が終了しなかった講義資料は翌週に必ず持参すること。また欠席した場合の過去の配布資料の提供にはどのような理由であれ応じないので注意すること。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>企業への就職希望者にとって必要な知識であり、専門的職業人（特に、証券アナリスト、公認会計士、ファイナンシャルプランナーなど）の資格取得にも密接に関連する。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	企業の投資決定と正味現在価値（NPV）	企業の投資決定の判断基準として用いられる「正味現在価値」（NPV）の意味を理解するとともに、企業の投資決定が、正味現在価値法を用いて、具体的にどのように行われるのかを検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
3	正味現在価値法（NPV法）の検討（1）	設例にもとづいて、正味現在価値法（NPV法）の具体的な利用方法を改めて理解するとともに、企業の投資決定ルールとしての正味現在価値（NPV）法の特徴を探る。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
4	正味現在価値法（NPV法）の検討（2）	前回の講義内容とは異なり、「株主価値」への影響という観点から、企業の投資決定ルールとしての正味現在価値（NPV）法の特徴を設例にもとづいて再度検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
5	もう一つの投資決定基準ー内部収益率法（IRR法）	正味現在価値法（NPV法）とともに、企業の投資決定基準とされる内部収益率法（IRR法）を学ぶ。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
6	正味現在価値法（NPV法）と内部収益率法（IRR法）の比較検討	二つの主要な企業の投資決定基準である正味現在価値法（NPV法）と内部収益率法（IRR法）を比較し、その長所・短所を検討する。加えて、実社会において用いられている、これら二つ以外の投資決定ルールについても簡単に取り上げる。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
7	リアル・オプション分析の基礎	リアル・オプションの意義を説明するとともに、企業の投資決定判断において、リアル・オプション分析が用いられる場合の企業投資判断への影響を検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
8	整理と復習（1）ー企業の投資決定ルール	企業の投資決定基準に関する各論点について、改めて整理を行い、復習・確認し、これらの意義と計算方法の確固とした理解を目指す。	これまでの講義において配布したすべての資料と演習問題を復習し、疑問点・理解不十分な箇所について各自整理しておくこと。質問を受ける。
9	企業の資金調達と投資行動	経営財務論Ⅱの後半の主要テーマの一つは企業の資金調達行動である。資金調達行動の分析に際して、まずは投資行動との関係から、資金調達のあり方が企業の投資行動とどのような関係にあるのかを考えてみる。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
10	企業の資本構成と企業価値（1）	前回の講義内容に続いて、企業の資金調達行動の違い、よって資本構成のあり方は「企業価値」に影響するのかどうかに関する有名な「MMの無関係命題」を説明する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
11	企業の資本構成と企業価値（2）	今回は、企業の資金調達が「株主価値」にどのような影響を与えるのかという観点から、企業の資金調達を検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
12	企業の最適資本構成	これまでの企業の資金調達行動の検討を踏まえたうえで、法人税の存在と	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した

			た現実的・制度的な状況のもとで、企業にとって望ましい資本構成のあり方を検討する。	資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
	13	企業の配当政策（１）	企業の配当政策が「株主価値」にどのように影響するのかについて、現金配当を念頭に置き、まず①有名な「MMの配当政策無関連命題」を取り上げ議論し、次いで②所得税の存在といった現実的・制度的な状況を前提に検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
	14	企業の配当政策（２）	今回は、配当政策の一つとみなされる「自社株買い」を念頭に置き、「株主価値」にどのような影響を与えるかについて検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
	15	整理と復習（２）－企業の資金調達と配当政策	後半の主要なテーマである企業の資金調達行動と配当政策、さらに経営財務論Ⅱで取り上げたすべての論点の整理と復習	これまでの講義全体を通じて（特に、後半のテーマであるに関する企業の資金調達と配当政策）において配布した集への資料と演習問題を復習し、疑問点・理解不十分な箇所について整理しておくこと。質問を受ける。
関連科目	簿記入門、ミクロ経済学、財務会計論、ファイナンス、会計情報分析論、企業分析（財務戦略ケース分析）など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	定期試験 95%、中間時点における1回の演習レポートの提出（提出の場合は事前に通知する） 5%			
学生へのメッセージ	経営財務論の議論は、経済学の分析枠組みを用いて展開されることが多く、そのため、経営学部の学生にとっては見慣れない専門用語が多く登場し、またかなり難解な内容も含まれることをあらかじめ念頭においておくこと。私語は他の熱心な受講者の迷惑となることから絶対に慎むこと。授業中に与えられた課題に熱心に取り組む必ずその時間内に納得したうえでやり終えること。質問は大いに歓迎する。			
担当者の研究室等	高尾研究室（11号館8階）			
備考	講義の内容が前後するなど若干の変更等がある場合は、可能な限り事前に伝える。これまでの講義に関する理解度を測るための中間時点での演習レポートについては、その後の授業において、全体として講評し、正解率の低い問題については、改めて説明する。			

科目名	経営史	科目名(英文)	Business History
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐藤 正志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	<p>企業経営の歴史的発展を英・米・日の事例を中心として比較史的に考察します。</p> <p>前半は、経営史学の方法論や資本主義経済を生み出したイギリスの産業革命期の経営を取り上げます。とくに、技術の発展や規格化・標準化が企業経営のあり方を大きく規定することを考察します。</p> <p>後半はアメリカの大量生産システムの形成について概観して、1920～30年代に現代の生産システムや消費社会の原型が誕生したことを、考えていきます。</p>																																																																		
到達目標	経営事象の本質を歴史的な視点から把握する能力をつけます。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式の授業。資料を配付して説明します。アメリカや日本の幅広い事例が出てきますので、板書事項をノートにとりながら、まとめてください。																																																																		
科目学習の効果(資格)	企業経営に関する基本事項を歴史的視点から学びますので、他の専門科目の理解を深めるのに役立つと思います。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経営史の方法論(1)</td> <td>マックス・ウェーバーの「エートス」論</td> <td>ウェーバーについて事前学習し、講義後にまとめる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>経営史の方法論(2)</td> <td>シュンペーター理論と企業者の役割</td> <td>シュンペーターのイノベーション理論の概要を事前学習し、講義後にまとめる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>技術の発展と企業(1)</td> <td>マニファクチュア経営と産業革命</td> <td>マニファクチュア、問屋制家内工業について事典で調べ、まとめる。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>技術の発展と企業(2)</td> <td>産業革命期の経営</td> <td>英国の産業革命の流れを事前学習し、講義後にまとめる。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>技術の発展と企業(3)</td> <td>規格化と標準化が勝敗を決める(ベータとVHSの争い)</td> <td>技術の発展が経営に与えた影響をまとめる。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>技術の発展と企業(4)</td> <td>後進国の産業革命(工業化)とガーゼンクロン・モデルの有効性</td> <td>日本の産業革命の特質について調べて、事前学習し、講義後にまとめる。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>英国経済の「衰退」の経営的要因</td> <td>英国経済は「衰退」したのか。「ジェントルマン資本主義論」から考察。</td> <td>イギリス近代経済史についての概要を把握する。また、文化と経営の関連性について調べ、まとめる。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>「アメリカ式生産システム」とフォード・システム(1)</td> <td>互換性部品生産方式と「科学的管理法」</td> <td>「アメリカ式生産システム」について事前学習し、講義後にまとめる。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>「アメリカ式生産システム」とフォード・システム(2)</td> <td>自動車産業の発展とフォード・システムの形成</td> <td>フォード・システムについて事前学習し、講義後にまとめる。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>「アメリカ式生産システム」とフォード・システム(3)</td> <td>フォードシステムとトヨタの「ジャスト・イン・タイム」</td> <td>「ジャスト・イン・タイム」について事前学習し、講義後にまとめる。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>「アメリカ式生産システム」とフォード・システム(4)</td> <td>「フォーディズム」と現代資本主義</td> <td>現代資本主義の特質について、事前学習し、講義後にまとめる。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>消費社会の成立(1)</td> <td>「消費」の変容と現代社会の成立</td> <td>「消費社会」に関する議論を予習し、講義後にまとめる。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>消費社会の成立(2)</td> <td>ブランドとは何か</td> <td>ブランドの概念を事前学習し、講義後にまとめる。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>消費社会の成立(3)</td> <td>ブランド商品の誕生</td> <td>具体的なブランド商品の事例について事前学習し、講義後にまとめる。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>—————</td> <td>練習問題</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	経営史の方法論(1)	マックス・ウェーバーの「エートス」論	ウェーバーについて事前学習し、講義後にまとめる。	2	経営史の方法論(2)	シュンペーター理論と企業者の役割	シュンペーターのイノベーション理論の概要を事前学習し、講義後にまとめる。	3	技術の発展と企業(1)	マニファクチュア経営と産業革命	マニファクチュア、問屋制家内工業について事典で調べ、まとめる。	4	技術の発展と企業(2)	産業革命期の経営	英国の産業革命の流れを事前学習し、講義後にまとめる。	5	技術の発展と企業(3)	規格化と標準化が勝敗を決める(ベータとVHSの争い)	技術の発展が経営に与えた影響をまとめる。	6	技術の発展と企業(4)	後進国の産業革命(工業化)とガーゼンクロン・モデルの有効性	日本の産業革命の特質について調べて、事前学習し、講義後にまとめる。	7	英国経済の「衰退」の経営的要因	英国経済は「衰退」したのか。「ジェントルマン資本主義論」から考察。	イギリス近代経済史についての概要を把握する。また、文化と経営の関連性について調べ、まとめる。	8	「アメリカ式生産システム」とフォード・システム(1)	互換性部品生産方式と「科学的管理法」	「アメリカ式生産システム」について事前学習し、講義後にまとめる。	9	「アメリカ式生産システム」とフォード・システム(2)	自動車産業の発展とフォード・システムの形成	フォード・システムについて事前学習し、講義後にまとめる。	10	「アメリカ式生産システム」とフォード・システム(3)	フォードシステムとトヨタの「ジャスト・イン・タイム」	「ジャスト・イン・タイム」について事前学習し、講義後にまとめる。	11	「アメリカ式生産システム」とフォード・システム(4)	「フォーディズム」と現代資本主義	現代資本主義の特質について、事前学習し、講義後にまとめる。	12	消費社会の成立(1)	「消費」の変容と現代社会の成立	「消費社会」に関する議論を予習し、講義後にまとめる。	13	消費社会の成立(2)	ブランドとは何か	ブランドの概念を事前学習し、講義後にまとめる。	14	消費社会の成立(3)	ブランド商品の誕生	具体的なブランド商品の事例について事前学習し、講義後にまとめる。	15	まとめ	—————	練習問題
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	経営史の方法論(1)	マックス・ウェーバーの「エートス」論	ウェーバーについて事前学習し、講義後にまとめる。																																																																
2	経営史の方法論(2)	シュンペーター理論と企業者の役割	シュンペーターのイノベーション理論の概要を事前学習し、講義後にまとめる。																																																																
3	技術の発展と企業(1)	マニファクチュア経営と産業革命	マニファクチュア、問屋制家内工業について事典で調べ、まとめる。																																																																
4	技術の発展と企業(2)	産業革命期の経営	英国の産業革命の流れを事前学習し、講義後にまとめる。																																																																
5	技術の発展と企業(3)	規格化と標準化が勝敗を決める(ベータとVHSの争い)	技術の発展が経営に与えた影響をまとめる。																																																																
6	技術の発展と企業(4)	後進国の産業革命(工業化)とガーゼンクロン・モデルの有効性	日本の産業革命の特質について調べて、事前学習し、講義後にまとめる。																																																																
7	英国経済の「衰退」の経営的要因	英国経済は「衰退」したのか。「ジェントルマン資本主義論」から考察。	イギリス近代経済史についての概要を把握する。また、文化と経営の関連性について調べ、まとめる。																																																																
8	「アメリカ式生産システム」とフォード・システム(1)	互換性部品生産方式と「科学的管理法」	「アメリカ式生産システム」について事前学習し、講義後にまとめる。																																																																
9	「アメリカ式生産システム」とフォード・システム(2)	自動車産業の発展とフォード・システムの形成	フォード・システムについて事前学習し、講義後にまとめる。																																																																
10	「アメリカ式生産システム」とフォード・システム(3)	フォードシステムとトヨタの「ジャスト・イン・タイム」	「ジャスト・イン・タイム」について事前学習し、講義後にまとめる。																																																																
11	「アメリカ式生産システム」とフォード・システム(4)	「フォーディズム」と現代資本主義	現代資本主義の特質について、事前学習し、講義後にまとめる。																																																																
12	消費社会の成立(1)	「消費」の変容と現代社会の成立	「消費社会」に関する議論を予習し、講義後にまとめる。																																																																
13	消費社会の成立(2)	ブランドとは何か	ブランドの概念を事前学習し、講義後にまとめる。																																																																
14	消費社会の成立(3)	ブランド商品の誕生	具体的なブランド商品の事例について事前学習し、講義後にまとめる。																																																																
15	まとめ	—————	練習問題																																																																
関連科目	現代日本経営史																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験結果(90%)、講義への積極的な取り組み姿勢・態度(10%)																																																																		
学生へのメッセージ	講義内容に関して不明な点や疑問点は、遠慮せずに質問してください。なお、紹介する参考文献にはできるだけ目をとおして、より理解を深めていただきたい。																																																																		
担当者の研究室等	11号館8階																																																																		
備考																																																																			



科目名	経営戦略論	科目名(英文)	Strategic Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北 真収
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	競争戦略の基本を学ぶことに主眼を置いています。基本戦略や考え方の枠組み(フレームワーク)だけでなく、最近のトピックスも含めて講義します。
到達目標	競争優位に通じるような思考方法や参考点を学ぶことによって、自分なりに課題解決のアイデアを考えたり、提案ができるような能力を習得することが目標です。
授業方法と留意点	事例を紹介しながら経営知識を講義します。特に、学習課題については発言を求めて理解を促進します。
科目学習の効果(資格)	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	シラバスを事前に読んでおくこと
	2	経営戦略とは何か	企業ドメインなどについて説明します	企業ドメインの果たす役割は何か
	3	競争の基本戦略	コスト、差異化、集中の戦略について説明します	それぞれの戦略の違いを理解しよう
	4	コストリーダーシップ戦略	規模の経済などについて説明します	低価格政策を意味しないことを理解しよう
	5	垂直的、水平的差異化	差異化戦略について説明します	両者の違いを理解しよう
	6	コストと差異化の両立	ブルー・オーシャン戦略について説明します	レッド・オーシャンとどう違うのか
	7	グループワーク(競争戦略)	競争戦略に関するビデオを視聴した後、グループワークを行います	基本戦略の内容を復習しておくこと
	8	先発優位の源泉	ネットワーク外部性などについて説明します	ICTの普及とネットワーク外部性の関係を理解すること
	9	先発企業の戦略	同質化戦略などについて説明します	模倣も重要な手法であるのか
	10	後発優位と逆転	サンク・コストなどについて説明します	先発企業の弱みは何か考えてみよう
	11	後発企業の戦略	チャレンジャーの戦略などについて説明します	競争上の位置によってとる戦略が違うことを理解しよう
	12	公的標準、事実上の標準	国際標準などについて説明します	標準がどのようにして決まるのだろうか
	13	オープン化戦略	オープン・イノベーションについて説明します	どこまでをオープンにするのか、理解しておこう
	14	業界構造分析	5フォース分析について説明します	自動車業界を分析してみよう
	15	まとめ	学んできた内容の要約と補足を行います	これまでの学習内容を復習しておくこと

関連科目	経営組織論、経営管理論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストブック 経営戦略	北 真収	岡山大学出版会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経営戦略入門	網倉久永・新宅純二郎	日本経済新聞出版社
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末試験60%、課題レポートなど40%で評価します。
学生へのメッセージ	事例を使って経営知識を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。
担当者の研究室等	11号館8階 北 真収 研究室(相談時は事前に連絡してください)
備考	

科目名	経営組織論	科目名(英文)	Organizational Behavior
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北 真取
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	組織理論の基本を学ぶことに主眼を置いています。組織現象はどのようにして生じるのか、どんな影響を与えるのか、そうしたメカニズムを事例や体験を通じて平易に講義します。
到達目標	組織現象について理解し、その背景的知識や思考方法を習得することを目標とします。
授業方法と留意点	事例を紹介しながら経営知識を講義します。特に、学習課題については発言を求めて理解を促進します。
科目学習の効果(資格)	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	シラバスを事前に読んでおくこと
	2	経営組織の特徴	分業の原理、調整の原理について説明します	役割分担について考えておくこと
	3	経営組織の構造	事業部制、持ち株会社制、プロジェクト組織、海外展開の組織を説明します	会社はどのように組織化しているのか
	4	グループワーク(経営組織の構造)	ネットワーク組織に関するビデオを視聴した後、グループワークを行います	企業間で協働する利点を考えておくこと
	5	モチベーション	達成欲求、内発的動機づけについて説明します	勉強意欲が高まるのはどのような時か
	6	キャリア	キャリア開発、ガラスの天井について説明します	キャリアについて考えてみよう
	7	リーダーシップ1	リーダーの役割、リーダーの行動について説明します	リーダーについてどんな人を連想するか
	8	リーダーシップ2	カリスマ、アントレプレナーについて説明します	起業家に必要なものは何か
	9	組織文化	組織文化の機能、逆機能について説明します	組織文化は仕事のやり方に影響を与えるか
	10	組織のライフサイクル	組織の成長モデルについて説明します	組織が大きくなるにつれて特性はどのように変わるか
	11	組織の変革1	変革への抵抗、組織慣性について説明します	人はなぜ、変革に抵抗するのだろうか
	12	組織の変革2	変革型ミドルについて説明します	変革はトップだけでなく、ミドルも主導できるのだろうか
	13	組織学習	高次学習、低次学習について説明します	どんな時に高次学習が必要になるのか
	14	人的資源管理	人事評価、エンパワーメントについて説明します	人事評価はどのように行われるべきか
	15	まとめ	学んできた内容の要約と補足を行います	これまでの学習内容を復習しておくこと

関連科目	経営戦略論、経営管理論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経営組織論	十川廣國	中央経済社
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末試験60%、課題レポートなど40%で評価します。
学生へのメッセージ	事例を使って経営知識を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。
担当者の研究室等	11号館8階 北 真取 研究室(相談時は事前に連絡してください)
備考	

科目名	経営組織論 I	科目名 (英文)	Theory of Business Organization I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北 真取
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	組織理論の基本を学ぶことに主眼を置いています。組織現象はどのようにして生じるのか、どんな影響を与えるのか、そうしたメカニズムを事例や体験を通じて平易に講義します。
到達目標	組織現象について理解し、その背景的知識や思考方法を習得することを目標とします。
授業方法と留意点	事例を紹介しながら経営知識を講義します。特に、学習課題については発言を求めて理解を促進します。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	シラバスを事前に読んでおくこと
	2	経営組織の特徴	分業の原理、調整の原理について説明します	役割分担について考えておくこと
	3	経営組織の構造	事業部制、持ち株会社制、プロジェクト組織、海外展開の組織を説明します	会社はどのように組織化しているのか
	4	グループワーク (経営組織の構造)	ネットワーク組織に関するビデオを視聴した後、グループワークを行います	企業間で協働する利点を考えておくこと
	5	モチベーション	達成欲求、内発的動機づけについて説明します	勉強意欲が高まるのはどのような時か
	6	キャリア	キャリア開発、ガラスの天井について説明します	キャリアについて考えてみよう
	7	リーダーシップ 1	リーダーの役割、リーダーの行動について説明します	リーダーについてどんな人を連想するか
	8	リーダーシップ 2	カリスマ、アントレプレナーについて説明します	起業家に必要なものは何か
	9	組織文化	組織文化の機能、逆機能について説明します	組織文化は仕事のやり方に影響を与えるか
	10	組織のライフサイクル	組織の成長モデルについて説明します	組織が大きくなるにつれて特性はどのように変わるか
	11	組織の変革 1	変革への抵抗、組織慣性について説明します	人はなぜ、変革に抵抗するのだろうか
	12	組織の変革 2	変革型ミドルについて説明します	変革はトップだけでなく、ミドルも主導できるのだろうか
	13	組織学習	高次学習、低次学習について説明します	どんな時に高次学習が必要になるのか
	14	人的資源管理	人事評価、エンパワーメントについて説明します	人事評価はどのように行われるべきか
	15	まとめ	学んできた内容の要約と補足を行います	これまでの学習内容を復習しておくこと

関連科目	経営戦略論、経営管理論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経営組織論	十川廣國	中央経済社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末試験 60%、課題レポートなど 40% で評価します。
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	事例を使って経営知識を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	11号館 8階 北 真取 研究室 (相談時は事前に連絡してください)
----------	------------------------------------

備考	
----	--

科目名	経営統計学	科目名(英文)	Business Statistics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	「統計学」という言葉を聞くと、多くの学生は難しいのではないかという印象を持つであろうが、手元にあるデータからその特徴を見つけ出すために必要となる学問である。統計学の考え方は、企業における意思決定支援のためのデータ解析手法として多くの場面で利用されている。本科目では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、統計学の基本的な考え方を学び、統計データの解析に必要な基礎的知識を身につける。
到達目標	統計データの整理の仕方や表・グラフでの表し方、基本統計量の求め方とその意味について理解し、実際のデータを客観的に解釈し活用するための基礎的な知識と技術を習得する。
授業方法と留意点	配布資料をもとに説明を行い、パソコンを使った演習により理解を深める。配布資料に含まれる演習問題を、表計算ソフトのExcelを使って解くことで理解を深める。
科目学習の効果(資格)	実用的な学問であるため、将来様々な分野の仕事で生かすことができる。社会調査士資格の取得に必要な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			_____
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、統計学とはどのような学問か	
2	統計学の基礎的発想(1)	変数、尺度水準	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
3	統計学の基礎的発想(2)	標本空間と事象、確率分布	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
4	統計資料の整理(1)	統計資料の収集と読み方	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
5	統計資料の整理(2)	統計資料のまとめ方、提示の方法	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
6	データの集計(1)	代表値について、平均値、分散、標準偏差	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
7	データの集計(2)	度数分布、ヒストグラム、標準化	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
8	前半のまとめ・学力診断テスト1	前半部分のまとめと確認テスト	前半部分の内容を見直しておく
9	データの集約(1)	クロス表とクロス集計	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
10	データの集約(2)	クロス集計の実践	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
11	データの相関関係(1)	散布図と相関関係、相関関係と因果関係	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
12	データの相関関係(2)	共分散と相関係数、相関係数の解釈、擬似相関	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
13	経営における統計学	経営分野で用いられる統計学の手法	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
14	後半のまとめ・学力診断テスト2	後半部分のまとめと確認テスト	後半部分の内容を見直しておく
15	統計学の応用	統計的検定・推定について、全体復習	全体復習の内容を整理しておく

関連科目 数学基礎Ⅰ、数学基礎Ⅱ、ビジネス情報処理Ⅱ、ビジネスデータ分析

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 講義内の課題(50%)、小テスト(50%)の結果により総合的に評価する。  
私語、スマートフォンの使用など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。

学生へのメッセージ 経営統計学は、数学を基礎とする学問ですので、数学が苦手な学生については、予習・復習が不可欠となります。積極的な講義への参加を心がけてください。

担当者の研究室等 11号館6階(杉本研究室)

備考 必要に応じて資料を配布する。

科目名	経営統計学	科目名(英文)	Business Statistics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	G H J K L M
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	樋口 友紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	「統計学」という言葉を聞くと、多くの学生は難しいのではないかという印象を持つであろうが、手元にあるデータからその特徴を見つけ出すために必要となる学問である。統計学の考え方は、企業における意思決定支援のためのデータ解析手法として多くの場面で利用されている。本科目では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、統計学の基本的な考え方を学び、統計データの解析に必要な基礎的知識を身につける。
到達目標	統計データの整理の仕方や表・グラフでの表し方、基本統計量の求め方とその意味について理解し、実際のデータを客観的に解釈し活用するための基礎的な知識と技術を習得する。
授業方法と留意点	配布資料をもとに説明を行い、パソコンを使った演習により理解を深める。配布資料に含まれる演習問題を、表計算ソフトのExcelを使って解くことで理解を深める。
科目学習の効果(資格)	実用的な学問であるため、将来様々な分野の仕事で生かすことができる。社会調査士資格の取得に必要な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			_____
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、統計学とはどのような学問か	
2	統計学の基礎的発想(1)	変数、尺度水準	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
3	統計学の基礎的発想(2)	標本空間と事象、確率分布	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
4	統計資料の整理(1)	統計資料の収集と読み方	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
5	統計資料の整理(2)	統計資料のまとめ方、提示の方法	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
6	データの集計(1)	代表値について、平均値、分散、標準偏差	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
7	データの集計(2)	度数分布、ヒストグラム、標準化	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
8	前半のまとめ・学力診断テスト1	前半部分のまとめと確認テスト	前半部分の内容を見直しておく
9	データの集約(1)	クロス表とクロス集計	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
10	データの集約(2)	クロス集計の実践	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
11	データの相関関係(1)	散布図と相関関係、相関関係と因果関係	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
12	データの相関関係(2)	共分散と相関係数、相関係数の解釈、擬似相関	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
13	経営における統計学	経営分野で用いられる統計学の手法	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
14	後半のまとめ・学力診断テスト2	後半部分のまとめと確認テスト	後半部分の内容を見直しておく
15	統計学の応用	統計的検定・推定について、全体復習	全体復習の内容を整理しておく

関連科目 数学基礎Ⅰ、数学基礎Ⅱ、ビジネス情報処理Ⅱ、ビジネスデータ分析

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 講義内の課題(50%)、小テスト(50%)の結果により総合的に評価する。  
私語、スマートフォンの使用など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。

学生へのメッセージ 経営統計学は、数学を基礎とする学問ですので、数学が苦手な学生については、予習・復習が不可欠となります。積極的な講義への参加を心がけてください。

担当者の研究室等 11号館8階(栢木教授室)

備考 必要に応じて資料を配布する。

科目名	経営とマーケティング	科目名(英文)	Marketing
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この講義では、マーケティングの基礎的知識について学習します。マーケティングの出発点は、消費者ニーズの把握にあります。そのため、消費行動を中心に、製品政策、価格政策、流通政策、販売促進政策の展開過程を学習していきます。
到達目標	マーケティングの基礎知識を学習し、現実のマーケティング現象を理解できるようになる。

授業方法と留意点	講義形式を基本とします。
----------	--------------

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	マーケティング概論の全体について、説明します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
2	マーケティングとは何か	マーケティングとは何かについて、説明します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
3	製品政策	製品の基本的な知識について学習します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。
4	価格政策	価格の基本的な知識について学習します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。
5	流通政策	流通の基本的な知識について学習します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通政策に関連する内容を読みましよう。
6	販売促進政策	販売促進の基本的な知識について学習します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。
7	マーケティングと消費行動	マーケティングと消費行動について説明します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと消費行動に関連する内容を読みましよう。
8	マーケティングと消費者の購買意思決定過程	消費者の購買意思決定過程について説明します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、消費者の購買意思決定過程について関連する文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
9	マーケティングと顧客満足	マーケティングと顧客満足について説明します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと顧客満足に関連する内容を読みましよう。
10	消費行動の歴史の変遷	消費行動の歴史の変遷過程について、説明します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動の歴史の変遷に関連する内容を読みましよう。
11	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチの基礎について説明します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティング・リサーチに関連する内容を読みましよう。
12	市場細分化戦略	市場細分化戦略について、説明します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、市場細分化戦略に関連する内容を読みましよう。
13	製品ライフサイクル戦略	製品ライフサイクルについて、説明します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品ライフサイクルに関連する内容を読みましよう。
14	競争の戦略	競争の基本戦略、企業の地位別戦略について、学習します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、競争戦略に関連する内容を読みましよう。
15	講義のまとめ	全体のまとめをします。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費行動	武居 奈緒子	晃洋書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代マーケティング論	高嶋克義・桑原秀史	有斐閣アルマ
2				
3				

評価方法(基準)	講義内課題 30%、期末試験 70%
----------	--------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	11号館8階 武居教授室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	経営分析論	科目名(英文)	Business Analysis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	企業は生まれてから消滅するまで会計情報を生み出す存在であり、企業の経営活動は会計情報(財務諸表)として記録され、報告される。本講座の目的は、企業がおこなった経営活動を記録した財務諸表を用いて、企業がどのように経営活動をおこない、利益を生み出しているのかについて理解することである。
到達目標	企業活動を理解するために最低限必要とする会計の基礎知識を習得し、その知識を用いて企業の問題点を把握・評価する。また、経営者の観点から、改善策を提案する。
授業方法と留意点	①貸借対照表、②損益計算書、③貸借対照表と損益計算書、の3つのテーマに分けて講義を進める。各テーマは事例を用いたディスカッションを実施する予定である。ディスカッションへの参加(発言)は成績評価にも大きく反映する。また、各テーマには簡単なアサインメントが与えられ、グループワークを実施する予定である。グループワークの結果は、グループ全員の評価となる。ディスカッション、グループワークに積極的に参加することが望ましい。科目の性格上、計算問題を解くことがある。電卓・ノートパソコンなどを持参することが望ましい。
科目学習の効果(資格)	中小企業診断士、証券アナリスト、ファイナンシャルプランナー、簿記検定など、会計関連資格取得に必要な基礎知識を提供する。また、ビジネスパーソンとして最低限必要である会計に関する基礎知識を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	企業の資金の流れと財務諸表の関係について解説する。	配布資料と講義計画を読み、講義全体の構成を把握する。
2	貸借対照表	経営活動の準備物リストである貸借対照表について把握する。また、インターネットを利用し、企業の財務諸表を入手する。	事前に予習資料を読み、簡単な計算問題を解いてみる。関心企業を選定し、貸借対照表を入手し、経営者の立場で財産の状態を把握する。
3	百分率貸借対照表と推移比分析	企業事例を用いて、企業の財政状態と安全性について評価する。百分率貸借対照表の作成と推移比分析を行う。また、流動比率、固定比率、自己資本比率の3つの安全性指標を計算する。	事前に予習資料を読み、簡単な計算問題を解いてみる。関心企業の安全性を評価する。
4	貸借対照表と安全性指標	企業事例を用いて、企業の安全性を改善する方法について検討・考察する。	関心企業の安全性を高める改善策について考える。
5	安全性と改善策①	貸借対照表のみを用いて、企業の安全性を評価し、安全性を改善する方法について議論する。	グループ内で任意に企業を選定し、安全性を評価し、改善する方法について議論する。報告内容をまとめ、報告資料を作成する。
6	安全性と改善策②	貸借対照表のみを用いて、企業の安全性を評価し、安全性を改善する方法について提案する。	作成した報告資料を報告し、提出する。
7	損益計算書	一定期間の経営成績をあらわす損益計算書について把握する。収益のみ、または、利益のみでは把握できない経営成績について考える。	事前に予習資料を読み、簡単な計算問題を解いてみる。関心企業の損益計算書を入手し、経営者の立場から、経営成績を把握する。
8	百分率損益計算書と利益率	企業事例を用いて、企業の経営成績を把握する。売上高営業利益率と百分率損益計算書を作成する。	事前に予習資料を読み、簡単な計算問題を解いてみる。関心企業の損益計算書を入手し、百分率損益計算書を作成する。
9	産業別損益計算書	企業事例を用いて、産業界競争相手との比較分析をおこなう。産業別損益計算書について議論する。	関心企業の同業他社の損益計算書を入手し、比較する。
10	収益性と改善策①	損益計算書のみを用いて、企業の収益性を高める方法について議論する。	グループ内で任意に企業を選定し、収益性を評価し、改善する方法について議論する。報告内容をまとめ、報告資料を作成する。
11	収益性と改善策②	損益計算書のみを用いて、企業の収益性を高める方法について提案する。	作成した報告資料を報告し、提出する。
12	投下資本利益率	貸借対照表と損益計算書の両方を用いた収益性分析について学習する。	事前に予習資料を読み、簡単な計算問題を解いてみる。
13	投下資本利益率の要因分解	投下資本利益率を分解し、要因分析を実施する。	関心企業の財務諸表から、投下資本利益率を計算し、分解する。
14	収益性と効率性①	貸借対照表と損益計算書を用いて、企業の投下資本利益率を高める方法について議論する。	グループ内で任意に企業を選定し、投下資本利益率を改善する方法について議論する。報告内容をまとめ、報告資料を作成する。
15	収益性と効率性②	貸借対照表と損益計算書を用いて、企業の投下資本利益率を高める方法について提案する。	作成した報告資料を報告し、提出する。

関連科目 企業簿記(簿記入門)、財務会計論、管理会計論、会計情報論、企業分析(財務戦略ケース分析)、経営財務論など

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定しないが、以下の参考書の中から1冊購入することを勧める		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス・アカウンティング	山根節・太田康広・村上祐太郎	中央経済社
2	財務諸表分析	桜井久勝	中央経済社
3	財務諸表分析	乙政正太	同文館出版

評価方法 (基準)	<p>グループワーク 30%+ディスカッション 30%+定期試験 40%=100%</p> <p>+ グループワーク：3つのテーマについて、グループワークを実施し、報告資料の作成と報告を実施する。</p> <p>+ ディスカッション：毎回の講義およびグループワークにおける発言、参加度などを評価する。</p> <p>+ 定期試験：予習資料+グループワーク+レジュメの内容を反映した定期試験を実施する。</p>
学生への メッセージ	<p>会計情報分析論では、企業経営について最も詳しい経営者が作成・報告した財務諸表を用いて経営活動を理解することを主な目標とする。経営者になる・なつつもりで講義に挑んでほしい。</p>
担当者の 研究室等	<p>11号館7階</p>
備考	<p>講義計画は、学生の進捗度、理解度などを考慮し、一部変更する可能性もある。変更がある場合は、事前にアナウンスする。また、毎回の講義は関連性が高く、テーマごとにグループワークを実施するため、欠席することは学習効果を非常に低下させるだけでなく、他の受講生の迷惑となることに注意してほしい。</p>



科目名	経営倫理 I	科目名 (英文)	Management Ethics I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>社会における情報化は非常に速いスピードで浸透し、情報技術は我々の生活の中で欠かせないものとなっている。その一方で、インターネットを使用した犯罪や事件は後を絶たず、利用者は被害者となるだけでなく、巧妙な手口から意図しないまま加害者となってしまうことさえある。こうした情報化社会における影の部分の部分を踏まえて、さまざまなトラブル事例から組織や個人としてどのように情報倫理を考えるかを学び、インターネット犯罪に対して防止・対応できる能力を養っていく。</p>
到達目標	インターネットやソーシャルメディアなどを使用するなかで、情報に接する際の倫理的な思考を養い、組織や個人としての行動規範を修得する。
授業方法と留意点	この授業は、講義とグループワークをセットで行う。講義を受けた後に事例研究を行い、グループワークで課題を発見する。次に、この課題に対する倫理観、防止・対応策を考え、レポートとしてまとめる。授業のなかでは、この内容を2回に分けて発表し、全体討論を行う。また、最終回には、情報倫理についての理解度を確認するテストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	ITパスポート試験、基本情報技術者試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	情報セキュリティとサイバー犯罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報倫理の必要性</li> <li>不正アクセス・なりすまし</li> <li>情報の改ざん</li> <li>クラウドサービスのリスク</li> <li>ネットウィルス・マルウェア</li> <li>レポート課題 (講義内容穴埋め)</li> </ul>	<p>事前学習：なし 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)</p>
2	事例研究(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査</li> <li>レポート課題 (グループワークによる討論・まとめ)</li> </ul>	<p>事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく (30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)</p>
3	ソーシャルメディアと情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネット時代のコミュニケーション</li> <li>ブログ・SNS・電子メール</li> <li>拡散と炎上</li> <li>ネット依存・誹謗・中傷</li> <li>ソーシャルゲーム</li> <li>レポート課題 (講義内容穴埋め)</li> </ul>	<p>事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)</p>
4	事例研究(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査</li> <li>レポート課題 (グループワークによる討論・まとめ)</li> </ul>	<p>事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく (30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)</p>
5	個人情報管理とプライバシー保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報の漏えい</li> <li>プライバシー侵害</li> <li>組織と個人の守秘義務</li> <li>レポート課題 (講義内容穴埋め)</li> </ul>	<p>事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)</p>
6	事例研究(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査</li> <li>レポート課題 (グループワークによる討論・まとめ)</li> </ul>	<p>事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく (30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)</p>
7	発表と全体討論	<ul style="list-style-type: none"> <li>提示テーマの資料作成および発表</li> </ul>	<p>事前学習：発表準備 (2時間) 事後学習：なし</p>
8	E-commerce (電子商取引)	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子決済・取引</li> <li>個人情報のためのネット認証</li> <li>ネット広告</li> <li>ネットオークション・ショッピング</li> <li>売買トラブル (悪徳商法・詐欺)</li> <li>レポート課題 (講義内容穴埋め)</li> </ul>	<p>事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)</p>
9	事例研究(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査</li> <li>レポート課題 (グループワークによる討論・まとめ)</li> </ul>	<p>事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく (30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)</p>
10	企業における情報倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンスと法令遵守</li> <li>事業と内部統制の両立</li> <li>ITシステムと企業倫理</li> <li>レポート課題 (講義内容穴埋め)</li> </ul>	<p>事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)</p>
11	事例研究(5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査</li> <li>レポート課題 (グループワークによる討論・まとめ)</li> </ul>	<p>事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく (30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)</p>
12	科学技術と情報倫理・知的財産権	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的財産の侵害</li> <li>著作物と著作権</li> <li>参考文献と引用</li> <li>マルチメディアコンテンツの複製</li> <li>レポート課題 (講義内容穴埋め)</li> </ul>	<p>事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)</p>
13	事例研究(6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査</li> <li>レポート課題 (グループワークによる討論・まとめ)</li> </ul>	<p>事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく (30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)</p>
14	発表と全体討論	<ul style="list-style-type: none"> <li>提示テーマの資料作成および発表</li> </ul>	<p>事前学習：発表準備 (2時間) 事後学習：なし</p>
15	まとめと理解の確認テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>総括</li> <li>確認テスト</li> </ul>	<p>事前学習：レポート課題の復習 (2時間) 事後学習：なし</p>

関連科目	情報処理関連の基礎科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	事例でわかる情報モラル 30 テーマ	実教出版編修部	実教出版(株)
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ネット炎上対策の教科書	小林 直樹	日経 BP 社
	2	情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー	高橋慈子、原田隆史ほか	技術評論社
	3			
評価方法 (基準)	平常点(出席態度、レポート課題)40%、発表(レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容)40%、理解の確認テスト20%を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	この授業では、グループワークでの討論、提出課題の作成、発表など出席しなければ達成できないことが非常に多くあります。必ず、毎回授業に参加すること。			
担当者の 研究室等	11号館6階 経営学部事務室			
備考				

科目名	経営倫理Ⅱ	科目名(英文)	Management Ethics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>・学ぶのは、「戦略」です。企業倫理の視点から今日的なテーマであるCSR（企業の社会的責任）を取り上げ、「ビジネス・スクール形式」で学びます。</p> <p>主な学習テーマは、以下のとおりです。</p> <p>①CSRとは何か？ 経営学部の学生にとって、なぜそれを学ぶことが必要なのか？</p> <p>②企業にとって、なぜCSRが必要なのか？</p> <p>③CSRを実践するにあたり、企業は具体的に何をすれば良いのか？</p> <p>④内部統制、リスクマネジメント、コンプライアンスとCSRは、どんな関連性があるのか？</p> <p>⑤CSRを、ビジネス戦略や企業の持続的成長にどう活かせば良いのか？</p>
到達目標	<p>・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。</p> <p>・CSRとビジネス戦略の関連性について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。</p> <p>・その到達目標をクリアできているか確認するため、毎回の授業においてケースメソッドによる個人作業、グループワーク、プレゼン、質疑応答等を実施し、その到達度合いを一人一人判定します。</p>
授業方法と留意点	<p>・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。</p> <p>① 基本的なCSRの企業事例について、実際のビジネス現場で起きるケースメソッド（仮想企業による事例研究）を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。</p> <p>② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学びます。</p> <p>③ グループメンバー、役割分担は定期的に変更し、自分の考えを主張するとともに、他人の考え方との違いを体感します。</p> <p>・なお、授業ではスマホ等を使ったキーワード検索等があります。スマホ等は必ず持参下さい。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>・中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目標とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します	<p>&lt;予習&gt; テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように。</p> <p>&lt;復習&gt; 授業の最後に必ず「本日のポイント」を説明します。その内容について、しっかり復習して下さい。</p>
	2	ケースメソッドⅠ：失敗の美学	企業事例研究：水産加工食品メーカーA社～①企業は、なぜ失敗するのか？～	同上
	3	同上②	企業事例研究：水産加工食品メーカーA社～②リスクダメージの原因分析とその対策～	同上
	4	同上③	企業事例研究：水産加工食品メーカーA社～③全社的內部統制とは？～	同上
	5	ケースメソッドⅡ：コンプラって、何だろう？	企業事例研究：加工食品メーカーB社～①コンプライアンスの判定基準～	同上
	6	同上②	企業事例研究：加工食品メーカーB社～②企業風土とコンプライアンス～	同上
	7	同上③	企業事例研究：加工食品メーカーB社～③営業取引とコンプライアンス～	同上
	8	同上④	企業事例研究：加工食品メーカーB社～④大企業と中小企業のコンプライアンス比較～	同上
	9	ケースメソッドⅢ：目指せ！「匠」のマネジメント	企業事例研究：調味料メーカーC社～①従業員の人材育成とCSR～	同上
	10	同上②	企業事例研究：調味料メーカーC社～②従業員の健康管理とCSR～	同上
	11	同上③	企業事例研究：調味料メーカーC社～③従業員の労災リスクとCSR～	同上
	12	同上④	企業事例研究：調味料メーカーC社～④食品のコンタミネーション管理とCSR～	同上
	13	ケースメソッドⅣ：いま、なぜ、CSR？	企業事例研究：監査法人F社～①同族経営とCSR～	同上
	14	同上②	企業事例研究：監査法人F社～②監査法人とCSR～	同上
	15	同上③	企業事例研究：監査法人F社～③企業不祥事とJ-SOX法～	同上

関連科目	企業分析（コーポレートガバナンス）など
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アクティブラーニング（ケースメソッド）授業テキスト CSR経営戦略[第2版]	大田住吉、佐々木公之	デザインエッグ社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CSR経営戦略	伊吹 英子	東洋経済新報社

	2	内部統制のポイント	三浦 太	中経出版
	3	中小企業のための「内部統制」制度の確立	武田 隆二	T K C 出版
評価方法 (基準)	①グループワークへの貢献度(参加意欲、個人作業、役割分担、発言内容など) (35%) ②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力 (15%) ③プレゼン力および質疑応答対応力 (15%) ④毎回の授業における理解度チェック小テスト(30%) ⑤定期試験(論述式) (5%) による総合評価。 ただし、①～④は、毎回の授業の都度採点し、集計します。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・35年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！</li> <li>・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	11号館7階 大田住吉研究室			
備考	理解度チェック小テストの結果については、授業の中で適宜フィードバックします。			

科目名	経済学入門	科目名(英文)	Introduction to Economics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	<p>本講義は経済に関する基礎的な考え方の修得を目的とする。モノやサービスを売ったり買ったりすることを経済という。例えば通学の際には電車やバスという交通サービスを購入し、学食で定食を食べるにもお金を払って定食というモノを購入している。また、アルバイトをすれば月々お金をもらうが、それは諸君が自らの労働力をバイト先に売っているからである。経済がいかに身近な現象であるかが分かるだろう。問題は、この身近な経済が私たちの目の届きにくい世界と密接に繋がっているということである。例えば数年前、太平洋を挟んだアメリカで住宅ローン市場に問題が発生し、多くの先輩達が就職に難儀した経緯がある。</p> <p>私たちは、これら経済を積極的に理解し、自力で対処する能力が必要なのである。本講義では基礎的ながらも重要な考え方を学生の理解度を重視しながら進める予定である。</p>
到達目標	経済問題を考えるための初歩的なスキルの修得
授業方法と留意点	教科書中心の講義形式で進める。ただし、受動的な受講姿勢とならないよう、「声を出す」ことを重視する。例えば教科書の音読、臨機応変な質疑応答などである。言うまでもなく教科書は必携である。私語への対処は、他の講義よりも厳しいと心得ておいて欲しい。また高校と異なり、大学の講義では板書よりも口頭説明が多く、自分なりのノートの取り方を工夫しておくこと。
科目学習の効果(資格)	日々の暮らしの中で遭遇する経営・経済問題を深く理解し、対処するスキルを身につけることができる。また多くの社会科学系専門科目をより深く理解するための基礎となり、資格取得・公務員試験などにも役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	分業の利益	分業、比較優位、機会費用について解説する。	教科書第1章を予習復習のこと
3	需要と供給	需要曲線、供給曲線について解説する。	教科書第2章を予習復習のこと
4	価格メカニズム	市場取引や価格決定のメカニズムについて解説する。	教科書第3章を予習復習のこと
5	市場の効率性	望ましい経済の基準として効率性について解説する。	教科書第4章を予習復習のこと
6	市場の失敗	市場は万能ではない。市場の失敗について解説する。	教科書第5章を予習復習のこと
7	市場の限界	市場の失敗の原因の一つである情報の非対称性や市場の限界について解説する。	教科書第6章を予習復習のこと
8	中間試験	前回までの内容について試験を行う。	復習を行っておくこと
9	労働市場	学生にとって最も身に染みて感じるであろう労働市場について解説する。	教科書第7章を予習復習のこと
10	GDPについて	国の豊かさを測るGDPについて解説する。	教科書第8、9章を予習復習のこと
11	消費需要と投資需要	GDP構成要素の消費と投資について解説する。	教科書第10章を予習復習のこと
12	貨幣と金融	経済取引に欠かせない貨幣と経済取引の大半を占める金融について解説する。	教科書第11章を予習復習のこと
13	政府の役割	市場は万能ではなく、政府の存在意義の一つもそこにある。政府の経済的な役割について解説する。	教科書第12章を予習復習のこと
14	外国貿易と為替レート	資源小国かつ技術立国日本は海外諸国との貿易で生計を立てている。日本の貿易の状況や為替レートの決定について解説する。	教科書第13章を予習復習のこと
15	経済成長と国民生活	経済の成長は豊かさの維持と密接に関わる。経済成長率の表し方やその分析方法について解説する。	教科書第14章を予習復習のこと

関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学など
------	-----------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	1からの経済学	中谷武、中村保 編著	碩学舎・中央経済社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	中間試験(50%)＋期末試験(50%)で評価する。なお、詳細は初回講義で述べる。
----------	--

学生へのメッセージ	単位取得のためではなく、自身の能力向上のために受講するんだ、という姿勢であって欲しい。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進願いたい。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館8階(岩坪教授室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	原価計算論 I	科目名 (英文)	Cost Accounting I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	三木 僚祐
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	商業簿記は、卸売店、小売店などの商品売買業を対象とする簿記であるが、工業簿記は、製造業（メーカー）を対象とする簿記である。製造業では、商品売買業では行われない製造活動が行われる。そこで、工業簿記では、外部取引に関する記録・計算の他に、外部から購入した材料、労働力、機械設備などの経営資源を利用して、企業内部で製品を造り出していく製造活動から生じる様々な取引の記録・計算が必要となる。また、製造活動の記録・計算のためには、原価計算も必要不可欠となる。本講義は、この工業簿記および原価計算の基礎知識を身につけることを目的としている。
到達目標	日商簿記検定2級程度の工業簿記の記帳ができることを目標とする。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。また、受講者の理解度を高めるため、授業の最後に毎回小テストを行う予定である。教科書を用いて授業を行うが、必要に応じて適宜補助プリントも配布する。
科目学習の効果 (資格)	日商簿記検定2級以上や公認会計士試験の受験のための基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の内容、授業の進め方、評価基準等についての説明	_____
2	工業簿記の基礎 (1)	工業簿記とは、工業簿記と原価計算の関係、原価とは	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30分)。
3	工業簿記の基礎 (2)	製造原価の分類、原価計算の手続過程、原価計算の形態	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30分)。
4	材料費の計算 (1)	材料費の分類、材料購入原価の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30分)。
5	材料費の計算 (2)	材料消費量の把握、材料消費価格の計算、棚卸減耗費の把握	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30分)。
6	労務費の計算 (1)	労務費の分類、支払賃金の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30分)。
7	労務費の計算 (2)	消費賃金の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30分)。
8	経費の計算	経費の分類、経費の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30分)。
9	部門別計算 (1)	部門別計算の目的、原価部門の設定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30分)。
10	部門別計算 (2)	部門個別費と部門共通費の区分、原価要素の各部門への集計	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30分)。
11	部門別計算 (3)	補助部門費の配賦	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30分)。
12	個別原価計算	個別原価計算の意義、個別原価計算の手続	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30分)。
13	総合原価計算 (1)	総合原価計算の意義、単純総合原価計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30分)。
14	総合原価計算 (2)	組別総合原価計算、等級別総合原価計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する (30分)。
15	まとめ	授業全体のまとめ	事前：今までの内容を復習する (60分)。 事後：特に苦手な部分を復習する (60分)。

関連科目	簿記入門、財務会計論、管理会計論
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	原価・管理会計の基礎	山田庫平他	中央経済社
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	定期試験の点数 (70点) と毎回の授業で行う小テストの合計点数 (30点) に基づいて評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業中の私語は周りの受講生の迷惑になるので絶対に慎んで下さい。また、講義内容で分からないところがあれば、遠慮なく質問して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館7階 (三木准教授室)
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	現代社会論	科目名(英文)	Challenges of Modern Society
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	いわゆる日本の高度成長期には「消費は美德」という言葉が流行した。「大量生産/大量消費社会」を賛美したものである。しかし、現在ではこれはもはや死語である。代わって、時代をリードしているのは「Mottainai(もったいない)」であるが、現代社会は本当にエコロジーを軸に転換することに成功しているだろうか。この講義では、20世紀の半ば以降、今日に至るまで社会を動かしている経済のシステムを理解した上で、それを変革するための道を探る。
到達目標	資本主義の精神的基盤について理解する。 古典的資本主義の限界と現代資本主義の特徴を理解する。 現代資本主義の限界、特に「外部問題」について理解する。 「成長の限界」において何が問われているのかを理解する。 資本主義に代わる社会のあり方について、自分なりの考えをまとめる。
授業方法と留意点	テキストを用いない「ノート講義」方式。適宜プリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	現代社会の根幹をなす資本主義を理解することによって、自分たちが混沌の時代に生きていること、また、これにどう対処すべきかのヒントが得られるはず。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業への導入	・現代=近代の特徴とは何か ・(熱い)社会と(冷たい)社会(レイヴイストロース) ・資本主義と成長の「神話」	現代社会の特徴と問題点を自分なりに考えてみる。
2	資本主義社会の成立(1)	・冒険商人と資本家 ・「倫理」としての資本主義(マックス・ウェーバー)	配付資料について自分なりの考えをまとめる。
3	資本主義社会の成立(2)	・恋愛と贅沢と資本主義(ゾンバルト) ・禁欲的生産と享乐的消費の関係	ウェーバーとゾンバルトの着眼点の違いを整理して、現代の商品開発に当てはめてみる。
4	古典的資本主義の限界と現代資本主義	・資本主義の帰結としての恐慌と帝国主義 ・現代資本主義の登場(フォードとGMの経営戦略)	『現代社会の理論』の該当箇所を読んでおく。
5	現代資本主義社会の特徴	・大量生産/大量消費社会 ・情報化/消費化社会におけるゆたかさ	『現代社会の理論』の該当箇所を読んでおく。
6	産業の文明的進化と情報化社会	・梅棹忠夫の「情報産業論」 ・情報化と脱工業化 ・情報化と消費化	『情報の文明学』の該当箇所を読んでおく。
7	情報化と人間社会	・インターネットの発達とコミュニケーションの変質 ・ネット社会の光と影	ネット社会の問題点を自分なりに考えてくる。
8	大衆社会と消費文化	・社会の大衆化と文化としての消費 ・情報の消費としてのマス・コミュニケーション ・消費と消尽(バタイユ)	社会の大衆化によって形成されてきた消費文化の事例を考えてみる。
9	現代社会の「外部問題」(1)	・経済システムと物理システム ・資源・エネルギーと環境の経済的「価値」	『現代社会の理論』の該当箇所を読んでおく。
10	現代社会の「外部問題」(2)	・貨幣の謎とエントロピー ・エコロジー経済学の可能性	エントロピー概念についての資料を理解する。
11	現代社会の「外部問題」(3)	・社会システムの限界としての「共有地の悲劇」 ・外部問題としての南北問題 ・途上国の人口爆発と先進国の少子高齢化	「共有地の悲劇」について調べてくる。
12	「成長の限界」をめぐって(1)	・『成長の限界』の予測とそれに対する様々な評価 ・エネルギー・資源の限界と「2050年問題」	「算術級数的増加」と「幾何級数的増加」の意味について調べてくる。
13	「成長の限界」をめぐって(2)	・成長神話からの脱却 ・江戸時代における循環型社会 ・循環型社会の構築のための条件	フローとストックについて調べてくる。
14	グローバル化と自由主義	・グローバル化の様々な局面 ・市場主義と経済の自由 ・リベタリアンとコミュニタリアン	グローバル化の事例について調べてみる。
15	まとめ	・講義全体のまとめ	これまでの講義ノートをまとめておく。

関連科目	環境倫理II
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の(精神)	M・ウェーバー	岩波文庫
	2	情報の文明学	梅棹忠夫	中公文庫
	3	現代社会の理論	見田宗介	岩波新書

評価方法 (基準)	授業内のレポート・平常点 (40%)、授業後のレポート、期末試験 (60%)
学生への メッセージ	環境問題の解決のためには現代社会全体の変革が必要です。21世紀のあるべき企業の姿もそこに重なっていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階
備考	事前・事後学習におよそ60時間必要。



科目名	現代日本経営史	科目名(英文)	Business History of Modern Japan
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐藤 正志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	第2次大戦後の日本経済・産業の発展過程をたどりながら、各時代を代表する企業と企業家(経営者)を取り上げ、その経営活動と経営理念を分析します。 企業の形成過程を、経済の発展段階との関連をふまえて考察し、これからの企業・企業者像を考えていきます。
到達目標	経営事象の本質を歴史的な視点から把握することができる力をつけます。
授業方法と留意点	学習内容の理解を深めるために、資料の配付や視聴覚教材(ビデオ等)を用いながら講義形式で実施します。ビデオはしっかり鑑賞してください。
科目学習の効果(資格)	企業経営に関する基本的事項を歴史的観点から、また企業者の行動や考えを通して学びますので、他の専門科目の理解を深めるのに役立つと思います。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	戦後の経済発展の枠組みと企業経営(1)	戦時経済の「遺産」と戦後企業経営	第2次大戦後の経済と「戦時経済」との間わりについて予習し、講義後にまとめる。
	2	戦後の経済発展の枠組みと企業経営(2)	高度経済成長と企業経営の変容	戦後を代表する企業とその経営者をリストアップし、講義後その共通点について、まとめる。
	3	高度経済成長と企業(1)	家電メーカーの発展と生活の変化	関西に家電メーカーが多く生まれた歴史的要因について調べて、講義後にまとめる。
	4	高度経済成長と企業(2)	松下電器の発展と松下幸之助の経営哲学	松下の経営理念「水道哲学」とは何か、またそれは現在のパナソニックに引き継がれているのか、事前に調べ、講義後にまとめる。
	5	高度経済成長と企業(3)	二輪車メーカーの叢生とホンダ	戦後、二輪車メーカーが多数誕生するが、最終的にホンダなど数社に集約された要因についてまとめる。
	6	高度経済成長と企業(4)	「二人三脚」経営：本田宗一郎と藤沢武夫	ホンダが世界的メーカーへと発展した要因を調べ、まとめる。
	7	高度経済成長と企業(5)	SONY：井深大と盛田昭夫	SONYの発展をもたらした要因について予習し、講義後にまとめる。
	8	流通革命と企業経営(1)	戦後流通業の変化：「繁盛店」からコンビニ、ネット販売へ	流通業界の主役の移り変わりを調べて、講義後にまとめる。
	9	流通革命と企業経営(2)	中内・ダイエーの「流通革命」	中内の「流通革命」について予習し、講義後にまとめる。
	10	流通革命と企業経営(3)	ダイエーの挫折：多角化と消費者の変容	ダイエーの経営の失敗について、その要因を調べて、まとめる。また、中内の「流通革命」の成果は現在どのような形で引き継がれているのかを考える。
	11	流通革命と企業経営(4)	セブンイレブン・鈴木敏文の発想	鈴木による小売業の革新は、海外においても通用するのか、考え、まとめる。
	12	IT革命と企業(1)	孫正義(ソフトバンク)の経営理念	PC、インターネットの発展がもたらした企業経営の変容を調べる。
	13	IT革命と企業(2)	孫正義の経営行動：「マイノリティ」としての存在	孫正義がどのような理念で経営行動を行っているのか、事前に調べて、講義後にまとめる。
	14	ゲーム産業の発展と展望	任天堂とソニー	日本のゲーム産業の歴史について、事前に調べて、講義後にまとめる。
	15	まとめ	—————	練習問題

関連科目	経営史、企業者史(S科科目)
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験結果(90%)、講義への積極的な取り組み姿勢、態度(10%)で評価。
----------	--

学生へのメッセージ	講義内容に対する不明点や疑問は遠慮なく質問してください。また、紹介する参考文献にはできる限り目を通してください。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館8階(佐藤研究室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	工業簿記	科目名(英文)	Industry Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	三木 僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	商業簿記は、卸売店、小売店などの商品売買業を対象とする簿記であるが、工業簿記は、製造業(メーカー)を対象とする簿記である。製造業では、商品売買業では行われない製造活動が行われる。そこで、工業簿記では、外部取引に関する記録・計算の他に、外部から購入した材料、労働力、機械設備などの経営資源を利用して、企業内部で製品を造り出していく製造活動から生じる様々な取引の記録・計算が必要となる。また、製造活動の記録・計算のためには、原価計算も必要不可欠となる。本講義は、この工業簿記および原価計算の基礎知識を身につけることを目的としている。
到達目標	日商簿記検定2級程度の工業簿記の記帳ができることを目標とする。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。また、受講者の理解度を高めるため、授業の最後に毎回小テストを行う予定である。教科書を用いて授業を行うが、必要に応じて適宜補助プリントも配布する。
科目学習の効果(資格)	日商簿記検定2級以上や公認会計士試験の受験のための基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の内容、授業の進め方、評価基準等についての説明	_____
2	工業簿記の基礎(1)	工業簿記とは、工業簿記と原価計算の関係、原価とは	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
3	工業簿記の基礎(2)	製造原価の分類、原価計算の手続過程、原価計算の形態	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
4	材料費の計算(1)	材料費の分類、材料購入原価の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
5	材料費の計算(2)	材料消費量の把握、材料消費価格の計算、棚卸減耗費の把握	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
6	労務費の計算(1)	労務費の分類、支払賃金の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
7	労務費の計算(2)	消費賃金の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
8	経費の計算	経費の分類、経費の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
9	部門別計算(1)	部門別計算の目的、原価部門の設定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
10	部門別計算(2)	部門個別費と部門共通費の区分、原価要素の各部門への集計	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
11	部門別計算(3)	補助部門費の配賦	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
12	個別原価計算	個別原価計算の意義、個別原価計算の手続	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
13	総合原価計算(1)	総合原価計算の意義、単純総合原価計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
14	総合原価計算(2)	組別総合原価計算、等級別総合原価計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30分)。
15	まとめ	授業全体のまとめ	事前：今までの内容を復習する(60分)。 事後：特に苦手な部分を復習する(60分)。

関連科目	簿記入門、財務会計論、管理会計論
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	原価・管理会計の基礎	山田庫平他	中央経済社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準)	定期試験の点数(70点)と毎回の授業で行う小テストの合計点数(30点)に基づいて評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	授業中の私語は周りの受講生の迷惑になるので絶対に慎んで下さい。また、講義内容で分からないところがあれば、遠慮なく質問して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館7階(三木准教授室)
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	コーポレート・ファイナンス I	科目名 (英文)	Corporate Finance I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高尾 裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	<p>一般に企業は、ヒト、モノ、カネ、情報・技術ら構成されるといわれることがある。経営財務論（最近では、「コーポレート・ファイナンス」とよばれることが多い）は、株主の立場に立って、これら4つの企業構成要素のうち、主に、カネの流れ（キャッシュフロー）から企業の行動ないし意思決定のあり方を分析し、どのような資金の調達と運用が企業価値の創造に結びつくのかを検討する経営学関連の主要な領域の一つである。経営財務論 I では、経営財務論における一連の主要な基礎概念なり、その算定方法（例えば、企業の資金調達方法、リスクとリターンとの関係、アセット・プライシング、資本コスト、キャッシュフローと現在価値、企業価値評価など）を学ぶ。現在の企業行動を理解するために必要不可欠なこれらの基礎概念・算定方法およびそれらの相互の関係を十分に理解し体得することが、まずは本講義の目標である。</p>
到達目標	<p>現在の経済社会において不可欠な経営財務（コーポレート・ファイナンス）における基礎概念（期待収益率、リスク、資本コスト、現在価値、資本資産評価モデルなど）に関する知識を修得し、簡単な企業価値評価を自ら行うことができる。</p>
授業方法と留意点	<p>配布する講義資料に沿って講義を進める。経営財務論における論点を十分に理解するためには、実際に数値例に取り組み、自分自身で計算してみることが不可欠であることから、原則として、講義の後半30分程度は、配布した演習問題に取り組み、質問に答える時間に当てる。毎回、電卓等の計算機器を携帯すること。</p> <p>原則として講義資料はほぼ講義2～3回分について1回のペースで配布する。配布する資料は本講義のテキストであり、ファイルして講義に際して持参すること。とりわけ最後まで説明が終了しなかった講義資料については、翌週に必ず持参することが必要である。また欠席した場合の過去の配布資料の提供にはどのような理由であれ応じないで、注意すること。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>企業への就職希望者にとって必要な知識が得られ、また専門的職業人（とくに公認会計士、証券アナリスト、ファイナンシャルプランナーなど）の資格取得にも密接に関連する。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	企業の資金調達（1）ー自己資金調達（エクイティ・ファイナンス）	現行制度のもとでの企業の資金調達の主要な手段を概観するとともに、自己資金調達（株式発行、内部資金などによる資金調達）について検討する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
3	企業の資金調達（2）ー負債調達（デット・ファイナンス）	現行制度のもとでの企業の資金調達方法のもう一つの主要な手段である各種の負債調達（社債発行、銀行借入などによる資金調達）について検討するとともに、自己資金調達との比較を行う。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所は必ず質問すること。
4	資本コストとリターン（期待収益率）	経営財務論におけるキーワードの一つである、企業サイドからの「資本コスト」および資金提供者サイドからの「リターン（期待収益率）」の一般的な意味とその計算方法の基礎を説明する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
5	リスクとリターン（期待収益率）	経営財務論のキーワードの一つである「リスク」の意味を学び、リスクとリターン（期待収益率）の関係、さらに、「リスク・プレミアム」の意味を理解する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
6	企業の資本コスト（1）	前々回・前回の講義内容を前提に、企業が資金調達するうえで極めて重要な「負債の資本コスト」・「株式の資本コスト（自己資本コスト）」・「総資本コスト」の意味を学ぶ。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
7	企業の資本コスト（2）	前回の講義内容を前提に、今回は、「負債の資本コスト」・「株式の資本コスト」・「総資本コスト」の関係を理解し、改めて3つの資本コストの理解をより確実なものにする。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
8	資本資産評価モデル（CAPM）の基礎（1）	リスクとリターンの関係を理解し、株式の資本コストを推計するうえで極めて重要な資本資産評価モデル（CAPM）の基礎的な考え方を説明する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
9	資本資産評価モデル（CAPM）の基礎（2）	前回の講義に引き続き、リスクとリターンの関係を理解し、株式の資本コストを推計するうえで極めて重要な資本資産評価モデル（CAPM）の基礎的な考え方とその意義を説明する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
10	整理と復習（1）ーリスク、リターン、資本コストおよび資本資産評価モデル（CAPM）	企業の資本コスト（負債の資本コスト、株式の資本コスト、総資本コスト）を中心に、リスクおよびリターンの関係およびCAPMの各論点について、整理を行い、復習し、改めてこれらのキー概念およびCAPMの正確な理解に努める。	これまでの講義において配布したすべての資料と演習問題を改めて復習し、疑問点・理解不十分な箇所について各自整理しておくこと。質問を受ける。
11	キャッシュフローと現在価値計算（1）	経営財務論の根幹をなすキャッシュフローの（割引）現在価値の計算方法の基礎を、リスクがない場合とリスクがある場合の2つのケースについて学ぶ。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。分からない箇所があれば必ず質問すること。
12	キャッシュフローと現在価値計算（2）	前回の講義に引き続き、キャッシュフローの（割引）現在価値の計算方法を学ぶ。今回の講義で取りあげるのは、多期間キャッシュフローを前提とした現在価値計算の方法である。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。

	13	企業価値とDCF法	前々回・前回の講義内容をもとに、負債価値と株主資本価値の合計としての「企業価値」がどのように求められるのかを学ぶ。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。																
	14	企業のリスクとコーポレート・ガバナンス	近時の経営財務論において、主要な論点の一つとして注目されているコーポレート・ガバナンスについて、企業を取り巻く各種リスクの意味をふまえ、企業価値創造の観点から検討する	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。																
	15	整理と復習(2)ー現在価値計算と企業価値	後半の主要なテーマである割引計算の方法と企業価値の算定方法、さらに経営財務論Ⅰ全体の講義の整理と復習	これまでの講義全体を通じて(特に、後半のテーマである割引計算と企業価値に関する講義)において配布したすべての資料と演習問題を復習し、疑問点・理解不十分な箇所について整理しておくこと。質問を受ける。																
関連科目	簿記入門、ミクロ経済学、財務会計論、ファイナンス、会計情報分析論、企業分析(財務戦略ケース分析)など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	定期試験 95%、中間時点における1回の演習レポートの提出(提出の場合は事前に通知する) 5%																			
学生へのメッセージ	経営財務論の議論は、経済学の分析枠組みを基礎に展開されることが多く、そのため、経営学部の学生にとっては見慣れない専門用語が多く登場し、またかなり難解な内容も含まれることをあらかじめ念頭においておくこと。私語は他の熱心な受講生の迷惑となることから絶対に慎むこと。質問は大いに歓迎する。																			
担当者の研究室等	高尾研究室(11号館8階)																			
備考	講義の内容が前後するなど若干の変更等がある場合は、可能な限り事前に伝える。これまでの理解度を測るために行われる中間時点で提出を求める演習レポートについては、全体として講評し、正解率の低い問題については、改めてその後の授業において解説する。																			

科目名	コーポレート・ファイナンスⅡ	科目名(英文)	Corporate Finance II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高尾 裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	<p>一般に企業は、ヒト、モノ、カネ、情報・技術から構成されるといわれることがある。経営財務論（最近では、「コーポレート・ファイナンス」とよばれることが多い）は、株主の立場に立って、これら4つの企業構成要素のうち、主に、カネ（資金）の流れ（キャッシュフロー）から企業の意思決定ないし行動を分析し、どのような資金の調達と運用が企業価値の創造に結びつくのかを検討する経営学関連の主要な領域の一つである。</p> <p>経営財務論Ⅱでは、経営財務論Ⅰで学んだ知識を前提として、(1) 企業の投資行動、(2) 企業の資金調達と資本構成、(3) 企業の配当政策、を順次取り上げ、それらが企業価値や株主価値にどのような影響を与えるのかという観点から検討する。</p> <p>本講義の目標は、現在の企業経営を理解し分析するうえで不可欠な知識・分析手法を十分に理解し体得することである。</p>
到達目標	<p>資金（カネ）の流れ（キャッシュフロー）という視点から企業の行動を理解することができ、さらに、基礎的なレベルではあるとはいえ、それらの行動が企業価値の向上につながるものであるかどうかを、自ら評価し、判断することができる。</p>
授業方法と留意点	<p>配布する講義資料に沿って講義を進める。経営財務論における論点を十分に理解するためには、実際に数値例に取り組み、自分自身で計算してみるということが不可欠であることから、原則として、講義の後半30分程度を配布した演習問題に取り組み、質問に答える時間に当てる。電卓等の計算機を携帯すること。</p> <p>原則として、講義資料はほぼ講義2～3回分について1回のペースで配布する。配布する講義資料は本講義のテキストであり、配布のつどファイルし、毎回の講義に持参すること。とりわけ最後まで説明が終了しなかった講義資料は翌週に必ず持参すること。また欠席した場合の過去の配布資料の提供にはどのような理由であれ応じないので注意すること。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>企業への就職希望者にとって必要な知識であり、専門的職業人（特に、証券アナリスト、公認会計士、ファイナンシャルプランナーなど）の資格取得にも密接に関連する。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	企業の投資決定と正味現在価値（NPV）	企業の投資決定の判断基準として用いられる「正味現在価値」（NPV）の意味を理解するとともに、企業の投資決定が、正味現在価値法を用いて、具体的にどのように行われるのかを検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
3	正味現在価値法（NPV法）の検討（1）	設例にもとづいて、正味現在価値法（NPV法）の具体的な利用方法を改めて理解するとともに、企業の投資決定ルールとしての正味現在価値（NPV）法の特徴を探る。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
4	正味現在価値法（NPV法）の検討（2）	前回の講義内容とは異なり、「株主価値」への影響という観点から、企業の投資決定ルールとしての正味現在価値（NPV）法の特徴を設例にもとづいて再度検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
5	もう一つの投資決定基準ー内部収益率法（IRR法）	正味現在価値法（NPV法）とともに、企業の投資決定基準とされる内部収益率法（IRR法）を学ぶ。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
6	正味現在価値法（NPV法）と内部収益率法（IRR法）の比較検討	二つの主要な企業の投資決定基準である正味現在価値法（NPV法）と内部収益率法（IRR法）を比較し、その長所・短所を検討する。加えて、実社会において用いられている、これら二つ以外の投資決定ルールについても簡単に取り上げる。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
7	リアル・オプション分析の基礎	リアル・オプションの意義を説明するとともに、企業の投資決定判断において、リアル・オプション分析が用いられる場合の企業投資判断への影響を検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
8	整理と復習（1）ー企業の投資決定ルール	企業の投資決定基準に関する各論点について、改めて整理を行い、復習・確認し、これらの意義と計算方法の確固とした理解を目指す。	これまでの講義において配布したすべての資料と演習問題を復習し、疑問点・理解不十分な箇所について各自整理しておくこと。質問を受ける。
9	企業の資金調達と投資行動	経営財務論Ⅱの後半の主要テーマの一つは企業の資金調達行動である。資金調達行動の分析に際して、まずは投資行動との関係から、資金調達のあり方が企業の投資行動とどのような関係にあるのかを考えてみる。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
10	企業の資本構成と企業価値（1）	前回の講義内容に続いて、企業の資金調達行動の違い、よって資本構成のあり方は「企業価値」に影響するのかどうかに関する有名な「MMの無関係命題」を説明する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
11	企業の資本構成と企業価値（2）	今回は、企業の資金調達が「株主価値」にどのような影響を与えるのかという観点から、企業の資金調達を検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
12	企業の最適資本構成	これまでの企業の資金調達行動の検討を踏まえたうえで、法人税の存在と	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した

			た現実的・制度的な状況のもとで、企業にとって望ましい資本構成のあり方を検討する。	資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
	13	企業の配当政策（１）	企業の配当政策が「株主価値」にどのように影響するのかについて、現金配当を念頭に置き、まず①有名な「MMの配当政策無関連命題」を取り上げ議論し、次いで②所得税の存在といった現実的・制度的な状況を前提に検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
	14	企業の配当政策（２）	今回は、配当政策の一つとみなされる「自社株買い」を念頭に置き、「株主価値」にどのような影響を与えるかについて検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
	15	整理と復習（２）－企業の資金調達と配当政策	後半の主要なテーマである企業の資金調達行動と配当政策、さらに経営財務論Ⅱで取り上げたすべての論点の整理と復習	これまでの講義全体を通じて（特に、後半のテーマであるに関する企業の資金調達と配当政策）において配布した集への資料と演習問題を復習し、疑問点・理解不十分な箇所について整理しておくこと。質問を受ける。
関連科目	簿記入門、ミクロ経済学、財務会計論、ファイナンス、会計情報分析論、企業分析（財務戦略ケース分析）など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	定期試験 95%、中間時点における1回の演習レポートの提出（提出の場合は事前に通知する） 5%			
学生へのメッセージ	経営財務論の議論は、経済学の分析枠組みを用いて展開されることが多く、そのため、経営学部の学生にとっては見慣れない専門用語が多く登場し、またかなり難解な内容も含まれることをあらかじめ念頭においておくこと。私語は他の熱心な受講者の迷惑となることから絶対に慎むこと。授業中に与えられた課題に熱心に取り組み必ずその時間内に納得したうえでやり終えること。質問は大いに歓迎する。			
担当者の研究室等	高尾研究室（11号館8階）			
備考	講義の内容が前後するなど若干の変更等がある場合は、可能な限り事前に伝える。これまでの講義に関する理解度を測るための中間時点での演習レポートについては、その後の授業において、全体として講評し、正解率の低い問題については、改めて説明する。			

科目名	国際会計論	科目名 (英文)	International Accounting
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 信博
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	次の内容について講義する。 ①簿記及び会計の仕組みを英文で学習していく。具体的には、取引の仕訳、勘定記入、決算及び財務諸表の作成をすべて英文で行い、英文簿記の手続と基本単語を学習する ②わが国の会計基準に関する基礎的な項目を踏まえて、米国会計基準および IFRS の特質を講義する。
到達目標	以下の3つの到達目標をおく。 ①簿記・会計学を英語で理解するとともに簡単な英文財務諸表を分析・解釈できるようになる。 ②わが国の会計基準、米国会計基準、国際財務報告基準 (IFRS) の違いを把握する。 ③IFRS の最近の動向を理解する。
授業方法と留意点	講義および演習方式。毎回小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	まずは日本商工会議所「BATIC (国際会計検定)」Subject1 クリアをめざす。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	仕訳・勘定記入・精算表・財務諸表の作成	英文会計における簿記一巡について学ぶ。	小テストに備えて練習問題を解く。
	2	英文財務諸表の概要	英文財務諸表の基本的なフォーマットについて俯瞰する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
	3	現金預金および売上債権	現金の定義および管理、売上債権の種類および貸倒引当金ついて詳細に説明する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
	4	棚卸資産および固定資産	棚卸資産の種類・評価方法および固定資産の種類・費用化手続きを学ぶ。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
	5	仕入債務および固定負債	仕入債務の種類および社債について説明する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
	6	株主持分	株主持分である払込資本および留保利益について詳細に説明する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
	7	収益の認識・測定	具体的な収益の認識・測定基準を学ぶ。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
	8	費用の認識・測定	具体的な費用の認識・測定基準を学ぶ。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
	9	英文財務諸表の分析 I	英文財務諸表を用いて安全性分析・収益性分析・効率性分析・成長性分析を行う。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
	10	英文財務諸表の分析 II	英文財務諸表を用いてデュボン分析を行う。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
	11	わが国の会計基準の概要	わが国の会計基準の歴史および概要について講義する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
	12	米国会計基準の概要	米国の会計基準の歴史および概要について講義する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
	13	国際財務報告基準 (IFRS) の概要	IFRS の歴史および概要について講義する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
	14	近年における国際会計の動向	米国会計基準および IFRS の最近の動向を理解する。	実施した小テストの復習をする。期末テストに備えて練習問題を解く。
	15	試験	到達度を測定するために試験を実施する。	—————

関連科目	企業簿記 (簿記論)・財務会計論 I・II をあらかじめ修得しておくことが望ましい。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	以下の基準で成績評価を行う 定期試験 50%、小テスト 50%
学生へのメッセージ	講義中で扱う technical terms (専門用語) についてはしっかりと押さえること。 企業活動がグローバル化した現在において企業は英文会計および国際会計のスキルを持った学生を欲している。是非 BATIC (国際会計検定) にチャレンジして欲しい。
担当者の研究室等	大阪市立大学商学部棟 (浅野研究室) email: nasano@bus.osaka-cu.ac.jp
備考	

科目名	財務会計論 I	科目名 (英文)	Financial Accounting I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐井 英子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	会計とは、経済主体の経済活動を一定のルールに従って、計数的に認識し、測定し、報告することである。このルールとは、商法、証券取引法等の法律の他に、各種の省令や通達および会計基準や会計慣行を意味している。今日、企業を取り巻く環境の多様化、国際化に伴い、この会計ルールもより複雑に、国際的統一化の方向へ変化している。財務諸表を理解するためには、この会計ルールの理解が不可欠となる。この講義では、会計情報開示制度と財務諸表の作成方法に重点を置き、財務会計の基礎的知識の修得に努める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計の役割、機能を理解する。</li> <li>・会計情報開示制度の基本的ルール、会計基準を理解する。</li> <li>・貸借対照表の作成の会計基準、ルールを理解する。</li> <li>・資産、負債、純資産の内容、本質を理解する。</li> <li>・実際の企業の貸借対照表を理解し、自ら企業の経営内容や財政状態を分析することができるようになる。</li> </ul>
授業方法と留意点	配布資料にに基づいた講義方式。講義内容を確認するために、原則的には毎回授業の最後に練習問題を解いて提出する。
科目学習の効果 (資格)	簿記検定試験 2 級以上、税理士試験、公認会計士試験には不可欠である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	会計の意義,	財務会計の目的と役割	当日配布プリントと板書を整理する
	2	会計制度	会社法、金融商品取引法、法人税法の会計規則	当日配布プリントと板書を整理する
	3	会計基準と企業会計原則	企業会計原則 (一般原則) 会計基準の国際的統合	練習問題 1
	4	資産会計 (1)	資産の内容と分類、 現金預金の会計 債権の会計	練習問題 2
	5	資産会計 (2)	有価証券の会計 棚卸資産の会計	練習問題 3
	6	資産会計 (3)	有形固定資産の会計 固定資産の減損会計	練習問題 4
	7	資産会計 (4)	無形固定資産の会計 のれん、研究開発費、繰延資産	練習問題 5
	8	資産会計 (5)	デリバティブ 先物取引、オプション取引、スワップ取引、ヘッジ会計	練習問題 6
	9	まとめと確認テスト	進捗度により、まとめと確認テストを省略する場合があります。	今までの復讐
	10	負債会計 (1)	負債の本質と分類	練習問題 7
	11	負債会計 (2)	引当金の会計 退職給付引当金	練習問題 8
	12	純資産会計 (1)	純資産の本質と分類	練習問題 9
	13	純資産会計 (2)	払込資本の会計	練習問題 10
	14	純資産会計 (3)	留保利益の会計 剰余金の配当 自己株式	練習問題 11
	15	まとめ		

関連科目 企業簿記システム、会計情報論、管理会計論、経営分析論、国際会計論、税務会計論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験の評価 (50%)、課題 (練習問題) 提出 (30%)、確認テスト (20%)、進捗度により確認テストを実施しない時は、定期試験の評価を70%とする。
学生へのメッセージ	講義に出席して、その後必ず配布プリント、講義ノートを読み直して、講義の内容を整理して理解してください。その上で理解できないところは、どんどん質問して下さい。
担当者の研究室等	11号館8階(佐井教授室)
備考	



科目名	財務会計論Ⅱ	科目名(英文)	Financial Accounting II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐井 英子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	財務会計論Ⅰに引き続き、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、についてその意義と内容を解説する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・損益計算書、キャッシュフロー計算書の作成に関する会計基準、ルールを理解する。</li> <li>・実際の企業の損益計算書、キャッシュフロー計算書を理解し、企業の経営内容や財務状況の分析ができるようになる。</li> <li>・企業会計と税務会計の関係を理解し、税効果会計の意味や繰延税金資産の資産性の問題点について理解する。</li> <li>・会計をめぐる国際的動向について理解する。</li> </ul>
授業方法と留意点	配布資料に基づいた講義方式 その日の講義内容を確認するために、最後に練習問題を解いて提出する。 財務会計論Ⅰからの続きですから、必ず財務会計論Ⅰを受講して下さい。
科目学習の効果(資格)	簿記検定2級以上、税理士試験、公認会計士試験には不可欠である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	損益計算書(1)	損益計算書の基礎概念 本質、基本原則、報告様式	練習問題1
	2	損益計算書(2)	収益の認識、測定基準 実現主義の適用	練習問題2
	3	損益計算書(3)	工事契約における収益認識	練習問題3
	4	損益計算書(4)	費用の認識、測定基準 役員賞与の会計	練習問題4
	5	包括利益計算書	包括利益計算書とは	練習問題5
	6	株まとめと確認テスト	まとめと復習 進捗度により確認テストを省略する場合があります	練習問題6
	7	株主資本等変動計算書(1)	株主資本等変動計算書とは	今までの復習
	8	株主資本等変動計算書(2)	株主資本等変動計算書の作成	練習問題7
	9	キャッシュフロー計算書(1)	キャッシュフロー計算書の意義 利益とキャッシュフロー	練習問題8
	10	キャッシュフロー計算書(2)	キャッシュフロー計算書の3区分 営業キャッシュフロー、投資キャッシュフロー、財務キャッシュフロー、	練習問題9
	11	キャッシュフロー計算書(3)	キャッシュフロー計算書の作成 直接法と間接法	練習問題10
	12	キャッシュフロー計算書(4)	キャッシュフロー分析	練習問題11
	13	会計をめぐる国際的動向(1)	国際会計の台頭と会計基準の国際的コンバージェンス	練習問題12
	14	会計をめぐる国際的動向(2)	コンバージェンシーからアドプションへ	練習問題13
	15	まとめ	まとめと復習	復習問題

関連科目	企業簿記システム、会計情報論、管理会計論、経営分析論、国際会計論、税務会計論、財務会計論Ⅰ
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験の評価(50%)、課題(練習問題)の提出(30%)、テスト(20%) 進捗度により確認テストを省略した場合は、定期試験の評価を70%とします。
----------	--

学生へのメッセージ	講義に出席して、ノートを取り、その後教科書を読み直して下さい。わからないところは、どんどん質問して下さい。
-----------	---

担当者の研究室等備考	11号館8階(佐井教授室)
------------	---------------

科目名	財務諸表論入門	科目名 (英文)	Introduction to Accounting
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐井 英子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	<p>会計情報は、債権者や投資家など特定の人々へのみ有用なものではない。今日の経済社会においては、すべての人々が企業活動と何らかの関係を持っている。企業は、地域社会をはじめ多くの関係者と利害関係を有しており、会計情報は、誰にとっても必要で有用な情報である。また、会計はビジネスの言語といわれ、ビジネスに不可欠になっている。会計を知らずして、経済社会を理解することはできないといえる。本講義では、会計の意義、目的、規範、会計情報開示制度等に関する基礎的知識・用語を初心者向けに分かり易く解説し、公表されている会計情報、財務諸表をから企業の経営内容を読み取り、理解できるようになり、また、2年生以降に履修することになる上級科目のより円滑な理解に結びつくことを目的とする。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会計の目的、役割を理解する。</li> <li>・ 我が国の会計制度、会計情報開示制度の概要を理解する。</li> <li>・ 自ら必要な会計情報を入手できるようになる。</li> <li>・ 財務諸表の内容、作成ルールを理解し、会計情報から企業内容を推察することができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義資料を配布して講義形式で行うが、基本的に毎回、練習問題の解答やレポート課題が課されることに留意する。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビジネスマンとして必要なビジネス言語である会計リテラシーが修得できる。</li> <li>・ 組織 (主として企業) に関する会計情報を読み取る力を修得することにより2年次以降の学びに有用できる。</li> <li>・ 経営学部に関連する一連の各種資格取得のための受験準備スタートのよい契機になる。</li> <li>・ 会計と資格、職業についての理解が得られる。(公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士等)</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	わが国の会計制度	トライアングル体制、会社法会計、金融商品取引法会計、税務会計	配布資料 練習問題①
3	会計情報開示制度	ディスクロージャーとは、電子開示システム	配布資料 練習問題②
4	会計基準	企業会計原則、会計基準の国際的統合	配布資料 練習問題③
5	会計情報の内容 (1)	会計情報の入手方法、個別財務諸表と連結財務諸表	配布資料 練習問題④
6	会計情報の内容 (2)	貸借対照表 様式、基本原則、分類基準	配布資料 練習問題⑤
7	会計情報の内容 (3)	貸借対照表 資産について	配布資料 練習問題⑥
8	会計情報の内容 (4)	貸借対照表 負債について	配布資料 練習問題⑦
9	会計情報の内容 (5)	貸借対照表 純資産について	配布資料 練習問題⑧
10	まとめと確認テスト	まとめと小テスト	
11	会計情報の内容 (6)	損益計算書 収益の認識と測定	配布資料 練習問題⑨
12	会計情報の内容 (7)	損益計算書 費用の認識と測定	配布資料 練習問題⑩
13	会計情報の内容 (8)	損益計算書 営業損益、経常損益、純損益	配布資料 練習問題⑪
14	会計と職業・資格	日商簿記検定、ビジネス会計検定試験、BATIC、公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士	配布資料 練習問題⑫
15	まとめ	講義の復習とまとめ	配布資料

関連科目	経営学、企業簿記
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加と課題の提出 (30%)、確認テスト (20%)、定期テスト (50%)
-----------	--

学生へのメッセージ	毎回授業に出席して下さい。
-----------	---------------

担当者の研究室等	佐井研究室 (11号館8階)
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	C S R 経営論	科目名 (英文)	Corporate Social Responsibility Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	<p>・学ぶのは、「戦略」です。企業倫理の視点から今日的なテーマであるC S R（企業の社会的責任）を取り上げ、「ビジネス・スクール形式」で学びます。</p> <p>主な学習テーマは、以下のとおりです。</p> <p>①C S Rとは何か？ 経営学部の学生にとって、なぜそれを学ぶことが必要なのか？</p> <p>②企業にとって、なぜC S Rが必要なのか？</p> <p>③C S Rを実践するにあたり、企業は具体的に何をすれば良いのか？</p> <p>④内部統制、リスクマネジメント、コンプライアンスとC S Rは、どんな関連性があるのか？</p> <p>⑤C S Rを、ビジネス戦略や企業の持続的成長にどう活かせば良いのか？</p>
到達目標	<p>・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。</p> <p>・C S Rとビジネス戦略の関連性について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。</p> <p>・その到達目標をクリアできているか確認するため、毎回の授業においてケースメソッドによる個人作業、グループワーク、プレゼン、質疑応答等を実施し、その到達度合いを一人一人判定します。</p>
授業方法と留意点	<p>・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。</p> <p>① 基本的なC S Rの企業事例について、実際のビジネス現場で起きるケースメソッド（仮想企業による事例研究）を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。</p> <p>② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学びます。</p> <p>③ グループメンバー、役割分担は定期的に変更し、自分の考えを主張するとともに、他人の考え方との違いを体感します。</p> <p>・なお、授業ではスマホ等を使ったキーワード検索等があります。スマホ等は必ず持参下さい。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>・中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目標とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します	<p>&lt;予習&gt; テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように。</p> <p>&lt;復習&gt; 授業の最後に必ず「本日のポイント」を説明します。その内容について、しっかり復習して下さい。</p>
2	ケースメソッドⅠ：失敗の美学	企業事例研究：水産加工食品メーカーA社～①企業は、なぜ失敗するのか？～	同上
3	同上②	企業事例研究：水産加工食品メーカーA社～②リスクダメージの原因分析とその対策～	同上
4	同上③	企業事例研究：水産加工食品メーカーA社～③全社的內部統制とは？～	同上
5	ケースメソッドⅡ：コンプラって、何だろう？	企業事例研究：加工食品メーカーB社～①コンプライアンスの判定基準～	同上
6	同上②	企業事例研究：加工食品メーカーB社～②企業風土とコンプライアンス～	同上
7	同上③	企業事例研究：加工食品メーカーB社～③営業取引とコンプライアンス～	同上
8	同上④	企業事例研究：加工食品メーカーB社～④大企業と中小企業のコンプライアンス比較～	同上
9	ケースメソッドⅢ：目指せ！「匠」のマネジメント	企業事例研究：調味料メーカーC社～①従業員の人材育成とC S R～	同上
10	同上②	企業事例研究：調味料メーカーC社～②従業員の健康管理とC S R～	同上
11	同上③	企業事例研究：調味料メーカーC社～③従業員の労災リスクとC S R～	同上
12	同上④	企業事例研究：調味料メーカーC社～④食品のコンタミネーション管理とC S R～	同上
13	ケースメソッドⅣ：いま、なぜ、C S R？	企業事例研究：監査法人F社～①同族経営とC S R～	同上
14	同上②	企業事例研究：監査法人F社～②監査法人とC S R～	同上
15	同上③	企業事例研究：監査法人F社～③企業不祥事とJ-SOX法～	同上

関連科目 企業分析（コーポレートガバナンス）など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アクティブラーニング（ケースメソッド）授業テキスト C S R経営戦略[第2版]	大田住吉、佐々木公之	デザインエッグ社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	C S R経営戦略	伊吹 英子	東洋経済新報社

	2	内部統制のポイント	三浦 太	中経出版
	3	中小企業のための「内部統制」制度の確立	武田 隆二	T K C 出版
評価方法 (基準)	<p>①グループワークへの貢献度(参加意欲、個人作業、役割分担、発言内容など) (35%)</p> <p>②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力 (15%)</p> <p>③プレゼン力および質疑応答対応力 (15%)</p> <p>④毎回の授業における理解度チェック小テスト(30%)</p> <p>⑤定期試験(論述式) (5%)</p> <p>による総合評価。</p> <p>ただし、①～④は、毎回の授業の都度採点し、集計します。</p>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・35年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！</li> <li>・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	11号館7階 大田住吉研究室			
備考	理解度チェック小テストの結果については、授業の中で適宜フィードバックします。			

科目名	市場調査入門	科目名(英文)	Introduction to Marketing Research
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	社会調査の意義やその歴史、調査倫理、調査類型など、社会調査全般に関して講義を行う。さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究を紹介しつつ、それぞれの調査の特徴や相違点について学んでいく。
到達目標	社会調査の基礎を理解する。
授業方法と留意点	担当者が毎回パワーポイントによるプレゼンテーション形式で講義を行う。各自、ノートを取る。授業中にグループワークや作業をすることもある。第1回授業で授業ルールなどについて説明をするので必ず参加すること。アクティブ・ラーニングを取り入れているので、授業中の課題には積極的に取り組むこと。
科目学習の効果(資格)	社会調査士資格の取得に履修が必要な科目のうち【A】社会調査の基本的事項に関する科目】に対応。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要について。	授業の流れについて理解する。
2	社会調査とは	社会調査とは何か。なぜ社会調査が必要なのか。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
3	社会調査の歴史	社会調査はいつからおこなわれ、どのように発展してきたか。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
4	社会調査の種類	さまざまな社会調査の種類について。市場調査、世論調査など。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
5	調査倫理	調査をおこなう際の心得について。ラポールなど。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
6	量的調査と質的調査—それぞれの特徴	量的調査と質的調査の特徴と違いについて。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
7	官庁統計1—官庁統計の利用と統計法	行政機関がおこなう社会調査には何かがあるか。統計法とは何か。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
8	官庁統計2—官庁統計による諸研究	官庁統計のデータを用いた研究の紹介。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
9	量的調査1—統計学と質問紙調査(1)	質問紙調査の概要について。統計学との関係。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
10	量的調査2—統計学と質問紙調査(2)	質問紙調査の方法について。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
11	量的調査3—質問紙調査による諸研究	質問紙調査のデータを用いた研究を紹介する。	簡単な質問紙調査を体験する。
12	質的調査1—聞き取り調査	聞き取り調査の方法について。聞き取り調査をおこなった研究の紹介。	簡単な聞き取り調査を体験する。
13	質的調査2—参与観察	参与観察の方法について。参与観察をおこなった研究の紹介。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
14	質的調査3—ドキュメント分析	ドキュメント分析の方法について。ドキュメント分析をおこなった研究の紹介。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
15	まとめ	社会調査の基礎的な知識を身につけることができたかを確認。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。

関連科目 . 「市場調査法」、「市場調査実習」と関連する。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門・社会調査法—2ステップで基礎から学ぶ	轟亮・杉野勇	法律文化社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 授業態度と提出内課題(10%)と定期試験(90%)の割合で、総合的に判断する。

学生へのメッセージ 市場調査を含む社会調査全般について学ぶ講義です。アクティブ・ラーニングを取り入れているので、課題に対しては積極的・主体的に取り組むこと。グループワークや討論にも積極的に参加すること。

担当者の研究室等 . 11号館7階(牧野(幸)准教授教室)

備考 他人の迷惑となる行為(遅刻, 私語, 居眠り, 内職, スマホ, 携帯電話など電子機器の使用など)はすべて禁止とします。事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。以上のことを承知して受講してください。提出課題については、授業中に解説してフィードバックを行う。

科目名	商業簿記	科目名(英文)	Commercial Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高尾 裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	1年次の「簿記入門」の内容をさらに発展させた簿記論・会計学の知識と能力を習得する。
到達目標	平成30年度以降の日本商工会議所簿記検定2級(商業簿記)レベルの簿記論・会計学の知識と応用能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	全体としてかなりのボリュームになることから、商業簿記3級では全く取り上げらず、商業簿記2級で初めて取り上げられるテーマを優先する。毎回、取り上げたテーマの内容を簡潔に説明した後、当該テーマの演習問題に取り組む。本講義では、理解を確実にするため、記帳練習に主眼を置く。毎回、電卓を必ず持参すること。
科目学習の効果(資格)	日本商工会議所簿記検定2級の合格を目指す。 ただし、同検定2級に合格するには、本講義に加えて、工業簿記の知識も習得する必要がある。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション「簿記一巡の手続と財務諸表」	簿記一巡の手続を復習し、全体の流れを改めて確認する。加えて、授業の進め方、評価方法等について説明する。	「簿記入門」で学んだ「全体の会計処理の流れ」を改めて確認する。
2	現金預金と売掛金	銀行勘定調整表、クレジット売掛金	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
3	手形	手形の裏書・割引、手形の更改、手形の不渡、電子記録債権債務	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
4	有価証券	有価証券の区分とその区分に応じた有価証券の処理	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
5	商品売買	3分法、払出単価の決定方法、割引・割戻し、棚卸減耗と商品評価損	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
6	固定資産	有形固定資産・無形固定資産・投資その他の資産の処理	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
7	引当金と収益・費用	各種引当金、収益及び費用の区分	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
8	株式会社の純資産	純資産の意義と区分、純資産の増減、会社の合併	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
9	リース会計	リース取引の意義、ファイナンシャル・リース取引の借手の処理、オペレーティング・リース取引の借手の処理	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
10	外貨建取引	外貨建の営業・決済取引の処理、外貨建金銭債権債務等の換算	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
11	決算	決算手続き、精算表の作成	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
12	本支店会計	本支店間取引の処理、本支店会計における決算手続き	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
13	連結会計の基礎(1)	資本連結、内部取引の相殺消去、未実現利益の消去	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
14	連結会計の基礎(2)	連結精算表、連結財務諸表の作成	会計処理の説明後、指示された演習問題については、必ず自ら納得して完全に終えること。そのため、分からない箇所は必ず質問すること。
15	整理と復習	これまで取り上げた各テーマについての整理と復習。これまで取り組んだ演習問題に関して質問を受ける。	これまで取り組んだ演習問題を講義前までに復習しておき、理解できていない演習問題を整理しておく。

関連科目	簿記入門、財務諸表論入門、財務会計論
------	--------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	検定簿記講義/2級商業簿記(平成29年度版)	渡部裕亘/片山覚/北村敬子	中央経済社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験 95%、中間時点における1回の演習レポートの提出(事前に通知する) 5%
----------	---

学生へのメッセージ	「簿記入門」の知識を前提としたとしても、商業簿記2級で新たに求められる知識量はかなり多いことをあらかじめ念頭においておく。私語は慎み、演習問題に熱心に取り組むこと。分からない箇所は積極的に質問すること。
-----------	---

担当者の 研究室等	高尾研究室（11号館8階）
備考	講義の内容が前後するなど変更等がある時は、可能な限り事前に伝える。 これまでの理解度を測るための中間時点で提出を求める演習レポートについては、結果を公表し、正解率の低い問題については改めて説明する。

科目名	情報倫理	科目名(英文)	Information and Morals
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	社会における情報化は非常に速いスピードで浸透し、情報技術は我々の生活の中で欠かせないものとなっている。その一方で、インターネットを使用した犯罪や事件は後を絶たず、利用者は被害者となるだけでなく、巧妙な手口から意図しないまま加害者となってしまうことさえある。こうした情報化社会における影の部分の部分を踏まえて、さまざまなトラブル事例から組織や個人としてどのように情報倫理を考えるかを学び、インターネット犯罪に対して防止・対応できる能力を養っていく。
到達目標	インターネットやソーシャルメディアなどを使用するなかで、情報に接する際の倫理的な思考を養い、組織や個人としての行動規範を修得する。
授業方法と留意点	この授業は、講義とグループワークをセットで行う。講義を受けた後に事例研究を行い、グループワークで課題を発見する。次に、この課題に対する倫理観、防止・対応策を考え、レポートとしてまとめる。授業のなかでは、この内容を2回に分けて発表し、全体討論を行う。また、最終回には、情報倫理についての理解度を確認するテストを実施する。
科目学習の効果(資格)	ITパスポート試験、基本情報技術者試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	情報セキュリティとサイバー犯罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報倫理の必要性</li> <li>不正アクセス・なりすまし</li> <li>情報の改ざん</li> <li>クラウドサービスのリスク</li> <li>ネットウィルス・マルウェア</li> <li>レポート課題(講義内容穴埋め)</li> </ul>	事前学習：なし 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)
2	事例研究(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査</li> <li>レポート課題(グループワークによる討論・まとめ)</li> </ul>	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく(30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)
3	ソーシャルメディアと情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネット時代のコミュニケーション</li> <li>ブログ・SNS・電子メール</li> <li>拡散と炎上</li> <li>ネット依存・誹謗・中傷</li> <li>ソーシャルゲーム</li> <li>レポート課題(講義内容穴埋め)</li> </ul>	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)
4	事例研究(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査</li> <li>レポート課題(グループワークによる討論・まとめ)</li> </ul>	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく(30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)
5	個人情報管理とプライバシー保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報の漏えい</li> <li>プライバシー侵害</li> <li>組織と個人の守秘義務</li> <li>レポート課題(講義内容穴埋め)</li> </ul>	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)
6	事例研究(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査</li> <li>レポート課題(グループワークによる討論・まとめ)</li> </ul>	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく(30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)
7	発表と全体討論	<ul style="list-style-type: none"> <li>提示テーマの資料作成および発表</li> </ul>	事前学習：発表準備(2時間) 事後学習：なし
8	E-commerce(電子商取引)	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子決済・取引</li> <li>個人情報のためのネット認証</li> <li>ネット広告</li> <li>ネットオークション・ショッピング</li> <li>売買トラブル(悪徳商法・詐欺)</li> <li>レポート課題(講義内容穴埋め)</li> </ul>	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)
9	事例研究(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査</li> <li>レポート課題(グループワークによる討論・まとめ)</li> </ul>	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく(30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)
10	企業における情報倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンスと法令遵守</li> <li>事業と内部統制の両立</li> <li>ITシステムと企業倫理</li> <li>レポート課題(講義内容穴埋め)</li> </ul>	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)
11	事例研究(5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査</li> <li>レポート課題(グループワークによる討論・まとめ)</li> </ul>	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく(30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)
12	科学技術と情報倫理・知的財産権	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的財産の侵害</li> <li>著作物と著作権</li> <li>参考文献と引用</li> <li>マルチメディアコンテンツの複製</li> <li>レポート課題(講義内容穴埋め)</li> </ul>	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)
13	事例研究(6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査</li> <li>レポート課題(グループワークによる討論・まとめ)</li> </ul>	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく(30分) 事後学習：レポート課題を完成する(1時間)
14	発表と全体討論	<ul style="list-style-type: none"> <li>提示テーマの資料作成および発表</li> </ul>	事前学習：発表準備(2時間) 事後学習：なし
15	まとめと理解の確認テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>総括</li> <li>確認テスト</li> </ul>	事前学習：レポート課題の復習(2時間) 事後学習：なし



関連科目	情報処理関連の基礎科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	事例でわかる情報モラル 30 テーマ	実教出版編修部	実教出版(株)
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ネット炎上対策の教科書	小林 直樹	日経 BP 社
	2	情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー	高橋慈子、原田隆史ほか	技術評論社
	3			
評価方法 (基準)	平常点(出席態度、レポート課題)40%、発表(レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容)40%、理解の確認テスト20%を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	この授業では、グループワークでの討論、提出課題の作成、発表など出席しなければ達成できないことが非常に多くあります。必ず、毎回授業に参加すること。			
担当者の 研究室等	11号館6階 経営学部事務室			
備考				

科目名	人的資源管理論 I	科目名 (英文)	Human Resources Management I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	[授業概要] 働き方が多様化した現代の企業経営において、人のマネジメントはますます重要な意義を有するようになってきました。本講義では、「人のマネジメント」として人的資源管理の基本的な考え方を学ぶことによって、組織を活かし個人も活きるための知的・実践的スキルを身につけることを目指します。人的資源管理 I では、組織や戦略と人的資源管理の関わりなど人的資源管理の総論を中心に講義します。
	[授業目的] 企業経営における人的資源とそのマネジメントに関する理解を深めることを目的としています。

到達目標	[到達目標] ①人的資源管理の基礎的な概念について理解できるようになる。 ②組織と人に関わる経営現象について、人のマネジメントの視点から説明できるようになる。
------	---

授業方法と留意点	主として講義形式になります。必要に応じてパワーポイントやプリントを活用し、企業における人的資源管理の実態についても紹介します。  この授業を受講するには、経営学の基礎を理解していることが望まれます。
----------	---

科目学習の効果 (資格)	中小企業診断士、社会保険労務士
--------------	-----------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この講義の概要、進め方について説明します。	シラバスを読んできて下さい。
2	人的資源管理入門	「人を管理する」ということの意味を考えます。	第1章
3	人間モデル	人はなぜなんのために働くのでしょうか。人事管理が対象としてきた人間観の変容について説明します。	第2章
4	戦略的人的資源管理	企業の戦略と人的資源管理の関係について説明します。	第3章
5	組織構造	組織・職場のデザインという観点から人的資源管理を検討します。	第5章
6	リーダーシップ(1)	働く人のモチベーションを引き出す様々なリーダーシップの考え方を説明します。	第7章
7	リーダーシップ(2)	自律型人材には、どういったリーダーシップが有効だと考えられるでしょうか。現代の人的資源管理の課題として検討します。	第7章
8	LMX、フォロワーシップ	組織の成果はリーダーとフォロワーの相互作用のプロセスで生まれます。したがって、リーダーとフォロワーを1対1で見るとLMXとリーダーに影響を与えるフォロワーについて説明します。	配付資料を事前に読んでおくこと
9	組織コミットメントと心理的契約	コミットメントおよび心理的契約の内容を理解し、各々がどのように規定されるか(独立変数)、各々が何に影響を与えるのか(成果変数)について学びます。	第8章
10	中間テスト	前回までの講義内容について中間テストを行います。テスト終了後、解説をします。	これまでの復習およびテストで間違えた箇所の学習
11	雇用	人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が進んでいる昨今、企業はどのような工夫をしているのかを学びます。	第9章
12	評価	人事評価の目的は何でしょうか。また、誰が誰をどのように評価するのでしょうか。評価にはどのような種類があるのか等について学びます。	第11章
13	昇進・賃金	前回で学んだ評価は、昇進・昇格や賃金にどのように反映されるのでしょうか。また、それぞれにはどのような特徴や機能があるのかについて学びます。	第12, 13章
14	労使関係、国際人的資源管理	労使関係は人的資源管理の中でどのような役割を担っているのでしょうか。また、グローバル化している現在、企業はこれまでと違ってどのような人的資源管理をしているのかについて学びます。	第14, 15章
15	まとめ	これまでの学習内容を踏まえ、企業はどのような人的資源管理を行うべきなのか考えます。	テキストおよび配付資料全体を読んでおくこと

関連科目	経営学、経営管理論、経営組織論、経営戦略論
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人的資源管理	上林憲雄	中央経済社

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経験から学ぶ人的資源管理	上林憲雄他	有斐閣ブックス
	2	入門人的資源管理	奥林康司他	中央経済社
	3			
評価方法 (基準)	中間テスト(30%)、定期試験(70%)で評価します。ただし、授業態度やグループワークの参加具合によって加点・減点をする場合があります。			
学生への メッセージ	人的資源管理論の対象は、「人」そのものです。そのため、講義を受けるにあたっては、日頃から組織と人間に対する関心を持ち続けることが何より大切になってきます。自分自身の感性も磨きながら、主体的に受講するようにしてください。			
担当者の 研究室等	11号館8階(西之坊研究室)			
備考				

科目名	人的資源管理論Ⅱ	科目名(英文)	Human Resources Management II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	<p>[授業概要] 現代の企業経営において、ヒトのマネジメントはますます重要な位置づけになっています。人的資源管理の中でも組織と個人を活かすために重要な人事評価制度の構築を通じて人的資源管理の理解を促します。</p> <p>[授業目的] 人事評価制度の構築を通じてヒトのマネジメントに関する理解を深めることを目的としています。</p>
到達目標	<p>[到達目標] ①人的資源管理の基礎的な概念について理解できるようになる。 ②組織と人に関わる経営現象について、ヒトのマネジメントの視点から説明できるようになる。</p>
授業方法と留意点	<p>主として講義形式になります。必要に応じてパワーポイントやプリントを活用し、企業における人的資源管理の実態についても紹介します。</p> <p>この授業を受講するには、人的資源管理Ⅰ、経営学の単位を取得していることが望ましい。</p>
科目学習の効果(資格)	中小企業診断士、社会保険労務士

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この授業の概要と進め方について説明します。	シラバスを読んでください
2	・グループおよび役割の決定 ・人的資源管理における人事評価制度と賃金制度を講義	グループを決め、グループ内でリーダーと出欠・評価係を決める。次に、人的資源管理における人事評価制度と賃金制度を学習します。	講義資料の復習
3	人事評価制度構築説明	人事評価制度を構築する流れや考え方を学習します。	講義資料の復習
4	対象企業の選定と企業分析	人事評価制度を構築する対象企業を選定し、企業調査を行う。対象企業は情報収集のため上場企業とします。	次回以降のために、調査対象企業の情報をできるだけ集めましょう
5	グループワーク(1)	リーダーを中心としてグループワークを行います。まず、スケジュール管理表を作成します。	調べてきた企業情報をまとめ、全員が理解できるようにしましょう
6	グループワーク(2)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、出欠・評価係は本日の出欠とメンバー評価をリーダーと一緒に報告する。	リーダーがまとめた課題の共有および次回の計画を考えましょう
7	グループワーク(3)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、出欠・評価係は本日の出欠とメンバー評価をリーダーと一緒に報告する。	リーダーがまとめた課題の共有および次回の計画を考えましょう
8	グループワーク(4)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、出欠・評価係は本日の出欠とメンバー評価をリーダーと一緒に報告する。	リーダーがまとめた課題の共有および次回の計画を考えましょう
9	グループワーク(5)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、出欠・評価係は本日の出欠とメンバー評価をリーダーと一緒に報告する。	リーダーがまとめた課題の共有および次回の計画を考えましょう
10	グループワーク(6)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、出欠・評価係は本日の出欠とメンバー評価をリーダーと一緒に報告する。	リーダーがまとめた課題の共有および次回の計画を考えましょう
11	グループワーク(7)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、出欠・評価係は本日の出欠とメンバー評価をリーダーと一緒に報告する。	リーダーがまとめた課題の共有および次回の計画を考えましょう
12	グループワーク(8)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、出欠・評価係は本日の出欠とメンバー評価をリーダーと一緒に報告する。	リーダーがまとめた課題の共有および次回の計画を考えましょう
13	グループワーク(9)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、出欠・評価係は本日の出欠とメンバー評価をリーダーと一緒に報告する。	リーダーがまとめた課題の共有および次回の計画を考えましょう
14	最終プレゼンテーション(1)	グループ別にプレゼンテーションを行い、順位づけをします。	学園あるいは企業の方が評価に来る予定です。
15	最終プレゼンテーション(2)	グループ別にプレゼンテーションを行い、順位づけをします。	学園あるいは企業の方が評価に来る予定です。

関連科目	人的資源管理 I、経営学、経営管理論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人的資源管理	上林憲雄	中央経済社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ワークへの貢献およびプレゼンテーションの内容(80%)、定期試験(20%)で評価します。			
学生への メッセージ	グループ別に人事評価制度を構築し、企業の方などの前でプレゼンテーションを行います。したがって、「出席が大前提」の授業となります。			
担当者の 研究室等	11号館8階(西之坊研究室)			
備考	情報処理室を利用する関係から、定員を100名とします。			

科目名	生産管理論	科目名(英文)	Production and Operations Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶのは、「戦略」です。企業ビジネスの視点から「ものづくり」にフォーカスし、その「戦略」を「ビジネス・スクール形式」で学びます。</li> <li>・主な学習テーマは、以下のとおりです。             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「ものづくり」の戦略とは何か？ 経営学部の学生にとって、なぜそれを学ぶことが必要なのか？</li> <li>② 「ものづくり」を行う製造業は、日頃どんな課題を抱え、どのように解決しているのか？</li> <li>③ 「ものづくり」を行う製造業は、卸売業、小売業、サービス業とはどんな違いがあるのか？</li> <li>④ 「ものづくり」を、ビジネス戦略や企業の持続的成長にどう活かせば良いのか？</li> </ol> </li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。</li> <li>・「ものづくり」とビジネス戦略の関連性について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。</li> <li>・その到達目標をクリアできているか確認するため、毎回の授業においてケースメソッドによる個人作業、グループワーク、プレゼン、質疑応答等を実施し、その到達度合いを一人一人判定します。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 基本的な「ものづくり」の企業事例について、実際のビジネス現場で起きるケースメソッド（仮想企業による事例研究）を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。</li> <li>② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学びます。</li> <li>③ グループメンバー、役割分担は定期的に交替し、自分の考えを主張するとともに、他人の考え方との違いを体感します。</li> </ol> </li> <li>・なお、授業ではスマホ等を使ったキーワード検索等があります。スマホ等は必ず持参下さい。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目的とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します	<予習> テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように。 <復習> 「本日のポイント」の内容について、自分の「武器」として使えるように。
2	ケースメソッドⅠ：ものづくりをマネジメントする	企業事例研究：和菓子メーカーS社～①生産方法、生産形態～	同上
3	同上②	企業事例研究：和菓子メーカーS社～②生産工程マネジメント～	同上
4	同上③	企業事例研究：和菓子メーカーS社～③不良品発生とその解決策～	同上
5	同上④	企業事例研究：和菓子メーカーS社～④工程間のムダの排除～	同上
6	同上⑤	企業事例研究：和菓子メーカーS社～⑤ロット生産と1個流し～	同上
7	ケースメソッドⅡ：アジアの中で生き残れ！	企業事例研究：プリント基板メーカーY社～①企業の海外進出理由～	同上
8	同上②	企業事例研究：プリント基板メーカーY社～②国内回帰とマザー工場～	同上
9	同上③	企業事例研究：プリント基板メーカーY社～③ライン生産とセル生産～	同上
10	同上④	企業事例研究：プリント基板メーカーY社～④ライン生産のボトルネック～	同上
11	同上⑤	企業事例研究：プリント基板メーカーY社～⑤アジアとの競争の中で生き残り戦略～	同上
12	ケースメソッドⅢ：「軸」を捉える	企業事例研究：プラスチック製造加工業H社～①業界研究、SWOT分析～	同上
13	同上③	企業事例研究：プラスチック製造加工業H社～②事業ドメインと事業部門別戦略～	同上
14	同上④	企業事例研究：プラスチック製造加工業H社～③事業部門別の業績貢献度分析～	同上
15	同上⑤	企業事例研究：プラスチック製造加工業H社～④事業部門別のビジネスプラン～	同上

関連科目 C S R経営論、経営戦略論、企業分析（経営戦略ケース分析）など

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	アクティブラーニング（ケースメソッド）授業テキスト ものづくりと経営戦略[第2版]	大田住吉、佐々木公之	デザインエッグ社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	イラスト図解 工場のしくみ	松林光男、渡部弘	日本実業出版社
2	工場コストダウン事典	五十嵐瞭	日刊工業新聞社
3	現場のムダどり事典	山田日登志	日刊工業新聞社

評価方法 (基準)	<p>①グループワークへの貢献度合い(役割分担、ワーク作業、発言内容等) (35%)</p> <p>②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力 (15%)</p> <p>③プレゼン力および質疑応答対応力 (15%)</p> <p>④毎回の授業における理解度チェック小テスト(30%)</p> <p>⑤定期試験 (論述式) (5%)</p> <p>による総合評価。 ただし、①～④は、毎回の授業の都度採点し、集計します。</p>
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・35年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！</li> <li>・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。</li> </ul>
担当者の 研究室等	11号館7階 大田住吉研究室
備考	理解度チェック小テストの結果については、授業の中で適宜フィードバックします。

科目名	税務会計論 I	科目名 (英文)	Tax Accounting I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中塚 賢
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	企業活動において必要とされる日常の税務、また決算時に行う税額計算などの一連の税務手続きについて、容易に理解できるように具体的な企業活動を想定し、税務会計上のような処理が必要になるのかを順を追って説明してゆく。また、ニュースで取り上げられた事例や実際に実務上で起こった事例などを取り上げ、受講者がより具体的な興味を持てるように工夫を加える。さらに税に関するトピックなどを紹介し、受講者が税を身近に感じ、将来の税について考えるための素材を提供する。																																																																		
到達目標	税に興味を持ち、簡単な課税所得及び法人税額の計算ができるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式で配布プリントやノートを利用する。具体的事例を交えて、わかりやすく興味を持てる内容の講義を心掛ける。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	企業で活躍するビジネスマンや会計担当者、さらには職業会計人 (税理士・公認会計士) を目指す第一歩となる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション～税金入門</td> <td>税について考える</td> <td>新聞記事やニュースで税に興味を持つ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>税務会計の基礎</td> <td>税の仕組みや役割・負担、確定決算主義と課税所得</td> <td>配布プリントの復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>法人税概要及び課税所得の計算</td> <td>法人税の手続きと益金・損金</td> <td>配布プリントの復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>収益の額と計上と益金不算入</td> <td>収益の種類と計上時期・評価益など</td> <td>配布プリントの復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>棚卸資産と売上原価</td> <td>棚卸資産・売上原価の計算</td> <td>配布プリントの復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>減価償却</td> <td>減価償却の方法と計算</td> <td>配布プリントの復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>繰延資産</td> <td>繰延資産の種類と償却・小テスト</td> <td>配布プリントの復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>役員給与</td> <td>税法上の役員給与と損金不算入</td> <td>配布プリントの復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>寄付金・交際費等</td> <td>寄付金・交際費と隣接費用</td> <td>配布プリントの復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>租税公課とその他の費用</td> <td>租税公課・リース料など</td> <td>配布プリントの復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>貸倒引当金・貸倒の処理</td> <td>貸倒引当金・貸倒損失の損金要件</td> <td>配布プリントの復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>圧縮記帳</td> <td>固定資産等の圧縮記帳</td> <td>配布プリントの復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>申告・納税・欠損金の繰越控除</td> <td>申告納税手続、欠損金の繰越控除</td> <td>配布プリントの復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>法人税額の計算</td> <td>税額計算と税額控除</td> <td>配布プリントの復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総合課題</td> <td>まとめと練習問題</td> <td>配布プリントの復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション～税金入門	税について考える	新聞記事やニュースで税に興味を持つ	2	税務会計の基礎	税の仕組みや役割・負担、確定決算主義と課税所得	配布プリントの復習	3	法人税概要及び課税所得の計算	法人税の手続きと益金・損金	配布プリントの復習	4	収益の額と計上と益金不算入	収益の種類と計上時期・評価益など	配布プリントの復習	5	棚卸資産と売上原価	棚卸資産・売上原価の計算	配布プリントの復習	6	減価償却	減価償却の方法と計算	配布プリントの復習	7	繰延資産	繰延資産の種類と償却・小テスト	配布プリントの復習	8	役員給与	税法上の役員給与と損金不算入	配布プリントの復習	9	寄付金・交際費等	寄付金・交際費と隣接費用	配布プリントの復習	10	租税公課とその他の費用	租税公課・リース料など	配布プリントの復習	11	貸倒引当金・貸倒の処理	貸倒引当金・貸倒損失の損金要件	配布プリントの復習	12	圧縮記帳	固定資産等の圧縮記帳	配布プリントの復習	13	申告・納税・欠損金の繰越控除	申告納税手続、欠損金の繰越控除	配布プリントの復習	14	法人税額の計算	税額計算と税額控除	配布プリントの復習	15	総合課題	まとめと練習問題	配布プリントの復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション～税金入門	税について考える	新聞記事やニュースで税に興味を持つ																																																																
2	税務会計の基礎	税の仕組みや役割・負担、確定決算主義と課税所得	配布プリントの復習																																																																
3	法人税概要及び課税所得の計算	法人税の手続きと益金・損金	配布プリントの復習																																																																
4	収益の額と計上と益金不算入	収益の種類と計上時期・評価益など	配布プリントの復習																																																																
5	棚卸資産と売上原価	棚卸資産・売上原価の計算	配布プリントの復習																																																																
6	減価償却	減価償却の方法と計算	配布プリントの復習																																																																
7	繰延資産	繰延資産の種類と償却・小テスト	配布プリントの復習																																																																
8	役員給与	税法上の役員給与と損金不算入	配布プリントの復習																																																																
9	寄付金・交際費等	寄付金・交際費と隣接費用	配布プリントの復習																																																																
10	租税公課とその他の費用	租税公課・リース料など	配布プリントの復習																																																																
11	貸倒引当金・貸倒の処理	貸倒引当金・貸倒損失の損金要件	配布プリントの復習																																																																
12	圧縮記帳	固定資産等の圧縮記帳	配布プリントの復習																																																																
13	申告・納税・欠損金の繰越控除	申告納税手続、欠損金の繰越控除	配布プリントの復習																																																																
14	法人税額の計算	税額計算と税額控除	配布プリントの復習																																																																
15	総合課題	まとめと練習問題	配布プリントの復習																																																																
関連科目	企業簿記、財務会計論、税務会計論 II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門 税務会計 [第3版]</td> <td>谷川 喜美江</td> <td>税務経理協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門 税務会計 [第3版]	谷川 喜美江	税務経理協会	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	入門 税務会計 [第3版]	谷川 喜美江	税務経理協会																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>(1) 講義科目は定期試験を実施する。</p> <p>(2) 定期試験に加えて小テスト、授業参加度 (積極性、呼応情態) 等も評価対象とする。</p> <p>(3) 各評価項目の割合を明記する。</p> <p>定期試験の結果 (60%)、小テスト (20%)、授業参加度 (20%) による。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	簿記と比べて税務会計はより実務的であり、社会人として必要な知識を身につけることができる。できる限り、実際の企業活動や税務行政の現場事例を多く紹介し、興味深い講義としたい。																																																																		
担当者の研究室等	11号館6階(経営学部事務室) 質問等は授業終了後もしくは下記メールアドレス宛にお送りください。																																																																		
備考	ken_nakatsuka@cpta-ken.com  小テストの結果は授業中に学生個々に返却する。																																																																		



科目名	税務会計論Ⅱ	科目名(英文)	Tax Accounting II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	日本の企業会計は、金融商品取引法、会社法、税法の3つの法律によって規制されている。金融証券取引所に上場し、企業の所有権をあらゆる株式を一般に公開し出資を行う上場会社は、投資者の保護を目的とする金融証券取引法にもとづいた会計処理が行われる。一方で、株式を一般に公開することを目的としない中小企業は、会社法と税法にもとづいた会計処理が行われる。本講義では、上場会社とは異なる中小企業の会計処理とその効果について学習する。特に中小企業の経営者の立場から、上場会社に比べて資本要件と人的要件が小規模であり、税金面を優先する中小企業の会計処理と税金との関係について学習する。
到達目標	中小企業の会計処理と税金の関係について理解できる。また、会計処理とその結果について理解し、中小企業の経営者、経理担当者、管理者として最小限必要である会計に関する知識を習得できる。
授業方法と留意点	本講義では、配布資料を用いて、企業会計と中小企業会計の2つの大テーマに分けて講義を進める。毎回の小テーマについてはほぼ毎回小テストを実施する予定である。企業会計のテーマについては基本的な企業の会計処理について解説するが、簿記入門レベルの会計知識が必要である。受講者が簿記入門（企業簿記）を受講したことを前提とし、講義を行うことに注意してほしい。
科目学習の効果(資格)	中小企業診断士、税理士、簿記検定など、会計関連資格取得に必要な基礎知識を習得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	企業会計と法規制	企業会計と法規制	配布資料と講義計画の把握
	2	中小企業会計の歪み	中小企業会計の歪みと調整	配布資料の復習
	3	中小企業の資金繰り	決算書から把握できない資金繰り	配布資料の復習
	4	損益計算書	収益と費用の会計処理	配布資料・小テストの復習
	5	貸借対照表	資産・負債の会計処理	配布資料・小テストの復習
	6	法人と税金	法人に関連する税金	配布資料・小テストの復習
	7	役員賞与	役員給与と税金	配布資料・小テストの復習
	8	貸倒損失	貸倒損失と貸倒引当金	配布資料・小テストの復習
	9	有価証券	有価証券の取得と評価	配布資料・小テストの復習
	10	棚卸資産	棚卸資産の取得と評価	配布資料・小テストの復習
	11	固定資産①	固定資産の取得と減価償却	配布資料・小テストの復習
	12	固定資産②	減価償却と減価償却累計額	配布資料・小テストの復習
	13	引当金	株主資本	配布資料・小テストの復習
	14	純資産	練習問題	練習問題・配布資料・小テストの復習
	15	まとめ	まとめと練習問題Ⅱ	配布プリントの復習

関連科目 簿記入門、財務会計論、管理会計論、会計情報論、経営分析論、企業分析（財務戦略ケース分析）、経営財務論など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新中小企業会計論	河崎照行	中央経済社
	2	中小企業の税務の仕事	飯田聡一郎	中央経済社
	3	入門税務会計	谷川喜美江	税務経理協会

評価方法(基準)	小テスト30%+定期試験70%=100% + 4回以上欠席は成績評価の対象から外す。
学生へのメッセージ	中小企業会計論は、他の会計関連科目に比べ、その対象が限定され、実務的である。将来、中小企業の経営者、経理担当者、管理者としての活躍に関心をお持ちの学生にぜひ受講してもらいたい。
担当者の研究室等	11号館7階
備考	講義計画は、学生の進捗度、理解度などを考慮し、一部変更する可能性がある。変更がある場合は、事前にアナウンスする。

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北 真収
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館8階 北 真収 研究室 (相談時は事前に連絡してください)																
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	三木 僚祐
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																		
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>																		

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																



科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	H
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	畠山 俊宏
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																		
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスをを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>																		

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	K
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>																

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	L
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 祥司
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	M
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	樋口 友紀
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	畠山 俊宏
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	企業経営について関心のあるテーマを選定し、経営学の理論を用いて分析して卒業論文を作成します。		
到達目標	1. 論理的文章の作成スキルを習得する。 2. 論理的思考力を習得する。 3. 情報収集能力と情報分析能力を習得する。 4. プレゼンテーション・スキルを習得する。		
授業方法と留意点	卒業論文の作成と最終発表会を行います。途中で中間論文の提出と中間発表会を行います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自でスケジュールを立てて卒業論文を作成します。適宜、ゼミ内での進捗報告とディスカッションを行い、内容を深めていきます。尚、経営学分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き努めます。		
関連科目	演習Ⅰ・Ⅱ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	中間論文の提出と中間発表会に参加のうえ、経営学部のルーブリックに基づいて、卒業論文の内容 (90%) と最終発表会の内容 (10%) で評価する。		
学生へのメッセージ	ゼミの主役は教員ではなく学生です。「自ら考え行動する力」を身につけるために、主体的にゼミの活動に取り組んでください。		
担当者の研究室等	11号館8階 畠山研究室		
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐藤 正志
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>テーマ「経営者の研究・企業経営の歴史的研究（経営史）」</p> <p>各自が興味ある経営者（企業家）の経営理念や企業の歴史的発展・現状についての研究をおこない、卒業論文の作成をめざすゼミです。</p> <p>加えて、卒業論文作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒論を作成すること。</p>																		
到達目標	卒論をまとめる作業を通して、さまざまな資料の分析方法、論文やレポートなどのテーマの設定、論述の仕方などの技術的能力を高める。																		
授業方法と留意点	<p>企業家の経営活動が彼らが経営した企業の発展過程といかに関わったのか分析します。レベルが高くオリジナリティのある卒論執筆のために、関連論文や専門書などにあたり、深く研究していきます。</p> <p>なお、卒論作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理について改めて指導します。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を踏まえ、論文作成に当たらなければなりません。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業内容】</b></p> <p>卒論執筆の基本的な方法について全体的に説明し、個別指導を経て、各自締め切りまでに研究をまとめます。最終的な論文内容等の個別指導の後、卒論を完成させ、提出します。</p> <p>(前期) (1) 卒業論文のテーマの確定と章立ての確認 (2) 論文作成の関する具体的な方法（目次、内容の展開、資料収集・分析、文献引用など）についての指導・説明</p> <p>(後期) (1) 論文執筆に関する個別指導（データベースの利用） (2) 卒論内容の発表、質疑</p>																		
関連科目	経営史																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>企業家に学ぶ日本経営史</td> <td>宇田川勝</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	企業家に学ぶ日本経営史	宇田川勝	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	企業家に学ぶ日本経営史	宇田川勝	有斐閣																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	卒論内容で評価する。その際、研究の独自性（30%）、資料の適切な引用と分析（30%）、論理的展開（20%）、論文の完成度（20%）に関して基準を示し、その達成度についてルーブリック評価を行う。																		
学生へのメッセージ	就活と卒論作成の時間が重なります。計画的・効率的な時間の使い方をし、なるべく多くの参考文献を読みこなし、独創性のある論文を作成してもらいたいと思っています。																		
担当者の研究室等	11号館8階																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>テーマ 日本経済の分析</p> <p>日本経済に関する様々な問題を分析するため、基本的な経済理論を身に付ける。そして以下のような目標を達成する。</p> <p>(1) 現状をよく知るために、新聞などを読む。</p> <p>(2) 理論的な知識をつけるために、多くの本を読む。</p> <p>(3) 論理的な思考をする。</p> <p>(4) 自分の考えを、口頭で発表する。</p> <p>(5) 形式の整った、内容のあるレポートを書く。</p>																		
到達目標	<p>形式と内容が伴った卒業研究を完成させる。</p> <p>充実した発表を行う。</p>																		
授業方法と留意点	<p><b>【授業内容】</b></p> <p>[授業内容]</p> <p>各自の卒業研究のテーマに関する発表。個人的な論文の指導。</p> <p>[授業方法と留意点]</p> <p>個人発表と討論。出席と授業中の発言などが、最も重視される。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>卒業研究の製作。加えて、卒業論文作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒論を作成すること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>平常点、授業での取り組み、卒研レポート、報告などで総合的に評価。</p> <p>(1) 日本語として成立しているか? (2) 内容の充実 (3) 文献リスト (4) 過去の研究の総括 (5) 独自性が卒業研究の採点ポイントとなる</p> <p>具体的採点基準は授業中にお知らせします。</p> <p>平常点 30%、論文 40%、発表 30%。(詳細は経営学部のルーブリック評価に従う)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	<p><b>【学生へのメッセージ】</b></p> <p>上にも書いたように、できるだけ多くの本を読むようにしてほしい。基本的知識をつけることは、どのような分野を勉強するにも大事なことである。また自分の考えをまとめ、人に伝える技量をつけてほしい。</p>																		



科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	卒業研究テーマに関連する経営現象について、今まで学んできた経営学の諸理論・諸概念を用いながら分析し、卒業研究論文を執筆していきます。 自分自身で研究テーマを見つけ、文献・資料を収集し、研究テーマの理解を深めていきます。自分自身でしっかりと理解した内容をもとに、「論文」と呼ぶにふさわしい内容と形式を整えた卒業論文を完成させること。さらに、完成した卒業論文の内容を中間発表会および最終発表会でプレゼンする。																		
到達目標	①課題と解決方法を自ら探究することを通して、主体性とクリティカル・シンキング力を養う。 ②他メンバーとのディスカッションを通してコミュニケーション能力を養う。 ③論文の正しい書き方やルールを学び、研究能力を養う。 ④研究倫理を養う。																		
授業方法と留意点	文献研究及び事例分析																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[授業内容] 各自の研究テーマに沿って、文献、事例を分析していきます。 当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても、併せて取り上げ、教育・指導します。</p> <p>[研究テーマ] 戦略、組織、人に関わる組織マネジメントの諸課題に取り組んでいきます。</p> <p>[学習課題] 常に新聞や専門雑誌に目を通し、研究テーマに関わる経営現象をチェックしておきましょう。</p> <p>なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を踏まえて卒業論文を作成すること。</p>																		
関連科目	経営管理論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、組織行動論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	中間発表会 25%、最終発表会 25%、学部ルーブリックに基づいた評価を 50%の割合で評価する。 なお、中間発表会および最終発表会では、それぞれ発表したところまでの卒業論文提出を必須とする。																		
学生へのメッセージ	他メンバーとの意見交換を積極的に行い、切磋琢磨しながら卒業研究論文に取り組んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	11号館8階 西之坊研究室																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	高尾 裕二
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	卒業研究は、演習（ゼミナール）の締め括りである。これまで学んだ会計学やコーポレート・ファイナンスの領域から、自身で研究テーマを見つけ、自身で文献・資料を収集し、研究テーマの理解を深め、自身の理解のもとに、「論文」と呼ぶにふさわしい内容と形式を整えた卒業論文を完成する。加えて、完成した卒業論文の内容をプレゼンする。																		
到達目標	論理的な内容を持ち、形式の整った研究論文を仕上げる。 論文内容を他人に説明するプレゼン能力を身につける。 他人の報告について、質問・コメントすることのできる能力を身につける。																		
授業方法と留意点	卒業論文完成に向けて、進捗に応じた各段階での経過報告とその段階でのプレゼンを繰り返す。 繰り返される経過報告とプレゼンに対して個別指導する。 コツコツと少しずつ、着実に、卒業論文完成に向けて前進することが必要である。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文のテーマに関しては、財務会計学・コーポレート・ファイナンスに含まれるものが望ましいが、特にこだわらない。企業ないし産業に関連するテーマであればよい。 卒業論文の完成と卒業論文発表会での口頭報告を目指して、割り当てられた日時に、経過報告・予備的なプレゼンを行い、今後の作業についての指導を受ける、という作業を繰り返す。 卒業論文の作成に際しての研究不正行為に改めて注意を促す。																		
関連科目	財務会計論、コーポレート・ファイナンス（経営財務論）、会計情報分析論（経営分析論）、企業分析（財務戦略ケース分析）など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	卒業論文の内容と形式に関するルーブリック評価（50%）および卒業論文発表会での口頭報告の実施とその内容（50%）																		
学生へのメッセージ	自ら、テーマを選定し、資料を収集し、形式を整えた論文の作成と報告という経験を通じて、自立した社会人（会社人）となるための第一歩にしてほしい。																		
担当者の研究室等	高尾研究室（11号館8階）																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐井 英子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>・3年時後期から各自進めている企業分析をさらに進め、卒業論文を完成させる。また、実際の企業、経営、経済の動向について、会計領域に限定せずその内容等を調べ、経営学全般の知識の修得に努めるとともに、社会人基礎力を身につける。加えて、不正防止のための研究倫理についても取り上げ、指導・教育する。</p>																
到達目標	<p>・自分自身で、研究テーマを決める。何が分からないのか、何を調べたいのか、明らかにしたいのか、問題意識を明確に持つ。</p> <p>・研究のプロセス管理がきちんとできる。</p> <p>・研究内容を論文として書き上げる。</p> <p>・研究内容を、他人に分かりやすく説明、プレゼンできる。</p> <p>・卒業後の自らの学びの糧となるものを修得する。</p>																
授業方法と留意点	<p>基本的には、各自の進捗度の沿った個人指導が中心となるが、全員で中間発表、最終発表を行う卒業論文の経過発表を行い、必要に応じて修正、加筆を行う。</p> <p>卒業論文完成後にゼミで発表会を開催する。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自のテーマにそって卒論を作成し、ゼミで報告すること。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	平常点(演習の参加)と卒業論文を経営学部ルーブリック評価に基づき総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	ゼミは、必ず出席し、積極的に参加してください。一方的に知識が与えられる場としてではなく、活発な討論を通じて教員もゼミ生も互いに切磋琢磨していける場としてゼミを考えています。																
担当者の研究室等備考	11号館8階																

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	金融・ファイナンスで扱う事象は、わたしたちの身の回りにある。端的に言えばお金に関する事で、財布の中の現金をはじめ、電子マネーやクレジットカード、銀行、証券会社、保険、国債、株式、資産運用、借入等々、延々と続くお金の通り道で起こる様々な事象を体系的に論じるのが金融・ファイナンスの目的である。日頃の生活はもちろん、ビジネスとも密接な関係にある。本ゼミでは、そのようなお金に関する事象や問題を『研究・探究』し、金融・ファイナンスの考え方を修得するとともに、客観的な根拠に基づき主張する能力の修得を目標とする。			
到達目標	金融・ファイナンスを中心とした経済・経営問題に関心を持ち、客観的視点から問題を把握し、解決する能力を身につけること			
授業方法と留意点	学生による発表形式で進める。発表の準備をする人はいうまでもないが、聞き手の学生にも積極性を求める。問題意識に沿って資料収集と仮説設定を行い、他の学生との討論を通して問題解決の“コツ”を掴んで欲しい。なお、易きに流されれば、そのツケは必ず自分に跳ね返ってくる肝に銘じること。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文の完成に向けて、主として個人別に指導していく。年度末には学部主催の報告会があるので、それに向けた準備も行う。なお、卒業論文の作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	日頃の学習状況と卒業論文については、経営学部のルーブリック評価を基準とし、これら結果を総合して評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	三木 僚祐
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	各自選定したテーマに基づいて、卒業論文の作成・指導を行う。卒業論文は、各自がテーマを設定し、文献・資料を収集し、論文を完成させていく。授業では、毎週交代で数人に内容を発表してもらって、意見交換しながら、内容面・形式面の充実を図っていく。並行して、定期的に卒業論文の経過報告をしてもらい、各人の進捗状況に応じて、個別指導も行う。			
到達目標	問題発見能力、論理的思考力および問題解決能力を身につける。			
授業方法と留意点	卒業論文の作成に真摯に取り組み、4年間の大学生活の集大成となるような卒業論文を完成させてほしい。また、1月上旬頃(予定)に卒業論文の発表会を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文の完成度を高めていく。なお、卒業論文の作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	論文 80%、発表 20%			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11号館7階(三木准教授室)			
備考	論文の評価は、経営学部のルーブリック評価基準表を用いて行う。			

科目名	中小企業会計論	科目名(英文)	Accounting for Small and Medium-Sized Entites
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	日本の企業会計は、金融商品取引法、会社法、税法の3つの法律によって規制されている。金融証券取引所に上場し、企業の所有権をあらゆる株式を一般に公開し出資を行う上場会社は、投資者の保護を目的とする金融証券取引法にもとづいた会計処理が行われる。一方で、株式を一般に公開することを目的としない中小企業は、会社法と税法にもとづいた会計処理が行われる。本講義では、上場会社とは異なる中小企業の会計処理とその効果について学習する。特に中小企業の経営者の立場から、上場会社に比べて資本要件と人的要件が小規模であり、税金面を優先する中小企業の会計処理と税金との関係について学習する。
到達目標	中小企業の会計処理と税金の関係について理解できる。また、会計処理とその結果について理解し、中小企業の経営者、経理担当者、管理者として最小限必要である会計に関する知識を習得できる。
授業方法と留意点	本講義では、配布資料を用いて、企業会計と中小企業会計の2つの大テーマに分けて講義を進める。毎回の小テーマについてはほぼ毎回小テストを実施する予定である。企業会計のテーマについては基本的な企業の会計処理について解説するが、簿記入門レベルの会計知識が必要である。受講者が簿記入門(企業簿記)を受講したことを前提とし、講義を行うことに注意してほしい。
科目学習の効果(資格)	中小企業診断士、税理士、簿記検定など、会計関連資格取得に必要な基礎知識を習得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	企業会計と法規制	企業会計と法規制	配布資料と講義計画の把握
	2	中小企業会計の歪み	中小企業会計の歪みと調整	配布資料の復習
	3	中小企業の資金繰り	決算書から把握できない資金繰り	配布資料の復習
	4	損益計算書	収益と費用の会計処理	配布資料・小テストの復習
	5	貸借対照表	資産・負債の会計処理	配布資料・小テストの復習
	6	法人と税金	法人に関連する税金	配布資料・小テストの復習
	7	役員賞与	役員給与と税金	配布資料・小テストの復習
	8	貸倒損失	貸倒損失と貸倒引当金	配布資料・小テストの復習
	9	有価証券	有価証券の取得と評価	配布資料・小テストの復習
	10	棚卸資産	棚卸資産の取得と評価	配布資料・小テストの復習
	11	固定資産①	固定資産の取得と減価償却	配布資料・小テストの復習
	12	固定資産②	減価償却と減価償却累計額	配布資料・小テストの復習
	13	引当金	株主資本	配布資料・小テストの復習
	14	純資産	練習問題	練習問題・配布資料・小テストの復習
	15	まとめ	まとめと練習問題II	配布プリントの復習

関連科目	簿記入門、財務会計論、管理会計論、会計情報論、経営分析論、企業分析(財務戦略ケース分析)、経営財務論など
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新中小企業会計論	河崎照行	中央経済社
	2	中小企業の税務の仕事	飯田聡一郎	中央経済社
	3	入門税務会計	谷川喜美江	税務経理協会

評価方法(基準)	小テスト30%+定期試験70%=100% + 4回以上欠席は成績評価の対象から外す。
----------	---

学生へのメッセージ	中小企業会計論は、他の会計関連科目に比べ、その対象が限定され、実務的である。将来、中小企業の経営者、経理担当者、管理者としての活躍に関心をお持ちの学生にぜひ受講してもらいたい。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館7階
----------	--------

備考	講義計画は、学生の進捗度、理解度などを考慮し、一部変更する可能性がある。変更がある場合は、事前にアナウンスする。
----	--

科目名	ビジネス情報処理 I	科目名 (英文)	Business Information Processing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を修得することができる。本授業では、コンピュータの機能を知るとともに、Word を用いた文書作成、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	パソコンを使った実習形式を中心とした授業を行う。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果 (資格)	ITパスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	イントロダクション	基礎的な技術の確認、パソコンの概要と日本語変換	タイピング練習 (5分)	授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
2	インターネットの活用とセキュリティ (1)	インターネット環境と情報検索	タイピング練習 (5分)	授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
3	インターネットの活用とセキュリティ (2)	インターネットの光と影	タイピング練習 (5分)	授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
4	パソコンの活用 (1)	ファイル管理、フリーソフトの活用	タイピング練習 (5分)	授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
5	パソコンの活用 (2)	アプリケーションの利用	タイピング練習 (5分)	授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
6	文書作成 (1)	Word の基礎知識、文書作成・編集・保存	タイピング練習 (5分)	授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
7	文書作成 (2)	文書のスタイル、図表の挿入	タイピング練習 (5分)	授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめと確認テスト	前半の内容を復習しておく (60分)	タイピング練習 (5分)
9	文書作成応用 (1)	文書作成のための応用技術	タイピング練習 (5分)	授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
10	文書作成応用 (2)	さまざまな文書の作成	タイピング練習 (5分)	授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
11	プレゼンテーション (1)	PowerPoint の概要、スライド作成の基本	タイピング練習 (5分)	授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
12	プレゼンテーション (2)	図表の挿入と編集、スライドの視覚効果	タイピング練習 (5分)	授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
13	プレゼンテーション応用 (1)	スライド作成のポイント、テーマ別スライド作成 1	タイピング練習 (5分)	授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
14	プレゼンテーション応用 (2)	テーマ別スライド作成 2、プレゼンテーション相互評価	タイピング練習 (5分)	授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
15	全体のまとめ	総復習		全体の内容を復習しておく (120分) タイピング練習 (5分)

関連科目	I C T 概論、ビジネス情報処理 II
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Windows8・Office2013による情報処理入門	監修：高橋敏夫 執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業中の演習課題 (40%)、レポート課題 (20%)、小テスト (30%)、授業への取組姿勢 (10%) をもとに総合的に評価する。この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
-----------	--

学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の 研究室等	11号館8階(橋本研究室)
備考	



科目名	ビジネス情報処理 I	科目名 (英文)	Business Information Processing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	F G H J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を習得する。本講義では、コンピュータの機能を知るとともに、Word を用いた文書作成、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能習得を目指す。
授業方法と留意点	履修に際して予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	基礎的な技術の確認、パソコンの概要と日本語変換	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
2	インターネットの活用とセキュリティ (1)	インターネット環境と情報検索	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
3	インターネットの活用とセキュリティ (2)	インターネットの光と影	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
4	パソコンの活用 (1)	ファイル管理、フリーソフトの活用	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
5	パソコンの活用 (2)	アプリケーションソフトの利用	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
6	文書作成 (1)	Word の基礎知識、文書作成・編集・保存	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
7	文書作成 (2)	文書のスタイル、図表の挿入	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめと確認テスト	前半の内容を整理しておく
9	文書作成応用 (1)	文書作成のための応用技術	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
10	文書作成応用 (2)	さまざまな文書の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
11	プレゼンテーション (1)	PowerPoint の概要、スライド作成の基本	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
12	プレゼンテーション (2)	図表の挿入と編集、スライドの視覚効果	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
13	プレゼンテーション応用 (1)	スライド作成のポイント、テーマ別スライド作成 1	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
14	プレゼンテーション応用 (2)	テーマ別スライド作成 2、プレゼンテーション相互評価	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
15	全体のまとめ	総復習	全体の内容を復習しておく

関連科目	ICT 概論、ビジネス情報処理 II
------	--------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows8・Office2013 による情報処理入門	監修：高橋敏夫 執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業中の演習課題 (40%)、レポート課題 (20%)、小テスト (30%)、授業への取組姿勢 (10%) をもとに総合的に評価する。この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤控室)
備考	

科目名	ビジネス情報処理 I	科目名 (英文)	Business Information Processing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	K L M
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を修得することができる。本授業では、コンピュータの機能を知るとともに、Word を用いた文書作成、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	パソコンを使った実習形式を中心とした授業を行う。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果 (資格)	ITパスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	イントロダクション	基礎的な技術の確認、パソコンの概要と日本語変換	タイピング練習 (5分)	授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
2	インターネットの活用とセキュリティ (1)	インターネット環境と情報検索	タイピング練習 (5分)	授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
3	インターネットの活用とセキュリティ (2)	インターネットの光と影	タイピング練習 (5分)	授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
4	パソコンの活用 (1)	ファイル管理、フリーソフトの活用	タイピング練習 (5分)	授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
5	パソコンの活用 (2)	アプリケーションの利用	タイピング練習 (5分)	授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
6	文書作成 (1)	Word の基礎知識、文書作成・編集・保存	タイピング練習 (5分)	授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
7	文書作成 (2)	文書のスタイル、図表の挿入	タイピング練習 (5分)	授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめと確認テスト	前半の内容を復習しておく (60分)	タイピング練習 (5分)
9	文書作成応用 (1)	文書作成のための応用技術	タイピング練習 (5分)	授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
10	文書作成応用 (2)	さまざまな文書の作成	タイピング練習 (5分)	授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
11	プレゼンテーション (1)	PowerPoint の概要、スライド作成の基本	タイピング練習 (5分)	授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
12	プレゼンテーション (2)	図表の挿入と編集、スライドの視覚効果	タイピング練習 (5分)	授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
13	プレゼンテーション応用 (1)	スライド作成のポイント、テーマ別スライド作成 1	タイピング練習 (5分)	授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
14	プレゼンテーション応用 (2)	テーマ別スライド作成 2、プレゼンテーション相互評価	タイピング練習 (5分)	授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
15	全体のまとめ	総復習		全体の内容を復習しておく (120分) タイピング練習 (5分)

関連科目	ICT概論、ビジネス情報処理II
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Windows8・Office2013による情報処理入門	監修：高橋敏夫 執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業中の演習課題 (40%)、レポート課題 (20%)、小テスト (30%)、授業への取組姿勢 (10%) をもとに総合的に評価する。この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
-----------	--

学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の 研究室等	11号館8階(栢木研究室)
備考	

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題およびレポートの作成やプレゼンテーションに必要な情報活用能力を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな技能を学び、ビジネスの場で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を修得することができる。本授業では、Excel を用いた表計算の応用、ビジネスデータの分析に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	ビジネス情報処理Ⅰ受講後の履修が望ましい。パソコンを使った実習形式を中心とした授業を行う。パソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果(資格)	ITパスポート試験、基本情報処理技術者試験などのIT系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、Excelの基礎知識、データの入力・編集	タイピング練習(5分) 授業の内容を復習しておく(30分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
2	表計算(1)	表の作成・編集、罫線の作成・編集	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
3	表計算(2)	グラフの作成	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
4	表計算(3)	印刷設定、基本的な関数の利用	タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
5	表計算応用(1)	相対参照と絶対参照、応用的な関数の利用	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
6	表計算応用(2)	Excelの応用利用	タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
7	データベースの利用	Excelデータベース	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめと確認テスト	前半の内容を復習しておく(60分) タイピング練習(5分)	
9	データ分析の基礎	代表値について、データの整理	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
10	データ分析の応用(1)	Excelを活用した様々な分析1	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)	
11	データ分析の応用(2)	Excelを活用した様々な分析2	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)	
12	データ分析の応用(3)	Excelを活用した様々な分析3	タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)	
13	ソフトウェアの統合的活用(1)	ソフトウェア間のデータ共有	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
14	ソフトウェアの統合的活用(2)	論文やレポート作成に必要な技術	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
15	後半のまとめ、学力診断テスト	後半のまとめと確認テスト	後半の内容を復習しておく(60分) タイピング練習(5分)	

関連科目 ICT概論、ビジネス情報処理Ⅰ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Windows8・Office2013による情報処理入門	監修：高橋敏夫 執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業中の演習課題 (40%)、小テスト (50%)、授業への取組姿勢 (10%) をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階 (橋本講師室)
備考	

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	G H J K L M
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題およびレポートの作成やプレゼンテーションに必要な情報活用能力を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな技能を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を修得することができる。本授業では、Excel を用いた表計算の応用、ビジネスデータの分析に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	ビジネス情報処理Ⅰ受講後の履修が望ましい。パソコンを使った実習形式を中心とした授業を行う。パソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果(資格)	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、Excel の基礎知識、データの入力・編集	タイピング練習 (5分) 授業の内容を復習しておく (30分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)	
2	表計算 (1)	表の作成・編集、罫線の作成・編集	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)	
3	表計算 (2)	グラフの作成	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)	
4	表計算 (3)	印刷設定、基本的な関数の利用	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)	
5	表計算応用 (1)	相対参照と絶対参照、応用的な関数の利用	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)	
6	表計算応用 (2)	Excel の応用利用	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)	
7	データベースの利用	Excel データベース	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)	
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめと確認テスト	前半の内容を復習しておく (60分) タイピング練習 (5分)	
9	データ分析の基礎	代表値について、データの整理	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)	
10	データ分析の応用 (1)	Excel を活用した様々な分析 1	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)	
11	データ分析の応用 (2)	Excel を活用した様々な分析 2	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)	
12	データ分析の応用 (3)	Excel を活用した様々な分析 3	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)	
13	ソフトウェアの統合的活用 (1)	ソフトウェア間のデータ共有	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)	
14	ソフトウェアの統合的活用 (2)	論文やレポート作成に必要な技術	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)	
15	後半のまとめ、学力診断テスト	後半のまとめと確認テスト	後半の内容を復習しておく (60分) タイピング練習 (5分)	

関連科目	ICT 概論、ビジネス情報処理Ⅰ
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Windows8・Office2013による情報処理入門	監修：高橋敏夫 執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業中の演習課題 (40%)、小テスト (50%)、授業への取組姿勢 (10%) をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。 なお、教科書を使用するのは第1回～9回です。それ以降は毎回資料を配布します。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤控室)
備考	

科目名	ビジネスプラン	科目名(英文)	Business Plan
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p><b>【授業概要・目的】</b>          実践的講義として、バーチャル・シミュレーションにより、ベンチャー企業設立プランニング・企業設立に至るまでの演習を行う。          企業等への学外ヒアリング調査を実施する（企業現場への訪問）。          プレゼン発表（審査会）により、ベンチャー企業経営者としての実務を体験する。</p> <p>将来、企業におけるプロジェクトリーダー、プロジェクトデベロッパーを目指す。</p>
到達目標	企業における戦略的経営手法、リスクマネジメントの考え方・戦法について学ぶ。 技術戦略の基本的考え方・立案方法・事業化プロセスの実例など、技術の役割について学ぶ。
授業方法と留意点	チームを編成し、チーム別にベンチャー企業設立シミュレーション（演習）を行う。
科目学習の効果（資格）	通常の大学講義では得られない貴重な体験をしてもらいたい。 就活における有効な武器（履修実績）として活用してもらいたい。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「起業とは」	講座ガイダンス 起業家醸成の必要性	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	2	起業を取り巻く経済（国際）・経営環境の変化と起業促進の必要性	イノベーション（起業家創出） 起業家の起点 Venture Support（海外との比較）	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	3	起業家の目指すべき方向性とその役割	起業家・社会システム ベンチャー事例研究	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	4	経営的視点と意思決定	企業（法人経営）とは 株式（株主）とは 企業組織と経営管理	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	5	市場環境分析能力	事業構想（起業準備）	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	6	事業ドメインの設定と知財戦略	経営機能構造の設計	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	7	起業成長に必要な収益モデリング	財務分析 資金調達（株式資本・自己金融・外部資金） 企業設立手続き	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	8	事業プランニング演習（1）	チーム別ディスカッション	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	9	事業プランニング演習（2）	チーム別ディスカッション	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	10	事業プランニング演習（3）	チーム別ディスカッション ヒアリング調査	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	11	事業プランニング演習（4）	チーム別ディスカッション ヒアリング調査	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	12	事業プランニング演習（5）	チーム別ディスカッション ヒアリング調査	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	13	事業プランニング演習（6）	チーム別ディスカッション ヒアリング調査	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	14	事業プランニング演習（7）	チーム別ディスカッション ヒアリング調査	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	15	事業プレゼン審査会	相互評価ディスカッション	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。

関連科目	「ビジネスインターンシップ I・II」
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	実習における取組姿勢 [50%]、チーム別プレゼン発表 [50%] により評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	通常の大学講義では得られない貴重な体験をしてもらいたい。 就活における有効な武器（履修実績）として活用してもらいたい。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館7階 林研究室
----------	-------------

備考	
----	--



科目名	ビジネスプランニング	科目名(英文)	Business Planning
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	<p><b>【授業概要・目的】</b>          実践的講義として、バーチャル・シミュレーションにより、ベンチャー企業設立プランニング・企業設立に至るまでの演習を行う。          企業等への学外ヒアリング調査を実施する（企業現場への訪問）。          プレゼン発表（審査会）により、ベンチャー企業経営者としての実務を体験する。</p> <p>将来、企業におけるプロジェクトリーダー、プロジェクトデベロッパーを目指す。</p>
到達目標	企業における戦略的経営手法、リスクマネジメントの考え方・戦法について学ぶ。 技術戦略の基本的考え方・立案方法・事業化プロセスの実例など、技術の役割について学ぶ。
授業方法と留意点	チームを編成し、チーム別にベンチャー企業設立シミュレーション（演習）を行う。
科目学習の効果（資格）	通常の大学講義では得られない貴重な体験をしてもらいたい。 就活における有効な武器（履修実績）として活用してもらいたい。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「起業とは」	講座ガイダンス 起業家醸成の必要性	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	2	起業を取り巻く経済（国際）・経営環境の変化と起業促進の必要性	イノベーション（起業家創出） 起業家の起点 Venture Support（海外との比較）	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	3	起業家の目指すべき方向性とその役割	起業家・社会システム ベンチャー事例研究	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	4	経営的視点と意思決定	企業（法人経営）とは 株式（株主）とは 企業組織と経営管理	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	5	市場環境分析能力	事業構想（起業準備）	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	6	事業ドメインの設定と知財戦略	経営機能構造の設計	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	7	起業成長に必要な収益モデリング	財務分析 資金調達（株式資本・自己金融・外部資金） 企業設立手続き	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	8	事業プランニング演習（1）	チーム別ディスカッション	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	9	事業プランニング演習（2）	チーム別ディスカッション	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	10	事業プランニング演習（3）	チーム別ディスカッション ヒアリング調査	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	11	事業プランニング演習（4）	チーム別ディスカッション ヒアリング調査	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	12	事業プランニング演習（5）	チーム別ディスカッション ヒアリング調査	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	13	事業プランニング演習（6）	チーム別ディスカッション ヒアリング調査	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	14	事業プランニング演習（7）	チーム別ディスカッション ヒアリング調査	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。
	15	事業プレゼン審査会	相互評価ディスカッション	日ごろから新聞等に目を通し、疑問点・分からない点については積極的に質問してください。

関連科目	「ビジネスインターンシップ I・II」
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	実習における取組姿勢 [50%]、チーム別プレゼン発表 [50%] により評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	通常の大学講義では得られない貴重な体験をしてもらいたい。 就活における有効な武器（履修実績）として活用してもらいたい。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館7階 林研究室
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	ファイナンシャル・プランニング	科目名(英文)	Financial Planning
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	FP3級取得レベルの知識の習得
到達目標	FP技能士の資格試験は毎年5月・9月・1月に実施されますが、夏期休暇中の授業の復習を通じて、9月試験の合格を目指します。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則的に講義形式です。</li> <li>・講義内で頻繁に問題演習を行います。</li> <li>・おおよそ講義2回に1回は確認テストを行います。成績評価にも関連しますので、確認テストは必ず受けるようにしてください。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	FP3級の取得、FP2級の学習への予備的学習

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ファイナンシャル・プランニングとは何か	ファイナンシャルプランニングおよびファイナンシャルプランナー(以下FP)に関する概要	特になし
2	ライフプランニングと資金計画(1)	ライフプランニングの考え方・手法	第2回の復習
3	ライフプランニングと資金計画(2)	公的年金制度	第3回の復習
4	ライフプランニングと資金計画(3)	ライフプラン策定上の資金計画	第2回から第4回までの復習(第5回に確認テスト①)
5	確認テスト① + リスク管理(1)	生命保険	第5回の復習
6	リスク管理(2)	損害保険 第三の保険	第5回から第6回までの復習(第7回に確認テスト②)
7	確認テスト② + 金融資産運用(1)	各種経済指標 マーケット環境の理解 投資信託	第7回の復習
8	金融資産運用(2)	債券・株式 その他金融商品 金融資産に係る税金 ポートフォリオ運用	第7回から第8回までの復習(第9回に確認テスト③)
9	確認テスト③ + タックスプランニング(1)	所得税制度 各種所得①	第9回の復習
10	タックスプランニング(2)	各種所得② 所得税計算	第9回から第10回までの復習(第11回に確認テスト④)
11	確認テスト④ + 不動産(1)	不動産の価格 不動産取引に係る法律 不動産登記	第11回の復習
12	不動産(2)	不動産に係る関連法規(都市計画法・建築基準法など) 不動産に係る税金	第11回から第12回までの復習(第13回に確認テスト⑤)
13	確認テスト⑤ + 相続・事業承継(1)	贈与・相続制度	第13回の復習
14	相続・事業承継(2)	贈与・相続に係る税金	第13回から第14回までの復習(第15回に確認テスト⑥)
15	確認テスト⑥ + 今後の学習について	期末テストについて 今後のFP学習について	特になし

関連科目	金融論・地域金融論など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	確認テスト(計6回)60%、定期試験40%
----------	-----------------------

学生へのメッセージ	FP試験の範囲は非常に広範ですが、それだけ幅広いファイナンスや経済学の学習が可能です。これまで学んだ事項を、現実の生活に応用するための基礎力を学ぶことができますので、資格取得を目指すきっかけとして積極的に参加してください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 植杉教授室(経済学部)
----------	-------------------

備考	病欠その他都合により確認テストが受けられない場合には、理由を添えて、後日受けるようにしてください(もし受けないと、その回のテストは0点扱いとします)。 FP試験は年間3回あります(5月・9月・1月)ので、積極的に受験することを勧めます。
----	---

科目名	ファイナンス I	科目名 (英文)	Finance I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	ファイナンスとは端的に言えばお金の管理に関する学問であり、会社員として、経営者として、主婦・主夫として、どのような立場にあってもファイナンスの問題に直面する。これは暮らしを支える経済が希少なお金や時間と密接な関係にあるからである。本講義では、ライフイベント毎のファイナンスの重要性の認識から始め、貨幣や金利といった基礎概念、それらを支える銀行や保険会社、証券会社といった金融システムの解説に重きを置き、その後、ファイナンスの基礎理論の解説を行う。
到達目標	お金を借りたり、資産を運用する際の利用窓口（金融機関）や借入・運用の場（金融市場）が分かること。また、長期の資産運用に関する理論と実践的な考え方が分かること。
授業方法と留意点	授業は教科書や配布資料を用いながら進める。できうる限り学生との対話しながら進めるので、恐れず恥ずかしがらずに参加して欲しい。
科目学習の効果（資格）	FP 資格の基礎知識が身につく。経済動向を考える能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	ファイナンス I で学ぶこと	特になし
2	ファイナンスの重要性	ライフイベントにおけるお金の問題について解説する	配布プリントにて復習のこと
3	お金（貨幣）とは	貨幣の機能、貨幣の機能を定義すると貨幣の範疇が格段に広がること、貨幣と物価の関係等を解説する	第2章について予習し、復習のこと
4	お金と時間の仲介役：金利（1）	キャピタルゲインとインカムゲイン、単利と複利、実質利率と名目利率、利回り（収益率）、債券の残存期間と金利の関係等を解説する	第3章について予習し復習のこと
5	お金と時間の仲介役：金利（2）	債券価格の決定と金利の関係等を解説する	第3章について予習し、復習のこと
6	代表的な金融市場	重要な指標の確認、マーケットデータを読む際の注意点	教科書第3章を予習し、配布プリントを用い復習のこと
7	金融商品	リスクや分散投資、金融商品の特徴を解説する	教科書第12,13章を予習し、配布プリントを用い復習のこと
8	金融システム概観	金融システムの役割、日本の金融システムについて解説する	教科書第1,7,8章を予習し、配布プリントを用い復習のこと
9	日本の金融サービス業（1）	保険会社の機能や実態について解説する	教科書第8章を予習し、配布プリントを用い復習のこと
10	日本の金融サービス業（2）	銀行の機能や実態について解説する	教科書第7章を予習し、配布プリントを用い復習のこと
11	日本の金融サービス業（3）	証券会社、証券取引所、格付け機関等、有価証券を取り扱う機関について解説する	教科書第8章を予習し、配布プリントを用い復習のこと
12	日本の金融サービス業（4）	公的金融機関と財政投融资について解説する	教科書第8章を予習し、配布プリントを用い復習のこと
13	ファイナンスの基礎理論（1）	期待収益率、リスク、投資機会集合	教科書第14章を予習し、復習のこと
14	ファイナンスの基礎理論（2）	投資家の選好、資産運用	教科書第14章を予習し、復習のこと
15	ファイナンスの基礎理論（3）	CAPM、効率的市場仮説、アノマリー	教科書第14章を予習し、復習のこと

関連科目 経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンスII、コーポレートファイナンスI,II,

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	金融論 ベーシックプラス	家森信善	中央経済社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	期末試験(100%)を基に評価する。詳しくは初回講義時に述べる。
学生へのメッセージ	企業は即戦力を求めている。単位を稼ぐための受動的な受講ではなく、学ぶための能動的な受講姿勢を希望する。
担当者の研究室等備考	11号館8階（岩坪教授室）

科目名	ファイナンスⅡ	科目名(英文)	Finance II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	本講義の目的は、ファイナンスⅠの知識をもとに、初歩的な実践力の修得にある。まずは「お金の時間価値」の復習から始め、「お金を借りる・返す」、「資産運用」について、可能な限り実践に則した事例や考え方について解説する。																																																																		
到達目標	お金を借り返すこと、資産運用の心得が分かること。																																																																		
授業方法と留意点	授業は教科書と配布資料を用い、講義形式と演習形式を併用して進める。できうる限り学生と対話しながら進めるので、恐れず恥ずかしがらずに参加して欲しい。また、本講義の内容は極めて積み重ねの性質が強いため、休んだり分からないことがあると、のちの講義についてゆくのが難しくなる。出席状況は加減点の対象ではないが、可能な限り出席し、もしも欠席した場合には、出席者から情報収集を行うこと。さらに、疑問点があれば遠慮なく教員に質問すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	FP資格の基礎知識が身につく。資産形成・運用に関する初歩的な能力が身につく。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめに</td> <td>ファイナンスⅡで学ぶこと</td> <td>特になし</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>お金の時間価値</td> <td>機会費用、複利の効果、将来価値と現在価値</td> <td>第2章を読んでおくこと。復習も行うこと。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>資産と信用の管理</td> <td>ライフイベントと金融商品、家計のバランスシート</td> <td>第6章を読んでおくこと。復習も行うこと。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>住宅購入を考える</td> <td>持ち家と賃貸住宅、持ち家の資金計画</td> <td>第7,8章を読んでおくこと。復習のこと。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資産運用の基礎知識(1)</td> <td>不確実性とリスク、リスク指標、資産価格</td> <td>配布資料を元に復習のこと。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>資産運用の基礎知識(2)</td> <td>現代ポートフォリオ理論</td> <td>配布資料を元に復習のこと。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>資産運用の基礎知識(3)</td> <td>理論の限界、より実践へ</td> <td>配布資料を元に復習のこと。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>情報源と銘柄選び</td> <td>情報収集の仕方</td> <td>配布資料を元に復習のこと。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>株式投資(1)</td> <td>日本の株式市場、投資とトレード</td> <td>配布資料を元に復習のこと。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>株式投資(2)</td> <td>資金管理</td> <td>配布資料を元に復習のこと。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>株式投資(3)</td> <td>リスク管理</td> <td>配布資料を元に復習のこと。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>株式投資(4)</td> <td>エッジについて</td> <td>配布資料を元に復習のこと。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>株式投資(5)</td> <td>理論的根拠</td> <td>配布資料を元に復習のこと。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>株式投資(6)</td> <td>分析手法</td> <td>配布資料を元に復習のこと。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>再考:資産運用</td> <td>富裕層の資産運用、老後資金の計画</td> <td>第15,16章を読んでおくこと。復習のこと。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	はじめに	ファイナンスⅡで学ぶこと	特になし	2	お金の時間価値	機会費用、複利の効果、将来価値と現在価値	第2章を読んでおくこと。復習も行うこと。	3	資産と信用の管理	ライフイベントと金融商品、家計のバランスシート	第6章を読んでおくこと。復習も行うこと。	4	住宅購入を考える	持ち家と賃貸住宅、持ち家の資金計画	第7,8章を読んでおくこと。復習のこと。	5	資産運用の基礎知識(1)	不確実性とリスク、リスク指標、資産価格	配布資料を元に復習のこと。	6	資産運用の基礎知識(2)	現代ポートフォリオ理論	配布資料を元に復習のこと。	7	資産運用の基礎知識(3)	理論の限界、より実践へ	配布資料を元に復習のこと。	8	情報源と銘柄選び	情報収集の仕方	配布資料を元に復習のこと。	9	株式投資(1)	日本の株式市場、投資とトレード	配布資料を元に復習のこと。	10	株式投資(2)	資金管理	配布資料を元に復習のこと。	11	株式投資(3)	リスク管理	配布資料を元に復習のこと。	12	株式投資(4)	エッジについて	配布資料を元に復習のこと。	13	株式投資(5)	理論的根拠	配布資料を元に復習のこと。	14	株式投資(6)	分析手法	配布資料を元に復習のこと。	15	再考:資産運用	富裕層の資産運用、老後資金の計画	第15,16章を読んでおくこと。復習のこと。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	はじめに	ファイナンスⅡで学ぶこと	特になし																																																																
2	お金の時間価値	機会費用、複利の効果、将来価値と現在価値	第2章を読んでおくこと。復習も行うこと。																																																																
3	資産と信用の管理	ライフイベントと金融商品、家計のバランスシート	第6章を読んでおくこと。復習も行うこと。																																																																
4	住宅購入を考える	持ち家と賃貸住宅、持ち家の資金計画	第7,8章を読んでおくこと。復習のこと。																																																																
5	資産運用の基礎知識(1)	不確実性とリスク、リスク指標、資産価格	配布資料を元に復習のこと。																																																																
6	資産運用の基礎知識(2)	現代ポートフォリオ理論	配布資料を元に復習のこと。																																																																
7	資産運用の基礎知識(3)	理論の限界、より実践へ	配布資料を元に復習のこと。																																																																
8	情報源と銘柄選び	情報収集の仕方	配布資料を元に復習のこと。																																																																
9	株式投資(1)	日本の株式市場、投資とトレード	配布資料を元に復習のこと。																																																																
10	株式投資(2)	資金管理	配布資料を元に復習のこと。																																																																
11	株式投資(3)	リスク管理	配布資料を元に復習のこと。																																																																
12	株式投資(4)	エッジについて	配布資料を元に復習のこと。																																																																
13	株式投資(5)	理論的根拠	配布資料を元に復習のこと。																																																																
14	株式投資(6)	分析手法	配布資料を元に復習のこと。																																																																
15	再考:資産運用	富裕層の資産運用、老後資金の計画	第15,16章を読んでおくこと。復習のこと。																																																																
関連科目	経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学、コーポレートファイナンスⅠ,Ⅱ,																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>パーソナルファイナンス入門</td> <td>榑原茂樹・城下賢吾・姜喜永・砂川伸幸</td> <td>中央経済社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	パーソナルファイナンス入門	榑原茂樹・城下賢吾・姜喜永・砂川伸幸	中央経済社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	パーソナルファイナンス入門	榑原茂樹・城下賢吾・姜喜永・砂川伸幸	中央経済社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	期末試験(60%)、レポート5回(40%)を基に評価する。詳しくは初回講義時に述べる。																																																																		
学生へのメッセージ	企業は即戦力を求めている。単位を稼ぐための受動的な受講ではなく、学ぶための能動的な受講姿勢を希望する。																																																																		
担当者の研究室等	11号館8階(岩坪教授室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	ベンチャービジネス論	科目名(英文)	Venture Business
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	晶山 俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	経済発展においてイノベーションはきわめて重要です。イノベーションの創出には、ベンチャー企業をはじめとする企業だけではなく、政府や自治体による支援策も重要な役割を果たしています。本講義では、イノベーションの担い手であるベンチャー企業の経営とイノベーションの創出を支援する機関の役割について解説し、ベンチャー企業の経営やベンチャー企業の支援策等について学習します。
到達目標	1. ベンチャー企業の経営者が自ら起業し、事業を発展させてきたプロセスを理解する。 2. 政府や自治体がベンチャー企業の育成のためにどのような政策を行っているか理解する。 3. 地域における産学連携を通じたイノベーションの創出の取り組みについて理解する。
授業方法と留意点	教員による講義と実務家による講義を中心に授業を進めます。 尚、実務家講師に失礼にならないよう受講マナーには注意してください。
科目学習の効果(資格)	起業したいと考えている学生、ベンチャー企業の創業支援に携わりたいと考えている学生は、実務家からベンチャー企業の経営や創業支援、産学連携の実態について学ぶことができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 【4月12日】	本講義のガイダンスを行います。	事前：シラバスを事前に読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
2	日本におけるベンチャーの概況 【4月19日】	日本におけるベンチャー企業の発展の歴史や現状について解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
3	イノベーションと起業家 【4月26日】	イノベーションのプロセス、イノベーションを創出する起業家について解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
4	イノベーションと経営戦略 【5月10日】	イノベーションと経営戦略の関係について解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
5	ベンチャー企業のマネジメント(1) 【5月17日】	ベンチャー企業の経営について学習します。 (株式会社フィードテイラー 代表取締役 大石裕一氏)	事前：フィードテイラーの事業内容を調べておくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
6	ベンチャー企業のマネジメント(2) 【5月24日】	ベンチャー企業の経営について学習します。 (株式会社クロスアンビション 代表取締役 CEO 村林暁氏)	事前：クロスアンビションの事業内容を調べておくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
7	専門職のマネジメント 【5月31日】	専門職事務所の経営と労働法について学習します。 (総合事務所ネクスト 所長 特定社会保険労務士 小西勝氏)	事前：総合事務所ネクストの事業内容、社会保険労務士の役割について調べておくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
8	NPOのマネジメント 【6月7日】	NPO法人の経営について学習します。 (特定非営利活動法人週刊ひがしおおさか代表 前田寛文氏)	事前：「週刊ひがしおおさか」の活動を調べておくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
9	日本のベンチャー支援政策 【6月14日】	日本で実施されているベンチャー支援政策について解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
10	ベンチャーキャピタル 【6月21日】	ベンチャー企業の資金調達手段の一つであるベンチャーキャピタルについて解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
11	産業クラスター 【6月28日】	産業クラスターにおけるベンチャー企業の重要性について解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
12	ベンチャー企業の資金調達 【7月5日】	ベンチャー企業の資金調達における政府系金融機関の役割について学習します。 (日本政策金融公庫大阪創業支援センター 上席所長代理 向笠大樹氏)	事前：日本政策金融公庫の事業内容について調べておくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
13	ベンチャー企業の創業支援 【7月12日】	ベンチャー企業の創業支援について学習します。 (中小企業基盤整備機構 震災復興支援部 復興支援課 担当課長 長坂泰之氏)	事前：中小企業基盤整備機構の事業内容について調べておくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
14	産学連携によるイノベーションの創出 【7月19日】	大阪における産学連携の支援について学習します。 (大阪府商工労働部 中小企業支援室 ものづくり支援課 産学官連携推進グループ 総括主査 椿野将氏)	事前：ものづくりビジネス センター大阪(MOBIO)の事業内容について調べておくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
15	まとめ 【7月26日】	学んできた内容の復習を行います。	事前：これまでの学習内容を復習しておくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。

関連科目	ビジネスプランニング、経営学Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イノベーション・マネジメント入門	一橋大学イノベーション研究センター	日本経済新聞社
	2			

	3		
評価方法 (基準)	出席率が80%以上のうえ、期末試験100%で評価します。		
学生への メッセージ	ベンチャー企業の経営者やベンチャー企業を支援する機関の方から直接お話を伺うことのできる貴重な機会です。予習・復習を行い、積極的に授業に参加してください。		
担当者の 研究室等	11号館8階 畠山研究室		
備考	講義資料は配布しませんので、各自で印刷して持参してください。講義資料の保存場所は初回の講義で説明します。尚、実務家講師の資料は授業で配布します。		

科目名	簿記入門	科目名(英文)	Introduction to Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三木 僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	簿記とは、企業などの経済活動をお金の動きで捉え記録・整理する技術的な手法である。本講義では、簿記の基本的な仕組みから簿記一巡の手続きまでわかりやすく解説し、練習問題を多く解くことによって受講者が容易に理解し、簿記の基礎的能力を身に付けることを目的とする。
到達目標	簿記一巡の手続きを理解し、日商簿記3級試験に合格できる程度の知識を身に付ける。
授業方法と留意点	最初に講義形式で教科書に沿って説明し、練習問題を実際に各自で解いてみる。その後解答を確認しながら解説を行う。必要に応じて配布プリント等で補足説明する。学生の理解度に応じて進行を調整するので、授業計画を変更することがある。
科目学習の効果(資格)	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	簿記の基礎①	簿記の目的、貸借対照表、損益計算書	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
2	簿記の基礎②	取引と勘定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
3	簿記の基礎③	仕訳と転記	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
4	簿記の基礎④	試算表	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
5	簿記の基礎⑤	決算の意味と手続き	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
6	簿記の基礎⑥	財務諸表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
7	まとめ	第1回から第6回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。	事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
8	現金・預金①	現金・現金過不足	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
9	現金・預金②	当座預金・当座借越・小口現金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
10	商品売買	三分法と売上原価の算定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
11	商品有高帳	先入先出法、移動平均法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
12	売掛金・買掛金	売掛金元帳、買掛金元帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
13	貸し倒れと貸倒引当金	貸倒引当金の処理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
14	手形	手形の処理、手形の裏書・割引	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
15	その他の債権・債務①	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
16	その他の債権・債務②	立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券、他店商品券	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
17	有価証券、固定資産	有価証券の購入・売却、固定資産の取得・減価償却・売却	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
18	資本金・引出金、税金	資本金と引出金、税金の記帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
19	まとめ	第8回から第18回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。	事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
20	決算①	費用・収益の繰り延べ	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
21	決算②	費用・収益の見越し	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
22	決算③	試算表の作成1	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
23	決算④	試算表の作成2	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
24	決算⑤	精算表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
25	財務諸表の作成①	貸借対照表、損益計算書の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
26	財務諸表の作成②	貸借対照表、損益計算書の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
27	伝票会計	伝票の起票、伝票の集計・管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
28	まとめ	第20回から第27回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。	事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
29	日商簿記検定問題①	仕訳、帳簿の問題	事前：教科書の仕訳、帳簿の問題を解く(60分)。	事後：間違えた問題を再度解く(30分)。

	30	日商簿記検定問題②	試算表、精算表の問題	事前：教科書の試算表、精算表の問題を解く(60分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30分)
関連科目	財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 三訂版	渡辺正直 ほか	実教出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期末試験の結果により評価する。			
学生への メッセージ	簿記は借方・貸方などの専門用語があって最初はややこしく感じるかもしれませんが、慣れれば足し算・引き算のみで決して難しいものではありません。基本的な知識をしっかり身に付けて、簿記力を積み上げていきましょう。			
担当者の 研究室等	11号館7階(三木准教授室)			
備考				



科目名	簿記入門	科目名(英文)	Introduction to Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	G H J K L M
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	簿記とは、企業などの経済活動をお金の動きで捉え記録・整理する技術的な手法である。本講義では、簿記の基本的な仕組みから簿記一巡の手続きまでわかりやすく解説し、練習問題を多く解くことによって受講者が容易に理解し、簿記の基礎的能力を身に付けることを目的とする。
到達目標	簿記一巡の手続きを理解し、日商簿記3級試験に合格できる程度の知識を身に付ける。
授業方法と留意点	最初に講義形式で教科書に沿って説明し、練習問題を実際に各自で解いてみる。その後解答を確認しながら解説を行う。必要に応じて配布プリント等で補足説明する。学生の理解度に応じて進行を調整するので、授業計画を変更することがある。
科目学習の効果(資格)	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	簿記の基礎①	簿記の目的、貸借対照表、損益計算書	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	2	簿記の基礎②	取引と勘定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	3	簿記の基礎③	仕訳と転記	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	4	簿記の基礎④	試算表	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	5	簿記の基礎⑤	決算の意味と手続き	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	6	簿記の基礎⑥	財務諸表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	7	まとめ	第1回から第6回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
	8	現金・預金①	現金・現金過不足	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	9	現金・預金②	当座預金・当座借越・小口現金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	10	商品売買	三分法と売上原価の算定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	11	商品有高帳	先入先出法、移動平均法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	12	売掛金・買掛金	売掛金元帳、買掛金元帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	13	貸し倒れと貸倒引当金	貸倒引当金の処理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	14	手形	手形の処理、手形の裏書・割引	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	15	その他の債権・債務①	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	16	その他の債権・債務②	立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券、他店商品券	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	17	有価証券、固定資産	有価証券の購入・売却、固定資産の取得・減価償却・売却	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	18	資本金・引出金、税金	資本金と引出金、税金の記帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	19	まとめ	第8回から第18回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
	20	決算①	費用・収益の繰り延べ	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	21	決算②	費用・収益の見越し	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	22	決算③	試算表の作成1	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	23	決算④	試算表の作成2	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	24	決算⑤	精算表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	25	財務諸表の作成①	貸借対照表、損益計算書の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	26	財務諸表の作成②	貸借対照表、損益計算書の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	27	伝票会計	伝票の起票、伝票の集計・管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
	28	まとめ	第20回から第27回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
	29	日商簿記検定問題①	仕訳、帳簿の問題	事前：教科書の仕訳、帳簿の問題を解く(60分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30分)

	30	日商簿記検定問題②	試算表、精算表の問題	事前：教科書の試算表、精算表の問題を解く(60分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30分)
関連科目	財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 三訂版	渡辺正直 ほか	実教出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期末試験の結果により評価する。			
学生への メッセージ	簿記は借方・貸方などの専門用語があって最初はややこしく感じるかもしれませんが、慣れれば足し算・引き算のみで決して難しいものではありません。基本的な知識をしっかり身に付けて、簿記力を積み上げていきましょう。			
担当者の 研究室等	11号館7階(呉研究室)			
備考				

科目名	マーケティング概論	科目名(英文)	Introduction to Marketing Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングの基礎的知識について学習します。マーケティングの出発点は、消費者ニーズの把握にあります。そのため、消費行動を中心に、製品政策、価格政策、流通政策、販売促進政策の展開過程を学習していきます。
到達目標	マーケティングの基礎知識を学習し、現実のマーケティング現象を理解できるようになる。
授業方法と留意点	講義形式を基本とします。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	マーケティング概論の全体について、説明します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
2	マーケティングとは何か	マーケティングとは何かについて、説明します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
3	製品政策	製品の基本的な知識について学習します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。
4	価格政策	価格の基本的な知識について学習します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。
5	流通政策	流通の基本的な知識について学習します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通政策に関連する内容を読みましよう。
6	販売促進政策	販売促進の基本的な知識について学習します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。
7	マーケティングと消費行動	マーケティングと消費行動について説明します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと消費行動に関連する内容を読みましよう。
8	マーケティングと消費者の購買意思決定過程	消費者の購買意思決定過程について説明します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、消費者の購買意思決定過程について関連する文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
9	マーケティングと顧客満足	マーケティングと顧客満足について説明します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと顧客満足に関連する内容を読みましよう。
10	消費行動の歴史の変遷	消費行動の歴史の変遷過程について、説明します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動の歴史の変遷に関連する内容を読みましよう。
11	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチの基礎について説明します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティング・リサーチに関連する内容を読みましよう。
12	市場細分化戦略	市場細分化戦略について、説明します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、市場細分化戦略に関連する内容を読みましよう。
13	製品ライフサイクル戦略	製品ライフサイクルについて、説明します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品ライフサイクルに関連する内容を読みましよう。
14	競争の戦略	競争の基本戦略、企業の地位別戦略について、学習します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、競争戦略に関連する内容を読みましよう。
15	講義のまとめ	全体のまとめをします。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>消費行動</td> <td>武居 奈緒子</td> <td>晃洋書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	消費行動	武居 奈緒子	晃洋書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	消費行動	武居 奈緒子	晃洋書房														
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現代マーケティング論</td> <td>高嶋克義・桑原秀史</td> <td>有斐閣アルマ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現代マーケティング論	高嶋克義・桑原秀史	有斐閣アルマ	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	現代マーケティング論	高嶋克義・桑原秀史	有斐閣アルマ														
2																	
3																	

評価方法(基準)	講義内課題 30%、期末試験 70%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11号館8階 武居教授室
備考	

科目名	マーケティング戦略論	科目名(英文)	Marketing Strategy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	マーケティング概論で学んだことをさらに発展させ、「戦略」という視点からマーケティングをとらえなおし、学んでいきます。ビジネス社会で役立つマーケティング戦略論の考え方について学びます。
到達目標	・マーケティング戦略の考え方について理解する。 ・身近な事例をマーケティング戦略に結び付けて考えることができる。
授業方法と留意点	講義が中心ですが、途中、グループワークも織り交ぜます。
科目学習の効果(資格)	リテール・マーケティング(販売士)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	競争環境をとらえる	競争環境とは何か。いかに対処すべきかを考察します	【事前学習】マーケティング論の復習、教科書第1章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、次回小テストに備える。
2	市場環境をとらえる	消費者行動の理解を図ります。	【事前学習】教科書第2章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、次回小テストに備える。
3	流通環境をとらえる	小売業者や卸売業者の役割、インターネットの影響などを考えます。	【事前学習】教科書第3章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、次回小テストに備える。
4	市場機会の探索と評価	事業機会を探し出し、評価するための枠組みを紹介します。	【事前学習】教科書第4章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、次回小テストに備える。
5	需要多様性への対応	探された市場機会への対応方法について考察します。	【事前学習】教科書第5章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、次回小テストに備える。
6	価値提供と競争優位	競争相手に対して有利な立場に立てるようなやり方で顧客に価値を提供するための枠組みについて考察します。	【事前学習】教科書第6章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、次回中間テストに備える。
7	新製品開発戦略 中間テスト	新製品開発課程とマーケティング戦略構築とを関連づけて考察します。	【事前学習】教科書第7章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、次回小テストに備える。
8	製品ライフサイクルとマーケティング戦略	製品ライフサイクルの各段階でどのようなマーケティング施策を必要とするかを考えます。	【事前学習】教科書第8章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、次回小テストに備える。
9	製品戦略	提供価値と提供方法をどのような製品で実現し、どのようなサービスを付加するかを考えます。	【事前学習】教科書第9章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、次回小テストに備える。
10	ブランド戦略	ブランディングについて考えます。	【事前学習】教科書第10章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、次回小テストに備える。
11	価格戦略	価格設定に影響を与える要因や価格の使い分けなどについて考えます。	【事前学習】教科書第11章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、次回小テストに備える。
12	プロモーション戦略	消費者とのコミュニケーションを図る方法であるプロモーション手段の組み合わせなどを考察します。	【事前学習】教科書第12章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、次回小テストに備える。
13	流通チャネル戦略	標的市場に提供価値を届けるための最適な流通チャネルの選択と管理について考察します。	【事前学習】教科書第13章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、次回小テストに備える。
14	事例研究1	企業事例を通じて、マーケティング戦略の実践を学びます。	【事前学習】事例の読解 【事後学習】事例を読み直し、次回小テストに備える。
15	事例研究2	企業事例を通じて、マーケティング戦略の実践を学びます。	【事前学習】事例の読解 【事後学習】学習範囲を復習し期末テストに備える。

関連科目 マーケティング概論、消費者行動論、リテールマーケティング

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門マーケティング戦略	池尾恭一	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	わかりやすいマーケティング戦略	沼上幹	有斐閣アルマ
2				
3				

評価方法(基準) 平常点(ミニッツペーパー、小テスト、中間テスト発表等) 40%  
期末テスト 60%

学生への 教科書の予習、復習を図ることで、マーケティングの定着が図れます。将来、仕事でマーケティングを活かしたい人はしっかりと学んでください。

メッセージ	
担当者の 研究室等	鶴坂貴恵研究室 11号館7階
備考	

科目名	マクロ経済学	科目名(英文)	Macro Economics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	現代経済学は体系化された科学としてマクロ経済学とミクロ経済学に大別されます。マクロ経済学では、国家レベルの経済問題や社会全体など大きな動きについて論じます。なお、ミクロ経済学では、経済主体の意思決定プロセスや市場について議論することを目的とします。これによりビジネスニュースや新聞の経済面をより深く読むことが出来るようになることを目指します。
到達目標	マクロ経済学の理論を通して、日本経済の問題を理解、説明できる。
授業方法と留意点	教科書を中心に行うが、適宜、新聞やTVで取り上げられたトピックも用いる。
科目学習の効果(資格)	公務員試験・経済学検定試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	経済学とは何か	経済学とはどのような学問か？ マクロ経済学とミクロ経済学の違い	経済記事や経済ニュースを普段から読んだり聞いたりする習慣を付けてください。
	2	GDPとは何だろうか？(1)	付加価値、三面等価の原則	テキスト第1章を読んでおくこと。
	3	GDPとは何だろうか？(2)	GDPの範囲、GNI(GNP)との違い、名目値と実質値	テキスト第1章を読んでおくこと。
	4	消費と貯蓄はどのようにして決まるか？(1)	ケインズ型の消費関数	テキスト第2章を読んでおくこと。
	5	消費と貯蓄はどのようにして決まるか？(2)	ライフサイクル仮説、恒常所得仮説、流動性制約、日本の貯蓄率の動向	テキスト第2章を読んでおくこと。
	6	設備投資と在庫投資(1)	資本ストックと設備投資、投資の決定理論、新古典派の投資理論	テキスト第3章を読んでおくこと。
	7	設備投資と在庫投資(2)	調整費用モデル、在庫投資	テキスト第3章を読んでおくこと。
	8	金融と株価(1)	企業の資金調達手段、家計の資産選択	テキスト第4章までを復習しておくこと。
	9	金融と株価(2)	株価の決定理論、トービンのq	テキスト第4章を読んで復習しておくこと。
	10	貨幣の需要と供給(1)	貨幣の機能、貨幣需要関数、	テキスト第5章を読んでおくこと。
	11	貨幣の需要と供給(2)	貨幣量のコントロール、金融政策の手段、利率の決定	テキスト第5章を復習しておくこと。
	12	乗数理論とIS-LM理論(1)	有効需要の原理、乗数理論	テキスト第6章を予習しておくこと。
	13	乗数理論とIS-LM理論(2)	財市場とIS曲線、貨幣市場とLM曲線、IS-LM分析	テキスト第6章、7章を読んでおくこと。
	14	財政赤字と国債	財政政策の意義、日本の財政赤字、国債の中立命題	テキスト第8章を読んでおくこと。
	15	インフレと失業	インフレとデフレ、失業率	テキスト第9、10章を読んでおくこと。

関連科目	ミクロ経済学、貿易と金融
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マクロ経済学入門	福田慎一、照山博司	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験 75% 平常点(レポート提出,小テストなど) 25%
学生へのメッセージ	授業中は私語厳禁、携帯電話の利用禁止。 テキストやノートでの復習は必ずすること。
担当者の研究室等	11号館6階(杉本研究室) sugimoto@kjo.setsunan.ac.jp
備考	

科目名	マネジメントサイエンス	科目名(英文)	Management Science
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	マネジメントサイエンス(経営科学、オペレーションズ・リサーチ)とは、経営活動にかかわる種々の課題をモデル化して数学的に解析を行うことにより、経営の意思決定を科学的な方法で支援するための知識の体系である。本科目では、日程計画、線形計画法、待ち行列や意思決定理論を中心とした基本的な知識と技法(解法)について修得することが目的である。
到達目標	数式、あるいはワークシート形式で定義された経営の諸問題についてのモデルを理解し、電卓等を用いた数値計算で最適解を見つけることができる。
授業方法と留意点	配布資料を中心に手法や理論を解説し、ゲームやシミュレーション形式の例題を用いた演習を通して理解を深める。課題に取り組む中で、経営における問題の発見やその構造のあらましを把握する能力を養ってほしい。
科目学習の効果(資格)	ITパスポート、基本情報技術者などの情報系の資格試験をはじめ、販売士や中小企業診断士などの経営関係の資格試験にも関連する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、マネジメントサイエンスの概要	次回の内容を確認する(30分) 配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)
2	在庫管理(1)	在庫管理の考え方、最適発注量	授業中に課した練習問題に解答(60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)
3	在庫管理(2)	発注システム、将来を見据えた在庫管理の方法	授業中に課した練習問題に解答(60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)
4	グラフ理論	グラフ理論の考え方、最適な経路を見つける方法	授業中に課した練習問題に解答(60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)
5	日程計画(1)	日程計画の考え方、作業を効率よく進める方法	授業中に課した練習問題に解答(60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)
6	日程計画(2)	PERTによる日程計画、作業の進捗管理	授業中に課した練習問題に解答(60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)
7	待ち行列理論	待ち行列の基礎、到着時間とサービス時間の分布	授業中に課した練習問題に解答(60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめと確認テスト	前半の学習内容を復習しておく(60分)
9	線形計画法(1)	線形計画法の考え方、問題の定式化と図式解法	授業中に課した練習問題に解答(60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)
10	線形計画法(2)	シンプレックス法による最適解法、出荷・輸送計画を事例とした演習	授業中に課した練習問題に解答(60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)
11	整数計画法	整数計画法の考え方、人員の最適配置計画	授業中に課した練習問題に解答(60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)
12	決定理論(1)	決定理論の考え方、複数候補からの意思決定	授業中に課した練習問題に解答(60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)
13	決定理論(2)	不確実性下の意思決定(ミニマックス原理など)	授業中に課した練習問題に解答(60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)
14	決定理論(3)	ゲーム理論(囚人のジレンマ、安定マッチングなど)	授業中に課した練習問題に解答(60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)
15	全体のまとめ	全体のまとめと経営学分野における実用例	全体の学習内容を復習しておく(120分)

関連科目 数学基礎 I、数学基礎 II、経営統計学

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験(40%)、授業中の課題(30%)、小テスト(30%)により総合的に評価する。  
私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。

学生へのメッセージ 高度な数学は使いませんが、演習を中心とした授業を行いますので、8割以上の出席が必要です。毎回、数値を扱うので電卓(関数電卓でなくてよい)を持参してください。また、授業の最初から聞かないと理解できませんので、遅れないようにしてください。

担当者の研究室等 11号館8階(栢木教室)

備考 必要に応じて資料を配布する。

科目名	ミクロ経済学	科目名(英文)	Micro Economics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	現代経済学の理論は、体系化された科学としてミクロ経済学とマクロ経済学に大別される。そのうち、ミクロ経済学は、もつともらしい仮定を起点とした論理に基づく消費者と企業の行動原理を説明する理論である。本講義では、ミクロ経済学を現実事象と照らし合わせながら説明する。
到達目標	経済主体の意思決定や市場について理解すること
授業方法と留意点	講義は極力教科書に沿って行うので、必ず教科書を購入のこと。理解度を重視して進めるので、講義計画の変更もある。漠然と講義に出席するのではなく、予習・復習を行い、発言することを求める。発言は評価の対象である。
科目学習の効果(資格)	TV や新聞、インターネットから無造作に流される経済的事象を自らで整理し、自らで判断するための初歩的な能力が身につく。さらに、教員免許状取得・公務員試験・中小企業診断士試験など資格取得に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	需要の理論	市場需要曲線、曲線のシフト要因、消費者余剰	事前に第2章を読んでおくこと。復習も行うこと。
3	消費者行動の理論(1)	最適消費点	事前に第3章を読んでおくこと。復習も行うこと。
4	消費者行動の理論(2)	需要曲線の導出、曲線のシフト要因再考	事前に第3章を読んでおくこと。復習も行うこと。
5	供給の理論(1)	限界費用、供給量の決定、供給曲線、生産者余剰	事前に第4章を読んでおくこと。復習も行うこと。
6	供給の理論(2)	右上がりの限界費用曲線、市場供給曲線、供給曲線のシフト要因	事前に第4章を読んでおくこと。復習も行うこと。
7	限界概念と微分	限界概念と微分との関係について説明する。	予習はできないが、復習をしっかりと行うこと。
8	需給曲線と弾力性	需要と供給の弾力性、弾力性を左右する要因	事前に第5章を読んでおくこと。復習も行うこと。
9	ここまでのまとめ	まとめとして中間試験を行う	事前に復習を行っておくこと。
10	市場の理論	さまざまな市場構造、社会的余剰、効率性、分配の公正性、市場の失敗	事前に第6章を読んでおくこと。復習も行うこと。
11	需要と供給で解く経済問題	需給曲線を用い経済問題を考える	事前に第7章を読んでおくこと。復習も行うこと。
12	余剰分析で解く経済問題	余剰を用い経済問題を考える	事前に第8章を読んでおくこと。復習も行うこと。
13	市場の失敗(2)	外部効果、公共財	事前に第9章を読んでおくこと。復習も行うこと。
14	市場の失敗(3)	情報の非対称性	事前に第10章を読んでおくこと。復習も行うこと。
15	市場の失敗(1)	独占市場	事前に第11章を読んでおくこと。復習も行うこと。

関連科目	経済学入門、マクロ経済学、ファイナンス、コーポレートファイナンス 等々
------	-------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ミクロ経済学の基礎 ベーシックプラス	小川光、家森信善	中央経済社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	中間試験(40%)と期末試験(60%)で評価する。なお、詳細は初回講義で述べる。
----------	--

学生へのメッセージ	経済の基本的な考え方を身につけておくことは、社会人としてだけでなく日常生活においても“身を守る”という意味で極めて重要です。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進してください。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館8階(岩坪教授室)
----------	---------------

備考	
----	--



科目名	民法	科目名(英文)	Civil Law
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	法律とは、社会において生じる問題を解決するために使われるものである。そのような法律も、いくつかの形で分類がなされる。本講義で扱う民法とは、私人の間の問題等を規律するための規範であり、特に財産と家族の問題を扱っている。財産と家族の問題を扱う一番基本となる法律が民法である。 本講義では、この民法を理解するために、まず概論として、法学とはどのような学問であるのか、そして、その法律学の中で民法がどのように扱われているのかなど、法学を概観し、そこから具体的な民法の中身を簡単にではあるが把握していくことを予定している。
到達目標	民法全般、および民事法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観をつかむことができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定である。復習などのために資料を配布する。 法律科目であるので、六法(書籍の一種)が必要。六法を入手する予定のない方は受講しないこと(学習内容を理解することができないため)。
科目学習の効果(資格)	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法(民法、民事訴訟法、破産法等)が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法律学および民法	法律科目というもののガイダンス、法律一般および民法の概要について確認する予定です。	新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持てる部分を是非見つけてください。
2	民法と財産法総論	法律というものが対象としているものなどを大きく捉え、その中で民法典の役割を確認し、さらに財産法の内容を確認していく予定です。	1回目の内容から、自分の周りに存在する財産法と関連する問題を考えてみて下さい。
3	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを把握してみてください。
4	民法における人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	これまでの経験から、法的に自分が置かれている立場を理解し、なぜ親の同意が必要だったのかを考えてください。
5	代理・時効	契約も単独でできない場合があります。その場合に、代わりに契約を行ってくれる人などの代理についてを確認し、また時効制度も確認する。	他人が自分のために契約をしてくれる便利さと怖さを確認してください。
6	契約の締結	契約を締結するとはどのようなことなのかを確認する予定です。	友達との約束についても法的に考えてみて下さい。
7	所有権を通しての物権	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	他人が自分の物を返さないという経験がこれまでありましたか?これを、法的に考えてみてください。
8	不法行為①	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならぬことを、法的に見ていきます。	交通事故や約束違反によって生じた損害は、賠償により回復することができるのでしょうか。考えてみてください。
9	不法行為②	現代社会は進歩が激しく、法律も新しい局面に向かいあう必要が生じています。そこで、不法行為の制度をより多角的に見ていく予定です。	他人に損害賠償を請求するということの難しさを考えてみてください。
10	事務管理・不当利得	契約や不法行為とは異なった形で、他人との間で法的な関係が生じる場合をみます。	人情を法律でとらえることや、契約終了後の関係について考えてください。
11	婚姻	婚姻がどのようにすると成立し、その結果どのような義務が生じるのかなどを見ていく予定です。	誰とでも婚姻できるのか、婚姻する意味を考えてください。
12	離婚	離婚原因を確認し、離婚の際に生じる問題を確認していく。	国家が認める婚姻関係を解消することの重大性を今一度確認すること。
13	親子関係	親子は互いにどのような権利義務関係があるのか、また、子の扱いが異なる現状を確認する。	法律が完全に正義を実現しているのかどうかを考える重要な問題が出てきます(非嫡出子の問題)。それを考えること。
14	相続	相続の意義や誰が相続できるのかについて確認する。	法律がどのような範囲で相続を認めているのかを理解するため、家族というものを復習しておくこと。
15	遺言および講義のまとめ	相続における被相続人の意思を遺す方法やその問題点を確認する。	全体の復習をしておくこと。

関連科目	憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ロードマップ民法入門	小川・西内・大川	一学舎
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義中に復習テストを行い、評価に加える予定(初回に確認します)。 小テストに加え、定期試験での評価の予定(初回に確認します)。
----------	--

学生への メッセージ	民法は日常生活に関する規範である。したがって、民法法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。
担当者の 研究室等	11号館9階 大川研究室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	民法 I	科目名 (英文)	Civil Law I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	法律とは、社会において生じる問題を解決するために使われるものである。そのような法律も、いくつかの形で分類がなされる。本講義で扱う民法とは、私人の間の問題等を規律するための規範であり、特に財産と家族の問題を扱っている。財産と家族の問題を扱う一番基本となる法律が民法である。 本講義では、この民法を理解するために、まず概論として、法学とはどのような学問であるのか、そして、その法律学の中で民法がどのように扱われているのかなど、法学を概観し、そこから具体的な民法の中身を簡単にではあるが把握していくことを予定している。
到達目標	民法全般、および民事法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観をつかむことができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定である。復習などのために資料を配布する。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要。六法を入手する予定のない方は受講しないこと（学習内容を理解することができないため）。
科目学習の効果（資格）	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法（民法、民事訴訟法、破産法等）が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	法律学および民法	法律科目というもののガイダンス、法律一般および民法の概要について確認する予定です。	新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持てる部分を是非見つけてください。
2	民法と財産法総論	法律というものが対象としているものなどを大きく捉え、その中で民法典の役割を確認し、さらに財産法の内容を確認していく予定です。	1回目の内容から、自分の周りに存在する財産法と関連する問題を考えてみて下さい。
3	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを把握してみてください。
4	民法における人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	これまでの経験から、法的に自分が置かれている立場を理解し、なぜ親の同意が必要だったのかを考えてください。
5	代理・時効	契約も単独でできない場合があります。その場合に、代わりに契約を行ってくれる人などの代理についてを確認し、また時効制度も確認する。	他人が自分のために契約をしてくれる便利さと怖さを確認してください。
6	契約の締結	契約を締結するとはどのようなことなのかを確認する予定です。	友達との約束についても法的に考えてみて下さい。
7	所有権を通しての物権	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	他人が自分の物を返さないという経験がこれまでありましたか？これを、法的に考えてみてください。
8	不法行為①	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならぬことを、法的に見ていきます。	交通事故や約束違反によって生じた損害は、賠償により回復することができるのでしょうか。考えてみてください。
9	不法行為②	現代社会は進歩が激しく、法律も新しい局面に向かいあう必要が生じています。そこで、不法行為の制度をより多角的に見ていく予定です。	他人に損害賠償を請求するということの難しさを考えてみてください。
10	事務管理・不当利得	契約や不法行為とは異なった形で、他人との間で法的な関係が生じる場合をみます。	人情を法律でとらえることや、契約終了後の関係について考えてください
11	婚姻	婚姻がどのようにすると成立し、その結果どのような義務が生じるのかなどを見ていく予定です。	誰とでも婚姻できるのか、婚姻する意味を考えてください。
12	離婚	離婚原因を確認し、離婚の際に生じる問題を確認していく。	国家が認める婚姻関係を解消することの重大性を今一度確認すること。
13	親子関係	親子は互いにどのような権利義務関係があるのか、また、子の扱いが異なる現状を確認する。	法律が完全に正義を実現しているのかどうかを考える重要な問題が出てきます（非嫡出子の問題）。それを考えること。
14	相続	相続の意義や誰が相続できるのかについて確認する。	法律がどのような範囲で相続を認めているのかを理解するため、家族というものを復習しておくこと。
15	遺言および講義のまとめ	相続における被相続人の意思を遺す方法やその問題点を確認する。	全体の復習をしておくこと。

関連科目	憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ロードマップ民法入門	小川・西内・大川	一学舎
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	講義中に復習テストを行い、評価に加える予定（初回に確認します）。 小テストに加え、定期試験での評価の予定（初回に確認します）。
----------	--

学生への メッセージ	民法は日常生活に関する規範である。したがって、民法法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。
担当者の 研究室等	11号館9階 大川研究室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	ものづくりと経営	科目名(英文)	Manufacturing Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶのは、「戦略」です。企業ビジネスの視点から「ものづくり」にフォーカスし、その「戦略」を「ビジネス・スクール形式」で学びます。</li> <li>・主な学習テーマは、以下のとおりです。             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「ものづくり」の戦略とは何か？ 経営学部の学生にとって、なぜそれを学ぶことが必要なのか？</li> <li>② 「ものづくり」を行う製造業は、日頃どんな課題を抱え、どのように解決しているのか？</li> <li>③ 「ものづくり」を行う製造業は、卸売業、小売業、サービス業とはどんな違いがあるのか？</li> <li>④ 「ものづくり」を、ビジネス戦略や企業の持続的成長にどう活かせば良いのか？</li> </ol> </li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。</li> <li>・「ものづくり」とビジネス戦略の関連性について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。</li> <li>・その到達目標をクリアできているか確認するため、毎回の授業においてケースメソッドによる個人作業、グループワーク、プレゼン、質疑応答等を実施し、その到達度合いを一人一人判定します。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 基本的な「ものづくり」の企業事例について、実際のビジネス現場で起きるケースメソッド（仮想企業による事例研究）を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。</li> <li>② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学びます。</li> <li>③ グループメンバー、役割分担は定期的に交替し、自分の考えを主張するとともに、他人の考え方との違いを体感します。</li> </ol> </li> <li>・なお、授業ではスマホ等を使ったキーワード検索等があります。スマホ等は必ず持参下さい。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目的とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します	<予習> テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように。 <復習> 「本日のポイント」の内容について、自分の「武器」として使えるように。
2	ケースメソッドⅠ：ものづくりをマネジメントする	企業事例研究：和菓子メーカーS社～①生産方法、生産形態～	同上
3	同上②	企業事例研究：和菓子メーカーS社～②生産工程マネジメント～	同上
4	同上③	企業事例研究：和菓子メーカーS社～③不良品発生とその解決策～	同上
5	同上④	企業事例研究：和菓子メーカーS社～④工程間のムダの排除～	同上
6	同上⑤	企業事例研究：和菓子メーカーS社～⑤ロット生産と1個流し～	同上
7	ケースメソッドⅡ：アジアの中で生き残れ！	企業事例研究：プリント基板メーカーY社～①企業の海外進出理由～	同上
8	同上②	企業事例研究：プリント基板メーカーY社～②国内回帰とマザー工場～	同上
9	同上③	企業事例研究：プリント基板メーカーY社～③ライン生産とセル生産～	同上
10	同上④	企業事例研究：プリント基板メーカーY社～④ライン生産のボトルネック～	同上
11	同上⑤	企業事例研究：プリント基板メーカーY社～⑤アジアとの競争の中で生き残り戦略～	同上
12	ケースメソッドⅢ：「軸」を捉ぶ	企業事例研究：プラスチック製造加工業H社～①業界研究、SWOT分析～	同上
13	同上③	企業事例研究：プラスチック製造加工業H社～②事業ドメインと事業部門別戦略～	同上
14	同上④	企業事例研究：プラスチック製造加工業H社～③事業部門別の業績貢献度分析～	同上
15	同上⑤	企業事例研究：プラスチック製造加工業H社～④事業部門別のビジネスプラン～	同上

関連科目 C S R経営論、経営戦略論、企業分析（経営戦略ケース分析）など

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	アクティブラーニング（ケースメソッド）授業テキスト ものづくりと経営戦略[第2版]	大田住吉、佐々木公之	デザインエッグ社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	イラスト図解 工場のしくみ	松林光男、渡部弘	日本実業出版社
2	工場コストダウン事典	五十嵐瞭	日刊工業新聞社
3	現場のムダどり事典	山田日登志	日刊工業新聞社

評価方法 (基準)	<p>①グループワークへの貢献度合い(役割分担、ワーク作業、発言内容等) (35%)</p> <p>②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力 (15%)</p> <p>③プレゼン力および質疑応答対応力 (15%)</p> <p>④毎回の授業における理解度チェック小テスト(30%)</p> <p>⑤定期試験 (論述式) (5%)</p> <p>による総合評価。 ただし、①～④は、毎回の授業の都度採点し、集計します。</p>
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・35年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッション しましょう！</li> <li>・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。</li> </ul>
担当者の 研究室等	11号館7階 大田住吉研究室
備考	理解度チェック小テストの結果については、授業の中で適宜フィードバックします。

科目名	労働法	科目名(英文)	Labor Law
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	契約自由の原則を貫くと、使用者と労働者の間には経済的な差があるため、労働者は、劣悪な労働条件や失業の危険にさらされることになりかねません。こうした不都合を修正するために、労働法が生成し、発達してきたと言われています。その中でも、労働者の保護を目的とする法律のことを「労働保護法」と呼ぶことがあります。 この授業では、労働保護法の分野の中から、労働基準法、労働契約法、男女雇用機会均等法などを概観したいと考えています。
到達目標	労働保護法の中心となる労働基準法や労働契約法、男女雇用機会均等法などの基本的な内容を理解することを目標とします。また、同じ場面でも、使用者としての立場か、労働者としての立場かによって、事実の評価や取りうる手段が異なる場合があります。労働という事象をとらえると、使用者も労働者もその主たる当事者であることを理解し、その関係を規律する法律の基本的知識を理解することが目標です。
授業方法と留意点	講義は適宜配布するレジュメにしたがって行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果(資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。 また、企業経営にとって労働者は不可欠でし、労使関係を規律する法律を学ぶことは、実際の経営に有益と考えられます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	労働法の歴史と機能	・労働法の誕生、発展 ・労働法の機能	事前の予習は基本的には必要ありませんが、参考書などの該当する部分を読んでみると理解がしやすいかと思います。毎回の授業内容の復習に努めてください。
2	労働法の基本構造と法源	・労働法の全体像、規律構造 ・労働法の法源	労働法の全体像を把握し、労働法の法源には何かがあるかを理解してください。
3	労働法上の当事者	・労働者、使用者の概念 ・労働基準法の適用範囲 ・労働者派遣法 ・パートタイム労働者、外人労働者問題	労働法でいわれる「労働者」、「使用者」とは何かを理解してください。また、現代における多様な働き方についても概観します。
4	労働契約	・労働契約の解釈枠組 ・労働契約上の権利・義務	労働契約によって使用者と労働者にどのような権利・義務が発生するかを理解してください。
5	雇用関係の成立	・採用の自由 ・採用内定、内々定、試用 ・労働条件の明示	採用に至る各段階について労働法がどのような規定をおいているかを概観してみましょう。
6	雇用関係の展開①	・昇進、昇格、降格 ・配転 ・出向、転籍	日本企業は人事に対して広範な決定権限を持っているといわれています。その具体的な内容と問題点を理解してください。
7	雇用関係の展開②	・職場規律と懲戒	企業による懲戒の法的根拠、内容、種類などを理解してください。
8	雇用関係の終了	・解雇 ・解雇以外の終了事由 ・終了後の法規制	雇用関係が終了する事由にはどのようなものがあるかを概観してみましょう。
9	基本的労働条件①	・賃金の種類と体系 ・賃金請求権 ・賃金の法規制	労働条件のうちで最も重要なものの1つである賃金について、その内容を理解してください。
10	基本的労働条件②	・労働時間法制の意義と現状 ・労働時間制度の基本的枠組み	賃金と並んで労働者にとって最も重要な労働条件の1つである労働時間について、労働法がどのような規制をしているか理解してください。
11	基本的労働条件③	・労働時間制度の特則	労働時間の基本的枠組みに対して、これを柔軟化するための特別の制度が労働基準法には定められています。それぞれの制度の内容と意義を理解してください。
12	基本的労働条件④	・休暇	日本で法律上認められている休暇について、どのようなものがあるかを確認してください。
13	労働者の安全、健康の確保	・労働安全衛生 ・労災補償	労働者が働くうえで安全や健康を確保することが、労働法の原点の1つです。そのために、労働法がどのような定めをしているかを確認してください。
14	年少者、女性の保護 労働と私生活の調和	・年少者の保護 ・女性の保護 ・育児介護休業法	近年、労働と私生活の調和を図ることの重要性が認識されるようになっていきます(ワーク・ライフ・バランス)。年少者、女性の保護とあわせて、その内容を理解してください。
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分などがどこかを確認しておくこと。

関連科目 法学入門、日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、労働法Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働法[第5版]	浅倉むつ子 ほか	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働法[第11版補正版]	菅野 和夫	弘文堂
2	労働判例百選[第9版]		有斐閣
3			

評価方法 (基準)	原則として学期末テストの成績の点数によって評価します。なお、授業中に確認テストを提出してもらいますが、それらは加算事由(最大5%)として扱います。逆に、授業中の私語、一定時間経過後の理由なき遅刻、退席などについてはマイナスに評価します。受講者が少ない場合、学期末テストに代えてレポートを実施する可能性があります。
学生への メッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
担当者の 研究室等	
備考	



科目名	労働法Ⅰ	科目名(英文)	Labor Law I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	契約自由の原則を貫くと、使用者と労働者の間には経済的な差があるため、労働者は、劣悪な労働条件や失業の危険にさらされることになりかねません。こうした不都合を修正するために、労働法が生成し、発達してきたと言われていています。その中でも、労働者の保護を目的とする法律のことを「労働保護法」と呼ぶことがあります。 この授業では、労働保護法の分野の中から、労働基準法、労働契約法、男女雇用機会均等法などを概観したいと考えています。
到達目標	労働保護法の中心となる労働基準法や労働契約法、男女雇用機会均等法などの基本的な内容を理解することを目標とします。また、同じ場面でも、使用者としての立場か、労働者としての立場かによって、事実の評価や取りうる手段が異なる場合があります。労働という事象をとらえると、使用者も労働者もその主たる当事者であることを理解し、その関係を規律する法律の基本的知識を理解することが目標です。
授業方法と留意点	講義は適宜配布するレジュメにしたがって行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果(資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。 また、企業経営にとって労働者は不可欠でし、労使関係を規律する法律を学ぶことは、実際の経営に有益と考えられます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	労働法の歴史と機能	・労働法の誕生、発展 ・労働法の機能	事前の予習は基本的には必要ありませんが、参考書などの該当する部分を読んでみると理解がしやすいかと思います。毎回の授業内容の復習に努めてください。
2	労働法の基本構造と法源	・労働法の全体像、規律構造 ・労働法の法源	労働法の全体像を把握し、労働法の法源には何かがあるかを理解してください。
3	労働法上の当事者	・労働者、使用者の概念 ・労働基準法の適用範囲 ・労働者派遣法 ・パートタイム労働者、外人労働者問題	労働法でいわれる「労働者」、「使用者」とは何かを理解してください。また、現代における多様な働き方についても概観します。
4	労働契約	・労働契約の解釈枠組 ・労働契約上の権利・義務	労働契約によって使用者と労働者にどのような権利・義務が発生するかを理解してください。
5	雇用関係の成立	・採用の自由 ・採用内定、内々定、試用 ・労働条件の明示	採用に至る各段階について労働法がどのような規定をおいているかを概観してみましょう。
6	雇用関係の展開①	・昇進、昇格、降格 ・配転 ・出向、転籍	日本企業は人事に対して広範な決定権限を持っているといわれています。その具体的な内容と問題点を理解してください。
7	雇用関係の展開②	・職場規律と懲戒	企業による懲戒の法的根拠、内容、種類などを理解してください。
8	雇用関係の終了	・解雇 ・解雇以外の終了事由 ・終了後の法規制	雇用関係が終了する事由にはどのようなものがあるかを概観してみましょう。
9	基本的労働条件①	・賃金の種類と体系 ・賃金請求権 ・賃金の法規制	労働条件のうちで最も重要なものの1つである賃金について、その内容を理解してください。
10	基本的労働条件②	・労働時間法制の意義と現状 ・労働時間制度の基本的枠組み	賃金と並んで労働者にとって最も重要な労働条件の1つである労働時間について、労働法がどのような規制をしているか理解してください。
11	基本的労働条件③	・労働時間制度の特則	労働時間の基本的枠組みに対して、これを柔軟化するための特別の制度が労働基準法には定められています。それぞれの制度の内容と意義を理解してください。
12	基本的労働条件④	・休暇	日本で法律上認められている休暇について、どのようなものがあるかを確認してください。
13	労働者の安全、健康の確保	・労働安全衛生 ・労災補償	労働者が働くうえで安全や健康を確保することが、労働法の原点の1つです。そのために、労働法がどのような定めをしているかを確認してください。
14	年少者、女性の保護 労働と私生活の調和	・年少者の保護 ・女性の保護 ・育児介護休業法	近年、労働と私生活の調和を図ることの重要性が認識されるようになっていきます(ワーク・ライフ・バランス)。年少者、女性の保護とあわせて、その内容を理解してください。
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分などがどこかを確認しておくこと。

関連科目 法学入門、日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、労働法Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法[第5版]	浅倉むつ子 ほか	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法[第11版補正版]	菅野 和夫	弘文堂
2	労働判例百選[第9版]		有斐閣	
3				

評価方法 (基準)	原則として学期末テストの成績の点数によって評価します。なお、授業中に確認テストを提出してもらいますが、それらは加算事由(最大5%)として扱います。逆に、授業中の私語、一定時間経過後の理由なき遅刻、退席などについてはマイナスに評価します。受講者が少ない場合、学期末テストに代えてレポートを実施する可能性があります。
学生への メッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	労働法Ⅱ	科目名(英文)	Labor Law II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	労働法は、個別的労働関係法、雇用保障法(労働市場法)、団体的労働関係法などに大きく分かれるといわれています。この授業では、団体的労働関係法に属し、労働者、使用者と並ぶ重要な主体である労働組合について規定している労働組合法の内容を概観します。
到達目標	勤労者の団結する権利は憲法28条によって保障されています。労働組合の組織率が低下しており、争議行為も減少している現在においても、「労働者が使用者との交渉において対等の立場にたつことを促進することにより労働者の地位を向上させること」、「労働条件の維持改善その他経済的地位の向上を図ること」を目的とする労働組合は、なお重要な地位を占めているということが出来ます。そうした、労働組合の意義、内容、問題点を理解することをこの授業では目標としています。 また、労働者に就労の機会を保障し、労働者の雇用の安定を図り、失業した労働者の労働関係への復帰を促進することを目的とする法律の内容を認識することも目標となります。
授業方法と留意点	講義は適宜配布するレジュメにしたがって行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果(資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	団体的労働関係法の歴史と現状	・労働法制の概観 ・労使関係の現状と問題点 ・労働法の意義、性格	事前の予習は基本的には必要ありませんが、参考書などの該当する部分を読んでみると理解がしやすいかと思います。毎回の授業内容の復習に努めてください。
2	労働組合	・労働組合の要件 ・労働組合の組織と運営	労働組合がなぜ法的に保護されているのかの理由、労働組合の要件について理解してください。
3	団体交渉	・団体交渉の法的枠組み ・団体交渉義務の内容 ・団交拒否の救済方法	労働者の集団が代表者を通じて使用者と行う交渉である団体交渉について、基本的な内容を理解してください。
4	労働協約①	・労働協約の意義 ・労働協約の効力	労働協約の意義と効力について理解してください。
5	労働協約②	・労働協約の拡張適用(一般的拘束力) ・労働協約の終了	労働協約がどのような場合に組合員以外に拡張して適用されるかを理解してください。
6	労働者の団体行動①	・争議行為の概念 ・団体行動の正当性 ・争議行為と賃金	「争議行為」について、その内容やどのような場合に保障をうけることができるかを理解してください。
7	労働者の団体行動②	・違法な争議行為とその責任 ・争議行為と第三者	違法な争議行為が行われた場合の責任について、理解してください。
8	労働者の団体行動③	・使用者の争議対抗行為	使用者が、ストライキを中心とする労働者の争議行為に対抗する手段にどのようなものがあるか、概観してみましょう。
9	労働者の団体行動④	・法律による争議権の制限 ・労働争議の調整	争議行為が法律により制限・禁止されている場面、労働争議の調整を定める労働関係調整法の規定を概観します。
10	組合活動	・組合活動の法的保障 ・就業時間中の組合活動 ・企業施設利用の組合活動 ・組合活動に対する便宜供与	就業時間中に組合活動を行うこと、ピラ貼り、ピラ配布の正当性、組合活動への便宜供与について、判例の流れを参照にして、理解してください。
11	不当労働行為①	・不当労働行為の趣旨 ・不当労働行為の主体	労働組合法7条に定められている不当労働行為の趣旨を理解してください。
12	不当労働行為②	・不当労働行為の成立要件	不当労働行為にはどのような種類があり、それぞれどのような要件があれば成立するかを理解してください。
13	不当労働行為③	・不当労働行為の救済	不当労働行為の救済として、労働委員会による救済と、裁判所による救済の2つのルートを概観します。
14	雇用保障	・雇用保障の意義と体系 ・職業紹介、募集 ・職業訓練 ・失業防止、雇用安定と失業者救済	雇用保障に関する法律の内容を概観します。
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を捕捉したいと考えています。	今まで学んだことで自分自身がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと。

関連科目 法学入門、日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、労働法Ⅰ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法[第11版補正版]	菅野 和夫	弘文堂
2	労働法(第5版)	浅倉むつ子 ほか	有斐閣	
3	労働判例百選[第9版]		有斐閣	

評価方法(基準) 原則として学期末テストの成績の点数(100%)によって評価します。なお、授業中に確認テストを提出してもらうことがありますが、それらは加点事由(最大5%)として扱います。逆に、授業中の私語、一定時間経過後の理由なき遅刻、退席などについてはマイナスに評価します。受講者が少ない場合、学期末テストに代えてレポートを実施する可能性があります。

学生への メッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
担当者の 研究室等	
備考	

# 基礎科目



科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画				
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	Orientation	Follow orientation instructions.
	2	Conversation Strategies	Students will learn how to make comments, follow-up questions, and how to add detail in their speaking. Pair and group work activities will be used.	Follow instructions as provided in class.
	3	Unit 1	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
	4	Unit 1	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
	5	Unit 2	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
	6	Unit 2	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
	7	Unit 4	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
	8	Midterm Writing Assessment	Students will complete a small group written task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow assessment instructions
	9	Midterm Speaking Assessment	Students will complete a small group speaking task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow assessment instructions.
	10	Unit 5	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
	11	Unit 5	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
	12	Unit 6	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
	13	Unit 6	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
14	Final Writing Assessment	Students will complete a small group written task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow assessment instructions.	
15	Final Speaking Assessment	Students will complete a small group speaking task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow assessment instructions.	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Stretch 1 (ISBN 9780194603126)	Susan Stempleski	Oxford
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%			
学生への メッセージ	I'm looking forward to teaching you this year. Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class.			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			



科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Orientation</td><td>Orientation</td><td>Follow orientation instructions.</td></tr> <tr><td>2</td><td>Unit 1</td><td>Text and pair work activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>3</td><td>Unit 1</td><td>Text and pair work activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>4</td><td>Unit 2</td><td>Text and pair work activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>5</td><td>Unit 2</td><td>Text and pair work activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>6</td><td>Unit 3</td><td>Text and pair work activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>7</td><td>Unit 3</td><td>Text and pair work activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>8</td><td>Test, Units 1-3</td><td>Test</td><td>Follow test instructions</td></tr> <tr><td>9</td><td>Unit 4</td><td>Text and pair work activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>10</td><td>Unit 4</td><td>Text and pair work activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>11</td><td>Unit 5</td><td>Text and pair work activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>12</td><td>Unit 5</td><td>Text and pair work activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>13</td><td>Unit 6</td><td>Text and pair work activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>14</td><td>Unit 6</td><td>Text and pair work activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>15</td><td>Final test</td><td>Test</td><td>Follow test instructions.</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Orientation	Orientation	Follow orientation instructions.	2	Unit 1	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.	3	Unit 1	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.	4	Unit 2	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.	5	Unit 2	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.	6	Unit 3	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.	7	Unit 3	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.	8	Test, Units 1-3	Test	Follow test instructions	9	Unit 4	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.	10	Unit 4	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.	11	Unit 5	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.	12	Unit 5	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.	13	Unit 6	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.	14	Unit 6	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.	15	Final test	Test	Follow test instructions.
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Orientation	Orientation	Follow orientation instructions.																																																																
2	Unit 1	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
3	Unit 1	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
4	Unit 2	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
5	Unit 2	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
6	Unit 3	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
7	Unit 3	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
8	Test, Units 1-3	Test	Follow test instructions																																																																
9	Unit 4	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
10	Unit 4	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
11	Unit 5	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
12	Unit 5	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
13	Unit 6	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
14	Unit 6	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
15	Final test	Test	Follow test instructions.																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Firsthand 1</td> <td>Helgesen, Brown, and Wiltshier</td> <td>Pearson Longman</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>English Firsthand 1 - Workbook</td> <td>Helgesen, Brown, and Wiltshier</td> <td>Pearson Longman</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Firsthand 1	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman	2	English Firsthand 1 - Workbook	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman	3	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English Firsthand 1	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman																																																																
2	English Firsthand 1 - Workbook	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman																																																																
3	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	Please participate fully in pair work, and enjoy the class.																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction	Syllabus will be explained. Textbook layout and purposes will be discussed. Getting to know each other Communication activity,	
	2	Unit1 Meeting and greeting people.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
	3	Unit 1&2. Daily Life	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
	4	Unit 2 Free Time Activities.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
	5	Unit 3 Hobbies and sports.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
	6	Unit 3 & Review	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
	7	Quiz: Midterm Assessment Activity and review.	Test and review.	
	8	Unit 4 Cities and Towns.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
	9	Unit 4 & 5 Getting around.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
10	Unit 5 Directions.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used	Homework/review prints provided.	

			extensively to practice using the language.																	
	11	Unit 6 Shopping.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.																
	12	Unit 6 and Review.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.																
	13	Quiz: End of Term Assessment Activity and review.	Presentation Skills will be examined including posture, voice inflection, and the appropriate use of gestures and visuals.	Homework/review prints provided.																
	14	Communication activities.	Group activity.																	
	15	Issues and review.	Communication activity.																	
関連科目	他の英語科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Breakthrough Plus 1</td> <td>Miles Craven</td> <td>MACMILLAN</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Breakthrough Plus 1	Miles Craven	MACMILLAN	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Breakthrough Plus 1	Miles Craven	MACMILLAN																	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																			
学生への メッセージ	You need to come on time with your text book and completed homework open on the desk ready to learn. Students who participate fully will do well.																			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室																			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																			

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Course introduction Unit 1</td> <td>Syllabus will be explained. Textbook layout and purposes will be discussed. Getting to Know You</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1 continued</td> <td>Getting to Know You</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 2</td> <td>Food &amp; Drink</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 3</td> <td>Your Neighborhood</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 4</td> <td>Daily Routines</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 5</td> <td>Entertainment</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Review /Preparation / Quiz</td> <td></td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Midterm Assessment Activity /Quiz</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 6</td> <td>Friends &amp; Dating</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 7</td> <td>Fashion &amp; Style</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 8</td> <td>University Life</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 9</td> <td>Shopping</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 10</td> <td>Travel</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Review /Preparation / Quiz</td> <td></td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>End of Term Assessment Activity / Quiz</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Course introduction Unit 1	Syllabus will be explained. Textbook layout and purposes will be discussed. Getting to Know You		2	Unit 1 continued	Getting to Know You	Homework	3	Unit 2	Food & Drink	Homework	4	Unit 3	Your Neighborhood	Homework	5	Unit 4	Daily Routines	Homework	6	Unit 5	Entertainment	Homework	7	Review /Preparation / Quiz		Homework	8	Midterm Assessment Activity /Quiz			9	Unit 6	Friends & Dating	Homework	10	Unit 7	Fashion & Style	Homework	11	Unit 8	University Life	Homework	12	Unit 9	Shopping	Homework	13	Unit 10	Travel	Homework	14	Review /Preparation / Quiz		Homework	15	End of Term Assessment Activity / Quiz		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Course introduction Unit 1	Syllabus will be explained. Textbook layout and purposes will be discussed. Getting to Know You																																																																	
2	Unit 1 continued	Getting to Know You	Homework																																																																
3	Unit 2	Food & Drink	Homework																																																																
4	Unit 3	Your Neighborhood	Homework																																																																
5	Unit 4	Daily Routines	Homework																																																																
6	Unit 5	Entertainment	Homework																																																																
7	Review /Preparation / Quiz		Homework																																																																
8	Midterm Assessment Activity /Quiz																																																																		
9	Unit 6	Friends & Dating	Homework																																																																
10	Unit 7	Fashion & Style	Homework																																																																
11	Unit 8	University Life	Homework																																																																
12	Unit 9	Shopping	Homework																																																																
13	Unit 10	Travel	Homework																																																																
14	Review /Preparation / Quiz		Homework																																																																
15	End of Term Assessment Activity / Quiz																																																																		
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>The English Gym</td> <td>Jon Charles</td> <td>Oak Hills Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	Bring your textbook to every class. Let's enjoy speaking in English together!																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の説明、自己紹介</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1 I'm a Big Fan (1)</td> <td>Be 動詞 (1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 1 I'm a Big Fan (2)</td> <td>Be 動詞 (2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 2 He's Kissing Her (1)</td> <td>現在進行形 (1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 2 He's Kissing Her (2)</td> <td>現在進行形 (2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 3 I Don't Have Any Money (1)</td> <td>現在形・肯定文と否定文 (1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 3 I Don't Have Any Money (2)</td> <td>現在形・肯定文と否定文 (2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 4 What Do You Do Every Day? (1)</td> <td>現在形・疑問文 (1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 4 What Do You Do Every Day? (2)</td> <td>現在形・疑問文 (2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習 暗唱テストの予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>暗唱テスト</td> <td>会話文をペアで暗唱</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 5 Wow! Is That Your Car? (1)</td> <td>代名詞 (1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 5 Wow! Is That Your Car? (2)</td> <td>代名詞 (2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 6 Be Careful! (1)</td> <td>命令文 (1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 6 Be Careful! (2)</td> <td>命令文 (2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめテスト・復習</td> <td>これまでの内容の復習とまとめのテスト</td> <td>これまでの内容の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の説明、自己紹介	テキストの予習と単語の学習	2	Unit 1 I'm a Big Fan (1)	Be 動詞 (1)	テキストの予習と単語の学習	3	Unit 1 I'm a Big Fan (2)	Be 動詞 (2)	テキストの予習と単語の学習	4	Unit 2 He's Kissing Her (1)	現在進行形 (1)	テキストの予習と単語の学習	5	Unit 2 He's Kissing Her (2)	現在進行形 (2)	テキストの予習と単語の学習	6	Unit 3 I Don't Have Any Money (1)	現在形・肯定文と否定文 (1)	テキストの予習と単語の学習	7	Unit 3 I Don't Have Any Money (2)	現在形・肯定文と否定文 (2)	テキストの予習と単語の学習	8	Unit 4 What Do You Do Every Day? (1)	現在形・疑問文 (1)	テキストの予習と単語の学習	9	Unit 4 What Do You Do Every Day? (2)	現在形・疑問文 (2)	テキストの予習と単語の学習 暗唱テストの予習	10	暗唱テスト	会話文をペアで暗唱	テキストの予習と単語の学習	11	Unit 5 Wow! Is That Your Car? (1)	代名詞 (1)	テキストの予習と単語の学習	12	Unit 5 Wow! Is That Your Car? (2)	代名詞 (2)	テキストの予習と単語の学習	13	Unit 6 Be Careful! (1)	命令文 (1)	テキストの予習と単語の学習	14	Unit 6 Be Careful! (2)	命令文 (2)	テキストの予習と単語の学習	15	まとめテスト・復習	これまでの内容の復習とまとめのテスト	これまでの内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の説明、自己紹介	テキストの予習と単語の学習																																																																
2	Unit 1 I'm a Big Fan (1)	Be 動詞 (1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
3	Unit 1 I'm a Big Fan (2)	Be 動詞 (2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
4	Unit 2 He's Kissing Her (1)	現在進行形 (1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
5	Unit 2 He's Kissing Her (2)	現在進行形 (2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
6	Unit 3 I Don't Have Any Money (1)	現在形・肯定文と否定文 (1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
7	Unit 3 I Don't Have Any Money (2)	現在形・肯定文と否定文 (2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
8	Unit 4 What Do You Do Every Day? (1)	現在形・疑問文 (1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
9	Unit 4 What Do You Do Every Day? (2)	現在形・疑問文 (2)	テキストの予習と単語の学習 暗唱テストの予習																																																																
10	暗唱テスト	会話文をペアで暗唱	テキストの予習と単語の学習																																																																
11	Unit 5 Wow! Is That Your Car? (1)	代名詞 (1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
12	Unit 5 Wow! Is That Your Car? (2)	代名詞 (2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
13	Unit 6 Be Careful! (1)	命令文 (1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
14	Unit 6 Be Careful! (2)	命令文 (2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
15	まとめテスト・復習	これまでの内容の復習とまとめのテスト	これまでの内容の復習																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Charge</td> <td>Robert Hickling、市川泰弘</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Charge	Robert Hickling、市川泰弘	金星堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English Charge	Robert Hickling、市川泰弘	金星堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	辞書を持参して必ず毎回出席すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方を説明した後、プリント教材を使った学習を行う。	テキストの予習と単語の学習
	2	That's Ashley Brown!	様々な be 動詞の使い方の確認	テキストの予習と単語の学習
	3	Ashley, Where Are You?	命令文を使った表現	テキストの予習と単語の学習
	4	Sorry Tom	現在形、現在進行形の使い分け	テキストの予習と単語の学習
	5	Talk to You Later	様々な代名詞の使い方	テキストの予習と単語の学習
	6	Lunch at Karen's Place	過去形、過去進行形の使い分け	テキストの予習と単語の学習
	7	I'm Really Excited	過去形、現在完了形を使った表現	テキストの予習と単語の学習
	8	Here I Am	様々な時を表す前置詞の使い分け	テキストの予習と単語の学習
	9	What Did You Make?	可算名詞、不可算名詞の確認	テキストの予習と単語の学習
	10	I'm So Tired!	未来についての表現	テキストの予習と単語の学習
	11	Just Relax and Have Fun (1)	様々な助動詞の使い分け	テキストの予習と単語の学習
	12	Just Relax and Have Fun (2)	様々な助動詞の使い分け	テキストの予習と単語の学習
	13	I'll Have Water	様々な接続詞の使い分け	テキストの予習と単語の学習
	14	A Hot Dog Would Be Great!	様々な疑問文	テキストの予習と単語の学習
	15	まとめテスト、復習	これまでの内容の復習およびまとめテストを行う。	前期の内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Upload	.Robert Hickling 他	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	70%

学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席するように心がけること。積極的に授業に参加し、課題に取り組むこと、しっかりメモをとることが大切です。解らないことがあれば、必ず質問して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・グアイース
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introductions	Reading, writing, listening and speaking exercises	
	2	Unit 1 Introductions and personal information.	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	3	Unit 1	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	4	Unit 2 Descriptions of people and families	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	5	Unit 2	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	6	Unit 3 Schedules and routines	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	7	Unit 3	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	8	Unit 4 Locations	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	9	Unit 4	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	10	Unit 5 Giving directions	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	11	Unit 5	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	12	Unit 6 Past experiences	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	13	Unit 6	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	14	Review	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	15	Test	Test	....

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>First Hand 1Fifth Edition</td> <td>Marc Helgesen</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Hand 1Fifth Edition	Marc Helgesen	Pearson	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	First Hand 1Fifth Edition	Marc Helgesen	Pearson													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	Attendance 40%, Participation 30%, test 30%
学生へのメッセージ	Please bring the textbook, pen, pencil, paper and a dictionary (or use an online dictionary on your cell phone) to every class.
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェーン ボーメンター
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	Students will practice speaking, listening, reading and writing English with the emphasis being on improving communication skills
到達目標	Students will have gained some experience using basic business English.
授業方法と留意点	Speaking, listening, reading and writing tasks
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1 Introductions	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
3	Unit 1	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
4	Unit 2 What a Life	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
5	Unit 2	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
6	Unit 3 Free Time	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
7	Unit 3	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
8	Review One	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
9	Unit 4 Places	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
10	Unit 4	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
11	Unit 5 Getting Around	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
12	Unit 5	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
13	Unit 6 Shopping	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
14	Review	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
15	Test	Test	....

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) Attendance 40%, Participation 30%, test 30%

学生へのメッセージ Please bring your textbook, pen, pencil, paper and a dictionary (or use an online dictionary on your cell phone) to every class. Remember to relax, enjoy yourself and don't worry about mistakes!

担当者の研究室等 7号館2階 (非常勤講師室)

備考 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」



科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	The English Gym textbook will help you with your basic English and general communication skills.
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。 自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。 音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
科目学習の効果(資格)	・・・

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction オリエンテーション テキスト	Introduction exercises	Students should study the content of the day's lesson
	2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Final Test	Feedback session	・・・

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press ISBN 978-4-9909741-0-7
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	70%Grading will be based on student class participation, attendance, quizzes and an end of semester final test. 20%共通英語課題 A 10%共通英語課題 B
----------	--

学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction オリエンテーション</td> <td>Introductions, explaining the class..</td> <td>No preparation required. 準備は必要ありません。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1 Lifestyles.</td> <td>Asking people about themselves. Telling about yourself.</td> <td>Pages 4 - 5.</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 1 Lifestyles continued.</td> <td>Exchanging personal information.</td> <td>Pages 6 - 8.</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 2 Student Life.</td> <td>Describing your student life.</td> <td>Pages 10 - 11.</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 2 Student Life continued.</td> <td>Describing daily routines.</td> <td>Pages 12 - 14.</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 3 Hobbies and interests.</td> <td>Talking about people's interests.</td> <td>Pages 16 - 17.</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 3 Leisure time and abilities.</td> <td>How you spend your free time.</td> <td>Pages 18 - 20.</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Mid-term test of units 1-3. Special topic.</td> <td>Mid-term test of units 1-3. Special topic.</td> <td>Review of grammar and vocabulary of units 1 - 3.</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 4 Neighborhoods.</td> <td>Talking about your hometown.</td> <td>Pages 24 - 25.</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 4 Neighborhoods continued.</td> <td>Neighborhood facilities.</td> <td>Pages 26 - 28.</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 5 Directions and travel</td> <td>How to describe where things are.</td> <td>Pages 30 - 31.</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 5 Direction and travel continued.</td> <td>Finding places when you travel.</td> <td>Pages 32 - 34.</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 6 Shopping and money.</td> <td>Expressions for money and travel.</td> <td>Pages 36 - 37.</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 6 Shopping and money continued.</td> <td>Talking about shopping.</td> <td>Pages 38 - 39.</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Test of units 4 - 6.</td> <td>Test of units 4 - 6.</td> <td>Review of grammar and vocabulary of units 4 - 6.</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction オリエンテーション	Introductions, explaining the class..	No preparation required. 準備は必要ありません。	2	Unit 1 Lifestyles.	Asking people about themselves. Telling about yourself.	Pages 4 - 5.	3	Unit 1 Lifestyles continued.	Exchanging personal information.	Pages 6 - 8.	4	Unit 2 Student Life.	Describing your student life.	Pages 10 - 11.	5	Unit 2 Student Life continued.	Describing daily routines.	Pages 12 - 14.	6	Unit 3 Hobbies and interests.	Talking about people's interests.	Pages 16 - 17.	7	Unit 3 Leisure time and abilities.	How you spend your free time.	Pages 18 - 20.	8	Mid-term test of units 1-3. Special topic.	Mid-term test of units 1-3. Special topic.	Review of grammar and vocabulary of units 1 - 3.	9	Unit 4 Neighborhoods.	Talking about your hometown.	Pages 24 - 25.	10	Unit 4 Neighborhoods continued.	Neighborhood facilities.	Pages 26 - 28.	11	Unit 5 Directions and travel	How to describe where things are.	Pages 30 - 31.	12	Unit 5 Direction and travel continued.	Finding places when you travel.	Pages 32 - 34.	13	Unit 6 Shopping and money.	Expressions for money and travel.	Pages 36 - 37.	14	Unit 6 Shopping and money continued.	Talking about shopping.	Pages 38 - 39.	15	Test of units 4 - 6.	Test of units 4 - 6.	Review of grammar and vocabulary of units 4 - 6.
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction オリエンテーション	Introductions, explaining the class..	No preparation required. 準備は必要ありません。																																																																
2	Unit 1 Lifestyles.	Asking people about themselves. Telling about yourself.	Pages 4 - 5.																																																																
3	Unit 1 Lifestyles continued.	Exchanging personal information.	Pages 6 - 8.																																																																
4	Unit 2 Student Life.	Describing your student life.	Pages 10 - 11.																																																																
5	Unit 2 Student Life continued.	Describing daily routines.	Pages 12 - 14.																																																																
6	Unit 3 Hobbies and interests.	Talking about people's interests.	Pages 16 - 17.																																																																
7	Unit 3 Leisure time and abilities.	How you spend your free time.	Pages 18 - 20.																																																																
8	Mid-term test of units 1-3. Special topic.	Mid-term test of units 1-3. Special topic.	Review of grammar and vocabulary of units 1 - 3.																																																																
9	Unit 4 Neighborhoods.	Talking about your hometown.	Pages 24 - 25.																																																																
10	Unit 4 Neighborhoods continued.	Neighborhood facilities.	Pages 26 - 28.																																																																
11	Unit 5 Directions and travel	How to describe where things are.	Pages 30 - 31.																																																																
12	Unit 5 Direction and travel continued.	Finding places when you travel.	Pages 32 - 34.																																																																
13	Unit 6 Shopping and money.	Expressions for money and travel.	Pages 36 - 37.																																																																
14	Unit 6 Shopping and money continued.	Talking about shopping.	Pages 38 - 39.																																																																
15	Test of units 4 - 6.	Test of units 4 - 6.	Review of grammar and vocabulary of units 4 - 6.																																																																
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Breakthrough Plus 1, 2nd edition</td> <td>Miles Craven</td> <td>MacMillan ISBN: 9781380003089</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Breakthrough Plus 1, 2nd edition	Miles Craven	MacMillan ISBN: 9781380003089	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Breakthrough Plus 1, 2nd edition	Miles Craven	MacMillan ISBN: 9781380003089																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>辞書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	辞書			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	辞書																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	出席授業参加態度: 40%. 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%																																																																		
学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ※専任教員は「・・・行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。」とする。																																																																		

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc3e.ouonlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
3	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc3e.ouonlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
4	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc3e.ouonlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
5	Unit 2: Sharing personal information. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 1 & 2 Test.	Complete online homework (https://sc3e.ouonlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
6	Unit 2: Sharing personal information. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc3e.ouonlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.

	exercises in pairs and groups.		
7	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://sc3e.ouonlinepractice.com/">https://sc3e.ouonlinepractice.com/</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
8	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://sc3e.ouonlinepractice.com/">https://sc3e.ouonlinepractice.com/</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
9	Unit 4: Talking about habits and routines. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://sc3e.ouonlinepractice.com/">https://sc3e.ouonlinepractice.com/</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
10	Unit 4: Talking about habits and routines. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 3 & 4 test.	Complete online homework ( <a href="https://sc3e.ouonlinepractice.com/">https://sc3e.ouonlinepractice.com/</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
11	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://sc3e.ouonlinepractice.com/">https://sc3e.ouonlinepractice.com/</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
12	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://sc3e.ouonlinepractice.com/">https://sc3e.ouonlinepractice.com/</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
13	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://sc3e.ouonlinepractice.com/">https://sc3e.ouonlinepractice.com/</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.

	groups.			
	14	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 5 & 6 test	Complete online homework ( <a href="https://sc3e.ouonlinepractice.com/">https://sc3e.ouonlinepractice.com/</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English 'maintenance' methods.
関連科目	Drama, Skills training, English Presentation			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice: 3rd Edition Level 1 Student Book with Online Practice, ISBN-13: 9780194602648)	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Class Participation / Online homework assignments (10%) Unit review tests (3x30%)			
学生へのメッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays' particularly in Australia? should you have any.  N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<a href="http://elt.oup.com/student/smartchoice/">http://elt.oup.com/student/smartchoice/</a> Practice grammar and vocabulary with fun games, and practice pronunciation with songs and karaoke. 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	<p>比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を高めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。</p> <p>(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。またゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。</p> <p>(2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的学習に親しむ。</p> <p>(3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J に英語力が到達することを目標とする。</p> <p>演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題などの授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p>
到達目標	<p>(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。またゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。</p> <p>(2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的学習に親しむ。</p> <p>(3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J に英語力が到達することを目標とする。</p>
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題などの授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	高校までの基本的英文法の復習及び英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 TOEIC テストに有効な単語力

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			_____
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	_____
2	Unit1 My Hometown 故郷を紹介しよう	be 動詞	教科書 p. 1-6
3	Unit2 Hobbies 趣味もいろいろいる	一般動詞	教科書 p. 7-12
4	Unit3 Shopping 買い物に行くならどこ?	名詞、代名詞	教科書 p. 13-18
5	Unit4 Nature Quiz クイズに挑戦	Wh 疑問文	教科書 p. 19-24
6	Unit5 Dream House 理想的な住まいとは?	前置詞	教科書 p. 25-30
7	Unit6 Food 好きな食べ物は何!?	接続詞	教科書 p. 31-36
8	Unit 7 First Date デートは最初が肝心	過去形	教科書 p. 37-42
9	Unit8 Detective Story 探偵は真実を求める	進行形	教科書 p. 43-48
10	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	_____
11	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	_____
12	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	_____
13	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	_____
14	資格、検定などの問題またはリスニング演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	_____
15	総合復習	定期試験対策	_____

関連科目	英語 I、英語 I I、英語 I V
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Ace	山本厚子、大須賀直子、真野千佳子、岡本京子、Benedict Rowlett	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集)	西谷悟志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法(基準)	定期試験(70%)、授業中の小テスト(5%)、平常点(提出物、授業への参加、貢献度含め 25%)の点数を総合評価します。また、日頃の授業態度も重視します。
----------	---

学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る!
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	Orientation	Follow orientation instructions.
	2	Conversation Strategies	Students will learn strategies to help them communicate when difficulties arise. These include asking clarification questions and making comprehension checks.	Follow instructions as provided in class.
	3	Unit 7	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
	4	Unit 7	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
	5	Unit 9	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
	6	Unit 9	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
	7	Conversation Strategy	Students will learn how to give their opinions, as well as how to agree and disagree with others opinions. Pair and group work activities will be used.	Follow instructions as provided in class.
	8	Midterm Writing Assessment	Students will complete a small group written task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow assessment instructions
	9	Midterm Speaking Assessment	Students will complete a small group speaking task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow assessment instructions.
	10	Unit 10	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
	11	Unit 10	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
	12	Unit 12	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
	13	Unit 12	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
	14	Final Writing Assessment	Students will complete a small group written task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow assessment instructions.
15	Final Speaking Assessment	Students will complete a small group speaking task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow assessment instructions.	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Stretch 1 (ISBN 9780194603126)	Susan Stempleski	Oxford
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%			
学生への メッセージ	I'm looking forward to teaching you this year. Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class.			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			



科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Orientation</td><td>Orientation</td><td>Follow orientation instructions.</td></tr> <tr><td>2</td><td>Unit 7</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>3</td><td>Unit 7</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>4</td><td>Unit 8</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>5</td><td>Unit 8</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>6</td><td>Unit 9</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>7</td><td>Unit 9</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>8</td><td>Test, Unit 7-9</td><td>Test</td><td>Follow test instructions.</td></tr> <tr><td>9</td><td>Unit 10</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>10</td><td>Unit 10</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>11</td><td>Unit 11</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>12</td><td>Unit 11</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>13</td><td>Unit 12</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>14</td><td>Unit 12</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>15</td><td>Final Test</td><td>Final Test</td><td>Follow test instructions.</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Orientation	Orientation	Follow orientation instructions.	2	Unit 7	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	3	Unit 7	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	4	Unit 8	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	5	Unit 8	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	6	Unit 9	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	7	Unit 9	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	8	Test, Unit 7-9	Test	Follow test instructions.	9	Unit 10	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	10	Unit 10	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	11	Unit 11	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	12	Unit 11	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	13	Unit 12	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	14	Unit 12	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	15	Final Test	Final Test	Follow test instructions.
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Orientation	Orientation	Follow orientation instructions.																																																																
2	Unit 7	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
3	Unit 7	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
4	Unit 8	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
5	Unit 8	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
6	Unit 9	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
7	Unit 9	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
8	Test, Unit 7-9	Test	Follow test instructions.																																																																
9	Unit 10	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
10	Unit 10	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
11	Unit 11	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
12	Unit 11	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
13	Unit 12	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
14	Unit 12	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
15	Final Test	Final Test	Follow test instructions.																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>English Firsthand 1</td><td>Helgesen, Brown, and Wiltshier</td><td>Pearson Longman</td></tr> <tr><td>2</td><td>English Firsthand 1 - Workbook</td><td>Helgesen, Brown, and Wiltshier</td><td>Pearson Longman</td></tr> <tr><td>3</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td><td>西谷 恒志</td><td>成美堂</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Firsthand 1	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman	2	English Firsthand 1 - Workbook	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman	3	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English Firsthand 1	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman																																																																
2	English Firsthand 1 - Workbook	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman																																																																
3	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	Please participate fully, and enjoy the class																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Course Introduction Taking about summer break Start Unit 7	Course Pre-view and explanation.	
	2	Unit 7 What is happening.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
	3	Unit 7 & 8 People	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
	4	Unit 8 appearance and character.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
	5	Unit 9 Making arrangements	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided. ue
	6	Unit 9 Socializing and review	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Review Units 7-9
	7	Midterm Quiz Assessment Activity and review.	Material from Lessons 2-6 will be reviewed and students' competence will be assessed	
	8	Unit 10 Vacations	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
	9	Unit 10 and 11 Sightseeing and Important Events in Life.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
	10	Unit 11 Life stories.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the	Homework review sheets will be provided.

	11	Unit 12 Hopes and Intentions.	language. Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
	12	Unit 12 Intentions and Review.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
	13	Seasonal Activities.	Songs and stories.	
	14	Review.		Studied Units 10-12
	15	Quiz (Units 10-12) and Review.		
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	BreakThrough Plus 1	Miles Craven	MACMILLAN
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%			
学生への メッセージ	Come to class on time with your textbook and completed homework open on your desk ready to start. Joining in class activities and following instructions given in English is very important.			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Course Review Taking about summer break Start Unit 7</td> <td>Summer Vacation</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 11</td> <td>Summer Vacation continued</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 12</td> <td>Family &amp; Home</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 13</td> <td>Eating Out</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 14</td> <td>Work (Part-time Jobs &amp; Future Career)</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 15</td> <td>Marriage &amp; Family Life</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Review /Preparation / Quiz</td> <td></td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Midterm Assessment Activity /Quiz</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 16</td> <td>People</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 17</td> <td>Sightseeing in Japan</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 18</td> <td>Holidays &amp; Special Days</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 19</td> <td>Big Issues</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 20</td> <td>Future Plans</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Review /Preparation / Quiz</td> <td></td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>End of Term Assessment Activity / Quiz</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Course Review Taking about summer break Start Unit 7	Summer Vacation		2	Unit 11	Summer Vacation continued	Homework	3	Unit 12	Family & Home	Homework	4	Unit 13	Eating Out	Homework	5	Unit 14	Work (Part-time Jobs & Future Career)	Homework	6	Unit 15	Marriage & Family Life	Homework	7	Review /Preparation / Quiz		Homework	8	Midterm Assessment Activity /Quiz			9	Unit 16	People	Homework	10	Unit 17	Sightseeing in Japan	Homework	11	Unit 18	Holidays & Special Days	Homework	12	Unit 19	Big Issues	Homework	13	Unit 20	Future Plans	Homework	14	Review /Preparation / Quiz		Homework	15	End of Term Assessment Activity / Quiz		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Course Review Taking about summer break Start Unit 7	Summer Vacation																																																																	
2	Unit 11	Summer Vacation continued	Homework																																																																
3	Unit 12	Family & Home	Homework																																																																
4	Unit 13	Eating Out	Homework																																																																
5	Unit 14	Work (Part-time Jobs & Future Career)	Homework																																																																
6	Unit 15	Marriage & Family Life	Homework																																																																
7	Review /Preparation / Quiz		Homework																																																																
8	Midterm Assessment Activity /Quiz																																																																		
9	Unit 16	People	Homework																																																																
10	Unit 17	Sightseeing in Japan	Homework																																																																
11	Unit 18	Holidays & Special Days	Homework																																																																
12	Unit 19	Big Issues	Homework																																																																
13	Unit 20	Future Plans	Homework																																																																
14	Review /Preparation / Quiz		Homework																																																																
15	End of Term Assessment Activity / Quiz																																																																		
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>The English Gym</td> <td>Jon Charles</td> <td>Oak Hills Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	Bring your textbook to every class. Let's enjoy speaking in English together!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習 プリント教材	前期内容のポイントのチェックとプリントを使った課題	テキストの予習と単語の学習
	2	Unit 7 let's Meet at the Station (1)	場所を示す前置詞 (1)	テキストの予習と単語の学習
	3	Unit 7 let's Meet at the Station (2)	場所を示す前置詞 (2)	テキストの予習と単語の学習
	4	Unit 8 How Was Rome? (1)	was/were (1)	テキストの予習と単語の学習
	5	Unit 8 How Was Rome? (2)	was/were (2)	テキストの予習と単語の学習
	6	Unit 9 I Read it in a Magazine (1)	過去形・肯定文 (1)	テキストの予習と単語の学習
	7	Unit 9 I Read it in a Magazine (2)	過去形・肯定文 (2)	テキストの予習と単語の学習
	8	Unit 10 What Did You Do on Sunday? (1)	過去形・否定文と疑問文 (1)	テキストの予習と単語の学習
	9	Unit 10 What Did You Do on Sunday? (2)	過去形・否定文と疑問文 (2)	テキストの予習と単語の学習 暗唱テストの予習
	10	暗唱テスト	対話文をペアで暗唱	テキストの予習と単語の学習
	11	Unit 11 The Goats Were Dancing (1)	過去進行形 (1)	テキストの予習と単語の学習
	12	Unit 11 The Goats Were Dancing (2)	過去進行形 (2)	テキストの予習と単語の学習
	13	Unit 12 If Animals Could Tali (1)	接続詞 (1)	テキストの予習と単語の学習
	14	Unit 12 If Animals Could Tali (2)	接続詞 (2)	テキストの予習と単語の学習
	15	まとめテスト、復習	これまでの内容の復習、まとめのテスト	これまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Charge	Robert Hickling, 市川康弘	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	70%

学生へのメッセージ	辞書を持参して必ず毎回出席すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の内容の復習、プリント教材</td> <td>前期の内容の復習をした後、プリント教材を使った学習を行う。</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Did You Bring the DVD?</td> <td>場所と移動を表す前置詞</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Meat, Corn, Fruit and Drinks</td> <td>様々な Wh-疑問文</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>We Look Pretty Silly</td> <td>冠詞、one, ones の使い方</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>It Was Professor Goodman</td> <td>他動詞と自動詞の使い分け</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Are You Free on Monday?</td> <td>能動態と受動態</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>I Think I'll Buy It</td> <td>様々な形容詞を使った表現</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>For Your Legs and Heart (1)</td> <td>動名詞と不定詞</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>For Your Legs and Heart (2)</td> <td>動名詞と不定詞</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>My Dad's Old Desktop</td> <td>形容詞の比較級、最上級を使った表現</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Ladies First</td> <td>様々な副詞を使った表現</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>I Just Hope We Get There</td> <td>従位接続詞を使った表現</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Let's Get Over There, Quick!</td> <td>関係詞を使った表現</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Let's Do That!</td> <td>So do I や Neither do I 等の表現</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめテスト、復習</td> <td>これまでの内容の復習およびまとめテストを行う。</td> <td>後期の内容の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期の内容の復習、プリント教材	前期の内容の復習をした後、プリント教材を使った学習を行う。	テキストの予習と単語の学習	2	Did You Bring the DVD?	場所と移動を表す前置詞	テキストの予習と単語の学習	3	Meat, Corn, Fruit and Drinks	様々な Wh-疑問文	テキストの予習と単語の学習	4	We Look Pretty Silly	冠詞、one, ones の使い方	テキストの予習と単語の学習	5	It Was Professor Goodman	他動詞と自動詞の使い分け	テキストの予習と単語の学習	6	Are You Free on Monday?	能動態と受動態	テキストの予習と単語の学習	7	I Think I'll Buy It	様々な形容詞を使った表現	テキストの予習と単語の学習	8	For Your Legs and Heart (1)	動名詞と不定詞	テキストの予習と単語の学習	9	For Your Legs and Heart (2)	動名詞と不定詞	テキストの予習と単語の学習	10	My Dad's Old Desktop	形容詞の比較級、最上級を使った表現	テキストの予習と単語の学習	11	Ladies First	様々な副詞を使った表現	テキストの予習と単語の学習	12	I Just Hope We Get There	従位接続詞を使った表現	テキストの予習と単語の学習	13	Let's Get Over There, Quick!	関係詞を使った表現	テキストの予習と単語の学習	14	Let's Do That!	So do I や Neither do I 等の表現	テキストの予習と単語の学習	15	まとめテスト、復習	これまでの内容の復習およびまとめテストを行う。	後期の内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の内容の復習、プリント教材	前期の内容の復習をした後、プリント教材を使った学習を行う。	テキストの予習と単語の学習																																																																
2	Did You Bring the DVD?	場所と移動を表す前置詞	テキストの予習と単語の学習																																																																
3	Meat, Corn, Fruit and Drinks	様々な Wh-疑問文	テキストの予習と単語の学習																																																																
4	We Look Pretty Silly	冠詞、one, ones の使い方	テキストの予習と単語の学習																																																																
5	It Was Professor Goodman	他動詞と自動詞の使い分け	テキストの予習と単語の学習																																																																
6	Are You Free on Monday?	能動態と受動態	テキストの予習と単語の学習																																																																
7	I Think I'll Buy It	様々な形容詞を使った表現	テキストの予習と単語の学習																																																																
8	For Your Legs and Heart (1)	動名詞と不定詞	テキストの予習と単語の学習																																																																
9	For Your Legs and Heart (2)	動名詞と不定詞	テキストの予習と単語の学習																																																																
10	My Dad's Old Desktop	形容詞の比較級、最上級を使った表現	テキストの予習と単語の学習																																																																
11	Ladies First	様々な副詞を使った表現	テキストの予習と単語の学習																																																																
12	I Just Hope We Get There	従位接続詞を使った表現	テキストの予習と単語の学習																																																																
13	Let's Get Over There, Quick!	関係詞を使った表現	テキストの予習と単語の学習																																																																
14	Let's Do That!	So do I や Neither do I 等の表現	テキストの予習と単語の学習																																																																
15	まとめテスト、復習	これまでの内容の復習およびまとめテストを行う。	後期の内容の復習																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Upload</td> <td>Robert Hickling 他</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Upload	Robert Hickling 他	金星堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English Upload	Robert Hickling 他	金星堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席するように心がけること。積極的に授業に参加し、課題に取り組むこと、しっかりメモをとることが大切です。解らないことがあれば、必ず質問して下さい。																																																																		
担当者の研究室等	7号館 2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・グアイアス
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

授業概要・目的	Students will practice speaking, writing, reading and listening to English using text book exercises. In addition students will practice writing and speaking about their daily lives and learn to make follow up questions.
到達目標	Students will have gained some experience using basic English, talking about their daily lives and asking follow up questions.

授業方法と留意点	Speaking, listening, reading and writing tasks
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 7 Jobs and Skills	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
3	Unit 7	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
4	Unit 8 Entertainment and Opinions	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
5	Unit 2	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
6	Unit 9 Future Plans and Activities	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
7	Unit 9	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
8	Unit 10 Shopping	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
9	Unit 10	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
10	Unit 11 Giving Instructions	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
11	Unit 11	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
12	Unit 12 Expressing Opinions	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
13	Unit 12	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
14	Review	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
15	Test	Test	....

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Hand IFifth Edition	Marc Helgesen	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Attendance 40%, Participation 30%, test 30%
-----------	---

学生へのメッセージ	Please bring the textbook, pen, pencil, paper and a dictionary (or use an online dictionary on your cell phone) to every class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェーン パーメンター
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	Students will practice speaking, listening, reading and writing English with the emphasis being on improving communication skills
到達目標	Students will have gained some experience using basic business English.
授業方法と留意点	Speaking, listening, reading and writing tasks
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1 Introductions	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
3	Unit 1	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
4	Unit 2 What a Life	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
5	Unit 2	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
6	Unit 3 Free Time	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
7	Unit 3	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
8	Review One	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
9	Unit 4 Places	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
10	Unit 4	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
11	Unit 5 Getting Around	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
12	Unit 5	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
13	Unit 6 Shopping	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
14	Review	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
15	Test	Test	....

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) Attendance 40%, Participation 30%, test 30%

学生へのメッセージ Please bring your textbook, pen, pencil, paper and a dictionary (or use an online dictionary on your cell phone) to every class. Remember to relax, enjoy yourself and don't worry about mistakes!

担当者の研究室等 7号館2階 (非常勤講師室)

備考 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」



科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	The English Gym textbook will help you with your basic English and general communication skills.
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。 自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。 音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
科目学習の効果(資格)	...

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	First semester final test review	Review of First semester final test	Students should study the content of the day's lesson
	2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Final Test	Feedback session	...

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press ISBN 978-4-9909741-0-7
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	100%Grading will be based on student class participation, attendance, quizzes and an end of semester final test.
学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Unit 7 Your Life.</td> <td>Describing daily routines.</td> <td>Pages 44 - 45.</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 7 Your Life continued.</td> <td>Talking about what you do. Asking what others do.</td> <td>Pages 46 - 48.</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 8 Describing People.</td> <td>Words and expressions for describing people.</td> <td>Pages 50 - 51.</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 8 Describing People continued.</td> <td>Asking others about people in their lives.</td> <td>Pages 52 - 54.</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 9 Future plans.</td> <td>Talking about what you will do in the future.</td> <td>Pages 56 - 57.</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 9 Future plans continued.</td> <td>How you spend your free time.</td> <td>Pages 58 - 60.</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Mid-term test of units 7 - 9. Special topic.</td> <td>Mid-term test of units 7 - 9. Special topic.</td> <td>Review of words and grammar of units 7 - 9.</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 10 Vacations.</td> <td>Words to describe travel.</td> <td>Pages 64 - 65.</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 10 Vacations continued.</td> <td>Where you like to go on vacation and what you like to do.</td> <td>Pages 66 - 68.</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 11 Early Memories.</td> <td>Describing events in your life.</td> <td>Pages 70 - 71.</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 11 Early Memories continued.</td> <td>Asking about people's lives.</td> <td>Pages 72 - 74.</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 12 Hopes and Dreams.</td> <td>What you would like to do in the future.</td> <td>Pages 76 - 77.</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 12 Hopes and dreams continued.</td> <td>Asking others about their dreams.</td> <td>Pages 78 - 80.</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Review</td> <td>Review of units 10 - 12.</td> <td>No preparation required.</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Test of units 10 - 12.</td> <td>Test of units 10 - 12.</td> <td>Review of words and grammar of units 10 - 12.</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Unit 7 Your Life.	Describing daily routines.	Pages 44 - 45.	2	Unit 7 Your Life continued.	Talking about what you do. Asking what others do.	Pages 46 - 48.	3	Unit 8 Describing People.	Words and expressions for describing people.	Pages 50 - 51.	4	Unit 8 Describing People continued.	Asking others about people in their lives.	Pages 52 - 54.	5	Unit 9 Future plans.	Talking about what you will do in the future.	Pages 56 - 57.	6	Unit 9 Future plans continued.	How you spend your free time.	Pages 58 - 60.	7	Mid-term test of units 7 - 9. Special topic.	Mid-term test of units 7 - 9. Special topic.	Review of words and grammar of units 7 - 9.	8	Unit 10 Vacations.	Words to describe travel.	Pages 64 - 65.	9	Unit 10 Vacations continued.	Where you like to go on vacation and what you like to do.	Pages 66 - 68.	10	Unit 11 Early Memories.	Describing events in your life.	Pages 70 - 71.	11	Unit 11 Early Memories continued.	Asking about people's lives.	Pages 72 - 74.	12	Unit 12 Hopes and Dreams.	What you would like to do in the future.	Pages 76 - 77.	13	Unit 12 Hopes and dreams continued.	Asking others about their dreams.	Pages 78 - 80.	14	Review	Review of units 10 - 12.	No preparation required.	15	Test of units 10 - 12.	Test of units 10 - 12.	Review of words and grammar of units 10 - 12.
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Unit 7 Your Life.	Describing daily routines.	Pages 44 - 45.																																																																
2	Unit 7 Your Life continued.	Talking about what you do. Asking what others do.	Pages 46 - 48.																																																																
3	Unit 8 Describing People.	Words and expressions for describing people.	Pages 50 - 51.																																																																
4	Unit 8 Describing People continued.	Asking others about people in their lives.	Pages 52 - 54.																																																																
5	Unit 9 Future plans.	Talking about what you will do in the future.	Pages 56 - 57.																																																																
6	Unit 9 Future plans continued.	How you spend your free time.	Pages 58 - 60.																																																																
7	Mid-term test of units 7 - 9. Special topic.	Mid-term test of units 7 - 9. Special topic.	Review of words and grammar of units 7 - 9.																																																																
8	Unit 10 Vacations.	Words to describe travel.	Pages 64 - 65.																																																																
9	Unit 10 Vacations continued.	Where you like to go on vacation and what you like to do.	Pages 66 - 68.																																																																
10	Unit 11 Early Memories.	Describing events in your life.	Pages 70 - 71.																																																																
11	Unit 11 Early Memories continued.	Asking about people's lives.	Pages 72 - 74.																																																																
12	Unit 12 Hopes and Dreams.	What you would like to do in the future.	Pages 76 - 77.																																																																
13	Unit 12 Hopes and dreams continued.	Asking others about their dreams.	Pages 78 - 80.																																																																
14	Review	Review of units 10 - 12.	No preparation required.																																																																
15	Test of units 10 - 12.	Test of units 10 - 12.	Review of words and grammar of units 10 - 12.																																																																
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Breakthrough Plus 1, 2nd edition</td> <td>Miles Craven</td> <td>MacMillan ISBN: 9781380003089</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Breakthrough Plus 1, 2nd edition	Miles Craven	MacMillan ISBN: 9781380003089	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Breakthrough Plus 1, 2nd edition	Miles Craven	MacMillan ISBN: 9781380003089																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>辞書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	辞書			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	辞書																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	出席授業参加態度: 40%. 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%																																																																		
学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ※専任教員は「・・・行う。その他の質問等はスケジュールアワーにて対応する。」とする。																																																																		

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Course Orientation, review of 'classroom English' phrases. Students share holiday experiences using past tenses. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc3e.ouonlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
2	Review greeting people you know, using role-plays. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc3e.ouonlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
3	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc3e.ouonlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
4	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc3e.ouonlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
5	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 7 & 8 Test.	Complete online homework (https://sc3e.ouonlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
6	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc3e.ouonlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
7	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar,	Complete online homework (https://sc3e.ouonlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get

	'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
8	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://sc3e.ouonlinepractice.com/">https://sc3e.ouonlinepractice.com/</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
9	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://sc3e.ouonlinepractice.com/">https://sc3e.ouonlinepractice.com/</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
10	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 9 & 10 test.	Complete online homework ( <a href="https://sc3e.ouonlinepractice.com/">https://sc3e.ouonlinepractice.com/</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
11	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://sc3e.ouonlinepractice.com/">https://sc3e.ouonlinepractice.com/</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
12	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://sc3e.ouonlinepractice.com/">https://sc3e.ouonlinepractice.com/</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
13	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://sc3e.ouonlinepractice.com/">https://sc3e.ouonlinepractice.com/</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
14	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 11 & 12 test	Complete online homework ( <a href="https://sc3e.ouonlinepractice.com/">https://sc3e.ouonlinepractice.com/</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.

		exercises in pairs and groups.		
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English 'maintenance' methods.
関連科目	Drama, Skills training, English Presentation			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice : 3rd Edition Level 1 Student Book with Online Practice, (ISBN-13: 9780194602648)	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Class Participation / Online homework assignments (10%) Unit review tests (3x30%)			
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays'?particularly in Australia, should you have any.  N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を高めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1)大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。またゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2)PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的学習に親しむ。 (3)前期は CEFR-J[A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題などの授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	高校までの基本的英文法の復習及び英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 TOEIC テストに有効な単語力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと前期の復習	授業方法、提出物、評価方法についての説明と復習	_____
2	Unit9 Career 経歴を話そう	現在完了形	教科書 p.49-54
3	Unit10 Parties パーティに行こう!	未来表現	教科書 p.55-60
4	Unit11 Rules and Regulations ルールにもお国柄	助動詞	教科書 p.61-66
5	Unit12 Invention and Discovery 発明、発見にはひらめきが大切	受動態	教科書 p.67-72
6	Unit13 Movie Reviews 映画評論	形容詞、副詞	教科書 p.73-78
7	Unit14 World Records 世界記録もさまざま	比較級、最上級	教科書 p.79-84
8	Unit15 Future Dream 将来の夢を語ろう	不定詞、動名詞	教科書 p.85-89
9	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	_____
10	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	_____
11	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	_____
12	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	_____
13	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	_____
14	資格、検定などの問題またはリスニング演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	_____
15	総合復習	定期試験対策	_____

関連科目	英語 I、英語 I I、英語 I I I
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Ace	山本厚子、大須賀直子、真野千佳子、岡本京子、Benedict Rowlett	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集)	西谷悟志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	定期試験 (70%)、授業中の小テスト (5%)、平常点 (提出物、授業への参加、貢献度含め 25%) の点数を総合評価します。また、日頃の授業態度も重視します。
学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る!
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅱ a	科目名(英文)	English Iia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業のガイダンス Unit 2: Oceans to Hold More Plastic than Fish by 2050	授業の進め方や評価方法の説明 Unit 2 のシャドーイングと本文の穴埋め問題	教科書を準備し、予習しておくこと
	2	Unit 2: Oceans to Hold More Plastic than Fish by 2050	Unit 2 の本文精読と練習問題	Unit 2 の復習と Unit 3 の予習 小テスト準備
	3	Unit 3: Is Your Plan Sustainable?	Unit 3 のシャドーイングと本文の穴埋め問題 Unit 2 の小テスト	Unit 3 の復習と予習
	4	Unit 3: Is Your Plan Sustainable?	Unit 3 の本文精読と練習問題	Unit 3 の復習と Unit 4 の予習 小テスト準備
	5	Unit 4: Saving Wild Areas May Have Unexpected Results	Unit 4 のシャドーイングと本文の穴埋め問題	Unit 4 の復習と予習
	6	Unit 4: Saving Wild Areas May Have Unexpected Results	Unit 4 の本文精読と練習問題	Unit 4 の復習と Unit 5 の予習 小テスト準備
	7	Unit 5: Freedom House: Internet Continues to Become Less Free	Unit 5 のシャドーイングと本文の穴埋め問題	Unit 5 の復習と予習
	8	Unit 5: Freedom House: Internet Continues to Become Less Free	Unit 5 の本文精読と練習問題	Unit 5 の復習と Unit 6 の予習 小テスト準備
	9	Unit 6: New Drones Could Improve Weather Predictions	Unit 6 のシャドーイングと本文の穴埋め問題	Unit 6 の復習と予習
	10	Unit 6: New Drones Could Improve Weather Predictions	Unit 6 の本文精読と練習問題	Unit 6 の復習と Unit 7 の予習 小テスト準備
	11	Unit 7: Artificial Intelligence: Helpful and Dangerous	Unit 7 のシャドーイングと本文の穴埋め問題	Unit 7 の復習と予習
	12	Unit 7: Artificial Intelligence: Helpful and Dangerous	Unit 7 の本文精読と練習問題	Unit 7 の復習と Unit 8 の予習 小テスト準備
	13	Unit 8: Will Robots Replace Humans in Food Industry?	Unit 8 のシャドーイングと本文の穴埋め問題	Unit の復習と予習
	14	Unit 8: Will Robots Replace Humans in Food Industry?	Unit 8 の本文精読と練習問題	Unit 8 の復習 まとめのテスト準備
	15	前期の総復習とまとめのテスト	前期内容のまとめのテストを実施4	テストの準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	VOA ラーニングイングリッシュで世界を読む	倉本充子・西田晴美・釣井千恵・Timothy F. Hawthorne	三修社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	70%

学生へのメッセージ	授業ではマナーを守り、積極的かつ集中して参加してください。.
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。



科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・グアイース
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせることでパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introductions	Meeting other class members	
2	Unit 1 Introducing People	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
3	Unit 1:	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
4	Unit 2: Invitations	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
5	Unit 2	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
6	Unit 2	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
7	Unit 3 Checking Travel Information	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
8	Unit 3	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
9	Unit 3	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
10	Unit 4 Giving and getting directions	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
11	Unit 4	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
12	Unit 4	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
13	Unit 5 Offers and requests	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
14	Unit 5	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
15	Unit 5	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.

関連科目	他の英語科目
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	International Express Elementary	Angela Buckingham	Oxford
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	--

学生へのメッセージ	予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱ a	科目名(英文)	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	内山 知美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせることでパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 1 Introductions	授業についての説明、諸注意 Introducing yourself/others and describing your job 初対面の挨拶や仕事内容の説明に役立つ表現を学ぶ	テキストを購入して、Unit1にざっと目を通しておくこと。
	2	Unit 2 Telephone Calls	Talking on the phone and taking a message 電話の応答や伝言の受け方などを学ぶ	テキストの予習
	3	Unit 3 Making an Inquiry	Asking about a product/price and responding to an inquiry 製品や金額に関する問い合わせ方法や対応について学ぶ	テキストの予習・復習
	4	Unit 4 Making an Appointment	Making an appointment and changing an existing appointment 約束のとりつけや変更に関する表現を学ぶ	テキストの予習・復習
	5	Unit 5 Receiving a Visitor	Welcoming a visitor in the reception area or at the airport 受付での来客対応や空港などでの出迎えに役立つ表現を学ぶ	テキストの予習・復習
	6	Unit 6 Invitations	Entertaining a business partner and making small talk 接待に役立つ表現やスモールトークなどを学ぶ	テキストの予習・復習
	7	Unit 7 Presentations 1	Starting a presentation with a self-introduction and an outline プレゼンテーションを始める際の挨拶や概要説明の表現などを学ぶ	テキストの予習・復習
	8	Unit 8 Presentations 2	Introducing a new product in a presentation プレゼンテーションで新製品を紹介する際に役立つ表現を学ぶ	テキストの予習・復習
	9	Unit 9 Presentations 3	Answering questions following a talk about a new product プレゼンテーションを締めくくる際の質疑応答について学ぶ	テキストの予習・復習
	10	Unit 10 Online Meetings	Participating in a video conference and sharing your opinions ビデオ会議で役立つ表現と意見を伝える方法について学ぶ	テキストの予習・復習
	11	Unit 11 Negotiations	Negotiating prices and confirming payment terms 価格交渉や支払い条件の確認などに必要な表現を学ぶ	テキストの予習・復習
	12	Unit 12 Placing an Order	Ordering a product and changing an order 商品の発注や発注内容の変更などに必要な表現を学ぶ	テキストの予習・復習
	13	Unit 13 Making a Complaint 1	Making a complaint about an order 発注商品のトラブルに関するクレームについて学ぶ	テキストの予習・復習
	14	Unit 14 Making a Complaint 2	Making a complaint about a bill and payment 請求書や支払いのトラブルに関するクレームについて学ぶ	テキストの予習・復習
	15	Unit 15 Completing a Project	Confirming a business agreement and showing appreciation after a project 業務完了時の確認や協力者への謝意の	前期の復習

	まとめ	伝え方などを学ぶ	
	前期の学習内容確認		
関連科目	他の英語科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Successful Office English	Tae Kudo
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%	
	全学共通英語課題 B	10%	
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	70%	
学生への メッセージ	<p>毎回、予習と辞書持参を心掛けてください。</p> <p>内容や進度は、映像視聴や、皆さんの学習度にあわせて調整する予定ですので、若干変更する可能性があります。</p> <p>授業態度を重視しますので、積極的に授業に参加し、ノートをとるようにしてください。</p> <p>注意事項の詳細は、授業で説明・配布します。それに従って下さい。</p>		
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 三千代
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせることでパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Orientation	授業の進め方の説明	テキストの予習
2	Things Young People Are Less Interested in	若い人たちのライフスタイルの変化についての考察	テキストの予習と単語の学習
3	Things Young People Are Less Interested in	若い人たちのライフスタイルの変化についての考察	テキストの予習と単語の学習
4	What's in a Name?	個性的な名前を子供に付ける親の思いを探る	テキストの予習と単語の学習
5	What's in a Name?	個性的な名前を子供に付ける親の思いを探る	テキストの予習と単語の学習
6	Throwing It All Away... the Danshari Boom	断捨離の意味を知って片付け術を考える	テキストの予習と単語の学習
7	Throwing It All Away... the Danshari Boom	断捨離の意味を知って片付け術を考える	テキストの予習と単語の学習
8	Everything Caught on Video	カメラ付き携帯電話や防犯カメラがもたらす恩恵	テキストの予習と単語の学習
9	Employers Checking Facebook	フェイスブックなどのソーシャルメディアに潜む就職活動へのリスク	テキストの予習と単語の学習
10	LCCs - Low Cost Carriers	格安航空会社参入の裏表を探る	テキストの予習と単語の学習
11	Young People Don't Travel Abroad	若者の海外旅行離れの理由を考える	テキストの予習と単語の学習
12	Foreign Views of Japanese Culture	外国人観光客の目に映る日本の文化に関する考察	テキストの予習と単語の学習
13	Rethinking University Education	大学に入学できる年齢の引き下げや引上げについて	テキストの予習と単語の学習
14	Graffiti - Is It Artistic Expression?	壁の落書きは芸術作品?	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Trend Watching	Jonathan Lynch 他	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。授業中は積極的に発表することだけでなく、クラスメートの発表をしっかりと聞くことも大切です。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ a	科目名(英文)	English Iia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせることでパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方の説明、プリント教材を使った課題	テキストの予習
	2	Where is the PC room?	場所を訪ねる/ 自己紹介	テキストの予習と単語の学習
	3	What does "term" mean?	わからない言葉を尋ねる/ お気に入りの場所の紹介	テキストの予習と単語の学習
	4	When does Golden Week start?	日程を確認する/ 休日の過ごし方	テキストの予習と単語の学習
	5	I'm a member of the International Exchange Club.	クラブ活動を説明する/ 自分の所属クラブの紹介	テキストの予習と単語の学習
	6	I have a part-time job as a sales clerk.	アルバイトについて説明する/ 自分のアルバイトについて書く	テキストの予習と単語の学習
	7	What do you think about this program?	相手の意見を聞く/ eメール	テキストの予習と単語の学習
	8	How will you spend your vacation?	夏休みの予定について話す/ 自分の夏休みの計画を書く	テキストの予習と単語の学習
	9	When is the due date?	レポートの締め切りを尋ねる/ スケジュール	テキストの予習と単語の学習
	10	May I take a bath every night?	ホストファミリーのルールを尋ねる/ 手紙の返事を書く	テキストの予習と単語の学習
	11	Is this the right bus to go downtown?	行き先の確認をする	テキストの予習と単語の学習
	12	Do you need some help?(1)	外国人観光客をサポートする/ 英語表示の看板・標識	テキストの予習と単語の学習
	13	Do you need some help?(2)	外国人観光客をサポートする/ 英語表示の看板・標識	テキストの予習と単語の学習
	14	It looks like my GPA has improved.	成績について話す/ 自分の成績や単位について書く	テキストの予習と単語の学習
	15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Campus English	田村 雅昭他	センゲージラーニング株式会社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	70%

学生へのメッセージ 辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。授業中は積極的に発表することだけでなく、クラスメートの発表をしっかりと聞くことも大切です。

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ a	科目名(英文)	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大江 麻里子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業のすすめかたや成績のつけ方について詳しく説明する。</td> <td>教科書を購入して、目を通しておく。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1 Complicated</td> <td>英語の音楽をきいて、聞き取りをする。さらにその歌詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。</td> <td>授業範囲の予習と復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 1 Complicated</td> <td>前の週に学習した音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。</td> <td>授業範囲の予習と復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 2 S.O.S.</td> <td>英語の音楽をきいて、聞き取りをする。さらにその歌詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。</td> <td>授業範囲の予習と復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 2 S.O.S.</td> <td>前の週に学習した音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。</td> <td>授業範囲の予習と復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 3 You Are Not Alone</td> <td>英語の音楽をきいて、聞き取りをする。さらにその歌詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。</td> <td>授業範囲の予習と復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 3 You Are Not Alone</td> <td>前の週に学習した音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。</td> <td>授業範囲の予習と復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 4 Don't Wanna Lose You</td> <td>英語の音楽をきいて、聞き取りをする。さらにその歌詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。</td> <td>授業範囲の予習と復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 4 Don't Wanna Lose You</td> <td>前の週に学習した音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。</td> <td>授業範囲の予習と復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 5 How Crazy Are You?</td> <td>英語の音楽をきいて、聞き取りをする。さらにその歌詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。</td> <td>授業範囲の予習と復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 5 How Crazy Are You?</td> <td>前の週に学習した音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。</td> <td>授業範囲の予習と復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 6 Sunday Morning</td> <td>英語の音楽をきいて、聞き取りをする。さらにその歌詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。</td> <td>授業範囲の予習と復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 6 Sunday Morning</td> <td>前の週に学習した音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。</td> <td>授業範囲の予習と復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>前期の総復習</td> <td>前期に学習したなかで重要な点をまとめ、質問にこたえる。</td> <td>今までに学習した範囲の、難しかった点や疑問点をまとめておく。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめのテスト</td> <td>学習の習得状況を確認する。</td> <td>前期の範囲の重要事項をまとめて、おぼえてくること。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業のすすめかたや成績のつけ方について詳しく説明する。	教科書を購入して、目を通しておく。	2	Unit 1 Complicated	英語の音楽をきいて、聞き取りをする。さらにその歌詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習	3	Unit 1 Complicated	前の週に学習した音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。	授業範囲の予習と復習	4	Unit 2 S.O.S.	英語の音楽をきいて、聞き取りをする。さらにその歌詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習	5	Unit 2 S.O.S.	前の週に学習した音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。	授業範囲の予習と復習	6	Unit 3 You Are Not Alone	英語の音楽をきいて、聞き取りをする。さらにその歌詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習	7	Unit 3 You Are Not Alone	前の週に学習した音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。	授業範囲の予習と復習	8	Unit 4 Don't Wanna Lose You	英語の音楽をきいて、聞き取りをする。さらにその歌詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習	9	Unit 4 Don't Wanna Lose You	前の週に学習した音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。	授業範囲の予習と復習	10	Unit 5 How Crazy Are You?	英語の音楽をきいて、聞き取りをする。さらにその歌詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習	11	Unit 5 How Crazy Are You?	前の週に学習した音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。	授業範囲の予習と復習	12	Unit 6 Sunday Morning	英語の音楽をきいて、聞き取りをする。さらにその歌詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習	13	Unit 6 Sunday Morning	前の週に学習した音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。	授業範囲の予習と復習	14	前期の総復習	前期に学習したなかで重要な点をまとめ、質問にこたえる。	今までに学習した範囲の、難しかった点や疑問点をまとめておく。	15	まとめのテスト	学習の習得状況を確認する。	前期の範囲の重要事項をまとめて、おぼえてくること。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業のすすめかたや成績のつけ方について詳しく説明する。	教科書を購入して、目を通しておく。																																																																
2	Unit 1 Complicated	英語の音楽をきいて、聞き取りをする。さらにその歌詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習																																																																
3	Unit 1 Complicated	前の週に学習した音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。	授業範囲の予習と復習																																																																
4	Unit 2 S.O.S.	英語の音楽をきいて、聞き取りをする。さらにその歌詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習																																																																
5	Unit 2 S.O.S.	前の週に学習した音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。	授業範囲の予習と復習																																																																
6	Unit 3 You Are Not Alone	英語の音楽をきいて、聞き取りをする。さらにその歌詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習																																																																
7	Unit 3 You Are Not Alone	前の週に学習した音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。	授業範囲の予習と復習																																																																
8	Unit 4 Don't Wanna Lose You	英語の音楽をきいて、聞き取りをする。さらにその歌詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習																																																																
9	Unit 4 Don't Wanna Lose You	前の週に学習した音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。	授業範囲の予習と復習																																																																
10	Unit 5 How Crazy Are You?	英語の音楽をきいて、聞き取りをする。さらにその歌詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習																																																																
11	Unit 5 How Crazy Are You?	前の週に学習した音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。	授業範囲の予習と復習																																																																
12	Unit 6 Sunday Morning	英語の音楽をきいて、聞き取りをする。さらにその歌詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習																																																																
13	Unit 6 Sunday Morning	前の週に学習した音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。	授業範囲の予習と復習																																																																
14	前期の総復習	前期に学習したなかで重要な点をまとめ、質問にこたえる。	今までに学習した範囲の、難しかった点や疑問点をまとめておく。																																																																
15	まとめのテスト	学習の習得状況を確認する。	前期の範囲の重要事項をまとめて、おぼえてくること。																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English with Pop Hits</td> <td>角山照彦</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English with Pop Hits	角山照彦	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English with Pop Hits	角山照彦	成美堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1																																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
評価方法(基準)	<table border="1"> <tr> <td>全学共通英語課題 A</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>全学共通英語課題 B</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)</td> <td>70%</td> </tr> </table>			全学共通英語課題 A	20%	全学共通英語課題 B	10%	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	70%																																																										
全学共通英語課題 A	20%																																																																		
全学共通英語課題 B	10%																																																																		
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	70%																																																																		
学生へのメッセージ	英語学習は続けることが大切です。毎回授業に出席して発言しているうちに、英語力は確実に伸びていきます。学生のみなさんのレベルにあわせて、楽しい授業にしたいと思います。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。  「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	
		事前・事後学習課題	
1	Introduction Social history : "Barbie Comes of Age"	授業の進め方や予習・復習の仕方、評価方法、英語共通課題などについて説明を行う。また、教科書の内容について導入を行う。  リスニング・読解・文法解説 音読・ディスカッション・作文	教科書の構成を確認する
2	Food and culture: "But is it Sushi?"	リスニング・読解・文法解説 音読・ディスカッション・作文	予習、及び文法や教科書内容の復習
3	Animal welfare: "Best friends animal society"	リスニング・読解・文法解説 音読・ディスカッション・作文	予習、及び文法や教科書内容の復習
4	Anthropology: "The Evolution of Sleep"	リスニング・読解・文法解説 音読・ディスカッション・作文	予習、及び文法や教科書内容の復習
5	Review quiz 1 参考書から "Diversity is a Wealth"	まとめテスト 発表	予習、及び文法や教科書内容の復習
6	Contemporary trends: "Suspended coffee"	リスニング・読解・文法解説 音読・ディスカッション・作文	予習、及び文法や教科書内容の復習
7	Technology: "Inspired by nature"	リスニング・読解・文法解説 音読・ディスカッション・作文	予習、及び文法や教科書内容の復習
8	History/Civil rights: "Black like me"	リスニング・読解・文法解説 音読・ディスカッション・作文	予習、及び文法や教科書内容の復習
9	Employment: "The future of work"	リスニング・読解・文法解説 音読・ディスカッション・作文	予習、及び文法や教科書内容の復習
10	Review quiz 2 参考書から "Traits of Good Leaders"	まとめテスト 発表	予習、及び文法や教科書内容の復習
11	Crime: "Ferdinand Demara"	リスニング・読解・文法解説 音読・ディスカッション・作文	予習、及び文法や教科書内容の復習
12	Education: "Two trends"	リスニング・読解・文法解説 音読・ディスカッション・作文	予習、及び文法や教科書内容の復習
13	Marine biology: "A whale of a problem"	リスニング・読解・文法解説 音読・ディスカッション・作文	予習、及び文法や教科書内容の復習
14	Psychology: "Painful memories"	リスニング・読解・文法解説 音読・ディスカッション・作文	予習、及び文法や教科書内容の復習
15	Review quiz 3 参考書から "Capacity to Connect"	まとめテスト 発表	テスト勉強、及びテスト内容の復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Readers' forum: preface ISBN:978-4-523-17829-3	SIMPLY ENGLISH	Jim Knudsen
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)		西谷 恒志	成美堂
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Go Global! [ゴーン・テキスト ビジネスの教科書] ISBN:4-16-368670-3		Carlos Ghosn
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生への メッセージ	言語は知識としてしまっておくものではなく、使って役立つものです。語彙はあなたの力となります。e-learning と 4 択のテストで判断スピードを鍛えたら、あとは英語と日本語を使って、「おもしろい世界」にアクセスしましょう。  参考書の英語は、英語を母語としない人がシンプルでも中身のある話をして仕事ができる、という例です。
担当者の 研究室等	7号館4階 齋藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。



科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせることでパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業の進め方や予習・復習の仕方、評価方法、英語共通課題などについて説明を行う。また、教科書の内容について導入を行う。	
	2	Unit 1: Death(1)	教科書演習	Unit の予習、及び文法や教科書内容の復習
	3	Unit 1: Death(2)	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	4	Unit 2: Designer babies(1)	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	5	Unit 2: Designer babies(2)	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	6	Unit 3: Animal rights(1)	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	7	Unit 3: Animal rights(2)	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	8	Unit 4: The sale of human organs(1)	Unit 1-6 の内容についてテストの実施とその解説	Unit 1-6 のテスト勉強、及びテスト内容の復習
	9	Unit 4: The sale of human organs(2)	教科書演習	Unit の予習、及び文法や教科書内容の復習
	10	Unit 5: AIDS(1)	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	11	Unit 5: AIDS(2)	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	12	Unit 6: Abortion(1)	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	13	Unit 6: Abortion(2)	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	14	Unit 7: Are you happy with your body?(1)	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	15	Unit 7: Are you happy with your body?(2)	Unit 7-12 の内容についてテストの実施とその解説	Unit 7-12 のテスト勉強、及びテスト内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20%
	全学共通英語課題 B 10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%

学生へのメッセージ	教材はプリントを配布する。
-----------	---------------

担当者の研究室等	天野研究室 (7号館3階)
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル ピアース
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。  「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	英語による自己紹介、授業の進め方や評価方法の説明、ウォーミングアップ	なし
2	Chapter 1: Getting Organized	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。教科書の予習。
3	Chapter 2: Understanding Paragraphs	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。教科書の予習。
4	Chapter 3: Organizing information by time order	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。
5	Writing task 1: Writing an email	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。
6	Writing task 2: Writing a reply	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。教科書の予習。
7	Chapter 4: Organizing information by order of importance	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。教科書の予習。
8	Chapter 5: Organizing information by spatial order	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。教科書の予習。
9	Chapter 6: Understanding the writing process	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。
10	Poster Presentation: Drafting	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。
11	Poster Presentation: Editing & Completing	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。
12	Poster Presentation: Rehearsal	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。
13	Poster Presentation	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。教科書の予習。
14	Chapter 7: Explaining a process	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。
15	まとめ	小テストを終えてから、これまで学んだことのまとめ及び復習をする。	なし

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Ready to Write Level 2: Perfecting Paragraphs (5th Edition)	Karen Blanchard & ? Christine Root	Pearson
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	〈意味順〉英作文のすすめ	田地野彰	岩波ジュニア新書
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト、プレゼンテーション等含む) 70%			
学生への メッセージ	授業及び事前・事後学習における態度を重視し、宿題の量・難易度は学生のレベルを考慮するので、心配せずに楽しくがんばっていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	入江 敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業方法、提出物、評価方法についての説明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1 College Life (I)</td> <td>新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解</td> <td>本文予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 2 College Life (II)</td> <td>新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解</td> <td>本文予習 単語テスト</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 3 Hobbies</td> <td>新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解</td> <td>本文予習 単語テスト</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 4 Romance</td> <td>新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解</td> <td>本文予習 単語テスト</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 5 Transportation</td> <td>新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解</td> <td>本文予習 単語テスト</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 6 Business</td> <td>新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解</td> <td>本文予習 単語テスト</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>まとめテストと復習</td> <td>Unit1-6のまとめテストと復習</td> <td>Unit1-6</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 7 Society</td> <td>新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解</td> <td>本文予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 8 Health</td> <td>新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解</td> <td>本文予習 単語テスト</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 9 The Environment</td> <td>新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解</td> <td>本文予習 単語テスト</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 10 Medicine</td> <td>授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する</td> <td>本文予習 単語テスト</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 11 Finance</td> <td>授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する</td> <td>本文予習 単語テスト</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 12 Shopping</td> <td>授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する</td> <td>本文予習 単語テスト</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総合復習とまとめテスト</td> <td>総合復習</td> <td>Unit7-12</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明		2	Unit 1 College Life (I)	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	本文予習	3	Unit 2 College Life (II)	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	本文予習 単語テスト	4	Unit 3 Hobbies	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	本文予習 単語テスト	5	Unit 4 Romance	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	本文予習 単語テスト	6	Unit 5 Transportation	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	本文予習 単語テスト	7	Unit 6 Business	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	本文予習 単語テスト	8	まとめテストと復習	Unit1-6のまとめテストと復習	Unit1-6	9	Unit 7 Society	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	本文予習	10	Unit 8 Health	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	本文予習 単語テスト	11	Unit 9 The Environment	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	本文予習 単語テスト	12	Unit 10 Medicine	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	本文予習 単語テスト	13	Unit 11 Finance	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	本文予習 単語テスト	14	Unit 12 Shopping	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	本文予習 単語テスト	15	総合復習とまとめテスト	総合復習	Unit7-12
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明																																																																	
2	Unit 1 College Life (I)	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	本文予習																																																																
3	Unit 2 College Life (II)	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	本文予習 単語テスト																																																																
4	Unit 3 Hobbies	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	本文予習 単語テスト																																																																
5	Unit 4 Romance	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	本文予習 単語テスト																																																																
6	Unit 5 Transportation	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	本文予習 単語テスト																																																																
7	Unit 6 Business	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	本文予習 単語テスト																																																																
8	まとめテストと復習	Unit1-6のまとめテストと復習	Unit1-6																																																																
9	Unit 7 Society	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	本文予習																																																																
10	Unit 8 Health	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	本文予習 単語テスト																																																																
11	Unit 9 The Environment	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	本文予習 単語テスト																																																																
12	Unit 10 Medicine	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	本文予習 単語テスト																																																																
13	Unit 11 Finance	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	本文予習 単語テスト																																																																
14	Unit 12 Shopping	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	本文予習 単語テスト																																																																
15	総合復習とまとめテスト	総合復習	Unit7-12																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Power-Up English &lt;Pre-Intermediate&gt;</td> <td>JACET リスニング研究会</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Power-Up English <Pre-Intermediate>	JACET リスニング研究会	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Power-Up English <Pre-Intermediate>	JACET リスニング研究会	南雲堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、爽りある半期になる事を祈る！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	—————
	2	Unit 1 Lions 百獣の王ライオン	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.1-4
	3	Unit 2 Ramen ラーメン	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.5-8
	4	Unit 3 The Leaning Tower ピサの斜塔	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.9-12
	5	Unit 4 A Smart Dog 賢いワンちゃん	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.13-16
	6	Unit 5 Twenty-First Century Books 電子書籍	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.17-20
	7	Unit 6 Valentine's Day バレンタインデー	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.21-24
	8	Unit 7 The Taj Mahal ある愛の形	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.25-28
	9	Unit 8 A Computer Problem コンピューターのホットな問題	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.29-32
	10	Unit 9 The Mobius Band 不思議な輪	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.33-36
	11	Unit 10 A Long Weekend 休日の落とし穴	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.37-40
	12	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
	13	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
	14	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
	15	総合復習	試験に向けた復習	教科書など前期範囲一通り

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Basic Faster Reading New Edition 速読の基礎演習 最新版	Casey Malarcher, 原田慎一	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	定期試験	45%
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	25%

学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田村 康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせることでパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Unit 1: The United Kingdom</td> <td>リスニング、リーディング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.6-7 練習問題を行うこと。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1: The United Kingdom</td> <td>リスニング、リーディング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.8-9 練習問題を行うこと。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 2: Germany</td> <td>リスニング、リーディング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.10-11 練習問題を行うこと。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 2: Germany</td> <td>リスニング、リーディング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.12-13 練習問題を行うこと。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 3: France</td> <td>リスニング、リーディング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.14-15 練習問題を行うこと。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 3: France</td> <td>リスニング、リーディング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.16-17 練習問題を行うこと。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 4: Switzerland</td> <td>リスニング、リーディング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.18-19 練習問題を行うこと。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>復習、臨時テスト</td> <td>復習と臨時テスト</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 4: Switzerland</td> <td>リスニング、リーディング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.20-21 練習問題を行うこと。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 5: Finland</td> <td>リスニング、リーディング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.22-23 練習問題を行うこと。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 5: Finland</td> <td>リスニング、リーディング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.24-25 練習問題を行うこと。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 6: Sweden</td> <td>リスニング、リーディング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.26-27 練習問題を行うこと。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 6: Sweden</td> <td>リスニング、リーディング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.28-29 練習問題を行うこと。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 7: Russia</td> <td>リスニング、リーディング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.30-33 練習問題を行うこと。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>復習、臨時テスト</td> <td>復習と臨時テスト</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Unit 1: The United Kingdom	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.6-7 練習問題を行うこと。	2	Unit 1: The United Kingdom	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.8-9 練習問題を行うこと。	3	Unit 2: Germany	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.10-11 練習問題を行うこと。	4	Unit 2: Germany	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.12-13 練習問題を行うこと。	5	Unit 3: France	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.14-15 練習問題を行うこと。	6	Unit 3: France	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.16-17 練習問題を行うこと。	7	Unit 4: Switzerland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.18-19 練習問題を行うこと。	8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。	9	Unit 4: Switzerland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.20-21 練習問題を行うこと。	10	Unit 5: Finland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.22-23 練習問題を行うこと。	11	Unit 5: Finland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.24-25 練習問題を行うこと。	12	Unit 6: Sweden	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.26-27 練習問題を行うこと。	13	Unit 6: Sweden	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.28-29 練習問題を行うこと。	14	Unit 7: Russia	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.30-33 練習問題を行うこと。	15	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Unit 1: The United Kingdom	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.6-7 練習問題を行うこと。																																																																
2	Unit 1: The United Kingdom	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.8-9 練習問題を行うこと。																																																																
3	Unit 2: Germany	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.10-11 練習問題を行うこと。																																																																
4	Unit 2: Germany	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.12-13 練習問題を行うこと。																																																																
5	Unit 3: France	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.14-15 練習問題を行うこと。																																																																
6	Unit 3: France	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.16-17 練習問題を行うこと。																																																																
7	Unit 4: Switzerland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.18-19 練習問題を行うこと。																																																																
8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。																																																																
9	Unit 4: Switzerland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.20-21 練習問題を行うこと。																																																																
10	Unit 5: Finland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.22-23 練習問題を行うこと。																																																																
11	Unit 5: Finland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.24-25 練習問題を行うこと。																																																																
12	Unit 6: Sweden	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.26-27 練習問題を行うこと。																																																																
13	Unit 6: Sweden	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.28-29 練習問題を行うこと。																																																																
14	Unit 7: Russia	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.30-33 練習問題を行うこと。																																																																
15	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Global Business Trends</td> <td>Iwao Yamashita ほか</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Global Business Trends	Iwao Yamashita ほか	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Global Business Trends	Iwao Yamashita ほか	南雲堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。TOEICを受験することを勧める。さらに単語力を増強するため、リンガポルテを活用し、積極的に自習すること。リンガポルテの取り組みも成績評価に反映されます。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unit 1: Learning How to Ask Questions	Unit 1 のシャドーイングと本文の穴埋め問題	Unit 1 の予習
2	Unit 1: Learning How to Ask Questions	Unit 1 の本文精読と練習問題	Unit 1 の復習と Unit 9 の予習 小テスト準備
3	Unit 9: Cell Phone Use among Friends? How Rude!	Unit 9 のシャドーイングと本文の穴埋め問題	Unit 9 の復習と予習
4	Unit 9: Cell Phone Use among Friends? How Rude!	Unit 9 の本文精読と練習問題	Unit 9 の復習と Unit 10 の予習 小テスト準備
5	Unit 10: Social Media Is Keeping Young Adults Awake	Unit 10 のシャドーイングと本文の穴埋め問題	Unit 10 の復習と予習
6	Unit 10: Social Media Is Keeping Young Adults Awake	Unit 10 の本文精読と練習問題	Unit 10 の復習と Unit 11 の予習 小テスト準備
7	Unit 11: How Well Is English Spoken Worldwide?	Unit 11 のシャドーイングと本文の穴埋め問題	Unit 11 の復習と予習
8	Unit 11: How Well Is English Spoken Worldwide?	Unit 11 の本文精読と練習問題	Unit 11 の復習と Unit 12 の予習 小テスト準備
9	Unit 12: Scientists Find New Step in Brain Development	Unit 12 のシャドーイングと本文の穴埋め問題	Unit 12 の復習と予習
10	Unit 12: Scientists Find New Step in Brain Development	Unit 12 の本文精読と練習問題	Unit 12 の復習と Unit 13 の予習 小テスト準備
11	Unit 13: A Child's Growing Brain Needs Love as Much as Food	Unit 13 のシャドーイングと本文の穴埋め問題	Unit 13 の復習と予習
12	Unit 13: A Child's Growing Brain Needs Love as Much as Food	Unit 13 の本文精読と練習問題	Unit 13 の復習と Unit 14 の予習 小テスト準備
13	Unit 14: Rich People Even Have Better Stress than Poor	Unit 14 のシャドーイングと本文の穴埋め問題	Unit 14 の復習と予習
14	Unit 14: Rich People Even Have Better Stress than Poor	Unit 14 の本文精読と練習問題	Unit 14 の復習 まとめのテスト準備
15	後期の総復習とまとめのテスト	後期内容のまとめのテストを実施	テストの準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	VOA ラーニングイングリッシュで世界を読む	倉本充子・西田晴美・釣井千恵・Timothy F Hawthorne	三修社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	--

学生へのメッセージ	授業ではマナーを守り、積極的かつ集中して参加してください。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIC
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・グアイース
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Unit 6 Welcoming a visitor	Meeting other class members	
	2	Unit 6	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
	3	Unit 6	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
	4	Unit 7 Making arrangements	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
	5	Unit 7	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
	6	Unit 7	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
	7	Unit 8 Recommending places to visit	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
	8	Unit 8	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
	9	Unit 8	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
	10	Unit 9 Giving opinions	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
	11	Unit 9	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
	12	Unit 9	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
	13	Unit 10 Discussing progress	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
	14	Unit 10	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
	15	Unit 10	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	International Express Elementary	Angela Buckingham	Oxford
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題A 20% 全学共通英語課題B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	--

学生へのメッセージ	予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---



科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIC
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	内山 知美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1 サイバーダイン株式会社	授業についての説明、諸注意 サイバーダイン社が可能にする運動	テキストを購入して、Unit1 にざっと目を通しておくこと。
2	Unit 2 株式会社ミライセンス	3D 触力覚技術と体感ビジネス	テキストの予習
3	Unit 3 フリュウ株式会社	アメリカ向けブリクラ機の製造	テキストの予習・復習
4	Unit 4 マリンバイオテクノロジー株式会社	魚の輸送技術	テキストの予習・復習
5	Unit 5 アサヒ飲料株式会社	カルピス開発ストーリー	テキストの予習・復習
6	Unit 6 株式会社キーストーンテクノロジー	都会で野菜を育てる LED ライト	テキストの予習・復習
7	Unit 7 三菱重工業株式会社	JAXA プロジェクト参加のためのロケット開発	テキストの予習・復習
8	Unit 8 富士フイルム・ホールディングス株式会社	ASTALIFT の開発秘話	テキストの予習・復習
9	Unit 9 株式会社アシックス	ASICS シューズの海外人気とその理由	テキストの予習・復習
10	Unit 10 シヤチハタ株式会社	朱肉のいらない印鑑ができるまで	テキストの予習・復習
11	Unit 11 アイシン精機株式会社	大学との共同開発で生まれたユニークな乗り物	テキストの予習・復習
12	Unit 12 任天堂株式会社	岩田前社長の功績	テキストの予習・復習
13	Unit 13 株式会社タニタ	タニタ食堂丸の内レストランができるまで	テキストの予習・復習
14	Unit 14 AuthaGraph 株式会社	緯度による歪みの影響を受けない画期的な世界地図	テキストの予習・復習
15	Unit 15 オリンパス株式会社 まとめ	オリンパスの胃カメラ 後期の学習内容確認	後期の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	未来を拓く日本の企業	鈴木淳/高橋哲徳/高橋史朗/ Simon D. Cooke	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	--

学生へのメッセージ	毎回、予習と辞書持参を心掛けてください。 内容や進度は、映像視聴や、皆さんの学習度にあわせて調整する予定ですので、若干変更する可能性があります。 授業態度を重視しますので、積極的に授業に参加し、ノートをとるようにしてください。 注意事項の詳細は、授業で説明・配布します。それに従って下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 三千代
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせることでパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Orientation</td> <td>テキスト前期の内容の確認と後期の進め方の説明</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Asian Dust and PM2.5 - A deadly Mix</td> <td>PM2.5の背景と問題点についての考察</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Asian Dust and PM2.5 - A deadly Mix</td> <td>PM2.5の背景と問題点についての考察</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Tsunami Countermeasures</td> <td>津波から命を守る方法を探る</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Tsunami Countermeasures</td> <td>津波から命を守る方法を探る</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Bright White Teeth for Everybody</td> <td>歯のホワイトニングの施術法の紹介</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Bright White Teeth for Everybody</td> <td>歯のホワイトニングの施術法の紹介</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Helium in Short Supply</td> <td>世界的に問題となっているヘリウム不足の原因と、それに代わるもの</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Forced Drinking at University</td> <td>日本の大学での一気飲みによるアルコール中毒の問題を考える</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>QR Codes - A Japanese Success Story</td> <td>日本で生まれ世界中で使用されているQRコードとは?</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Rebuilding the Titanic</td> <td>映画でも有名なタイタニック号が再び注目を浴びている理由を探る</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>WThe Costco Phenomenon</td> <td>米国生まれの会員制倉庫型スーパーであるコストコの魅力を考察する</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Tablets for Business</td> <td>タブレット型端末がビジネスの場でも注目されつつある、その理由は?</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Are We Running Out of Fuel?</td> <td>世界的に心配されているエネルギー不足に明るい兆しが見え始めている</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめテスト、復習</td> <td>まとめテスト及びこれまでの内容の復習</td> <td>テキストのこれまでの内容の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	Orientation	テキスト前期の内容の確認と後期の進め方の説明	テキストの予習	2	Asian Dust and PM2.5 - A deadly Mix	PM2.5の背景と問題点についての考察	テキストの予習と単語の学習	3	Asian Dust and PM2.5 - A deadly Mix	PM2.5の背景と問題点についての考察	テキストの予習と単語の学習	4	Tsunami Countermeasures	津波から命を守る方法を探る	テキストの予習と単語の学習	5	Tsunami Countermeasures	津波から命を守る方法を探る	テキストの予習と単語の学習	6	Bright White Teeth for Everybody	歯のホワイトニングの施術法の紹介	テキストの予習と単語の学習	7	Bright White Teeth for Everybody	歯のホワイトニングの施術法の紹介	テキストの予習と単語の学習	8	Helium in Short Supply	世界的に問題となっているヘリウム不足の原因と、それに代わるもの	テキストの予習と単語の学習	9	Forced Drinking at University	日本の大学での一気飲みによるアルコール中毒の問題を考える	テキストの予習と単語の学習	10	QR Codes - A Japanese Success Story	日本で生まれ世界中で使用されているQRコードとは?	テキストの予習と単語の学習	11	Rebuilding the Titanic	映画でも有名なタイタニック号が再び注目を浴びている理由を探る	テキストの予習と単語の学習	12	WThe Costco Phenomenon	米国生まれの会員制倉庫型スーパーであるコストコの魅力を考察する	テキストの予習と単語の学習	13	Tablets for Business	タブレット型端末がビジネスの場でも注目されつつある、その理由は?	テキストの予習と単語の学習	14	Are We Running Out of Fuel?	世界的に心配されているエネルギー不足に明るい兆しが見え始めている	テキストの予習と単語の学習	15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	Orientation	テキスト前期の内容の確認と後期の進め方の説明	テキストの予習																																																																
2	Asian Dust and PM2.5 - A deadly Mix	PM2.5の背景と問題点についての考察	テキストの予習と単語の学習																																																																
3	Asian Dust and PM2.5 - A deadly Mix	PM2.5の背景と問題点についての考察	テキストの予習と単語の学習																																																																
4	Tsunami Countermeasures	津波から命を守る方法を探る	テキストの予習と単語の学習																																																																
5	Tsunami Countermeasures	津波から命を守る方法を探る	テキストの予習と単語の学習																																																																
6	Bright White Teeth for Everybody	歯のホワイトニングの施術法の紹介	テキストの予習と単語の学習																																																																
7	Bright White Teeth for Everybody	歯のホワイトニングの施術法の紹介	テキストの予習と単語の学習																																																																
8	Helium in Short Supply	世界的に問題となっているヘリウム不足の原因と、それに代わるもの	テキストの予習と単語の学習																																																																
9	Forced Drinking at University	日本の大学での一気飲みによるアルコール中毒の問題を考える	テキストの予習と単語の学習																																																																
10	QR Codes - A Japanese Success Story	日本で生まれ世界中で使用されているQRコードとは?	テキストの予習と単語の学習																																																																
11	Rebuilding the Titanic	映画でも有名なタイタニック号が再び注目を浴びている理由を探る	テキストの予習と単語の学習																																																																
12	WThe Costco Phenomenon	米国生まれの会員制倉庫型スーパーであるコストコの魅力を考察する	テキストの予習と単語の学習																																																																
13	Tablets for Business	タブレット型端末がビジネスの場でも注目されつつある、その理由は?	テキストの予習と単語の学習																																																																
14	Are We Running Out of Fuel?	世界的に心配されているエネルギー不足に明るい兆しが見え始めている	テキストの予習と単語の学習																																																																
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Trend Watching</td> <td>Jonathan Lynch 他</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Trend Watching	Jonathan Lynch 他	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Trend Watching	Jonathan Lynch 他	成美堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。授業中は積極的に発表することだけでなく、クラスメートの発表をしっかりと聞くことも大切です。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期の内容の確認、プリント	前期の内容の確認、プリント材を使った課題	テキストの予習
	2	I don't know which to choose.	ゼミ決定を相談する/ゼミ決定の理由を書く	テキストの予習と単語の学習
	3	He got a job with a copy machine company.	就職活動について話す/自分の職業適性について書く	テキストの予習と単語の学習
	4	How do you make them laugh?	学園祭での模擬店/お茶の入れ方の手順を書く	テキストの予習と単語の学習
	5	it is a celebrationday for kids.	日本文化を紹介する/日本の祝日	テキストの予習と単語の学習
	6	What is your favorite dish at the cafeteria?	学食のメニューについて話す/自分の好きな(嫌いな)メニューについて書く	テキストの予習と単語の学習
	7	What is Christmas like in your country?	クリスマスの過ごし方/クリスマスカードを書く	テキストの予習と単語の学習
	8	Your e-mail is full of garbled text.	メールの文字化けについて話す/新年のあいさつ、メール	テキストの予習と単語の学習
	9	I'd like to talk about my research(1)	ゼミで発表する/自分の好きな世界遺産について書く	テキストの予習と単語の学習
	10	I'd like to talk about my research(2)	ゼミで発表する/自分の好きな世界遺産について書く	テキストの予習と単語の学習
	11	That's why I applied for the position.	人事面接を受ける/自分のアピールポイントを書く	テキストの予習と単語の学習
	12	Who's your date?	バレンタインデーの過ごし方/ラブソングの歌詞	テキストの予習と単語の学習
	13	Why don't you plan a farewell party?	追い出しコンパを企画する/追い出しコンパの計画を書く	テキストの予習と単語の学習
	14	I have set three goals for myself.	目標を決める/自分の来年度の目標を書く	テキストの予習と単語の学習
	15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Campus English	田村 雅昭他	センゲージラーニング株式会社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	--

学生へのメッセージ 辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。授業中は積極的に発表することだけでなく、クラスメートの発表をしっかりと聞くことも大切です。

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIC
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大江 麻里子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせることでパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	前期の成績についての説明と、後期の授業のすすめかたについての説明	テキストに目を通しておくこと
	2	Unit 7 I Want It That Way	英語の音楽をきいて聞き取りをする。またその歌詞にでてくる文法表現や語彙を学習する。	授業範囲の予習と復習
	3	Unit 7 I Want It That Way	前の週に聴いた音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。	授業範囲の予習と復習
	4	Unit 8 Suddenly I See	英語の音楽をきいて聞き取りをする。またその歌詞にでてくる文法表現や語彙を学習する。	授業範囲の予習と復習
	5	Unit 8 Suddenly I See	前の週に聴いた音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。	授業範囲の予習と復習
	6	Unit 9 How Am I Supposed To Live Without You?	英語の音楽をきいて聞き取りをする。またその歌詞にでてくる文法表現や語彙を学習する。	授業範囲の予習と復習
	7	Unit 9 How Am I Supposed To Live Without You?	前の週に聴いた音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。	授業範囲の予習と復習
	8	Unit 10 Save The Best For Last	英語の音楽をきいて聞き取りをする。またその歌詞にでてくる文法表現や語彙を学習する。	授業範囲の予習と復習
	9	Unit 10 Save The Best For Last	前の週に聴いた音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。	授業範囲の予習と復習
	10	Unit 11 Last Christmas	英語の音楽をきいて聞き取りをする。またその歌詞にでてくる文法表現や語彙を学習する。	授業範囲の予習と復習
	11	Unit 11 Last Christmas	前の週に聴いた音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。	授業範囲の予習と復習
	12	Unit 14 With You	英語の音楽をきいて聞き取りをする。またその歌詞にでてくる文法表現や語彙を学習する。	授業範囲の予習と復習
	13	Unit 14 With You	前の週に聴いた音楽に関連した短い英文を精読し、日本語に訳す。	授業範囲の予習と復習
	14	後期の総復習	後期の授業範囲をまとめ、重要事項を確認し、質問を受け付ける。	後期の授業範囲の難しかった点や、疑問点をまとめておく。
	15	まとめのテスト	後期の学習範囲の習得状況を確認する。	重要事項を確認し、おぼえてくること。

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English with Pop Hits	角山照彦	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	--

学生へのメッセージ	英語学習は続けることが大切です。毎回授業に出席して、発言しているうちに、英語力は確実に伸びていきます。学生のみなさんのレベルにあわせて、楽しい授業にしたいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱd	科目名(英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法などを説明	教科書の予習、英単語の暗記1297-1311
2	Drill 1~2	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記1312-1326
3	Drill 3~4	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記1327-1341
4	Drill 5~6	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記1342-1356
5	Drill 7~8	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記1357-1371
6	Drill 9~10	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記1372-1386
7	Drill 11~12	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記1387-1401
8	Drill 13~14	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記1402-1416
9	Drill 15~16	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記1417-1431
10	Drill 17~18	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記1432-1446
11	Drill 19~20	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記1447-1461
12	Drill 21~22	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記1462-1476
13	Drill 23~24	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記1477-1491
14	Drill 25~26	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記1492-1500
15	まとめテスト	まとめテスト 答え合わせ	これまでの復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2	David E. Bramley	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題A 20% 全学共通英語課題B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	--

学生へのメッセージ	目標を高く持って頑張ってください。
-----------	-------------------

担当者の研究室等	7号館5階(後藤研究室)
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱd	科目名(英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業の進め方や予習・復習の仕方、評価方法、英語共通課題などについて説明を行う。また、教科書の内容について導入を行う。	
	2	Unit 1: Changing sex	教科書演習	Unit の予習、及び文法や教科書内容の復習
	3	Unit 1: Changing sex	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	4	Unit 2: The right to die	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	5	Unit 2: The right to die	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	6	Unit 3: Anxiety and depression	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	7	Unit 3: Anxiety and depression	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	8	Unit 4: Legalising drugs	Unit 13-18 の内容についてテストの実施とその解説	Unit 13-18 のテスト勉強、及びテスト内容の復習
	9	Unit 4: Legalising drugs	教科書演習	Unit の予習、及び文法や教科書内容の復習
	10	Unit 5: Addictions	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	11	Unit 5: Addictions	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	12	Unit 6: Sex for sale	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	13	Unit 6: Sex for sale	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	14	Unit 7: Big Brother is wathing!	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	15	Unit 7: Big Brother is wathing!	文法小テスト及び教科書演習	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20%
	全学共通英語課題 B 10%
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%

学生へのメッセージ	教材はプリントを配布する。
-----------	---------------

担当者の研究室等	天野研究室(7号館3階)
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱd	科目名(英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル ピアース
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	2年次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる[CEFR-J B1-1 目標]。  「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	英語によるスピーキングタスク、授業の進め方や評価方法の説明。	教科書の予習。
2	Chapter 9: Writing descriptions	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記、教科書の予習。
3	Chapter 10: Expressing your opinion	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記、教科書の予習。
4	Chapter 11: Comparing and contrasting	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。
5	Speech task 1: Free topic, drafting and rehearsal	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。
6	Speech task 1: Presentation	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記、教科書の予習。
7	Chapter 12: Analyzing causes and effects	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記、教科書の予習。
8	Chapter 13: Writing summaries and answering test questions	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記、教科書の予習。
9	Chapter 14: Writing personal letters and business letters	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。
10	Writing task 1: Writing a letter	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。
11	Writing task 2: Writing a reply	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。
12	Final speech: Drafting	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。
13	Final speech: Peer feedback	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。
14	Final speech: Presentation	小テストを終えてから、英語表現を解説し、聴解練習をする。その後、ペアワークやグループワークでライティング・スピーキングに取り組む。	前回出された単語の暗記。
15	まとめテスト	小テストを終えてから、今までの学習内容をまとめる。	なし

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Ready to Write Level 2: Perfecting Paragraphs (5th Edition)	Karen Blanchard & ? Christine Root	Pearson Longman
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	〈意味順〉英作文のすすめ	田地野彰	岩波ジュニア新書
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト、プレゼンテーション等含む) 70%			
学生への メッセージ	目標を高く持って頑張ってください。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。			



科目名	英語Ⅱd	科目名(英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	入江 敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習	前期に習った内容の復習	
	2	Unit 1 College Sports	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	本文予習 単語
	3	Unit 2 Hip Hop Music	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解、単語テスト	本文予習 単語
	4	Unit 3 Travel	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解、単語テスト	本文予習 単語
	5	Unit 4 Video Games	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解、単語テスト	本文予習 単語
	6	Unit 5 Recycling	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解、単語テスト	本文予習 単語
	7	Unit 6 Fast Food	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解、単語テスト	本文予習 単語
	8	総復習	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解 単語テスト	
	9	Unit 7 Extreme Weather	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解、単語テスト	本文予習 単語
	10	Unit 8 Medical Tourism	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解、単語テスト	本文予習 単語
	11	Unit 9 Advertising	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解、単語テスト	本文予習 単語
	12	Unit 10 Business Travel	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解、単語テスト	本文予習 単語
	13	Unit 11 E-commerce	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解、単語テスト	本文予習 単語
	14	Unit 12 Coffee Shop	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解、単語テスト	本文予習 単語
	15	総合復習とまとめテスト	試験に向けた復習	教科書など後期範囲一通り

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Indicator 3 <Intermediate>	Joshua Cohen 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	--

学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱd	科目名(英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の復習</td> <td>前期に習った内容の復習</td> <td>――</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 11 Breakfast in America アメリカの朝食</td> <td>新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解</td> <td>教科書 p.41-44</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 12 The World Cup ワールドカップ</td> <td>新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解</td> <td>教科書 p.45-48</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 13 Blood Types 血液型で性格判断</td> <td>新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解</td> <td>教科書 p.49-52</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 14 Reality TV リアリティ番組</td> <td>新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解</td> <td>教科書 p.53-56</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 15 Rodeos ロデオ</td> <td>新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解</td> <td>教科書 p.57-60</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 16 Women's Sumo 女子相撲</td> <td>新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解</td> <td>教科書 p.61-64</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 17 Studying Abroad 海外で学ぼう</td> <td>新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解</td> <td>教科書 p.65-68</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 18 The Palace of Salt しよっぱいホテル</td> <td>新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解</td> <td>教科書 p.69-72</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 19 The Mona Lisa モナリザの微笑</td> <td>新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解</td> <td>教科書 p.73-76</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 20 Lizards トカゲは好きですか</td> <td>新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解</td> <td>教科書 p.77-80</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>資格・検定などの問題演習</td> <td>授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する</td> <td>習った内容を何度も復習して覚えよう</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>資格・検定などの問題演習</td> <td>授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する</td> <td>習った内容を何度も復習して覚えよう</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資格・検定などの問題演習</td> <td>授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する</td> <td>習った内容を何度も復習して覚えよう</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総合復習</td> <td>試験に向けた復習</td> <td>教科書など後期範囲一通り</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	前期に習った内容の復習	――	2	Unit 11 Breakfast in America アメリカの朝食	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.41-44	3	Unit 12 The World Cup ワールドカップ	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.45-48	4	Unit 13 Blood Types 血液型で性格判断	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.49-52	5	Unit 14 Reality TV リアリティ番組	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.53-56	6	Unit 15 Rodeos ロデオ	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.57-60	7	Unit 16 Women's Sumo 女子相撲	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.61-64	8	Unit 17 Studying Abroad 海外で学ぼう	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.65-68	9	Unit 18 The Palace of Salt しよっぱいホテル	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.69-72	10	Unit 19 The Mona Lisa モナリザの微笑	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.73-76	11	Unit 20 Lizards トカゲは好きですか	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.77-80	12	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう	13	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう	14	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう	15	総合復習	試験に向けた復習	教科書など後期範囲一通り
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習	前期に習った内容の復習	――																																																																
2	Unit 11 Breakfast in America アメリカの朝食	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.41-44																																																																
3	Unit 12 The World Cup ワールドカップ	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.45-48																																																																
4	Unit 13 Blood Types 血液型で性格判断	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.49-52																																																																
5	Unit 14 Reality TV リアリティ番組	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.53-56																																																																
6	Unit 15 Rodeos ロデオ	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.57-60																																																																
7	Unit 16 Women's Sumo 女子相撲	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.61-64																																																																
8	Unit 17 Studying Abroad 海外で学ぼう	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.65-68																																																																
9	Unit 18 The Palace of Salt しよっぱいホテル	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.69-72																																																																
10	Unit 19 The Mona Lisa モナリザの微笑	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.73-76																																																																
11	Unit 20 Lizards トカゲは好きですか	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.77-80																																																																
12	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう																																																																
13	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう																																																																
14	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう																																																																
15	総合復習	試験に向けた復習	教科書など後期範囲一通り																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Basic Faster Reading New Edition 速読の基礎演習 最新版</td> <td>Casey Malarcher, 原田慎一</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Basic Faster Reading New Edition 速読の基礎演習 最新版	Casey Malarcher, 原田慎一	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Basic Faster Reading New Edition 速読の基礎演習 最新版	Casey Malarcher, 原田慎一	成美堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 定期試験 45% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 25%																																																																		
学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語Ⅱ d	科目名(英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田村 康子
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせることでパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 8: South Korea	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.34-35 練習問題を行うこと。
	2	Unit 8: South Korea	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.36-37 練習問題を行うこと。
	3	Unit 9: Vietnam	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.38-39 練習問題を行うこと。
	4	Unit 9: Vietnam	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.40-41 練習問題を行うこと。
	5	Unit 10: China	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.42-43 練習問題を行うこと。
	6	Unit 10: China	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.44-45 練習問題を行うこと。
	7	Unit 11: Thailand	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.46-47 練習問題を行うこと。
	8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	9	Unit 11: Thailand	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.48-49 練習問題を行うこと。
	10	Unit 12: India	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.50-51 練習問題を行うこと。
	11	Unit 12: India	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.52-53 練習問題を行うこと。
	12	Unit 13: Brazil	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.54-55 練習問題を行うこと。
	13	Unit 13: Brazil	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.56-57 練習問題を行うこと。
	14	Unit 14: The United States of America	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.58-61 練習問題を行うこと。
	15	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を復習しておく。

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Business Trends	Iwao Yamashita ほか	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。 TOEICを受験することを勧める。さらに単語力を増強するため、リンガルテを活用し、積極的に自習すること。 リンガルテの取り組みも成績評価に反映されます。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語コミュニケーション I	科目名 (英文)	English Conversation I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アサー ロンゲル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	本授業では、実践的な英語コミュニケーション能力を習得することを目的とする。ディスカッションのトピックを読みながら、読解力、語彙力、作文力の強化を図る。
到達目標	本文を通じて英語読解力の向上を図るだけでなく、それに対する自分の意見を英作する演習を行う。自らの考えをしっかりと持ち、それを発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	本授業では、本文読解を通して、リーディング力、語彙力、文法力を磨く。また本文に対する自分の意見を英語で発信する力も磨く。
科目学習の効果 (資格)	総合的な英語力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Class introduction	ガイダンス	課題、小テスト対策
	2	Cerf Topic #1	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	3	Cerf Topic #2	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	4	Cerf Topic #3	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	5	Cerf Topic #4	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	6	Presentation Prep	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	7	Cerf Topic #5	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	8	Presentation	Presentation	課題、小テスト対策
	9	Group Game Activity	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	10	Cerf Topic #6	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	11	Cerf Topic #7	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	12	Cerf Topic #8	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	13	Presentation Prep	prep	課題、小テスト対策
	14	Cerf Topic #9	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	15	Presentation	presentation	試験対策

関連科目	英語科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Presentations 30 Attendance 50 Participation 20
-----------	---

学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。 また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名(英文)	English Conversation II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アサー ロンダス
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	本授業では、実践的な英語コミュニケーション能力を習得することを目的とする。ディスカッションのトピックを読みながら、読解力、語彙力、作文力の強化を図る。
到達目標	本文を通じて英語読解力の向上を図るだけでなく、それに対する自分の意見を英作する演習を行う。自らの考えをしっかりと持ち、それを発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	本授業では、本文読解を通して、リーディング力、語彙力、文法力を磨く。また本文に対する自分の意見を英語で発信する力も磨く。
科目学習の効果(資格)	総合的な英語力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Class introduction	ガイダンス	課題、小テスト対策
	2	Cerf Topic #1	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	3	Cerf Topic #2	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	4	Cerf Topic #3	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	5	Cerf Topic #4	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	6	Presentation Prep	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	7	Cerf Topic #5	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	8	Presentation	Presentation	課題、小テスト対策
	9	Group Game Activity	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	10	Cerf Topic #6	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	11	Cerf Topic #7	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	12	Cerf Topic #8	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	13	Presentation Prep	prep	課題、小テスト対策
	14	Cerf Topic #9	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	15	Presentation	presentation	試験対策

関連科目	英語科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	Presentations 30 Attendance 50 Participation 20
----------	---

学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。 また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

授業概要・目的	この研修は、語学力 (英語力) の向上と研修地の歴史・文化およびそこで生活する人々に触れ、国際的な知識と理解を深め、広範囲な国の人々と協力し合える国際感覚を身につけることを目的とする。研修先での授業は、月曜日から金曜日に実施し、語学力別に分けたクラス内で行われる。宿泊・費用等、詳細は、募集ガイダンスで周知する。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修先の歴史や文化を前もって調査することで、現地での研修を深められるようになる。</li> <li>・一緒に研修に行く他の学生と交流し、協力して研修を成功させる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	<p>(以下は8月出発の場合。春出発の場合の日程は、ガイダンスで確認してください。)</p> <p>4月 募集ガイダンス (日時等の詳細はポータルおよび掲示で連絡する)、事前学習としては事前のガイダンス出席が義務付けられている。また、事後には成果報告およびレポート提出を要請されている。</p> <p>5月 申込書の提出</p> <p>5月下旬 派遣学生の決定および履修申請</p> <p>6月～8月 事前ガイダンスを実施 (全3回)</p> <p>8月上旬 結団式</p> <p>&lt;研修スケジュール&gt; [2週間コース] 8月中旬～8月下旬 (予定)</p> <p>[3週間コース] 8月中旬～9月上旬 (予定)</p> <p>9月下旬～10月上旬 (予定) 成果報告会</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>これまでに学んだ英語の知識を、実際に使うための練習を多角的に行う。</p> <p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外渡航に関する基本的なガイダンス</li> <li>・英語多読・英会話など、学内の教材や設備でできる英語学習 (ガイダンス時に説明)</li> <li>・インターネット上でたくさんの学習サイトがあるので、渡航前に自分の中の英語の出力スピードや反応を活性化させておく。</li> </ul> <p>海外研修中</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業はもちろん、授業外でも、講師やスタッフ、ホストファミリーなどに自分から英語で話してコミュニケーションをすすめる。</li> </ul> <p>事後学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同時期に開催される他の研修参加者と共に、成果報告会でのプレゼンテーションを行う。</li> <li>・レポート。</li> </ul>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	事前学習・成果報告会のプレゼン・レポート (30%) 研修先での成績 (70%)																
学生へのメッセージ	ちがう学年、学部の学生と、切磋琢磨しながら成長できます。 海外研修は、自分の中のリーダーシップの芽生えが実感できるチャンスです。																
担当者の研究室等	国際交流センター																

備考	<ul style="list-style-type: none"><li>・参加学生は事前ガイダンスに必ず出席すること。欠席の場合は、事前に国際交流センターへ連絡をしてください。</li><li>・事前に参加申込みをし、参加許可を得た者に限り履修できる。通常の履修申請とは方法が異なるので注意。</li><li>・各学部の期末試験等のスケジュールを確認の上、履修を検討すること。学部・学年によっては、今学期・年度は受講できない場合もあります。</li></ul>
----	--

科目名	生涯スポーツ実習	科目名(英文)	Lifetime Sports
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	スポーツ科学実習で修得した基礎知識をベースにより応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。																																																																		
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う(雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある)。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目(サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、ニュースポーツなど) ※これら種目の他に、集中授業としてゴルフ実習を開講するが、通年授業の生涯スポーツ実習との重複履修はできない。 なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。																																																																		
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス(履修上の注意事項の説明) コース種目分け</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各コース別実技</td> <td>種目の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>各コース別実技</td> <td>ルールの解説、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>攻防技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>攻防技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意事項の説明) コース種目分け	授業内容のまとめ	2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ	4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意事項の説明) コース種目分け	授業内容のまとめ																																																																
2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、活動点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室に来ること。																																																																		
担当者の研究室等	体育館1F 体育館事務室																																																																		
備考	【準備物】 トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)																																																																		



科目名	生涯スポーツ実習（ゴルフ）	科目名（英文）	Lifetime Sports
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	近藤 潤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	<p>ゴルフというスポーツを通して生涯スポーツへの参加意識向上と自信を深めることを目的にする。                  短期間の練習で最後に実際にコースに出てラウンドするという、ハードスケジュールではあるが、コースでラウンドする経験は、テレビなどで見るだけのゴルフとは違う楽しさや、難しさを体験できる。                  また、社会人になってもコミュニケーションツールとしてゴルフをするための基礎となる。                  ゴルフを通じて、打つ技術だけではなく、人と人のコミュニケーションや社会人としてのルール・マナーを身につける。</p>																																																																		
到達目標	<p>①健康の保持増進ができる                  ②運動技能を向上させることができる                  ③競技ルール、ラウンドマナーを理解することができる                  ④学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：[A]</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>事前ガイダンス（90分）と集中授業4日間（午前、午後、最終日は午後のみ）合わせて5日間で行う。                  5日間すべて受講できること。                  事前の申し込みが受け付けられることが必要。                  申込用紙は履修ガイダンス時に配布。</p>																																																																		
科目学習の効果（資格）	<p>ゴルフを実践する最低限の打球技術、ルール、マナーを習得できる。                  ゴルフを通じて人と人のコミュニケーションを図ることができる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事前ガイダンス</td> <td>目的、内容、準備について ゴルフの概要</td> <td>ゴルフの概要を確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ゴルフの基礎知識</td> <td>ゴルフのルール、マナーについて</td> <td>ルールの再確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ゴルフの基礎技術（1）</td> <td>グリップ、スウィング</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ゴルフの基礎技術（2）</td> <td>打球練習場での練習 アイアン</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ゴルフの基礎技術（3）</td> <td>アプローチ、パター練習</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ゴルフの応用技術（1）</td> <td>打球練習場での練習 ドライバー</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ゴルフの応用技術（2）</td> <td>ミニラウンド</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ゴルフの実践</td> <td>ラウンド（9H）</td> <td>イメージトレーニング</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	ゴルフの概要を確認	2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	ルールの再確認	3	ゴルフの基礎技術（1）	グリップ、スウィング	技術の反復練習	4	ゴルフの基礎技術（2）	打球練習場での練習 アイアン	技術の反復練習	5	ゴルフの基礎技術（3）	アプローチ、パター練習	技術の反復練習	6	ゴルフの応用技術（1）	打球練習場での練習 ドライバー	技術の反復練習	7	ゴルフの応用技術（2）	ミニラウンド	技術の反復練習	8	ゴルフの実践	ラウンド（9H）	イメージトレーニング	9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	ゴルフの概要を確認																																																																
2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	ルールの再確認																																																																
3	ゴルフの基礎技術（1）	グリップ、スウィング	技術の反復練習																																																																
4	ゴルフの基礎技術（2）	打球練習場での練習 アイアン	技術の反復練習																																																																
5	ゴルフの基礎技術（3）	アプローチ、パター練習	技術の反復練習																																																																
6	ゴルフの応用技術（1）	打球練習場での練習 ドライバー	技術の反復練習																																																																
7	ゴルフの応用技術（2）	ミニラウンド	技術の反復練習																																																																
8	ゴルフの実践	ラウンド（9H）	イメージトレーニング																																																																
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ，Ⅱ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	態度点50%、技能点25%および実習ノート25%を総合評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	履修までの質問は、総合体育館のスポーツ振興センター事務室に来てください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館1階 近藤研究室																																																																		
備考	ラウンド時の服装は襟付きポロシャツ、スラックス（半ズボンの場合はハイソックス着用）、運動靴（スパイク類は禁止） ゴルフクラブは大学が用意しますが、ラウンド用のボール、ゴルフ用手袋は各自で用意してください。 雨天でも行いますので、着替えは多めに準備することと、体育館内でも行うことがあるので体育館シューズも用意してください。																																																																		

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	①②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小泉 耕蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

授業概要・目的  
 高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。

到達目標  
 数式の基本的な演算の方法と数学的思考能力を身につける。

授業方法と留意点  
 テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。

科目学習の効果 (資格)  
 問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の間	課題レポート
2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の間	課題レポート
3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の間	課題レポート
4	分数式・無理式 (2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第 2 章の間	課題レポート
5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の間	課題レポート
6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の間	課題レポート
7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の間	課題レポート
8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の間	課題レポート
9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の間	課題レポート
10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の間	課題レポート
11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の間	課題レポート
12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の間	課題レポート
13	場合の数 (2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第 5 章の間	課題レポート
14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の間	課題レポート
15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の間	課題レポート

関連科目  
 数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)  
 演習、小テストで 30 パーセント及び期末テストで 70 パーセントで評価する。

学生へのメッセージ  
 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。

担当者の研究室等  
 3 号館 3 階 (数学準備室)

備考

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	③④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早味 俊夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第1章の問 課題レポート
	2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第1章の問 課題レポート
	3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第2章の問 課題レポート
	4	分数式・無理式(2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第2章の問 課題レポート
	5	1次方程式(1)	・等式の基本法則	第3章の問 課題レポート
	6	1次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第3章の問 課題レポート
	7	1次不等式(1)	・不等式の基本法則	第3章の問 課題レポート
	8	1次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第3章の問 課題レポート
	9	連立1次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第4章の問 課題レポート
	10	連立1次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第4章の問 課題レポート
	11	連立1次方程式(3)	・消去法	第4章の問 課題レポート
	12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第5章の問 課題レポート
	13	場合の数(2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第5章の問 課題レポート
	14	確率(1)	・確率の計算	第6章の問 課題レポート
	15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第6章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	演習 (30%)・期末テスト (70%) で評価する。
-----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	⑤⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	妻鳥 淳彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。																																																																		
到達目標	経済学・経営学を学ぶために必要な数学的計算ができること、具体的にはいろいろな場合の数の求め方を理解し、確率の計算ができること、その計算に必要な整式・方程式の計算を身につけることを到達目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>整式の計算(1)</td> <td>・計算の法則 ・因数分解</td> <td>第1章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>整式の計算(2)</td> <td>・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理</td> <td>第1章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>分数式・無理式(1)</td> <td>・通分の規則</td> <td>第2章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>分数式・無理式(2)</td> <td>・平方根, 立方根 ・有理化の計算</td> <td>第2章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1次方程式(1)</td> <td>・等式の基本法則</td> <td>第3章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1次方程式(2)</td> <td>・方程式の導き方 ・解き方</td> <td>第3章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>1次不等式(1)</td> <td>・不等式の基本法則</td> <td>第3章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1次不等式(2)</td> <td>・不等式の導き方 ・解き方</td> <td>第3章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連立1次方程式(1)</td> <td>・連立方程式の導き方</td> <td>第4章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連立1次方程式(2)</td> <td>・解き方 ・基本法則</td> <td>第4章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>連立1次方程式(3)</td> <td>・消去法</td> <td>第4章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>場合の数(1)</td> <td>・数え上げの原則</td> <td>第5章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>場合の数(2)</td> <td>・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ</td> <td>第5章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>確率(1)</td> <td>・確率の計算</td> <td>第6章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>確率(2)</td> <td>・くりかえす試行の確率</td> <td>第6章の間 課題レポート</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第1章の間 課題レポート	2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第1章の間 課題レポート	3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第2章の間 課題レポート	4	分数式・無理式(2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第2章の間 課題レポート	5	1次方程式(1)	・等式の基本法則	第3章の間 課題レポート	6	1次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第3章の間 課題レポート	7	1次不等式(1)	・不等式の基本法則	第3章の間 課題レポート	8	1次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第3章の間 課題レポート	9	連立1次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第4章の間 課題レポート	10	連立1次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第4章の間 課題レポート	11	連立1次方程式(3)	・消去法	第4章の間 課題レポート	12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第5章の間 課題レポート	13	場合の数(2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第5章の間 課題レポート	14	確率(1)	・確率の計算	第6章の間 課題レポート	15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第6章の間 課題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第1章の間 課題レポート																																																																
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第1章の間 課題レポート																																																																
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第2章の間 課題レポート																																																																
4	分数式・無理式(2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第2章の間 課題レポート																																																																
5	1次方程式(1)	・等式の基本法則	第3章の間 課題レポート																																																																
6	1次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第3章の間 課題レポート																																																																
7	1次不等式(1)	・不等式の基本法則	第3章の間 課題レポート																																																																
8	1次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第3章の間 課題レポート																																																																
9	連立1次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第4章の間 課題レポート																																																																
10	連立1次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第4章の間 課題レポート																																																																
11	連立1次方程式(3)	・消去法	第4章の間 課題レポート																																																																
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第5章の間 課題レポート																																																																
13	場合の数(2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第5章の間 課題レポート																																																																
14	確率(1)	・確率の計算	第6章の間 課題レポート																																																																
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第6章の間 課題レポート																																																																
関連科目	数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>数学基礎</td> <td>摂南大学数学研究室編</td> <td>学術図書出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	数学基礎	摂南大学数学研究室編	学術図書出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	数学基礎	摂南大学数学研究室編	学術図書出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	期末試験(70%), 小テスト及び演習(30%)の割合で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分が授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。																																																																		
担当者の研究室等備考	3号館3階(数学準備室)																																																																		

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	①②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小泉 耕蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	この授業では、1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられることを目標にする。
到達目標	関数の変化の様子を数式から理解し図示できること。 数列の基本的取り扱いができること。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標の表し方	第7章の問 課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き, 切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点, 対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値, 最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数, 接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値, 極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加, 減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値, 最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・面積, 体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	演習、小テストで30パーセント及び期末テストで70パーセントで評価する。
----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	3号館3階(数学準備室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	③④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 俊太郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的  
高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。

到達目標  
1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられるようになる。

授業方法と留意点  
テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。

科目学習の効果(資格)  
数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の間 課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の間 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の間 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の間 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の間 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の間 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の間 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線	第9章の間 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値、極小値	第9章の間 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の間 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の間 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の間 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の間 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の間 課題レポート
15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の間 課題レポート

関連科目  
数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)  
演習(30%)・期末テスト(70%)で評価する。

学生へのメッセージ  
数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等  
3号館3階 数学研究室

備考

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑤⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	妻鳥 淳彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	この授業では、1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、整関数の微分・積分を学習する。微積分学の基本定理による定積分の計算方法を学び、経済系科目に必要な統計の計算ができるようになることを目的としている。
到達目標	関数の概念および微分・積分の考え方を理解したうえで、基礎的な定積分の計算ができることを到達目標とする。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・ 面の表し方	第7章の問課題レポート
2	1次関数	・ グラフの書き方 ・ 傾き, 切片	第7章の問課題レポート
3	2次関数(1)	・ グラフの書き方 ・ 頂点, 対称軸	第7章の問課題レポート
4	2次関数(2)	・ 最大値, 最小値 ・ 応用例	第7章の問課題レポート
5	無理関数	・ 逆関数 ・ 定義域	第7章の問課題レポート
6	数列(1)	・ 等差数列 ・ 和の公式	第8章の問課題レポート
7	数列(2)	・ 等比数列 ・ 和の公式	第8章の問課題レポート
8	整関数の微分(1)	・ 変化率 ・ 微分係数, 接線	第9章の問課題レポート
9	整関数の微分(2)	・ 導関数 ・ 極大値, 極小値	第9章の問課題レポート
10	整関数の微分(3)	・ 関数の増加, 減少 ・ 関数のグラフ	第9章の問課題レポート
11	整関数の微分(4)	・ 最大値, 最小値 ・ 応用問題	第9章の問課題レポート
12	積分(1)	・ 不定積分 ・ 原始関数	第10章の問課題レポート
13	積分(2)	・ 区分求積法 ・ 定積分	第10章の問課題レポート
14	積分(3)	・ 微積分の基本定理 ・ 定積分の計算	第10章の問課題レポート
15	積分(4)	・ 面積, 体積 ・ 応用問題	第10章の問課題レポート

関連科目 数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学研究室編	学術図書出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 期末試験(70%), 小テスト及び演習(30%)の割合で評価する。

学生へのメッセージ どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等 3号館3階(数学準備室)

備考

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practice of Sports Science I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 潤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。																																																																		
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う(雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある)。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目(サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど)  ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)</td> <td>ルールの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>体力測定①</td> <td>屋外種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>体力測定②</td> <td>体育館種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>種目の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>ルールの解説、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>攻防技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>攻防技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解	2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価	3	体力測定②	体育館種目	測定記録評価	4	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解																																																																
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価																																																																
3	体力測定②	体育館種目	測定記録評価																																																																
4	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来ること。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)																																																																		



科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Practice of Sports Science II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 潤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。																																																																		
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目(サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど)  ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)</td> <td>ルールの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各コース別実技</td> <td>種目の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>各コース別実技</td> <td>ルールの解説、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>攻防技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>攻防技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解	2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ	4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解																																																																
2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来ること。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)																																																																		

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	復習
	7	話し方1	話題の換え方	復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	復習
	9	話し方3	話の広げ方	復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	専門日本語F II	科目名(英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果(資格)	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	ビジネス日本語1 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	復習・課題
3	ビジネス日本語2 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	復習・課題
4	ビジネス日本語3 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	復習・課題
5	ビジネス日本語4 読む	速読、精読 内容理解	復習・課題
6	ビジネス日本語5 読む	速読、精読 内容理解	復習・課題
7	ビジネス日本語6 書く	ビジネス文書の書き方	復習・課題
8	ビジネス日本語7 書く	Eメールの書き方	復習・課題
9	ビジネス日本語8	履歴書の書き方	復習・課題
10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	復習・課題
11	日本の会社1	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	復習・課題
12	日本の会社2	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	復習・課題
13	日本の会社3	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	復習・課題
14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	復習
15	総復習・確認テスト	総復習	復習

関連科目	専門日本語F I
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業の参加度(10%)、課題(30%)、テスト(60%)により総合的に判断する。
----------	--

学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。(事前・事後学習1時間)
-----------	------------------------------------

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
----------	--------------

備考	授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがあります。
----	---------------------------------------

科目名	専門日本語R	科目名(英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	復習
	7	話し方1	話題の換え方	復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	復習
	9	話し方3	話の広げ方	復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	--

科目名	中国語を聞く a	科目名 (英文)	Chinese Listening a
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	前年度に学んだ中国語を基礎に、読む・聴く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験4級レベルに達することを旨とする。
到達目標	中国での買い物や移動に困らないレベルの聞く力、話す力を身につける。
授業方法と留意点	日本語訳を見て中国語を話す練習もする。毎回予習と復習を必ず行ってください。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第一課 自我介绍 (1) 本文・文法	1. 念書 2. 専業 3. 愛好 4. 対～感興趣	課文、会話本文をノートに書き写しておく。
2	第一課 自我介绍 (2) 会話・練習問題	5. 為什麼 6. 因為～所以～ 7. 看来	授業までに練習問題を解答しておく。
3	第二課 我的家庭 (1) 本文・文法	1. 在～長大的 2. 考大学/考上大学 3. 才 4. 除了～以外	課文、会話本文をノートに書き写しておく。
4	第二課 我的家庭 (2) 会話・練習問題	5. 当 (老師) 6. 忙得要命 7. 很少+動詞フレーズ 8. 發短信	授業までに練習問題を解答しておく。
5	第1回単元テスト	第一課・第二課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。
6	第三課 我的一天 (1) 本文・文法	1. 上 (廁所) 2. 「一節」と「第一節」 3. 「分」と「分鐘」 4. 我家離學校比較遠。 5. 一个多小时	課文、会話本文をノートに書き写しておく。
7	第三課 我的一天 (2) 会話・練習問題	6. 我在減肥。 7. 看看電視，聽聽音樂。 8. 我起得很早，睡得不太晚。 9. 雖然～，但是～	授業までに練習問題を解答しておく。
8	第四課 請假 (1) 本文・文法	1. 如果～的話 2. 請假 3. 前置詞「向」 4. 請	課文、会話本文をノートに書き写しておく。
9	第四課 請假 (2) 会話・練習問題	5. 別 6. 前置詞「對」 7. 替	授業までに練習問題を解答しておく。
10	第2回単元テスト	第三課・第四課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。
11	第五課 約會 (1) 本文・文法	1. 叫你久等了 2. 星期六還是星期天? 3. 你看几点合適?	課文、会話本文をノートに書き写しておく。
12	第五課 約會 (2) 会話・練習問題	4. 那就星期天? 5. 反正我沒什麼事兒。	授業までに練習問題を解答しておく。
13	第六課 快要考試了 (1) 本文・文法	1. 今年夏天比往年來得早 2. 熱起來	課文、会話本文をノートに書き写しておく。
14	第六課 快要考試了 (2) 会話・練習問題	3. 一放假，就動身 4. 趁	授業までに練習問題を解答しておく。
15	第3回単元テスト	第五課・第六課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。

関連科目	「中国語を話す a」
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語中級	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	継続は力なり。事前・事後の学習に各60分要する。
-----------	--------------------------

担当者の研究室等	7号館3階 小都研究室
----------	-------------

備考	一年生の「ビジネス中国語基礎 a c」あるいは「ビジネス中国語基礎 b d」を履修したうえ、「中国語を聞く a」を履修するのが望ましい。
----	--

科目名	中国語を聞く b	科目名 (英文)	Chinese Listening b
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的  
前期の「中国語を聞く a」に続き、読む・聴く・話す・書く—四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験 4 級レベルに達することを旨とする。

到達目標  
「中国語を聞く a」で学んだ事項を定着させるとともに発展させ、比較的優しい新聞記事などを辞書を使って読めるレベルを目指す。

授業方法と留意点  
日本語を見て中国語を話す練習もする。事前・事後の学習に各 60 分要する。

科目学習の効果 (資格)  
中国語検定試験 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第七課 中国の大学生活 (2) 会話・練習問題	5 一邊～, 一邊～ 6 当家教 7 由 8 面臨着	授業までに練習問題を解答しておく。
3	第八課 中国菜 (1) 本文・文法	1 根据～不同, ～也不一样 2 以～為主 3 雖然～, 但是～	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
4	第八課 中国菜 (2) 会話・練習問題	4 愛+動詞 5 一提到～, 就～ 6 即	授業までに練習問題を解答しておく。
5	第 1 回単元テスト(筆記と口頭)	第七課・第八課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙, 文法項目を確認しておく。
6	第九課 中国的人口 (1) 本文・文法	1 也就是說 2 使 3 每+数量詞	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
7	第九課 中国的人口 (2) 会話・練習問題	4 動詞+起來 5 可是～, 却～ 6 尽管～, 但是～	授業までに練習問題を解答しておく。
8	第十課 中国的家庭 (1) 本文・文法	1 誰～誰～ 2 帰 3 在～上	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
9	第十課 中国的家庭 (2) 会話・練習問題	4 把 5 看来	授業までに練習問題を解答しておく。
10	第 2 回単元テスト(筆記と口頭)	第九課・第十課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙, 文法項目を確認しておく。
11	第十一課 中国人的交際 (1) 本文・文法	1 可見 2 誰也不白吃 3 彼	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
12	第十一課 中国人的交際 (2) 会話・練習問題	4 即使～, 也～ 5 等 6 該我了	授業までに練習問題を解答しておく。
13	第十二課 漢語的外來語 (1) 本文・文法	1 譯自 2 動詞+到	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
14	第十二課 漢語的外來語 (2) 会話・練習問題	3 動詞+成 4 对～來說	授業までに練習問題を解答しておく。
15	第 3 回単元テスト(筆記と口頭)	第十一課・第十二課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙, 文法項目を確認しておく。

関連科目  
「中国語を話す b」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語中級	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2			
3			

評価方法 (基準)  
授業への参加度と小テスト: 30%  
単元テスト: 70%

学生へのメッセージ  
継続は力なり。予習と復習の学習に 1 時間ずつ要する。

担当者の研究室等  
7 号館 3 階 小都研究室

備考  
「中国語を聞く a」を履修したうえ、「中国語を聞く b」を履修するのが望ましい。

科目名	中国語を話す a	科目名 (英文)	Chinese Speaking a
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	基礎的な文法・文型及びビジネス用の語彙を学ぶ。また、即戦力となるよう、基本文型を使ったビジネス中国語会話の練習を行う。
到達目標	出張先での宿泊や両替などの日常会話と、会議や商談などビジネスでよく使われるフレーズを学習し、きれいな発音と表現力を鍛える。
授業方法と留意点	中国語を「話す」、「使う」ことを重視する。大体、前の週に新しい文法と語彙を習い、次の週に完全に覚えるように指導する。毎回、単語小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	会話「中国の税関にて」を練習する	会話を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第1課の会話を覚える。 授業後、練習問題 p.8～p.10 を解答する。
3	第2課の文法 ・前置詞「把」 ・結果補語 第2課会話「ホテルに泊まる」	教員の説明を理解し、日本語や英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第2課の単語を覚える。 授業後、p.16～p.17の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
4	会話「ホテルに泊まる」を練習する	会話を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第2課の会話を覚える。 授業後、練習問題 p.18～p.20 を解答する。
5	第3課の文法 ・助動詞「得」 ・存在を表す「有」 ・文型「不但…而且…」 第3課会話「部屋でのインターネット」	教員の説明を理解し、日本語や英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第3課の単語を覚える。 授業後、p.25～p.26の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
6	会話「部屋でのインターネット」を練習する	会話を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第3課の会話を覚える。 授業後、練習問題 p.27～p.29 を解答する。
7	復習チェックシート1 会話練習	第1～3課の既習語彙、文法や語順、基本文型を復習する。	事前に「復習チェックシート1」を解答する。 授業後、p.30～p.34の練習問題に出ている文や文法などを覚えているかどうか再度確認する。
8	単元テスト1 第5課の文法 ・値段の言い方 ・文型「是…還是…」 ・方位連語「名詞+上」 第5課会話「両替」	教員の説明を理解し、日本語や英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第5課の単語を覚える。 授業後、p.39～p.40の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
9	会話「両替」を練習する	会話を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第5課の会話を覚える。 授業後、練習問題 p.40～p.43 を解答する。
10	第6課の文法 ・「一下」の使い方 ・構造助詞「得」と程度補語 第6課会話「スケジュール」	教員の説明を理解し、日本語や英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第6課の単語を覚える。 授業後、p.49～p.50の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
11	会話「スケジュール」を練習する	会話を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第6課の会話を覚える。 授業後、練習問題 p.50～p.52 を解答する。
12	第7課の文法 ・不定を表す疑問詞の使い方 ・使役文 ・「請」の使い方 第7課会話「取引先の方と面談する」	英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第7課の単語を覚える。 授業後、p.57～p.58の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
13	会話「取引先の方と面談する」を練習する	会話を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第7課の会話を覚える。 授業後、練習問題 p.58～p.61 を解答する。
14	復習チェックシート2 会話練習	第5～7課の既習語彙、文法や語順、基本文型を復習する。	事前に「復習チェックシート2」を解答する。 授業後、p.62～p.66の練習問題に出ている文や文法などを覚えているかどうか再度確認する。
15	単元テスト2 第9課の文法 ・文末助詞「？」 ・文型「…就…」 第9課会話「取引先の方と面談する」	英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第9課の単語を覚える。 授業後、p.71～p.73の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。

関連科目	「中国語を聞く a」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	摂南大学 中国語を話す	摂南大学外国語学部	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト40%、単元テスト60%で評価する。			
学生への メッセージ	口から自然と中国語が出てくるように、頑張りましょう。事前・事後学習に1時間ずつ要します。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室(7号館2階)			
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			



科目名	中国語を話す b	科目名 (英文)	Chinese Speaking b
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

授業概要・目的	基礎的な文法・文型及びビジネス用の語彙を学ぶ。また、即戦力となるよう、基本文型を使ったビジネス中国語会話の練習を行う。
到達目標	出張先での宿泊や両替などの日常会話と、会議や商談などビジネスでよく使われるフレーズを学習し、きれいな発音と表現力を鍛える。
授業方法と留意点	中国語を「話す」、「使う」ことを重視する。大体、前の週に新しい文法と語彙を習い、次の週に完全に覚えるように指導する。毎回、単語小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第10課の文法 ・前置詞「向」 ・文型「無論…還是…」 第10課会話「工場を視察する」	教員の説明を理解し、日本語や英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第10課の単語を覚える。 授業後、p.80～p.82の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
3	会話「工場を視察する」を練習する。	会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第10課の会話文を覚える。 授業後、練習問題 p.82～p.84 を解答する。
4	第11課の文法 ・文型「一方面…一方…」 ・前置詞「対」 ・副詞「再」 第11課会話「商談」	英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第11課の単語を覚える。 授業後、p.89～p.90の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
5	会話「商談」を練習する	会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第11課の会話文を覚える。 授業後、練習問題 p.90～p.92 を解答する。
6	復習チェックシート3 会話練習	第9～11課の既習語彙、文法や語順、基本文型を復習する。	事前に、「チェックシート3」を解答する。 授業後、p.93～p.98の練習問題に出ている文や文法などを覚えているかどうか再度確認する。
7	単元テスト1 第13課の文法 ・助詞「過」 ・文型「如果…的話」 第13課会話「価格の交渉」	教員の説明を理解し、日本語や英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第13課の単語を覚える。 授業後、p.102～p.104の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
8	会話「価格の交渉」を練習する	会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第13課の会話文を覚える。 授業後、練習問題 p.104～p.106 を解答する。
9	第14課の文法 ・文型「太…了」 第14課会話「歓迎会」	教員の説明を理解し、日本語や英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第14課の単語を覚える。 授業後、p.110～p.112の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
10	会話「歓迎会」を練習する	会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第14課の会話文を覚える。 授業後、練習問題 p.112～p.115 を解答する。
11	第15課の文法 ・前置詞「由」 ・前置詞「為」 第15課会話「挨拶する」	英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第15課の単語を覚える。 授業後、p.121～p.123の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
12	会話「挨拶する」を練習する	会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第15課の会話文を覚える。 授業後、練習問題 p.123～p.126 を解答する。
13	第16課の文法 ・文型「快…了」 ・文型「有…形容词」 第16課会話「万里の長城を遊覧する」	英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第16課の単語を覚える。 授業後、p.131～p.132の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
14	復習チェックシート4	第13～16課の既習語彙、文法や語順、基本文型を復習する。	事前に、「復習チェックシート4」を解答する。 授業後、練習問題 p.132～p.134 を解答する
15	単元テスト2 会話「万里の長城を遊覧する」を練習する	会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、「第16課の会話文を覚える。 授業後、p.135～p.140の練習問題に出ている文や文法を覚えているかどうか再度確認する。

関連科目 「中国語を聞く b」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	撰南大学	中国語を話す	撰南大学外国語学部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典	第3版	北京商務印書館・小学館
2				

	3		
評価方法 (基準)	小テスト 40%、単元テスト 60%で評価する。		
学生への メッセージ	口から自然と中国語が出てくるように、頑張りましょう。事前・事後学習に1時間ずつ要します。		
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館 2階)		
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」		

科目名	日本語会話F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科：A〇,A科：C〇,M科：B2〇,E科：F〇,C科：Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科：DP1〇,DP7△,DP8△,D科：DP1〇,S科：DP1〇,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1〇,W科：DP1〇,DP7〇,N科：DP1〇,DP8△N：DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	復習
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	復習
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	復習
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	復習
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	復習
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	復習
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成(残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	復習	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	国際交流センター(3号館4階)
----------	-----------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	--------------------

科目名	日本語会話F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー (DP)	V科：III〇, IV〇, R科：A〇, A科：C〇, M科：B2〇, E科：F〇, C科：III〇, VI〇, L科：DP1〇, DP7△, DP8△, D科：DP1〇, S科：DP1〇, P科：DP2△, DP4△, J科：DP1〇, W科：DP1〇, DP7〇, N科：DP1〇, DP8△N：DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本・国際社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	社会的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまな問題・話題に関するニュース等を見て、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>学生持ち寄りのトピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>学生持ち寄りのトピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>学生持ち寄りのトピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>学生持ち寄りのトピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>学生持ち寄りのトピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>学生持ち寄りのトピック⑥</td><td>議論</td><td>自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集</td></tr> <tr><td>14</td><td>発表準備</td><td>自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する</td><td>発表練習</td></tr> <tr><td>15</td><td>発表</td><td>口頭発表 質疑応答 振り返り</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	トピック⑦	議論	復習	8	学生持ち寄りのトピック①	議論	復習	9	学生持ち寄りのトピック②	議論	復習	10	学生持ち寄りのトピック③	議論	復習	11	学生持ち寄りのトピック④	議論	復習	12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	復習	13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集	14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する	発表練習	15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	トピック⑦	議論	復習																																																																
8	学生持ち寄りのトピック①	議論	復習																																																																
9	学生持ち寄りのトピック②	議論	復習																																																																
10	学生持ち寄りのトピック③	議論	復習																																																																
11	学生持ち寄りのトピック④	議論	復習																																																																
12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	復習																																																																
13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集																																																																
14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する	発表練習																																																																
15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	国際交流センター (3号館4階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語会話R	科目名(英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本・国際社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	社会的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまな問題・話題に関するニュース等を見て、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>学生持ち寄りのトピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>学生持ち寄りのトピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>学生持ち寄りのトピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>学生持ち寄りのトピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>学生持ち寄りのトピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>学生持ち寄りのトピック⑥</td><td>議論</td><td>自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集</td></tr> <tr><td>14</td><td>発表準備</td><td>自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する</td><td>発表練習</td></tr> <tr><td>15</td><td>発表</td><td>口頭発表 質疑応答 振り返り</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	トピック⑦	議論	復習	8	学生持ち寄りのトピック①	議論	復習	9	学生持ち寄りのトピック②	議論	復習	10	学生持ち寄りのトピック③	議論	復習	11	学生持ち寄りのトピック④	議論	復習	12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	復習	13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集	14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する	発表練習	15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	トピック⑦	議論	復習																																																																
8	学生持ち寄りのトピック①	議論	復習																																																																
9	学生持ち寄りのトピック②	議論	復習																																																																
10	学生持ち寄りのトピック③	議論	復習																																																																
11	学生持ち寄りのトピック④	議論	復習																																																																
12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	復習																																																																
13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集																																																																
14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する	発表練習																																																																
15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	国際交流センター(3号館4階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP7〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る                  ②まとまった内容の文章の大意を把握する                  ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する (N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キーワード・キーセンテンスを探す</li> <li>2. 接続詞に注意する</li> <li>3. テキストの流れに注意する</li> <li>4. 予測して読む</li> <li>5. テキストをまとめる</li> </ol>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。</li> <li>・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。</li> <li>・その成果を専門の文章の読解に応用する。</li> </ul> <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す (1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す (2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む (1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む (2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む (1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む (2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む (1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む (2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法 (基準)	<p>定期試験を実施 (試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室 (7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室 (7号館2階) またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p> <p>事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>																																																																		

科目名	日本語総合FⅡ	科目名(英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP7〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る                  ②まとまった内容の文章の大意を把握する                  ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キーワード・キーセンテンスを探す</li> <li>2. 接続詞に注意する</li> <li>3. テキストの流れに注意する</li> <li>4. 予測して読む</li> <li>5. テキストをまとめる</li> </ol>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。</li> <li>・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。</li> <li>・その成果を専門の文章の読解に応用する。</li> </ul> <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめN1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめN1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめN1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p> <p>事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>																																																																		

科目名	日本語総合R	科目名(英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る                  ②まとまった内容の文章の大意を把握する                  ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キーワード・キーセンテンスを探す</li> <li>2. 接続詞に注意する</li> <li>3. テキストの流れに注意する</li> <li>4. 予測して読む</li> <li>5. テキストをまとめる</li> </ol>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。</li> <li>・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。</li> <li>・その成果を専門の文章の読解に応用する。</li> </ul> <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめN1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめN1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめN1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p> <p>事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>																																																																		



科目名	日本語読解F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科：A〇,A科：C〇,M科：B2〇,E科：F〇,C科：Ⅲ〇,Ⅵ〇,Ⅷ科：DP1〇,DP7△,DP8△,D科：DP1〇,S科：DP1〇,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1〇,DP8〇,W科：DP1〇,DP7〇,N科：DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解F II
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</li> <li>(2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</li> <li>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</li> </ul>
----	---

科目名	日本語読解F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。</li> <li>・ 語彙力をつける。</li> <li>・ 一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・ 語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。</li> </ul>

科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく
--------------	--------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	統計と数字①	読解、内容理解	復習
	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	4	背理法①	読解、内容理解	復習
	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習
	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	ついでに何をする?①	読解、内容理解	復習
	9	ついでに何をする?②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	10	ウイルス発見!①	読解、内容理解	復習
	11	ウイルス発見!②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習
	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解F I
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</li> <li>(2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</li> <li>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</li> </ul>
----	---

科目名	日本語読解R	科目名(英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>
----	--

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科：Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科：A〇,A科：C〇,M科：B2〇,E科：F〇,C科：Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科：DP1〇,DP7△,DP8△,D科：DP1〇,S科：DP1〇,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1〇,DP8〇,W科：DP1〇,DP7〇,N科：DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・読んだ内容を要約できる。</li> <li>・段落分けして書ける。</li> <li>・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。</li> </ul>
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文F II
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>
----	---

科目名	日本語表現作文F II	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1○, DP7△, DP8△, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, DP8○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・レポート・論文の書き方を守って書ける。</li> <li>・アウトラインに沿って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集められる。</li> </ul>
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。
科目学習の効果 (資格)	レポートが書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習
	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習
	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習
	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める
	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習
	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習
	7	序論①	序論の内容と書き方 (課題、目的の提示) を学ぶ	復習
	8	序論②	序論を書く	復習
	9	本論①	本論の内容と書き方 (データ、意見提示) を学ぶ	復習
	10	本論②	本論の内容と書き方 (考察、結論提示) を学ぶ	復習
	11	本論③	本論を書く	復習
	12	結論①	結論の内容と書き方 (全体のまとめ、今後の課題) を学ぶ	復習
	13	結論②	結論を書く	復習
	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習
	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習

関連科目	日本語表現作文F I
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、レポート (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう!
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>
----	--

科目名	日本語表現作文R	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・読んだ内容を要約できる。</li> <li>・段落分けして書ける。</li> <li>・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。</li> </ul>
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果(資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文FII
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>
----	---

科目名	日本語表現法 I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
	13	資料収集の方法 フィードバック	文献の検索について学ぶ 課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
	14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する
	15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 2階（非常勤講師室）
----------	----------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回 1 時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	日本語表現法 I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	E F G H
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島 誠司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
12	レポートの書き方 1	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
13	レポートの書き方 2 フィードバック 1	レポート作成の補足 課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
14	フィードバック 2 資料収集の方法	課題 2 のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポート計 3 回の提出は必須。場合によっては再提出も求める。このうち 1 回でも提出がないと単位認定はできないので注意してください。
----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。  ※授業中は教員を含む他人に迷惑をかける行為はやめてください。たとえば、私語や携帯電話は厳禁、寝るなどというのはもつてのほかです。真面目に学ぼうとする人の学習権を侵害する行為はやめてください。注意してもやめない場合はそれなりの措置をとることがあります。他人に迷惑をかけない、という最低限の大人のマナーは守ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室） 学習支援センター
----------	------------------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--



科目名	日本語表現法 I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	J K L M
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高嶋 藍
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成と要約	レポートなどの文章構成を学ぶ 要旨の要約の作成方法を学ぶ	これまでの復習
6	フィードバック 要約の復習	課題 1 のフィードバック 要約の復習をする	課題 1 を見直す
7	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
8	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
12	レポートの書き方 1	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
13	レポートの書き方 2 フィードバック 1	レポート作成の補足 課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
14	フィードバック 2 資料収集の方法	課題 2 のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	日本語表現法Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	9	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	10	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	11	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	12	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告するをする	報告文の準備
	14	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	日本語表現法Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	EFGH
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 行雄
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
2	レポートの書き方①	資料の引用と考察、意見の述べ方を再確認する	前回の復習
3	レポートの書き方②	レポートの構成について再確認する	前回の復習
4	課題①	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
5	敬意表現①	敬語表現の基本を確認する	前回の復習
6	敬意表現②	尊敬語と謙譲語の使い分けを身につける	前回の復習
7	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	前回の復習
8	ディスカッション①	グループ分けとディスカッションを行う	前回の復習 テーマの下調べ
9	ディスカッション②	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
10	プレゼンテーション①	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
11	プレゼンテーション②	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
12	課題②	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
13	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
14	復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習
15	授業の総括	これまでの授業の再確認	これまでの授業の復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	課題(60%)、授業への取り組みなど(40%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくり向き合ってみましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	日本語表現法Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	J K L M
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高嶋 藍
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前で適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方	授業の目的、進め方の説明 レポートの構成、資料の引用の仕方を学ぶ	———
2	レポートの書き方	資料引用の復習 考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	前回の復習
5	手紙の書き方 敬語の復習	手紙の書き方を学ぶ 敬語の復習をする	前回の復習
6	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
7	課題1のフィードバック (1) ディスカッションの準備	課題1のフィードバック ディスカッション用資料の要約などを行う	ディスカッションの準備
8	課題1のフィードバック (2) ディスカッション(1)	課題1のフィードバック グループ分けをして、ディスカッションをする	ディスカッションの準備
9	課題2のフィードバック (1) ディスカッション(2)	課題2のフィードバック ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
10	課題2のフィードバック (2) ディスカッション(3)	課題2のフィードバック ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
11	プレゼンテーション(1)	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
12	プレゼンテーション(2)	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告分の準備
14	敬語の復習	ロールプレイング形式で、敬語を使った会話の練習をする。	敬語の復習
15	小テストの復習テスト 電子メール	小テストの復習テスト 電子メールのマナーと書き方を学ぶ	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を開いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	復習
	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	復習
	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	復習
	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	復習
	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	復習
	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	復習
	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	復習
	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	復習
	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	復習
	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	復習
	13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	復習
	14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語文法F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を開いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法F I、日本語読解F II
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語文法R	科目名(英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果(資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
	8	ついでに何をする?①	文法項目の解説と練習	復習
	9	ついでに何をする?②	文法項目の解説と練習	復習
	10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	復習
	11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法FⅠ、日本語読解FⅡ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅野 将之
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP7〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	年中行事やしきたりなど日常生活に見られる日本の伝統文化から、日本人の価値観や考え方について、体験もまじえながら考察します。
到達目標	日本の年中行事やしきたりについて理解を深めます。 考察したことや体験を通して学んだことを日本語で表現する力を身に着けます。 日本文化・社会と自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できる力を身に着けます。
授業方法と留意点	授業担当者が用意した自作のスライドやプリントに沿って、テーマについて学び、講義後に理解度の確認小テストを受けます。その後、クラス全体でフィードバックを行います。体験で学んだことは、レポートを作成しほかの受講生たちと意見交換を行います。
科目学習の効果 (資格)	異文化理解を深めます。 異文化に対する柔軟な見方、態度を養います。 日本語の表現能力 (技術) を高めることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	造幣局のさくらの通り抜けを体験しよう
2	花見	講義、小テスト	「茶道」に関するアンケート
3	茶道①	講義、小テスト	DVD (茶道) を視聴
4	茶道②	茶道体験	体験レポート
5	茶道③	体験レポート (茶道) の要約と意見交換 日本語での口頭発表の練習	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における子どもの祝い事に関する行事について
6	冠婚葬祭① —成人式、子どもの祝い事—	口頭発表 講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における結婚式 (婚礼) について
7	冠婚葬祭② —結婚式編—	口頭発表 講義 招待状の返信を書く練習 ロールプレイ 袱紗と祝儀の包み方、渡し方	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における葬式、法事について
8	冠婚葬祭③ —葬式編—	口頭発表、 講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における贈答文化について
9	日本の贈答文化 —中元/歳暮—	口頭発表、 講義、小テスト	「社寺」に関するアンケート
10	日本の贈答文化 —風呂敷に学ぶ—	「折る・包む・結ぶ」の体験、小テスト	体験レポート
11	神社と寺	講義、小テスト 神社参拝	体験レポート
12	七夕	講義、小テスト 七夕飾りを作ろう	レポート テーマ: 出身国、地域における信仰、祈願について
13	盆踊りに向けて① —盆と盆踊り—	講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ①: 出身国、地域における伝統服飾文化 (民族衣装) について テーマ②: 出身国、地域における伝統舞踊について
14	盆踊りに向けて② —着物—	口頭発表 講義、小テスト	「盆踊り」に関するアンケート
15	盆踊り体験をしよう	摂大国際盆踊り講習会 (浴衣、盆踊り体験)	体験レポート

関連科目	日本語文字・語彙、日本語アカデミックライティング
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学で学ぶための日本語ライティング	藤尾 喜代子, 佐々木 瑞枝, 細井 和代	The Japan Times
	2	知っておきたい日本の年中行事辞典	福田 アジオ, 山崎 祐子 常光徹, 福原 敏男, 菊池 健策	吉川弘文館
	3	Hiragana Times		ヤック企画

評価方法 (基準)	発表 (20%)、レポート (30%)、授業への参加度 (20%)、小テスト (30%)
学生へのメッセージ	実際に体験を楽しみながら日本の文化・社会について学びましょう! また、伝統行事から日本人の価値観や考え方には、どんな秘密があるのか発見してみましょう。
担当者の研究室等	国際交流センター教員控室 (3号館4階)
備考	事前事後学習時間の目安は計60時間。



科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP7〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	各課題 (10%) 及び授業への参加度 (10%)、レポート (80%) により総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は約2時間ずつ。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅野 将之
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	年中行事やしきたりなど日常生活に見られる日本の伝統文化から、日本人の価値観や考え方について、体験もまじえながら考察します。
到達目標	日本の年中行事やしきたりについて理解を深めます。 考察したことや体験を通して学んだことを日本語で表現する力を身に着けます。 日本文化・社会と自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できる力を身に着けます。
授業方法と留意点	授業担当者が用意した自作のスライドやプリントに沿って、テーマについて学び、講義後に理解度の確認小テストを受けます。その後、クラス全体でフィードバックを行います。体験で学んだことは、レポートを作成しほかの受講生たちと意見交換を行います。
科目学習の効果 (資格)	異文化理解を深めます。 異文化に対する柔軟な見方、態度を養います。 日本語の表現能力 (技術) を高めることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	造幣局のさくらの通り抜けを体験しよう
2	花見	講義、小テスト	「茶道」に関するアンケート
3	茶道①	講義、小テスト	DVD (茶道) を視聴
4	茶道②	茶道体験	体験レポート
5	茶道③	体験レポート (茶道) の要約と意見交換 日本語での口頭発表の練習	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における子どもの祝い事に関する行事について
6	冠婚葬祭① —成人式、子どもの祝い事—	口頭発表 講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における結婚式 (婚礼) について
7	冠婚葬祭② —結婚式編—	口頭発表 講義 招待状の返信を書く練習 ロールプレイ 袱紗と祝儀の包み方、渡し方	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における葬式、法事について
8	冠婚葬祭③ —葬式編—	口頭発表、 講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における贈答文化について
9	日本の贈答文化 —中元/歳暮—	口頭発表、 講義、小テスト	「社寺」に関するアンケート
10	日本の贈答文化 —風呂敷に学ぶ—	「折る・包む・結ぶ」の体験、小テスト	体験レポート
11	神社と寺	講義、小テスト 神社参拝	体験レポート
12	七夕	講義、小テスト 七夕飾りを作ろう	レポート テーマ: 出身国、地域における信仰、祈願について
13	盆踊りに向けて① —盆と盆踊り—	講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ①: 出身国、地域における伝統服飾文化 (民族衣装) について テーマ②: 出身国、地域における伝統舞踊について
14	盆踊りに向けて② —着物—	口頭発表 講義、小テスト	「盆踊り」に関するアンケート
15	盆踊り体験をしよう	摂大国際盆踊り講習会 (浴衣、盆踊り体験)	体験レポート

関連科目 日本語文字・語彙、日本語アカデミックライティング

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学で学ぶための日本語ライティング	藤尾 喜代子, 佐々木 瑞枝, 細井 和代	The Japan Times
2	知っておきたい日本の年中行事辞典	福田 アジオ, 山崎 祐子 常光 徹, 福原 敏男, 菊池 健策	吉川弘文館
3	Hiragana Times		ヤック企画

評価方法 (基準)	発表 (20%)、レポート (30%)、授業への参加度 (20%)、小テスト (30%)
学生へのメッセージ	実際に体験を楽しみながら日本の文化・社会について学びましょう! また、伝統行事から日本人の価値観や考え方には、どんな秘密があるのか発見してみましょう。
担当者の研究室等	国際交流センター教員控室 (3号館4階)
備考	事前事後学習時間の目安は計60時間。

科目名	日本事情 R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	各課題 (10%) 及び授業への参加度 (10%)、レポート (80%) により総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は約2時間ずつ。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名 (英文)	Business English I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	李 孝聖
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	<p>経済は決して専門分野ではなく、日常生活と密接に結びついているのです。企業の海外進出、海外企業との合弁、海外での子会社設立などビジネス英語のニーズも高まっています。</p> <p>この授業では面白いエピソードを交えた文章を読むことによって、お金の役割から経済のシステムまでのビジネス英語の基本的知識を得られ、役に立つ英語表現も無理なく学習できます。</p> <p>授業計画は進度によって変わる場合があります。</p>
到達目標	<p>この授業を通して短い文章を読解する能力と文法の基礎を習得できます。</p> <p>毎回行う英単語の小テストによって大学生にとって必要不可欠な英語の語彙力が強化されます。</p> <p>リスニングとライティングを中心に日常生活に必要な英語の語彙力、表現力、理解力をつける事を目標とする。</p> <p>又、並行して英語の資格、検定の練習問題を用いて文法事項の復習及び弱点補強も行う。</p> <p>これらの能力を習得することによってコミュニケーションスキルに念頭を置いた実用的な英語基礎能力が期待されます。</p>
授業方法と留意点	<p>単なる聞き取りのみならず、理解力を上げるために英文に隠れているアメリカと日本の違いについても色々学んでいきたい。新出単語や学んだ内容を繰り返して覚えるのが上達への早道！</p> <p>原則として、4回以上休んだ場合（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）単位が取得できる見込みはありません。テキスト（教科書）を忘れた場合、また私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業を欠席したものと扱います。</p> <p>その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。</p>
科目学習の効果（資格）	基本的文法の復習、リスニング、語彙力、英検やTOEIC等の検定・資格試験にも役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入。コース全体の組み立て。授業の進め方。成績のつけ方。出席・欠席への注意など。	どうしてこのコースを選択したか。キャリアデザインとの関係。英語はどう役立つか。	Chapter I: Money: The Basics の Chapter I: Money: The Basics を読んでくる。
	2	お金の機能について	I-1 Money has three functions.	Chapter I: Money: The Basics の When you borrow money, you have to pay interest. を読んでくる。
	3	お金を借りたら利息がつく。	When you borrow money, you have to pay interest.	Chapter I: Money: The Basics の What happens to money you deposit in a bank? を読んでくる。
	4	銀行に預けたお金はどうなるのか。	What happens to money you deposit in a bank?	Chapter I: Money: The Basics の Banks aren't the only financial institutions.
	5	銀行が唯一の金融機関ではない。	Banks aren't the only financial institutions.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Prices are set according to the principle of supply and demand. を読んでくる。
	6	価格は需要と供給によって決まる。	Prices are set according to the principle of supply and demand.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Foreign trade is a two-way street. を読んでくる。
	7	海外貿易は二方向。	Foreign trade is a two-way street.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Exchange rates also vary according to supply and demand. を読んでくる。
	8	為替レートも需要と供給。	Exchange rates also vary according to supply and demand.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Currencies continuously strengthen and weaken against one another. を読んでくる。
	9	通貨の強弱。	Currencies continuously strengthen and weaken against one another.	Chapter III: How Companies Work の Joint-stock companies: how they came about を読んでくる。
	10	株式会社はどう生まれたか。	Joint-stock companies: how they came about?	Chapter III: How Companies Work の Companies share their profits among their shareholders. を読んでくる。
	11	企業は株主と利益を分配する。	Companies share their profits among their shareholders.	Chapter III: How Companies Work の Trading in Stocks has become a full-fledged market. を読んでくる。
	12	株式の取引は本物の市場になった。	Trading in Stocks has become a full-fledged market.	Chapter III: How Companies Work の E-trading has changed the nature of stock trading dramatically. を読んでくる。
	13	E-trading は株式の取引を根本的に変えた。	E-trading has changed the nature of stock trading dramatically.	Chapter III: How Companies Work の A company doesn't belong only to its shareholders. を読んでくる。
	14	企業は株主のものだけではない。	A company doesn't belong only to its shareholders.	これまでのまとめ。
	15	総復習。	これまでのまとめ。	期末テストへの注意と解説。

関連科目 他の英語関係科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	All About Money and the Economy	池上 彰	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK (学校語彙で学ぶ TOEIC テスト)	西谷恒志	成美堂
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 60%、小テスト 10%、課題レポート 10%、授業態度 10% (授業中の発表)、出席 10%の割合で評価する。
学生への メッセージ	出席と予習を含む宿題を重視。 授業態度を重んじるので受講生はきちんと授業に参加してください。
担当者の 研究室等	7号館 2階非常勤講師室
備考	<p>【事前事後学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に単語は e-learning 学習など、毎日、平均 1 時間は学習してください。</li> <li>・授業の 13 回目までに、単語番号 201~400 までを最低一巡は終わるようにしてください。</li> </ul> <p>【授業中の注意点について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・辞書を必ず持参してください。</li> </ul> <p>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p>

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名(英文)	Business English II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	李 孝聖
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	この授業では面白いエピソードを交えた文章を読むことによって、お金の役割から経済のシステムまでのビジネス英語の基本的知識を得られ、役に立つ英語表現も無理なく学習できます。 大学生にとって必要不可欠な英語の語彙力が強化されます。 これらの能力を習得することによってコミュニケーションスキルに念頭を置いた実用的な英語基礎能力が期待されます。
到達目標	この授業ではリスニングとライティングを中心に、英語の4技能の強化を図ります。 到達目標：日常生活で必要とする基礎的な英語の理解力・表現力を身につける。 ビジネスの場で必要とされる読解力、語彙力をつけ、TOEICのスコアアップを目指します。
授業方法と留意点	授業に出席しても、授業活動に参加しない学生には単位は与えません。 しっかり予習して授業に臨み、積極的に授業参加してください。  原則として、4回以上休んだ場合（正式な証明が可能な公休および大学指定の感染症による欠席は除く）単位が取得できる見込みはありません。 テキスト（教科書）を忘れた場合、また私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業を欠席したものととして扱います。その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。 受講予定者は必ず出席してください。
科目学習の効果(資格)	リスニング・ライティングの訓練を継続的に行えば、半年でかなりの実力が付きます。 最初は難しいと感じても、根気よく続けてください。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	後期にあたって、新たな気持ちで英語に取り組む姿勢を喚起する。	各レッスンの訳、要約。自発的で積極的な授業への取り組み方を考える。	Chapter III: The State of the Economy の The economy fluctuates in cycle. を読んでくる。 指定単語の学習
	2	経済は周期的に変動する。	The economy fluctuates in cycle.	Chapter III: The State of the Economy の There are two basic ways countries can stimulate their economics. を読んでくる。 指定単語の学習
	3	経済を活性化する2方法。	There are two basic ways countries can stimulate their economics.	Chapter III: The State of the Economy の Sometimes an economy can become too robust. を読んでくる。 指定単語の学習
	4	経済はときには強すぎる。	Sometimes an economy can become too robust.	Chapter III: The State of the Economy の In extremis, the economy can grow like a bubble. を読んでくる。 指定単語の学習
	5	経済は泡のように膨らむ。	In extremis, the economy can grow like a bubble.	Chapter v: Economic Systems の There are two main economic systems in operation today. を読んでくる。 指定単語の学習
	6	今日の2つの経済システム。	There are two main economic systems in operation today.	これまでの復習。
	7	Review, Midterm Exam	復習、期間外試験1	Chapter v: Economic Systems の Socialism largely ended in failure. を読んでくる。 指定単語の学習
	8	社会主義の失敗。	Socialism largely ended in failure.	Chapter v: Economic Systems の Globalization has its good points and its bad. を読んでくる。 指定単語の学習
	9	グローバリゼーションの良い点と悪い点。	Globalization has its good points and its bad.	Chapter v: Economic Systems の Neo-liberalism is changing the way business done. を読んでくる。 指定単語の学習
	10	新自由主義はビジネスを変える。	Neo-liberalism is changing the way business done.	Chapter v: Economic Systems の Economic policies can serve to protect the natural environment. を読んでくる。 指定単語の学習
	11	経済政策は自然環境の保護に役立つ。	Economic policies can serve to protect the natural environment.	プリントを用意する。 指定単語の学習
	12	食物アレルギー	Food allergies	Food allergies を読んでくる。 指定単語の学習
	13	食物アレルギー	Food allergies	プリントを用意する。 指定単語の学習
	14	青色発光ダイオード	Blue LED	Blue LED を読んでくる。 指定単語の学習
	15	青色発光ダイオード	Blue LED	期末テストの注意と重点項目。

関連科目	英語関連科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	All About Money and the Economy	池上 彰	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK (学校語彙で学ぶ TOEIC テスト)	西谷恒志	成美堂
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>定期試験 60%、小テスト 10%、課題レポート 10%、授業態度 10% (授業中の発表)、出席 10%の割合で評価する。</p> <p>※授業態度に問題のある場合 (遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など) は、教室に来ていても「欠席」扱いとします。</p>			
学生への メッセージ	<p>英語を効果的にマスターしたい人は、少しずつでも必ず毎日英語に触れましょう。</p> <p>週に一日だけ 1 時間勉強するよりも、毎日 15 分勉強するほうがはるかに効果が上がります。</p> <p>英語の力は学習時間に比例して伸びてゆきます。</p> <p>授業以外にも、自分の興味ある分野の英文をどんどん読んでみましょう。</p> <p>全員参加で活気ある授業を創り上げましょう。</p>			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)			
備考	<p><b>【事前事後学習について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に単語は e-learning 学習など、毎日、平均 1 時間は学習してください。</li> <li>・授業の 13 回目までに、単語番号 600~800 までを最低一巡は終わるようにしてください。</li> </ul> <p><b>【授業中の注意点について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・辞書を必ず持参してください。</li> </ul> <p>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p>			

科目名	ビジネス中国語基礎 a	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business a
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。

授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
----------	--------------------------

科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準4級受験可能。
--------------	-----------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第2課 発音 2	複母音②, 鼻母音, 子音②。	発音を練習し、ピンインを書く。
3	第3課 発音 3	複母音③④, 子音③。	発音を練習し、ピンインを書く。
4	第4課 発音 4	子音④⑤。 あいさつ言葉の復習。	発音を練習し、ピンインを書く。 テスト (第2~4課のあいさつ) の準備。
5	本文編 第1課 お名前は?	☆単元テスト1 人称代名詞, 形容詞述語文, 疑問文, 副詞「也」、「都」、「很」。	練習問題を解答し、会話を読む。
6	第1課 お名前は?	副詞「不」, 疑問詞疑問文, 名前の言い方。	練習問題を解答し、会話を読む。
7	第2課 僕は日本人だ	「是」構文, 疑問詞「?」, 副詞「都」。	練習問題を解答し、会話を読み、覚える。
8	第2課 僕は日本人だ	助詞「的」, 反復疑問文, 疑問詞「誰」, 指示代名詞。	練習問題を解答し、会話を読み、覚える。 テスト (第1~2課) の準備。
9	第3課 君は大阪人だよ ね?	☆単元テスト2 動詞述語文, 終助詞「?」, 省略疑問文。	練習問題を解答し、会話を読み、覚える。
10	第3課 君は大阪人だよ ね?	同時進行の表現, 二重目的語。	練習問題を解答し、会話を読み、覚える。
11	第4課 おいくら?	単位の言葉「張」「個」, 動詞の重ね型, お金の言い方。	練習問題を解答し、会話を読み、覚える。
12	第4課 おいくら?	「二」と「両」, 「不太～」, 所有の「有」。	練習問題を解答し、会話を読み、覚える。 テスト (第3~4課) の準備。
13	第5課 どの先生が好き?	☆単元テスト3 前置詞「和」, 名詞述語文。	練習問題を解答し、会話を読み、覚える。
14	第5課 どの先生が好き?	時間の言い方, 前置詞「跟」。	練習問題を解答し、会話を読み、覚える。 テスト (第5課) の準備。
15	おさらい	☆単元テスト4	練習問題を解答し、会話を読み、覚える。

関連科目	「ビジネス中国語基礎 b」(前期)、「ビジネス中国語基礎 c」(後期)
------	-------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に1時間ずつ要します。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------



科目名	ビジネス中国語基礎 b	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business b
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第1課 こんにちは	発音 1, 中国語の音節, 声調。	練習問題を解答する。
2	第2課 おはようございます	発音 2, 単母音, 複母音。	練習問題を解答する。
3	第3課 お久しぶりです	発音 3, 子音 1。	練習問題を解答する。
4	第4課 お掛けください	発音 4, 子音 2。	練習問題を解答する。
5	第5課 どこの国の人ですか	動詞「是」の使い方, いろいろな疑問文。	練習問題を解答する。
6	第6課 お名前は何かですか	姓の言い方と尋ね方, フルネームの言い方と尋ね方。	練習問題を解答する。
7	第7課 何を食べますか	動詞文, 選択疑問文。 △復習 (第 5~7 課)	練習問題を解答する。
8	第8課 図書館に行きたいです	☆単元テスト 1 連動文, 助動詞「想」。	練習問題を解答する。
9	第9課 キャンパスに銀行はありますか	動詞「有」, 動詞「在」。	練習問題を解答する。
10	第10課 今日は何曜日ですか	年月日, 曜日の言い方, 助動詞「得」と「要」。 △復習 (第 8~10 課)	練習問題を解答する。
11	第11課 中国語は難しいですか	☆単元テスト 2 形容詞述語文, 時間の言い方。	練習問題を解答する。
12	第12課 いくらですか	お金の言い方, 量詞。	練習問題を解答する。
13	第13課 彼女は今年18歳です	年齢の言い方と尋ね方, 前置詞「在」。	練習問題を解答する。
14	第14課 動物園に行きました	文末の「了」, 動詞の重ね型。	練習問題を解答する。
15	復習	△復習 (第 11~14 課) ☆単元テスト 3	練習問題を解答する。

関連科目	ビジネス中国語基礎 a(経S) ビジネス中国語基礎 a(経D)
------	------------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	いま始めよう! アクティブラーニング 初級中国語	陳淑梅・張国ろ	朝日出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	単元テスト 80% 授業参加や提出物 20% 出席回数は 10 回以上; 単元テストの平均点が 60 点を越えていることを単位認定の基準とします。 音読発表は随時行いますが、その成績も平常評価として重視します。
学生へのメッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 教科書の音読練習は授業時間以外にも時間をとって練習してください。
担当者の研究室等	7号館 2階 (非常勤講師室)
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	ビジネス中国語基礎 c	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business c
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。																																																																
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。																																																																
授業方法と留意点	口語練習を重視し、中国語の発音、フレーズに慣れてもらう。																																																																
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第6課 今は3時5分前だ</td> <td>「有」と「在」, 時間詞の語順。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第6課 今は3時5分前だ</td> <td>不定の数量を表す「些」, 時刻の言い方, 意見を求める言い方。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第7課 この前の土曜日映画を見に行った</td> <td>時間に使う「上/下」, 連動文, 前置詞「在」。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第7課 この前の土曜日映画を見に行った</td> <td>標点符号「,」と「、」, 文型「是・・・還是・・・」。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第6-7課) の準備。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第8課 小説は好きなの?</td> <td>☆単元テスト1 前置詞「從」と「到」, 時量補語とその語順, 文型「快～了」。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第8課 小説は好きなの?</td> <td>前置詞「離」, 強調の「是」, 副詞「又」。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第9課 ファーストフード店は家から近い</td> <td>副詞「就」, 副詞「才」, 動詞の「要」, 前置詞「給」。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第9課 ファーストフード店は家から近い</td> <td>結果補語「完」, 文型「一・・・就・・・」, 「未完成の「没有～」。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第8-9課) の準備。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>第10課 北京ダックを食べたことある?</td> <td>☆単元テスト2 助詞「過」, 助動詞「要」, 「想」, 「得」。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>第10課 北京ダックを食べたことある?</td> <td>助動詞「應該」, 副詞「別」, 「再」。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね</td> <td>「把」構文, 助動詞「会」, 構造助詞「得」。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね</td> <td>助動詞「可以」, 比較の「没有」, 禁止表現「不要」。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第10-11課) の準備。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>第12課 もし彼と知り合いになりたいなら</td> <td>☆単元テスト3 仮定表現「要是～」, 助動詞「能」, 可能性の「会」, 比較表現「比」。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>第12課 もし彼と知り合いになりたいなら</td> <td>使役動詞「叫」, 方向補語「～来/去」, 複合補語「～進來/進去」。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第12課) の準備。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>おさらい</td> <td>☆単元テスト4</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第6課 今は3時5分前だ	「有」と「在」, 時間詞の語順。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。	2	第6課 今は3時5分前だ	不定の数量を表す「些」, 時刻の言い方, 意見を求める言い方。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。	3	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	時間に使う「上/下」, 連動文, 前置詞「在」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。	4	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	標点符号「,」と「、」, 文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第6-7課) の準備。	5	第8課 小説は好きなの?	☆単元テスト1 前置詞「從」と「到」, 時量補語とその語順, 文型「快～了」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。	6	第8課 小説は好きなの?	前置詞「離」, 強調の「是」, 副詞「又」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。	7	第9課 ファーストフード店は家から近い	副詞「就」, 副詞「才」, 動詞の「要」, 前置詞「給」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。	8	第9課 ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」, 文型「一・・・就・・・」, 「未完成の「没有～」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第8-9課) の準備。	9	第10課 北京ダックを食べたことある?	☆単元テスト2 助詞「過」, 助動詞「要」, 「想」, 「得」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。	10	第10課 北京ダックを食べたことある?	助動詞「應該」, 副詞「別」, 「再」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。	11	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文, 助動詞「会」, 構造助詞「得」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。	12	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」, 比較の「没有」, 禁止表現「不要」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第10-11課) の準備。	13	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	☆単元テスト3 仮定表現「要是～」, 助動詞「能」, 可能性の「会」, 比較表現「比」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。	14	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	使役動詞「叫」, 方向補語「～来/去」, 複合補語「～進來/進去」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第12課) の準備。	15	おさらい	☆単元テスト4	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	第6課 今は3時5分前だ	「有」と「在」, 時間詞の語順。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。																																																														
2	第6課 今は3時5分前だ	不定の数量を表す「些」, 時刻の言い方, 意見を求める言い方。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。																																																														
3	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	時間に使う「上/下」, 連動文, 前置詞「在」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。																																																														
4	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	標点符号「,」と「、」, 文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第6-7課) の準備。																																																														
5	第8課 小説は好きなの?	☆単元テスト1 前置詞「從」と「到」, 時量補語とその語順, 文型「快～了」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。																																																														
6	第8課 小説は好きなの?	前置詞「離」, 強調の「是」, 副詞「又」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。																																																														
7	第9課 ファーストフード店は家から近い	副詞「就」, 副詞「才」, 動詞の「要」, 前置詞「給」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。																																																														
8	第9課 ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」, 文型「一・・・就・・・」, 「未完成の「没有～」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第8-9課) の準備。																																																														
9	第10課 北京ダックを食べたことある?	☆単元テスト2 助詞「過」, 助動詞「要」, 「想」, 「得」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。																																																														
10	第10課 北京ダックを食べたことある?	助動詞「應該」, 副詞「別」, 「再」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。																																																														
11	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文, 助動詞「会」, 構造助詞「得」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。																																																														
12	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」, 比較の「没有」, 禁止表現「不要」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第10-11課) の準備。																																																														
13	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	☆単元テスト3 仮定表現「要是～」, 助動詞「能」, 可能性の「会」, 比較表現「比」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。																																																														
14	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	使役動詞「叫」, 方向補語「～来/去」, 複合補語「～進來/進去」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第12課) の準備。																																																														
15	おさらい	☆単元テスト4	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。																																																														
関連科目	「ビジネス中国語基礎 a」(前期)、「ビジネス中国語基礎 b」(後期)																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>摂南大学 中国語入門</td> <td>摂南大学外国語学部編</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部編		2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部編																																																															
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中日辞典</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日中辞典</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中日辞典			2	日中辞典			3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1	中日辞典																																																																
2	日中辞典																																																																
3																																																																	
評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト: 30% 単元テスト: 70%																																																																
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。事前・事後の学習に1時間ずつ要します。																																																																
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)																																																																
備考	「ビジネス中国語基礎 a」を履修したうえ、「ビジネス中国語基礎 c」を履修するのが望ましい。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																

科目名	ビジネス中国語基礎 d	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business d
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第 15 課 四川料理を食べたことはありますか	経験を表す助詞「過」、比較の前置詞「比」。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第 16 課 二胡を弾けますか	助動詞、二重目的語構文。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 17 課 みかんを味見してもいいですか	助動詞「可以」、「有点兒」と「一点兒」。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 18 課 中国語はお上手ですね	様態補語、期間を表す言い方。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	復習 (第 15～18 課)	単元テスト 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 19 課 もう一度言ってください	結果補語、回数の言い方。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 20 課 いつ失くしましたか	「是～的」構文、禁止の言い方。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 21 課 中で食べましょう	方向補語、完了の助詞「了」。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 22 課 何をしていますか	進行を表す表現、可能補語。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	復習 (第 19～22 課)	単元テスト 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 23 課 横浜は東京から遠いですか	前置詞「離」「從」「到」、程度補語。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 24 課 彼は来られません	助動詞「能」、助動詞「会」。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 25 課 彼をスーパーへ買い物に行かせました	使役表現、主述述語文。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 26 課 早く窓を閉めてください	「把」構文、存現文。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	復習 (第 23～26 課)	単元テスト 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	ビジネス中国語基礎 c (経 S) ビジネス中国語基礎 c (経 D)
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	いま始めよう! アクティブラーニング 初級中国語	陳淑梅・張国ろ	朝日出版社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元テスト 80% 授業参加や提出物 20% 単元テストの平均点が 60 点以上; 出席回数が 10 回以上であることが単位認定の最低条件となります。 音読発表も随時行いますが、その成績も平常点として重視します。
-----------	---

学生へのメッセージ	使用教科書は前期と同じなので、前期購入者は後期購入する必要はない。但し、後期から新しく登録したものは教科書の購入が必要である。私語を慎むように。他の受講生の迷惑になります。 上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。出席は 10 回以上ないと単位が認定できない。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館 2階 (非常勤講師室)
----------	-----------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	保健論	科目名(英文)	Theory of Health
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉川 万紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	健康に関する問題や情報が溢れる現代社会において、正しい情報を選択することが重要である。 そのため本講義では、受講者が生涯にわたって自らの健康の維持増進を実行するための知識を学ぶ。
到達目標	①現代の健康問題について理解できる。 ②様々な健康に関する情報を知り、自身の健康に対する考えを持つことができる。 ③健康づくりのための知識を習得し、実践することができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。
科目学習の効果(資格)	健康維持・増進に関する知識が身につく、受講者自身の健康管理ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	健康とは	健康の定義 平均寿命・健康寿命	健康の定義について復習すること
3	体の構造と機能	骨格筋・脳・神経系などの構造や機能について	骨格筋・脳・神経系などの構造や機能についての復習をしておくこと
4	肥満とは	肥満の要因 ダイエット	肥満の要因について復習すること
5	生活習慣病①	メタボリックシンドローム 生活習慣病、内臓脂肪、診断基準	メタボリックシンドロームの診断基準について復習すること
6	生活習慣病②	高血圧症、糖尿病、脂質異常症、コレステロール、心疾患、脳卒中	高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの疾患について復習すること
7	高齢者の健康問題	サルコペニア ロコモティブシンドローム 寝たきり	現在問題となっている、高齢者の健康問題について理解する
8	7回までのまとめ	7回までの授業の振り返り 中間テストの実施	中間テストのなおしをしておくこと
9	健康づくりのための運動基準	身体活動量 メッツ 健康日本21	健康づくりのための運動基準について復習すること
10	自身の健康チェック	除脂肪体重 体脂肪 BMI	自身の身長・体重を測定していただくこと
11	運動トレーニング	運動・スポーツ トレーニングの原理・原則 筋力トレーニング	トレーニング方法について復習すること
12	健康に関わる食事	健康な食生活の形成 朝食の必要性	適切な食事について復習すること
13	睡眠と健康	レム睡眠・ノンレム睡眠 睡眠障害 不眠症	健康づくりのための睡眠について、復習すること
14	健康増進計画作成	受講者自身の運動維持・増進のための運動計画を、今までの知識を活用して作成する。	9回から13回までの授業内容を復習していただくこと
15	保健論まとめ	14回までの授業内容の復習	これまでの授業の復習をすること

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習
------	-------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	平常点評価 30%、期末テスト 70%の割合で評価を行う
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	質問等がある場合は、事前にアポイントメントをとり、研究室あるいは総合体育館事務室に来ること
-----------	---

担当者の研究室等	総合体育館1階 内部講師室
----------	---------------

備考	
----	--

# 教 養 科 目



科目名	海外ビジネスインターンシップ	科目名 (英文)	Overseas Business Internship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	佐井 英子, 西之坊 穂
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>本学では、将来グローバル、あるいは地域で活躍する力を身につけた知的職業人の育成を目指している。そのためには、他者と自分の違いを理解し、相手を尊重するという姿勢が必要である。このような態度は国内においても修得可能であるが、日本とは異なる文化、経済事情、生活習慣、価値観なども海外においてインターンシップを体験することにより、相手を正しく理解し、尊重する姿勢、柔軟な発想力の必要性を実感し修得できる。この海外インターンシップでは、ダイバーシティ社会の中で、自分の考えを相手に伝え、また相手の考えを理解できるコミュニケーション能力と自己の責任で自ら考え行動する自律心を育成する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と相手国（インドネシア・バリ島）の歴史、文化、経済等の違いを正しく理解する。</li> <li>・異なる文化、価値観等を尊重する姿勢を修得する。</li> <li>・他国を理解することにより、日本についての理解を深め、日本が抱えている問題について深く考察する。</li> <li>・将来、グローバルに活躍するために、自分に欠けているものは何か、大学生活で何を学ぶべきか、体得する。</li> </ul>																
授業方法と留意点	<p>研修先として美術館（ホテル、レストラン併設）、PPLH（NPO）、ウダヤナ大学、コーヒー農園、ウブド高校、マングローブセンター等を予定しています。</p> <p>研修先により研修内容は異なり、求められる資質、英語能力が異なります。事前学習において各研修先について説明しますが、受講生自身も調査し、研修先を選択します。有意義なインターンシップにするためには、学生の希望と相手先の要望とのマッチングが非常に重要になります。そのため学生の希望は配慮しますが、学生が最初に希望した研修先に配属されるとは限りません。事前に充分個人面談を行い、話し合いの上決定します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前学習 10日を予定。現地での各自の研修内容の事前準備（プレゼン等）が完了するまで行う。 ガイダンス、研修先の研修内容の解説、受け入れ先とのマッチング、バリ島の歴史、習慣、経済状況などを各自調べ発表する。</p> <p>現地実習 10日（移動日含む）</p> <p>1日目 移動 2日目 環境学習 マングローブセンター、PPLHにて実習 3日目 各研修先へ移動、ガイダンス 4日目～8日目 各研修先にて各々インターンシップ研修実施 9日目 現地視察 10日目 移動日</p> <p>研修内容は、研修先により環境問題に対する取り組み、日本語授業のSA、課外活動のサポート、農業経営・フェアトレードの取り組みなど異なります。各自、毎日研修内容の報告書を作成する。</p> <p>事後学習 3日（資料の作成が間に合わない場合は、追加する） 報告書の作成、指導、報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成、指導、全体報告会</p>																
関連科目	外国語関連科目、世界の歴史、日本の歴史等																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習前の事前学習 (10%)、海外現地研修 60% (実習記録 20%、実習態度 50% (研修先からの評価を勘案し、引率教員が評価する)、実習報告書 (20%)、全体報告会のプレゼン 10%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館8階 佐井研究室 11号館8階 西の坊研究室																
備考	共同担当者 西の坊 准教授																

科目名	科学技術教養 (V1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西村 仁
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが、その内容を理解することは容易ではない。本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、生命現象との関係などを個人レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。この講義の到達目標は、病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになることである。また、病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	生命科学に関するニュースがより身近になり、明確に理解できるようになる。

教養科目

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	不妊のしくみ	日本人夫婦 (カップル) は 10 組のうち 1 組は不妊と言われており、実際に治療を受けている人が多い。しかし、なぜ不妊になるのかははっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。
2		病気と遺伝子	我々が持つ DNA は日常生活で頻繁に「傷 (変異)」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
3		なぜ肥満は問題なのか?	肥満そのものは病気とは言えない。しかし、糖尿病、高脂血症、高血圧、脳血管障害など様々な「生活習慣病」と呼ばれる疾患のリスクファクターになることが知られている。なぜ肥満が様々な疾患の原因になってしまうのか、そのメカニズムと予防・治療法について解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
4		免疫が引き起こす病気のしくみ	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染 (インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
5		がんの発生とその予防法	死因別死亡率のトップはがんであり、約 3 人に 1 人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が、がんの原因の 30% を占めており、単因子要因としては最大である。本講義では、がんの発生機序やその予防法について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
6		ミトコンドリアと病気	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
7		くすりと遺伝子工学	ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して、遺伝子産物 (タンパク質) を生産したり、新しい形質を作り出すなど、遺伝子を人工的に操作する技術、遺伝子工学について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
8		くすりと組換え生物	生物が持つ遺伝情報に改変を施した「遺伝子組換え生物」は、再生医療やヒト疾患の治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の開発などにも役立っている。本講義では、遺伝子組換え生物やクローン生物の作製に関する技術と応用について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
9		くすりとバイオインフォマティクス	遺伝子やタンパク質の配列情報を例にバイオインフォマティクスの概要について説明し、病気と遺伝子、ゲノム創薬への応用について述べる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
10		くすりとタンパク質のかたち	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に医薬品開発への応用について述べる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)



	11	くすりとゲノム	ゲノムとは、創薬とは、遺伝子診断などを解説し、生命倫理、歴史的な背景や将来の課題と発展方向をさぐる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	12	薬物乱用と依存性薬物	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	13	遺伝子治療の最前線	遺伝子により治療はできるか、遺伝性疾患、科学・技術の概要、基本的な原理、を解説。生命倫理や関連した話題のトピックについても触れる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	14	認知症～その原因と治療法	我が国は超高齢化社会へと進行し続けおり、2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症患者になると推定されている。そのため、認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立てが見つからなければ、社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	15	iPS 細胞研究の最前線	京都大学の山中伸弥教授によって作り出された iPS 細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり、新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義で iPS 細胞の発見から現在までの研究状況を概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
関連科目	科学技術教養 V2			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	80%以上の出席を前提とした上で、講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。なお、30 分未満の遅刻は欠席 0.5 日、30 分以上の遅刻は欠席 1 日とする。			
学生へのメッセージ	病気やくすりはみなさんの身近な問題で、関心も大きいと思います。本講義では病気やくすりについて、生命科学の観点から具体例を挙げて分かりやすく解説します。			
担当者の研究室等	1 号館 9 階 川崎, 尾山, 西村, 中嶋, 宮崎, 船越, 井尻, 居場研究室			
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は 15 時間			

科目名	科学技術教養 (V2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	青笹 治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	本講義では、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、繊維加工に利用されている遺伝子組換え技術など、我々の暮らしを豊かにするバイオテクノロジーから、環境リスクの評価、ヒトの健康を守る知識や技術まで、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。
到達目標	醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について説明できる。
授業方法と留意点	講義内容について資料を配付し、パワーポイントを用いて解説する。講義ごとに受講メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々の暮らしや健康との関わりが理解できる。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	機能性食品などの新しい食品の形態	食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。	配布資料を復習する。
	2	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。	配布資料を復習する。
	3	繊維とバイオテクノロジー	繊維に反応する酵素を紹介し、これらを用いた繊維加工の応用例および今後の可能性について解説する。	配布資料を復習する。
	4	遺伝子組換え植物とその将来	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。	配布資料を復習する。
	5	バイオレメディエーションの可能性	過去、日本であった重金属汚染について簡単に復習し、特に水銀に焦点を合わせて水銀浄化法を説明する。物理化学的浄化法と微生物を用いた生物学的浄化法を対比しながら、適宜遺伝子組換え技術について補足を加え概説し、植物を用いた生物学的浄化法についても説明する。	配布資料を復習する。
	6	最先端のバイオエネルギー技術	21世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場から解説する。	配布資料を復習する。
	7	新規エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響	近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から解説する。	配布資料を復習する。
	8	食品の健康障害リスクと対策	微生物、アレルギー性物質、残留農薬などの食品に存在するヒトの健康障害リスクについて具体的な事例を取り上げ、解説する。	配布資料を復習する。
	9	動く分子とバイオテクノロジー	ATP合成酵素や細菌のべん毛モーターなどの動く分子を紹介し、生物がもつ運動機能を生体分子モーターなどへ応用するバイオテクノロジーについて解説する。	配布資料を復習する。
	10	モデル生物を用いたバイオテクノロジー	近年の生命科学ではヒトの遺伝子機能や生体機能、遺伝性疾患のメカニズムの解析の方法として様々なモデル生物が盛んに用いられている。それらの応用例を実際の写真等を示しながら、実際の研究例や今後期待される展望を紹介する。	配布資料を復習する。
	11	微生物酵素を用いる物質生産システム～バイオテクノロジーを支える酵素利用技術～	酵素は優れた機能を有するタンパク質性の触媒であるが、産業で利用されている酵素の殆どは、加水分解酵素、転移酵素、異性化酵素などであり、反応に補酵素やエネルギーを要する酵素の利用に遅れが見られる。かかる酵素の産業への	配布資料を復習する。

			応用を可能にする酵素利用技術(固定化酵素など)と酵素改変技術(分子進化工学、逆進化工学、タンパク質工学など)の現状と将来について概観する。																	
	12	遺伝子工学からゲノム工学へ～バイオテクノロジーを支える微生物の形質転換法～	微生物の遺伝子交換法として、形質導入、接合、及び形質転換の3つが知られている。ここでは、真核微生物であり、遺伝子発現などの分子機構において高等動植物と共通性が高い出芽酵母における形質転換法の発展の経緯、方法、及びDNA取り込み機構を概観する。近年、進展の著しい巨大ゲノムDNAを扱う合成生物学やゲノム工学も展望する。	配布資料を復習する。																
	13	植物を用いた有用タンパク質生産	植物は、安全性、低コスト、分離精製の容易さなどの点から外来タンパク質の生産系として優れている。本講義では、植物を宿主とした生理活性タンパク質・ペプチドや抗体、ワクチン、医療用タンパク質などの生産について解説する。	配布資料を復習する。																
	14	環境リスクの評価方法	環境汚染物質や食品添加物などの合成化学物質などのヒトに対する安全性評価すなわちリスクアセスメントの考え方を講述し、水道水質基準や環境基準の策定に関する基本的な考え方を述べる。	配布資料を復習する。																
	15	地球規模の環境破壊と人体への影響	主にオゾン層の破壊、地球の温暖化および酸性雨に関して発生原因、発生機構、人への影響およびその防止対策に関して述べる。	配布資料を復習する。																
関連科目	科学技術教養V1																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	授業態度20%、受講メモ40%およびレポート、小論文、演習問題などの課題40%の総合点で評価する。																			
学生へのメッセージ	遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。																			
担当者の研究室等	1号館8階 環境分析学研究室(青笹)																			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部の出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱います。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。																			

科目名	科学技術教養 (R1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大橋 巧
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることが出来る。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる技術、手法を学ぶ。
到達目標	住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎を理解できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	(オリエンテーション) 自然の力をかりた住宅デザイン	(科目の内容、授業の進め方、評価基準等を説明する。) 古代より人間は自然と共生するためにさまざまな工夫をこらした。世界各地におけるそれらの住まいの事例を学ぶ。	配布資料講義部分の復習を十分に行う。
	2	エコ技術と住宅デザイン-近代の住宅事例	新しい素材、技術、理論の進展に伴い、エコ技術を駆使した近代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	3	エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例	自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	4	環境配慮型デザインプロセス	環境配慮型建築・設備設計のデザインプロセスと、住宅のパッシブ・アクティブ技術を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	5	住環境における換気	換気の方法の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気的重要性について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	6	健康で快適な生活とにおける対策	心身ともに健康に過ごすための、住宅内での問題や対策の考え方について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	7	生活の中における香りの活用	屋内外の香りや人の関わりのはなしから、香りの人への心理生理的影響や香りの積極的な利用方法について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	8	いのちを守るあかりとサイン	大規模災害時に避難・誘導を助けるあかりやサインの存在を知り、その有用性とデザイン上の注意点を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	9	安全・快適な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と、最近の調査、デザイン事例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	10	暮らしの中のさまざまな寸法	身近なモノの寸法がどの様に決められているかを知り、住まいや暮らしをより豊かにするデザインの視点を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	11	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	12	野生動物との共存のデザイン	近年獣害が増加する獣害問題及び野生動物と人間が共存するための方策を、具体的事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	13	CGと空間デザイン	インテリアや住宅デザインで用いられるCGのしくみと基本知識、その有用性について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	14	かたちとデザイン	身の周りにある家具や住宅などのかたちをコンピュータを用いて表現する方法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	15	アニメーションと空間デザイン	アニメーションを用いて空間を表現した事例紹介から、そのしくみと効果について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 (R1) 住環境デザイン学科 教科書	摂南大学理工学部住環境デザイン学科	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義メモ・課題・小テストなど100%で評価する。 期末試験は行わない。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	12号館 6・7階 各教員研究室
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、 毎回1時間程度と考えてください。

科目名	科学技術教養 (R2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大橋 巧
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	日本の伝統的な住宅は、気候風土、地形、材料などに影響を受けて地方色が豊かであり、歴史的、文化的な相違からも地域性が認められる。現代の住まいや暮らしはそれらの影響を受けて、さまざまな技術の発達、社会の変化とともに、かつての住まいや暮らしの形は変容しつつある。このような身近な住まい、まち、暮らしについての知識を得て、今後の持続可能な社会を創造するための手法を学ぶ。
到達目標	到達目標：建築都市インテリアなどの空間における歴史的文化的背景による地域性を理解し、持続可能な社会を創造するためのまちづくりや住宅建築など、住環境の未来に向けたデザイン手法の基礎を理解できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日本の住まいの地域性	気候風土や歴史、文化などを背景に、地方色豊かな伝統的の日本住宅について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	住環境とパッシブデザイン	住環境におけるパッシブデザインの変遷を建築家の作品を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	住環境と考現学	私たちの身の回りにある住環境を観察・記録することから新しい環境デザインをつくりだす方法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	大規模災害時の避難生活環境	阪神淡路大震災・東日本大震災など大規模災害時の避難生活状況と支援活動を知ることから未来への備えを学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	様々な人に配慮した住宅・施設設備	ユニバーサルデザインの観点からの住宅設備や施設設備について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	高齢者のための生活空間	高齢者の外出行動、生活環境の広がり、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	高齢者の生活環境の広がり と支援	高齢者の心身機能の特性を踏まえて、高齢者をめぐる住宅行政や、様々な高齢者居住について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	地球共生建築のすすめ	地球共生建築および構造、コンポーネントデザインについて学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	バイオメタリックデザイン	自然界における形態と構造とその応用デザインについて学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	次世代の住環境を考える	私たちの住環境はどのように進化すべきか、地球共生から宇宙共生についてを考える。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	省エネルギーとパッシブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のパッシブデザイン技術を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	省エネルギーとアクティブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のアクティブデザイン技術を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	居住地域を把握する —社会指標にみる地域の実態	我々が居住する地域について、社会指標とよばれる各種のデータを用いて表現する手法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。

関連科目 なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 (R2) 住環境デザイン学科 教科書	理工学部住環境デザイン学科	
2				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法 (基準) 講義メモ・課題・小テストなどを100%で評価する。  
期末試験は行わない。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 12号館 6・7階 各教員研究室

備考 遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。  
事前・事後学習にかかる学習時間は、授業外の課題や小テストの学習時間も含めて、毎回1時間程度とすること。

科目名	科学技術教養 (A1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宮本 征一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。
到達目標	卒業してからの社会生活のための有用な科学技術に関する教養が身に付きこれからの社会を生き抜くことができるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	建築とは何か	建築の考え方、 建築家の果たす役割	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	2	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、 ライフスタイルからみた多様性、民族・ 地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	3	建築と都市環境	建築と都市の関係、 都市環境のデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	4	建築の歴史	建築の歴史の変遷から建築における多 様な「技術」について学ぶ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	5	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がど のように関係しているのかを理解する 視点を養います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	6	建築の内装	インテリア、 家具・内装	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	7	建築の外装・外構	外装材とは エクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	8	建築のUD	こどもと建築、 バリアフリー、ユニバーサルデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	9	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築の ストック活用事例、保存手法、コンバー ションといった建築保存の視点から見 る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	10	建築の温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する 視点を培います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	11	建築における設備	採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒 音・エネルギー、 エレベーター、エスカレーター	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	12	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	13	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	14	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	15	建築をつくる新技術	構造、材料、施工の新技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	計 15 回の課題 (課題レポート・講義メモ・小テスト・課題・グループワークディスカッションの成果などを含む) を 100% として評価する。期末試験は行わない。
-----------	---

学生へのメッセージ	受講希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 教科書 (配布予定) ので事前あるいは事後学習に当該回の範囲を読んだり、確認したり、1回あたり 1.5 時間以上をかける必要がある。
----	---

教養科目

科目名	科学技術教養 (A2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宮本 征一
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築の代表的な計画デザインや実施の事例、およびその手法について紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。
到達目標	卒業後の社会生活において必要な科学技術の教養を身に付けてこれからの社会を生き抜くことができるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	住む建築	住宅、住むことの工夫	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	2	集まって住む建築	集まって住む楽しさ、集まって住むカタチ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	3	福祉医療の建築	建築と福祉医療	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	4	公共の建築	公共の建築、パブリックスペース、公共性のある都市施設等に着目し、建築の公共性について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	5	商業の建築	商業建築、商店街の歴史と再生	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	6	文化の建築	建築に象徴された様々な文化を読み取る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	7	交通の建築	陸・海・空の交通 交通建築の特徴	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	8	高層の建築	五重塔と超高層、 超高層建築の性能と設計、耐震要素と構造技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	9	地下空間の建築	地下空間のメリット、地下空間の利用、 大深度地下、地下都市	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	10	環境共生と建築	環境と共生する建築について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	11	木造の建築	木匠、伝統技術と最新技術 木造建築、木材の使用	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	12	プレハブ建築	種類と概要、 プレハブ化の普及、設計と生産、 災害仮設住宅	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	13	建築とロボット	ロボット導入の経緯、 ロボット化の現状と技術、 今後のロボット	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	14	街並みの建築	ランドスケープと建築、 街並みと要素	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	15	将来の建築	空間条件と心理、ヒューマンスケール、 人はどこに住むか、 近代建築の問題、将来の建替	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目	専門科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	計 15 回の課題 (課題レポート・講義メモ・小テスト・課題・グループワークディスカッションの成果などを含む) を 100% として評価する。期末試験は行わない。
-----------	---

学生へのメッセージ	受講者希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
-----------	---------------------------------------

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。  教科書 (配布予定) ので事前あるいは事後学習に当該回の範囲を読んだり、確認したり、1回あたり 1.5 時間以上をかける必要がある
----	--



科目名	科学技術教養 (M1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀江 昌朗
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ(ノート)を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートに丁寧にまとめていくことが大事。
科目学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	道具を作る(1) - ヒトと道具	・道具の歴史;ヒトの手の動作を補助道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	配布資料に目を通しておくこと。
3	道具を作る(2) - 作り方	・鋳造、塑性加工、粉末冶金、材料加工、生産加工 ・刀鍛冶、セラミックス、溶接・切断	配布資料に目を通しておくこと。
4	モノの材料を知る(1) - 金属材料	・金属材料はなぜ素材たり得るか? ・鉄鋼の製造方法	配布資料に目を通しておくこと。
5	モノの材料を知る(2) - セラミックス・ポリマー	・セラミックス・ポリマーの構造(金属と何が異なるか?) ・高強度・機能性材料の話	配布資料に目を通しておくこと。
6	モノの材料を知る(3) - 新素材	・新素材と高度産業化社会 ・形状記憶、超伝導、ナノ材料	配布資料に目を通しておくこと。
7	ものづくり(1) - 母なる機械	・機械部品を作る機械(工作機械の歴史) ・機械時計、工具と運動、機械部品	配布資料に目を通しておくこと。
8	ものづくり(2) - 精密に加工する	・精度を追求する(コンピュータと工作機械) ・精密加工、マシニングセル、ナノ加工	配布資料に目を通しておくこと。
9	ものづくり(3) - 工場(ファクトリー)	・世界が学ぶ・日本が誇る製造システム ・無人化工場、デジタル屋台、トヨタ生産方式	配布資料に目を通しておくこと。
10	大きな力を得る(1) - 車輪	・作業を補助する機械の歴史 ・車輪、滑車、てこ、歯車	配布資料に目を通しておくこと。
11	大きな力を得る(2) - 建設運搬機械	・巨大な力を得るためのアクチュエータ ・油圧・水圧・空気圧機器、電動機	配布資料に目を通しておくこと。
12	大きな力を得る(3) - パワーアシスト	・アクチュエータの知能化とパワーアシスト ・パワードスーツ、電動アシスト自転車、人工筋肉	配布資料に目を通しておくこと。
13	ミクロの機械(1) - 精密機械	・小さくなることで変わる使い方 ・時計、携帯電話、計算機、テレビカメラ、情報機器	配布資料に目を通しておくこと。
14	ミクロの機械(2) - 小さく作る	・小さくすることで変わる物理の法則、加工法・アクチュエータ ・微細加工、ナノテク、半導体製造、カーボンナノチューブ、微細気泡	配布資料に目を通しておくこと。
15	ミクロの機械(3) - 小さくて広大な世界	・半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 ・カプセル内視鏡、鞭毛モーター	配布資料に目を通しておくこと。

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	毎回、講義メモとレポートを提出する。 講義全体にわたるメモ(50%)、講義内容に対する理解と考察に関するレポート(50%)で評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか?日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか?近未来にどのような乗り物が実現されているのか?等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
-----------	---

担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1号館の3階・4階・5階〕
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。



科目名	科学技術教養 (M2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	諏訪 晴彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	人の活動に貢献し生活を豊かにする機械技術を理解するとともに、機械システムと社会や経済活動、生活・生命との関わりを理解する。
授業方法と留意点	・各テーマごとに、歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ(ノート)を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートにしていねいにまとめていくことが大事。
科目学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは?	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。	配付資料に目を通しておくこと
2	活動の源(1) - 動力・エネルギーの世界	・身近なエネルギー利用と動力の歴史 ・人力、蓄力、水力、風力、蒸気力	配付資料に目を通しておくこと
3	活動の源(2) - 発電	・エネルギー利用と発電 ・水力、風力、火力、地熱、原子力発電	配付資料に目を通しておくこと
4	乗り物(1) - エンジン	・熱工学とエンジンシステム ・種々のエンジン(ガソリン等)、電気モータ	配付資料に目を通しておくこと
5	乗り物(2) - 輸送する	・交通と物流 ・自動車交通、船舶、鉄道	配付資料に目を通しておくこと
6	空間を移動する(1) - 空を飛ぶ	・空中を飛ぶことができる機械の機能、種類、歴史と原理 ・飛行機、ヘリコプター、飛行船、揚力	配付資料に目を通しておくこと
7	空間を移動する(2) - 高速移動	・深海に潜ることができる機械の機能、種類、歴史と原理 ・しんかい 6500、深海探査、水圧、チタン合金、生命維持システム	配付資料に目を通しておくこと
8	空間を移動する(3) - 宇宙へ飛び立つ	・宇宙空間に飛んでいける機械の機能、種類、歴史と原理 ・ロケット、スペースシャトル、宇宙ステーション、高真空、ロケットエンジン	配付資料に目を通しておくこと
9	物を測る	・測り方を共通にすることで広がる世界 ・度量衡と政治の関係、原器、ものさし、機械的測定	配付資料に目を通しておくこと
10	センサで測る	・センサの発達と誤差との戦い ・センサ、センシング技術、計測と誤差	配付資料に目を通しておくこと
11	制御する	・制御の成り立ちと発展、自動制御とは? ・調速機、結果を見て制御する(フィードバック)	配付資料に目を通しておくこと
12	操る・抑える	・サーボ機構とプロセス制御 ・ロボットアーム、ロケット、原子力発電、鉄鋼プラント	配付資料に目を通しておくこと
13	生命・生体に倣う機械(1) バイオエンジニアリング	・バイオエンジニアリング、生体工学の世界 ・生体の模倣と設計、鳥と飛行機、ハコフグと低燃費自動車、サソリと多足ロボット	配付資料に目を通しておくこと
14	生命・生体に倣う機械(2) - 医療と健康	・人間を援ける医用工学、人間を癒す福祉工学の世界 ・人工臓器、福祉機器、健康機器、スポーツ機器	配付資料に目を通しておくこと
15	生命・生体に倣う機械(3) - ヒューマノイド	・人間を測る、診る、まねる世界 ・生体計測、生体力学、医用診断装置、ヒューマノイドロボット	配付資料に目を通しておくこと

関連科目 産業技術史

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回、講義メモとレポートを提出する。 講義全体にわたるメモ (50%), 講義内容に対する理解と考察に関するレポート (50%) で評価する。			
学生への メッセージ	機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか? 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか? 近未来にどのような乗り物が実現されているのか? 等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。			

科目名	科学技術教養 (E1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片田 喜章
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにおける電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。
到達目標	電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどのようなしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い、授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果 (資格)	計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。 これらの原理や特性を知ること、その性能をフルに引き出すことができる。 また、身近な電気製品のしくみを知ること、より有効活用することができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	電池の構造と応用技術	交流と直流、電池の種類と電圧発生原理、1次電池と2次電池	テキストを復習する。1時間
3	モータのしくみと応用	磁石と力、電磁石、直流モータと交流モータ	テキストを復習する。1時間
4	半導体のお話	半導体とは何か、p形とn形、大規模集積回路、LED照明とは	テキストを復習する。1時間
5	太陽電池の構造と家庭での利用	半導体で光エネルギーを電気に変換する。売電のしくみ。	テキストを復習する。1時間
6	様々な電子回路	電子回路の歴史、真空管と半導体・集積回路、代表的なアナログ電子回路	テキストを復習する。1時間
7	電波応用技術の変遷	電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験 変調方式、ラジオとテレビ	テキストを復習する。1時間
8	モールス通信から携帯電話へ	モールス電信からベルの電話へ、電話機と交換機のしくみ、アナログからデジタルへ、携帯電話とネットワークのしくみ	テキストを復習する。1時間
9	アナログからデジタルへ	アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門	テキストを復習する。1時間
10	パソコン・スマートフォンの内部構造	構成要素と機能、ハードウェアの構成、ソフトウェアの役割、パソコン・スマートフォンの進化	テキストを復習する。1時間
11	マイコンで制御される家電製品	電気制御の重要性、温度制御、圧力制御 電子レンジやIHのしくみ	テキストを復習する。1時間
12	音響機器のしくみ	マイクとスピーカ、録音技術の歴史 CDのしくみ、アナログ録音とデジタル録音、人工音の合成	テキストを復習する。1時間
13	画像表示のしくみ	画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、立体映像表示の原理と実例	テキストを復習する。1時間
14	インターネットのつながり方	インターネットのしくみ、ルータとハブ 無線LAN、ネットワークセキュリティ	テキストを復習する。1時間
15	医療分野への貢献	ガルバノの実験、義手の制御 電気工学の医療への応用	テキストを復習する。1時間

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	受講メモ50%、小テスト50%の総合点で評価する。
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館4階・5階の電気電子工学教員室
----------	--------------------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。
----	---

科目名	科学技術教養 (E2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	片田 喜章
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の歴史と簡単な基礎理論を説明した後、電気を発生する発電のしくみとその方法を手始めに、現代社会において応用されている電気電子工学、通信情報工学の最新科学技術について講述する。
到達目標	電車のしくみや放送技術、携帯電話やレーザー光線の原理、最新のナノテクノロジーやロボット工学、また宇宙規模の電気の話などもあり、最終的には電気を使った科学技術がどのようなしくみで我々の暮らしに関わっているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い、授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果(資格)	現代社会を支えている電気エネルギーとその応用について総合的に学ぶことにより、電気への理解を深め、これにより原子力発電も含めた電力供給系と節電に対する正しい考え方を身につけることができる。 また、携帯電話やスマートフォンでどこでも通信ができる社会のしくみ等も知ることができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史	琥珀はエレクトロン、磁石の利用、クーロンの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導、マクスウェル理論と電磁波の予言	電気に関するニュースに注意する。1時間
2	発電の原理と発電所	電気エネルギーを発生させるしくみ、発電機、水力、火力 交流発生か直流か、50Hzと60Hz	テキストを復習する。1時間
3	原子力発電	核エネルギーの発生、原子力発電のしくみ、事故と防災対策、放射線の性質と測定	テキストを復習する。1時間
4	再生可能エネルギー	太陽光発電、風力発電 地熱発電、海洋エネルギー、宇宙発電、エネルギー効率	テキストを復習する。1時間
5	送電・配電	電気を安定に送る、交流送電か直流送電、周波数変換 送電電圧と家庭電圧への変換、スマートグリッド	テキストを復習する。1時間
6	モータのしくみと電車	磁石と電流による力の発生、モータのしくみ 電車、リニア新幹線、電気ブレーキと電力回生	テキストを復習する。1時間
7	電波と放送	電波の利用と電波法、ラジオ放送、テレビ放送、衛星放送、放送の進化	テキストを復習する。1時間
8	携帯電話のしくみ	固定電話から携帯電話へ、セルラーシステム、携帯電話のつながるしくみ、音声通信からデータ通信へ、携帯電話の進化	テキストを復習する。1時間
9	私たちの生活をささえる電気照明	エジソンによる電灯の発明、蛍光灯のしくみ、青色LEDの発明、LED照明	テキストを復習する。1時間
10	レーザーの発明	物質からの光放射、線スペクトルと誘導放射 メーザーからレーザーへ、レーザーの特徴	テキストを復習する。1時間
11	光デバイス	さまざまな光デバイスの原理と応用など	テキストを復習する。1時間
12	進化するナノテクノロジー	半導体の動作原理、半導体集積回路の構造、集積回路技術の歴史と現状、スマートフォンからウェアラブル計算機へ、今後の発展	テキストを復習する。1時間
13	プログラマブル高速計算機の発達	チューリング機械、手回し計算機と計算尺、最初の電算機 ENIAC 弾道ミサイルの計算、金融計算から天気予報まで	テキストを復習する。1時間
14	ロボット工学	ロボット工学の過去・現在・未来を解説	テキストを復習する。1時間
15	電気と宇宙	第4の状態—プラズマ、放電の原理と応用、雷の発生原理、太陽プラズマと黒点の関係、オーロラの発光メカニズム	テキストを復習する。1時間

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	受講メモ 50%、小テスト 50%の総合点で評価する。
学生への メッセージ	我々の暮らしに電気は不可欠です。しかも原子力発電の問題が出てきて、エネルギー問題への関心は節電対策も含め高まっていると思います。しかし、単純に噂などを鵜呑みにするのではなく、電気の発生から伝達までのしくみを詳しく知れば、風評に惑わされることなく、対策を考えることができます。常に様々な電気関連のニュースに注意を払いながら受講して下さい。
担当者の 研究室等	1号館4階・5階電気電子工学科教員室
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	科学技術教養 (C1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片桐 信
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回目の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回目は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的にパワーポイントを用いた講義形式。授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する。</li> <li>歴史と人物と基本原則をセットとして取り扱う。第4回以降は材料や設計の基本原則を扱う。基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う。</li> <li>講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には、サンプルや簡単な実験を併用する。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 締めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術)	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか、歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか、構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計算する。川、ダムと港の設計へ、水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間、地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 (計画学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -命の水を守る-	衛生工学 (上下水道学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会 (環境工学)	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -都市の生命線-	ライフラインと防災	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 受講メモ50%、レポート・小論文50%の総合点で評価する。※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは2～3回に一回程度実施する予定。期末試験は行わない。

学生へのメッセージ 豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。



担当者の 研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含めは、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養 (C2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	片桐 信
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	概要：いくつかのプロジェクトを例に、建設事業の流れに沿って、社会的な位置づけ、市民生活との関わりを解説する。第1回目の授業では、事業主体別にプロジェクトの流れを説明する。第2～3回目は、高速道路建設を例に地形の調査・土質の調査、環境の調査を解説する。第4～7回は高速道路を構成する橋、トンネル、道路の設計と施工の考え方を解説する。第8～15回は、安全で潤いのある社会を築く観点からダム・堰、堤防、浸水対策、ライフライン、公園・まちづくり、地震防災など身近なテーマを概説する。
到達目標	土木構造物の計画から施工管理までの流れの概要を理解し土木構造物と社会や経済活動、生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	授業はパワーポイントを用いた講義形式とする。私たちの生活を支える社会基盤がどのようにして計画され、設計・施工されているかを事業の流れに沿って解説する。代表的な構造物や身近なテーマを取り上げ、安全で安心な社会を築くため、何が重要かを理解できるように講義を進める。
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているかなどの知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	高速道路建設の計画・調査・設計	国土開発や都市計画・地域計画との関連、一般道路や鉄道との関連、需要予測、予算、資本回収の考え方	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
3	建設に必要な調査①(地形の調査・土質の調査)	測量計測技術(地形測量・平板測量・水準測量・写真測量・GPS測量)、地盤の調査	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
4	建設に必要な調査②(環境の調査)	生態系・環境への影響、負荷の軽減策、排ガス規制と大気汚染など環境アセスメント	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
5	橋の設計と施工	コンクリート橋と鋼橋、橋の形式と適用支間長、景観設計、施工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
6	トンネル、半地下開削工法	山岳トンネル・都市地下トンネルの設計と施工、地山の強度と工法、半地下開削工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
7	道路の設計と施工	盛土形式と高架形式、道路の構造、道路舗装	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
8	ダム・堰の計画と施工	洪水への備え(治水、防災)、発電・灌漑・上水などの多目的ダム、ダムの構造と種類	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
9	堰・堤防の計画と設計・施工	洪水・土砂災害への備え(治山・治水、防災)、計画雨量、遊水池、親水施設	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
10	都市型洪水への備え	透水性舗装、都市大型地下貯槽、屋上緑化、排水と下水道設計、地下道・地下鉄の浸水対策	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
11	市民の日常生活を支えるライフライン	上下水道、水質管理、水質浄化、下水処理、電気、通信設備	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
12	市民の生活に潤いを与える公園・まちづくり	まちづくりとは、実現するものは、人とのかかわり、技術とのかかわり	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
13	市民の生活環境を守る	地球環境と生態系、人口増加と都市化・食糧生産、自然エネルギーの問題点、火力発電所と大気汚染・温暖化、原子力発電と放射能問題、温排水問題	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
14	震災から市民を守る	地震の種類と特性、地震に備える構造とは?制震構造と免震構造、ライフラインの耐震、避難体制、緊急地震速報	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
15	津波や台風・高潮から市民を守る	港湾施設・防波堤、津波、避難施設、避難誘導	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。

関連科目 特になし

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			

評価方法(基準) 受講メモ50%、レポート・小論文50%の総合点で評価する。※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは2～3回に一回程度実施する予定。期末試験は行わない。

学生へのメッセージ 豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているか知り理解を深めていただければ幸いです。

担当者の研究室等 講義担当者居室 1号館3階および4階

備考 出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。  
事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養 (T1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	長島 健
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。
到達目標	科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	初回に配布するテキスト及び毎回の配布プリントを用いる。各回の最後には講義メモを提出すること。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	人類にとっての数(1)	太古の昔、物を数えるための道具として「自然数」は生まれた。やがて「自然数」から「分数」へと数の世界は広がっていったが、どのような経緯を経たのか？人類の歴史と共に探る。	課題・レポート
	2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	課題・レポート
	3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	課題・レポート
	4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	課題・レポート
	5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	課題・レポート
	6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	課題・レポート
	7	波の数理 (音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	課題・レポート
	8	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	課題・レポート
	9	電磁波	光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返り現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マックスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	課題・レポート
	10	レーザー光	光を発するもの(光源)には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード(LED)が急速に普及している。本講では人が創り出した「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。	課題・レポート
	11	X線の発見から利用	X線の発見から発生の原理、さらにX線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンやX線CTがなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。	課題・レポート

	12	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	課題・レポート																
	13	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。	課題・レポート																
	14	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。	課題・レポート																
	15	ガリレオの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	課題・レポート																
関連科目	数学・物理の全科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>科学技術教養 T1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	科学技術教養 T1			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	科学技術教養 T1																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	講義メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。																			
学生への メッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。																			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館2階, 3号館3階, 8号館2階]																			
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。																			

科目名	科学技術教養 (T2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 伸一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。
到達目標	時間や位置とともに変化する量をどのように表すのか、そして、その変化の割合がいったい何を意味し、現代科学につながっていくのかを、歴史的背景も込めて、知る。
授業方法と留意点	座学・説明中心の講義となるので、遅刻・私語は厳禁である。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	微積分学が成立するまでの話	ニュートンとライブニッツという2つ異なる個性が微積分学の成立にどう影響したか、その歴史を概観する。	課題・レポート
2	文字式から単位のない実数の世界へ	微積分の厳密化の過程で、記号法・単位の問題から実数概念をどう獲得していったか振り返る。	課題・レポート
3	ヒルベルトのテーゼ: 無矛盾ならば存在する	微積分学が挑んだ無限を無矛盾・選択公理をキーワードにして述べる。	課題・レポート
4	現代科学は力(ちから) F から始まった	ニュートンの運動の法則 $F=ma$ は、なんだか良くわからない力 $F$ を使って、なんだか良くわからない質量 $m$ を定めた。どちらもわかっていないのに、大丈夫なのだろうか。	課題・レポート
5	万有引力の法則の美しいスケール不変性は偶然か	ニュートンが発見した「万有引力の法則」は、巨大なサイズをもった惑星の運動から導き出されたにもかかわらず、人工衛星や、飛行機、果ては雨粒にまで適用できることが分かった。これは、自然科学において貴重な「スケール不変性」をもつといい、人類の科学の発展にとって、計り知れないほど幸運であった。	課題・レポート
6	破壊力、衝撃力はどちらも同じ意味か	物体がもつ「運動の勢い」を考えると、2つの新しい概念が生まれた。一つを運動量といい、他方をエネルギーという。どちらの量が「運動の勢い」を正しく表している尺度なのか人々は50年間議論した。その結論はどうだったのか。	課題・レポート
7	蒸気機関と熱力学の誕生(1)	18世紀イギリス産業革命と熱機関。蒸気機関の改良・熱効率・熱素説。	課題・レポート
8	蒸気機関と熱力学の誕生(2)	カルノー登場。カルノーサイクルとそれを用いる思考実験。カルノーの定理の発見。	課題・レポート
9	蒸気機関と熱力学の誕生(3)	カルノーからケルビン、そしてクラウジウスに至る道。エネルギー保存則(熱力学第一法則)v. s. 不可逆性。熱力学第二法則とその表現。熱力学的エントロピー。	課題・レポート
10	角の3等分について(1)	歴史的背景、方程式と結びつける、ユークリッド作図、作図できる数・できない数	課題・レポート
11	角の3等分について(2)	60度は3等分できない、体の考え方	課題・レポート
12	角の3等分について(3)	体の拡大と作図できる数、定理の証明	課題・レポート
13	ニュートンからアインシュタインへ	慣性系、ガリレイ変換、マイケルソン・モーレーの実験等々アインシュタイン登場前に何が謎だったのかを説明する。	課題・レポート
14	特殊相対論---原理はたったの2つだけ	2つの基本的な原理を出発点にして、従来の時間や空間に対する考え方がどのように変更されたのか、高校レベルの数学を使って解説する。	課題・レポート
15	一般相対論---重力の謎	ニュートンの万有引力の法則はアインシュタインの相対論ではどのように記述されるのか?	課題・レポート

関連科目	数学・物理の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 T2		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

教養科目

	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義メモ 50%, レポート 50%で評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等				
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。			

科目名	科学技術教養 I～IV (V1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西村 仁
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが、その内容を理解することは容易ではない。本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、生命現象との関係などを個人レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。この講義の到達目標は、病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになることである。また、病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	生命科学に関するニュースがより身近になり、明確に理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	不妊のしくみ	日本人夫婦 (カップル) は 10 組のうち 1 組は不妊と言われており、実際に治療を受けている人が多い。しかし、なぜ不妊になるのかははっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
2	病気と遺伝子	我々が持つ DNA は日常生活で頻繁に「傷 (変異)」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
3	なぜ肥満は問題なのか?	肥満そのものは病気とは言えない。しかし、糖尿病、高脂血症、高血圧、脳血管障害など様々な「生活習慣病」と呼ばれる疾患のリスクファクターになることが知られている。なぜ肥満が様々な疾患の原因になってしまうのか、そのメカニズムと予防・治療法について解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
4	免疫が引き起こす病気のしくみ	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染 (インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
5	がんの発生とその予防法	死因別死亡率のトップはがんであり、約 3 人に 1 人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が、がんの原因の 30% を占めており、単因子要因としては最大である。本講義では、がんの発生機序やその予防法について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
6	ミトコンドリアと病気	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
7	くすりと遺伝子工学	ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して、遺伝子産物 (タンパク質) を生産したり、新しい形質を作り出すなど、遺伝子を人工的に操作する技術、遺伝子工学について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
8	くすりと組換え生物	生物が持つ遺伝情報に改変を施した「遺伝子組換え生物」は、再生医療やヒト疾患の治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の開発などにも役立っている。本講義では、遺伝子組換え生物やクローン生物の作製に関する技術と応用について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
9	くすりとバイオインフォマティクス	遺伝子やタンパク質の配列情報を例にバイオインフォマティクスの概要について説明し、病気と遺伝子、ゲノム創薬への応用について述べる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
10	くすりとタンパク質のかたち	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に医薬品開発への応用について述べる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)

	11	くすりとゲノム	ゲノムとは、創薬とは、遺伝子診断などを解説し、生命倫理、歴史的な背景や将来の課題と発展方向をさぐる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)																
	12	薬物乱用と依存性薬物	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)																
	13	遺伝子治療の最前線	遺伝子により治療はできるか、遺伝性疾患、科学・技術の概要、基本的な原理、を解説。生命倫理や関連した話題のトピックについても触れる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)																
	14	認知症～その原因と治療法	我が国は超高齢化社会へと進行し続けおり、2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症患者になると推定されている。そのため、認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立てが見つからなければ、社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)																
	15	iPS 細胞研究の最前線	京都大学の山中伸弥教授によって作り出された iPS 細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり、新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義で iPS 細胞の発見から現在までの研究状況を概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)																
関連科目	科学技術教養 V2																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	80%以上の出席を前提とした上で、講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。なお、30 分未満の遅刻は欠席 0.5 日、30 分以上の遅刻は欠席 1 日とする。																			
学生へのメッセージ	病気やくすりはみなさんの身近な問題で、関心も大きいと思います。本講義では病気やくすりについて、生命科学の観点から具体例を挙げて分かりやすく解説します。																			
担当者の研究室等	1 号館 9 階 川崎, 尾山, 西村, 中嶋, 宮崎, 船越, 井尻, 居場研究室																			
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は 15 時間																			



科目名	科学技術教養 I～IV (V2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	青笹 治
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義では、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、繊維加工に利用されている遺伝子組換え技術など、我々の暮らしを豊かにするバイオテクノロジーから、環境リスクの評価、ヒトの健康を守る知識や技術まで、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。
到達目標	醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について説明できる。
授業方法と留意点	講義内容について資料を配付し、パワーポイントを用いて解説する。講義ごとに受講メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々の暮らしや健康との関わりが理解できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	機能性食品などの新しい食品の形態	食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。	配布資料を復習する。
	2	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。	配布資料を復習する。
	3	繊維とバイオテクノロジー	繊維に反応する酵素を紹介し、これらを用いた繊維加工の応用例および今後の可能性について解説する。	配布資料を復習する。
	4	遺伝子組換え植物とその将来	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。	配布資料を復習する。
	5	バイオレメディエーションの可能性	過去、日本であった重金属汚染について簡単に復習し、特に水銀に焦点を合わせて水銀浄化法を説明する。物理化学的浄化法と微生物を用いた生物学的浄化法を対比しながら、適宜遺伝子組換え技術について補足を加え概説し、植物を用いた生物学的浄化法についても説明する。	配布資料を復習する。
	6	最先端のバイオエネルギー技術	21世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場から解説する。	配布資料を復習する。
	7	新規エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響	近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から解説する。	配布資料を復習する。
	8	食品の健康障害リスクと対策	微生物、アレルギー性物質、残留農薬などの食品に存在するヒトの健康障害リスクについて具体的な事例を取り上げ、解説する。	配布資料を復習する。
	9	動く分子とバイオテクノロジー	ATP合成酵素や細菌のべん毛モーターなどの動く分子を紹介し、生物がもつ運動機能を生体分子モーターなどへ応用するバイオテクノロジーについて解説する。	配布資料を復習する。
	10	モデル生物を用いたバイオテクノロジー	近年の生命科学ではヒトの遺伝子機能や生体機能、遺伝性疾患のメカニズムの解析の方法として様々なモデル生物が盛んに用いられている。それらの応用例を実際の写真等を示しながら、実際の研究例や今後期待される展望を紹介する。	配布資料を復習する。
	11	微生物酵素を用いる物質生産システム～バイオテクノロジーを支える酵素利用技術～	酵素は優れた機能を有するタンパク質性の触媒であるが、産業で利用されている酵素の殆どは、加水分解酵素、転移酵素、異性化酵素などであり、反応に補酵素やエネルギーを要する酵素の利用に遅れが見られる。かかる酵素の産業への	配布資料を復習する。

教養科目

			応用を可能にする酵素利用技術(固定化酵素など)と酵素改変技術(分子進化工学、逆進化工学、タンパク質工学など)の現状と将来について概観する。																	
	12	遺伝子工学からゲノム工学へ～バイオテクノロジーを支える微生物の形質転換法～	微生物の遺伝子交換法として、形質導入、接合、及び形質転換の3つが知られている。ここでは、真核微生物であり、遺伝子発現などの分子機構において高等動植物と共通性が高い出芽酵母における形質転換法の発展の経緯、方法、及びDNA取り込み機構を概観する。近年、進展の著しい巨大ゲノムDNAを扱う合成生物学やゲノム工学も展望する。	配布資料を復習する。																
	13	植物を用いた有用タンパク質生産	植物は、安全性、低コスト、分離精製の容易さなどの点から外来タンパク質の生産系として優れている。本講義では、植物を宿主とした生理活性タンパク質・ペプチドや抗体、ワクチン、医療用タンパク質などの生産について解説する。	配布資料を復習する。																
	14	環境リスクの評価方法	環境汚染物質や食品添加物などの合成化学物質などのヒトに対する安全性評価すなわちリスクアセスメントの考え方を講述し、水道水質基準や環境基準の策定に関する基本的な考え方を述べる。	配布資料を復習する。																
	15	地球規模の環境破壊と人体への影響	主にオゾン層の破壊、地球の温暖化および酸性雨に関して発生原因、発生機構、人への影響およびその防止対策に関して述べる。	配布資料を復習する。																
関連科目	科学技術教養V1																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	授業態度20%、受講メモ40%およびレポート、小論文、演習問題などの課題40%の総合点で評価する。																			
学生へのメッセージ	遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。																			
担当者の研究室等	1号館8階 環境分析学研究室(青笹)																			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部の出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱います。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。																			

科目名	科学技術教養 I～IV (R1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大橋 巧
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる技術、手法を学ぶ。
到達目標	住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎知識を習得できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	エコ技術と住宅デザイン-近代の住宅事例	新しい素材、技術、理論の進展に伴い、エコ技術を駆使した近代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例	自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	都市デザインにおけるエコ技術	ヒートアイランド対策をはじめとする、都市デザインにおけるエコ技術について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	住環境における換気	換気の考え方の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気的重要性について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	健康で快適な生活とにおける対策	心身ともに健康に過ごすための、住宅内での問題や対策の考え方について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	生活の中における香りの活用	屋内外の香りや人の関わりのはなしから、香りの人への心理的影響や香りの積極的な利用方法について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	いのちを守るあかりとサイン	大規模災害時に避難・誘導を助けるあかりやサインの存在を知り、その有用性とデザイン上の注意点を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	安全・快適な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と、最近の調査、デザイン事例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	暮らしの中のさまざまな寸法	身近なモノの寸法がどの様に決められているかを知り、住まいや暮らしをより豊かにするデザインの視点を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	野生動物との共存のデザイン	近年獣害が増加する獣害問題及び野生動物と人間が共存するための方策を、具体的事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	CGと空間デザイン	インテリアや住宅デザインで用いられるCGのしくみと基本知識、その有用性について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	かたちとデザイン	身の周りにある家具や住宅などのかたちをコンピュータを用いて表現する方法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	アニメーションと空間デザイン	アニメーションを用いて空間を表現した事例紹介から、そのしくみと効果について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。

関連科目: なし

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	科学技術教養 (R1) 住環境デザイン学科 教科書	摂南大学理工学部住環境デザイン学科	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなど 80%で評価する。 期末試験は行わない。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	12号館 6・7階 各教員研究室
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、 毎回1時間程度と考えてください。

科目名	科学技術教養 I～IV (R 2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大橋 巧
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	日本の伝統的な住宅は、気候風土、地形、材料などに影響を受けて地方色が豊かであり、歴史的、文化的な相違からも地域性が認められる。現代の住まいや暮らしはそれらの影響を受けて、さまざまな技術の発達、社会の変化とともに、かつての住まいや暮らしの形は変容しつつある。このような身近な住まい、まち、暮らしについての知識を得て、今後の持続可能な社会を創造するための手法を学ぶ。
到達目標	到達目標：建築都市インテリアなどの空間における歴史的文化的背景による地域性を理解し、持続可能な社会を創造するためのまちづくりや住宅建築など、住環境の未来に向けたデザイン手法を習得できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	(オリエンテーション) 住まいと生活	(科目の内容、授業の進め方、評価基準等を説明する。) 住まいと何か。家庭生活や社会生活が複雑に多様化する中で住まいの本来の機能や役割について学ぶ。	配布資料講義部分の復習を十分に行う。
	2	日本の住まいの地域性	気候風土や歴史、文化などを背景に、地方色豊かな伝統的日本住宅について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	3	住宅とまちの関係	事例紹介に沿って住環境としてのまちなみの個性と課題を解説する。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	4	まちのにぎわい	自然発生的建築の多義性、多様性を解説し、現代における住環境の空間デザイン論を語る。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	5	福祉住環境のデザイン	今までに携わってきた事例を紹介しつつ、住の延長としての医療福祉系住環境の課題を解説する。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	6	様々な人に配慮した住宅・施設設備	ユニバーサルデザインの観点からの住宅設備や施設設備について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	7	高齢者のための生活空間	高齢者の外出行動、生活環境の広がり、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	8	高齢者の生活環境の広がり と支援	高齢者の心身機能の特性を踏まえて、高齢者をめぐる住宅行政や、様々な高齢者居住について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	9	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	10	地球共生建築のすすめ	地球共生建築および構造、コンポーネントデザインについて学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	11	バイオミメティックデザイン	自然界における形態と構造とその応用デザインについて学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	12	次世代の住環境を考える	私たちの住環境はどのように進化すべきか、地球共生から宇宙共生についてを考える。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	13	冷暖房システムのエコ技術	日本の気候風土と冷暖房システムの現状を再考し、今後の暮らしのあり方について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	14	暮らしの中の太陽エネルギー利用	太陽光発電システムと太陽熱利用システムをとりあげ、暮らしの中の太陽エネルギー利用について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	15	居住地域を把握する —社会指標にみる地域の実態	我々が居住する地域について、社会指標とよばれる各種のデータを用いて表現する手法を学ぶ	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 (R 2) 住環境デザイン学科 教科書	理工学部住環境デザイン学科	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなどを合わせ 80% で評価する。 期末試験は行わない。
-----------	---

学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	12号館 6・7階 各教員研究室
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前・事後学習にかかる学習時間は、授業外の課題や小テストの学習時間も含めて、毎回1時間程度とすること。

科目名	科学技術教養 I～IV (A1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宮本 征一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。
到達目標	卒業してからの社会生活のための有用な科学技術に関する教養が身に付きこれからの社会を生き抜くことができるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	建築とは何か	建築の考え方、 建築家の果たす役割	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	2	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、 ライフスタイルからみた多様性、民族・ 地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	3	建築と都市環境	建築と都市の関係、 都市環境のデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	4	建築の歴史	建築の歴史の変遷から建築における多 様な「技術」について学ぶ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	5	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がど のように関係しているのかを理解する 視点を養います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	6	建築の内装	インテリア、 家具・内装	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	7	建築の外装・外構	外装材とは エクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	8	建築のUD	こどもと建築、 バリアフリー、ユニバーサルデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	9	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築の ストック活用事例、保存手法、コンバー ションといった建築保存の視点から見 る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	10	建築の温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する 視点を培います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	11	建築における設備	採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒 音・エネルギー、 エレベーター、エスカレーター	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	12	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	13	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	14	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	15	建築をつくる新技術	構造、材料、施工の新技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	計 15 回の課題 (課題レポート・講義メモ・小テスト・課題・グループワークディスカッションの成果などを含む) を 100% として評価する。期末試験は行わない。
-----------	---

学生へのメッセージ	受講希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。  教科書 (配布予定) ので事前あるいは事後学習に当該回の範囲を読んだり、確認したり、1回あたり 1.5 時間以上をかける必要がある。
----	---

科目名	科学技術教養 I～IV (A2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宮本 征一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築の代表的な計画デザインや実施の事例、およびその手法について紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。
到達目標	卒業後の社会生活において必要な科学技術の教養を身に付けてこれからの社会を生き抜くことができるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	住む建築	住宅、住むことの工夫	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	2	集まって住む建築	集まって住む楽しさ、集まって住むカタチ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	3	福祉医療の建築	建築と福祉医療	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	4	公共の建築	公共の建築、パブリックスペース、公共性のある都市施設等に着目し、建築の公共性について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	5	商業の建築	商業建築、商店街の歴史と再生	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	6	文化の建築	建築に象徴された様々な文化を読み取る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	7	交通の建築	陸・海・空の交通 交通建築の特徴	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	8	高層の建築	五重塔と超高層、 超高層建築の性能と設計、耐震要素と構造技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	9	地下空間の建築	地下空間のメリット、地下空間の利用、 大深度地下、地下都市	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	10	環境共生と建築	環境と共生する建築について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	11	木造の建築	木匠、伝統技術と最新技術 木造建築、木材の使用	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	12	プレハブ建築	種類と概要、 プレハブ化の普及、設計と生産、 災害仮設住宅	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	13	建築とロボット	ロボット導入の経緯、 ロボット化の現状と技術、 今後のロボット	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	14	街並みの建築	ランドスケープと建築、 街並みと要素	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	15	将来の建築	空間条件と心理、ヒューマンスケール、 人はどこに住むか、 近代建築の問題、将来の建替	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目	専門科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	計 15 回の課題 (課題レポート・講義メモ・小テスト・課題・グループワークディスカッションの成果などを含む) を 100%として評価する。期末試験は行わない。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講者希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
-----------	---------------------------------------

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。  教科書 (配布予定) ので事前あるいは事後学習に当該回の範囲を読んだり、確認したり、1回あたり 1.5 時間以上をかける必要がある
----	--

教養科目



科目名	科学技術教養 I～IV (M1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀江 昌朗
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ(ノート)を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートに丁寧にまとめていくことが大事。
科目学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは?	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。	配布資料に目を通しておくこと。
2	道具を作る(1) - ヒトと道具	・道具の歴史;ヒトの手の動作を補助道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	配布資料に目を通しておくこと。
3	道具を作る(2) - 作り方	・鋳造、塑性加工、粉末冶金、材料加工、生産加工 ・刀鍛冶、セラミックス、溶接・切断	配布資料に目を通しておくこと。
4	モノの材料を知る(1) - 金属材料	・金属材料はなぜ素材たり得るか? ・鉄鋼の製造方法	配布資料に目を通しておくこと。
5	モノの材料を知る(2) - セラミックス・ポリマー	・セラミックス・ポリマーの構造(金属と何が異なるか?) ・高強度・機能性材料の話	配布資料に目を通しておくこと。
6	モノの材料を知る(3) - 新素材	・新素材と高度産業化社会 ・形状記憶、超伝導、ナノ材料	配布資料に目を通しておくこと。
7	ものづくり(1) - 母なる機械	・機械部品を作る機械(工作機械の歴史) ・機械時計、工具と運動、機械部品	配布資料に目を通しておくこと。
8	ものづくり(2) - 精密に加工する	・精度を追求する(コンピュータと工作機械) ・精密加工、マシニングセル、ナノ加工	配布資料に目を通しておくこと。
9	ものづくり(3) - 工場(ファクトリー)	・世界が学ぶ・日本が誇る製造システム ・無人化工場、デジタル屋台、トヨタ生産方式	配布資料に目を通しておくこと。
10	大きな力を得る(1) - 車輪	・作業を補助する機械の歴史 ・車輪、滑車、てこ、歯車	配布資料に目を通しておくこと。
11	大きな力を得る(2) - 建設運搬機械	・巨大な力を得るためのアクチュエータ ・油圧・水圧・空気圧機器、電動機	配布資料に目を通しておくこと。
12	大きな力を得る(3) - パワーアシスト	・アクチュエータの知能化とパワーアシスト ・パワードスーツ、電動アシスト自転車、人工筋肉	配布資料に目を通しておくこと。
13	ミクロの機械(1) - 精密機械	・小さくなることで変わる使い方 ・時計、携帯電話、計算機、テレビカメラ、情報機器	配布資料に目を通しておくこと。
14	ミクロの機械(2) - 小さく作る	・小さくすることで変わる物理の法則、加工法・アクチュエータ ・微細加工、ナノテク、半導体製造、カーボンナノチューブ、微細気泡	配布資料に目を通しておくこと。
15	ミクロの機械(3) - 小さくて広大な世界	・半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 ・カプセル内視鏡、鞭毛モーター	配布資料に目を通しておくこと。

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	毎回、講義メモとレポートを提出する。 講義全体にわたるメモ(50%)、講義内容に対する理解と考察に関するレポート(50%)で評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか?日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか?近未来にどのような乗り物が実現されているのか?等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
-----------	---

担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1号館の3階・4階・5階〕
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。



科目名	科学技術教養 I～IV (M2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	諏訪 晴彦
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	人の活動に貢献し生活を豊かにする機械技術を理解するとともに、機械システムと社会や経済活動、生活・生命との関わりを理解する。
授業方法と留意点	・各テーマごとに、歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ(ノート)を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートに丁寧にまとめていくことが大事。
科目学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは?	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学受茶室」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。	配付資料に目を通しておくこと
2	活動の源(1) - 動力・エネルギーの世界	・身近なエネルギー利用と動力の歴史 ・人力、蓄力、水力、風力、蒸気力	配付資料に目を通しておくこと
3	活動の源(2) - 発電	・エネルギー利用と発電 ・水力、風力、火力、地熱、原子力発電	配付資料に目を通しておくこと
4	乗り物(1) - エンジン	・熱工学とエンジンシステム ・種々のエンジン(ガソリン等)、電気モータ	配付資料に目を通しておくこと
5	乗り物(2) - 輸送する	・交通と物流 ・自動車交通、船舶、鉄道	配付資料に目を通しておくこと
6	空間を移動する(1) - 空を飛ぶ	・空中を飛ぶことができる機械の機能、種類、歴史と原理 ・飛行機、ヘリコプター、飛行船、揚力	配付資料に目を通しておくこと
7	空間を移動する(2) - 高速移動	・深海に潜ることができる機械の機能、種類、歴史と原理 ・しんかい 6500、深海探査、水圧、チタン合金、生命維持システム	配付資料に目を通しておくこと
8	空間を移動する(3) - 宇宙へ飛び立つ	・宇宙空間に飛んでいける機械の機能、種類、歴史と原理 ・ロケット、スペースシャトル、宇宙ステーション、高真空、ロケットエンジン	配付資料に目を通しておくこと
9	物を測る	・測り方を共通にすることで広がる世界 ・度量衡と政治の関係、原器、ものさし、機械的測定	配付資料に目を通しておくこと
10	センサで測る	・センサの発達と誤差との戦い ・センサ、センシング技術、計測と誤差	配付資料に目を通しておくこと
11	制御する	・制御の成り立ちと発展、自動制御とは? ・調速機、結果を見て制御する(フィードバック)	配付資料に目を通しておくこと
12	操る・抑える	・サーボ機構とプロセス制御 ・ロボットアーム、ロケット、原子力発電、鉄鋼プラント	配付資料に目を通しておくこと
13	生命・生体に倣う機械(1) バイオエンジニアリング	・バイオエンジニアリング、生体工学の世界 ・生体の模倣と設計、鳥と飛行機、ハコフグと低燃費自動車、サソリと多足ロボット	配付資料に目を通しておくこと
14	生命・生体に倣う機械(2) - 医療と健康	・人間を援ける医用工学、人間を癒す福祉工学の世界 ・人工臓器、福祉機器、健康機器、スポーツ機器	配付資料に目を通しておくこと
15	生命・生体に倣う機械(3) - ヒューマノイド	・人間を測る、診る、まねる世界 ・生体計測、生体力学、医用診断装置、ヒューマノイドロボット	配付資料に目を通しておくこと

関連科目 産業技術史

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回、講義メモとレポートを提出する。 講義全体にわたるメモ (50%), 講義内容に対する理解と考察に関するレポート (50%) で評価する。			
学生への メッセージ	機械工学に関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか? 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか? 近未来にどのような乗り物が実現されているのか? 等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。			

科目名	科学技術教養 I～IV (E1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片田 喜章
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにある電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。
到達目標	電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどのようなしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い、授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果(資格)	計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。 これらの原理や特性を知ることで、その性能をフルに引き出すことができる。 また、身近な電気製品のしくみを知ることで、より有効活用することができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	電気の歴史と電気回路の基礎	電磁気学の歴史、電気回路の基礎、抵抗と電気エネルギーの利用、消費電力、交流と直流	電気に関するニュースに注意する。1時間
	2	電池の構造と応用技術	交流と直流、電池の種類と電圧発生原理、1次電池と2次電池	テキストを復習する。1時間
	3	モータのしくみと応用	磁石と力、電磁石、直流モータと交流モータ	テキストを復習する。1時間
	4	半導体のお話	半導体とは何か、p形とn形、大規模集積回路、LED照明とは	テキストを復習する。1時間
	5	太陽電池の構造と家庭での利用	半導体で光エネルギーを電気に変換する。売電のしくみ。	テキストを復習する。1時間
	6	様々な電子回路	電子回路の歴史、真空管と半導体・集積回路、代表的なアナログ電子回路	テキストを復習する。1時間
	7	電波応用技術の変遷	電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験 変調方式、ラジオとテレビ	テキストを復習する。1時間
	8	モールス通信から携帯電話へ	モールス電信からベルの電話へ、電話機と交換機のしくみ、アナログからデジタルへ、携帯電話とネットワークのしくみ	テキストを復習する。1時間
	9	アナログからデジタルへ	アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門	テキストを復習する。1時間
	10	パソコン・スマートフォンの内部構造	構成要素と機能、ハードウェアの構成、ソフトウェアの役割、パソコン・スマートフォンの進化	テキストを復習する。1時間
	11	マイコンで制御される家電製品	電気制御の重要性、温度制御、圧力制御 電子レンジやIHのしくみ	テキストを復習する。1時間
	12	音響機器のしくみ	マイクとスピーカ、録音技術の歴史 CDのしくみ、アナログ録音とデジタル録音、人工音の合成	テキストを復習する。1時間
	13	画像表示のしくみ	画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、立体映像表示の原理と実例	テキストを復習する。1時間
	14	インターネットのつながり方	インターネットのしくみ、ルータとハブ 無線LAN、ネットワークセキュリティ	テキストを復習する。1時間
	15	医療分野への貢献	ガルバノの実験、義手の制御 電気工学の医療への応用	テキストを復習する。1時間

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	受講メモ50%、小テスト50%の総合点で評価する。
----------	---------------------------

学生へのメッセージ	身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館4階・5階の電気電子工学教員室
----------	--------------------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。
----	---

科目名	科学技術教養 I～IV (E2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	片田 喜章
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	電気は我々の生活になくなくてはならないものである。この講義では電気の歴史と簡単な基礎理論を説明した後、電気を発生する発電のしくみとその方法を手始めに、現代社会において応用されている電気電子工学、通信情報工学の最新科学技術について講述する。
到達目標	電車のしくみや放送技術、携帯電話やレーザー光線の原理、最新のナノテクノロジーやロボット工学、また宇宙規模の電気の話などもあり、最終的には電気を使った科学技術がどのようなしくみで我々の暮らしに関わっているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い、授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果(資格)	現代社会を支えている電気エネルギーとその応用について総合的に学ぶことにより、電気への理解を深め、これにより原子力発電も含めた電力供給系と節電に対する正しい考え方を身につけることができる。 また、携帯電話やスマートフォンでどこでも通信ができる社会のしくみ等も知ることができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史	琥珀はエレクトロン、磁石の利用、クーロンの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導、マクスウェル理論と電磁波の予言	電気に関するニュースに注意する。1時間
2	発電の原理と発電所	電気エネルギーを発生させるしくみ、発電機、水力、火力 交流発生か直流か、50Hzと60Hz	テキストを復習する。1時間
3	原子力発電	核エネルギーの発生、原子力発電のしくみ、事故と防災対策、放射線の性質と測定	テキストを復習する。1時間
4	再生可能エネルギー	太陽光発電、風力発電 地熱発電、海洋エネルギー、宇宙発電、エネルギー効率	テキストを復習する。1時間
5	送電・配電	電気を安定に送る、交流送電か直流送電、周波数変換 送電電圧と家庭電圧への変換、スマートグリッド	テキストを復習する。1時間
6	モータのしくみと電車	磁石と電流による力の発生、モータのしくみ 電車、リニア新幹線、電気ブレーキと電力回生	テキストを復習する。1時間
7	電波と放送	電波の利用と電波法、ラジオ放送、テレビ放送、衛星放送、放送の進化	テキストを復習する。1時間
8	携帯電話のしくみ	固定電話から携帯電話へ、セルラーシステム、携帯電話のつながるしくみ、音声通信からデータ通信へ、携帯電話の進化	テキストを復習する。1時間
9	私たちの生活をささえる電気照明	エジソンによる電灯の発明、蛍光灯のしくみ、青色LEDの発明、LED照明	テキストを復習する。1時間
10	レーザーの発明	物質からの光放射、線スペクトルと誘導放射 メーザーからレーザーへ、レーザーの特徴	テキストを復習する。1時間
11	光デバイス	さまざまな光デバイスの原理と応用など	テキストを復習する。1時間
12	進化するナノテクノロジー	半導体の動作原理、半導体集積回路の構造、集積回路技術の歴史と現状、スマートフォンからウェアラブル計算機へ、今後の発展	テキストを復習する。1時間
13	プログラマブル高速計算機の発達	チューリング機械、手回し計算機と計算尺、最初の電算機 ENIAC 弾道ミサイルの計算、金融計算から天気予報まで	テキストを復習する。1時間
14	ロボット工学	ロボット工学の過去・現在・未来を解説	テキストを復習する。1時間
15	電気と宇宙	第4の状態ープラズマ、放電の原理と応用、雷の発生原理、太陽プラズマと黒点の関係、オーロラの発光メカニズム	テキストを復習する。1時間

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	受講メモ 50%、小テスト 50%の総合点で評価する。
学生への メッセージ	我々の暮らしに電気は不可欠です。しかも原子力発電の問題が出てきて、エネルギー問題への関心は節電対策も含め高まっていると思います。しかし、単純に噂などを鵜呑みにするのではなく、電気の発生から伝達までのしくみを詳しく知れば、風評に惑わされることなく、対策を考えることができます。常に様々な電気関連のニュースに注意を払いながら受講して下さい。
担当者の 研究室等	1号館4階・5階電気電子工学科教員室
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	科学技術教養 I～IV (C1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片桐 信
ディプロマポリシー(DP)			

教養科目

授業概要・目的	授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回目の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回目は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的にパワーポイントを用いた講義形式。授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する。</li> <li>歴史と人物と基本原則をセットとして取り扱う。第4回以降は材料や設計の基本原則を扱う。基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う。</li> <li>講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には、サンプルや簡単な実験を併用する。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 締固めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術)	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか、歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか、構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計算する。川、ダムと港の設計へ、水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間、地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 (計画学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -命の水を守る-	衛生工学 (上下水道学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会 (環境工学)	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -都市の生命線-	ライフラインと防災	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	受講メモ50%、レポート・小論文50%の総合点で評価する。※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは2～3回に一回程度実施する予定。期末試験は行わない。
-----------	---

学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。
-----------	--



担当者の 研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含めは、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養 I～IV (C2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	片桐 信
ディプロマポリシー(DP)			

教養科目

授業概要・目的	概要：いくつかのプロジェクトを例に、建設事業の流れに沿って、社会的な位置づけ、市民生活との関わりを解説する。第1回目の授業では、事業主体別にプロジェクトの流れを説明する。第2～3回目は、高速道路建設を例に地形の調査・土質の調査、環境の調査を解説する。第4～7回は高速道路を構成する橋、トンネル、道路の設計と施工の考え方を解説する。第8～15回は、安全で潤いのある社会を築く観点からダム・堰、堤防、浸水対策、ライフライン、公園・まちづくり、地震防災など身近なテーマを概説する。
到達目標	土木構造物の計画から施工管理までの流れの概要を理解し土木構造物と社会や経済活動、生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	授業はパワーポイントを用いた講義形式とする。私たちの生活を支える社会基盤がどのようにして計画され、設計・施工されているかを事業の流れに沿って解説する。代表的な構造物や身近なテーマを取り上げ、安全で安心な社会を築くため、何が重要かを理解できるように講義を進める。
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているかなどの知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	高速道路建設の計画・調査・設計	国土開発や都市計画・地域計画との関連、一般道路や鉄道との関連、需要予測、予算、資本回収の考え方	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
3	建設に必要な調査①(地形の調査・土質の調査)	測量計測技術(地形測量・平板測量・水準測量・写真測量・GPS測量)、地盤の調査	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
4	建設に必要な調査②(環境の調査)	生態系・環境への影響、負荷の軽減策、排ガス規制と大気汚染など環境アセスメント	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
5	橋の設計と施工	コンクリート橋と鋼橋、橋の形式と適用支間長、景観設計、施工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
6	トンネル、半地下開削工法	山岳トンネル・都市地下トンネルの設計と施工、地山の強度と工法、半地下開削工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
7	道路の設計と施工	盛土形式と高架形式、道路の構造、道路舗装	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
8	ダム・堰の計画と施工	洪水への備え(治水、防災)、発電・灌漑・上水などの多目的ダム、ダムの構造と種類	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
9	堰・堤防の計画と設計・施工	洪水・土砂災害への備え(治山・治水、防災)、計画雨量、遊水池、親水施設	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
10	都市型洪水への備え	透水性舗装、都市大型地下貯槽、屋上緑化、排水と下水道設計、地下道・地下鉄の浸水対策	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
11	市民の日常生活を支えるライフライン	上下水道、水質管理、水質浄化、下水処理、電気、通信設備	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
12	市民の生活に潤いを与える公園・まちづくり	まちづくりとは、実現するものは、人とのかかわり、技術とのかかわり	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
13	市民の生活環境を守る	地球環境と生態系、人口増加と都市化・食糧生産、自然エネルギーの問題点、火力発電所と大気汚染・温暖化、原子力発電と放射能問題、温排水問題	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
14	震災から市民を守る	地震の種類と特性、地震に備える構造とは？制震構造と免震構造、ライフラインの耐震、避難体制、緊急地震速報	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
15	津波や台風・高潮から市民を守る	港湾施設・防波堤、津波、避難施設、避難誘導	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。

関連科目 特になし

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			

評価方法(基準) 受講メモ50%、レポート・小論文50%の総合点で評価する。※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは2～3回に一回程度実施する予定。期末試験は行わない。

学生へのメッセージ 豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているか知り理解を深めていただければ幸いです。

担当者の研究室等 講義担当者居室 1号館3階および4階

備考 出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。  
事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養 I～IV (T1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	長島 健
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。
到達目標	科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	初回に配布するテキスト及び毎回の配布プリントを用いる。各回の最後には講義メモを提出すること。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	人類にとっての数(1)	太古の昔、物を数えるための道具として「自然数」は生まれた。やがて「自然数」から「分数」へと数の世界は広がっていったが、どのような経緯を経たのか？人類の歴史と共に探る。	課題・レポート
	2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	課題・レポート
	3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	課題・レポート
	4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	課題・レポート
	5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	課題・レポート
	6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	課題・レポート
	7	波の数理 (音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	課題・レポート
	8	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	課題・レポート
	9	電磁波	光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返り現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マックスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	課題・レポート
	10	レーザー光	光を発するもの(光源)には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード(LED)が急速に普及している。本講では人が創り出した「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。	課題・レポート
	11	X線の発見から利用	X線の発見から発生の原理、さらにX線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンやX線CTがなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。	課題・レポート

	12	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	課題・レポート																
	13	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。	課題・レポート																
	14	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。	課題・レポート																
	15	ガリレオの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	課題・レポート																
関連科目	数学・物理の全科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>科学技術教養 T1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	科学技術教養 T1			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	科学技術教養 T1																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	講義メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。																			
学生への メッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。																			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館2階, 3号館3階, 8号館2階]																			
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。																			

科目名	科学技術教養 I～IV (T2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 伸一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。
到達目標	時間や位置とともに変化する量をどのように表すのか、そして、その変化の割合がいったい何を意味し、現代科学につながっていくのかを、歴史的背景も込めて、知る。
授業方法と留意点	座学・説明中心の講義となるので、遅刻・私語は厳禁である。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	微積分学が成立するまでの話	ニュートンとライブニッツという2つ異なる個性が微積分学の成立にどう影響したか、その歴史を概観する。	課題・レポート
2	文字式から単位のない実数の世界へ	微積分の厳密化の過程で、記号法・単位の問題から実数概念をどう獲得していったか振り返る。	課題・レポート
3	ヒルベルトのテーゼ:無矛盾ならば存在する	微積分学が挑んだ無限を無矛盾・選択公理をキーワードにして述べる。	課題・レポート
4	現代科学は力(ちから)F から始まった	ニュートンの運動の法則 $F=ma$ は、なんだか良くわからない力Fを使って、なんだか良くわからない質量mを定めた。どちらもわかっていないのに、大丈夫なのだろうか。	課題・レポート
5	万有引力の法則の美しいスケール不変性は偶然か	ニュートンが発見した「万有引力の法則」は、巨大なサイズをもった惑星の運動から導き出されたにもかかわらず、人工衛星や、飛行機、果ては雨粒にまで適用できることが分かった。これは、自然科学において貴重な「スケール不変性」をもつといい、人類の科学の発展にとって、計り知れないほど幸運であった。	課題・レポート
6	破壊力、衝撃力はどちらも同じ意味か	物体がもつ「運動の勢い」を考えると、2つの新しい概念が生まれた。一つを運動量といい、他方をエネルギーという。どちらの量が「運動の勢い」を正しく表している尺度なのか人々は50年間議論した。その結論はどうだったのか。	課題・レポート
7	蒸気機関と熱力学の誕生(1)	18世紀イギリス産業革命と熱機関。蒸気機関の改良・熱効率・熱素説。	課題・レポート
8	蒸気機関と熱力学の誕生(2)	カルノー登場。カルノーサイクルとそれを用いる思考実験。カルノーの定理の発見。	課題・レポート
9	蒸気機関と熱力学の誕生(3)	カルノーからケルビン、そしてクラウジウスに至る道。エネルギー保存則(熱力学第一法則)v. s. 不可逆性。熱力学第二法則とその表現。熱力学的エントロピー。	課題・レポート
10	角の3等分について(1)	歴史的背景、方程式と結びつける、ユークリッド作図、作図できる数・できない数	課題・レポート
11	角の3等分について(2)	60度は3等分できない、体の考え方	課題・レポート
12	角の3等分について(3)	体の拡大と作図できる数、定理の証明	課題・レポート
13	ニュートンからアインシュタインへ	慣性系、ガリレイ変換、マイケルソン・モーレーの実験等アインシュタイン登場前に何が謎だったのかを説明する。	課題・レポート
14	特殊相対論---原理はたったの2つだけ	2つの基本的な原理を出発点にして、従来の時間や空間に対する考え方がどのように変更されたのか、高校レベルの数学を使って解説する。	課題・レポート
15	一般相対論---重力の謎	ニュートンの万有引力の法則はアインシュタインの相対論ではどのように記述されるのか?	課題・レポート

関連科目	数学・物理の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 T2		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

教養科目

	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義メモ 50%, レポート 50% で評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等				
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。			



科目名	環境と現代社会	科目名(英文)	Environment and Modern Society
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井上 尚之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	日本における環境経営を歴史的に辿ると、「環境経営」⇒「CSR経営」⇒「サステナビリティ経営」という系譜である。本講義では、この歴史の流れを追うと共に、サステナビリティ経営とは何かを探る。
到達目標	サステナビリティ経営に関して自分なりの意見が言え、プレゼンテーションするレベルを目指す。
授業方法と留意点	授業中に教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う双方向の授業を目指す。
科目学習の効果(資格)	サステナビリティ経営を学ぶことによって、経営の基礎及び企業のCSR部門における必須知識の獲得を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第1回 日米の環境政策の歴史	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
2	第2回 日本における環境経営の本格開始—ISO14001:1996発行	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
3	第3回 トヨタの環境経営	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
4	第4回 3Rからゼロエミッションへ	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
5	第5回 環境経営とサステナビリティ経営の相違	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
6	第6回 社会的な影響に配慮するとはどういうことか—トリプルボトムラインの登場	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
7	第7回 2003年は日本のCSR元年	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
8	第8回 ISO26000とサステナビリティ経営—CSRの国際規格ISO26000の発行	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
9	第9回 ISO26000の社会的責任を果たすための7つの原則	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
10	第10回 社会的責任の7つの中核主題	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
11	第11回 組織にとってのISO26000を順守するメリットは何か?	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
12	第12回 ISO26000の具体例	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
13	第13回 中小企業にISO26000を広め、定着させる企業市民制度	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
14	第14回 GRIとは何か?	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
15	第15回 国連主導のCSR—SDGs	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。

関連科目	環境マネジメントシステムⅠ、環境マネジメントシステムⅡ
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	サステナビリティ経営	井上尚之	大阪公立大学共同出版会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	積極的授業参加と発表が45%、定期試験が55%
学生へのメッセージ	サステナビリティ経営・環境経営は今や企業の常識となっています。この講義で環境経営の概要を知ることが重要です。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	北河内を知る	科目名(英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荻田 喜代一・伊藤 謙・尾山 廣・鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の3つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域における摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。
授業方法と留意点	北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「講演の聴講」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。情報収集ツールとしてスマートフォン、タブレット、ノートパソコン等を持参すること
科目学習の効果(資格)	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	北河内地域に関する事前学習 9月29日(土)	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
3	北河内地域に関する講演 9月29日(土)	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
4	グループワーク・プレゼンテーション 9月29日(土)	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
5	北河内地域に関する事前学習 10月20日(土)	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
6	北河内地域に関する講演 10月20日(土)	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
7	グループワーク・プレゼンテーション 10月20日(土)	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
8	北河内地域に関する事前学習 11月17日(土)	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
9	北河内地域に関する講演 11月17日(土)	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
10	グループワーク・プレゼンテーション 11月17日(土)	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
11	北河内地域に関する事前学習 12月1日(土)	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
12	北河内地域に関する講演 12月1日(土)	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
13	グループワーク・プレゼンテーション 12月1日(土)	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
14	全体のまとめと振り返りのためのグループワーク 12月15日(土)	北河内地域の活性化や課題の解決のための具体的なアクションプランを策定する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
15	プレゼンテーション 12月15日(土)	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	個人レポートの評価(40%)、グループごとの講演聴講および討議の態度のルーブリック評価(30%)、グループワークの成果物(30%)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。
----------	---



学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？
担当者の 研究室等	荻田喜代一（薬学部・副学長室）、鶴坂貴恵（経営学部・経営情報学科）、尾山廣（理工学部・生命科学科）、伊藤譲（理工学部・都市環境工学科）、喜多大三
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。

科目名	近代文学から学ぶ	科目名(英文)	Modern Literature
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	日本の近代文学の短編を読む。なお、明治から敗戦までの作品を近代文学と位置づける。 文学作品を読むことは、それだけで我々の心を豊かにしてくれる。作品を読むことで、近代の日本人が何を考え、発見し、何に悩んでいたのか、ともに考えたい。 文学作品への抵抗をなくし、作品を読んで考える習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	作品を鑑賞し、その文学的特徴を説明できる。
授業方法と留意点	毎回、1編の短編作品を取り上げて、講義する。 受講生は事前に作品を読んで授業に臨む。講義を受けたのち、作品に対するコメントを書く。 学生の関心によって、取り上げる作家、作品がシラバスとは変更する可能性もある。
科目学習の効果(資格)	文学に対する関心と知識が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	明治の文学	近代社会へ 言文一致運動	配布したプリントを読み、理解しておく
	2	明治の文学	夏目漱石の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	3	明治の文学	谷崎潤一郎の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	4	明治の文学	森鷗外の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	5	大正の文学	佐藤春夫の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	6	大正の文学	志賀直哉の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	7	大正の文学	菊地寛の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	8	大正の文学	小川未明の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	9	大正の文学	芥川龍之介の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	10	昭和前期の文学	横光利一の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	11	戦時下の文学	中島敦の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	12	戦時下の文学	太宰治の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	13	戦争の文学	原民喜の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	14	現代文学へ	安部公房の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	15	近代の詩を読む	高村光太郎・萩原朔太郎・三好達治らの詩を読む	配布したプリントを読み、理解しておく

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業時の参加度・コメント(100%) 場合によっては、課題を出す。
学生へのメッセージ	活字嫌いでも、少しがんばれば読み切れる短編を選びます。 この機会に、小説好きにならしましょう。 専門の授業で疲れた脳を、文学で休ませてください。
担当者の研究室等	橋本研究室(7号館4階)
備考	事前事後学習時間の目安 60時間。

教養科目

科目名	くらしと経済	科目名(英文)	Life and Economy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>本講義は経済に関する基礎的な考え方の修得を目的とする。モノやサービスを売ったり買ったりすることを経済という。例えば通学の際には電車やバスという交通サービスを購入し、学食で定食を食べるにもお金を払って定食というモノを購入している。また、アルバイトをすれば月々お金をもらうが、それは諸君が自らの労働力をバイト先に売っているからである。経済がいかに身近な現象であるかが分かるだろう。問題は、この身近な経済が私たちの目の届きにくい世界と密接に繋がっているということである。例えば数年前、太平洋を挟んだアメリカで住宅ローン市場に問題が発生し、多くの先輩達が就職に難儀した経緯がある。</p> <p>私たちは、これら経済を積極的に理解し、自力で対処する能力が必要なのである。本講義では基礎的ながらも重要な考え方を学生の理解度を重視しながら進める予定である。</p>
到達目標	経済問題を考えるための初歩的なスキルの修得
授業方法と留意点	教科書中心の講義形式で進める。ただし、受動的な受講姿勢とならないよう、「声を出す」ことを重視する。例えば教科書の音読、臨機応変な質疑応答などである。言うまでもなく教科書は必携である。私語への対処は、他の講義よりも厳しいと心得ておいて欲しい。また高校と異なり、大学の講義では板書よりも口頭説明が多く、自分なりのノートの取り方を工夫しておくこと。
科目学習の効果(資格)	日々のくらしの中で遭遇する経営・経済問題を深く理解し、対処するスキルを身につけることができる。また多くの社会科学系専門科目をより深く理解するための基礎となり、資格取得・公務員試験などにも役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	分業の利益	分業、比較優位、機会費用について解説する。	教科書第1章を予習復習のこと
3	需要と供給	需要曲線、供給曲線について解説する。	教科書第2章を予習復習のこと
4	価格メカニズム	市場取引や価格決定のメカニズムについて解説する。	教科書第3章を予習復習のこと
5	市場の効率性	望ましい経済の基準として効率性について解説する。	教科書第4章を予習復習のこと
6	市場の失敗	市場は万能ではない。市場の失敗について解説する。	教科書第5章を予習復習のこと
7	市場の限界	市場の失敗の原因の一つである情報の非対称性や市場の限界について解説する。	教科書第6章を予習復習のこと
8	中間試験	前回までの内容について試験を行う。	復習を行っておくこと
9	労働市場	学生にとって最も身に染みて感じるであろう労働市場について解説する。	教科書第7章を予習復習のこと
10	GDPについて	国の豊かさを測るGDPについて解説する。	教科書第8、9章を予習復習のこと
11	消費需要と投資需要	GDP構成要素の消費と投資について解説する。	教科書第10章を予習復習のこと
12	貨幣と金融	経済取引に欠かせない貨幣と経済取引の大半を占める金融について解説する。	教科書第11章を予習復習のこと
13	政府の役割	市場は万能ではなく、政府の存在意義の一つもそこにある。政府の経済的な役割について解説する。	教科書第12章を予習復習のこと
14	外国貿易と為替レート	資源小国かつ技術立国日本は海外諸国との貿易で生計を立てている。日本の貿易の状況や為替レートの決定について解説する。	教科書第13章を予習復習のこと
15	経済成長と国民生活	経済の成長は豊かさの維持と密接に関わる。経済成長率の表し方やその分析方法について解説する。	教科書第14章を予習復習のこと

関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学など
------	-----------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	1からの経済学	中谷武、中村保 編著	碩学舎・中央経済社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	中間試験(50%)＋期末試験(50%)で評価する。なお、詳細は初回講義で述べる。
----------	--

学生へのメッセージ	単位取得のためではなく、自身の能力向上のために受講するんだ、という姿勢であって欲しい。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進願いたい。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館8階(岩坪教授室)
備考	

科目名	グローバルな視点から多文化共生を考える	科目名 (英文)	Realizing the Importance of Cultural Diversity -from the Glo
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	糟谷 英之
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: AI○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>摂南大学が加盟する国連アカデミックインパクトの原則10「異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く」を実施するため、移民・難民・マイノリティーの問題など人権問題を考えることによってグローバルな人材を育成することを目的とします。</p> <p>現在では海外で活動する場合に限らず、地方自治体などを含め地域社会で活動する際にも国際的な人権感覚を身につけることが重要であると考えます。</p> <p>こうした目的を達成するため 授業では、次の二つの課題を実行します。</p> <p>①国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) と連携し、学校パートナーズとして映画祭や講演会の企画運営をします。</p> <p>②タイでの海外研修を行います。</p> <p>*2018年度については、①は、10月、②は、2019年2月に実施予定。</p>																		
到達目標	<p>学校パートナーズとして UNHCR 難民映画祭の企画運営への参加、およびタイでの海外研修を通じて、移民・難民・マイノリティーの問題を自分自身の問題として捉え直し、グローバルな人材として必要な人権感覚を身につけます。</p> <p>さらに企画運営能力や問題解決能力およびコミュニケーション能力の開発を目指します。</p>																		
授業方法と留意点	<p>集中講義の形式をとり、通常の講義とは異なり毎週授業があるわけではありません。しかし UNHCR 難民映画祭・学校パートナーズ企画および海外研修のため事前及び事後に不定期に集まります。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>先の目的を実現するため本講義では次の二つの課題を実行します。</p> <p>①まず国連アカデミックインパクト加盟大学の取り組みの一環として、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) と連携して映画祭や講演会の企画運営を目指します。これによって受講生の国際的人権意識を高めるとともに企画運営能力、コミュニケーション能力などを開発します。情宣活動を通じて大学構成員全体の国際的人権意識をも高めることにもなるでしょう。</p> <p>①の実施に当たり、</p> <p>(1) 寝屋川市国際交流協会などと連携して宣伝活動を行い、一般市民へのアピールを行います。</p> <p>(2) 大学祭中の開催を計画し、大学の学生・教職員にもせっきょくにかかわってもらいます。</p> <p>(3) 開催後、実施報告書やアンケート結果などをもとに検証を行い次年度の参考にする。</p> <p>②次にタイでの海外研修を通じ、移民、難民・マイノリティー問題をあらためて考えます。現地での語学研修、さらに現地の国際的機関や NGO などの人々へのインタビューなどを通じ多文化共生とは何かを体感したいと思います。現地での体験が①で身につけた知識、企画運営能力、問題解決能力およびコミュニケーション能力を真に生きたものにするでしょう。</p> <p>②の海外研修実施に当たり、</p> <p>(1) 事前の打ち合わせにおいて、現地の情報収集と危機管理の講習を行います。</p> <p>(2) 研修の目標を各人が設定するため事前のアンケートを採ります。</p> <p>(3) 現地では、研修ノートを取り、それを基に最終レポートを作成してもらいます。</p> <p>最終的には、提出されたレポートを基礎にして報告会を持ちたいと思います。</p>																		
関連科目	国際人権法、法律英語、グローバル社会論、国際ボランティア論など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	二つの課題①②の事前打ち合わせへ積極的参加 (20%)、①②の研修参加態度 (60%) および検証報告 (20%) の内容を総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ	<p>いま私たちが住む世界は今までにない大きな変化を経験しています。これからは外国人を含めさまざまな人々と共に生きていく時代です。こうした社会で生きていくために我々一人ひとりにとって何が必要であるかを講義を通じて是非感じ取ってください。</p> <p>海外研修を通じて異文化を体験してください。それだけでも君たちにとって大きな意味があると思います。</p>																		
担当者の研究室等	11号館10階 糟谷研究室 E-mail: kasutani@law.setsunan.ac.jp																		
備考	<p>*海外研修期間は、2019年2月中旬を予定しています (都合により若干変更する場合があります)。</p> <p>*また法学部学生は、前期科目の「法律英語」を予定していますできれば受講してください。</p> <p>*UNHCR 難民映画祭や海外研修の具体的内容については、ガイダンスで紹介いたします。</p> <p>*海外研修への参加費は基本的には自己負担となりますので注意してください。</p>																		

科目名	現代韓国事情	科目名 (英文)	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	V科：II◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1○, E科：B△, C科：II◎, L科：DP2◎, D科：DP1◎, S科：DP1◎, P科：DP8△, J科：DP1◎, W科：DP1◎, N科：DP1◎N : DP1◎		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな隣国である韓国。そのような韓国に関して、大きな歴史的流れを検討し、近現代の韓国社会における変化を長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	この講義を通じて、韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国近現代史を概観できるようになる。 ・「解放」前後における朝鮮半島の政治状況について理解する。 ・「民主化」前後における韓国の政治状況について理解する。
授業方法と留意点	韓国近現代史の基礎を踏まえた上で、関連する映画作品を鑑賞し、それらの解説なども交えながら講義を進める。
科目学習の効果 (資格)	韓国近現代史および現代韓国社会に関する基礎的な理解

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	近現代韓国の基礎知識 (1)	韓国近現代史概説： 1945 年以前と以後	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間：60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間：60分)
3	近現代韓国の基礎知識 (2)	韓国近現代史概説： 軍事政権の時代と民主化後の時代	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間：60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間：60分)
4	映画作品に見る「韓国現代史」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間：60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間：60分)
5	映画作品に見る「韓国現代史」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間：60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間：60分)
6	近現代韓国社会への理解 (1)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間：60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間：60分)
7	近現代韓国社会への理解 (2)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間：60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間：60分)
8	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間：60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間：60分)
9	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間：60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間：60分)
10	近現代韓国社会への理解 (3)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間：60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間：60分)
11	近現代韓国社会への理解 (4)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間：60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間：60分)
12	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間：60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間：60分)
13	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間：60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間：60分)
14	現代韓国に向き合う (1)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間：60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間：60分)
15	現代韓国に向き合う (2)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間：60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間：60分)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国現代史	木村幹	中公新書
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	提出レポートに基づく評価を行なう。(100%) 詳細については授業内で指示する。			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室			
備考	授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。			

科目名	現代ビジネス論	科目名(英文)	Modern Business
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧 美喜男
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎		

**授業概要・目的**  
 本講義では組織行動論の中心テーマであるリーダーシップや日本企業の直面するマネジメントの国際化時代における人的資源管理を学習する。本講義の特色は将来のビジネスリーダーを目指す皆さんが考える基盤や目標の提供を目指す。  
 両分野の基礎知識の学習に加えて、豊富な事例を紹介する。企業の倒産や再建事例におけるリーダーの行動、皆さんが属する若者の行動や意識の特徴、日本の経営の特色や日本が生み出したビジネスリーダー事例を学習する。私たち日本人の心の奥底に存する企業観・倫理観や労働観について再検討し、グローバル化・価値観の多様化が進展する中、将来のわが国ビジネスの在り方について、皆さんと一緒に考える。

**到達目標**  
 本講義では、以下の3つの目標を設定する。  
 ①組織を管理するマネージャーに求められる資質やスキルを理解する。  
 ②日本の経営の特色および、マネジメントの国際化時代におけるその進化的方向性を理解する。  
 ③組織で働くとは何かを考え、自分が目指すリーダーとは何かを理解する。

**授業方法と留意点**  
 可能な限り双方向(interactive)の講義を目指す。単に教科書を読んで内容を理解するというだけでなく、レクチャーを通じて身につけた基礎的な知識に基づきながら、現実世界の経営上の諸問題についての対応策を皆さんが考え、答えを追求する。わからない点や難しい点については補足的に説明しながら、必要に応じて応用的なディスカッションを実施する。

**科目学習の効果(資格)**  
 資格等の取得はありませんが、本講義終了時には以下が身に付きます。今後のビジネス社会の方向性を理解し、ビジネスリーダーとは何か、自身はどのようなビジネスリーダーを目指すかを考える基盤を取得出来ます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	現在のビジネス環境及びリーダーの重要性	オペレーションの国際化とマネジメントの国際化の違いを説明しリーダーの役割を述べる。ビジネスマンの職場職場の現実の雰囲気を知る。働くとは何かをを考える。	日本企業の戦後の海外展開の歴史や現状を調べてみよう。
2	マネージャーとマネジメント	人材を管理するとは何かを学ぶ。	マネージャーはどんな仕事をしているのか、またなぜマネジメントを学ぶ必要があるか考えてみる。
3	個人行動の原点	人はどのようなときに最もよく働くのかを考える。個人行動の起点を知る。	組織行動論の目的は何かを考えてみる。
4	リーダーシップと信頼	各種リーダー論を紹介する。	自身のリーダー体験および今までに出会った素晴らしいリーダーの特徴を考えてみる。
5	変革型リーダーがなぜ求められるか	マネジメントの国際化時代の変革型リーダーの重要性を各種事例をもとに説明する。(1~5回までのレポート提出)	なぜリーダーシップに信頼が強調されるのか自己の体験に照らして考えてみる。
6	国際人的資源管理とは何か	各国人材・マネジメント方式の差異。各国企業文化を知る。	海外展開をする企業は、本国の或いは出身国の労務管理制度のどちらを採用しようとしてしているのか考えてみる。
7	日本企業国際化の軌跡	オペレーションの国際化・マネジメント国際化時代の日本企業の対応。多国籍従業員の意識。	トヨタ自動車・GMとの合弁企業NUMMIがなぜ設立されたのか調べてみよう。最近、日本本社で外国人が多数採用されているがその理由を考えてみよう。
8	コミュニケーションと情報	高コンテクスト文化・社内言語とコミュニケーション外国人社員は何で苦労するのかを考える。	日本人は自己主張をしないとされています。あなたが発揮する日本人らしさとは何でしょうか？
9	自身を考える	日米中韓4か国の若者調査の紹介・12人の有識者による若者の実像。人材育成モデルの紹介。人材育成モデルの提案。	あなたは偉くなり社会に貢献したいですか？自身の能力をどう評価していますか？
10	日本人の特性と日本的経営の本質	歴史や地勢的観点から日本人独特の経営が生み出されたことを学ぶ。(6~10回までのレポート提出)	有史以来他民族の侵略を受けてこなかった国が世界に一つだけあります。その特異性を考えましょう。
11	自分はどうなるか 事例1. 二宮尊徳	日本的経営の原点・心も金も豊かにする実学を学ぶ。	以下3回にわたり偉大なビジネスの先人の話をします。3人に関する本はたくさん出版されているので図書館やインターネットで調べてみよう。
12	事例2 本田技研創業者藤沢武夫の紹介	本田の実質的な経営者の追求したマネジメントの実態に迫る。	11回参照
13	事例3 パナソニック創業者 松下幸之助	経営の神様が追求し実践した指導者の条件。	11回参照
14	君たちはどのようなリーダーを目指すか	自由討議 10人ぐらいのチームに分け、討議・各グループの発表。	事例紹介のうちどの点がすごいと思ったか事前に考えておく。
15	まとめ	全14回の講義の中で浮かび上がってきたことを総括する。	

**関連科目**

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際人的資源管理	関口倫紀ほか	中央経済社
2	マネジメント入門	スティーン P. ロビンス	ダイヤモンド社

	3	世界が称賛する日本の経営	伊勢雅臣	育鵬社
評価方法 (基準)	第5回時のレポート(20%)、第10回時のレポート(20%)、定期試験(60%)			
学生への メッセージ	自身を知り自身の特性を生かしマネジメントの国際化時代のリーダーとして活躍する。そのモデルである企業やリーダーに巡り合えると思います。紹介するリーダー事例より、自身がどのようなリーダーになりたいか自分に置き換えて考えてください。			
担当者の 研究室等	教務課(11号館1階)			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に教務課にて対応する」			



科目名	公衆衛生学	科目名 (英文)	Public Health Science
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	授業では、公衆衛生の歴史、人口の現在と将来からはじまり、集団の健康をはかるための健康指標、および集団の健康を守るための予防医学の考え方、それに基づいて行われている感染症や慢性疾患の罹患の現状と対策などについて学ぶ。また、人の健康が環境から受ける影響などについても取り上げる。																																																																		
到達目標	私たちの健康に影響を与える環境や社会を理解し、公衆衛生の取り組みを有機的に理解する。																																																																		
授業方法と留意点	講義中心。最新の話題を随時取り入れる。視聴覚教材も用いる。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>公衆衛生とは</td><td>公衆衛生の歴史と概要</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>2</td><td>人口転換と疫学転換</td><td>人類史と健康</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>3</td><td>保健統計 (1)</td><td>日本の人口</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>4</td><td>保健統計 (2)</td><td>健康指標</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>5</td><td>疫学 (1)</td><td>疫学の歴史と考え方</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>6</td><td>疫学 (2)</td><td>集団の疾病をとらえる方法</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>7</td><td>疾病予防</td><td>予防医学の考え方</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>8</td><td>感染症 (1)</td><td>感染症の疫学</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>9</td><td>感染症 (2)</td><td>感染症と予防</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>10</td><td>慢性疾患 (1)</td><td>慢性疾患の疫学</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>11</td><td>慢性疾患 (2)</td><td>慢性疾患と予防</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>12</td><td>環境保健 (1)</td><td>環境が健康に及ぼす影響</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>13</td><td>環境保健 (2)</td><td>地球規模の環境問題と取り組み</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>14</td><td>国際保健</td><td>世界の健康・日本の健康</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>15</td><td>移民と健康</td><td>在日外国人の健康</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	最新ニュースに留意	2	人口転換と疫学転換	人類史と健康	最新ニュースに留意	3	保健統計 (1)	日本の人口	最新ニュースに留意	4	保健統計 (2)	健康指標	最新ニュースに留意	5	疫学 (1)	疫学の歴史と考え方	最新ニュースに留意	6	疫学 (2)	集団の疾病をとらえる方法	最新ニュースに留意	7	疾病予防	予防医学の考え方	最新ニュースに留意	8	感染症 (1)	感染症の疫学	最新ニュースに留意	9	感染症 (2)	感染症と予防	最新ニュースに留意	10	慢性疾患 (1)	慢性疾患の疫学	最新ニュースに留意	11	慢性疾患 (2)	慢性疾患と予防	最新ニュースに留意	12	環境保健 (1)	環境が健康に及ぼす影響	最新ニュースに留意	13	環境保健 (2)	地球規模の環境問題と取り組み	最新ニュースに留意	14	国際保健	世界の健康・日本の健康	最新ニュースに留意	15	移民と健康	在日外国人の健康	最新ニュースに留意
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	最新ニュースに留意																																																																
2	人口転換と疫学転換	人類史と健康	最新ニュースに留意																																																																
3	保健統計 (1)	日本の人口	最新ニュースに留意																																																																
4	保健統計 (2)	健康指標	最新ニュースに留意																																																																
5	疫学 (1)	疫学の歴史と考え方	最新ニュースに留意																																																																
6	疫学 (2)	集団の疾病をとらえる方法	最新ニュースに留意																																																																
7	疾病予防	予防医学の考え方	最新ニュースに留意																																																																
8	感染症 (1)	感染症の疫学	最新ニュースに留意																																																																
9	感染症 (2)	感染症と予防	最新ニュースに留意																																																																
10	慢性疾患 (1)	慢性疾患の疫学	最新ニュースに留意																																																																
11	慢性疾患 (2)	慢性疾患と予防	最新ニュースに留意																																																																
12	環境保健 (1)	環境が健康に及ぼす影響	最新ニュースに留意																																																																
13	環境保健 (2)	地球規模の環境問題と取り組み	最新ニュースに留意																																																																
14	国際保健	世界の健康・日本の健康	最新ニュースに留意																																																																
15	移民と健康	在日外国人の健康	最新ニュースに留意																																																																
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>シンプル衛生公衆衛生学 2018</td> <td>鈴木庄亮</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	シンプル衛生公衆衛生学 2018	鈴木庄亮	南江堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	シンプル衛生公衆衛生学 2018	鈴木庄亮	南江堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり (「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																																																																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、公衆衛生学を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を用意して、毎回の授業に真剣に臨むこと。</li> <li>・授業中の私語、教室の出入りは厳禁。</li> <li>・授業中であてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする。</li> </ul>																																																																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス 看護学部 3 階 24																																																																		
備考																																																																			

科目名	Conflict の表象－20 世紀マンガ・アニメの文化誌－	科目名 (英文)	How are "conflicts" culturally represented in 20th century Japanese manga and animation?
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊, 赤澤 春彦, 有馬 善一, 上田 達, 小山 裕樹, 住吉 誠
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		

**授業概要・目的**  
 conflict とは con (共に) flict (衝突する) こと。対立や争い、矛盾、葛藤を意味する。戦後の日本は「平和」が続いてきたように語られるが、直接戦争に関わらなかつただけで、そこには様々な矛盾や軋轢が内包されてきた。これらの conflict を描き出してきた媒体の一つが、20 世紀日本のマンガ・アニメである。それゆえに日本のマンガ・アニメは現代社会の普遍的なテーマを扱うものとして、一部のファンだけではなく、世界中の人々に影響を与え続けてきたのである。この講義では、特に影響が大きく、メディアミックスとして展開した数本の作品を取り上げ、多様な視点から分析を試みたい。

**到達目標**  
 マンガやアニメを娯楽的に享受するだけでなく、そこに現代の価値観・世界観を読み取るための論点を見出し、考えることができる。

**授業方法と留意点**  
 6 名の教員が担当する。  
 毎回作品を決め、1 名の教員がテーマを設定し、論じる。受講生はコメントペーパーを提出する。  
 それぞれの作品について、受講生は講義の内容も踏まえて考察し、レポートを提出する。  
 受講生は必ず前週に指定された事前学習に取り組んでくること。  
 ※授業以外の学習時間の目安は、約 60 時間。

**科目学習の効果 (資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	20 世紀日本のマンガ・アニメ	代表的な作品を取り上げ、マンガ・アニメの果たしてきた役割を考える (担当: 橋本)	----
2	機動戦士ガンダム 1	ガンダム作品における家族や子育ての描かれ方について考える (担当: 小山)	劇場版『機動戦士ガンダム』をみる
3	機動戦士ガンダム 2	ガンダム作品における女性の描かれ方について考える (担当: 住吉)	劇場版『機動戦士ガンダム II 哀・戦士編』をみる
4	機動戦士ガンダム 3	ガンダム作品におけるシャア・アズナブルの位置づけについて考える (担当: 赤澤)	劇場版『機動戦士ガンダム III めぐりあい宇宙編』をみる
5	機動戦士ガンダム 4	モビルスーツ (モビルアーマー) について受講者とともに議論する (担当: 赤澤・小山・住吉)	モビルスーツに関するレポートをまとめる
6	風の谷のナウシカ 1	テーマの概説、アニメ版、漫画版の概要と違いについて (担当: 有馬)	アニメ『風の谷のナウシカ』を見る
7	風の谷のナウシカ 2	「風の谷」から「中心」と「周辺」について考える (担当: 上田)	コミック『風の谷のナウシカ』1・2・3 巻を読む (徳間書店、全 7 巻)
8	風の谷のナウシカ 3	「皇弟」と「蟲使い」から「おぞましいもの」の描かれ方について考える (担当: 橋本)	コミック『風の谷のナウシカ』4・5 巻を読む (徳間書店、全 7 巻)
9	風の谷のナウシカ 4	「巨神兵」の謎と多義性について考える (担当: 有馬)	コミック『風の谷のナウシカ』6・7 巻を読む (徳間書店、全 7 巻)
10	ジョジョの奇妙な冒険 1	ジョジョの奇妙な表現力 (担当: 赤澤)	コミック『ジョジョの奇妙な冒険』を数巻読む 主要登場人物について確認する
11	ジョジョの奇妙な冒険 2	ジョジョの奇妙な想像力 (担当: 上田)	コミック『ジョジョの奇妙な冒険』を数巻読む 主要登場人物やスタンドについて確認する
12	ジョジョの奇妙な冒険 3	ジョジョの奇妙な人間性 (担当: 小山)	コミック『ジョジョの奇妙な冒険』を数巻読む 主要登場人物について確認する
13	攻殻機動隊 1	「コピー」と「多様性」について考える (担当: 住吉)	押井守『GHOST IN THE SHELL』を見る
14	攻殻機動隊 2	「脳が支配されること」の描かれ方について考える (担当: 橋本)	士郎正宗『攻殻機動隊』1 巻を読む 「人形使い事件」について確認する
15	攻殻機動隊 3	「タチコマ」に見られる AI の「個性」、さらに、AI と人間との関係性について考える (担当: 有馬)	『攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX The Laughing Man』を見る

**関連科目**

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			

**評価方法 (基準)**  
 各作品のレポート 60% (15%×4)、授業への参加度 (毎回のコメントペーパー) 40%

**学生へのメッセージ**

**担当者の研究室等**  
 7 号館 4 階 (赤澤・有馬・小山・住吉・橋本)  
 7 号館 5 階 (上田)

**備考**

科目名	自然地理学	科目名 (英文)	Physical Geography
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	自然地理学は地球環境問題や自然災害と深い関わりを持つとともに、私たちの日々の生活とも密接に関わっています。本授業では、身近な場所から辺境の地まで、さまざまな地域の自然環境を理解するための基礎を学びます。具体的には、1. プレート運動や気候といった地球規模のシステム、2. 日本や世界で観察される景観の形成要因やその形成過程、3. 自然災害や地球環境問題、といった内容を扱います。講義では各地の写真や映像などを数多く使って解説し、初学者にもイメージがつかみやすい内容にする予定です。授業を通して、自然現象を様々な時間・空間スケールに位置づけて理解する基礎を身につけ、それを将来様々な形で活かしていくことを期待します。
到達目標	日本・世界各地の自然環境の実態とそのシステムを学ぶことを通して自然環境の見方の基礎力を養い、日常で目にする自然景観の形成要因や災害の発生等について論理的に理解できるようになること
授業方法と留意点	プリントの配布および投影資料を利用した講義形式。理解を深めるため、映像資料やバーチャル地球儀等を利用します。
科目学習の効果 (資格)	地震等自然災害に対する認識の強化、環境に対する意識の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、評価方法等について説明	身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	2	I. 日本の自然を知る 1	プレートテクトニクスと日本列島の形成	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	3	I. 日本の自然を知る 2	地震のメカニズム	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	4	I. 日本の自然を知る 3	地震災害	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	5	I. 日本の自然を知る 4	火山と日本列島	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	6	II. 多様な日本の自然 1	気候環境	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	7	II. 多様な日本の自然 2	植生	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	8	II. 多様な日本の自然 3	山地の隆起と侵食	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	9	II. 多様な日本の自然 4	河川と平野・海岸	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	10	II. 多様な日本の自然 5	大阪の自然・関西の自然	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	11	III. 世界の自然を知る 1	熱帯から極地	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	12	III. 世界の自然を知る 2	砂漠や高山	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	13	III. 世界の自然を知る 3	自然と人々の暮らしの関係性	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	14	IV. 環境と私たち 1	地球温暖化や砂漠化	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	15	IV. 環境と私たち 2/総括	自然災害への対処について・授業全体のまとめ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各トピック(I?IV)ごとに講義内容を要約したレポートを提出し、それをもとに評価する(レポート:100%)			
学生への メッセージ	高校地理・高校地学を学んでいない人でも理解できるような内容を扱い、難しい部分はフォローアップしながら授業を進めていく予定です。			
担当者の 研究室等	7号館5階			
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。			

科目名	社会学 I	科目名 (英文)	Sociology I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、受講生自身がこれらの問いに向きあえるようになるために、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。講義では社会的な考え方や基礎知識を紹介したのち、教育、仕事・産業・経済といったテーマをとりあげ、それにかかわる社会学の諸研究を解説していく。																																																																		
到達目標	受講生が社会学の知識・考え方を身につけ、自らが直面する問題について社会的な発想に基づいて多面的に理解し考察できるようになることを目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	テーマに関連するデータ資料や視聴覚教材をもちいる。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	社会生活を送る上で何かと直面することになるであろう「人と人」「人と集団」「集団と集団」に関わる問題に対する、幅広い視点を養う。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義をはじめるにあたって</td> <td>講義へのオリエンテーション</td> <td>授業内容に関する復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1 社会学とは</td> <td>社会学における基礎的な知識と発想 (1)</td> <td>配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1 社会学とは</td> <td>社会学における基礎的な知識と発想 (2)</td> <td>配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1 社会学とは</td> <td>社会学における基礎的な知識と発想 (3)</td> <td>配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1 社会学とは</td> <td>社会学における基礎的な知識と発想 (4)</td> <td>配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1 社会学とは</td> <td>社会学における基礎的な知識と発想 (5)</td> <td>配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>中テスト</td> <td>まとめと授業内容の理解度を問う記述式のテスト</td> <td>配布レジメに基づく予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>2 教育の社会学</td> <td>学歴社会のメカニズム (1)</td> <td>配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>2 教育の社会学</td> <td>学歴社会のメカニズム (2)</td> <td>配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>2 教育の社会学</td> <td>学歴社会のメカニズム (3)</td> <td>配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>3 仕事の社会学</td> <td>働き方の変化とその背景 (1)</td> <td>配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>3 仕事の社会学</td> <td>働き方の変化とその背景 (2)</td> <td>配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>4 産業と経済の社会学</td> <td>豊かな社会への道 (1)</td> <td>配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>4 産業と経済の社会学</td> <td>豊かな社会への道 (2)</td> <td>配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>講義を終えるにあたって</td> <td>まとめ</td> <td>配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	講義をはじめるにあたって	講義へのオリエンテーション	授業内容に関する復習	2	1 社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習	3	1 社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習	4	1 社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習	5	1 社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (4)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習	6	1 社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (5)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習	7	中テスト	まとめと授業内容の理解度を問う記述式のテスト	配布レジメに基づく予習	8	2 教育の社会学	学歴社会のメカニズム (1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習	9	2 教育の社会学	学歴社会のメカニズム (2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習	10	2 教育の社会学	学歴社会のメカニズム (3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習	11	3 仕事の社会学	働き方の変化とその背景 (1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習	12	3 仕事の社会学	働き方の変化とその背景 (2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習	13	4 産業と経済の社会学	豊かな社会への道 (1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習	14	4 産業と経済の社会学	豊かな社会への道 (2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習	15	講義を終えるにあたって	まとめ	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	講義をはじめるにあたって	講義へのオリエンテーション	授業内容に関する復習																																																																
2	1 社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習																																																																
3	1 社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習																																																																
4	1 社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習																																																																
5	1 社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (4)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習																																																																
6	1 社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (5)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習																																																																
7	中テスト	まとめと授業内容の理解度を問う記述式のテスト	配布レジメに基づく予習																																																																
8	2 教育の社会学	学歴社会のメカニズム (1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習																																																																
9	2 教育の社会学	学歴社会のメカニズム (2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習																																																																
10	2 教育の社会学	学歴社会のメカニズム (3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習																																																																
11	3 仕事の社会学	働き方の変化とその背景 (1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習																																																																
12	3 仕事の社会学	働き方の変化とその背景 (2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習																																																																
13	4 産業と経済の社会学	豊かな社会への道 (1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習																																																																
14	4 産業と経済の社会学	豊かな社会への道 (2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習																																																																
15	講義を終えるにあたって	まとめ	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習																																																																
関連科目	社会学 II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業態度 10%、試験 (中間、期末) 90% で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	やや厳しい授業ですが、テーマに関心をもったやる気のある学生は受講してください。大事なものは「正解のない問題」と向き合う際の姿勢です。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 7 階 山本准教授室																																																																		
備考																																																																			

科目名	社会学Ⅱ	科目名(英文)	Sociology II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、受講生自身がこれらの問いに向きあえるようになるために、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。具体的には、家族と子ども、政治、宗教、社会意識といったテーマをとりあげ、それにかかわる社会学の諸研究を解説していく。
到達目標	受講生が社会学の知識・考え方を身につけ、自らが直面する問題について社会的な発想に基づいて多面的に理解し考察できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	テーマに関連するデータ資料や視聴覚教材をもちいる。
科目学習の効果(資格)	社会生活を送る上で何かと直面することになるであろう「人と人」「人と集団」「集団と集団」に関わる問題に対する、幅広い視点を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義をはじめるにあたって	講義へのオリエンテーション	授業内容に関する復習
	2	1 家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか(1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	3	1 家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか(2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	4	1 家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか(3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	5	2 宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか(1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	6	2 宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか(2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	7	2 宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか(3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	8	中テスト	まとめと授業内容の理解度を問う記述式のテスト	配布レジメに基づく予習
	9	3 政治の社会学	平和と共存の作法を求めて(1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	10	3 政治の社会学	平和と共存の作法を求めて(2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	11	3 政治の社会学	平和と共存の作法を求めて(3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	12	4 社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」(1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	13	4 社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」(2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	14	4 社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」(3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	15	講義を終えるにあたって	まとめ	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習

関連科目	社会学Ⅰ
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業態度10%、試験(中間、期末)90%で評価する。
----------	----------------------------

学生へのメッセージ	やや厳しい授業ですが、テーマに関心をもったやる気のある学生は受講してください。大事なことは「正解のない問題」に向きあう際の姿勢です。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館7階 山本准教授室
----------	---------------

備考	
----	--

教養科目

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)として、筆記試験を通過できる実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲について、基本の解き方の習得と、応用問題への対応力の獲得を目指します。就職活動本番に向けて、比較的時間をかけての対策を考えている学生に受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。本授業では筆記試験対策として実践レベルの問題をメインに取り組みます。できる限り個別指導も行いますが、個々のレベルに応じて自主的に予習・復習をしてください。後期に開講される「就職実践」と基本的には同じ内容です。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	金銭問題①	損益算の基礎・料金の割引	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題②	損益算の応用・代金の精算	文章題による代金の精算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算①・復習①	速度算の基礎・復習①	1~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	速度算②・中テスト①	速度算の応用・中テスト①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	集合	集合	文章題による集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理②・復習②	推論②・復習②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・7~12回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
13	論理③・中テスト②	推論③・中テスト②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	推論小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)として、筆記試験を通過できる実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲について、基本の解き方の習得と、応用問題への対応力の獲得を目指します。就職活動本番に向けて、比較的時間をかけての対策を考えている学生に受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。本授業では筆記試験対策として実践レベルの問題をメインに取り組みます。できる限り個別指導も行いますが、個々のレベルに応じて自主的に予習・復習をしてください。後期に開講される「就職実践」と基本的には同じ内容です。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	3	金銭問題①	損益算の基礎・料金の割引	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	4	金銭問題②	損益算の応用・代金の精算	文章題による代金の精算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	6	速度算①・復習①	速度算の基礎・復習①	1~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
	7	速度算②・中テスト①	速度算の応用・中テスト①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	8	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	9	集合	集合	文章題による集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	12	論理②・復習②	推論②・復習②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・7~12回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
	13	論理③・中テスト②	推論③・中テスト②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	推論小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--



科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)として、筆記試験を通過できる実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲について、基本の解き方の習得と、応用問題への対応力の獲得を目指します。就職活動本番に向けて、比較的時間をかけての対策を考えている学生に受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。本授業では筆記試験対策として実践レベルの問題をメインに取り組みます。できる限り個別指導も行いますが、個々のレベルに応じて自主的に予習・復習をしてください。後期に開講される「就職実践」と基本的には同じ内容です。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	金銭問題①	損益算の基礎・料金の割引	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題②	損益算の応用・代金の精算	文章題による代金の精算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算①・復習①	速度算の基礎・復習①	1~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	速度算②・中テスト①	速度算の応用・中テスト①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	集合	集合	文章題による集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理②・復習②	推論②・復習②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・7~12回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
13	論理③・中テスト②	推論③・中テスト②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目 コミュニケーション能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集	
2			
3			

評価方法(基準)	推論小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)として、筆記試験を通過できる実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲について、基本の解き方の習得と、応用問題への対応力の獲得を目指します。就職活動本番に向けて、比較的時間をかけての対策を考えている学生に受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。本授業では筆記試験対策として実践レベルの問題をメインに取り組みます。できる限り個別指導も行いますが、個々のレベルに応じて自主的に予習・復習をしてください。後期に開講される「就職実践」と基本的には同じ内容です。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	金銭問題①	損益算の基礎・料金の割引	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題②	損益算の応用・代金の精算	文章題による代金の精算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算①・復習①	速度算の基礎・復習①	1~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	速度算②・中テスト①	速度算の応用・中テスト①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	集合	集合	文章題による集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理②・復習②	推論②・復習②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・7~12回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
13	論理③・中テスト②	推論③・中テスト②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	推論小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
備考	

科目名	人文地理学	科目名(英文)	Human Geography
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柴田 陽一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	窓の外にひろがる風景、大学が立地する町並み、人びとが抱くイメージなど。これらをどのように捉えることができるのか、また、どのように捉えてきたのか。それが本講義のテーマである。 言い換えると、本講義は地理学史の流れに沿いながら、＜地理学的なものの方・考え方＞について幅広く解説するものである。この方・考え方は、意識されていない場合も多いが、実はわたしたちの生活のさまざまなところに活用されている。本講義を通して、身近な問題を新たな視点から捉え直すきっかけを提供したい。
到達目標	＜地理学的なものの方・考え方＞について理解し、それをふまえ、身近な問題を捉え直すことができる。
授業方法と留意点	配付資料を用いて、講義形式で行う。授業中に何度か課題を出す。それらの課題に取り組むことで、授業内容をしっかりと復習してほしい。
科目学習の効果(資格)	＜地理学的なものの方・考え方＞の学習・理解を通じて、ひとつとは違った視点から身近な問題を捉えられるようになる。なお、中学社会・高等学校地理歴史の教員免許取得を目指す学生にとっては必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	地理と地理学	授業の進め方、授業全体の参考書の紹介など	高校までの「地理」の学習内容を振り返る
	2	地図とスケール1	地図の歴史と思想について	紹介した参考文献を読む
	3	地図とスケール2	スケール設定の意味について	「面白い」地図に関する課題に取り組む
	4	地誌の歴史と役割	地誌が各時代に果たした役割について	紹介した参考文献を読む
	5	人間と環境の関係	環境論について	環境論的思考の実例を探してみる
	6	農業はどのように立地するか	農業立地論について	身近な地域の農地の分布を調べる
	7	大都市と中小都市の関係	中心地理論について	分布図の課題に取り組む
	8	知識や技術の広がり方・伝わり方	空間的拡散・空間的相互作用論について	ある「イノベーション」に注目して、その拡散過程を調べる
	9	空間の捉え方は人によってどう異なるのか	メンタルマップのうち、空間認知研究について	手描き地図の課題に取り組む
	10	場所イメージはどのように作られるのか	メンタルマップのうち、場所イメージ研究について	身近な地域のマンション・アパート名を調べる
	11	場所への愛着	人文主義地理学について	「ふるさと」に関する課題に取り組む
	12	景観と風景	景観論と風景論について	紹介する参考文献を読む
	13	時間と空間からみた人間の行動	時間地理学について	日常の行動とその制約について考えてみる
	14	「男性」／「女性」にとっての空間	ジェンダー地理学について	身の周りにある「ジェンダー化された空間」を探してみる
	15	地理教育の役割	近代国家と地理教育の関係について	期末レポートを作成する

関連科目 「自然地理学」「地誌学」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学への招待	竹中克行編	ミネルヴァ書房
	2	人文地理学—その主題と課題—	杉浦章介ほか	慶應義塾大学出版会
	3	地理学概論	上野和彦ほか編	朝倉書店

評価方法(基準)	期末レポート 60%、授業中課題 40%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館5階 柴田研究室
備考	

科目名	心理学 I	科目名 (英文)	Psychology I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	毛 新華
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	心理学は、人間の社会行動に関する原理の追求を目的とする科学である。本講義では、心理学全般について、身近なエピソードを手がかりに様々な角度からの理論説明や実験などの紹介を行い、心理学が基礎から応用に至るまで幅広く展開し、日常生活ともリンクしていることを講義する。
到達目標	(1) 心理学の専門的基礎知識について説明できる。 (2) 心理学の実証研究について詳細に学ぶことによって、論理的な思考方法や分析手法が身につく。 (3) 心理学の基本的な考え方や知識について学ぶことによって、自分自身や周囲の人々の心の働きや行動について「考える」力が身につく。
授業方法と留意点	・講義方式で適宜資料を配布する。講義中には、視聴覚教材やデモンストレーションなども取り入れる。 ・心理学的知見を実際に体感するため、心理実験や調査も行う予定にしているため、積極的に参加すること。 ・受講にあたって、教室では、座席指定制を導入する予定をし、配付資料に授業内容に関する重要キーワードの記入も必要となる。
科目学習の効果 (資格)	講義を通して自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるきっかけを得ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。	身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考える習慣をつけましょう。
	2	未知から既知へ:他者を知る(1)	印象形成と対人認知について解説します。	予習:教科書1章1~2のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
	3	未知から既知へ:他者を知る(2)	ベビーフェイス効果、特性推論について解説します。	予習:教科書1章3~4のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
	4	未知から既知へ:他者を知る(3)	ステレオタイプ、二重過程モデル、解釈レベル理論、身体化された認知について解説します。	予習:教科書1章5~8のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
	5	未知から既知へ:他者を知る(4)	対人魅力、錯誤帰属、対人魅力研究法について解説します。	予習:教科書1章9~10、第2章22のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
	6	未知から既知へ:他者を知る(5)	バランス理論、認知的不協和理論について解説します。	予習:教科書1章11~12のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
	7	親しくなる:親密さを高めるコミュニケーション(1)	自己開示、ノンバーバルコミュニケーション、シンクロニーについて解説します。	予習:教科書2章13~15のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
	8	親しくなる:親密さを高めるコミュニケーション(2)	パーソナルスペース、親密さ平衡理論について解説します。	予習:教科書2章16~17のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
	9	親しくなる:親密さを高めるコミュニケーション(3)	会話の公理、社会的スキルについて解説します。	予習:教科書2章18~19のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
	10	親しくなる:親密さを高めるコミュニケーション(4)	依頼と応諾、説得的コミュニケーションについて解説します。	予習:教科書2章20~21のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
	11	深い関係になる:親密な関係の維持と発展(1)	好意と愛情、恋愛の諸理論について解説します。	予習:教科書3章23~24のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
	12	深い関係になる:親密な関係の維持と発展(2)	成人の愛着理論、親密化過程について解説します。	予習:教科書3章25~26のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
	13	深い関係になる:親密な関係の維持と発展(3)	相互依存、平衡理論、排他性、コミットメントについて解説します。	予習:教科書3章27~30のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
	14	深い関係になる:親密な関係の維持と発展(4)	共同関係と交換関係、自己拡張理論、進化的視点について解説します。	予習:教科書3章31~33のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
	15	まとめ	授業全体のまとめ	授業後、教科書およびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。

関連科目	「心理と社会」も併せて履修することが望ましい。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	エピソードでわかる社会心理学	谷口淳一など	北樹出版

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 小レポート、学期末試験の結果を総合し、到達目標の理解度によって合否を判定する。 <b>【定期試験 60%、レポート 20%、小テスト 20%】</b>			
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めて下さい。			
担当者の 研究室等	11号館 6階 経営学部事務室			
備考	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけるようにしてください。 そして、小レポートは事前の準備時間を含めて、5 時間以上かけて仕上げるようにしてください。 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計 20 時間かけるようにしてください。			

科目名	心理学Ⅱ	科目名(英文)	Psychology II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	毛 新華
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

授業概要・目的	心理学は、人間の社会行動に関する原理の追求を目的とする科学である。本講義では、心理学全般について、身近なエピソードを手がかりに様々な角度からの理論説明や実験などの紹介を行い、心理学が基礎から応用に至るまで幅広く展開し、日常生活ともリンクしていることを講義する。
到達目標	(1) 心理学の専門的基礎知識について説明できる。 (2) 心理学の実証研究について詳細に学ぶことによって、論理的な思考方法や分析手法が身につく。 (3) 心理学の基本的な考え方や知識について学ぶことによって、自分自身や周囲の人々の心の働きや行動について「考える」力が身につく。
授業方法と留意点	・講義方式で適宜資料を配布する。講義中には、視聴覚教材やデモンストレーションなども取り入れる。 ・心理学的知見を実際に体感するため、心理実験や調査も行う予定にしているため、積極的に参加すること。 ・受講にあたって、教室では、座席指定制を導入する予定をし、配付資料に授業内容に関する重要キーワードの記入も必要となる。
科目学習の効果(資格)	講義を通して自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるきっかけを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。	身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考える習慣をつけましょう。
2	親密な関係のなかの「わたし」：自己と他者との相互影響過程(1)	自己概念、自尊心、存在脅威管理理論について解説します。	予習：教科書4章34～36のエピソード部分を読んでおく 復習：エピソードの内容と理論のつながりを確認する
3	親密な関係のなかの「わたし」：自己と他者との相互影響過程(2)	所属欲求、自己制御について解説します。	予習：教科書4章37～38のエピソード部分を読んでおく 復習：エピソードの内容と理論のつながりを確認する
4	親密な関係のなかの「わたし」：自己と他者との相互影響過程(3)	予言の自己成就、自己評価過程について解説します。	予習：教科書4章39～40のエピソード部分を読んでおく 復習：エピソードの内容と理論のつながりを確認する
5	親密な関係のなかの「わたし」：自己と他者との相互影響過程(4)	自己評価維持モデル、社会的比較理論、社会的アイデンティティ理論について解説します。	予習：教科書4章41～43のエピソード部分を読んでおく 復習：エピソードの内容と理論のつながりを確認する
6	親密な関係からの影響：健康と対人葛藤(1)	援助行動、ソーシャルサポート、シャイネスについて解説します。	予習：教科書5章44～46のエピソード部分を読んでおく 復習：エピソードの内容と理論のつながりを確認する
7	親密な関係からの影響：健康と対人葛藤(2)	信頼と社会関係資本、孤独感について解説します。	予習：教科書5章47～48のエピソード部分を読んでおく 復習：エピソードの内容と理論のつながりを確認する
8	親密な関係からの影響：健康と対人葛藤(3)	対人葛藤、安心さがし、関係の崩壊について解説します。	予習：教科書5章49～51のエピソード部分を読んでおく 復習：エピソードの内容と理論のつながりを確認する
9	親密な関係からの影響：健康と対人葛藤(4)	攻撃行動、親密な関係における暴力について解説します。	予習：教科書5章52～53のエピソード部分を読んでおく 復習：エピソードの内容と理論のつながりを確認する
10	中間考察	小テスト後に問題について解説します。	予習：第4章と第5章について振り返り、小テストの準備をする 復習：小テストでできなかった箇所を復習する
11	親密な他者集団からの影響(1)	社会的促進・抑制、集団規範、集団凝集性について解説します。	予習：教科書6章54～56のエピソード部分を読んでおく 復習：エピソードの内容と理論のつながりを確認する
12	親密な他者集団からの影響(2)	同調、リーダーシップについて解説します。	予習：教科書6章57～58のエピソード部分を読んでおく 復習：エピソードの内容と理論のつながりを確認する
13	親密な他者集団からの影響(3)	集団間葛藤、集団内葛藤、傍観者効果について解説します。	予習：教科書6章59～61のエピソード部分を読んでおく 復習：エピソードの内容と理論のつながりを確認する
14	親密な他者集団からの影響(4)	社会的迷惑、コミュニケーションメディアについて解説します。	予習：教科書6章62～63のエピソード部分を読んでおく 復習：エピソードの内容と理論のつながりを確認する
15	まとめ	授業全体のまとめ	授業後、教科書およびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。

関連科目	「心理と社会」も併せて履修することが望ましい。
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	エピソードでわかる社会心理学	谷口淳一など	北樹出版
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 小レポート、学期末試験の結果を総合し、到達目標の理解度によって合否を判定する。 <b>【定期試験 60%、レポート 20%、小テスト 20%】</b>			
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めて下さい。			
担当者の 研究室等	11号館 6階 経営学部事務室			
備考	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけるようにしてください。 そして、小レポートは事前の準備時間を含めて、5 時間以上かけて仕上げるようにしてください。 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計 20 時間かけるようにしてください。			

科目名	住まいとデザイン	科目名 (英文)	Design and Living Environment
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大高 和香, 大谷 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

授業概要・目的	最も身近な空間である住居について、その歴史の中で生み出された住まいの工夫と文化を知り、快適な住生活と、特にデザインとのかかわりを考察する。また、「リノベーション」の実習を体験し、初歩的な知識と技術を修得する。
到達目標	将来、住み手の立場で必要となる基礎知識を身につけることが目標である。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	インテリアの常識	身近なインテリアの用語、法規について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
3	インテリアの構成要素	住空間を構成する主な要素について学び、知識を深める。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
4	デザインスタイルの基礎	第5回目から第7回目までの授業の前段としてデザインスタイル全般について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
5	デザインスタイルの分類 (1)	モダン系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
6	デザインスタイルの分類 (2)	ナチュラル系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
7	デザインスタイルの分類 (3)	クラシック系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
8	j実習:ピフォーアフター「団地のリノベーション」(1)	中古住宅のリノベーションを、二週に渡りプランし、プレゼンテーションを作成する。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
9	実習:ピフォーアフター「団地のリノベーション」(2)	中古住宅のリノベーションを、二週に渡りプランし、プレゼンテーション作成する。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
10	「団地のリノベーション」作品講評会 (1)	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
11	「団地のリノベーション」作品講評会 (2)	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
12	「団地のリノベーション」作品講評会 (3)	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
13	住まいの色彩計画	色彩計画の基礎を学び、インテリアにおける手法と効果を考える。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
14	住まいの照明計画	照明計画の基礎を学び、インテリアにおける手法と効果を考える。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
15	講義のまとめテストと解説	講義のまとめテスト及びその解説を行う	試験に備えて、これまでの復習をしておくこと。

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	講義まとめテスト: 60%、受講態度 (出席・講義メモ・課題・小テストなど): 40%を、合わせて評価する。
学生へのメッセージ	自分の周りにある色々な住宅や建物、街並みなどを興味を持って眺めて下さい。きっと新しい発見があることでしょう。
担当者の研究室等	12号館7階、8号館3階 大谷教授室
備考	出欠・遅刻に関する規定は、理工学部に準ずる。



科目名	政治学概論 I	科目名 (英文)	Introduction to Politics I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業の影響を避けて生きることはできません。それらを決定するのが政治であり、皆さんは政治に参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。 この授業では、有権者である学生の皆さんに政治と政治学についての基本的な知識を与えることを一番大きな目的にしています。政治学の中でも、政治体制論、政治過程論、国際政治にあたる内容を授業する予定です。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
到達目標	学生の皆さんが政治と政治学についての基本的な知識を獲得できるとともに、政治に積極的に参加しようという感情を育み、自分自身でいかなる政策、政党、候補者がよいのかを考えて意思決定できるようになります。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーを配布して皆さんに簡単な政治的意見や質問を書いてもらうこともあります。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職活動において、政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識を獲得することができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～政治とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と政治・政治参加の必要性について授業します。	予習・復習：政治・政治参加の必要性を理解し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める。
2	政治と権力①～政治の条件とは何か?	身近な日常生活で現れる政治について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
3	政治と権力②～正当な権力とは何か?	マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性とは何かを考えます。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
4	国家と政治システム～システムとは何か?	政治システムとはどういう構造になっているのか考えます。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
5	デモクラシー～デモクラシーの条件とは何か?	さまざまな政治システムがあるなかで、デモクラシーとはいかなる政治システムなのか考えます。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
6	マスメディアと世論①～政治文化と初期の世論研究	世論と政治文化について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
7	マスメディアと世論②マスメディアの役割とは何か?	マスメディアの役割とそのさまざまな効果について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
8	選挙と政党～中選挙区制から小選挙区比例代表並立制へ	日本の選挙制度を中心に、選挙と政党制について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
9	国会と内閣～議院内閣制と今世紀の行政改革	行政改革による内閣の権限強化を中心に、日本の国会と内閣について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
10	国際政治の二つの観点①～アイディアリズム	国際連盟から国際連合への経過について授業します。また国際連盟から離脱したときの日本の状況について映像資料を見て考えます。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
11	国際政治の二つの観点②～リアリズム	東西冷戦の基盤となるリアリズムの考え方について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
12	冷戦終結後の日本外交①～湾岸戦争とその結果	冷戦終結後の新しい国際秩序を開くことになった湾岸戦争と日本政府の対応について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
13	冷戦終結後の日本外交②～米国同時多発テロとアフガニスタン戦争、イラク戦争	米国同時多発テロをきっかけに生じたアフガニスタン戦争と後のイラク戦争と日本の新法作成について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
14	冷戦終結後の日本外交③～安全保障体制の転換	集団的自衛権の行使の閣議決定を中心に、近年の日本外交の転換について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	予習・復習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく。

関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、日本史、世界史など。大学の社会学、国際政治など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社
	2	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、リアクションペーパーと予習・復習テスト 40% 正当な理由がなく出席が規定回数に満たない学生は、単位を取得できないことがあります（10回以上は出席すること。出欠管理システム以外の出席は認めません）。			
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治や政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。			
担当者の 研究室等	11号館 10階 和田講師室			
備考				

科目名	政治学概論Ⅱ	科目名(英文)	Introduction to Politics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

教養科目

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業の影響を避けて生きることはできません。それらを決定するのが政治であり、皆さんは政治に参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。この授業では、有権者である学生の皆さんに政治と政治学についての基本的な知識を与えることを一番大きな目的にしています。政治学の中でも、日本政治史、地方自治、政治哲学にあたる内容を授業する予定です。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
到達目標	学生の皆さんが政治と政治学についての基本的な知識を獲得できるとともに、政治に積極的に参加しようという感情を育み、自分自身でいかなる政策、政党、候補者がよいのかを考えて意思決定できるようになります。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーを配布して皆さんに簡単な政治的意見や質問を書いてもらうこともあります。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職活動において、政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治に参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識を獲得することができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	戦前日本の政治体制①～大日本帝国憲法の問題点	戦前の日本の政治システムを考えるうえで必要な、大日本帝国憲法の重要箇所について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
2	戦前日本の政治体制②～軍部の台頭	映像資料を見ながら、日本が日中戦争・太平洋戦争へと向かっていった原因の一つである軍部を考えます。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
3	戦後日本の政治体制①～GHQによる占領と日本国憲法の成立	GHQによる日本占領政策の開始と日本国憲法の成立過程について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
4	戦後日本の政治体制②～戦後復興の諸問題	激しいインフレと食糧難に苦しむ戦後日本の経済状況と政府の経済政策について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
5	戦後日本の政治体制③～インフレ対策と逆コース	冷戦の激化と激しいインフレにともない、GHQの日本占領政策が転換していった過程について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
6	戦後日本の政治体制④～独立と55年体制の成立	吉田政権の外交政策と55年体制について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
7	戦後日本の政治体制⑤～岸内閣と安保闘争	岸内閣における60年安保闘争と新日米安全保障条約の内容について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
8	戦後日本の政治体制⑥～沖繩編入問題と田中派の隆盛	佐藤内閣の沖縄返還、ならびに自民党の派閥政治の特徴と田中派が勢力を拡大していく過程について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
9	戦後日本の政治体制⑦～80年代の日本政治	「戦後日本の総決算」と豪語した中曽根政権を中心に、80年代の日本政治の経過について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
10	戦後日本の政治体制⑧～政治改革と55年体制の崩壊	90年代の政治改革、ならびに55年体制が崩壊していった背景や理由、その結果について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
11	戦後日本の政治体制⑨～自公連立政権から民主党政権へ	村山談話や行政改革、郵政民営化など、55年体制崩壊から現在の安倍政権までの各政権の重要政策の特徴について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
12	地方自治～地方自治の本旨と地方分権改革	日本の地方自治の特徴と今世紀の地方分権計画について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
13	古代の政治学～プラトンとアリストテレス	古代の政治学の目的とその特徴について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
14	社会契約論～ホブズ、ロック、ルソー	古代の政治学のテーゼに反論しつつ展開された社会契約論者の基本的な特徴について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	予習・復習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめてお

				く。
関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、倫理、日本史、世界史など。大学の社会学、倫理学、国際政治など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで	仲正昌樹編	法律文化社
	2	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、リアクションペーパーと予習・復習テスト 40% 正当な理由がなく出席が規定回数に満たない学生は、単位を取得できないことがあります (10 回以上は出席すること。出欠管理システム以外の出席は認めません)。			
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治や政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 和田講師室			
備考				

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名 (英文)	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマナーの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。																		
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。																		
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に1度、90分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>活動場所は、寝屋川市内の小学校、寝屋川市教育委員会関連団体、共学センター、交野市役所、門真市役所、ささみ町役場、寝屋川青年会議所等の主催・共催事業。第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。</p> <p>事前教育①～⑨回分：          ①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて          ②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ          ③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ          ④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ          ⑤安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ          ⑥コミュニケーションスキルA：対象者理解、人とのかかわり方を学ぶ          ⑦コミュニケーションスキルB：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ          ⑧コミュニケーションスキルC：アイスブレイキング手法を学ぶ          ⑨コミュニケーションスキルD：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方</p> <p>活動（90分×20回分）：          受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践</p> <p>事後教育（90分）：          青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり</p> <p>履修上の注意：          学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。</p> <p>事前・事後学習課題：          学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の4点を総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）																		
備考	第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。																		

科目名	世界の歴史	科目名(英文)	History of the World
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	「都市」と聞いて私たちが思い浮かべるのは、経済・産業の中心であり、自由な活動の場といったイメージではなからうか。経済と自由、この2つの特徴の歴史的ルーツをたどっていけば、ヨーロッパ中世都市に行き着く。高校世界史において、商業の復活がヨーロッパ中世都市を生み出し、市民の自治がこれを発展させたと教わった人も少なくないだろう。中国を代表として他の地域の都市の歴史もあわせてみることで、このような通説を疑い考えなおす。そのようにして、都市を窓に歴史を展望する。以上が本講義の目的である。支配と消費の中心ではなく、周辺の自然環境や地域社会と共存できる都市のあり方など、現代的な問題を解決するためのヒントも探りたい。			
到達目標	学んだことを結論・理由・具体例に分けて、簡潔に説明できるようにする。			
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各単元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。			
科目学習の効果(資格)	商業や市民に限られない、中世都市の多様なあり方とダイナミズムを中心として、経営を学ぶための基礎体力となる幅広い教養と具体的思考の習慣を身に付ける。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	歴史を学ぶにあたって(1)	授業のルール、すべては表裏一体、現代中心主義から脱け出す	必ず出席するよう予定を調整する。
	2	歴史を学ぶにあたって(2)	成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	3	歴史を学ぶにあたって(3)	論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	4	都市を窓に世界史をみる(1)	視点をしぼる必要性、人間社会の焦点、魅力と危険が背中合わせ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	5	都市を窓に世界史をみる(2)	都市は文明とともにあった、世界史的な共通性、歴史の大きな流れがみえる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	6	都市を窓に世界史をみる(3)	都市とは壁で囲まれているもの、西洋でも中東でも中国でも、世界史からみえてくる日本史の個性	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	7	中国都市(1)	「止まっている」「同じことのくり返し」という偏見、都市ができて国家ができる	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
	8	中国都市(2)	1000年前の大転換、防衛から経済へ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
	9	中国都市(3)	近現代を先取りしたウォーターフロント型の都市、世界の先端を行った貨幣経済の発展	同上の課題に加えて小レポート。
	10	中国都市(4)	近現代を先取りした都市的生活、流通の発展と試験・芸能・ファーストフード	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	11	中国都市(5)	近現代を先取りした都市的生活、流通の発展と試験・芸能・ファーストフード	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	12	ヨーロッパ都市	アジア都市は大きくヨーロッパ都市は小さかった、農業中心の経済、「肉食＝豊か」ではない	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	13	ヨーロッパ都市	政治の分裂と自治の発展、宗教と経済の結びつき	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	14	ヨーロッパ都市	巨大化したのは200年前、「産業革命」は何が「革命」なのか	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	15	ヨーロッパ都市	小さな都市への帰郷、歴史に学ぶ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
関連科目	特になし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト(40点)、②レポート(30点)、③レスポンスペーパー(30点+α)。第3に60点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしい。			
学生へのメッセージ	歴史が教えてくれるのは、「すべては表裏一体」ということです。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記科目としての歴史」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具体的・論理的に考える歴史」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。			

担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>&lt; 過疎地域における地域資源活用プロジェクト (グリーンプロジェクト) &gt;</p> <p>和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。</p> <p>「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルなどを利用し、いわゆる住宅リニューアルのビフォーアフターを体験する。</p> <p>具体的なイベントは、地域の連携団体 (すさみ町役場地域未来課) と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。</li> <li>2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。</li> <li>3. ものづくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回)</p> <p>それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3年計画の3年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないような目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テーマの情報共有 (昨年度までの成果の説明) と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定</li> <li>2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定</li> <li>3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。</li> <li>4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て</li> <li>5. 現地で加工、施工、組み立て開始</li> <li>6. 装置・設備の完成</li> <li>7. 試作装置・設備による実験評価</li> <li>8. 実験結果の考察と改良</li> <li>9. 改良した装置について評価実験・考察</li> <li>10. 現地で再実験</li> <li>11. 実験結果の考察と改良</li> <li>12. 最終実地評価と報告</li> </ol> <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>通常(週1回)の活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p> <p>学生へのメッセージ</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものづくりを通じた地域活性化とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等	<p>8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		
備考																			



科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>概要: 本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、8年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2018年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的: 池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法: 池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点: 学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ: 寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援</li> <li>2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施</li> <li>3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践</li> <li>4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践</li> <li>5. 天然アユ復活プロジェクトの学習</li> <li>6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表</li> </ol> <p>方法: 授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(8月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題: 内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2																
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)																
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。  ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。  ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。  ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う  ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																		
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																		
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																		
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也. 針尾 大嗣. 牧野 幸志. 山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地元の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を認識する</li> <li>・課題を解決する方法を考える</li> <li>・解決策を実行する</li> <li>・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する</li> </ul> <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p><b>【内容】</b> 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬の続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河南町)などである。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー</li> <li>・グループ学習</li> <li>・オンラインミーティング</li> <li>・博物館や自治体の見学会</li> <li>・実地調査</li> <li>・企画書や報告書の作成</li> <li>・学外でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p><b>【事前学習課題】</b> 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p><b>【事後学習課題】</b> プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 尾山 廣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、由良町の周知や由良町の特質の創出を行う。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。</p> <p>今年度は由良町の観光PRキャラクター「ゆらの助」を活用した取り組みを行う。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>①由良町の地域資源を発見する。                  ②パンフレットの作成。                  ③企画立案の手法を習得する。                  ④企画したものをカタチにする。                  ⑤自ら考え行動できる力をつける。                  ⑥チームで活動できる力をつける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>講義とフィールドワーク                  由良町へ外向き現地調査や成果発表を行います。                  企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション                  今後の進め方、グループ分けを行います</p> <p>2. 由良町の現状を学ぶ 昨年度の成果                  由良町の抱える問題について学びます。</p> <p>3. マーケティングの基礎                  マーケティングの基礎を学びます。</p> <p>4. 商品開発についての調査</p> <p>5. 商品開発のアイデア出し</p> <p>6. 商品化にむけたとりくみ(商品決定、委託メーカーの決定、デザイン、価格決定、販売方法、販売促進など)</p> <p>7. 商品完成後の取組(販売促進活動)</p> <p>8. ふりかえり</p> <p>この間に中間報告会、最終報告会が入ります。</p>																		
関連科目	各学部マーケティング関連科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティング</td> <td>恩蔵直人</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域マネジメント戦略</td> <td>池田潔ほか</td> <td>同友館</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社																
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館																
3																			
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加度 70% 提出物 30%																		
学生へのメッセージ	和歌山由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなします。																		
担当者の研究室等	11号館7階 鶴坂研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	尾山 廣. 川上 比奈子. 松尾 康光
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	最も身近な自然現象を創り出す“星”にまつわる科学を、現在稼働していない交野市のプラネタリウムを学生自ら操作し、星の動きや星座、神話などを交えて、交野市の児童・生徒に向けた自然科学(宇宙や生命の誕生)の楽しさを伝える学習投映プログラムを製作する。2018年度は、交野市教育委員会から依頼された交野市の児童・生徒を対象に投映を試行し、そのアンケート結果などを踏まえて、内容をブラッシュアップし、体験学習型プレゼンテーション・シナリオと簡易機器操作マニュアルを完成する。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 天体の基礎的な知識を身につける。 プラネタリウムの基礎知識を修得する。 星のまち交野の特徴を説明できる。 様々な問題について理論的・分析的な関心をもてる。 小学生に星の神秘を伝えることができる。																		
授業方法と留意点	松尾研究室、川上研究室、尾山研究室のゼミ生と同時に活動する。主な活動期間は2018年5月～2019年1月であり、月1回の全体ミーティングと年間7回程度を交野市で活動する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトの概要と基本方針の説明</li> <li>プラネタリウム投影機のメンテナンスと理科教材用のシナリオ案を策定</li> <li>プレゼンテーションに必要なフィルムやスライドの作成</li> <li>交野市在住の児童や生徒を対象に投映会を試行</li> <li>アンケート結果に基づいた内容のブラッシュアップ(連携団体との協議を含む)</li> <li>体験学習型プレゼンテーション・シナリオのブラッシュアップ</li> <li>プラネタリウムの簡易操作マニュアルの完成</li> </ul> 上記の項目を2018年5月～2019年1月に実施する(機器の状況により変更がある)。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①天体・星の知識(プレゼンテーションを含む)やプラネタリウムの操作方法を理解できている。②空間(半球形空間)を利用した効果的なプレゼンテーションを考えている。③小中学生や外部の方々との接し方(態度)ができている。 以上の3点について、ノートやルブリック評価表などで総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	理科教育プログラムの開発(ソフト)と機器操作マニュアルの作成を目的とするため、教職希望の学生など、星が好き、子供たちに教えることが好きな学生な学生を中心に募集しています。																		
担当者の研究室等	理工学部生命科学科(松尾先生、尾山)は1号館8階または9階、住環境デザイン学科(川上先生)は12号館7階に教室がある。																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教. 木村 朋紀. 鶴坂 貴恵. 船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>&lt;摂大ブランド商品の企画・開発プロジェクト&gt;          様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。昨年度は摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した(本格芋焼酎仕込みのみかん酒、焦げがごびりつきにくいBBQ網など)。本プロジェクトでは、(開発プロジェクト)と(企画プロジェクト)に分け、すでに企画した商品について具体的な商品化を目指すとともに、作年度と同様に新規の商品企画も行う。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>4人の教員が担当し、1グループ5人(合計20人)までの少人数で活動を行う。          そのため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p>&lt;開発プロジェクト&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。</li> <li>2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。</li> <li>3. 商品を委託製造する。</li> <li>4. 広報活動を行う。</li> </ol> <p>&lt;企画プロジェクト&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報分析および情報収集を行う。</li> <li>2. 商品案を企画し、ビジネスプランを作成する。</li> <li>3. 寝屋川市のビジネスコンテストに応募する</li> <li>4. 次年度プロジェクトに向け、連携企業を探す。</li> </ol> <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)、鶴坂教授室(11号館7階)																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博, 栗田 寿基, 釣本 聖司
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なる価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。  蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。  イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																		
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。  1. プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 2. 教員の指導の下に目標と計画を作成する。 3. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 4. 計画からの遅れには対策を講じる。 5. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 6. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 7. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マネジメント基本と原則</td> <td>P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら</td> <td>岩崎夏海</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社	2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社																
2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社																
3																			
評価方法(基準)	汎用的能力(40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決(30%)、貢献度(30%)について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。																		
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																		
担当者の研究室等	1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	このPBLのプロジェクト名は、「交野おりひめ大学との連携プロジェクト ～地域貢献、そしてビジネス戦略～」です。 このPBLのキーワードは、「地域活性化」、「ビジネス戦略」、「裏方」の3つです。主なプロジェクト概要は、以下のとおり。 ①交野市の市民大学である「交野おりひめ大学」と連携し、本学学生が様々な活動を通じて地域住民の方々と交流し、地域貢献を行うとともに、通常の大学授業では学習できない様なビジネス戦略(新商品開発、マーケティング、生産加工、ビジネスプラン作成など)について体験・学習します。 ②なお、この事業は交野おりひめ大学のほか、交野市役所、商工会議所、交野市工業会、関係企業、各種市民団体、地域マスコミなど、交野市関連の様々な関係機関と連携しています。																
到達目標	①PBL前とPBL後を比較し、本学学生が実社会でビジネスを行うための様々な要因・ノウハウ等について体験的かつ実践的に学修し、理解することが、このPBLの到達目標です。 ②地域の異世代の方々と交流し、実のあるプロジェクト成果を狙います。 ③交野おりひめ大学にとって、本学のPBL履修学生の参加により、どのような効果があったのか総括し、市民大学としてのさらなる質の向上を目指します。																
授業方法と留意点	①「交野おりひめ大学」には、現在7つの学科があり、交野市内の住民など約300名が参加しています。2017年度は、本学のPBL履修学生32名(全て現3回生)が5～6名ずつ6つの学科に分かれて所属し、それぞれの活動を展開してきました。 ②2018年度は、新2年生を加え、活動内容をさらに充実させるとともに、先輩から後輩への円滑な引継ぎを行い、本PBLが地域と持続的な関係を構築できるよう努めます。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	①2018年4月～9月中旬 <3回生> ・基本的には、2017年度の活動を継続しますが、所属学科の配属替え、リーダー・役割分担の交替等を行うなど、新体制で活動に取り組みます。 <2回生> ①課外活動前の事前学習として、ケースメソッド形式(少人数、グループ討議、プレゼン等)によるビジネス戦略に関する実践的学修を重ねる。これにより、学内授業と学外活動の相乗効果を狙います。 ②前期または夏休み期間中に、学生全員を一度現地へ連れて行き、交野おりひめ大学関係者、関係団体、事業者等との顔合わせを行います。 ②9月中旬～2019年3月 <3回生、2回生> ①学年合同のチーム編成により、交野おりひめ大学の各学科の活動に参加します。 ②交野市内の関係各団体と連携し、様々なビジネス戦略(新商品開発、マーケティング、生産加工、ビジネスプラン作成など)について体験・学習するとともに、その活動内容について情報発信を行います。 ③活動成果は、PBL全体授業における各学科単位のプレゼン報告・質疑応答等を通じ、全員で精査することでPDCAサイクルを回し、次のアクションへつなげます。 ④活動の中でのOJTを通じ、3回生から2回生へ円滑な引継ぎを行い、次年度以降の活動に活かします。 ⑤総じて、イベント参加等の単なる『遠足』『ママごと遊び』に終始しない。楽しさも追求しつつ、実践的なビジネス体験学修を重ね、到達目標を達成します。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくにありません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくにありません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくにありません。																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくにありません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくにありません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくにありません。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	①PBL活動への参加意欲および貢献度(70%)、学内・学外発表会等への貢献度(30%) ②なお、本PBLは、交野おりひめ大学のほか、関係各団体等と連携したプロジェクトであり、多くの関係先の監視の下で活動を行うこととなります。したがって、学修成果は学内外の報告会(中間報告等を含む)、関連学会等においてプレゼン発表を行うことで、第三者の評価を受けるかたちとなります。																
学生へのメッセージ	①このPBLは、正直言って「しんどい」。炎天下での草むしり、農作業や雑用・裏方業務(準備・後片付けなど)もあり、土日のうち、年間数日はつぶれます。しかも、バイトとは異なり、報酬等は一切ありません。 ②それでも、2017年度は4つの学部から32名が履修しており、全員楽しく、ガッツ溢れる活動を展開しています。その理由とは何か?そこに興味がある人、大歓迎です。諸君のチャレンジをお待ちしています!																
担当者の研究室等	11号館7階 大田住吉研究室																
備考																	



科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉, 鶴坂 貴恵, 林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	寝屋川市成美小学校区域協働協議会青少年部会と連携して、成美小学校在籍児童に将来の社会生活に向けてのお金との付き合い方を学んでもらうために、経済のしくみや街の経済の動き等について、体験的な学習を軸にした学習プログラムを作成・実施する。社会的活動への貢献を通しての社会の中での役割の自覚、地域経済、子どもを取り巻く教育環境の調査・分析に基づいた課題の明確化・抽出化、子どもを相手にした教育行為の省察等を通して、自らも成長を実感することをねらいとする。																
到達目標	本プロジェクトは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 また、次の事項を具体的な達成目標として設定する。 ①地域の社会的活動への参加を通じて自らの社会的役割を自覚できるようになる。 ②経営と教職の学生がコラボすることにより相互に学び合いをすることができる。 ③経営学部生は経営学的な研究方法により各団体機関が実現しようとしている企てを把握し、その評価をする経験を積む。 ④教職履修学生はメンター的な関りによって子どもたちに寄り添う経験、作成した教材を教授場面で臨機応変に修正する経験を積むとともに、学習場面での発問、説明、指示、助言など、子どもたちの思考や行動への具体的な働きかけの経験を積む。																
授業方法と留意点	寝屋川市成美小学校区域協働協議会と共に、プログラムの準備・実施・総括の全過程を、協力協働しながら進める。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4月～6月 プログラムコンテンツの作成 体験実習先の選定、小学生向けの学習プログラムの検討、地域の調査等 学習指導要領・教科書の関連内容の調査、ワークショップの準備等  7月～8月 ①小学生・摂大生の初セッション（アイスブレイキング、グループワーク） ②フィールドワークⅠ（例えば、日銀大阪支店、造幣局本局大阪工場） ③フィールドワークⅡ（例えば、地元運動団体、地元商店街） ④フィールドワークⅢ（例えば、寝屋川市役所、北大阪商工会議所等） ⑤学習会（例えば、家族でもともに学ぶ機会を設ける）  9月～10月 ①体験活動の振り返り ②摂大祭りでの発表・展示（中間報公開を兼ねる） ※小学生・保護者・協働協議会会員を招待  1月 最終報告会																
関連科目	摂南大学PBLプロジェクトⅠ・Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	企画書(15%)、活動報告書(15%)、取り組み姿勢(50%)、ループブック(20%)を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	PBL活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。活動を通して常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。自主的な参加と積極的な提案を期待します。																
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝.水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 前年までに作成した紙芝居の読み聞かせ活動(例:寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせなど)、および近隣行政の要望に応じて、紙芝居の新規制作と上演活動を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。</li> <li>読み聞かせ活動及びそのトレーニングを通して「伝える力」を涵養する。</li> </ul>																
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する紙芝居制作・読み聞かせボランティアのプロジェクトです。全員が「自分が主役」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>寝屋川市役所や警察署のご担当者、及び近隣行政・図書館等のご担当者様と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。</li> <li>毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。</li> <li>活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。</li> </ul> <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。</li> <li>和歌山県由良町・及び近隣行政の民話を語り継ぐための紙芝居 対象となるご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼少学校での上演などが考えられる。さらに、その地域の民話をもとに紙芝居を作成する。</li> <li>その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。</li> </ul>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>全体で行う活動やミーティングの参加態度(40%)、自分の役割に対する貢献(40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表(20%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市の小学校での読み聞かせ・和歌山県由良町の民話を題材に紙芝居の新規制作を行いました。紙芝居の読み聞かせにあたっては、練習・実演を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。答えの無い・形の見えない価値を創り出すことは大変に難しいことですが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																
担当者の研究室等備考	<p>7号館3階 キャリア教育推進室 水野 武</p>																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p>																
到達目標	<p>次の四点を本講義において学ぶべき到達目標とします。 また受講生には、下記の学びを通じ、「中山間地域における生活支援のあり方」についての自分なりの考えを作り上げることを期待します。</p> <p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知ること、地域生活やその課題の多様性を学ぶこと ②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について学ぶこと ③中山間地域における生活支援体制の構築にさまざまな主体がかかわっていることを理解すること ④学生自身が「地域の見守り、支え合い」の担い手となりうることを自覚すること</p>																
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。 具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義の流れは下記の通りです（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>キックオフミーティング（参加者の顔合わせ、プログラムの概要説明）</li> <li>学内研修①（中山間地域における生活支援体制の構築に関する講義（担当教員による）、意見交換）</li> <li>学内研修②（紀美野町の地理、伝統、文化、その他についての発表、共有）</li> <li>学内研修③（同上）</li> <li>紀美野町での現地調査①（地域視察、ヒアリング、地域活動への参加、住民との交流等）</li> </ol> <p>※1泊2日（民泊）での活動を予定しています</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学内研修④（第1回現地調査での学びについて各自発表、共有）</li> <li>学内研修⑤（具体的な生活支援体制構築の手法についての検討）</li> <li>学内研修⑥（同上）</li> <li>紀美野町での現地調査②（学生による提案内容の報告会、生活支援体制構築に向けた取り組みの実践）</li> </ol> <p>※1泊2日（民泊）での活動を予定しています</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学内研修⑦（中間報告会準備）</li> <li>11. 中間報告会</li> </ol> <p>※他のプロジェクトと合同で実施します</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学内研修⑧（最終報告会準備）</li> <li>学内研修⑨（最終報告会準備）</li> <li>学内研修⑩（最終報告会準備）</li> <li>最終報告会</li> </ol> <p>※他のプロジェクトと合同で実施します</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	学内研修および現地調査への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。																
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																
担当者の研究室等備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科：II◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1○, E科：B○, C科：II◎, L科：DP2◎, DP5△, DP6△, D科：DP1◎, S科：DP1◎, P科：DP8△, J科：DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科：DP1◎, DP7◎, N科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	<p><b>【テーマ】</b> 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」マーケティングプロジェクト</p> <p><b>【概要】</b> 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の認知度向上に関する企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦来場者の経験価値を測定し、来場者は何に価値を見出しているのかを明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知率を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>その上で、特に「トライ＆エラーを実践する行動力」、「対人関係構築力の向上」、「工程管理、組織の価値連鎖を学ぶ」ことを目標とする。</p>																
授業方法と留意点	<p>「FC TIAMO 枚方」と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【内容】</b> ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより、近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察</li> <li>連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出</li> <li>クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証（連携先の許可により実施）</li> <li>近隣市におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案</li> <li>活動全体の評価</li> </ul> <p><b>【年間計画（予定）】</b></p> <p>4月 プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 4月 マーケティング手法の学習（座学による） ～5月 5月 枚方市内におけるクラブの認知度の測定 6月 連携先との面談 7月 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 8月 ホームゲーム来場者の経験価値測定調査 広報誌制作準備（ポスター、観戦ガイド、PV等の制作） ホームゲーム観戦促進活動、ホームゲーム戦運営補助、枚方市内における広報活動の実施 9月 PBL中間報告会、来場者へのアンケートの実施 ～12月 ホームゲーム会場内でのイベントの企画・実施 12月 まとめと最終報告会</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。</p>																
学生へのメッセージ	<p>プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。</p>																
担当者の研究室等	<p>吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美, 小川 宣子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	北河内および和歌山にお住いの高齢者が、スポーツを通して明るく元気な生活を送ってもらえるような提案を行い、高齢者と活動を共にするプロジェクトです。 高齢者は若者との交流により心身が活性化し、健康を維持・増進できます。皆さんの運動の得手不得手は全く問いません。「おじいちゃん・おばあちゃんが大好き、高齢者福祉に役立ちたい」と思っている学生の履修を期待します。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。  プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し、主体的に行動できるようになる。 2. 計画を立て、段取りが組める。 3. 超高齢社会の現状を理解し、高齢者の健康増進について提案ができる。 プロセス 1. 学生や学外者とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 2. チームで仕事をするときの方法を学ぶ。																
授業方法と留意点	他者(プロジェクトメンバーや連携先)のことを慮りながら、能動的に参加してください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>■4月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス</li> <li>・高齢社会および高齢者の身体について学ぶ</li> </ul> <p>■5月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ決め</li> <li>・活動内容の検討</li> <li>・寝屋川市高齢介護室および枚方市地域包括センターへ提言、内容検討</li> </ul> <p>■6月～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北河内にて活動開始</li> <li>・由良町へ提言、内容検討</li> </ul> <p>■10月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間報告会</li> <li>・由良町にて活動</li> </ul> <p>■1月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最終報告会</li> </ul> <p>■2月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふりかえり</li> <li>・総括</li> </ul>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	現場の視察と活動を繰り返し行いながら、皆さんのアイデアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。																
担当者の研究室等	総合体育館1階 藤林研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>&lt; 過疎地域における地域資源活用プロジェクト (グリーンプロジェクト) &gt;</p> <p>和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。</p> <p>「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルなどを利用し、いわゆる住宅リニューアルのビフォーアフターを体験する。</p> <p>具体的なイベントは、地域の連携団体 (すさみ町役場地域未来課) と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。</li> <li>2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。</li> <li>3. ものづくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回)</p> <p>それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3年計画の3年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないような目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テーマの情報共有 (昨年度までの成果の説明) と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定</li> <li>2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定</li> <li>3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。</li> <li>4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て</li> <li>5. 現地で加工、施工、組み立て開始</li> <li>6. 装置・設備の完成</li> <li>7. 試作装置・設備による実験評価</li> <li>8. 実験結果の考察と改良</li> <li>9. 改良した装置について評価実験・考察</li> <li>10. 現地で再実験</li> <li>11. 実験結果の考察と改良</li> <li>12. 最終実地評価と報告</li> </ol> <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>通常(週1回)の活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p> <p>学生へのメッセージ</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものづくりを通じた地域活性化とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等	<p>8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>概要: 本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、8年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2018年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的: 池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法: 池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点: 学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ: 寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援</li> <li>2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施</li> <li>3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践</li> <li>4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践</li> <li>5. 天然アユ復活プロジェクトの学習</li> <li>6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表</li> </ol> <p>方法: 授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(8月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題: 内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)																
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	



科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力（資源）を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。                  ②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。                  ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。                  ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う                  ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点（廃校になった小学校の校舎）を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化（社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など）を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港（大学）を出港（出発）して、遠洋（すさみ町）で漁業（活動）するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。																		
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																		
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																		
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也. 針尾 大嗣. 牧野 幸志. 山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を認識する</li> <li>・課題を解決する方法を考える</li> <li>・解決策を実行する</li> <li>・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する</li> </ul> <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p><b>【内容】</b> 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河南町)などである。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー</li> <li>・グループ学習</li> <li>・オンラインミーティング</li> <li>・博物館や自治体の見学会</li> <li>・実地調査</li> <li>・企画書や報告書の作成</li> <li>・学外でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p><b>【事前学習課題】</b> 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p><b>【事後学習課題】</b> プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 尾山 廣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、由良町の周知や由良町の特質の創出を行う。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。</p> <p>今年度は由良町の観光PRキャラクター「ゆらの助」を活用した取り組みを行う。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>①由良町の地域資源を発見する。                  ②パンフレットの作成。                  ③企画立案の手法を習得する。                  ④企画したものをカタチにする。                  ⑤自ら考え行動できる力をつける。                  ⑥チームで活動できる力をつける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>講義とフィールドワーク                  由良町へ外向き現地調査や成果発表を行います。                  企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション                  今後の進め方、グループ分けを行います</p> <p>2. 由良町の現状を学ぶ 昨年度の成果                  由良町の抱える問題について学びます。</p> <p>3. マーケティングの基礎                  マーケティングの基礎を学びます。</p> <p>4. 商品開発についての調査</p> <p>5. 商品開発のアイデア出し</p> <p>6. 商品化にむけたとりくみ(商品決定、委託メーカーの決定、デザイン、価格決定、販売方法、販売促進など)</p> <p>7. 商品完成後の取組(販売促進活動)</p> <p>8. ふりかえり</p> <p>この間に中間報告会、最終報告会が入ります。</p>																		
関連科目	各学部マーケティング関連科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティング</td> <td>恩蔵直人</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域マネジメント戦略</td> <td>池田潔ほか</td> <td>同友館</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社																
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館																
3																			
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加度 70% 提出物 30%																		
学生へのメッセージ	和歌山県由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなします。																		
担当者の研究室等	11号館7階 鶴坂研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	尾山 廣. 川上 比奈子. 松尾 康光
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	最も身近な自然現象を創り出す“星”にまつわる科学を、現在稼働していない交野市のプラネタリウムを学生自ら操作し、星の動きや星座、神話などを交えて、交野市の児童・生徒に向けた自然科学(宇宙や生命の誕生)の楽しさを伝える学習投映プログラムを製作する。2018年度は、交野市教育委員会から依頼された交野市の児童・生徒を対象に投映を試行し、そのアンケート結果などを踏まえて、内容をブラッシュアップし、体験学習型プレゼンテーション・シナリオと簡易機器操作マニュアルを完成する。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 天体の基礎的な知識を身につける。 プラネタリウムの基礎知識を修得する。 星のまち交野の特徴を説明できる。 様々な問題について理論的・分析的な関心をもてる。 小学生に星の神秘を伝えることができる。																		
授業方法と留意点	松尾研究室、川上研究室、尾山研究室のゼミ生と同時に活動する。主な活動期間は2018年5月～2019年1月であり、月1回の全体ミーティングと年間7回程度を交野市で活動する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトの概要と基本方針の説明</li> <li>プラネタリウム投影機のメンテナンスと理科教材用のシナリオ案を策定</li> <li>プレゼンテーションに必要なフィルムやスライドの作成</li> <li>交野市在住の児童や生徒を対象に投映会を試行</li> <li>アンケート結果に基づいた内容のブラッシュアップ(連携団体との協議を含む)</li> <li>体験学習型プレゼンテーション・シナリオのブラッシュアップ</li> <li>プラネタリウムの簡易操作マニュアルの完成</li> </ul> 上記の項目を2018年5月～2019年1月に実施する(機器の状況により変更がある)。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①天体・星の知識(プレゼンテーションを含む)やプラネタリウムの操作方法を理解できている。②空間(半球形空間)を利用した効果的なプレゼンテーションを考えている。③小中学生や外部の方々との接し方(態度)ができている。 以上の3点について、ノートやルブリック評価表などで総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	理科教育プログラムの開発(ソフト)と機器操作マニュアルの作成を目的とするため、教職希望の学生など、星が好き、子供たちに教えることが好きな学生な学生を中心に募集しています。																		
担当者の研究室等	理工学部生命科学科(松尾先生、尾山)は1号館8階または9階、住環境デザイン学科(川上先生)は12号館7階に教室がある。																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教. 木村 朋紀. 鶴坂 貴恵. 船越 英資
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>&lt;摂大ブランド商品の企画・開発プロジェクト&gt;                  様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。昨年度は摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した(本格芋焼酎仕込みのみかん酒、焦げがごびりつきにくいBBQ網など)。本プロジェクトでは、(開発プロジェクト)と(企画プロジェクト)に分け、すでに企画した商品について具体的な商品化を目指すとともに、作年度と同様に新規の商品企画も行う。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>4人の教員が担当し、1グループ5人(合計20人)までの少人数で活動を行う。                  そのため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。                  &lt;開発プロジェクト&gt;                  1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。                  2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。                  3. 商品を委託製造する。                  4. 広報活動を行う。</p> <p>&lt;企画プロジェクト&gt;                  1. 情報分析および情報収集を行う。                  2. 商品案を企画し、ビジネスプランを作成する。                  3. 寝屋川市のビジネスコンテストに応募する。                  4. 次年度プロジェクトに向け、連携企業を探す。</p> <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	<p>居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)、鶴坂教授室(11号館7階)</p>																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博, 栗田 寿基, 釣本 聖司
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なる価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。  蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。  イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																		
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。  1. プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 2. 教員の指導の下に目標と計画を作成する。 3. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 4. 計画からの遅れには対策を講じる。 5. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 6. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 7. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マネジメント基本と原則</td> <td>P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら</td> <td>岩崎夏海</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社	2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社																
2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社																
3																			
評価方法 (基準)	汎用的能力 (40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決 (30%)、貢献度 (30%) について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。																		
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																		
担当者の研究室等	1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	このPBLのプロジェクト名は、「交野おりひめ大学との連携プロジェクト ～地域貢献、そしてビジネス戦略～」です。 このPBLのキーワードは、「地域活性化」、「ビジネス戦略」、「裏方」の3つです。主なプロジェクト概要は、以下のとおり。 ①交野市の市民大学である「交野おりひめ大学」と連携し、本学学生が様々な活動を通じて地域住民の方々と交流し、地域貢献を行うとともに、通常の大学授業では学習できない様なビジネス戦略(新商品開発、マーケティング、生産加工、ビジネスプラン作成など)について体験・学習します。 ②なお、この事業は交野おりひめ大学のほか、交野市役所、商工会議所、交野市工業会、関係企業、各種市民団体、地域マスコミなど、交野市関連の様々な関係機関と連携しています。																
到達目標	①PBL前とPBL後を比較し、本学学生が実社会でビジネスを行うための様々な要因・ノウハウ等について体験的かつ実践的に学修し、理解することが、このPBLの到達目標です。 ②地域の異世代の方々と交流し、実のあるプロジェクト成果を狙います。 ③交野おりひめ大学にとって、本学のPBL履修学生の参加により、どのような効果があったのか総括し、市民大学としてのさらなる質の向上を目指します。																
授業方法と留意点	①「交野おりひめ大学」には、現在7つの学科があり、交野市内の住民など約300名が参加しています。2017年度は、本学のPBL履修学生32名(全て現3回生)が5～6名ずつ6つの学科に分かれて所属し、それぞれの活動を展開してきました。 ②2018年度は、新2年生を加え、活動内容をさらに充実させるとともに、先輩から後輩への円滑な引継ぎを行い、本PBLが地域と持続的な関係を構築できるよう努めます。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	①2018年4月～9月中旬 <3回生> ・基本的には、2017年度の活動を継続しますが、所属学科の配属替え、リーダー・役割分担の交替等を行うなど、新体制で活動に取り組みます。 <2回生> ①課外活動前の事前学習として、ケースメソッド形式(少人数、グループ討議、プレゼン等)によるビジネス戦略に関する実践的学修を重ねる。これにより、学内授業と学外活動の相乗効果を狙います。 ②前期または夏休み期間中に、学生全員を一度現地へ連れて行き、交野おりひめ大学関係者、関係団体、事業者等との顔合わせを行います。 ②9月中旬～2019年3月 <3回生、2回生> ①学年合同のチーム編成により、交野おりひめ大学の各学科の活動に参加します。 ②交野市内の関係各団体と連携し、様々なビジネス戦略(新商品開発、マーケティング、生産加工、ビジネスプラン作成など)について体験・学習するとともに、その活動内容について情報発信を行います。 ③活動成果は、PBL全体授業における各学科単位のプレゼン報告・質疑応答等を通じ、全員で精査することでPDCAサイクルを回し、次のアクションへつなげます。 ④活動の中でのOJTを通じ、3回生から2回生へ円滑な引継ぎを行い、次年度以降の活動に活かします。 ⑤総じて、イベント参加等の単なる『遠足』『ママごと遊び』に終始しない。楽しさも追求しつつ、実践的なビジネス体験学修を重ね、到達目標を達成します。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくにありません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくにありません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくにありません。																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくにありません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくにありません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくにありません。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	①PBL活動への参加意欲および貢献度(70%)、学内・学外発表会等への貢献度(30%) ②なお、本PBLは、交野おりひめ大学のほか、関係各団体等と連携したプロジェクトであり、多くの関係先の監視の下で活動を行うこととなります。したがって、学修成果は学内外の報告会(中間報告等を含む)、関連学会等においてプレゼン発表を行うことで、第三者の評価を受けるかたちとなります。																
学生へのメッセージ	①このPBLは、正直言って「しんどい」。炎天下での草むしり、農作業や雑用・裏方業務(準備・後片付けなど)もあり、土日のうち、年間数日はつぶれます。しかも、バイトとは異なり、報酬等は一切ありません。 ②それでも、2017年度は4つの学部から32名が履修しており、全員楽しく、ガッツ溢れる活動を展開しています。その理由とは何か?そこに興味がある人、大歓迎です。諸君のチャレンジをお待ちしています!																
担当者の研究室等	11号館7階 大田住吉研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉, 鶴坂 貴恵, 林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	寝屋川市成美小学校区域協働協議会青少年部会と連携して、成美小学校在籍児童に将来の社会生活に向けてのお金との付き合い方を学んでもらうために、経済のしくみや街の経済の動き等について、体験的な学習を軸にした学習プログラムを作成・実施する。社会的活動への貢献を通しての社会の中での役割の自覚、地域経済、子どもを取り巻く教育環境の調査・分析に基づいた課題の明確化・抽出化、子どもを相手にした教育行為の省察等を通して、自らも成長を実感することをねらいとする。																
到達目標	本プロジェクトは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 また、次の事項を具体的な達成目標として設定する。 ①地域の社会的活動への参加を通じて自らの社会的役割を自覚できるようになる。 ②経営と教職の学生がコラボすることにより相互に学び合いをすることができる。 ③経営学部生は経営学的方法により各団体機関が実現しようとしている企てを把握し、その評価をする経験を積む。 ④教職履修学生はメンター的な関りによって子どもたちに寄り添う経験、作成した教材を教授場面で臨機応変に修正する経験を積むとともに、学習場面での発問、説明、指示、助言など、子どもたちの思考や行動への具体的な働きかけの経験を積む。																
授業方法と留意点	寝屋川市成美小学校区域協働協議会と共に、プログラムの準備・実施・総括の全過程を、協力協働しながら進める。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4月～6月 プログラムコンテンツの作成 体験実習先の選定、小学生向けの学習プログラムの検討、地域の調査等 学習指導要領・教科書の関連内容の調査、ワークショップの準備等  7月～8月 ①小学生・摂大生の初セッション(アイスブレイキング、グループワーク) ②フィールドワークⅠ(例えば、日銀大阪支店、造幣局本局大阪工場) ③フィールドワークⅡ(例えば、地元運動団体、地元商店街) ④フィールドワークⅢ(例えば、寝屋川市役所、北大阪商工会議所等) ⑤学習会(例えば、家族でもともに学ぶ機会を設ける)  9月～10月 ①体験活動の振り返り ②摂大祭りでの発表・展示(中間報公開を兼ねる) ※小学生・保護者・協働協議会会員を招待  1月 最終報告会																
関連科目	摂南大学PBLプロジェクトⅠ・Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	企画書(15%)、活動報告書(15%)、取り組み姿勢(50%)、ループブック(20%)を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	PBL活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。活動を通して常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。自主的な参加と積極的な提案を期待します。																
担当者の研究室等																	
備考																	



科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態（座学、現地調査）を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有</li> <li>2. マーケティング手法の学習（座学による）</li> <li>3. 連携先との面談</li> <li>4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出</li> <li>5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査</li> <li>6. 広報誌制作準備（広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行）</li> <li>7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施</li> <li>8. まとめと最終報告会</li> </ol>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 前年までに作成した紙芝居の読み聞かせ活動(例:寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせなど)、および近隣行政の要望に応じて、紙芝居の新規制作と上演活動を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。</li> <li>読み聞かせ活動及びそのトレーニングを通して「伝える力」を涵養する。</li> </ul>																
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する紙芝居制作・読み聞かせボランティアのプロジェクトです。全員が「自分が主役」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>寝屋川市役所や警察署のご担当者、及び近隣行政・図書館等のご担当者様と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。</li> <li>毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。</li> <li>活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。</li> </ul> <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。</li> <li>和歌山県由良町・及び近隣行政の民話を語り継ぐための紙芝居 対象となるご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼少学校での上演などが考えられる。さらに、その地域の民話をもとに紙芝居を作成する。</li> <li>その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。</li> </ul>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>全体で行う活動やミーティングの参加態度(40%)、自分の役割に対する貢献(40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表(20%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市の小学校での読み聞かせ・和歌山県由良町の民話を題材に紙芝居の新規制作を行いました。紙芝居の読み聞かせにあたっては、練習・実演を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。答えの無い・形の見えない価値を創り出すことは大変に難しいことですが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																
担当者の研究室等備考	<p>7号館3階 キャリア教育推進室 水野 武</p>																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p>																
到達目標	<p>次の四点を本講義において学ぶべき到達目標とします。 また受講生には、下記の学びを通じ、「中山間地域における生活支援のあり方」についての自分なりの考えを作り上げることを期待します。</p> <p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知ること、地域生活やその課題の多様性を学ぶこと ②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について学ぶこと ③中山間地域における生活支援体制の構築にさまざまな主体がかかわっていることを理解すること ④学生自身が「地域の見守り、支え合い」の担い手となりうることを自覚すること</p>																
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。 具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>講義の流れは下記の通りです（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>キックオフミーティング（参加者の顔合わせ、プログラムの概要説明）</li> <li>学内研修①（中山間地域における生活支援体制の構築について関する講義（担当教員による）、意見交換）</li> <li>学内研修②（紀美野町の地理、伝統、文化、その他についての発表、共有）</li> <li>学内研修③（同上）</li> <li>紀美野町での現地調査①（地域視察、ヒアリング、地域活動への参加、住民との交流等）</li> </ol> <p>※1泊2日（民泊）での活動を予定しています</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学内研修④（第1回現地調査での学びについて各自発表、共有）</li> <li>学内研修⑤（具体的な生活支援体制構築の手法についての検討）</li> <li>学内研修⑥（同上）</li> <li>紀美野町での現地調査②（学生による提案内容の報告会、生活支援体制構築に向けた取り組みの実践）</li> </ol> <p>※1泊2日（民泊）での活動を予定しています</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学内研修⑦（中間報告会準備）</li> <li>11. 中間報告会</li> </ol> <p>※他のプロジェクトと合同で実施します</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学内研修⑧（最終報告会準備）</li> <li>学内研修⑨（最終報告会準備）</li> <li>学内研修⑩（最終報告会準備）</li> <li>15. 最終報告会</li> </ol> <p>※他のプロジェクトと合同で実施します</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	学内研修および現地調査への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。																
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																
担当者の研究室等備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」マーケティングプロジェクト</p> <p>【概要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の認知度向上に関する企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦来場者の経験価値を測定し、来場者は何に価値を見出しているのかを明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知率を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>その上で、特に「トライ&amp;エラーを実践する行動力」、「対人関係構築力の向上」、「工程管理、組織の価値連鎖を学ぶ」ことを目標とする。</p>																
授業方法と留意点	<p>「FC TIAMO 枚方」と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより、近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。</p> <p>【方法】 ・ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察 ・連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出 ・クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証（連携先の許可により実施） ・近隣市におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案 ・活動全体の評価</p> <p>【年間計画（予定）】 4月 プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 4月 マーケティング手法の学習（座学による） ～5月 5月 枚方市内におけるクラブの認知度の測定 6月 連携先との面談 7月 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 8月 ホームゲーム来場者の経験価値測定調査 広報誌制作準備（ポスター、観戦ガイド、PV等の制作） ホームゲーム観戦促進活動、ホームゲーム戦運営補助、枚方市内における広報活動の実施 9月 PBL中間報告会、来場者へのアンケートの実施 ～12月 ホームゲーム会場内でのイベントの企画・実施 12月 まとめと最終報告会</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。																
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。																
担当者の研究室等	吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美, 小川 宣子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	北河内および和歌山にお住いの高齢者が、スポーツを通して明るく元気な生活を送ってもらえるような提案を行い、高齢者と活動を共にするプロジェクトです。 高齢者は若者との交流により心身が活性化し、健康を維持・増進できます。皆さんの運動の得手不得手は全く問いません。「おじいちゃん・おばあちゃんが大好き、高齢者福祉に役立ちたい」と思っている学生の履修を期待します。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。  プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し、主体的に行動できるようになる。 2. 計画を立て、段取りが組める。 3. 超高齢社会の現状を理解し、高齢者の健康増進について提案ができる。 プロセス 1. 学生や学外者とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 2. チームで仕事をするときの方法を学ぶ。																
授業方法と留意点	他者（プロジェクトメンバーや連携先）のことを慮りながら、能動的に参加してください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>■4月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス</li> <li>・高齢社会および高齢者の身体について学ぶ</li> </ul> <p>■5月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ決め</li> <li>・活動内容の検討</li> <li>・寝屋川市高齢介護室および枚方市地域包括センターへ提言、内容検討</li> </ul> <p>■6月～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北河内にて活動開始</li> <li>・由良町へ提言、内容検討</li> </ul> <p>■10月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間報告会</li> <li>・由良町にて活動</li> </ul> <p>■1月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最終報告会</li> </ul> <p>■2月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふりかえり</li> <li>・総括</li> </ul>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	現場の視察と活動を繰り返し行いながら、皆さんのアイデアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。																
担当者の研究室等	総合体育館1階 藤林研究室																
備考																	

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名(英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきている。ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ない。グローバル社会において必要とされるビジネス実務とは何かを学ぶとともに、変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立することを目的とする。
到達目標	1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行う。
科目学習の効果(資格)	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修: 自己紹介の原案を考える。 ・事後学修: プレゼンテーション資料を熟読する。
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめる。 ・事後学修: 企業の事例を調べる。
3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修: NPOについて調べる。 ・事後学修: 企業として、営利・非営利組織の対照表を作成する。
4	ビジネス環境をとらえる①ー 経済のグローバル化と高度情報化ー	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集める。 ・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成する。
5	ビジネス環境をとらえる②ー 地球環境問題と少子高齢社会ー	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修: ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめる。 ・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめる。
6	ビジネス現場をとらえるー オフィスからワークプレイスへー	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめる。 ・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成する。
7	ビジネス実務能力	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。	・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめる。 ・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめる。
8	ビジネス実務の基本①ー 仕事の進め方ー	・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修: 問題プリント①を解く。 ・事後学修: 問題プリント②を解く。
9	ビジネス実務の基本②ー ビジネスと諸活動ー	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修: CSRについて調べ、まとめる。 ・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成する。
10	ビジネス実務の基本③ー ビジネスと経営資源ー	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめる。 ・事後学修: 、ワークライフバランスに関してレポートを作成する。
11	ビジネス実務の基本④ー ビジネスとPDCAサイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス(経理財務)ー	・PDCAサイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修: 業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめる。 ・事後学修: CMの必要性の有無に関してレポートを作成する。
12	自己実現とキャリアプランニングー セルフマネジメントと自己啓発ー	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修: 自己振り返りシートを作成する。 ・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめる。
13	ビジネスプラン①ー 起業への意識ー	・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案するためのグループワークを行う。 ・CM比較をイノベーションの観点から行う(とくにCSRに関するもの)。	・事前学修: 各自がテーマを見つける。 ・事後学修: グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
14	ビジネスプラン②	・CM比較プレゼンテーションを準備する。 ・実際に企画を考える。	・事前学修: グループのビジネスプランを発展させる。 ・事後学修: グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
15	ビジネスプラン・プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修: プレゼンテーション準備を行う。 ・事後学修: 最終レポートを作成する。

関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	20歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ
	2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社
	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) を総合的に評価する。</li> <li>・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。</li> </ul>			
学生への メッセージ	<p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p>			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	大学教養入門	科目名(英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荻田 喜代一・石井 三恵・伊藤 謙・大塚 正人・寺内 睦博・藤林 真美・水野 武・柳沢 学
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,N科:DP1◎N:DP1◎		

授業概要・目的	この科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身に付けるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身に付けるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身に付けることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身に付けている。 (2)ABDによる読書法を身に付けている。 (3)チームワーク能力を身に付け、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)国連アカデミックインパクトについて討議することができる。 (5)読書の意義を理解して読書習慣を身に付けている。 (6)コミュニケーション能力を身に付け、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 学修法を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果(資格)	大学生に必要な教養の基礎知識が身につく。ABD法等の協働学習の方法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	アイスブレイク 事前アンケート 科目の特徴、どのような力が見につくのか グループワーク「教養とは何か?」	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	2	教養入門:「大人の教養」 第7章 日本と日本人	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第7章 日本と日本人」	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	3	教養入門: 第1章 宗教	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	4	教養入門: 第2章 宇宙	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	5	教養入門: 第3章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	6	教養入門: 第6章 歴史	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	7	教養入門: 中間成果発表1	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	振り返りレポート1
	8	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」 第1章 アドラーとはどんな人であったのか	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	9	自分を知る教養: 第2章 アドラー心理学の育児と教養	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	10	自分を知る教養: 第3章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	11	自分を知る教養: 第5章 人生の意味を求めて	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	12	自分を知る教養: 中間成果発表2	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	振り返りレポート2
	13	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 協働学習(チームの提案) 理解度確認クイズ、振り返り	振り返り学習: チーム学習の振り返り
	14	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 協働学習(チームの提案) 理解度確認クイズ、振り返り	振り返り学習: チーム学習の振り返り
	15	大学教養入門	グループワーク「教養とは何か?」 事後アンケート	振り返りレポート3
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			



教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み姿勢 (チーム: 30%)</li> <li>・ポスター/発表 (チーム: 30%)</li> <li>・振り返りレポート 3回 (個人: 30%)</li> <li>・理解度確認クイズ (個人: 10%)</li> </ul> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>この科目は全国に先駆けて実施する摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。</p>			
担当者の 研究室等	<p>荻田喜代一 (薬学部・枚方キャンパス 1号館 6F、副学長室)、伊藤謙 (1号館 3F)、柳沢学 (8号館 3F) 大塚正人 (薬学部 1号館 5F)、藤林真美 (総合体育館 1F)、久保貞也 (11号館 7F)、寺内睦博 (11号館 10F)、石井三恵 (7号館 5F)、水野武 (7号館 3F)、喜多大三 (7号館 8F)、上野山裕土 (7号館 3F)</p>			
備考	<p>この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを期待しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。</p>			

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名(英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れている。「境界線」も一つの視野では理解できない。さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ(多様性)を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰することが目的である。
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果(資格)	・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修: ダイバーシティに関して、調べる。 ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成する。
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修: 私たちの周りにある伝統や習慣について考える。 ・事後学修: 「ウチとソト」に関するレポートを作成をする。
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・時代を生きた女性たち6名に関して調査	・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べる。 ・事後学修: 活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめる。
4	日本の近代化	・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション	・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成する。 ・事後学修: 明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成する。
5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ ・ジェンダーエンパワーメント指数	・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考える。 ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成する。
6	性役割の形成①	・発達段階における「刷り込み」 ・DV/デートDV	・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返る。 ・事後学修: 自らの「刷り込み」体験に関するレポートを作成する。
7	性役割の形成②	・結婚と母性信仰 ・妊娠と出生前診断 ・優生保護法と母体保護法 ・「親になること」と「親であること」の相違	・事前学修: 共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考える。 ・事後学修: 自らの結婚観に関するレポートを作成する。
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成 ・格差と二極分化	・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考える。 ・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成する。
9	男女共同参画社会とワークライフバランス	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修: ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べる。 ・事後学修: ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成する。
10	中間プレゼンテーション	・各自決めたテーマに関して調査考察した結果を発表する	・事前学修: 調査考察し、発表準備をする。 ・事後学修: 議論した結果などを加筆し、最終プレゼンに向けて練習する。
11	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 ・政策提言へ向けての中間レポート提出	・事前学修: アサーティブネスについて調べる。 ・事後学修: アサーティブに話す練習をする。
12	アサーティブネス理論②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考える。 ・事後学修: アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成する。
13	ダイバーシティマネジメント①	・企業比較から政策提言へ	・事前学修: 企業が必ず取り入れているダイバーシティマネジメントについて、事例研究する。 ・事後学修: 興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成する。
14	ダイバーシティマネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修: 事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習する。 ・事後学修: 事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習する。
15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修: ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめる。 ・事後学修: ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめる。

関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
評価方法 (基準)	ロールプレイ (20%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	地域貢献実践演習	科目名 (英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 石井 三恵, 上野山 裕士, 藤林 真美, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	<p>この授業は、ソーシャルイノベーション副専攻課程における総仕上げ科目です。これまで、講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証にいたるまでを、学生が主体的に取り組みます。その過程のなかで、理論と実践を結び付け方を体験を通じて学び、新たな成長につなげていくことが目的です。</p>																																																										
到達目標	<p>①これまで学んだ理論を実践に結び付けて、考察し行動することができる。          ②課題発見から解決までのPDCAサイクルを回すことができる。          ③チームで活動することができる。          ④チーム内で役割行動ができる。          ⑤地域の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。</p>																																																										
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が主体的に地域の課題を解決するため、フィールドに赴き活動を行います。</li> <li>・中間発表会、最終報告会での発表（チーム単位）、個人別レポートの作成が課せられます。</li> <li>・チームで活動を行うため、コミュニケーションを密にし、役割行動ができることが求められます。</li> <li>・社会に出れば、必ず求められる「報告、連絡、相談」を実践し、チームで情報共有しながら連携先との相互理解を図り、課題解決のための、計画策定から実施、振り返りまで、途中で投げ出すことなく取り組むことが求められます。</li> </ul>																																																										
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>この授業は学生がチームごとに主体的にフィールドワークを行っていきますが、月に1度程度、共有を図り、進捗状況の確認を行います。チームで活動したときには、必ず日誌を作成し、担当教員、連携先、チームメンバーに共有をしてください。また、課題や問題が発生した時には、必ず担当教員に相談をしてください。</p> <p>月に1度程度のミーティングは、木曜日6時間目に設定しています。</p> <table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>4月19日</td> <td>オリエンテーション①</td> <td>プロジェクト内容や進め方の説明</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>4月26日</td> <td>オリエンテーション②</td> <td>マネー研修</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>5月24日</td> <td>集合日①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>6月21日</td> <td>集合日②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>7月19日</td> <td>集合日③</td> <td></td> </tr> </table> <p>夏期休業期間：各グループで調査研究活動を進める。</p> <table border="1"> <tr> <td>第6回</td> <td>9月20日</td> <td>集合日④</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>9月27日</td> <td>集合日⑤</td> <td>中間発表</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>10月25日</td> <td>集合日⑥</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>11月8日</td> <td>集合日⑦</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>11月22日</td> <td>集合日⑧</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>12月6日</td> <td>集合日⑨</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>12月13日</td> <td>集合日⑩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>12月26日</td> <td>最終報告会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>同</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> </table>			第1回	4月19日	オリエンテーション①	プロジェクト内容や進め方の説明	第2回	4月26日	オリエンテーション②	マネー研修	第3回	5月24日	集合日①		第4回	6月21日	集合日②		第5回	7月19日	集合日③		第6回	9月20日	集合日④		第7回	9月27日	集合日⑤	中間発表	第8回	10月25日	集合日⑥		第9回	11月8日	集合日⑦		第10回	11月22日	集合日⑧		第11回	12月6日	集合日⑨		第12回	12月13日	集合日⑩		第13回	12月26日	最終報告会		第14回	同	まとめ	
第1回	4月19日	オリエンテーション①	プロジェクト内容や進め方の説明																																																								
第2回	4月26日	オリエンテーション②	マネー研修																																																								
第3回	5月24日	集合日①																																																									
第4回	6月21日	集合日②																																																									
第5回	7月19日	集合日③																																																									
第6回	9月20日	集合日④																																																									
第7回	9月27日	集合日⑤	中間発表																																																								
第8回	10月25日	集合日⑥																																																									
第9回	11月8日	集合日⑦																																																									
第10回	11月22日	集合日⑧																																																									
第11回	12月6日	集合日⑨																																																									
第12回	12月13日	集合日⑩																																																									
第13回	12月26日	最終報告会																																																									
第14回	同	まとめ																																																									
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目																																																										
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																								
1																																																											
2																																																											
3																																																											
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																								
1																																																											
2																																																											
3																																																											
評価方法 (基準)	活動の取組（自己評価、相互評価、連携先からの評価等）50%、発表会での発表（中間、最終）20%、レポート30%																																																										
学生へのメッセージ	PBLより、さらに踏み込んだ活動を行い、応用力や実践力をつけましょう！																																																										
担当者の研究室等																																																											
備考																																																											

科目名	地域と私	科目名(英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂 貴恵、石井 三恵、稲地 秀介、上野山 裕士、久保 貞也、田中 結華、藤林 真美
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地へ赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のことを学ぶ意義を理解する。</li> <li>・地域の課題を理解する。</li> <li>・地域の課題について解決策を提案できる。</li> <li>・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。</li> <li>・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。</li> </ul>			
授業方法と留意点	グループで議論等をした上で、グループごとに発表するといったグループワークが中心の授業です。 第2回目、3回目は外部講師による体験型の研修となります。 第11回目は和歌山県由良町での体験学習となります。 グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 4月14日(土)	到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。 地域のことを学ぶ意義を解説します。 (鶴坂)	【事前学習】 シラバスをみて、内容を確認する。 地域のことを学ぶことについて自分なりに考える。 【事後学習】 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える。
	2	自己の探求 4月21日(土)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師・鶴坂)	体験型セミナーでの気づきをまとめる。
	3	自己の探求 4月22日(日)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師・鶴坂)	体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考える。
	4	今、地域で何が起きているか 5月19日(土)1限	人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。 (鶴坂)	【事前学習】 キーワード「消滅都市」について調べる。 【事後学習】インターネットで地方都市では具体的にどのような問題が発生しているのか、その問題をどうやって解決しようとしているのかを調べる。
	5	地域経済・経営 ー地域の観光・ブランディングー 5月19日(土)2限	観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。 (鶴坂・久保)	【事前学習】 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる。 【事後学習】 自分の地元と和歌山の観光の目玉を考える。
	6	地域環境・防災 ー空き家の現状と課題ー 5月19日(土)3限	大都市周辺市街地と地方農山村部とは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。 (稲地)	【事前学習】 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと 【事後学習】 授業後は議論した内容を整理しておくこと
	7	地域政策・文化 ー地域とスポーツー 6月2日(土)1限	地域とスポーツとの関連:「トップスポーツ(プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など)との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。 (藤林)	【事前学習】 事前に提示するキーワードについて予習しておくこと 【事後学習】 授業ノート等で復習すること
	8	地域医療 ー地域で健康な生活を送るには?ー 6月2日(土)2限	地域で健康な生活を支える上で住民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。 (田中・上野山)	【事前学習】事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと。 【事後学習】 授業で発表された内容について整理し、地域医療に関する知識をまとめておくこと。
	9	事前学習① 由良町関係者の講演 6月2日(土)3限	和歌山県由良町役場の方に来学いただき、由良町の現状や課題をお聞きします。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 和歌山県由良町の概要を調べる。 【事後学習】 和歌山県由良町の課題をまとめる。
10	事前学習② グループワーク 6月16日(土)1、2限	由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取り組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく。 【事後学習】 由良町でのフィールドワークの準備を行う。	

	11	体験学習 (和歌山県由良町) 6月30日(土)終日	由良町に出かけ、フィールドワーク(調査)を行います。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 現地で調べることについて予備調査しておく。 【事後学習】 現地で得られた情報をまとめておく。																
	12	プレゼンテーション講座 7月7日(土)1限	プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。 (石井、鶴坂)	【事前学習】 現地で得た情報をまとめておく。 【事後学習】 スライドをつくってみる。																
	13	事後学習① グループワーク 7月7日(土)2限	現地で得た情報の整理をもちより、発表できる形にしていきます。 (鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 グループで情報を共有化しておく。 【事後学習】 発表できるよう準備をする。																
	14	事後学習② 成果発表会 7月21日(土)1、2限	作成したスライドを使い、成果発表を行います。 (鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 発表の練習を行う。 【事後学習】 他のグループの取組内容の整理をする。 発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。																
	15	事後学習③ ふりかえり 7月21日(土)3限	「地域と私」全体の総括、ふりかえりを行います。(鶴坂)	【事前学習】 これまでのプリントや副専攻課程ガイドブック等を整理する。 【事後学習】 副専攻課程ガイドブックの完成、レポート作成。																
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20% (ルーブリック評価) 最終レポート 40% 60%で合格とする。																			
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかりと身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。																			
担当者の 研究室等	鶴坂研究室 11号館7階																			
備考																				

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 小山 裕樹, 林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	本科目はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																		
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」を初めて履修する学生を対象とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前指導 1 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前指導 2 マナー講座・小中学校の教育現場について</p> <p>事前指導 3 「守秘義務」の意味とその内容について</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動 1～25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前指導に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室)、7号館4階(小山研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。																		

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名(英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 小山 裕樹, 林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	本科目はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																		
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生のみとする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前指導1 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前指導2 マナー講座・小中学校の教育現場について</p> <p>事前指導3 「守秘義務」の意味とその内容について</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動1~25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前指導に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室)、7号館4階(小山研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。																		



科目名	チームビルディング	科目名(英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2回生以降に摂南大学PBLプロジェクトを履修する際にも役立つ。 学科の学習・教育目標との対応: 工学部[A], 理工学部 [I1]
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
科目学習の効果(資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	チームビルディングとは何か	・自己紹介ワーク ・チームビルディングの理論を学ぶ ・チームビルディングのための技能を知る	チームにどのように貢献できるかを考える。
3	チームビルディング体験	・ペーパータワーワーク(予定) ・チームの10カ条などに取り組み、チームビルディングを体験する	チームでの取り組みを振り返る。
4	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける	配布資料を熟読する。
5	学習するためのチームづくり	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	配布資料を精読する。
6	話し合う技術	・チーム話し合う際の技術を学ぶ	配布資料を熟読する事
7	ビジネス記事を活用したディスカッション	記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える	チームでのディスカッションを振り返る。
8	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ①	・ペアワークに取り組み、情報の読み取りと活用、提案することを学ぶ	チームにどのように貢献できるかを考える。
9	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ②	・グループでニッポンの課題の解決策を考える	チームにどのように貢献できるかを考える。
10	チームでプロジェクトを企画する	・講義の中間おさらい ・チームでプロジェクトを企画する	チームにどのように貢献できるかを考える。
11	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介①	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
12	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介②	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
13	工程管理を意識したチームビルディング	ビジネスゲームを題材にリソースとコスト、工程管理を意識したワークに取り組む	工程管理に関して調べる。
14	プロジェクトのプレゼンテーション	第10回目の課題の報告プレゼンテーション	プレゼンテーションの際に留意することを考える。
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	提出物などの出し忘れがないか確認する。

関連科目  
・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目  
・キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学PBLプロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法(基準)	チームでの提出物20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート30%、最終レポート50%で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室(水野研究室)
備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。

科目名	地誌学	科目名(英文)	Regional Geography
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中山 穂孝
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	本講義の目的は、地誌学の学習を通して、地理学的(空間的)な視点を用いて、世界各地の諸問題や地理的現象を把握する能力を身に付け、地域的な特徴や地域が抱える問題点を的確に理解することである。これらの理解を通じて、中学校・高等学校の教育現場で生徒たちにわかりやすく地理を教える能力が養われることも期待できる。本講義では、世界各地の地誌について学習しながら、上記の能力の習得を目指していく。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地誌学の特徴を理解し、地理学的(空間的)な視点を身につける。</li> <li>・世界各地の諸問題や人々の生活などの特徴を理解する。</li> <li>・世界各地の地理的事象とその特徴や構造について理解する。</li> <li>・中学校社会科・高等学校地歴科の教員を目指す者が、中学校・高等学校で授業をするための技術・手法を理解する。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は、パワーポイントで実施し、必要に応じて、映像資料や資料を配布する。</li> <li>・毎回パワーポイントを印刷したレジュを配布する。</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果(資格)	中学社会・高校地理歴史教員職員免許																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>講義の進め方、地誌学の概要</td> <td>事後に講義内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アジア地誌(1)</td> <td>日本の地域問題(都心回帰・買い物難民)</td> <td>前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>アジア地誌(2)</td> <td>中国の人口政策とその影響</td> <td>前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>アジア地誌(3)</td> <td>アジアの民族・宗教問題</td> <td>前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>アフリカ地誌(1)</td> <td>人口爆発とその対策</td> <td>前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アフリカ地誌(2)</td> <td>アフリカの都市成長と都市問題の発生</td> <td>前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>アフリカ地誌(3)</td> <td>アフリカの民族問題</td> <td>前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中東地誌(1)</td> <td>民族・宗教対立の根源と現状 レポート課題の説明</td> <td>前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ヨーロッパ地誌(1)</td> <td>ヨーロッパの統合</td> <td>前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ヨーロッパ地誌(2)</td> <td>移民・難民の増加と社会問題</td> <td>前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ヨーロッパ地誌(3)</td> <td>ヨーロッパの民族・独立運動</td> <td>前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>アメリカ地誌(1)</td> <td>銃社会アメリカ</td> <td>前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>アメリカ地誌(2)</td> <td>貧困とその弊害</td> <td>前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>アメリカ地誌(3)</td> <td>ブラジルの日系人社会</td> <td>前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>オセアニア地誌(1)</td> <td>オーストラリアの成り立ち、アボリジニの歴史と生活</td> <td>前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	講義の進め方、地誌学の概要	事後に講義内容を復習する	2	アジア地誌(1)	日本の地域問題(都心回帰・買い物難民)	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。	3	アジア地誌(2)	中国の人口政策とその影響	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。	4	アジア地誌(3)	アジアの民族・宗教問題	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。	5	アフリカ地誌(1)	人口爆発とその対策	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。	6	アフリカ地誌(2)	アフリカの都市成長と都市問題の発生	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。	7	アフリカ地誌(3)	アフリカの民族問題	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。	8	中東地誌(1)	民族・宗教対立の根源と現状 レポート課題の説明	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。	9	ヨーロッパ地誌(1)	ヨーロッパの統合	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。	10	ヨーロッパ地誌(2)	移民・難民の増加と社会問題	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。	11	ヨーロッパ地誌(3)	ヨーロッパの民族・独立運動	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。	12	アメリカ地誌(1)	銃社会アメリカ	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。	13	アメリカ地誌(2)	貧困とその弊害	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。	14	アメリカ地誌(3)	ブラジルの日系人社会	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。	15	オセアニア地誌(1)	オーストラリアの成り立ち、アボリジニの歴史と生活	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	講義の進め方、地誌学の概要	事後に講義内容を復習する																																																																
2	アジア地誌(1)	日本の地域問題(都心回帰・買い物難民)	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。																																																																
3	アジア地誌(2)	中国の人口政策とその影響	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。																																																																
4	アジア地誌(3)	アジアの民族・宗教問題	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。																																																																
5	アフリカ地誌(1)	人口爆発とその対策	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。																																																																
6	アフリカ地誌(2)	アフリカの都市成長と都市問題の発生	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。																																																																
7	アフリカ地誌(3)	アフリカの民族問題	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。																																																																
8	中東地誌(1)	民族・宗教対立の根源と現状 レポート課題の説明	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。																																																																
9	ヨーロッパ地誌(1)	ヨーロッパの統合	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。																																																																
10	ヨーロッパ地誌(2)	移民・難民の増加と社会問題	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。																																																																
11	ヨーロッパ地誌(3)	ヨーロッパの民族・独立運動	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。																																																																
12	アメリカ地誌(1)	銃社会アメリカ	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。																																																																
13	アメリカ地誌(2)	貧困とその弊害	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。																																																																
14	アメリカ地誌(3)	ブラジルの日系人社会	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。																																																																
15	オセアニア地誌(1)	オーストラリアの成り立ち、アボリジニの歴史と生活	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>図説 世界の地域問題</td> <td>漆原和子・藤塚吉浩・松山洋・大西宏治編</td> <td>ナカニシヤ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>世界地誌シリーズ3 EU</td> <td>加賀美雅弘編</td> <td>朝倉書店</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>世界地誌シリーズ4 アメリカ</td> <td>矢ヶ崎典隆編</td> <td>朝倉書店</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	図説 世界の地域問題	漆原和子・藤塚吉浩・松山洋・大西宏治編	ナカニシヤ出版	2	世界地誌シリーズ3 EU	加賀美雅弘編	朝倉書店	3	世界地誌シリーズ4 アメリカ	矢ヶ崎典隆編	朝倉書店																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	図説 世界の地域問題	漆原和子・藤塚吉浩・松山洋・大西宏治編	ナカニシヤ出版																																																																
2	世界地誌シリーズ3 EU	加賀美雅弘編	朝倉書店																																																																
3	世界地誌シリーズ4 アメリカ	矢ヶ崎典隆編	朝倉書店																																																																
評価方法(基準)	期末テスト70%、レポート課題30%(8回目の授業で説明予定) 教職科目であるため、評価は厳しくなる。																																																																		
学生へのメッセージ	大学で学ぶ地誌学は暗記科目ではありません。すべての地理的な事象には、プロセスや背景があります。これらのプロセスや背景について考えながら、講義を受けるようにしてください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。</li> <li>・授業内容を変更することがあります。</li> </ul>																																																																		

科目名	地理学 I	科目名 (英文)	Geography I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	自然地理学は地球環境問題や自然災害と深い関わりを持つとともに、私たちの日々の生活とも密接に関わっています。本授業では、身近な場所から辺境の地まで、さまざまな地域の自然環境を理解するための基礎を学びます。具体的には、1. プレート運動や気候といった地球規模のシステム、2. 日本や世界で観察される景観の形成要因やその形成過程、3. 自然災害や地球環境問題、といった内容を扱います。講義では各地の写真や映像などを数多く使って解説し、初学者にもイメージがつかみやすい内容にする予定です。授業を通して、自然現象を様々な時間・空間スケールに位置づけて理解する基礎を身につけ、それを将来様々な形で活かしていくことを期待します。
到達目標	日本・世界各地の自然環境の実態とそのシステムを学ぶことを通して自然環境の見方の基礎力を養い、日常で目にする自然景観の形成要因や災害の発生等について論理的に理解できるようになること
授業方法と留意点	プリントの配布および投影資料を利用した講義形式。理解を深めるため、映像資料やバーチャル地球儀等を利用します。
科目学習の効果 (資格)	地震等自然災害に対する認識の強化、環境に対する意識の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、評価方法等について説明	身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	2	I. 日本の自然を知る 1	プレートテクトニクスと日本列島の形成	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	3	I. 日本の自然を知る 2	地震のメカニズム	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	4	I. 日本の自然を知る 3	地震災害	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	5	I. 日本の自然を知る 4	火山と日本列島	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	6	II. 多様な日本の自然 1	気候環境	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	7	II. 多様な日本の自然 2	植生	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	8	II. 多様な日本の自然 3	山地の隆起と侵食	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	9	II. 多様な日本の自然 4	河川と平野・海岸	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	10	II. 多様な日本の自然 5	大阪の自然・関西の自然	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	11	III. 世界の自然を知る 1	熱帯から極地	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	12	III. 世界の自然を知る 2	砂漠や高山	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	13	III. 世界の自然を知る 3	自然と人々の暮らしの関係性	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	14	IV. 環境と私たち 1	地球温暖化や砂漠化	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	15	IV. 環境と私たち 2/総括	自然災害への対処について・授業全体のまとめ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各トピック(I?IV)ごとに講義内容を要約したレポートを提出し、それをもとに評価する(レポート:100%)			
学生への メッセージ	高校地理・高校地学を学んでいない人でも理解できるような内容を扱い、難しい部分はフォローアップしながら授業を進めていく予定です。			
担当者の 研究室等	7号館5階			
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。			

科目名	地理学Ⅱ	科目名(英文)	Geography II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柴田 陽一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	窓の外にひろがる風景、大学が立地する町並み、人びとが抱くイメージなど。これらをどのように捉えることができるのか、また、どのように捉えてきたのか。それが本講義のテーマである。 言い換えると、本講義は地理学史の流れに沿いながら、＜地理学的なものの方・考え方＞について幅広く解説するものである。この方・考え方は、意識されていない場合も多いが、実はわたしたちの生活のさまざまなところに活用されている。本講義を通して、身近な問題を新たな視点から捉え直すきっかけを提供したい。
到達目標	＜地理学的なものの方・考え方＞について理解し、それをふまえ、身近な問題を捉え直すことができる。
授業方法と留意点	配付資料を用いて、講義形式で行う。授業中に何度か課題を出す。それらの課題に取り組むことで、授業内容をしっかりと復習してほしい。
科目学習の効果(資格)	＜地理学的なものの方・考え方＞の学習・理解を通じて、ひとつとは違った視点から身近な問題を捉えられるようになる。なお、中学社会・高等学校地理歴史の教員免許取得を目指す学生にとっては必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	地理と地理学	授業の進め方、授業全体の参考書の紹介など	高校までの「地理」の学習内容を振り返る
	2	地図とスケール1	地図の歴史と思想について	紹介した参考文献を読む
	3	地図とスケール2	スケール設定の意味について	「面白い」地図に関する課題に取り組む
	4	地誌の歴史と役割	地誌が各時代に果たした役割について	紹介した参考文献を読む
	5	人間と環境の関係	環境論について	環境論的思考の実例を探してみる
	6	農業はどのように立地するか	農業立地論について	身近な地域の農地の分布を調べる
	7	大都市と中小都市の関係	中心地理論について	分布図の課題に取り組む
	8	知識や技術の広がり方・伝わり方	空間的拡散・空間的相互作用論について	ある「イノベーション」に注目して、その拡散過程を調べる
	9	空間の捉え方は人によってどう異なるのか	メンタルマップのうち、空間認知研究について	手描き地図の課題に取り組む
	10	場所イメージはどのように作られるのか	メンタルマップのうち、場所イメージ研究について	身近な地域のマンション・アパート名を調べる
	11	場所への愛着	人文主義地理学について	「ふるさと」に関する課題に取り組む
	12	景観と風景	景観論と風景論について	紹介する参考文献を読む
	13	時間と空間からみた人間の行動	時間地理学について	日常の行動とその制約について考えてみる
	14	「男性」／「女性」にとっての空間	ジェンダー地理学について	身の周りにある「ジェンダー化された空間」を探してみる
	15	地理教育の役割	近代国家と地理教育の関係について	期末レポートを作成する

関連科目	「自然地理学」「地誌学」
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学への招待	竹中克行編	ミネルヴァ書房
	2	人文地理学—その主題と課題—	杉浦章介ほか	慶應義塾大学出版会
	3	地理学概論	上野和彦ほか編	朝倉書店

評価方法(基準)	期末レポート 60%、授業中課題 40%
----------	----------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 柴田研究室
----------	-------------

備考	
----	--

教養科目

科目名	哲学 I	科目名 (英文)	Philosophy I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	<p><b>【授業全体のあらまし】</b>  「哲学」と聞くと、皆さんはどんなことを思い浮かべるでしょうか。「難しそうだな」と思うでしょうか。それとも「面白そう」とか、「深い話が聞けるかもしれない」と思う人もいますでしょうか。  辞書で「哲学」と調べると、たいてい、次の二つの意味が載っています。  一つ目は「自分自身の経験などから作り上げた人生観・世界観」というものです。このような意味での「哲学」は、「人生哲学」といったほうが正確かもしれませんが。何かの分野で成功した人や、興味深い人生観を持つ人が、このような意味での「哲学」について講演したり、本を出版することがあります。このような「哲学」を、この授業に期待してきている人もいますかもしれません。  もう一つの意味は「世界や人間の究極の根本原理を理性的に追求する学問」というものです。これはたとえば、「タレス」という哲学者は、世界の「根本原理」を「水」と考えたとか、「プラトン」という哲学者にとっては、「根本原理」は「善のアイデア」である、とか、そのような仕方で説明されることがあります。こちらの「哲学」は、もしかすると、私たちの日常生活からかけ離れた、空想めいた話のように聞こえてしまうこともあるかもしれません。「タレス」という人が、根本原理は「水」だと言ったからといって、それと自分の人生に一体何の関係があるのだ、私たちがそのことを学ぶメリットが一体どこにあるのか、と疑問に思う人もいますかもしれません。  今挙げた「哲学」の様々な特徴?難しそうだとか、でも何か深いことを言っているのではないかとか、人生の大事な指針になるのではないかとか、いや、単に空想めいた、日常生活からかけ離れたことにすぎないのではないかと、ということ?は、おそらく、すべて当たっているところがあると思います。その中で、私としては、できるだけ哲学の「日常生活からかけ離れた」要素は少なくして、皆さんの人生に深くかかわる可能性がある部分を集中的に扱いたいと思います。  歴史上、現代まで伝えられてきた哲学者がいます。その人たちは、死後何百年、人によっては何千年も経っているのに、まだ忘れ去られることなく、「その人の考えは今生きている私たちの参考になる」と、ずっと思われ続けてきた人々です。どこかの時代の人が「もうこの人は何の参考にもならない」と思ったとしたら、現代にまで伝わっていないかもしれません。  この授業では、このような人々の何人かを選んで、その人たちが言っていることなかで、現代を生きる私たちの参考になりそうなことを、皆さんと一緒に探っていきたいと思います。このような人たちの哲学は、世界の根本原理の説明から、人生どのように生きるべきか、他者や自己とどのように付き合うべきか等、様々な要素を含んでおり、しかもそれらが密接に繋がって、一つの大きな、言わば（世界の見方）を作っています。皆さんは、その中で「これはなかなかいいな」とか「これはあまりよいとは思わないな」などと、自由な感性で考えてもらおうのがよいと思います。ただし、その際に、「なぜ自分はそう思ったのだろうか」とさらに踏み込んで考えてもらおうと、これらの人々のことも、自分自身のこと、さらに深く理解できるようにするのではないかと考えます。  授業では、西洋哲学史上の著名な哲学者を十数名扱う予定です。しかし、一部変更がある可能性がありますので、その際はご承知願いたいと思います。</p> <p><b>【各学部・学科の教育目的に基づいた位置づけ】</b>  本授業は、本学経営学部経営学科のDP（ディプロマ・ポリシー）1における「社会人として必要な教養」と、CP（カリキュラム・ポリシー）①における「企業社会で活躍し、また貢献・奉仕することができる幅広い教養とグローバルな視野」の涵養の一環に位置付けられます（経営学部経営学科のDP、CPについての詳細は <a href="http://www.setsunan.ac.jp/aboutus/policy/keiei/keiei.html">http://www.setsunan.ac.jp/aboutus/policy/keiei/keiei.html</a> を参照してください）。</p>																																																				
到達目標	<p>(1) 授業で扱う西洋哲学史上の人物について、①彼らの置かれた時代的背景や常識、②彼らの考えの要点（世界の見方、人はどう生きるべきか、等）、③後の時代に与えた影響の3点を、自分の言葉で他者に説明することができる。</p> <p>(2) 授業で扱う西洋哲学史上の人物の考え（1の②）と、自分自身の考えを比較することで、自分自身が知らず知らずのうちにそれに根ざして行動している原理を自覚し、それを自身の言葉で他者に説明することができる。</p>																																																				
授業方法と留意点	<p><b>【授業形式】</b>  講義を中心とする。しかし、特定のテーマについてピア・ディスカッション（机の隣のひととの議論）をしてもらうことがある。また、授業内容に関する小問題を授業中に解いてもらうことがある。</p> <p><b>【講義時間内のスケジュール（予定）】</b>  前回のコメントシートへの返答、前回の小問題の解説（10分?20分）  コメントシート（小問題が付く場合がある）配布、今回の講義のポイント解説（10分?20分）  講義（50分程度）  コメントシート（小問題が付く場合がある）提出（5分）</p>																																																				
科目学習の効果（資格）																																																					
授業計画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義の説明</td> <td>特になし</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>古代ギリシアの哲学（1）</td> <td>ソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想の概要を扱う予定である（1）</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>古代ギリシアの哲学（2）</td> <td>ソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想の概要を扱う予定である（2）</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>古代ギリシアの哲学（3）</td> <td>ストア派の思想の概要を扱う予定である</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>中世の哲学（1）</td> <td>キリスト教と哲学のかかわりと、アウグスティヌスの思想の概要を扱う予定である</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>中世の哲学（2）</td> <td>キリスト教と哲学のかかわりと、トマス・アクィナスの思想の概要を扱う予定である（2）</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>近代の哲学（1）</td> <td>デカルトの思想の概要を扱う予定である</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>近代の哲学（2）</td> <td>スピノザ、ライプニッツの思想の概要を扱う予定である</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>近代の哲学（3）</td> <td>ヒュームの思想の概要を扱う予定である</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>近代の哲学（4）</td> <td>カントの思想の概要を扱う予定である</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>近代の哲学（5）</td> <td>ヘーゲルの思想の概要を扱う予定である</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>近代の哲学（6）</td> <td>キルケゴールの思想の概要を扱う予定</td> <td>予習：適宜指示する。</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義の説明	特になし	2	古代ギリシアの哲学（1）	ソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想の概要を扱う予定である（1）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。	3	古代ギリシアの哲学（2）	ソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想の概要を扱う予定である（2）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。	4	古代ギリシアの哲学（3）	ストア派の思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。	5	中世の哲学（1）	キリスト教と哲学のかかわりと、アウグスティヌスの思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。	6	中世の哲学（2）	キリスト教と哲学のかかわりと、トマス・アクィナスの思想の概要を扱う予定である（2）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。	7	近代の哲学（1）	デカルトの思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。	8	近代の哲学（2）	スピノザ、ライプニッツの思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。	9	近代の哲学（3）	ヒュームの思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。	10	近代の哲学（4）	カントの思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。	11	近代の哲学（5）	ヘーゲルの思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。	12	近代の哲学（6）	キルケゴールの思想の概要を扱う予定	予習：適宜指示する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																		
1	オリエンテーション	講義の説明	特になし																																																		
2	古代ギリシアの哲学（1）	ソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想の概要を扱う予定である（1）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。																																																		
3	古代ギリシアの哲学（2）	ソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想の概要を扱う予定である（2）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。																																																		
4	古代ギリシアの哲学（3）	ストア派の思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。																																																		
5	中世の哲学（1）	キリスト教と哲学のかかわりと、アウグスティヌスの思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。																																																		
6	中世の哲学（2）	キリスト教と哲学のかかわりと、トマス・アクィナスの思想の概要を扱う予定である（2）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。																																																		
7	近代の哲学（1）	デカルトの思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。																																																		
8	近代の哲学（2）	スピノザ、ライプニッツの思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。																																																		
9	近代の哲学（3）	ヒュームの思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。																																																		
10	近代の哲学（4）	カントの思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。																																																		
11	近代の哲学（5）	ヘーゲルの思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。																																																		
12	近代の哲学（6）	キルケゴールの思想の概要を扱う予定	予習：適宜指示する。																																																		

		である	復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。
	13	近代の哲学（7）	ニーチェの思想の概要を扱う予定である 予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。
	14	近代の哲学（8）	ハイデガーの思想の概要を扱う予定である 予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。
	15	まとめ	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。
関連科目	哲学 I I		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	定期試験（下の小問題を解くことができれば、解くことのできる問題を出題する） 55% コメントシートに付属する小問題 45% ※ 出席は評価方法には入らない		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	非常勤講師控室		
備考	<p>参考書等は授業時に適宜紹介します。質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。 非常勤講師室等における相談可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。</p> <p>連絡先： 貫井隆 nukui.takashi.54n★kyoto-u.jp ★は@に変えてください</p>		

科目名	哲学Ⅱ	科目名(英文)	Philosophy II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	濱 良祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	<p>「哲学」と聞くとひどく難しい学問であると感じられるかもしれないし、ひとによっては役に立たない、自分には関係ない、と思うかもしれない。しかし、私たち人間は人生において誰もが必ず「私とは何か」、「他者とは何か」、「幸せとは何か」など、人間存在・人間関係に根本に関わる難問に出会うことになる。</p> <p>この授業は、そうした人生における難問に自ら向き合えるようになるための準備である。そのためにこの授業では西洋哲学の諸思想を通して人間存在や社会に関わる諸問題に取り組み、さらに現代という時代を生きる私たち自身のあり方について考察していく。</p>
到達目標	<p>(1) 哲学に関する基礎的な知識を習得すること。</p> <p>(2) 人間存在や社会の問題に対する哲学的な洞察力と、主体的な思考力を身につけること。</p> <p>(3) 自らの思考を適切に伝えるための論理的表現力を高めること。</p>
授業方法と留意点	<p>講義形式</p> <p>授業時に講義内容に関するレジュメを配布する。参考文献は必要に応じて授業中に適宜紹介する。</p> <p>受講者には、授業で紹介される哲学思想を単に学習するだけでなく、それらについて自らで思考し、批判的に吟味するように求めたい。</p> <p>前の回までの内容をふまえて講義することになるので、各授業後にしっかりと復習を行い、ノートや資料の整理をしておくこと。病気などやむをえない事情で欠席した場合には、その回の資料を入手し、目を通しておくこと。</p> <p>授業期間中に授業の理解度を試す小テスト、小レポートを実施する。</p>
科目学習の効果(資格)	現代社会の一員として主体的に生きるための、思考力と幅広い見識と教養を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	「知」の可能性——哲学の端緒(1)	古代ギリシアの思想を通して「知」の可能性について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
3	「知」の探求——哲学の端緒(2)	ソクラテスの思想を通して「知」の探求の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
4	近代科学の方法と哲学(1)	西洋近代における自然観・人間観の変化と、それに基づく近代科学の発生などについて考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
5	近代科学の方法と哲学(2)	近代科学の方法論とその限界を、哲学的視点から考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
6	近代的自我の確立——デカルト(1)	デカルトの思想を紹介し、近代的自我の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
7	合理主義の世界観——デカルト(2)	デカルトの思想から、哲学における「神」と「世界」の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
8	経験主義の認識論(1)	ロックの思想から、確実な「知識」と蓋然的な「信念」の違いについて考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
9	経験主義の認識論(2)	ヒュームの認識論を取り上げ、人間はなぜ不確実なものを確実だと信じるのか、という問題について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
10	啓蒙と理性	啓蒙主義における人間の理性への確信と、その限界について	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
11	経験主義と合理主義の総合——カント(1)	カントによる認識論の「コペルニクス的転回」を紹介し、人間の認識の限界について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
12	理性の二律背反——カント(2)	カント哲学における自然と自由の二元論と、それに基づく人間観について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
13	「ことば」とは何か(1)	ソシュールの思想を通して、言語の創造的機能について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
14	「ことば」とは何か(2)	言語と認識の関係について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
15	総括と展望	これまでの学習内容を概観し、その成果を確認すると同時に残された課題についての展望を示唆する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。

関連科目 哲学Ⅱ、社会学、経済倫理、社会と人権

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				



評価方法 (基準)	授業内での小レポート等を40%、期末レポートを60%として、総合的に評価する。
学生への メッセージ	授業中の私語、携帯の使用などで授業を妨害した者には退席を命じ、欠席扱いとします。大学生にふさわしい態度で授業に臨んでください。
担当者の 研究室等	非常勤講師控室（授業日のみ入室）
備考	<p>授業担当者メールアドレス： xhamaryo@edu.setsunan.ac.jp</p> <p>提出物についての全体的な講評は授業内で行う。具体的な評価に関する問い合わせには、授業時間の前後に対応することができる。授業時間外での質問等は出講時に非常勤講師室にて対応することができる。</p> <p>授業外学習の目安は、予習復習を合わせて毎回1時間程度とする。</p>

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	The Japanese Constitutional Law
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲 淳介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

授業概要・目的	概要：日本国憲法の基本的な内容を理解できるように、授業テーマと関連する憲法上の問題をとりあげ、これと関わりのある基本事項、判例、学説を解説・検討します。目的：身近に生じる憲法上の問題を通して憲法の基本的な考え方を理解してもらうこと。
到達目標	憲法の基本的な知識を修得し、身近に生じる憲法上の問題を憲法の視点から考えるようになることを目指します。
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。小テストは授業中に、適宜、行います。なお小テストを実施した回に欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。

科目学習の効果 (資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。
--------------	--------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	憲法とは1	憲法の意味、憲法の最高法規性、違憲審査制などについて説明します。	事前に教科書11頁から20頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	2	憲法とは2	日本国憲法の基本原理、国民主権の原理、平和主義の原理 (第9条) について説明します。	事前に教科書19頁、217から229頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	3	基本的人権の保障1	人権の歴史、人権の分類、人権の限界、人権の享有主体について説明します。	事前に教科書21頁から30頁を読んで下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	4	基本的人権の保障2	外国人にも日本国憲法が保障する人権の享有が認められ、認めえるとしてその人権は何かなどについて説明します。	事前に教科書31頁から40頁を読んで下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	5	幸福追求権と法の下での平等	幸福追求権の性格と範囲、新しい人権、「法の下での平等」の意味、平等違反の違憲審査基準について説明します。	事前に教科書49頁から70頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	6	信教の自由と政教分離の原則	信教の自由の内容と限界、国家と宗教の分離の限界などについて説明します。	事前に教科書71頁から82頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	7	表現の自由	表現の自由の保障の範囲と限界、表現の自由の優越的地位と二重の基準の理論について説明します。	事前に教科書83頁から94頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	8	検閲と事前抑制	表現活動を規制する方法、検閲とは何か、裁判所による表現行為の事前抑制は許されるかなどについて説明します。	事前に教科書95頁から104頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	9	経済的自由権	職業選択の自由とその規制をなどについて説明します。	事前に教科書105頁から114頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	10	社会権	生存権を中心に社会権について説明します。	事前に教科書115頁から134頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	11	刑罰と刑事手続	犯罪と刑罰、憲法と罪刑法定主義などについて説明します。	事前に教科書135頁から144頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	12	国会	国会の地位、国会の組織と活動、国会の権能などについて説明します。	事前に161頁から172頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	13	内閣	議院内閣制、内閣の組織と権能などについて説明します。	事前に教科書173頁から184頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	14	裁判所	司法権の定義、司法権の範囲、司法権の独立などについて説明します。	事前に教科書185頁から206頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	15	地方自治	地方自治の本旨、条例制定権、住民投票について説明します。	事前に教科書207頁から216頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。

関連科目	法学入門
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての憲法学 (第3版)	中村睦男・岩本一郎・大島佳代子・木下和朗・齊藤正彰・佐々木雅寿・寺島壽一	三省堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (60%)、小テスト (40%) の割合で評価します。小テストは、適宜、行います。
-----------	--

教養科目

学生への メッセージ	授業で生じた疑問は必ず質問して下さい。
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	日本の歴史	科目名(英文)	History of Japan
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高木 純一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	本講義では、日本の歴史を概観しつつ、とくに現代の私たちが“伝統的”と観念しているような日本の諸要素について、その形成過程や歴史の実態を提示する。その際、私たちがそれらに対して抱いているイメージとのギャップに注意し、何となく“日本の伝統(的なもの)”だと思われている諸要素が、その歴史の実態において、私たちの認識とは相当程度かけ離れたものであったことを明らかにする。 半期という限られた期間であるため、ある程度日本通史を兼ねることが可能で、かつ最も重要な要素として、とくに【天皇・宗教・武士・村社会・景観】という五つのテーマを取り上げる。基本的にはテーマごとに時系列に沿って講義を進めるが、各時代の比重は必ずしも同等ではなく、テーマに応じて異なってくるはずである。
到達目標	・日本史の大まかな流れを理解し、最低限の認識・知識を身につける。 ・現代とは相当異質な社会がかつて存在したことを知ることで、現代社会を相対化する。 ・“日本の伝統(的なもの)”だと思われていた諸要素が、その歴史の実態において、私たちの認識とは相当程度異なるものであったことを理解し、そうした無理解はときに大きな危険性をもたらすことを学ぶ。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。レジュメとパワーポイントを主に使用する。 教科書はとくになし。
科目学習の効果(資格)	

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義の進め方、評価方法などについて説明する。併せて、単なる基礎教養・知識にとどまらない歴史を学ぶことの意義や、「日本史学」という学問の特質を提示する。	シラバスを一読してくる。
2	天皇(1):天皇と「日本」の起源	日本における国家形成とその特質について、とくに大陸との関係性を意識しつつ、天皇制や「日本」という国号の成立を中心に概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
3	天皇(2):創られた近代天皇制	前回講義をふまえつつ、近代の天皇制について、前期代とは相当程度断絶した「創られた伝統」という性格に注目して考察する。	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
4	宗教(1):仏教伝来と神仏習合	日本における諸宗教の成立・伝来や相互の関係について、とくに「神仏習合」という観点からその特質を述べる。	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
5	宗教(2):キリシタンと葬式仏教	現代に続いていくような日本的な宗教のあり方の起源や、「無宗教」と目認して顧みることのない現代の我々の心性の淵源について考える。	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
6	宗教(3):国家神道とは何か	とくに国家神道を取り上げ、戦争への道を歩んでいく近代日本の宗教的・思想的状況を概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
7	武士(1):「武士」の成立	武士と貴族の意外な親近性、「武士」の身分的性格などの指摘により、従来型の武士の成立論に再検討を加える。	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
8	武士(2):戦国大名の実像	とくに織田信長・今川義元を取り上げ、今でも絶大な人気を誇る「戦国大名」なる存在の歴史の実像に迫る。	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
9	武士(3):武士道という幻想	「武士道」と言われて現代の私たちが想起する思想の淵源、歴史の諸段階における「武士道」なる思想の内容を概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
10	村社会(1):「村社会」日本の成立	現代に続くような村落(永続的な村、自律的・自立的な村)の成立について、中世の時代環境からのそれを説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
11	村社会(2):日本の家と村	成立した村を構成する家や、日本人の名前について、氏・姓・苗字といったものの違いにも留意しつつ概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
12	村社会(3):刀狩りと百姓一揆	「竹槍藩旗」に代表される武器を剥奪された近世民衆イメージを問い直し、日本社会の非暴力化・平和化への歴史的道の	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。

			りを示す。	復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。																
	13	景観(1)：里山・棚田・松原	「日本の原風景」として語られる里山・棚田・松原（いわゆる「白砂青松」）の歴史的形成過程や実態や、前近代の植生景観について考察を加える。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。																
	14	景観(2)：「鎮守の森」	同じく「日本の原風景」とされる「鎮守の森」について、とくに近代的変化を意識しつつその歴史的成立や実態を明らかにする。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。																
	15	本講義のまとめ	本講義で述べてきたことを時系列に即して再構成しつつ、全体を総括する。	予習：これまでのレジュメ・ノートをもとに、講義をふり返しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。																
関連科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	平常点 60%：授業内で感想・疑問などを記入したコメントペーパーを提出してもらう。 レポート 40%：授業で配付する課題文献リストから一つを選び、それについて 2000 字程度の書評レポートを提出してもらう。																			
学生への メッセージ	主体的に学習する意志を持つ学生の受講を期待します。																			
担当者の 研究室等	連絡先：jun01.tkg@gmail.com																			
備考	自身が使用した高校・中学校日本史教科書を持参することが望ましい。 すでに捨てた、手元がないなどの場合は『もういちど読む山川日本史』等を購入して対応すること。 百科辞典・歴史辞典の収録された電子辞書の持参も推奨。 私語・携帯電話の使用等は厳禁。これを守れない場合には受講を認めない場合がある。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																			

科目名	脳の情報処理	科目名(英文)	Computing in Brain
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	人間の知的活動の中核である脳における諸機能の理解を通して、認識、思考、判断、注意などの人間の諸活動に関わる基礎知識を獲得し、専門分野に活かす。
到達目標	脳における情報処理の基礎事項の理解とそれらを自身の生活に活かすこと。
授業方法と留意点	講義内でのミニツーパー、復習のための課題レポートの提出を必要とする。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	脳について学習する上で知っておくべき用語や概念を説明する	課題レポートを仕上げる
	2	脳の構造	大脳は頭部にある様々な器官と連携してはたしている。それぞれの器官の構造と役割を概説する	課題レポートを仕上げる
	3	学習: シナプスと可塑性	脳による認識・記憶・学習の基本となる神経細胞のシナプスにおける信号伝達の変化(可塑性)について概説する	課題レポートを仕上げる
	4	視覚	感覚情報の大部分を占める視覚の情報処理について概説する	課題レポートを仕上げる
	5	錯視・錯覚	認識戦略におけるわれわれの積極的な推測による副作用である錯視や錯覚から、人間の認識手法を知る	課題レポートを仕上げる
	6	男女の脳	生理学的な脳の男女の差から男女の心理行動の違いについて考える	課題レポートを仕上げる
	7	注意と選択	認識をはじめとする脳の情報処理は、意識の注がれるところに集中的に作用する。その現象を説明する	課題レポートを仕上げる
	8	聴覚と言語	コミュニケーションや情緒の表現に使用される音楽や音声の取扱いの違いや意味の取扱いが、いかになされるかを概説する	課題レポートを仕上げる
	9	感覚の連合	複数の感覚からひとつの概念が形成されることを情報の流れを通じて説明する	課題レポートを仕上げる
	10	運動	大脳のさまざまな部位での情報処理と小脳および周辺器官の連携による、運動の生成および運動の学習について概説する	課題レポートを仕上げる
	11	思考と推論	高度に発達した人間の特徴のひとつである思考と推論について概説する	課題レポートを仕上げる
	12	構造と認知	ゲシュタルト心理等の構造の知覚および認知について概説する	課題レポートを仕上げる
	13	記憶	大脳と辺縁系による記憶の定着と再現のしくみについて概説する	課題レポートを仕上げる
	14	人間関係	人間の社会性における自他の区別や共通性、自我や感情について脳の機能を中心に考える	課題レポートを仕上げる
	15	総括	まとめ	期末試験に向けて復習する

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	MIND HACKS	Tom Stafford, Matt Webb	オライリー・ジャパン
	2			
	3			

評価方法(基準) ミニツーパー等の活動を含めた授業態度 20%、課題レポート 40%、試験 40% を総合して判断する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 11号館10階 寺内研究室

備考

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名(英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。</li> <li>・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害(マルチ商法)、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。</li> <li>・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。</li> <li>・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。</li> <li>・犯罪被害者を論ずる前に、講義の回数を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。</li> <li>・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」(教養)でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「被害者」概念について説明できるようになる。</li> <li>・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できるようになる。</li> <li>・犯罪被害者の支援制度について理解する。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答も随時行いたい。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。</li> <li>・公務員や法律事務所などへの就職に役立ちうる。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進め方と文献紹介</li> <li>・「加害者」の法的責任</li> <li>・「加害者」と「犯罪者」</li> <li>・「被害者」の意義</li> <li>・「犯罪被害者」の意義</li> </ul>	事前: 「犯罪被害者」について調べてみよう 事後: 重要事項をまとめる
2	「犯罪者」をめぐる諸問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「犯罪者」の刑事責任</li> <li>・刑罰の正当化根拠</li> <li>・厳罰化をめぐる諸問題</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
3	犯罪被害の告訴・告発と証拠収集 犯罪捜査への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・告訴と告発の方法</li> <li>・証拠保全</li> <li>・犯罪被害者に対するメディアスクラム</li> <li>・報道による被害(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ネット)</li> <li>・被害者連絡制度</li> <li>・被害者側からの問い合わせ</li> <li>・被害者からの事情聴取</li> <li>・警察と検察によるカウンセリング体制</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
4	加害者との示談	<ul style="list-style-type: none"> <li>・示談の意義</li> <li>・示談が与える影響</li> <li>・示談慰謝料の算定</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
5	加害者の不起訴と検察審査会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検察審査会</li> <li>・検察審査員</li> <li>・審査申立手続</li> <li>・検察審査会と被害者</li> <li>・起訴議決制度</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
6	刑事公判と被害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害者による裁判傍聴</li> <li>・被害者による記録の閲覧と謄写</li> <li>・被害者の意見陳述</li> <li>・被害者等特定事項の非公開</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
7	犯罪被害者参加制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象犯罪</li> <li>・被害者に認められる行為</li> <li>・参加の申出と参加時期</li> <li>・公判前整理手続への参加</li> <li>・被害者の証人尋問</li> <li>・被告人質問と意見陳述</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
8	遺族による法廷への遺影の持ち込みをめぐる諸問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判</li> </ul>	事前: 前回までの復習 事後: 重要事項をまとめる
9	損害賠償命令制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度の趣旨</li> <li>・対象犯罪</li> <li>・遺族による申立</li> <li>・請求対象とその範囲</li> <li>・管轄裁判所と申立期間</li> </ul>	事前: 「犯罪被害者への経済支援」を調べよう 事後: 重要事項をまとめる
10	被害者通知制度 犯罪被害者等給付金制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加害者の施設内処遇と社会内処遇</li> <li>・加害者の仮釈放</li> <li>・犯罪被害者への経済支援制度</li> <li>・受給資格</li> <li>・支給要件と支給額</li> <li>・不服申立</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる

	11	その他の経済的支援制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪被害者救護基金</li> <li>・交通事故犯罪</li> <li>・犯罪による精神被害</li> </ul>	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	12	少年事件における被害者保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少年法と犯罪被害者救済</li> <li>・少年事件における記録閲覧</li> <li>・少年審判の傍聴</li> <li>・少年事件での意見陳述</li> <li>・少年とその親に対する損害賠償</li> <li>・少年法と犯罪被害者救済</li> </ul>	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	13	DV被害 高齢者に対する虐待	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DVとは何か</li> <li>・配偶者による犯罪</li> <li>・DV被害者の保護と支援</li> <li>・保護命令</li> </ul>	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	14	ストーカー被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いわゆる「ストーカー規制法」の概要</li> <li>・ストーカーへの行政処分</li> <li>・ストーカー犯罪の類型</li> <li>・ストーカーへの対応策</li> <li>・高齢者虐待の原因論</li> </ul>	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	15	重要事項のまとめと確認テスト	重要事項のまとめ	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4訂版 ビクティム・サポート (VS) マニュアル</td> <td>第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会</td> <td>東京法令出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	4訂版 ビクティム・サポート (VS) マニュアル	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	4訂版 ビクティム・サポート (VS) マニュアル	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	開講時に指示する。																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	・試験の成績による。																			
学生への メッセージ	・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。																			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室																			
備考	事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回1,5時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。																			



科目名	プレゼンテーション論	科目名(英文)	Presentation
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2○, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	現代社会における企業等のビジネス組織で用いられているプレゼンテーションに関する知識や技法についての基礎的理論を体系的に学習する。また、基本的コミュニケーションの在り方からスピーチの構成と実践に取り組み、次いでプレゼンテーションでの実践へと段階的に学習し、体得することを目的とする。
到達目標	1) 自己紹介等、自分のことや興味・関心の高いものを堂々と述べるようになる。 2) 相手を尊重したコミュニケーションの必要性を理解できるようになる。 3) 自分の伝えたいことを明確にし、それを伝えるための初歩的スキルを身に付けることができる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 個人のプレゼンテーションを繰り返すので、学んだことを実践に移す努力が必要である。そのためにプレゼンしている姿をカメラ等で撮影し、それを基に自分自身で改善していくことが望まれる。
科目学習の効果(資格)	コミュニケーションに対する理解が深まり、自主性を養うことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	オリエンテーション	・プレゼンテーションの定義と語源	・事前学修: プレゼンテーションの意味を考える。	・事後学修: 初歩的プレゼンテーションについてレポートを作成する。
2	自己紹介プレゼンテーション①	・漢字一文字で自分を表現する。	・事前学修: 漢字一文字表現を練習する。	・事後学修: 漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考える。
3	プレゼンテーションとコミュニケーション	・プレゼンはコミュニケーションの一部であること、それ以前にプレゼンターとしての人間的要素を高めることの必要性を学ぶ。	・事前学修: 漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。	・事後学修: コミュニケーション思考についてレポートを作成する。
4	プレゼンテーションの基本	・基本的スキルの提示、ならびにそれを高める努力の在り方を学ぶ。	・事前学修: プレゼンテーションの基本は何かを考える。	・事後学修: 自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
5	自己紹介プレゼンテーション②	・1分、3分という時間を使い切るプレゼンテーションを練習する。	・事前学修: 初歩的プレゼンテーションレポートを振り返る。	・事後学修: 自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
6	プレゼンテーションの評価	・プレゼンテーションは評価されるものであることを理解し、その観点をアイデア会議で抽出する。	・事前学修: 自己紹介プレゼンを修正する。	・事後学修: 評価の意味を考え、自己紹介プレゼンを評価する。
7	プレゼンテーションの構成	・プレゼンテーションの論理的組み立て方と校正方法を学ぶ。	・事前学修: 評価から修正した自己紹介プレゼンを練習する。	・事後学修: 自己紹介プレゼンをさらに評価し、修正したものを練習する。
8	評価表作成①	・グループワークの中で、アイデア会議で抽出したことを基に、評価表を作成する。	・事前学修: 修正した自己紹介プレゼンをさら練習する。	・事後学修: グループ活動としての評価表作成を行う。
9	評価表作成②	・グループ活動で作成した評価表を基に、グループ内で自己紹介のプレゼンテーションを実際に評価し、調整し、完成する。	・事前学修: 評価表作成を行う。	・事後学修: グループ内で評価表に基づいた評価を行い、完成させる。
10	評価表作成③	・各グループで作成した評価表を発表し、本年度のプレゼン評価表を全体で完成する。 ・「良かった点・改善点」であるフィードバックの意味を理解する。	・事前学修: 評価表を完成させる。	・事後学修: フィードバックの必要性に関してレポートを作成する。
11	紹介プレゼンテーション①	・紹介したいモノを選択し、各自で紹介プレゼンテーションの作成をする。	・事前学修: 紹介プレゼンを練習する。	・事後学修: 紹介プレゼンを練習する。
12	紹介プレゼンテーション②	・紹介プレゼンテーションを評価表を基に完成させる。	・事前学修: 紹介プレゼンを練習する。	・事後学修: 作成した評価表が機能するか、紹介プレゼンで確かめる。
13	紹介プレゼンテーション③	・グループ内発表、全体発表を繰り返し、評価表に記入する。 ・個人プレゼンのテーマを決め、実際に練習する。	・事前学修: 紹介プレゼンを完成させる。	・事後学修: 個人プレゼンを完成させる。
14	フィードフォワード	・「良かった点・改善すべき点」のフィードバックを受け、フィードフォワードとする意味を理解する。	・事前学修: 個人プレゼンを完成させる。	・事後学修: 個人プレゼンに関して改善レポートを作成する。
15	まとめ	・まとめワーク。 ・個人プレゼン発表。		

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プレゼンテーション ZEN	ガー・レイノルズ	阪急コミュニケーションズ
	2	TED トーク 世界最高のプレゼン術	ジェレミー・ドノバン	新潮社
	3			
評価方法 (基準)	プレゼンテーション (50%)、レポート (50%) で評価し、総点の 60% で合格とする。			
学生への メッセージ	人前で話すこと、意見を述べるのが得意な人は決して多くはありません。しかしながら、社会人ともなればコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が問われます。不得意だという意識を変え、自分なりに取り組む方法を覚え、練習を重ねていくことによって、以前とは異なった自分自身を発見できるでしょう。			
担当者の 研究室等	7号館 5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。			

科目名	プロポーザル・デザイン	科目名 (英文)	Design and Proposal
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー (DP)	V科：II◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1○, E科：B△, C科：II◎, L科：DP2◎, D科：DP1◎, S科：DP1◎, P科：DP8△, J科：DP1◎, W科：DP1◎, N科：DP1◎, DP1◎		

授業概要・目的	サービスデザインの構築による新事業をいかに創造するか、そのプロセスの概観を学習する。新商品・サービスの企画段階では、提供者（企業）、利用者（消費者）の発信する情報をいかに融合させて価値を示すのかが課題である。本授業は、Webサービスの普及において、企業・消費者等の叡智を融合する『デザイン思考 (Design Thinking)』の手法により、多様な視点で共創型の提案をどのように進めるのかを学ぶ。デザイン思考は、学部・専攻の枠を超えた汎用的な課題解決プロセスを提供し、多くの産官学で実践されている米国発の方法論で、新サービスの発想の有形化を行う手段として、新市場の開拓を狙う関係者から注目を集めている。
到達目標	1. サービス思考 どのようなサービスを提案し、いかにつくるのかを思考する。 2. 共創 (コラボレーション) 異分野や立場の異なる人達と思考ベクトルを融合させ、新しい価値の創出を狙う。 3. サービス提案 共創のアウトプット (結果) を整理し、アウトカム (成果) としてまとめて、プレゼン等で発信する。  プロポーザル・デザインにかかわる、①e-Sales 商材開拓、②e-Promotion SNS 利活用広報、③e-Marketing 事業推進 の課題を指定する。(これらの事業に係る企業やNPO 法人からのゲスト講演の受講機会あり。)
授業方法と留意点	授業は、講義、テーマごとに、課題の個人発表、グループワーク・発表 (4~5 名/グループ) から構成される。毎回、グループワーク・発表 (プレゼンテーション) を中心に授業運営を進める。また、ランダムに指名し各自の意見を求めた際には、積極的・建設的な発言等で授業への参画に励むよう努めること。適宜、最新の業界トピック、適用されているテクノロジーを学習する。  デザイン思考は、新サービスの発想を形にするコミュニケーション支援手法で、異なる価値観を有する人との間で、共創活動をとって成果を導き出す狙いがある。異分野交流を期待する人に向けた領域である。
科目学習の効果 (資格)	・新聞や Web が提供する Web デザイン関連テーマの記事の骨格を理解することができる。 ・同僚・先輩学生と意見交換を図るための基礎知識や素養を身につけることができる。 ・異分野の者の間のグループワークによる交流・親交の機会に接する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・授業ガイダンス ・『デザイン思考 (Design Thinking)』とは何か ・デザインファーム IDEO	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
2	サービスデザインの科学	・サービスデザイン ・Web サービスと人間系サービス ・人間中心のデザイン (Human-Centered Design) ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
3	ケーススタディ 1	・サービスにおける人間系要素 ・メンタルマトリックス ・Web サービスの特質 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
4	サービスの市場	・『市場 (Market)』とは何か ・プロポーザルフレームワーク ・提案の視点 ・提案を取り巻くステークホルダー ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
5	『デザイン思考 (Design Thinking)』の概観	・『デザイン思考』の視点 ・デザイン思考とシステム思考 ・デザイン思考の位置づけ ・個人発表 (プレゼンテーション)	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
6	ケーススタディ 2	・ユーザーエクスペリエンスデザイン (User Experience Design) ・カスタマーエクスペリエンスデザイン (Customer Experience Design) ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
7	『デザイン思考 (Design Thinking)』の手順	・デザイン思考の標準ステップ ・発見 (Discover) / 定義 (Define) / 発想 (Ideate) / 実証 (Prototype) ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
8	『デザイン思考 (Design Thinking)』の視点	・サービス提供者 (企業) と利用者 (消費者) の関係性マネジメント ・RAD (Rapid Application Development) ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
9	ケーススタディ 3	・プロトタイピング ・ステークホルダー 顧客、取引先、CMO (chief marketing officer)、利益団体 (Interest Group) ・個人発表 (プレゼンテーション)	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
10	『デザイン思考 (Design Thinking)』と提案 (Proposal) 活動	・提案 (Proposal) 活動の骨子 ・ワークショップ適用事例 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
11	ケーススタディ 4	・B2C とデザイン思考 ・B2B とデザイン思考 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
12	ケーススタディ 5	・思考の発散と収束 ・演繹法と帰納法	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ

			・グループワーク・発表	
	13	ケーススタディ 6	・B2B2C デザイン思考 ・ゲスト講演聴講	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
	14	ケーススタディ 7	・オープンデザイン ・ビジネス実践事例 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
	15	まとめ	・総合課題 ・総括	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	デザイン思考の教科書	ファン・パイエン, アネミック/ダールハウゼン, ヤープ/ザイルストラ, イェル/ファンデル・スコール, ロース	日経 BP 社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	デザイン思考が世界を変える	ティム・ブラウン	早川書房
	2	IBMの思考とデザイン	山崎 和彦	丸善出版
	3	オープンデザイン ―参加と共創から生まれる「つくりかたの未来」	ヴァン・アベル, バス/エバース, ルーカス/クラーセン, ロエル/トクスター, ビーター	オライリージャパン
評価方法 (基準)	平常点 (25%)、個人レポートの提出 (15%)、定期試験 (60%) による総合評価を行う。平常点は、個人およびグループでの課題・ディスカッション、指名時の発言、小テスト (毎回、不定期)、授業への参画程度・態度で評価する。私語、携帯機器の利用、遅刻等の進行を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映するので、くれぐれも注意すること。			
学生への メッセージ	新サービスの発想を形にする手段として、市場から注目を集めているデザイン思考は、多様な視点で共創型の提案を進め、新サービスの発想を形にするコミュニケーション支援の方法論です。異なる価値観を有する人達との間で、グループワークをととして成果を導き出すアプローチに慣れ親しんでください。			
担当者の 研究室等	11 号館 7 階 (北村教授室)			
備考	全座席指定での着席をお願いします。初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、学習法、成績評価基準の説明、課題・発表 (プレゼンテーション) 要領、授業用ツール (Portal、SNS) 利用を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数の要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。			

科目名	文学から学ぶ	科目名(英文)	Literature
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	日本の近代文学の短編を読む。なお、明治から敗戦までの作品を近代文学と位置づける。 文学作品を読むことは、それだけで我々の心を豊かにしてくれる。作品を読むことで、近代の日本人が何を考え、発見し、何に悩んでいたのか、ともに考えたい。 文学作品への抵抗をなくし、作品を読んで考える習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	作品を鑑賞し、その文学的特徴を説明できる。
授業方法と留意点	毎回、1編の短編作品を取り上げて、講義する。 受講生は事前に作品を読んで授業に臨む。講義を受けたのち、作品に対するコメントを書く。 学生の関心によって、取り上げる作家、作品がシラバスとは変更する可能性もある。
科目学習の効果(資格)	文学に対する関心と知識が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	明治の文学	近代社会へ 言文一致運動	配布したプリントを読み、理解しておく
	2	明治の文学	夏目漱石の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	3	明治の文学	谷崎潤一郎の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	4	明治の文学	森鷗外の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	5	大正の文学	佐藤春夫の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	6	大正の文学	志賀直哉の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	7	大正の文学	菊地寛の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	8	大正の文学	小川未明の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	9	大正の文学	芥川龍之介の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	10	昭和前期の文学	横光利一の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	11	戦時下の文学	中島敦の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	12	戦時下の文学	太宰治の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	13	戦争の文学	原民喜の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	14	現代文学へ	安部公房の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	15	近代の詩を読む	高村光太郎・萩原朔太郎・三好達治らの詩を読む	配布したプリントを読み、理解しておく

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業時の参加度・コメント(100%) 場合によっては、課題を出す。
学生へのメッセージ	活字嫌いでも、少しがんばれば読み切れる短編を選びます。 この機会に、小説好きになりましょう。 専門の授業で疲れた脳を、文学で休ませてください。
担当者の研究室等	橋本研究室(7号館4階)
備考	事前事後学習時間の目安 60時間。

科目名	法学入門	科目名(英文)	Jurisprudence
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	法は私たちの日常生活と密接な関係にあり、私たちが普段あまり意識しないで行動していても、その行為の裏には法律関係若しくは法的問題のあるものが沢山あります。法を学ぶことは世の中を知ることにもつながります。この講義では、現実の社会と法の世界がどのように関係しあっているかということについて理解してもらいたいと思います。法についての基本的な知識と考え方を身につけ、世の中の動きに関心を持ってもらえたらと思います。内容としては、国の基本法である憲法と私生活を規律する民法が中心となります。																																																																		
到達目標	①憲法が守ろうとしているものが何であるかを概ね理解できるようになること。 ②民法の枠組みと基本事項を理解できるようになること。																																																																		
授業方法と留意点	講義方式を採ります。決まった教科書は使用しませんが、レジュメと参考資料を随時配付します。																																																																		
科目学習の効果(資格)	公務員試験や教員免許の取得等に参考になると思います。 また、法律や政治に関する時事問題が理解し易くなります。 さらに、法律的なものの考え方が理解できるようになります。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法とは何か</td> <td>法規範と道徳の違い、法源とは何かなど</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>法の解釈</td> <td>法令解釈の基本</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>国家と法</td> <td>国家と憲法、国民主権、三権分立</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>平和と法</td> <td>平和主義</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>人権と法(Ⅰ)</td> <td>基本的人権の保障(自由権)</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>人権と法(Ⅱ)</td> <td>基本的人権の保障(社会権)</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>政治と法</td> <td>統治機構</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>国と地方</td> <td>地方自治</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>財産と法</td> <td>所有権の絶対性</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>契約と法(Ⅰ)</td> <td>契約自由の原則</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>契約と法(Ⅱ)</td> <td>契約各論</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>契約と法(Ⅲ)</td> <td>契約各論(続き)</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>行政と法</td> <td>行政機関の仕事</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>紛争解決と法</td> <td>争訟制度</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>授業全体のまとめ</td> <td>配付資料を復習しておいてください。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	法とは何か	法規範と道徳の違い、法源とは何かなど	随時資料を配付する	2	法の解釈	法令解釈の基本	随時資料を配付する	3	国家と法	国家と憲法、国民主権、三権分立	随時資料を配付する	4	平和と法	平和主義	随時資料を配付する	5	人権と法(Ⅰ)	基本的人権の保障(自由権)	随時資料を配付する	6	人権と法(Ⅱ)	基本的人権の保障(社会権)	随時資料を配付する	7	政治と法	統治機構	随時資料を配付する	8	国と地方	地方自治	随時資料を配付する	9	財産と法	所有権の絶対性	随時資料を配付する	10	契約と法(Ⅰ)	契約自由の原則	随時資料を配付する	11	契約と法(Ⅱ)	契約各論	随時資料を配付する	12	契約と法(Ⅲ)	契約各論(続き)	随時資料を配付する	13	行政と法	行政機関の仕事	随時資料を配付する	14	紛争解決と法	争訟制度	随時資料を配付する	15	まとめ	授業全体のまとめ	配付資料を復習しておいてください。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	法とは何か	法規範と道徳の違い、法源とは何かなど	随時資料を配付する																																																																
2	法の解釈	法令解釈の基本	随時資料を配付する																																																																
3	国家と法	国家と憲法、国民主権、三権分立	随時資料を配付する																																																																
4	平和と法	平和主義	随時資料を配付する																																																																
5	人権と法(Ⅰ)	基本的人権の保障(自由権)	随時資料を配付する																																																																
6	人権と法(Ⅱ)	基本的人権の保障(社会権)	随時資料を配付する																																																																
7	政治と法	統治機構	随時資料を配付する																																																																
8	国と地方	地方自治	随時資料を配付する																																																																
9	財産と法	所有権の絶対性	随時資料を配付する																																																																
10	契約と法(Ⅰ)	契約自由の原則	随時資料を配付する																																																																
11	契約と法(Ⅱ)	契約各論	随時資料を配付する																																																																
12	契約と法(Ⅲ)	契約各論(続き)	随時資料を配付する																																																																
13	行政と法	行政機関の仕事	随時資料を配付する																																																																
14	紛争解決と法	争訟制度	随時資料を配付する																																																																
15	まとめ	授業全体のまとめ	配付資料を復習しておいてください。																																																																
関連科目	憲法、民法など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験の結果で評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	学生時代には、いろいろなことに興味を持ち、専門分野以外の勉強をすることも、将来何かの役に立つと思います。法の世界もその一つです。授業が進めば新たな世界が見えてくると思います。																																																																		
担当者の研究室等	11号館10階 小島研究室																																																																		
備考	なし																																																																		

教養科目

科目名	法学入門	科目名(英文)	Jurisprudence
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	法は私たちの日常生活と密接な関係にあり、私たちが普段あまり意識しないで行動していても、その行為の裏には法律関係若しくは法律的問題のあるものが沢山あります。法を学ぶことは世の中を知ることにもつながります。この講義では、現実の社会と法の世界がどのように関係しあっているかということについて理解してもらいたいと思います。法についての基本的な知識と考え方を身につけ、世の中の動きに関心を持ってもらえたらと思います。内容としては、国の基本法である憲法と私生活を規律する民法が中心となります。																																																																		
到達目標	①憲法が守ろうとしているものが何であるかを概ね理解できるようになること。 ②民法の枠組みと基本事項を理解できるようになること。																																																																		
授業方法と留意点	講義方式を採ります。決まった教科書は使用しませんが、レジュメと参考資料を随時配付します。																																																																		
科目学習の効果(資格)	公務員試験や教員免許の取得等に参考になると思います。 また、法律や政治に関する時事問題が理解し易くなります。 さらに、法律的なものの考え方が理解できるようになります。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法とは何か</td> <td>法規範と道徳の違い、法源とは何かなど</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>法の解釈</td> <td>法令解釈の基本</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>国家と法</td> <td>国家と憲法、国民主権、三権分立</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>平和と法</td> <td>平和主義</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>人権と法(Ⅰ)</td> <td>基本的人権の保障(自由権)</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>人権と法(Ⅱ)</td> <td>基本的人権の保障(社会権)</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>政治と法</td> <td>統治機構</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>国と地方</td> <td>地方自治</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>財産と法</td> <td>所有権の絶対性</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>契約と法(Ⅰ)</td> <td>契約自由の原則</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>契約と法(Ⅱ)</td> <td>契約各論</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>契約と法(Ⅲ)</td> <td>契約各論(続き)</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>行政と法</td> <td>行政機関の仕事</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>紛争解決と法</td> <td>争訟制度</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>授業全体のまとめ</td> <td>配付資料を復習しておいてください。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	法とは何か	法規範と道徳の違い、法源とは何かなど	随時資料を配付する	2	法の解釈	法令解釈の基本	随時資料を配付する	3	国家と法	国家と憲法、国民主権、三権分立	随時資料を配付する	4	平和と法	平和主義	随時資料を配付する	5	人権と法(Ⅰ)	基本的人権の保障(自由権)	随時資料を配付する	6	人権と法(Ⅱ)	基本的人権の保障(社会権)	随時資料を配付する	7	政治と法	統治機構	随時資料を配付する	8	国と地方	地方自治	随時資料を配付する	9	財産と法	所有権の絶対性	随時資料を配付する	10	契約と法(Ⅰ)	契約自由の原則	随時資料を配付する	11	契約と法(Ⅱ)	契約各論	随時資料を配付する	12	契約と法(Ⅲ)	契約各論(続き)	随時資料を配付する	13	行政と法	行政機関の仕事	随時資料を配付する	14	紛争解決と法	争訟制度	随時資料を配付する	15	まとめ	授業全体のまとめ	配付資料を復習しておいてください。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	法とは何か	法規範と道徳の違い、法源とは何かなど	随時資料を配付する																																																																
2	法の解釈	法令解釈の基本	随時資料を配付する																																																																
3	国家と法	国家と憲法、国民主権、三権分立	随時資料を配付する																																																																
4	平和と法	平和主義	随時資料を配付する																																																																
5	人権と法(Ⅰ)	基本的人権の保障(自由権)	随時資料を配付する																																																																
6	人権と法(Ⅱ)	基本的人権の保障(社会権)	随時資料を配付する																																																																
7	政治と法	統治機構	随時資料を配付する																																																																
8	国と地方	地方自治	随時資料を配付する																																																																
9	財産と法	所有権の絶対性	随時資料を配付する																																																																
10	契約と法(Ⅰ)	契約自由の原則	随時資料を配付する																																																																
11	契約と法(Ⅱ)	契約各論	随時資料を配付する																																																																
12	契約と法(Ⅲ)	契約各論(続き)	随時資料を配付する																																																																
13	行政と法	行政機関の仕事	随時資料を配付する																																																																
14	紛争解決と法	争訟制度	随時資料を配付する																																																																
15	まとめ	授業全体のまとめ	配付資料を復習しておいてください。																																																																
関連科目	憲法、民法など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験の結果で評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	学生時代には、いろいろなことに興味を持ち、専門分野以外の勉強をすることも、将来何かの役に立つと思います。法の世界もその一つです。授業が進めば新たな世界が見えてくると思います。																																																																		
担当者の研究室等	11号館10階 小島研究室																																																																		
備考	なし																																																																		

科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式を基本とします。
科目学習の効果 (資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	6	マーケティングのSTPAアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷—	武居 奈緒子	千倉書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
	2	消費行動	武居 奈緒子	晃洋書房
	3			

評価方法 (基準)	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましよう。
担当者の研究室等	11号館8階 武居教授室
備考	



科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名(英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間ですら犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A], 理工学部 [I1]
到達目標	自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようにする。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよいと考える。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果(資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか?	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか?	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)
3	犯罪はなぜ起こるのか? どうやって減らすのか?	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すぎがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか? どのように防犯対策を進めているのか?	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)
5	街頭犯罪ーひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)
7	性犯罪ー街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)
9	ストーカー、DV(配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)
10	詐欺ー高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)
11	サイバー犯罪ー子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)

	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験70%、講義毎回の確認ペーパー30%で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できることからでいいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえと思う。			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室			
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。			

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥野 竜平
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	これから就職活動を始める学生(大学3年)を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)企業における品質問題を体験する。(4)原価管理の基礎知識を修得する。(5)PDCAサイクルによる課題解決を体験する。
授業方法と留意点	パナソニック(株)より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック(株)の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。摂大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁です。なお、1~8回目までは120分授業とする。
科目学習の効果(資格)	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	企業・製造業・仕事の基本とは② 4月19日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
3	企業・製造業・仕事の基本とは③ 4月26日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
4	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5月10日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
5	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5月17日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
6	企業・製造業・仕事の基本とは⑥ 5月24日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
7	品質教育① 5月31日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	----
8	品質教育② 6月7日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	品質教育①~②の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
9	原価・コスト教育① 6月14日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	----
10	原価・コスト教育② 6月21日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	----
11	原価・コスト教育③ 6月28日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①~③の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
12	課題解決教育① 7月5日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	----
13	課題解決教育② 7月12日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①~②の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
14	プレゼンテーションの方法 7月19日(木)	プレゼンテーションの基礎知識を習得する	これまでの講義を総括して、全体討議・質疑応答でのプレゼン資料作成を行うこと
15	全体討議・質疑応答 7月26日(木)	14回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目 『ものづくりインターンシップ実践』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	課題レポート(6回)と受講レポート50%、授業姿勢(積極性)20%、全体討議(プレゼンテーション)10%、期末試験20%にて総合評価を行う。
学生への メッセージ	日本を代表する企業であるパナソニック(株)と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」を同時に受講することが前提です。
担当者の 研究室等	1号館4階 奥野教授室
備考	毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回1時間程度。 レポート各回3時間程度、プレゼン準備と期末試験のための学習20時間程度。全体討議におけるプレゼンテーション資料作成のため、2回 実習前指導を実施する(7/12(木), 7/19(木)6限目)。 パナソニック講師:佐藤哲志、山下秀行、斎藤遵、町田秀人

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	諏訪 晴彦・木多 彩子・檜橋 祥一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	本科目は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」で、実際に海外に渡航し、海外で実習を受けるために必要な英語力やマナー、現地の予備知識(社会・文化等)、協同作業能力などを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では、将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ、海外事情や企業のグローバル化の実態、持続可能な開発の在り方を学ぶほか、英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人たちと交流・研究する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。?
到達目標	(1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。本講義は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。講義室内ではできるだけ、日本語を使わないようにする。
科目学習の効果(資格)	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEIC や英検などを受験する契機となる。また、社会人としてのマナーが身につく。?海外における実体験ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス, 海外渡航手続き概要, 英語コミュニケーション1	パスポート, チケット予約(航空機, ホテル), 保険, 海外渡航準備, 英語による自己紹介	今回の課題レポート作成 次回の英語による自己紹介の準備
2	海外事情, 日系企業のグローバル化, 英語コミュニケーション2	英語による自己紹介発表, 海外の文化, 経済, グローバル化事情	今回の課題レポート作成 研修先の英字新聞の調査
3	研修先 事前調査, 英語コミュニケーション3	英字新聞記事の調査, 文化, 歴史, 経済事情, 企業・大学	今回の課題レポート作成 格差社会の調査
4	格差社会の問題	これからのグローバル人材として必要な素養を考える, ビデオ鑑賞など	今回の課題レポート作成 格差社会の問題についてレポート提出 英語による日本の紹介準備
5	社会人基礎力, 英語コミュニケーション4	社会人として必要な基礎力, 英語による日本の紹介発表	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
6	英語コミュニケーション5	海外渡航, 海外生活, 大学紹介, 専門科目の紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
7	英語コミュニケーション6	研修先企業, 大学の調査, 英語による発表, 英語によるワークショップなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
8	英語コミュニケーション7	海外研修を想定したグループ実習1, テクノセンター見学, ヒヤリングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
9	英語コミュニケーション8	海外研修を想定したグループ実習2, テクニカルニュースのリスニングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
10	英語コミュニケーション9	海外研修を想定したグループ実習3, テクニカルニュースの発表など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
11	英語コミュニケーション10	海外研修を想定したグループ実習4, 英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
12	英語コミュニケーション11	海外研修を想定したグループ実習5, 英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
13	マナー実習	挨拶, 礼儀, 服装, ミーティング, 質疑, 懇親会, 感謝, 気配り, 機転	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
14	海外渡航, 海外生活	渡航準備, 入出国, 習慣, 食生活, 健康管理	今回の課題レポート作成 成果発表の準備
15	英語による成果発表	まとめ	成果発表の反省

関連科目: ものづくり海外インターンシップ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準): 課題レポート60%, 取組み姿勢20%, 成果発表20%として評価を行う。

学生へのメッセージ: これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。

担当者の研究室等: 1号館4階 諏訪教授室

備考: 【事前事後学習】レポート作成, 復習の学習時間: 20時間程度  
【共同担当者】 諏訪教授 (M科), 石田准教授 (C科), 川野教授 (M科), 理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名 (英文)	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	奥野 竜平
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。																		
到達目標	(1)生産革新・改善を体験する。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験する。(3)チームワーク・QCD問題を体験する。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。																		
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック(株)人材開発カンパニーで、計7日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目 ものづくりインターンシップ基礎のまとめ、ものづくりインターンシップ実践の準備 7/19(木) 6限目</li> <li>・2回目 ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導 7/26(木) 6限目</li> </ul> <p>宿泊実習(パナソニック人材開発カンパニー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1~3日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>生産革新演習</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>1個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。(グループ演習)</li> <li>【事前・事後学習課題】</li> <li>演習終了後、レポートを提出のこと</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4~5日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>モノづくりシュミレーション演習</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得(設計~生産)し、目標達成のためのチームワーク・QCD問題意識の重要性を体得する。(グループ演習)</li> <li>【事前・事後学習】</li> <li>演習終了後、レポートを提出のこと</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>工場見学</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2工場)</li> <li>【事前・事後学習課題】</li> <li>見学終了後、レポートを提出のこと</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>研修成果報告会</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>研修成果報告会の実施。(グループ単位)</li> <li>【事前・事後学習課題】</li> <li>グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと</li> </ul> <p>実習中指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月1日(土) 1~4限目 プレゼンテーション指導</li> </ul> <p>実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目 体験報告書の添削指導</li> <li>・2回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導</li> <li>・3回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導</li> <li>・4回目 研修成果報告会(2回目)</li> <li>・5回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑</li> <li>・6回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</li> </ul>																		
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	実習成果 40%、研修成果報告会(2回) 20%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、実習・授業態度 20%とした総合評価を行なう。																		
学生へのメッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。																		

担当者の 研究室等	奥野教授室 (1号館4階)
備考	<p>期間：2018年8月27日(月)～8月31日(金)、9月3日(月)～9月4日(火) パナソニック(株)人材開発カンパニーでの宿泊研修です。9月1日(土)には摂南大学でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック㈱社員の、朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。</p> <p><b>【事前事後学習】</b> レポート作成、プレゼン準備としての学習時間：20時間程度。</p> <p><b>【担当者】</b> パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫</p>

科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名 (英文)	International Internship for Manufacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	諏訪 晴彦・木多 彩子・楠橋 祥一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は、「ものづくり海外インターンシップ」と呼び、世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。研修先はとりわけ東南アジアとする。?研修先によっては、海外の大学でワークショップ体験も含める。																
到達目標	(1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。																
授業方法と留意点	東南アジアは、フィリピン1箇所とタイ1箇所を予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約10日間(予定)の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお、本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎(海外班)」の受講を必須とする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導 ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導、海外実習の準備など</p> <p>海外実習 ・1～2日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学(英語)研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・3日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習/ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の上流である企画・設計部門。 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・4～5日目 【授業テーマ】製造工場見学 【内容・方法等】関連工場、施設、建築、デザイン作品の見学、現地従業員、大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・6～8日目 【授業テーマ】製造系実習 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・9～10日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位でPPTでプレゼン、または部分模型やその他手法を用いてプレゼンしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成を提出のこと</p> <p>実習後指導 ・1回目 最終レポート(体験報告書)の添削指導 ・2回目 成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・4回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</p>																
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	海外現地研修 60% (実習記録簿 20%, 実習・授業態度 20%, 実習成果プレゼン 20%), 実習前後の学習 5%, 実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会(2回) 15%として評価を行う。																
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎(海外班)」の受講を必須とする。																
担当者の研究室等	1号館4階 諏訪教授室, 川野教授室, 1号館3階 石田准教授室																
備考	【注意事項】研修予定期間: 2017年8月中旬(研修先の都合により変更する場合があります。) 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成、復習の学習時間: 20時間程度 【共同担当者】石田准教授, 川野教授, 理工学部インターンシップ委員会委員																



科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川 富盛
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>諸君は大学生になるまでは、「これまでに既に起きたこと」を学んできました。「既に起きたこと」はもう変わることはありませんから必ず正解があり、それらを覚えておけば済みました。つまり、たかだか「正解を教えてもらって要領良く覚える」ということをやってきただけに過ぎません。</p> <p>しかし、諸君がこれから歩を進めていく実社会は「明日を創っていく社会」ですから、最初から決まり切った正解なんかどこにもありません。自分で自分の答えを創り出して行くしかないのです。そこで最も必要となるのは、他人の話や文章を正確に理解し、自分の考えを的確に表現する能力です。</p> <p>実社会で諸君が自ら成長し自分の人生を築き上げていくことは、企業がより良い企業となることを目指して経営していくことと同じです。つまり、諸君のこれからの人生は「自分株式会社を経営していくこと」に他なりません。それには、自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となる、という大きな方向転換が必要なのです。具体的には、市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、様々なリスクや不確実性に果敢に立ち向かっていく力を身に着ける、ということです。</p> <p>経済や法律などの学問的知識に加え、金融や投資などファイナンスに関する実践的な知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単に目先のお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせないのです。</p> <p>本講義の目的は、諸君が人生のさまざまな局面で的確に決断し行動できるよう、ファイナンスの知識や考え方に根差した実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けることです。</p>
到達目標	<p>主としてファイナンスの観点から、実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着ける。</p> <p>この講義は、諸君が将来直面する経済生活やキャリアライフで、諸君自身が「賢い経済主体」として適宜的確に行動できるようになることを目指します。</p> <p>諸君としては、講義に漫然と出席して教科書を開いているだけでは目標に到達することなどあり得ず、当然ながら単位も取得できません。毎回きちんと意識を集中して受講し、「自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力を積み重ねる事が必要です。</p> <p>本講義は15回全体を通して次の三つのステップで構成し、各回とも教科書を使用した講義形式で進めます。</p> <p>① まずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。</p> <p>② 次に、ファイナンスの基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実践的に学んでいきます。</p> <p>③ 更に、それらを統合し活用する能力をインテリジェンスとして身に着け、社会生活に応用する方法を学びます。</p> <p>本講義では毎回必ず教科書をベースに講義を進めるため、レジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず持参してください。</p> <p>但し、講義の内容は教科書通りではなく、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎません。このため、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p>
授業方法と留意点	<p>本講義では毎回必ず教科書をベースに講義を進めるため、レジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず持参してください。</p> <p>但し、講義の内容は教科書通りではなく、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎません。このため、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>経済・社会生活やキャリアライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、ファイナンスの知識を活用する実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けます。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「経済主体としての立ち位置」	テキスト<P15~14, 4~13> ・私たちのくらしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性
2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト<P44~49, 38~44> ・国際経済 ・国家の財政
3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト<P16~18, 25~29, 18~25> ・お金の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行
4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト<P154~157, 159~166> ・契約社会 I ・ローン・クレジット ・契約社会 II
5	リスクと向き合う ①	「日常生活のリスク」	テキスト<P79~87, 166~168, 157~159, 168> ・リスクマネジメント ・契約社会 III
6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト<P88~97> ・年金制度 ・老後生活資金
7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト<P98~104> ・投資とは ・投資意思決定プロセス
8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト<P30~31, 56~57, 32~36, 54~55, 37, 50~53> 景気 景気と株価
9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品(株式等)」	テキスト<P123~135> ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品

				・デリバティブ テキスト<P117~123> ・預貯金 ・信託 ・債券																
	10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品（債券他）」	テキスト<P105~117> ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格																
	11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」	テキスト<P136~153> ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資																
	12	投資のリスク管理	「投資のリスクマネジメント」	テキスト<P58~67> ・ライフプランニング																
	13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト<P68~78> ・キャッシュフロー表の見直し ・ライフイベントごとの課題																
	14	人生の三大資金	「住宅、教育、リタイアメント資金」	全体レビュー																
	15	最終まとめ	「講義のまとめ」	講義で得た金融インテリジェンスのレビューを行い、実戦力を確認します。																
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎</td> <td></td> <td>金融知力普及協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎		金融知力普及協会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎		金融知力普及協会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2							
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
評価方法 (基準)	<p>下記のとおり、本講義と課題に対する取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験 : 20% (経済やファイナンスに関する知識の正確性を評価します。試験範囲は講義全体です。)</li> <li>・レポート : 50% (自分で考えて調査し問題解決する能力、即ち、全講義を受講して得た知見を評価します。)</li> <li>・平常点 : 30% (全員の受講状況と態度、質疑応答、課題・討議などを評価します。出席点ではありません。)</li> </ul> <p>講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、目標に到達することはあり得ませんから、当然ながら単位も取得できません。毎回きちんと意識を集中して受講し、「自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力を積み重ねる事が必要です。</p> <p>講義の中で提示した課題については、当日の講義中または次回の講義で検討と解説を行ないますので、知識の確認に適宜役立ててください。</p> <p>成績評価の一つとなる上記課題レポートは表計算ソフト「エクセル」で出題するので、提出期限（定期試験当日を予定）までにこの課題レポートの出題に答えて必要事項を調査・入力し、内容を精査すること。 (講義では「エクセル」の使い方は教えませんが、フォーマットを提示するので表入力と確認が必要です。)</p> <p>レポート課題は大学内の情報システムを通じて掲示・連絡しますので、学内情報システムの利用や連絡設定は各自で事前に必ず行っておいてください。</p>																			
学生への メッセージ	<p>本講義は「受講者の誰もが覚えられるように一つ一つ教えていく」のではなく、初回「イントロダクション」でも説明する通り、全15回を通して受講することによって、情報収集能力、考える力、判断力などの実力が付くように構成してあります。このため本講義を聴講すると、諸君は実戦と同じく、広範で大量の情報が一時的に流れてくることを経験することになります。</p> <p>しかし、諸君は既に大学生なのだから、「自分に分かる程度のことを自分に分かるように教えてもらえるのが当然だ」などという子供じみた甘えは捨て去ること。</p> <p>その上で、「講義されている内容を自分自身で考えて理解しよう」という確固たる意志を持ち、私語を慎み毎回静粛に受講すること。そうすればこれまでと異なる観点に立つことができ、本講義本来の効果を各自が最大限に得ることができます。</p> <p>本講義ではレジュメ等の資料を配布することは一切ありませんが、スマホやタブレット等からのネット検索やサイトの利用を適宜指示することがあります。</p> <p>受講者は指定された教科書を必ず購入してください。但し、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎず、講義内容も教科書通りではありませんので、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p> <p>その他、課題の提示方法等についても詳しくは講義の中で説明しますので、講義は毎回注意深く受講し、指示に従って下さい。こうした日常の情報収集能力が、各自の実力や成績評価にも大きく影響します。</p> <p>本講義で得た知識は、自分が学んでいる様々な専門知識と組み合わせることで、より高い効果を得ることができます。安直にありきたりの答えを求めるのではなく、自分で考える習慣を身につけてください。</p> <p>なお、居眠り、内職、途中離席、私語など、真摯に受講せず講義の妨げとなる学生には、講義を中断して注意を促し退席を命じる場合があります。学生の本分を弁えない不適切な行動は本講義の主旨を理解していない証左であり、成績評価にはマイナスとして反映します。</p>																			
担当者の 研究室等	11号館1階(教務課)																			
備考	<p>「事前・事後学習課題」について          予習(シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む): 30分程度          復習(講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する): 30分程度</p> <p>質問等は、講義前又は後の時間帯に、教室等での対面による自由な質疑応答で受け付けます。          興味のあることや疑問を感じたことなど、自分で抱え込まないで気軽に相談してください。          この講義は、SMBC日興証券グループによる「寄附講座」です。</p>																			

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名(英文)	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢 芳昭. 青笹 治. 井尻 貴之. 居場 嘉教. 尾山 廣. 川崎 勝己. 木村 朋紀. 中嶋 義隆. 長田 武. 西村 仁. 船越 英資. 丸山 如江. 宮崎 裕明. 村田 幸作. 吉岡 泰秀
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎的知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。
到達目標	教養としてのライフサイエンスの基礎的知識の理解
授業方法と留意点	配布資料に沿って、板書およびプロジェクターによる講義を行う。
科目学習の効果(資格)	生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	概要説明 特殊環境微生物学(西矢)	授業の進め方を説明する。 特殊環境の微生物に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
2	食品微生物学(村田)	微生物と生命・食糧・環境について解説する。	講義後に小論文を課す。
3	細胞生命生理学(宮崎)	生物がいかんして環境に適応する仕組み(ホメオスタシス)を獲得し、進化してきたのかについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
4	分子生物学(川崎)	分子生物学について説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
5	環境分析学(青笹)	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
6	生命環境科学(長田)	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	講義後に小論文を課す。
7	細胞機能学(船越)	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポート、または確認小テストを課す。
8	環境毒性学(木村)	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
9	構造生物学(中嶋)	生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。	課題レポートを課す。
10	タンパク質科学(丸山)	タンパク質の生合成、分類、機能、解析方法などについて概説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
11	分子細胞制御学(西村)	多くの生命現象は「現在(いま)」を生きるためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
12	生体触媒科学(井尻)	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
13	病態薬理学(居場)	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
14	発生遺伝学(吉岡)	形態形成を中心にモデル生物を用いた応用研究についても解説する。	講義中にレポートを課す。
15	生体分子機能学(尾山)	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	確認小テストを課す。

関連科目	生物学概論、生化学I、生物無機化学、生物統計学
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義中の積極性、各回のレポートや知識確認テスト、小論文などで総合評価する。
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	1号館 8階および9階 (理工学部生命科学科全専任教員)
----------	------------------------------

備考	
----	--

科目名	倫理学	科目名(英文)	Ethics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	いわゆる日本の高度成長期には「消費は美德」という言葉が流行した。「大量生産/大量消費社会」を賛美したものである。しかし、現在ではこれはもはや死語である。代わって、時代をリードしているのは「Mottainai(もったいない)」であるが、現代社会は本当にエコロジーを軸に転換することに成功しているだろうか。この講義では、20世紀の半ば以降、今日に至るまで社会を動かしている経済のシステムを理解した上で、それを変革するための道を探る。
到達目標	資本主義の精神的基盤について理解する。 古典的資本主義の限界と現代資本主義の特徴を理解する。 現代資本主義の限界、特に「外部問題」について理解する。 「成長の限界」において何が問われているのかを理解する。 資本主義に代わる社会のあり方について、自分なりの考えをまとめる。
授業方法と留意点	テキストを用いない「ノート講義」方式。適宜プリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	現代社会の根幹をなす資本主義を理解することによって、自分たちが混沌の時代に生きていること、また、これにどう対処すべきかのヒントが得られるはず。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業への導入	・現代=近代の特徴とは何か ・(熱い)社会と(冷たい)社会(レヴィ・ストロース) ・資本主義と成長の「神話」	現代社会の特徴と問題点を自分なりに考えてみる。
2	資本主義社会の成立(1)	・冒険商人と資本家 ・「倫理」としての資本主義(マックス・ウェーバー)	配付資料について自分なりの考えをまとめる。
3	資本主義社会の成立(2)	・恋愛と贅沢と資本主義(ゾンバルト) ・禁欲的生産と享乐的消費の関係	ウェーバーとゾンバルトの着眼点の違いを整理して、現代の商品開発に当てはめてみる。
4	古典的資本主義の限界と現代資本主義	・資本主義の帰結としての恐慌と帝国主義 ・現代資本主義の登場(フォードとGMの経営戦略)	『現代社会の理論』の該当箇所を読んでおく。
5	現代資本主義社会の特徴	・大量生産/大量消費社会 ・情報化/消費化社会におけるゆたかさ	『現代社会の理論』の該当箇所を読んでおく。
6	産業の文明的進化と情報化社会	・梅棹忠夫の「情報産業論」 ・情報化と脱工業化 ・情報化と消費化	『情報の文明学』の該当箇所を読んでおく。
7	情報化と人間社会	・インターネットの発達とコミュニケーションの変質 ・ネット社会の光と影	ネット社会の問題点を自分なりに考えてくる。
8	大衆社会と消費文化	・社会の大衆化と文化としての消費 ・情報の消費としてのマス・コミュニケーション ・消費と消尽(バタイユ)	社会の大衆化によって形成されてきた消費文化の事例を考えてみる。
9	現代社会の「外部問題」(1)	・経済システムと物理システム ・資源・エネルギーと環境の経済的「価値」	『現代社会の理論』の該当箇所を読んでおく。
10	現代社会の「外部問題」(2)	・貨幣の謎とエントロピー ・エコロジー経済学の可能性	エントロピー概念についての資料を理解する。
11	現代社会の「外部問題」(3)	・社会システムの限界としての「共有地の悲劇」 ・外部問題としての南北問題 ・途上国の人口爆発と先進国の少子高齢化	「共有地の悲劇」について調べてくる。
12	「成長の限界」をめぐる(1)	・『成長の限界』の予測とそれに対する様々な評価 ・エネルギー・資源の限界と「2050年問題」	「算術級数的増加」と「幾何級数的増加」の意味について調べてくる。
13	「成長の限界」をめぐる(2)	・成長神話からの脱却 ・江戸時代における循環型社会 ・循環型社会の構築のための条件	フローとストックについて調べてくる。
14	グローバル化と自由主義	・グローバル化の様々な局面 ・市場主義と経済的自由 ・リベタリアンとコミュニタリアン	グローバル化の事例について調べてみる。
15	まとめ	・講義全体のまとめ	これまでの講義ノートをまとめておく。

関連科目	環境倫理II
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の(精神)	M・ウェーバー	岩波文庫
	2	情報の文明学	梅棹忠夫	中公文庫
	3	現代社会の理論	見田宗介	岩波新書

評価方法 (基準)	授業内のレポート・平常点 (40%)、授業後のレポート、期末試験 (60%)
学生への メッセージ	環境問題の解決のためには現代社会全体の変革が必要です。21世紀のあるべき企業の姿もそこに重なっていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階
備考	事前・事後学習におよそ60時間必要。



# キャリア形成科目







科目名	インターンシップ基礎	科目名(英文)	Introduction to Internship
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考え、3年次にビジネスインターンシップを履修するまでに実践する。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことを等と考えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・前期の大学生活で経験したことを思い出しておくこと。
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・配付したレジュメを熟読しておくこと。
3	社会を知る②	・課題「働く人取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループで討議する準備をすること。
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方を事例を知る ・業界/業種とは何かを理解する ・川上～川下の概念を理解する	・配布レジュメを熟読すること。
5	社会を知る④	・会社組織とは何かについて理解する ・職種について理解を深める	・配布レジュメを熟読すること。
6	グループ課題の提示 ビジネスマナーを学ぶ	・グループワークの目的を理解する ・グループ課題の工程管理・学外に出て学ぶ際に必要なビジネスマナーを学ぶ	・学んだことを、日常生活で活かすこと。 ・グループの中での役割を見出すこと。
7	就活体験①	特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・配付レジュメを熟読すること。
8	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・配付レジュメを熟読すること。
9	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること。
10	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること。
11	自分を高める③	講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	・発表の準備をしておくこと
12	グループプレゼンテーション①	グループ課題の発表	・プレゼンテーションの準備をしておくこと。
13	グループプレゼンテーション②	グループ課題の発表	・プレゼンテーションの準備をしておくこと。
14	グループプレゼンテーション③	グループ課題の発表	・プレゼンテーションの準備をしておくこと。
15	授業のおさらい	講義のおさらいと期末レポートの振り返り	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと。

関連科目: キャリアデザイン、ビジネスインターンシップⅠ・Ⅱ、職業能力開発、キャリアプラン

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	グループワーク(10%)、提出物(40%)、レポート(50%)を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	来るべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室(水野)
備考	

科目名	エンプロイメントデザイン I	科目名 (英文)	Employment design I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵, 上野山 裕士, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	<p>大学での学生生活の過ごし方、学修に対する姿勢、大学を卒業するにあたってどのような進路を選択し、またどのような職業へと導かれたかの3つのテーマを基に、本学の教職員から多様な生き方を聴き、それらに基づいたグループワーク、個人ワークを行う。</p> <p>この活動により、4年間の学生生活をプランニングし、自分の意見を持つことを主な目的とする。</p> <p>また、大教室での多くの学生と共に話を聴くという態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方を理解する。</p>
到達目標	講師の意見を聴き、自身のキャリア（職業生活）を通したライフプランニング（人生設計）を必ず描いてみることで、またそのための試行錯誤することを学ぶことが目標である。
授業方法と留意点	人生の先輩方のお話を真摯な態度で聴く姿勢をもつことを心がける。また、話を聴くことが主となり、内容に関して調べ、まとめることを課題とするため、メモを取る習慣を身に付ける。 この科目は1年生向けの科目で、2018年度入学生のみ履修ができる。
科目学習の効果（資格）	大学生生活の過ごし方や将来への目標の設定の仕方から、職業人として働くことや人・社会とかわかるといふことについて考える契機となる。

キャリア形成科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科目の趣旨・目的と評価について</li> <li>・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して</li> <li>・キーワードの調べ方とレポートに関して</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を振り返る</li> </ul>
2	学生生活① 未来の自分に何を渡すか！ ～大学生活で成長するために必要な3つのこと～ (担当：地域連携センター 古屋豊吾)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みなさんと同じ撰大生として、ラグビー部での経験と社会で活かせる能力を関連付けて、「自己肯定感」の重要性についてお話しします。</li> <li>個人ワークやミニゲームを取り入れながら進行します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を振り返る</li> </ul>
3	学生生活② チャンスだらけの撰南大学- 学生時代に飛躍する方法- (担当：経営学部 准教授 久保 貞也)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 撰南大学をうまく活かした先輩たち (事例紹介)</li> <li>(2) チャンスを失う典型的な学生 (注意喚起)</li> <li>(3) 撰大でチャンスを得る方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を振り返る</li> </ul>
4	学生生活③ 大学生活が教えてくれた10のこと (担当：教務課 池田 有紀)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の話を聴き、自分が「好きなこと・モノ」を明確化するとともに、大学生活のなかで何かに向かって試行錯誤しながらチャレンジするきっかけを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を振り返る</li> </ul>
5	学生生活④ 講義の中間まとめ (担当：キャリア教育推進室)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ分けの実施</li> <li>・講義2回から4回のまとめ</li> <li>・レポートの書き方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を振り返る</li> <li>・第1回「学生生活」に関するレポート締切</li> </ul>
6	キャリアパス① 個別ワーク「私がNO.1プロジェクト」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1になる」為の計画を立て、実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した課題を実践すること</li> </ul>
7	キャリアパス② 「私のキャリア」 キャリアアップを考える (担当：経済学部 教授 持永 政人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業での経験を踏まえ、将来のキャリアアップのために学生時代に何をすべきかを講義します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を振り返る</li> </ul>
8	キャリアパス③ 「NO.1 プロジェクト」途中経過の共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義6で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を振り返る</li> <li>・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること</li> </ul>
9	キャリアパス④ 自分のキャリア形成のためには何が必要なのか？ (担当：スポーツ振興センター 准教授 藤林 真美)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の失敗（しかし、将来への原動力につながる）から、充足・不足していたことを紹介します。事前課題として「学歴、資金、マンパワーなど何一つ心配することなく、自分のやりたい職業に就ける or 起業できると仮定し、その内容と準備について」自由な発想で考えてきてください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を振り返る</li> </ul>
10	キャリアパス⑤ 講義の中間まとめ (担当：キャリア教育推進室)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアパスの回のまとめ</li> <li>・グループワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回課題「キャリアパス」に関する課題を提出</li> </ul>
11	学修① 学修の回のオリエンテーション (担当：キャリア教育推進室)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学修の回のオリエンテーション</li> <li>・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポザルの作成」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで課題に取り組む</li> </ul>
12	学修② 法律とスポーツと将来の職 (担当：法学部 教授 石井 信輝)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法とスポーツとの関係性は見出しにくいですが、様々な関係性を有する。したがって、その関係性を解説しながら、担当者が研究に取り組むに至った経緯や大学における学習に向かう心構え等について講義する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を振り返る</li> </ul>
13	学修③ 講師のキャリア事例から「キャリア」を考える (担当：経営学部 講師 西之坊 穂)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学んできた「キャリア」は何か、キャリアについてあらためて考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を振り返る</li> </ul>
14	学修③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義11で取り組んだ課題をグループ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を振り返る</li> </ul>

	課題「グループで課題研究」の発表	ごとに発表する。	・グループ課題を提出	
15	講義のまとめ(担当:キャリア教育推進室)	・エンプロイメントデザインIの振り返り	・講義を振り返る ・第3回課題「講義の最終レポート」	
関連科目	キャリアデザインI・キャリアデザインII・エンプロイメントデザインII			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	毎回のミニッツペーパー(15%)、グループワーク(15%)、グループ課題(10%)、レポート3回(60%)、を総合的に判断する。			
学生へのメッセージ	学生生活4年間を以下に有意義に過ごすかをプランニングし、社会人・職業人としてのライフスタイルを考えるために、人生の先輩のお話を真摯な態度で聴いてほしい。また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切にし、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。			
担当者の研究室等	7号館5階キャリア教育推進室(石井) 7号館3階キャリア教育推進室(水野)			
備考	教科書:各回の講師が必要に応じ、プリント配布。 参考書:各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。  講師・内容は都合により変更することもある。			

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名(英文)	Employment design II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武, 石井 三恵, 上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	外部講師(本学卒業生を含む)をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 また、さまざまな職業についての理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養を目的とする。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付ける。
科目学習の効果(資格)	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(キャリア教育推進室)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点(特に聴く態度)について	・講義の感想を提出
2	「先人(企業家)に学ぶ～仕事への心構え」(商工会議所/職員)	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話をします。	・講義の感想を提出
3	私が大阪府警察で働く理由～警察官の数だけ理由がある～(警察官)	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介。警察学校の生活を紹介するDVDの上映も行います。	・講義の感想を提出
4	ソフトウェアエンジニア、起業、NPO活動、海外へ行って仕事をする、常に目標を持ち続けること(ICT開発/代表)	キャリアデザインの一つの参考事例として、これまで歩んできたキャリアパスをお話しします。 ソフトウェアエンジニアとして仕事を始め、インターネット時代の到来とともに起業、その後の仕事の考え方、10年間取り組んだNPO活動「子どもサポートプロジェクト」、そして現在取り組んでいる台湾への仕事の展開をお話しします。	・講義の感想を提出
5	プログラマを目指して摂南大学に入学してからNPO代表になるまで(摂大OB/NPO法人代表)	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性”を武器にNPO法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話しします。	・講義の感想を提出
6	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話しします。	・講義の感想を提出
7	金融業界と銀行業務について(金融)	金融業界と銀行業務について、自分のキャリアをも含め、詳しくお話しします。	・講義の感想を提出
8	新卒での就職活動で全てが決まる!? (摂南大学OG・旅行代理店/カウンター業務)	・講師の学生生活、キャリア形成のプロセスなどを体験談を交えてお話しします。	・講義の感想を提出
9	信用金庫の歴史と社会的使命(金融/人材開発)	・信用金庫の設立と信用金庫理念、そして北おおさか信用金庫の取り組みについて講義します。	・講義の感想を提出
10	中間まとめ(キャリア教育推進室)	講義の中間まとめを行います。	・中間レポートを提示(提出期間は概ね2週間)
11	中間まとめのグループワーク	・グループワークを実施します。	・グループ課題を提出
12	高校教師の仕事(高校教師)	・高校の教師の仕事についてお話しします。	・講義の感想を提出
13	今求められる公務員像(摂南大学OB/市役所職員)	・あるべき姿からありたい姿へ職業としての公務員-経験談を通して、公務員になりたい自分を再度見つめ直していただきます。	・講義の感想を提出
14	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ(摂南大学OB/経営者)	・社会人となる学生へ、体験談を通して企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・講義の感想を提出
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅡのまとめ ・まとめのワークシート	・最終レポートを提出

関連科目: キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

キャリア形成科目

評価方法 (基準)	毎回の感想 (30%)、レポート2回 (60%)、グループ課題 (10%) を総合的に判断する。
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。
担当者の 研究室等	7号館5階キャリア教育推進室 (石井) 7号館3階キャリア教育推進室 (水野)
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。

科目名	キャリアデザイン	科目名(英文)	Introduction to Career Design
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水野 武, 上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	さあ始めよう!大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	大学で学ぶ意味について考えること。
3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話聴く	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること。 ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること。
4	自己効力感を高めよう	・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと
5	グループ課題の設定	・グループワーク(インタビュープロジェクト)の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	チームの中で「自分はどんな役割を果たしたいか」を考えること。
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	社会で求められる人材について考えること。
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること。
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	配布資料を熟読すること。
9	自分づくり①	・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク	自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと。
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定	大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること。
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	社会人基礎力を実践する方法を考えること。
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	他者に紹介したい本を選んでおくこと。
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること。
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	夏休み以降の大学生活の目標を考えること。

関連科目: キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ、エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

キャリア形成科目

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室 (水野)
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。

科目名	キャリアプラン	科目名(英文)	Career Plan
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武, 石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材(人財)になるために何をすべきかを考えられるようになる。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の事を他者に伝えられるようになることを目標とする。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義ではセルフワークとグループワークを織り交ぜて行うため、能動的な姿勢が求められる。
科目学習の効果(資格)	授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意思が伝えられるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・講義の目標、進め方、評価方法の解説 ・就職活動のスケジュールを知る	・配布資料を熟読すること。
	2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	・どんな業界があるのかを調べること。
	3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	・どんな会社があるのかを調べること。
	4	ビジネス研究③	企業の多様なビジネスの事例を知る	・ビジネスモデルについて調べること
	5	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	・自分のワークスタイルを考えること。
	6	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	・グループへの貢献の仕方を考えること。
	7	ビジネス研究⑥	・グループでプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと。
	8	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと
	9	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	・自分の未来について考えること。
	10	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	・自分について振り返ること。
	11	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	・自分の特性について考えること。
	12	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	・エントリーシートを作成する準備をしておくこと。
	13	グループでのコミュニケーション	・グループディスカッションを学ぶ	・グループへの貢献の仕方を考えること
	14	面接における対人コミュニケーション①	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	・模擬面接の準備をしておくこと。
	15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無いか確認すること。

関連科目	・キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、教的能力開発、コミュニケーション能力開発、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義での提出物と授業態度(30%)、期末レポート(50%)、授業での課題(20%)を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。
-----------	-----------------------

担当者の研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井研究室) 7号館3階 キャリア教育推進室(水野研究室)
----------	--

備考	参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。
----	-----------------------



科目名	コミュニケーション能力開発	科目名(英文)	Development of Communication Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	社会に必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの4技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。これはまた、本格的に社会生活を始める前に経験する「就職活動」においてもポイントとなるスキルです。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンを練習する機会はあまりありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。
到達目標	高度なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とします。具体的には社会活動において、自らが望む相応の結果を出すためのスキルを身につけることが目標です。
授業方法と留意点	毎回、個人ワーク・グループワーク等演習を中心に進行します。主体性を持って積極的に参加することで一層の学習効果が期待できます。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	シラバス熟読
2	聞く技術、話す技術	話す、聴くための技術の基本的な方法を学ぶ。	講義内容を復習しておく。
3	言語能力開発①	正しい日本語の基礎を学ぶ。 (語彙・文章について)	講義内容を復習しておく。
4	言語能力開発②	正しい日本語の基礎を学ぶ。 (敬語について)	講義内容を復習しておく。
5	ダイバーシティコミュニケーション	多様な方々とのコミュニケーションを学ぶ。	講義内容を復習しておく。
6	ロジカルシンキング①	論理的思考法の基礎、概要を学ぶ。	講義内容をまとめておく。
7	ロジカルシンキング②	論理的思考法を用いて、文章を構築する。	自己PRを完成させる。
8	中間テスト	言語表現能力(日本語力/語彙力、文章構築力)を問う。	中間テスト
9	プレゼンテーション①	論理的思考法を用いて構築した文章を効果的に伝える方法を学ぶ。	講義で学んだことを実践する。
10	プレゼンテーション②	論理的思考法を用いて構築した文章を効果的に伝える方法を学ぶ。	講義で学んだことを実践する。
11	グループディスカッション①	ディベート型ディスカッションを体験する。	講義で学んだことを実践する。
12	グループディスカッション②	問題解決型ディスカッションを体験する。	講義で学んだことを実践する。
13	面接演習①	対人コミュニケーションの代表的事例として面接を体験する。	自己PRやアピールポイントなどを整理しておく。
14	面接演習②	対人コミュニケーションの代表的事例として面接を体験する。	自己PRやアピールポイントなどを整理しておく。
15	講義の振り返り	全体のまとめとレポート作成	全ての範囲を確認しておく。

関連科目	キャリアデザインⅡ, 数的能力開発
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点40% テスト&授業内レポート60%(中間テスト及び最終レポート)で評価します。
----------	---

学生へのメッセージ	人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」です。ビジネスにおいても同様です。社会を形成する一要素がビジネスなのだから当然ですね。だから「学生に一番求める能力は？」というアンケートで、コミュニケーション能力は10年以上もずっと1位であり続けるのです。さあ、その能力を、今から一緒に磨いて行きましょう！
-----------	--

担当者の研究室等備考	
------------	--

キャリア形成科目

科目名	職業能力開発	科目名(英文)	Human Resources Development
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	【目的】社会生活およびビジネスに必要な社会的基礎力の向上を目指す。 社会人・職業人に求められる社会的基礎力<論理的な思考力、新しいアイデアを生み出す発想力、チームワーク力>の向上を目指す。 【概要】日本の産業の変遷の視点からビジネスパーソンに求められる能力の変化について理解し、その能力の獲得方法について考える。
到達目標	1. 日本の産業の変遷を理解する 2. ビジネスにおいて求められる力を理解し、その獲得のために行動変容を起こせるようになる 3. チームで成果物を創出する 4. 自らのやる気の源泉を考えられるようになる
授業方法と留意点	配布資料とスライドに基づいて講義を行う。授業ではグループワークを多用するので能動的に自ら考えて答えを出すように心掛けてください。
科目学習の効果(資格)	ビジネス社会で必要な能力を習得し、活用することができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義ガイダンス:講義概要と講義の進め方	・講義目的と講義内容を説明し、講義の進め方、成績評価の方法について解説する。 ・職業の定義を知る	事後学修:講義の内容、進行方法を理解する
	2	日本の職業指導の歴史	・日本の作業の変遷と求められた能力の変化を知る	事後学修:配布レジュメを熟読し、日本の産業の変遷について復習すること
	3	情報編集能力を磨こう	情報編集能力を高めるワーク	事後学修:学んだことを日常生活で活用してみる
	4	グループワークの提示	・グループワークのインストラクション ・グループの工程管理を考える	事後学修グループで課題に取り組むこと
	5	日本の就職活動について	・日本の就職活動の歴史的経緯を知る ・日本標準職業分類・産業分類について	事後学修:配布レジュメを熟読する
	6	営業力向上計画	「営業力とは何か」について個々で考える	事後学修:配布資料を熟読する
	7	取材力向上計画	・カウンセリングマインドを理解する ・取材力向上を意識したワークを実施する	事後学修:学んだことを日常生活で活用してみる
	8	グループ発表	・講義④の課題のグループ発表	発表の準備をしておく
	9	ワークモチベーション研究の歴史を学ぶ①	・ワークモチベーション研究の歴史とその内容を知る	事後学修:講義の内容を踏まえ、自分のやる気の源泉について考える
	10	ワークモチベーション研究の歴史を学ぶ②	・ワークモチベーション研究の歴史とその内容を知る	事後学修:講義の内容を踏まえ、自分のやる気の源泉について考える
	11	問題解決の事例を学ぶ	・実社会で起こった問題の解決事例とその対処について知る	事後学修:講義で扱った内容以外でも実ビジネスの事例を収集すること
	12	グループで創出する①	グループで課題に取り組み、課題解決策を考える	事後学修:グループでの取り組みを内省すること
	13	グループで創出する②	グループで課題に取り組み、課題解決策を考える	事後学修:グループでの取り組みを内省すること
	14	内省する技術	・今までの学生生活を振り返って今後活かす方法を知る	事前学修:今までの学生生活を振り返り、他者に伝えられるようにまとめておく
	15	講義のまとめ	・講義の振り返り	提出物等、出し忘れが無い確認すること

関連科目 キャリア能力の向上を目指す科目と連動する。自ら考えて答えを出すこと。そのためにはまず自分の頭で考えること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 授業での提出物(40%)、グループワーク(20%)、期末レポート(40%)を総合的に評価する。

学生へのメッセージ 私語厳禁。遅刻厳禁。授業中の入室禁止。飲食等の禁止。スマホ・携帯の使用禁止。居眠り禁止。これらに違反した学生には退室を命ずることがある。皆さんの就業力を伸ばす方法を一緒に考えましょう。

担当者の研究室等 7号館3階キャリア教育推進室 水野研究室

備考 講義に関する質問には積極的に対応します。

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	G H J K L M
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

授業概要・目的  
 社会に出るにあたり必要とされる数的能力(算数・数学)を学習します。社会人として数的能力が必要となる場面は多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。

到達目標  
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと

授業方法と留意点  
 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。  
 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。  
 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。

科目学習の効果(資格)  
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目  
 キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『キャリアのための数的思考』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法(基準)  
 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%

学生へのメッセージ  
 算数や数学を楽しんで学習してください。  
 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。  
 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等  
 7号館3階 キャリア教育推進室

備考

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	A B C D E F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的  
 社会に出るにあたり必要とされる数的能力(算数・数学)を学習します。社会人として数的能力が必要となる場面は多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。

到達目標  
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること

授業方法と留意点  
 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。  
 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。  
 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。

科目学習の効果(資格)  
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	思考力が必要な算数・数学②	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目  
 キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャリアのための数的思考	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)  
 小テスト: 40%、中間テスト・最終テスト: 50%、SmartSPI: 10%

学生へのメッセージ  
 算数や数学を楽しんで学習してください。  
 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。  
 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等  
 7号館3階 キャリア教育推進室

備考

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

授業概要・目的	社会に出るにあたり必要とされる数的能力(算数・数学)を学習します。社会人として数的能力が必要となる場面は多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
	8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習	

関連科目	キャリアデザインⅡ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『キャリアのための数的思考』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
備考	

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的  
 社会に出るにあたり必要とされる数的能力(算数・数学)を学習します。社会人として数的能力が必要となる場面は多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。

到達目標  
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること。

授業方法と留意点  
 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。  
 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。  
 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目  
 キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャリアのための数的思考	キャリアラボ	キャリアラボ
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法(基準)  
 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%

学生へのメッセージ  
 算数や数学を楽しんで学習してください。  
 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。  
 毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等  
 7号館3階 キャリア教育推進室

備考  
 授業では『キャリアのための数的思考』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。また Smart SPI も利用します。

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
	13	資料収集の方法 フィードバック	文献の検索について学ぶ 課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
	14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する
	15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	EFG
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	上島 誠司
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
	7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方 1	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
	13	レポートの書き方 2 フィードバック 1	レポート作成の補足 課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
	14	フィードバック 2 資料収集の方法	課題 2 のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
	15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポート計 3 回の提出は必須。場合によっては再提出も求める。このうち 1 回でも提出がないと単位認定はできないので注意してください。
----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

※授業中は教員を含む他人に迷惑をかける行為はやめてください。たとえば、私語や携帯電話は厳禁、寝るなどというのはもつてのほかです。真面目に学ぼうとする人の学習権を侵害する行為はやめてください。注意してもやめない場合はそれなりの措置をとることがあります。他人に迷惑をかけない、という最低限の大人のマナーは守ってください。
--

担当者の研究室等	7号館 2階（非常勤講師室） 学習支援センター
----------	-------------------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回 1 時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--



科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	HJK
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	高嶋 藍
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成と要約	レポートなどの文章構成を学ぶ 要旨の要約の作成方法を学ぶ	これまでの復習
6	フィードバック 要約の復習	課題 1 のフィードバック 要約の復習をする	課題 1 を見直す
7	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
8	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
12	レポートの書き方 1	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
13	レポートの書き方 2 フィードバック 1	レポート作成の補足 課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
14	フィードバック 2 資料収集の方法	課題 2 のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前で適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	9	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	10	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	11	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	12	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告するをする	報告文の準備
	14	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	EFG
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	久田 行雄
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
2	レポートの書き方①	資料の引用と考察、意見の述べ方を再確認する	前回の復習
3	レポートの書き方②	レポートの構成について再確認する	前回の復習
4	課題①	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
5	敬意表現①	敬語表現の基本を確認する	前回の復習
6	敬意表現②	尊敬語と謙譲語の使い分けを身につける	前回の復習
7	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	前回の復習
8	ディスカッション①	グループ分けとディスカッションを行う	前回の復習 テーマの下調べ
9	ディスカッション②	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
10	プレゼンテーション①	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
11	プレゼンテーション②	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
12	課題②	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
13	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
14	復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習
15	授業の総括	これまでの授業の再確認	これまでの授業の復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	課題(60%)、授業への取り組みなど(40%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくり向き合ってみましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	HJK
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	高嶋 藍
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	レポートの書き方	資料引用の復習 考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	前回の復習
5	手紙の書き方 敬語の復習	手紙の書き方を学ぶ 敬語の復習をする	前回の復習
6	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
7	課題1のフィードバック (1) ディスカッションの準備	課題1のフィードバック ディスカッション用資料の要約などを行う	ディスカッションの準備
8	課題1のフィードバック (2) ディスカッション(1)	課題1のフィードバック グループ分けをして、ディスカッションをする	ディスカッションの準備
9	課題2のフィードバック (1) ディスカッション(2)	課題2のフィードバック ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
10	課題2のフィードバック (2) ディスカッション(3)	課題2のフィードバック ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
11	プレゼンテーション(1)	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
12	プレゼンテーション(2)	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告分の準備
14	敬語の復習	ロールプレイング形式で、敬語を使った会話の練習をする。	敬語の復習
15	小テストの復習テスト 電子メール	小テストの復習テスト 電子メールのマナーと書き方を学ぶ	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

キャリア形成科目

科目名	ビジネスインターンシップ I	科目名 (英文)	Business Internship I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感を直接肌で感じることである。事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。
到達目標	インターンシップへ意欲的に自信を持って参加できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	グループワークやプレゼンテーションなどを行う参加型の授業である。インターンシップの現場につながる講義(演習を含む)であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果(資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	インターンシップとは何かについて考えること。
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	ビジネスとは何かを考えること。
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	インターン受入企業等の組織のリストに目を通しておくこと。
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	プレゼンテーションができるように準備すること。
5	課題のプレゼンテーション①	・第4回目の課題をプレゼンテーションする	第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること。
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	マナーがなぜ大切なのかを考えること。
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること。
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	マナーの大切さを再度考えること。
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	履歴書を書く準備をしておくこと。
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	グループ内の自分の役割を考えること。
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	グループの最大の力を出すために、自分に何ができるかを考え、プレゼンテーションの準備をして下さい。
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること。
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること。

関連科目 この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ(企業等の組織での就業体験)」を履修することが望まれる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 発表(40%)、レポート等の提出物(30%)、授業態度(30%)を総合的に評価する。

学生へのメッセージ インターシップの流れは以下のとおりである。  
※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始(予定)  
インターン先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。

担当者の研究室等 7号館5階 キャリア教育推進室(石井)  
7号館3階 キャリア教育推進室(水野)

備考 教科書・必要に応じてレジュメを配布  
参考書・必要に応じて推薦図書を提示  
インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。  
なお、事前事後学習には毎回1時間以上かけること。

キャリア形成科目

科目名	ビジネスインターンシップⅡ	科目名(英文)	Business Internship II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性を広げること、職業観の涵養に努めることを目標とする。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。
科目学習の効果(資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	直前学修① 6月16日(土) 1限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認	社会人を意識したスーツ着用のこと。身だしなみを自分なりに整えてくること。
	2	直前学修② 6月16日(土) 2限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	マナーについて考えること。
	3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	実習中は毎日日誌をつけること。
	4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	実習中は毎日日誌をつけること。
	5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	実習中は毎日日誌をつけること。
	6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	事前に立てた目標を意識して参加すること。
	7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	事前学修の通りに報告書を作成する。提出前に必ず推敲を行うこと。 提出期限を厳守すること。
	8	事後学修① 9月22日(土) 1限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
	9	事後学修② 9月22日(土) 2限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
	10	事後学修③ 9月29日(土) 1限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
	11	事後学修④ 9月29日(土) 2限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
	12	事後学修⑤ 10月13日(土) 1限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	実習記録簿を見直してこること。
	13	事後学修⑥ 10月13日(土) 2限目(予定)	・インターンシップを振り返る	実習記録簿を見直してこること。
	14	事後学修⑦ 10月20日(土) (予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること。
15	事後学修⑧ 10月20日(土) (予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ(予定)	全員スーツ着用	

関連科目	インターンシップⅠ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(40%)を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	1. 「ビジネス・インターンシップⅠ」を必ず履修すること。 2. 「ビジネス・インターンシップⅠ」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室(水野)
----------	---------------------

備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を示す。  なお、振り返りの課題(体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など)は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際はスーツを着用してこること。
----	---

科目名	ビジネスマナー I	科目名 (英文)	Business Manners I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修：仕事の基本の8つの意識について調べる。 ・事後学修：仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定とPDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCAについて調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめる (400字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	電話対応	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話対応プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
7	来客対応	・組織図と対応 ・簡単な対応から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客対応プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
8	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社外文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書①をする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
11	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：メール文書を作成する。
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学修：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する (400字以上)。
13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：ビジネス文書 (社外社内)、郵便の知識、慶事のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

関連科目	キャリアデザイン I・II、インターンシップ I・II
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (40%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			



科目名	ビジネスマナー I	科目名 (英文)	Business Manners I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性和それを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修：仕事の基本の8つの意識について調べる。 ・事後学修：仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定とPDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCAについて調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめる (400字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	電話対応	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話対応プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
7	来客対応	・組織図と対応 ・簡単な対応から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客対応プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
8	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書①をする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
11	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：メール文書を作成する。
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学修：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する (400字以上)。
13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：ビジネス文書 (社外社内)、郵便の知識、慶事のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

関連科目 キヤリアデザイン I・II、インターンシップ I・II

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

キャリア形成科目

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (40%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

# 教 職 科 目





科目名	教育課程論	科目名(英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価できる資質が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進める講義形式が基本となりますが、扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、授業準備として各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読んだり、それぞれの免許取得教科の学習指導要領を入手し、目を通しておくことが望ましいと考えます。また本授業用のノートを1冊準備してください。授業でレジュメを配布予定していますが、板書内容やパワーポイント資料の中の内容を記述するためのノートを一冊準備しておいてください。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か／オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。
2	日本における教育課程の歴史の変遷Ⅰ	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
3	日本における教育課程の歴史の変遷Ⅱ	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当部分を読んでおくこと。
5	教育評価 その1	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。
6	教育評価 その2	教育課程評価について。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
9	新しい教育課程 その2	「アクティブラーニング」について。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
10	新しい教育課程 その3	「社会に開かれた教育課程」について。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中高編(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
12	教育課程と教育改革 その2	カリキュラム・マネジメントについて。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。

関連科目 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新教育課程ライブラリ (Vol.1～Vol.12)	(株)ぎょうせい	(株)ぎょうせい
2			
3			

評価方法(基準) 出席(全15回出席が当たり前、少なくとも8割以上出席必須)、学期末試験(単位取得のためには60点以上必要)、中間試験(実施予定)、レポート及び授業態度や授業への貢献度(グループでの発表を含む)など総合的に評価を行う。特に、学期末試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習をする。また、遅刻、欠席が多い者については成績評価の対象から外すので注意すること(原則、第一回目から全15回出席すること)。

学生へのメッセージ 以下の項目、必ず守ってください。  
1. 第一回目の授業は必ず出席すること。  
2. 欠席・遅刻はしない。  
3. 授業中、むやみやたらに入ったり、私語、飲食はしない。  
4. グループワークでは何事にも積極的に取り組む(グループ内の他のメンバーに迷惑をかけない)。

	<p>5. 毎回授業内容の復習をする。</p> <p>6. テキスト、資料等については配布するので準備の必要はありません。参考書にあげているテキストは 12 セット販売で高額なテキストですので担当者のほうで印刷し配布します。</p> <p>7. 授業内容で分からない点については遠慮せずに担当者に空いている時間を見つけて質問に行くこと。</p>
担当者の研究室等	7号館3階(大野順子研究室)
備考	<p>2009 年度以前入学生は、(高校) 教免取得上選択          授業計画、及び内容は授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。          テキストに代わる配布資料 (『新教育課程ライブラリ』、発行：ぎょうせい) を使用予定) については事前に該当箇所を配布します。</p>

科目名	教育経営論	科目名(英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本科目では、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。これを通して、私たちにとってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について考え、理解を深めます。
到達目標	例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がりが見えてくるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としてのLTDについて説明 公教育の成立前史 教育における「公」と「私」	シラバス、テキスト第1部を読んでくる。
	2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」「学習する権利」	テキスト第2部を読んでくる。
	3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 教育の制度原理	教育権論争についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。
	4	学校体系のしくみ	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。
	5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合	テキスト第1部を読んでくる。
	6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。
	7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第3部を読んでくる。
	8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき	テキスト第3部を読んでくる。
	9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 教育行政の原則、監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。
	10	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第3部を読んでくる。
	11	指導行政と教育課程管理	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政 学力論争と教育評価論	テキスト第4部を読んでくる。
	12	人事行政と教職員管理	学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク 教職員の資格・身分・労務管理、教育労働管理	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。
	13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第4部を読んでくる。
	14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。
	15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第4部を読んでくる。

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内孜	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

教職科目

評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート内容 30%、グループワーク・ピア評価 10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。



科目名	教育原理	科目名(英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 裕樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	あなたは、「そもそも「教育」とはいったい何なのだろう」と疑問に思ったことはありませんか。あるいは、この疑問と関連して、次のように問うてみたことはありませんか。すなわち、「教育を受けることで、自分は本当に「善く」なったのだろうか。」「いやむしろ、教育を受けることで、何らかの「型」にはめられてしまったのではないか。」「教育には、今あるいわゆる「学校教育」のようなあり方しか存在しないのだろうか」……などなど。この授業では、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについてもう一度丁寧に考え直してみることが目的とします。なお、その際に参考にするのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史です。これらの思索や歴史を踏まえることで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができるようになります。
到達目標	「教育」をめぐる思想や歴史に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたうえで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。とはいえ、毎回授業の最後に受講者にコメントペーパーを書いてもらって次の授業中にその内容のいくつかを紹介することで、受講者が相互に関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して主体的かつ多角的に考えを深められるよう配慮します。
科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得 (3) 学芸員資格の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:教育を原理的に考察すること	教育を原理的に考察することの意味を考察する。	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。
2	動物と人間の違い①	「野生児」の例から教育について考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかについても一度考える。
3	動物と人間の違い②	「野生児」の例から教育について引き続き考察を深める。	二回分の授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」の教育についてより広い観点から考察を深める。
4	教育をめぐる諸論①:「教える」と「学ぶ」	①教育という営みを構成している二大要素である「教える」と「学ぶ」の関係について考える。 ②ヘレン・ケラーの「学び」を事例として、「学び」を形成している諸側面について検討する。	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、授業後にもう一度整理しておく。
5	教育をめぐる諸論②:「発達」と「生成」	いわゆる「発達」論と「生成」論に含まれている「教育」観(あるいは「人間形成」観)の質的な違いについて考える。	「発達」と「生成」の違いについて、授業後にもう一度整理しておく。
6	教育をめぐる諸論③:「子ども」観の歴史的变化と「子どもの権利」	①「子ども」観や親子関係に対する見方が、古代から現代まで歴史的にどのように変化してきたのかを概観する。 ②「子ども」観の歴史的变化を踏まえたうえで、「子どもの権利条約」が制定されるまでの経緯を確認する。	「子ども」一般に対して自分が抱えているイメージを思い起こしておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、授業後にもう一度自分の「子ども」観について考えてみる。
7	教育の思想の歴史①	ロック、ルソーらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
8	教育の思想の歴史②	ペスタロッチ、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
9	教育の思想の歴史③	ヘルバルト、デューイらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
10	日本の教育の歴史①	明治期の日本における近代学校制度の成立と展開の過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
11	日本の教育の歴史②	大正自由主義教育運動から、大戦中の教育、そして戦後教育改革へとという歴史の展開過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
12	教育と権力①	ミシェル・フーコーの規律訓練論について概観し、教育を権力論との関わりから捉え直す。	教育と権力との関わりについて、授業後にもう一度考えてみる。
13	教育と権力②	①権力論の新たな展開の例として「環境管理型権力」の問題について扱う。 ②いわゆる「教育空間論」について考えを深める。	「教育空間論」の可能性について、授業後にもう一度考えてみる。
14	媒介者としての教師	様々な困難のなかに立たされつつも、極めて重要な役割を与えられる教師のあり方を、「媒介者」という観点から考える。	「自分が将来どのような教師になりたいか」を考えておく。
15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業時に指示する。

関連科目 教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西洋教育思想史	眞壁宏幹	慶應義塾大学出版会
	2			
	3			

教職科目

評価方法 (基準)	毎回の授業中に書いてもらうコメントペーパーの内容 (30%) や、学期末試験の結果 (70%) をもとに、総合的に評価します。なお、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る者に対しては厳正に対処をします (マイナス点やペナルティも課されます) ので、学生としての自覚と覚悟をもって授業に参加すること。
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	7号館4階(小山研究室)
備考	

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 小山 裕樹, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	(1) 教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義(体験報告を含む)、演習(文献購読、発表、討議を含む)、実習(指導案作成、模擬授業を含む)を行う。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち1単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	教育実習への準備と心がまえ等	事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
3	実習中の勤務の要領	学校の日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
4	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する
5	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する
6	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する
7	指導案の作成(1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する
8	指導案の作成(2)	学級(ホームルーム)活動等の指導案について	授業時に指示する
9	模擬授業(1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
10	模擬授業(2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
11	模擬授業(3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
12	模擬授業(4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
13	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
14	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
15	まとめ		

関連科目	教職課程で学んだ全科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。
-----------	---

担当者の研究室等	吉田研究室・林研究室・大野研究室・朝日研究室(7号館3階) 小山研究室(7号館4階)
----------	---

備考	教育実習体験発表会(10月末土曜日)、教育実習総括講義(11月末土曜日)には原則として必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。
----	---

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 小山 裕樹, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び課題提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(小山研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。																		

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 小山 裕樹, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(10月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(小山研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。																		

科目名	教育社会学	科目名(英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。 2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。 3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。 4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。
授業方法と留意点	講義形式を中心としますが、ワークショップや体験活動・課外活動、問題理解・解決に向け議論する手法を取り入れるなど、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。例えば、実際に学校教育現場へ向かい、リアルな学校教育現場の様子を体験し、学ぶ機会ももつきます(授業時間外に実施する場合もある)。よって、基本的に受講生の皆さんは本講義が提供する全プログラム(週末などに実施される課外活動含む)に出席する義務があります。また、毎回、講義開始の5分間、教育社会学必須単語の小テストを行います。遅刻や欠席が多い場合小テストが0点となりますので気を付けてください。 ○準備学習の具体的な方法 指定しているテキストを購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分を要約しておく。そして日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。また、毎時間小テスト対策として必須単語帳に記載されている教育社会学必須単語をすべて覚える。

科目学習の 効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目: 教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項: 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項
-----------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題: 教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	新自由主義と学校教育	近年の学校教育(制度)の質的転換について事前資料を基にグループで意見交換し、発表する(学校教育を社会学観点から考察します)。	事前課題: 小テスト対策、事前配布資料を読み、その内容についてまとめてくる。
3	マイノリティと教育I	マイノリティ体験ワークショップの実施。	事前課題: 小テスト対策
4	マイノリティと教育II	前時を踏まえ、学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の実態、現状について考える。	事前課題: 小テスト対策、前時のワークショップの感想をまとめてくる。
5	マイノリティと教育III	予定: 当事者(外国にルーツのある子ども)による学校での経験についてのお話を聞く。その後、質疑応答、ふりかえりの実施。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。
6	教育格差・学力格差問題I	教育格差・学力格差に関する近年の研究動向を紹介し、その基礎的理解を深める。	事前課題: 小テスト対策、教科書の第7章の要約。
7	教育格差・学力格差問題II	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。子どもの貧困・格差に関する映画、あるいはビデオの鑑賞(予定)	事前課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。
8	教育格差・学力格差問題III	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて、グループで話し合い、発表する。	事前課題: 小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。
9	学校教育の現場を知るI	予定: 学校関係者等、話題提供者による学校教育が抱える問題についての講義。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習、及び話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。
10	学校教育の現場を知るII	予定: 学校関係者等、話題提供者による学校教育が抱える問題についての講義。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習、及び話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。
11	学校教育の現場を知るIII	前々回～前回の授業を踏まえ、学校教育が抱える諸問題について、小グループに分かれ発表する。	事前課題: 小テスト対策、発表資料の準備をしてくる。
12	ジェンダーと教育I	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考えるワークの実施。	事後課題: 小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。
13	ジェンダーと教育II	ジェンダー問題を扱った映画鑑賞(予定)。	事後課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。
14	ジェンダーと教育III	ジェンダーにとらわれない教育、社会の創造について意見交換しながら考える。	事後課題: 小テスト対策、映画の感想をまとめてくる。
15	総括	まとめの確認テストと「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。	事後課題: 小テスト対策、教科書の第10章の要約。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習I」「教職実践演習」「各教科教育法」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社
2				

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス
	2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社
	3			
評価方法 (基準)	出席・授業への貢献度、試験（毎時間行う小テストとまとめの確認テスト）、学校でのボランティア活動体験報告書（必須）、課題・レポート等をすべてこなした上で総合的に評価するが、まとめの確認テストで6割以上取れない場合、さらに、出席が80%に満たない者、課題（要約）の提出が十分でない者は成績評価の対象外とする。また、遅刻は欠席とするので注意すること。			
学生への メッセージ	本講義を履修する者は、原則、学校現場での活動経験（学習支援、授業補助、部活指導等内容は問わない長期、短期の無償・有償ボランティア活動）をしている（あるいは今後する予定、過去に経験したことがある）ことが必須条件とします。学校でのボランティア等活動経験のない者については本講義を履修期間中、学校でボランティア活動することを義務づけます。よって、学校でのボランティア活動をやっていない者、やりたくない者、やる予定がない者は履修しても単位認定しません。また、提出物に関しては締め切りを厳守すること。締め切り以降の提出に関しては受け取りませんが「未提出」扱いとします。			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。また、いくつかの課外活動を通常の時間割外に行う予定です。課外活動に参加できない人は本科目の単位を取得することは困難な場合もあります。また、学校でのボランティア活動への参加も必須です。こちらへの参加ができない人も本科目の単位取得が困難となりますので、履修を決める前にしっかりと考えてから履修登録してください。履修登録をした時点で、あなた自身が本講義のシラバス内容をすべて了解した上で登録したことになりますので、履修登録以降のシラバスに関するご意見については一切受け付けませんのでご了承ください。			

科目名	教育心理学	科目名(英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	学校での教育活動において、教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、様々な形で援助していくためにはどうすればよいのか、それを考えていくにあたって必要な、基礎的な知識を身につけることを目標とし、特に、認知的な側面に焦点を当てて議論していく。具体的には、教育について考える際に、ある意味基本となる「発達と学習」、学習者が主体的に学ぶための「学習意欲」、個人差の理解、障害の理解と特別支援教育について考える「個に応じた教育」を中心とする。また、学校を学習の場としてとらえたときの「人間関係」についてもふれることとする。
到達目標	教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」6単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	—————
2	教育を支える認知機能1	思考(1)……人間の思考の特徴	テキスト第8章、第9章を読む
3	教育を支える認知機能2	思考(2)……思考の発達、メタ認知	テキスト第7章の1、第8章、第9章を読む
4	教育を支える認知機能3	言語(1)……言語の機能、言語の発達	テキスト第9章の2、第11章を読む
5	教育を支える認知機能4	言語(2)……文章理解	テキスト第11章を読む
6	教育を支える認知機能5	記憶(1)……記憶のメカニズム	テキスト第4章、第5章を読む
7	教育を支える認知機能6	記憶(2)……記憶の発達	テキスト第4章、第5章を読む
8	こどもの学び1	様々な学習(1)……学習とは何か、古典的条件づけ	テキスト第1章を読む
9	こどもの学び2	様々な学習(2)………道具的条件づけ、観察学習	テキスト第1章を読む
10	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か……動機づけ過程、期待×価値理論、学習性無力感	テキスト第2章、第3章を読む
11	学習を支える動機づけ2	さまざまな学習意欲(1)……外発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
12	学習を支える動機づけ3	さまざまな学習意欲(2)……内発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
13	学習を支える動機づけ4	学習意欲を育むために……報酬と罰、評価、目標、教師の対応	テキスト第0章の2、第2章、第3章を読む
14	個に応じた教育1	個人差の理解と教育……ATI、学習方略	テキスト第0章の3、第6章を読む
15	個に応じた教育2	「障害」の理解と特別支援教育	テキスト第13章を読む

関連科目	教育原理, 教育相談
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践—	藤田哲也(編著)	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト30% 期末試験70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
備考	・授業内で、moodleを使用することがあります。利用できるようにしておいてください。 ・定期テストは希望者に返却します。

教職科目



科目名	教育相談	科目名(英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える。
到達目標	教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせて行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	—————
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1章、第2章を読む
3	グループ発表の準備	グループワーク	—————
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第12章、第13章を読む
5	学校におけるカウンセリング活動1	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
6	学校におけるカウンセリング活動2	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	—————
8	問題の理解と対応1	問題とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第3章を読む
9	問題の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第3章、第4章を読む
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習
11	相談援助活動の実際1	不登校……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第5章を読む
12	相談援助活動の実際2	いじめ……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第6章を読む
13	相談援助活動の実際3	学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第7章を読む
14	相談援助活動の実際4	反社会的行動……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第8章を読む
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために、教員への対応	テキスト第14章を読む

関連科目 教育方法論、生徒指導論、教育心理学、教育社会学など。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教育相談	森田健宏・吉田佐治子(編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	グループ発表 50% 期末試験 50%
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
備考	グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。また、全発表中最も評価が高かったグループも、最後にお知らせします。 グループ内ではピア評価を行います。

教職科目

科目名	教育方法論	科目名(英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、教育方法の歴史と理論の概観、授業の設計から評価に至る授業構成の理解、学習指導を組織化するための基礎的な授業技術と方略の習得、および、グループに分かれて、共同作業による教材開発とマイクロ・ティーチングの体験により構成する。授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを経験する。</p> <p>それらのことを通じて、つぎのことをめざす。</p> <p>(1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について考え、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。</p> <p>(2) 「教え込む技術」の習得ではなく、生徒の生活背景や教室の人間関係を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教材の文脈にもどし、日々の教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しながら、教室を豊かな学びの場とする授業づくりをめざす。</p> <p>(3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師が、上記(2)に関する専門性を向上させるだけでなく、職場で相互に学び合える同僚性を構築すること、また、教育諸科学の最新の研究から新しい知見を積極的に摂取することの重要性を理解する。</p>
到達目標	<p>教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、</p> <p>(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。</p> <p>(2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる。</p>
授業方法と留意点	<p>(1) 講義・ワークを中心に授業を進める。インタラクティブ(双方向的)な授業構成となるよう積極的な参加を求める。私語は厳禁だが、質問や意見提起は歓迎する。</p> <p>(2) 毎回、講義資料とコメントペーパーを配付する。講義資料は各自ファイリングし、「コメントペーパー」は記入・提出すること(編集して、次回に配布し、共有すべき点についてコメントを行う。なお、「コメントペーパー」の返却はできないので、必要場合はメモを残しておくこと)。</p> <p>(3) 第9～12回でチームによるマイクロティーチングを実施する。また、チーム授業に関するレポートの提出をもとめる(中間レポートとして)。</p> <p>(4) 定期試験を受験すること。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育課程及び指導法に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)</p>

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、教育方法論の論点と課題 授業技術ミニ講座①授業びらき・授業じまい	「学力」の登場と学力論争、「問題解決学習」論争、「たのしい授業」論争、「教育技術」をめぐる論争	教科書第3章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
2	子どもは何を学ぶのか(教育目標・内容論) 授業技術ミニ講座②授業のルールづくり	教育目標に関する基本的な考え方、教育目標・内容の諸相、育成すべき資質と能力、学校教育目標	教科書第4章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
3	学習とは何か(学習論) 授業技術ミニ講座③私語の傾向と対策	学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態	教科書第5章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
4	欧米における授業の歴史(教授論の歴史①) 授業技術ミニ講座④板書の技術	近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革	教科書第1章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
5	日本における授業の歴史(教授論の歴史②) 授業技術ミニ講座⑤発問の工夫と仕方	近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、新自由主義的教育改革	教科書第2章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
6	学力をどう高めるか(学力論) 授業技術ミニ講座⑥指名、指示の仕方、発言のさせ方 チーム顔合わせ・自己紹介	学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める、学力調査をめぐって	教科書第6章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
7	授業をどうデザインするか(計画論) チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ①	授業のデザインとは、教育内容と子どもの学び、対話的・協働的な学び合い、授業づくりの課程と構造、学びのための指導・支援	教科書第7章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
8	教育の道具・素材・環境(教材論) チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ②	教材づくり、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間	教科書第8章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
9	何をどう評価するか(評価論) 第1・2グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	目標に準拠した評価と相対評価、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、指導と評価の一体化	教科書第9章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
10	誰がカリキュラムを編成するのか(カリキュラム論) 第3・4グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	カリキュラム・イメージの払拭、カリキュラムの編成原理、学習指導要領、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
11	ICTを活用した授業をつくる① 第5・6グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	各種メディアの授業への活用、学習用デジタル・コンテンツの利用	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。

	12	ICTを活用した授業をつくる ② 第7・8グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	情報教育、メディア・リテラシー、eラーニング、学校運営・教務事務のICT化	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
	13	インクルーシブな授業をつくる チームによるマイクロ・ティーチングの振り返り① 授業技術ミニ講座⑦個別指導と一斉指導	通常学級における特別支援教育、個に応じた指導とは、学級集団づくりと授業づくり、授業の「わかりやすさ」と多様な参加	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
	14	ユニバーサルデザイン化した授業をつくる チームによるマイクロ・ティーチングの振り返り② 授業技術ミニ講座⑧ほめ方・叱り方	バリアフリーとユニバーサルデザイン、学習環境のユニバーサルデザイン化、指導方法のユニバーサルデザイン化、学習のユニバーサルデザインと合理的配慮	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
	15	まとめ〜学び続ける教員像をめぐって 授業技術ミニ講座⑨グループ学習の方法	2つの教師モデル、専門家としての教師、教師としての成長に向けて	教科書第11章をよく読んでおく。学習内容を整理する。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい時代の教育方法</td> <td>田中耕治他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教育の方法</td> <td>佐藤学</td> <td>左右社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教育の方法	佐藤学	左右社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	教育の方法	佐藤学	左右社																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー (20%) により総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。																			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)																			
備考																				

科目名	教職実践演習（中・高）	科目名（英文）	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明・大野 順子・小山 裕樹・林 茂樹・吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1グループは10名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目（教職実践演習を除く）の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義の目的、内容方法についての確認。</li> <li>・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。</li> <li>・3回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。</li> </ul>	教育実習ノートの点検と再確認
2	専攻科目における実践上の課題①	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理
3	専攻科目における実践上の課題②	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理
4	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)①	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
5	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)②	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる
6	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
7	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
8	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方で伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点をを用い、学校教育を改めて考えてみたい。特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	(事前)第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1～2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
9	学校の中のマイノリティ:外国にルーツをもつ子どもたち	1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	(事前)第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1～2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。

	10	「甘え」と「自律」の教育学入門①	従来の常識的な見方では、「甘え」を脱して「自律」に至ることが「教育」の理想とされてきた。本講義では、この常識的な見方に対して、様々な角度から再検討を加えていく。第一回目は、特に子どもの「甘え」について教育学的に考える。	(事前) 子ども「甘え」や自分自身の「甘え」について改めて考え直しておく。 (事後) 講義内容を踏まえたうえでの小レポートを提出する。																
	11	「甘え」と「自律」の教育学入門②	第一回目の講義内容を踏まえつつ、第二回目は、特に子どもの「自律」について教育学的に考える。まさに大人へと「自律」しようとしている大学生諸氏とともに探究してみたい。	(事前) 子どもの「自律」や自分自身の「自律」について改めて考え直しておく。 (事後) 二回分の講義内容を踏まえたうえでの論述試験を課す。																
	12	教員の体罰はなぜなくなるのか?	教員の体罰の実態や体罰防止の現状等について学ぶとともに、体罰の背景にある指導観、子ども観について考える。	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。																
	13	教員の勤務時間はなぜ長くなるのか?	労働時間法制や教員の勤務時間の実態について学ぶとともに、長時間勤務の背景にある問題について考察し、働き方改革の方途を考える。	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。																
	14	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート																
	15	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート																
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。																			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。そのなかで、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力を身に付けること。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 (朝日、大野、林、吉田) 7号館4階 (小山)																			
備考																				

科目名	教師論	科目名(英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や責任は何か」「教師の職務とはどのようなものか」「教師として生きるとはどのようなことか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づいてグループワークを行います。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教職の意義等に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)・進路選択に資する各種の機会の提供等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	さまざまな教師像(1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	さまざまな教師像(2)	「不良教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	さまざまな教師像(3)	「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	さまざまな教師像(4)	「人間教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」に関する配布資料を読みレポート提出
11	さまざまな教師像(5)	「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
12	教員の役割・職務(1)	教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
13	教員の役割・職務(2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
14	教員の役割・職務(3)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 教員の勤務条件	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務(4)	教員のメンタルヘルス、バーンアウト 教育改革と教員	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験70%、レポート20%、グループワーク・ピア評価10%

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。

教職科目

	遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	社会科・公民科教育法 I	科目名 (英文)	Civic Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 (3) 社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践的・参加型の授業」を目指します。よって、履修者は各回の授業テーマについてのレポート作成が課せられます。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は認めません。
科目学習の効果(資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。
12	模擬授業(3)	模擬授業の実践と指導(3)	模擬授業の準備。
13	模擬授業(4)	模擬授業の実践と指導(4)	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※事前配布資料の要約
15	総括—社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目 社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は「1→2」と連続して受講することが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				



評価方法 (基準)	出席(全15回出席すること。少なくとも80%以上の出席が必須。)、課題・レポート(提出の締め切りは厳守すること)、平常点(授業への貢献度、模擬授業等)、及び、小テストや最終試験により総合的に評価する。遅刻も欠席扱いとするので注意すること。
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さん自身が授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。また、毎時間、講義開始時に社会科の教員としての知識を問う小テストを行う予定です。詳細については第一回目の授業で説明し、資料等も配布します。第一回目の授業を休まれる方にはそれら一切お渡ししません。本講義は教職科目の授業であり、他の講義科目とは異なり、第一回目の授業から本格的に始まっています。ですので履修するかしないかを考える移行期間は基本的にないと考えてください。
担当者の 研究室等	7号館3階 大野順子研究室
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します。

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が18歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育のあり方が問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育(主権者教育)をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを積極的に行います。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 (3) 授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。 (4) 政治教育、主権者教育についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。よって、履修者は各回の授業テーマについてのレポート作成が課せられます。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は認めません。
科目学習の効果(資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目:教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項:各教科の指導法

教職科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス:社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領(中学:社会科、高校:公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約	
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約	
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約	
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約	
6	教育方法と技術(1):ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。	
7	教育方法と技術(2):ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。	
8	学習指導案の書き方(1):ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1):各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。	
9	学習指導案の書き方(2):ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2):各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。	
10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。	
11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。	
12	政治教育(主権者教育)(1)	政治教育副教材の分析	各自、副教材を分担し分担箇所を要約してくる。	
13	政治教育(主権者教育)(2)	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。	
14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※事前配布資料の要約	
15	総括-社会科・公民科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。	

関連科目 社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は連続して受講することが望ましいため、原則として社会科・公民科教育法1を既に履修していること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
	2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席(全15回出席すること。少なくとも80%以上の出席が必須。)、課題・レポート(提出の締め切りは厳守すること)、平常点(授業への貢献度、模擬授業等)、及び、最終試験(予定)により総合的に評価する。遅刻も欠席とするので注意すること。			
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。本講義は教職科目の授業であり、他の講義科目とは異なり、第一回目の授業から本格的に始まっています。ですので履修するかしないかを考える移行期間は基本的にないと考えてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 大野順子研究室			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します(前期社会科公民科教育法Iで購入済みの者は購入の必要なし)。			

科目名	社会科・地歴科教育法 I	科目名 (英文)	Geography and History Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	井上 正英
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	近代教育制度の変遷を考察する中で、社会科・地歴科が持つそれぞれの使命と責任を理解するように努める。その基礎の上に具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。このほか現場で起こる各種の問題についても適宜説明する。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論等を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の発表や討論を中心として行うので、特に積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。
科目学習の効果(資格)	中学・高校教員免許(社会科、地歴科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンスと年間計画	年間講義内容の概略・受講上の注意点・成績評価について	事前 既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく。	事後 授業終了時に指示する。
2	日本の教育制度の歴史について	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前に中高で学習した明治以降の歴史を復習概観しておくこと。	事後 授業終了時に指示する。
3	学習指導要領について	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前 中高学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。	事後 授業終了時に指示する。
4	学習指導案の作成について 1	地理・歴史科学学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 学習指導案とは何かを調べておく。	事後 授業終了時に指示する。
5	学習指導案の作成について 2	地理・歴史科学学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 与えられたテーマで各自学習指導案を作成し発表に備える。	事後 授業終了時に指示する。
6	学習指導案の作成と模擬授業 1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
7	学習指導案の作成と模擬授業 2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
8	学習指導案の作成と模擬授業 3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
9	学習指導案の作成と模擬授業 4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
10	学習指導案の作成と模擬授業 5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
11	学習指導案の作成と模擬授業 6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
12	学習指導案の作成と模擬授業 7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
13	学習指導案の作成と模擬授業 8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
14	授業記録について	社会科教員として授業を見る目を鍛える為の授業記録の形式や方法について学ぶ。	事前 どのような授業記録方法があるかを考えておく。	事後 授業終了時に指示する。
15	評価の方法と理論	生徒の学習成果を検証するための視点と評価方法について学ぶ。	事前 評価方法の種類について考えておく。	事後 評価は自己の教育技術の反映であることを考える。

関連科目	社会科・地歴科教育法 II
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館 1階 教務課
----------	-------------

備考	
----	--

教職科目

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	井上 正英
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	講義参加者全員が実際に研究授業展開を行い、教員として必要な基本的知識・技能を習得する。模擬授業を実践する中で講義参加者全員で討議・批評を行い各自の授業力向上を図る。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の模擬授業実践発表や討論を中心として行うので、積極的な発表、発言が望まれる。
科目学習の効果(資格)	中学・高校教員免許(社会科、地歴科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	学習指導要領歴史的分野(世界史)の内容等の確認。	世界史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する
2	学習指導要領歴史的分野(日本史)の内容等の確認。	日本史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する
3	学習指導要領地理的分野の内容等の確認。	地理的分野の基礎的事項の確認	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する
4	学習指導案の作成と研究授業実施 1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
5	学習指導案の作成と研究授業実施 2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
6	学習指導案の作成と研究授業実施 3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
7	学習指導案の作成と研究授業実施 4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
8	学習指導案の作成と研究授業実施 5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
9	学習指導案の作成と研究授業実施 6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
10	学習指導案の作成と研究授業実施 7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
11	学習指導案の作成と研究授業実施 8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
12	学習指導案の作成と研究授業実施 9	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
13	学習指導案の作成と研究授業実施 10	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
14	授業実践発表の年間総括 1	後期授業全体についての総括と反省点を討議する。	事前 全員の授業計画案を再度確認	事後 レポート作成、提出
15	授業実践発表の年間総括 2	後期授業全体についての講義担当者からの総括。	事後 レポート作成、提出	

関連科目	社会科・地歴科教育法Ⅰ
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館 1階 教務課
----------	-------------

備考	
----	--

教職科目

科目名	商業科教育法	科目名(英文)	Business Education Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	久井 孝則
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	前期は、商業高校の教育課程の特徴について理解を深める。そのために、学習指導要領に示された「商業科」の科目について、その目指す学力観及び指導内容と留意点を明らかにしていく。また、商業教育の課題と展望を通して、次代を担う教員としてどのような教育を行うべきかを考察する。 後期は、模擬授業を中心に行い、お互いに評価をし合うことにより、発表者の授業に対する教材研究、教材提示、板書法や教育姿勢などについて考察する。
到達目標	①商業科教員としての基本的かつ幅広い知識を習得する。 ②学習指導計画の立案ならびに模擬授業を行い、実践的な能力を体得する。 ③ビジネス教育のあり方について考え、将来の方向性について理解を深める。
授業方法と留意点	講義形式の授業だけではなく、模擬授業などの実践授業を取り入れ課題や調査研究成果を発表させるなどの対話型授業を行う。 あらかじめ学習資料を渡すので、必ず事前学習をしてもらうこと。特に学習指導計画案の作成や模擬授業では、綿密な資料研究が必要である。
科目学習の効果(資格)	本講座は、高等学校教職員免許状「商業」を取得するための必修科目である。商業高校では、様々な分野の専門科目を担当する可能性があり、そのための基本的な知識・技能を習得することができる。

教職科目

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期のガイダンス「授業の進め方」	自己申告表 授業の進め方	
2	商業教育の必要性和意義	(1)高等学校における商業教育の必要性 (2)商業教育の意義		〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
3	わが国の商業教育の歩み	(1)新制商業教育の開始まで (2)学習指導要領(試案)から平成11年の改訂まで		〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
4	学習指導要領(平成21年3月告示)とその理解	(1)教育課程の編成方針 (2)教科[商業]の理解 (3)「総合的な学習の時間」の理解		〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
5	各科目の学習内容とそのねらい(基礎的科目「ビジネス基礎」)	(1)目指す学力観 (2)指導内容と留意点		〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
6	各科目の学習内容とそのねらい(マーケティング分野)	(1)科目構成と目指す学力観 (2)科目「マーケティング」等の指導内容と留意点		〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
7	各科目の学習内容とそのねらい(ビジネス経済分野)	(1)科目構成と目指す学力観 (2)科目「ビジネス経済」等の指導内容と留意点		〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
8	各科目の学習内容とそのねらい(会計分野)	(1)科目構成と目指す学力観 (2)科目「簿記」等の指導内容と留意点		〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
9	各科目の学習内容とそのねらい(ビジネス情報分野)	(1)科目構成と目指す学力観 (2)科目「情報処理」等の指導内容と留意点		〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
10	各科目の学習内容とそのねらい(総合的科目)	(1)科目構成と目指す学力観 (2)「ビジネス実務」等の指導内容と留意点		〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
11	指導計画と授業展開①	(1)教育課程と学習指導 (2)指導計画 (3)指導形態と指導方法		〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
12	指導計画と授業展開②	(1)年間指導計画作成の実際 (2)学習指導案作成の実際 (3)プレゼンテーションと授業		〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
13	「商業教育と人間形成」と「商業科教師への期待」	(1)商業教育と進路指導・キャリア教育 (2)新しい時代における教師のあり方		〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
14	商業教育の課題と展望	(1)魅力ある商業教育を目指して (2)確かな学力の育成 (3)商業教育の理解と啓発		〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
15	前期のまとめ			
16	後期のガイダンス「模擬授業演習に向けて」	学習指導計画案のモデル作成		
17	基礎的科目「ビジネス基礎」の学習指導計画案の作成	(1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の作成		〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習しておくこと
18	基礎的科目「ビジネス基礎」の模擬授業	(1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表		〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしておくこと
19	ビジネス情報分野「情報処理」の学習指導計画案の作成	(1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の作成		〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習しておくこと
20	ビジネス情報分野「情報処理」の模擬授業	(1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表		〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしておくこと
21	会計分野「簿記」の学習指導案の作成①	(1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の作成		〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習しておくこと
22	会計分野「簿記」の模擬授業①	(1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表		〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしておくこと

	23	会計分野「簿記」の学習指導案の作成②	(1) 次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2) 板書計画案の作成	〔事前〕 模擬授業の範囲の内容について、予習しておくこと																
	24	会計分野「簿記」の模擬授業②	(1) 模擬授業 (2) 評価表・自由感想表の作成 (3) 発表	〔事前〕 模擬授業のシミュレーションをしていくこと																
	25	ビジネス経済分野「ビジネス経済」の学習指導計画案の作成	(1) 次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2) 板書計画案の作成	〔事前〕 模擬授業の範囲の内容について、予習しておくこと																
	26	ビジネス経済分野「ビジネス経済」の模擬授業	(1) 模擬授業 (2) 評価表・自由感想表の作成 (3) 発表	〔事前〕 模擬授業のシミュレーションをしていくこと																
	27	マーケティング分野「マーケティング」の学習指導計画案の作成	(1) 次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2) 板書計画案の作成	〔事前〕 模擬授業の範囲の内容について、予習しておくこと																
	28	マーケティング分野「マーケティング」の模擬授業	(1) 模擬授業 (2) 評価表・自由感想表の作成 (3) 発表	〔事前〕 模擬授業のシミュレーションをしていくこと																
	29	総合的科目「総合的科目の教育の進め方」	(1) 課題研究 (2) 総合実践	〔事前〕 配布された資料を熟読しておくこと																
	30	後期のまとめ																		
関連科目	大学の経営学部や経営情報学部で学ぶ専門科目は、商業科の専門科目として活かせる魅力がある。簿記、会計、原価計算、管理会計、情報処理、電子商取引、経営学、経済学、マーケティング、民法、会社法、ベンチャービジネス論など、幅広く履修しておくことが大切。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教職必修最新商業科教育法</td> <td>日本商業教育学会</td> <td>実教出版株式会社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教職必修最新商業科教育法	日本商業教育学会	実教出版株式会社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	教職必修最新商業科教育法	日本商業教育学会	実教出版株式会社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高等学校学習指導要領解説 商業編</td> <td>文部科学省</td> <td>実教出版株式会社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高等学校学習指導要領解説 商業編	文部科学省	実教出版株式会社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	高等学校学習指導要領解説 商業編	文部科学省	実教出版株式会社																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	小テスト・レポート50%、授業への参加度(学習意欲、事前学習、発表等) 50%とし、総合的に判断して評価する。																			
学生への メッセージ	商業科教員採用試験では、日本商工会議所簿記検定2級程度の問題が出題されるので、在学中の取得を目指して欲しい。また、新聞やインターネットの政治・経済や教育に関する記事を日頃から読み、社会の変化に興味・関心を持ち、幅広いビジネスに関する知識を有する商業科教員を目指そう。																			
担当者の 研究室等																				
備考	最初の授業に自分の出身高校の教育課程をインターネットで検索し、プリントアウトして持参すること。																			

科目名	情報科教育法	科目名 (英文)	Instruction Method for Information and Communication Science
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	高等学校普通教科「情報」の教員免許を取得するために必修となる講義である。「情報科」成立の経緯および教科内容について理解し、情報教育のあり方について、学習目標、指導方法、評価方法などの視点から考え、担当教員に必要な基礎的知識や資質を養う。また、指導案の作成、模擬授業の実施を通して、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	高等学校の共通教科「情報」の目標や授業方法についての理解を深め、授業研究、教材設計、指導計画、評価方法について、ディスカッションや模擬授業などの演習を行いながら、実践的な教育方法を修得する。
授業方法と留意点	テキストおよび配付資料を中心に、プロジェクターを用いて講義を行う。教員免許に関する科目であり、指導案の作成、模擬授業などの実習を行いながら進めるため、無断欠席は厳禁とする。
科目学習の効果 (資格)	教科「情報」の免許科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、情報技術の進展と情報教育の役割	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分) 次回の内容を確認する (30分)
2	情報教育の意義と役割	情報教育の実践と教育の情報化	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分) 次回の内容を確認する (30分)
3	共通教科「情報」と専門教科「情報」の構成	共通教科「情報」の内容構成、専門教科「情報」の内容構成	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分) 次回の内容を確認する (30分)
4	共通教科「情報」における各科目の内容	「社会と情報」「情報の科学」の学習目標、内容、教育方法	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分) 次回の内容を確認する (30分)
5	専門教科「情報」における各科目の内容	専門教科「情報」の科目群の学習目標、内容、教育方法	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分) 次回の内容を確認する (30分)
6	共通教科「情報」の指導方法 (1)	年間指導計画書の作成、学習目標の明確化	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分) 次回の内容を確認する (30分)
7	共通教科「情報」の指導方法 (2)	課題分析の方法、進め方	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分) 次回の内容を確認する (30分)
8	共通教科「情報」の指導方法 (3)	評価の目的と対象、評価対象の具体化	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分) 次回の内容を確認する (30分)
9	共通教科「情報」の指導方法 (4)	学習課題に応じた評価方法の種類と特徴	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分) 次回の内容を確認する (30分)
10	模擬授業 (1)	教育目標の明確化	模擬授業の教育目標を立てる (60分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
11	模擬授業 (2)	年間指導計画、学習指導案の書き方	指導計画書、学習指導案を作成する (60分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
12	模擬授業 (3)	教材研究の方法	教材研究の準備をする (120分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
13	模擬授業 (4)	授業分析、授業評価	模擬授業の準備をする (60分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
14	学習環境の整備と情報教員の役割	電子黒板、デジタル教材、教育環境の整備	課題に基づいて教材設計を行う (120分) 配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)
15	前期のまとめと学力診断テスト	前半のまとめと確認テスト	前期の内容を整理する (60分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
16	学校教育と著作権	教材開発の方法と教育現場での著作権	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分) 次回の内容を確認する (30分)
17	情報教育の実践例 (1)	情報とコンピュータの指導例	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分) 次回の内容を確認する (30分)
18	情報教育の実践例 (2)	アルゴリズムとプログラムの指導例	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分) 次回の内容を確認する (30分)
19	情報教育の実践例 (3)	モデル化とシミュレーションの指導例	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分) 次回の内容を確認する (30分)
20	情報教育の実践例 (4)	問題解決の指導例	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分) 次回の内容を確認する (30分)
21	魅力ある授業の展開 (1)	学習意欲を高める方法、内発的動機付けと外発的動機付け	配付資料の該当箇所を見直しておく (60分) 次回の内容を確認する (30分)



	22	魅力ある授業の展開 (2)	学習者の協同と活動、ワークショップとプロジェクト学習	配付資料の該当箇所を見直しておく (60分) 次回の内容を確認する (30分)
	23	魅力ある授業の展開 (3)	ICT 活用の実際、授業の記録・分析の方法	配付資料の該当箇所を見直しておく (60分) 次回の内容を確認する (30分)
	24	模擬授業の展開 (1)	「社会と情報」の指導計画、学習指導案の作成	指導計画書、学習指導案を作成する (60分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	25	模擬授業の展開 (2)	「社会と情報」の模擬授業、相互評価	模擬授業の準備をする (60分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	26	模擬授業の展開 (3)	模擬授業の振り返り	模擬授業の振り返りをする (60分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	27	模擬授業の展開 (4)	「情報の科学」の指導計画、学習指導案の作成	指導計画書、学習指導案を作成する (120分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	28	模擬授業の展開 (5)	「情報の科学」の模擬授業、相互評価	模擬授業の準備をする (60分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	29	模擬授業の展開 (6)	模擬授業の振り返り	模擬授業の振り返りをする (60分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	30	全体のまとめと学力診断テスト	全体のまとめと確認テスト、これからの教師に求められる授業力	全体の内容を整理しておく (120分)
	関連科目	情報関連科目全般		
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	社情 311 最新社会と情報 新訂版	監修：山極隆	実教出版
	2	最新社会と情報新訂版(社情 311) 準拠 社情 311 最新社会と情報 新訂版 学習ノート	実教出版編修部	実教出版
	3	高等学校学習指導要領解説 情報編	文部科学省	開隆館出版販売
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート課題、授業中の成果物等 (30%)、模擬授業 (40%)、小テスト (20%)、授業への取組姿勢 (10%) をもとに総合的に評価する。演習が中心となるため、欠席・遅刻は授業内容や成績評価に影響します。			
学生へのメッセージ	学習者に対して授業を行うためには、周知な準備が必要になります。目的意識を持ち積極的に講義に参加して下さい。			
担当者の研究室等	11 号館 8 階 (栢木教授室)			
備考	必要に応じて資料を配布する。			

科目名	職業指導 I	科目名 (英文)	Vocational Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。  講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果 (資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付きます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	本科目のシラバスを熟読すること。
	2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	職業指導に関する資料を熟読すること。
	3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	欧米の職業指導に関する資料を熟読すること。
	4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	日本の産業史に関する資料を熟読すること。
	5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	日本の戦後の教育改革についての資料を熟読すること。
	6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	日本型雇用の見直しについて考えること。
	7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	高卒労働市場に関する資料を熟読すること。
	8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	職業指導の事例を調査すること。
	9	「労働すること」を考える	・仕事をする事の意義を考える	授業後は自らの労働観を持つようにすること。
	10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	職業指導領域に関する資料を熟読すること。
	11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。
	12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。
	13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	模擬授業の準備をすること。
	14	模擬授業	・講義 13 で立案した内容で模擬授業を実施	模擬授業の準備をすること。
	15	講義の振り返り	・講義の振り返り、最終レポートの提出	レポート提出の準備をすること。

関連科目 教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。  
また、前期最終時にレポートを実施します。

学生へのメッセージ 「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。

担当者の研究室等 7号館3階 キャリア教育推進室(水野)

備考

科目名	職業指導Ⅱ	科目名(英文)	Vocational Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化とそれが職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。  講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果(資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付く

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明	本科目のシラバスを熟読すること。
2	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導の事例を知る	商業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。
3	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導の事例を知る	工業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。
4	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	・提示する資料を熟読すること。
5	フリーター・ニートについて	グループ(またはペア)でフリーター・ニート対策を考える	フリーター・ニート問題に関する資料を熟読し、発表できるよう準備
6	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	発表の準備をすること。
7	キャリアデザインとは何か	キャリアデザインとは何かを考える	自らの節目について考えて下さい
8	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者に求められる基本的な能力 ・職業適性、アセスメントについて	就業力育成のための企画を考えること。自らの適性の活かし方について考えること。
9	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	配布資料を精読すること。
10	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	配布資料を精読すること。
11	就業力向上企画を立案①	高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	・発表の準備をすること。
12	就業力向上計画立案②	11回目で考えた内容を発表する	・発表の準備をすること。
13	キャリアカウンセリング理論①	自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	配布資料を精読すること。
14	キャリアカウンセリング理論②	カウンセリングマインドについて	配布資料を熟読すること。
15	まとめ/講義の振り返り	提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	自らの労働観について考えること。

関連科目 教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。「特別活動論」にも近接します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) レポートを実施します。その他、授業への積極的参加、その他課題の提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。

学生へのメッセージ 「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。

担当者の研究室等 7号館3階 キャリア教育推進室(水野)

備考

科目名	生徒指導論	科目名(英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、多くの具体的な問題事象に通底する基本的で普遍的な原理について学びます。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導の意義や指導の方法に関する基本的な事柄について必要最低限の知識を獲得し、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐるディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 生徒指導の目標と意義	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり 生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 3-10
	2	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 10-24
	3	生徒指導の理論(1)	理論の重要性 発達に関する理論	テキスト pp. 32-39
	4	生徒指導の理論(2)	生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 39-42
	5	生徒理解の進め方(1)	生徒理解の意義と目的	テキスト pp. 43-46
	6	生徒理解の進め方(2)	生徒理解の方法 生徒の自己理解の支援	テキスト pp. 46-56
	7	生徒理解の進め方(3)	教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 56-61
	8	学級経営の進め方(1)	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
	9	学級経営の進め方(2)	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-74
	10	学級経営の進め方(3)	教師のリーダーシップ	テキスト pp. 74-79
	11	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
	12	進路指導の意義と課題	進路指導の意義 進路指導の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
	13	勤労観・職業観の形成と変容	青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
	14	進路指導の理論	キャリア発達に関する諸理論	キャリア発達理論に関する配布資料
	15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導における「ガイダンスの機能」 進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 215-234

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生徒指導・進路指導	高橋超・石井真治・熊谷信順	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験 80%、レポート 20%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。
----------	---

学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 朝日研究室
----------	-------------

備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポート課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。
----	---

科目名	道徳教育の研究	科目名(英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山 裕樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業では、日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方（日本の道徳教育の歴史、道徳教育の内容を構成する諸概念、道徳性の発達理論、等）について解説を加え、実際に学校でどのように道徳教育を行えばよいのかを考えていきます。
到達目標	受講者が日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方を身に付け、道徳教育に関する具体的な授業計画を立案することができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行いますが、「道徳科」の学習指導案を書く演習等も適宜取り入れます。また、毎回授業の最後に受講者にコメントペーパーを書いてもらって次の授業中にその内容のいくつかを紹介することで、受講者が相互に関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して主体的かつ多角的に考えを深められるよう配慮します。
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：道徳の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:道徳教育をどのように考えるか	①現在道徳教育がどのように考えられているかを、確認する。 ②道徳の読み物教材の分析を通して、道徳教育に対するアプローチ法を考える。	自分が受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出ししておく。
2	日本の道徳教育の歴史①:戦前の道徳教育	①明治から昭和初期にかけての道徳教育の歴史を概観する。 ②「個人主義」について多角的に考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「個人主義」についてより深く考える。
3	日本の道徳教育の歴史②:戦後の道徳教育	道徳教育に関する戦後すぐの教育改革の動向と、それに対するいわゆる保守反動的な動きについて考える。	政治的・経済的状況との関わりから、道徳教育の歴史の変遷を整理する。
4	日本の道徳教育の歴史③:現代の道徳教育	①近年の道徳教育をめぐる教育改革の動向を概観する。 ②道徳教育推進論の論拠の一つともなっている「いじめ」問題について考えを深める。	自分の周囲で起こった「いじめ」体験について思い出ししておく。さらに、その体験について、授業の内容を踏まえたうえで再考する。
5	諸外国の道徳教育	①諸外国の道徳教育の状況について概観する。 ②諸外国の道徳教育を事例として、道徳教育と「宗教教育」との関係について考える。	諸外国の道徳教育と自分の受けてきた道徳教育とを比較検討し、共通点と相違点を整理する。
6	道徳教育の内容①:自我	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として自分自身に関すること」をめぐる、「自我」(＝「私」)について道徳教育の視点から考える。	普段の自分の生活や授業の内容を振り返り、「私」のあり方についてより深く考える。
7	道徳教育の内容②:他者	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として人との関わりに関すること」をめぐる、道徳教育の視点から「他者」との関わりをなかで「私」を捉え直す。	普段の自分の生活を振り返り、そこでの「私」と「他者」との関わりについて考えておく。さらに、授業を踏まえたうえで、それについて再考する。
8	道徳教育の内容③:生命と自然	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」をめぐる、道徳教育(とりわけ「いのちの教育」)の実践例を検討する。	「いのちの教育」の実践について、授業の内容を踏まえたうえで、より深く考える。
9	道徳教育の内容④:美と崇高	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なもののかかわりに関すること」をめぐる、道徳教育をいわゆる「情操教育」的な観点から検討する。	授業の内容を踏まえたうえで、「情操教育」的な観点から道徳教育について再考する。
10	道徳教育の内容⑤:社会	①学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として集団や社会との関わりに関すること」をめぐる、道徳教育の視点から「社会」との関わりをなかで「私」を捉え直す。 ②いわゆる「スクールカースト」について考える。	自分の周囲で起こった「スクールカースト」の体験について思い出ししておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。
11	道徳性の発達	①コールバーグによる道徳性の発達理論(およびギリガンによるその批判)について検討する。 ②道徳性の発達理論を応用したいいわゆる「モラル・ジレンマ授業」について理解を深める。	「モラル・ジレンマ授業」について構想するための準備をする。
12	道徳の授業の位置づけ	①教育課程編成上の道徳教育の位置づけを確認する。 ②他教科での教育のなかで行われた道徳教育の実践例をもとに、道徳教育の幅広い可能性について考える。	他教科での教育と道徳教育の関わりについて整理する。
13	学習指導案の作成と授業の展開①	①学校における道徳教育の「要」とされている「道徳科」の位置づけについて考える。	授業時に指示する。

			②「道徳科」の時間を計画的に進めるための学習指導案の書き方について具体的に考えていく。																	
	14	学習指導案の作成と授業の展開②	「道徳科」の学習指導案の書き方について、引き続き具体的に考えていく。	授業時に指示する。																
	15	まとめ:道徳教育と教師の責任	①道徳教育についてまとめとして考えるために、ある実験授業の記録を扱う。 ②この実験授業において生じた結果から、道徳教育が有する「可能性」や「限界」等について考察する。	授業時に指示する。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性</td> <td>下司晶</td> <td>世織書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶	世織書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶	世織書房																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	毎回の授業中に書いてもらうコメントペーパーの内容 (30%) や、課題として作成してもらう「道徳科」の学習指導案の内容 (4%)、学期末試験の結果 (66%) をもとに、総合的に評価します。なお、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る者に対しては厳正に対処をします (マイナス点やペナルティも課されます) ので、学生としての自覚と覚悟をもって授業に参加すること。																			
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7号館4階(小山研究室)																			
備考																				

科目名	特別活動の理論と方法	科目名 (英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	(1) 学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動（児童会活動）、学校行事について、それぞれの指導目標や内容等に関する基礎的・基本的事項について整理する。 (2) 子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについての理解を深める。 (3) 「学級づくり」（教師と生徒の関係づくり、生徒どうしの関係づくり）に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流する。
到達目標	子どもたちが、さまざまな集団活動に自主的、実践的に取り組み、多様な他者と協働し、互いのよさを認め合い、発揮しながら、集団や自己の生活上の課題を解決するために必要な資質・能力を育成する育成できるよう、また、自己の生き方について考えていくための資質・能力を育成できるよう、実践的な指導ができる。
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動を指導する立場にたつ教員として、集団をファシリテートすることができるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：特別活動の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	特別活動の目的・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐる	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 ソロワークと意見交換	教科書第1・2章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
3	学級活動（ホームルーム活動）その1 ワーク②大学に入って	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 ソロワークと意見交換	教科書第4・11章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
4	学級活動（ホームルーム活動）その2 ワーク③学級活動（係・班・当番・委員）の思い出	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 ソロワークと意見交換	教科書第4・11章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
5	生徒会活動（児童会活動）・学級行事 ワーク④学校行事（運動会・体育祭・文化祭等）の思い出	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 ソロワークと意見交換	教科書第5・6・12・13章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
6	体験活動の意義 ワーク⑤「14歳の頃」・「17歳の頃」	特別活動の目標と体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験のもつ教育力と教師の指導性 グループワークの班分け、顔合わせ	教科書第2章、配布プリントをよく読んでおく。
7	特別活動の歴史・領域・方法 グループワーク①いじめ（その1）	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ グループ討議・発表・交流	教科書第2・3章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
8	特別活動と学級経営 グループワーク②不登校	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 グループ討議・発表・交流	教科書第9章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
9	特別活動と生徒指導 グループワーク③暴力	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 即興劇・交流	教科書第10章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
10	特別活動における評価 グループワーク④インクルーシブ教育（外国にルーツ）	評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。学習事項を整理する。
11	特別活動と道徳教育 グループワーク⑤進路指導・キャリア教育	特別活動と道徳教育との関連及びそれぞれの教育的意義 即興劇・交流	教科書第8章を読んでおく。学習事項を整理する。
12	特別活動と総合的な学習 グループワーク⑥インクルーシブ教育	特別活動と総合的な学習の時間との関連及びそれぞれの教育的意義 グループ討議・発表・交流	教科書第7章を読んでおく。学習事項を整理する。
13	特別活動とキャリア教育 グループワーク⑦ジェンダー	特別活動におけるキャリア教育の位置づけ、進路選択支援の課題 即興劇・交流	教科書第14章を読んでおく。学習事項を整理する。
14	学習指導要領（特別活動）について グループワーク⑧いじめ（その2）	現行学習指導要領の特徴、次期学習指導要領改定の要点 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。学習事項を整理する。
15	特別活動の指導計画・指導案の作成と全体のまとめ	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成 集団的な自尊感情を育むことの重要性について	配布プリントを読んでおく。 全学習事項について再度振り返り整理する。

関連科目 すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるとともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の特別活動	相原次男他	ミネルヴェア書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動	文部科学省	ぎょうせい
	2	高等学校学習指導要領解説 特別活動	文部科学省	海文堂出版
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、中間レポート (30%)、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況 (20%) を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式+記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自分史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況进行评估する。			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力することに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)			
備考				



発行 2018年4月

常翔学園 摂南大学

寝屋川校地

〒572-8508

大阪府寝屋川市池田中町17番8号

電話(072)-839-9106 【教務課】

枚方校地

〒573-0101

大阪府枚方市長尾峠町45番1号

電話(072)-866-3100 【枚方事務室】

